

小阪合遺跡

—八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
(昭和61年度第8次 昭和62年度第10・13次 昭和63年度第16次調査報告)

(本文編)

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会

小阪合遺跡

—八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
〈昭和61年度第8次 昭和62年度第10・13次 昭和63年度第16次調査報告〉

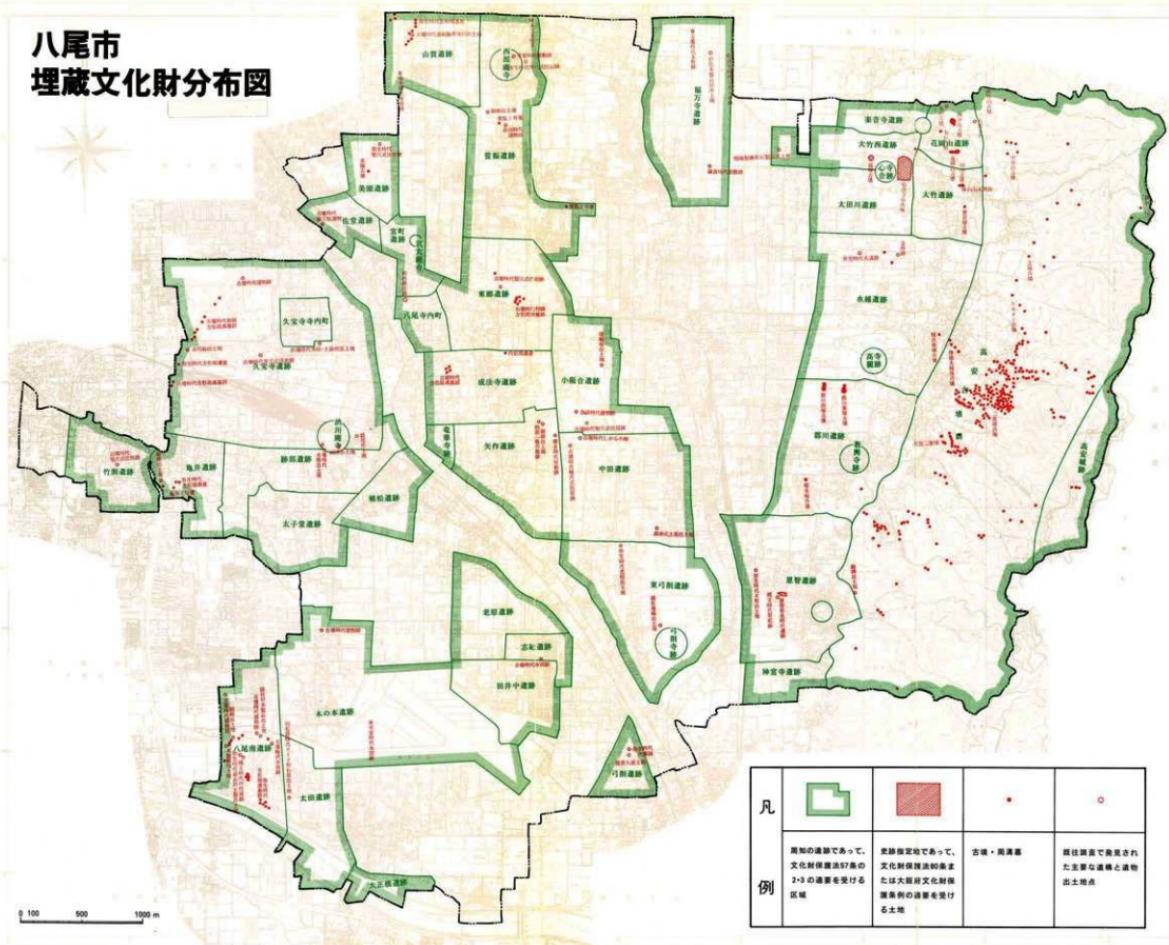
(本文編)

21

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会

八尾市 埋蔵文化財分布図



序 文

八尾市は、河内平野の中央部よりやや南寄りに位置し、西に生駒山脈の景観を見る温暖で肥沃な土壤を有する地域であり、古代から人々が生活の場として住みはじめたところです。それらの先人が残した大切な遺産（遺構・遺物）が多く存在しております。

今回の報告は、小阪合遺跡範囲内で昭和57年度より実施してきました八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業の幹線通路・区画街路・公共施設等の建設工事に伴う発掘調査であります。昭和61年度第8次調査、昭和62年度第10・第13次調査、昭和63年度第16次調査の結果報告を集録したものであります。小阪合遺跡では、当区画整理事業に伴う発掘調査の結果報告を現在までに5冊刊行しました。今回が最後報告となり、当遺跡の総括的なものとしてまとめました。その成果は本市の政治、文化の歴史を研究する上で重要な資料になるものと確信しております。この報告書が、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

当遺跡は八尾市の中央部にあたり、古くは旧大和川の幾多の洪水等により沖積された河内平野上に位置します。現在までの発掘調査によって弥生時代中期～中近世に至る遺構・遺物が多量に検出しており、当遺跡の変遷が明らかにされつつあります。

ここに改めて、事業者をはじめとし関係各位の文化財保護の立場から充分ご理解賜わり、ご協力いただきましたことを、ここに感謝を申し上げます。

今後、この書が広く文化財保護にご活用していただければ、この上もない幸せに存じます。共に、当調査研究会に対して尚一層とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本書作成にあたって、御協力・御指導をいただいた関係各位に感謝の意を表します。

平成2年3月

財團法人 八尾市文化財調査研究会
理事長 福島 孝

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市南小阪合町・青山町・山本町南に所在する八尾都市計画事業南小阪合土地区画事業に伴う昭和61・62・63年度の小阪合遺跡の第8・10・13・16次調査の報告書である。

1. 本書で報告する発掘調査は、八尾市教育委員会の指示のもとで財団法人八尾市文化調査研究会が八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所の委託を受けて実施したものである。

1. 本書に要した費用は、すべて八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所が負担した。

1. 本調査は、昭和61年8月1日～同年12月1日の期間で実施した第8次調査、昭和62年10月1日～同年11月31日の期間で実施した第10次調査、昭和62年12月1日～同年2月の期間で実施した第13次調査、昭和63年8月1日～同年10月31日で実施した第16次調査の発掘調査である。出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、昭和64年1月6日～平成元年3月18日、平成元年8月1日～平成2年3月10日の期間で実施した。

1. 本調査並びに本報告に関係した者は下記のとおりである。

理事长　山脇　悦司（昭和62年8月6日まで）

福島　孝（昭和62年8月7日～平成2年3月現在）

事務局長　市森　管豈（昭和61年4月1日～昭和63年3月31日）

堀内　馨（昭和63年4月1日～平成元年11月10日故）

森田　　（平成2年1月5日～平成2年3月現在）

事務員　富田　よしの

永井　暁子

1. 本調査の各年度の参加諸氏は、表のとおりである。

1. 本調査に関わる労務関係は、第8次調査一株島田組、第10次調査一株坂上工務店、第13次調査一株辻本工務店、第16次調査一株中川建鉄が請け負った。

1. 本書の執筆は高萩が負担したが、出土遺物観察表は村田行った。

1. 本書の作成に当たり、遺物写真撮影は高萩、トレースは岩本・村田が行った。

1. 全体編集構成は、全員が共同で行った。

本文目次

八尾市埋蔵文化財分布図

序文

例言

第1章	はじめに	1
第2章	調査の結果	3
第3章	遺跡の概要	6
第1節	調査の成果	6
第4章	第8次調査	11
第1節	調査の概要	11
第2節	第1調査区	17
I	基本層序	14
II	検出遺構・出土遺物	17
第3節	第2調査区	42
I	基本層序	42
II	検出遺構・出土遺物	47
第4節	第3調査区	85
I	基本層序	85
II	検出遺構・出土遺物	86
第5節	第4調査区	90
I	基本層序	90
II	検出遺構・出土遺物	90
第6節	第5調査区	120
I	基本層序	120
II	検出遺構・出土遺物	120
第7節	出土遺物観察表	136
第5章	第10次調査	204
第1節	調査の概要	204
第2節	第1調査区	208
I	基本層序	208

II 検出遺構・出土遺物	208
第3節 第2調査区	214
I 基本層序	214
II 検出遺構・出土遺物	214
第4節 第3調査区	234
I 基本層序	234
II 検出遺構・出土遺物	234
第5節 第4調査区	240
I 基本層序	240
II 検出遺構・出土遺物	242
第6節 第5調査区	243
I 基本層序	243
II 検出遺構・出土遺物	243
第7節 第6調査区	247
I 基本層序	247
II 検出遺構・出土遺物	247
第8節 第7調査区	250
I 基本層序	250
II 検出遺構・出土遺物	250
第9節 第8調査区	258
I 基本層序	258
II 検出遺構・出土遺物	258
第10節 第9調査区	265
I 基本層序	265
II 検出遺構・出土遺物	265
第11節 第11調査区	284
I 基本層序	284
II 検出遺構・出土遺物	284
第12節 出土遺物観察表	291
第6章 第13次調査区	320
第1節 調査の概要	320
第2節 調査の結果	322

I	基本層序	322
II	第1調査区	331
III	第2調査区	341
IV	第3調査区	352
第3節 出土遺物観察表		368
第7章 第16次調査		390
第1節 調査の概要		390
第2節 第1調査区		392
I	基本層序	392
II	検出遺構・出土遺物	392
第3節 第2調査区		394
I	基本層序	394
II	検出遺構・出土遺物	394
第4節 第3調査区		397
I	基本層序	397
II	検出遺構・出土遺物	397
第5節 第4調査区		400
I	基本層序	400
II	検出遺構・出土遺物	403
第6節 第5調査区		405
I	基本層序	405
II	検出遺構・出土遺物	406
第7節 第6調査区		406
I	基本層序	406
II	検出遺構・出土遺物	407
第8節 第7調査区		412
I	基本層序	412
II	検出遺構・出土遺物	412
第9節 出土遺物観察表		415
第8章 土器胎土の砂礫		418
第9章 まとめ		425

挿入目次

第1図 調査地位図	2
第2図 調査区配置図及び区割図	4
<第8次調査>	
第3図 遺構配置図1	12
第4図 遺構配置図2	13
<第8次調査 第1調査区>	
第5図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	14
第6図 第1調査区遺構平面図	15.16
第7図 SK 1 平断面図	17
第8図 SK 1 出土遺物実測図	17
第9図 SK 3 出土遺物実測図	17
第10図 SK 4 出土遺物実測図	18
第11図 SK 5 出土遺物実測図	18
第12図 SK 6 平面図	19
第13図 SK 6 出土遺物実測図	20
第14図 SD 2 出土遺物実測図	21
第15図 SE 1 平断面図	22
第16図 SE 1 出土遺物実測図	23
第17図 SE 2 平断面図	23
第18図 SE 3 平断面図	24
第19図 SE 3 出土遺物実測図	24
第20図 SE 4 平断面図	25
第21図 SE 5 平断面図	25
第22図 SE 6 平断面図	25
第23図 SE 6 出土遺物実測図	26
第24図 SE 7 平断面図	26
第25図 SE 8 平断面図	26
第26図 SE 9 平断面図	27
第27図 SE 8 出土遺物実測図	28
第28図 SE 9 出土遺物実測図	28

第29図	S E 10 平断面図	29
第30図	S E 10 出土遺物実測図	30
第31図	S E 7 出土遺物実測図	30
第32図	S P 55 平断面図	31
第33図	S P 69 (86) · S P 2 (87) · S P 120 (88) 出土遺物実測図	31
第34図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	38
第35図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	39
第36図	遺構に伴わない出土遺物実測図 3	40
第37図	遺構に伴わない出土遺物実測図 4	41
<第8次調査 第2調査区>		
第38図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	42
第39図	第2調査区北部遺構平面図	43, 44
第40図	第2調査区南部遺構平面図	45, 46
第41図	S D 1 出土遺物実測図	48
第42図	S D 1 検出遺物平断面図及び断面図	49, 50
第43図	S E 1 平断面図	51
第44図	S E 1 井戸枠実測図 1	52
第45図	S E 1 井戸枠実測図 2	53
第46図	S P 4 (20) · S P 6 (19) 出土遺物実測図	56
第47図	S K 3 平断面図	56
第48図	S K 4 平断面図	56
第49図	S K 3 出土遺物実測図	57
第50図	S K 4 出土遺物実測図	57
第51図	S D 3 出土遺物実測図 1	58
第52図	S D 3 出土遺物実測図 2	59
第53図	S D 3 出土遺物実測図 3	60
第54図	S D 3 平断面図	61
第55図	S E 2 平断面図	63
第56図	S E 2 出土遺物実測図	64
第57図	S E 3 平断面図	65
第58図	S E 3 出土遺物実測図 1	66
第59図	S E 3 出土遺物実測図 2	67

第60図	S P 31 (146) · S P 58 (147) 出土遺物実測図	68
第61図	S P 59出土遺物実測図	70
第62図	石集積 1 平断面図	70
第63図	石集積 1 出土遺物実測図	71
第64図	池状遺構 1 出土遺物実測図 1	72
第65図	池状遺構 1 検出遺物平断面図	73.74
第66図	池状遺構 1 出土遺物実測図 2	75
第67図	池状遺構 1 出土遺物実測図 3	76
第68図	池状遺構 1 出土遺物実測図 4	77
第69図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	79
第70図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	80
第71図	遺構に伴わない出土遺物実測図 3	81
第72図	遺構に伴わない出土遺物実測図 4	82
第73図	遺構に伴わない出土遺物実測図 5	83
第74図	遺構に伴わない出土遺物実測図 6	84
<第 8 次調査 第 3 調査区>		
第75図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	85
第76図	第 3 調査区遺構平面図	87.88
第77図	遺構に伴わない出土遺物実測図	89
<第 8 次調査 第 4 調査区>		
第78図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	90
第79図	第 4 調査区遺構平面図	91.92
第80図	第 4 調査区遺構平面図	93.94
第81図	S K 4 出土遺物実測図	95
第82図	S K 11 検出遺物平面図及び断面図	97
第83図	S K 11 出土遺物実測図 1	98
第84図	S K 11 出土遺物実測図 2	99
第85図	S P 30 (30) · S P 31 (31) · S P 50 (32) · S P 4 (33) · S P 23 (34) 出土遺物実測図	99
第86図	S D 1 出土遺物実測図	101
第87図	S D 5 検出遺物平面図及び断面図	102
第88図	S D 5 出土遺物実測図 1	103

第89図	S D 5 出土遺物実測図 2	104
第90図	S D 5 出土遺物実測図 3	105
第91図	S D 6 検出遺物平断面図	106
第92図	S D 6 出土遺物実測図 1	107
第93図	S D 6 出土遺物実測図 2	108
第94図	S E 1 平断面図	109
第95図	S E 1 出土遺物実測図	109
第96図	S E 2 平断面図	110
第97図	S E 2 出土遺物実測図	110
第98図	S E 3 平断面図	111
第99図	S E 3 出土遺物及び井戸枠実測図	112
第100図	S E 4 平断面図	113
第101図	S K 18 平断面図	114
第102図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	117
第103図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	118
第104図	遺構に伴わない出土遺物実測図 3	119
<第8次調査 第5調査区>		
第105図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	120
第106図	第5調査区遺構平面図	121, 122
第107図	第5調査区遺構平面図	123, 124
第108図	S K 1 平断面図	125
第109図	S K 1 出土遺物実測図	126
第110図	S K 2 平断面図	127
第111図	S K 2 出土遺物実測図	127
第112図	S K 3 平断面図	128
第113図	S K 3 出土遺物実測図	128
第114図	S K 4 平断面図	130
第115図	S K 4 出土遺物実測図	130
第116図	S K 5 検出遺物平断面図	131
第117図	S K 5 出土遺物実測図 1	132
第118図	S K 5 出土遺物実測図 2	133
第119図	石集積 2 平面図	133

第120図 遺構に伴わない出土遺物	135
<第10次調査>	
第121図 遺構配置図1	205
第122図 遺構配置図2	206
第123図 遺構配置図3	207
<第10次調査 第1調査区>	
第124図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	208
第125図 第1調査区遺構平面図	209, 210
第126図 S K 1 平断面図	211
第127図 S E 1 平断面図	211
第128図 遺構に伴わない出土遺物実測図	213
<第10次調査 第2調査区>	
第129図 基本層序柱状図 ($S = 4/40$)	214
第130図 第2調査区遺構平面図	215, 216
第131図 第2調査区遺構平面図	217, 218
第132図 S W 1 出土遺物実測図1	220
第133図 S W 1 平面図	221, 222
第134図 S W 1 出土遺物実測図2	223
第135図 S W 1 出土遺物実測図3	224
第136図 S W 1 出土遺物実測図4	225
第137図 河川1断面図	226
第138図 河川1出土遺物実測図	227
第139図 河川2断面図	227
第140図 河川2出土遺物実測図	228
第141図 河川3断面図	229
第142図 河川4断面図	230
第143図 河川4出土遺物実測図	230
第144図 遺構に伴わない出土遺物実測図1	232
第145図 遺構に伴わない出土遺物実測図2	233
<第10次調査 第3調査区>	
第146図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	234
第147図 第3調査区遺構平面図	235, 236

第148図 河川 5 断面図	237
第149図 河川 5 出土遺物実測図	237
第150図 河川 6 断面図	238
第151図 S K 3 平断面図	238
第152図 S K 3 出土遺物実測図	239
第153図 S D 39出土遺物実測図	239
第154図 遺構に伴わない出土遺物実測図	240
<第10次調査 第4調査区>	
第155図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	
第156図 第4調査区遺構平面図	241
第157図 遺構に伴わない出土遺物実測図	242
<第10次調査 第5調査区>	
第158図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	243
第159図 S P 54出土遺物実測図	244
第160図 S P 56出土遺物実測図	244
第161図 S P 55出土遺物実測図	244
第162図 第5調査区遺構平面図	245.246
<第10次調査 第6調査区>	
第163図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	247
第164図 第6調査区遺構平面図	248
<第10次調査 第7調査区>	
第165図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	250
第166図 第7調査区遺構平面図	251.252
第167図 第7調査区遺構平面図	253.254
第168図 河川 7 断面図	255
第169図 河川 7 出土遺物実測図	255
第170図 S E 2 平断面図	256
<第10次調査 第8調査区>	
第171図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	258
第172図 第8調査区遺構平面図	259
第173図 S K 4 検出遺物平面図及び断面図	260
第174図 S K 4 出土遺物実測図	260

<第10次調査 第9調査区>

第175図 第9調査区遺構平面図	261.262
第176図 第9調査区遺構平面図	263.264
第177図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	265
第178図 SK 6出土遺物実測図	266
第179図 SK 7平断面図	266
第180図 SK 5検出遺物平面図	267
第181図 SK 5出土遺物実測図	268
第182図 SK 8検出遺物平面図及び断面図	269
第183図 SK 8出土遺物実測図	270
第184図 SK 9平断面図	271
第185図 SK 11平断面図	271
第186図 SK 10平断面図	271
第187図 SK 12平断面図	272
第188図 SK 12出土遺物実測図	272
第189図 SD70断面図	273
第190図 SD70出土遺物実測図	273
第191図 SD71断面図	273
第192図 SD71出土遺物実測図	274
第193図 SD73断面図	274
第194図 SD73出土遺物実測図	275
第195図 SD77出土遺物実測図	275
第196図 SD78出土遺物実測図	275
第197図 SD79出土遺物実測図	276
第198図 第4層土器集積平面図	278
第199図 遺構に伴わない出土遺物実測図 1	279
第200図 遺構に伴わない出土遺物実測図 2	280
第201図 遺構に伴わない出土遺物実測図 3	281
第202図 遺構に伴わない出土遺物実測図 4	282
第203図 遺構に伴わない出土遺物実測図 5	283

<第10次調査 第10調査区>

第204図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	284
----------------------------	-----

第205図	S P 11出土遺物実測図	285
第206図	S D 93平断面図	285
第207図	第10調査区遺構平面図	287, 288
第208図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	289
第209図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	290
<第13次調査>		
第210図	遺構配置図	321
第211図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	322
第212図	第 1 調査区遺構平面図	323, 324
第213図	第 2 調査区遺構平面図	325, 326
第214図	第 3 調査区遺構平面図 1	327, 328
第215図	第 3 調査区遺構平面図 2	329, 330
<第13次調査 第 1 調査区>		
第216図	S W 1 平断面図	332
第217図	S W 1 出土遺物実測図	333
第218図	S K 4 平断面図	334
第219図	S K 9 出土遺物実測図	335
第220図	S P 68出土遺物実測図	338
第221図	S P 69出土遺物実測図	338
第222図	S P 10出土遺物実測図	338
第223図	S D 10出土遺物実測図	338
第224図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	339
第225図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	340
<第13次調査 第 2 調査区>		
第226図	S P 34出土遺物実測図	341
第227図	S P 39出土遺物実測図	342
第228図	S D 6 断面図	343
第229図	S D 6 出土遺物実測図	343
第230図	S K 13平断面図	344
第231図	S K 13出土遺物実測図	345
第232図	S P 71平断面図	346
第233図	S K 17平断面図	346

第234図	S K17出土遺物実測図	347
第235図	S P69出土遺物実測図	347
第236図	S P98出土遺物実測図	347
第237図	S P79出土遺物実測図	347
第238図	S D12出土遺物実測図	347
第239図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	351
第240図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	352
<第13次調査 第3調査区>		
第241図	S K18検出遺構平面図及び断面図	354
第242図	S K18出土遺物実測図	355
第243図	S K19平断面図	356
第244図	S K19出土遺物実測図	356
第245図	S K21平断面図	357
第246図	S K21出土遺物実測図	357
第247図	S K22平断面図	357
第248図	S K22出土遺物実測図	357
第249図	S D13検出遺物平面図及び断面図	359
第250図	S D13出土遺物実測図	360
第251図	S D35出土遺物実測図	361
第252図	河川1断面図	362
第253図	河川1出土遺物実測図 1	363
第254図	河川1出土遺物実測図 2	364
第255図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	366
第256図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	367
<第16次調査>		
第257図	遺構配置図	391
<第16次調査 第1調査区>		
第258図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	392
第259図	第1調査区遺構平面図	393
第260図	遺構に伴わない出土遺物実測図	393
<第16次調査 第2調査区>		
第261図	基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	394

第262図 第2調査区遺構平面図	395
第263図 第2調査区遺構平面図	396
<第16次調査 第3調査区>	
第264図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	397
第265図 第3調査区遺構平面図	398
第266図 河川3出土遺物実測図	399
第267図 河川4出土遺物実測図	399
第268図 遺構に伴わない出土遺物実測図	400
<第16次調査 第4調査区>	
第269図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	400
第270図 第4調査区遺構平面図	401
第271図 第4調査区遺構平面図	402
第272図 河川3断面図	403
第273図 河川3出土遺物実測図	403
第274図 河川5出土遺物実測図	404
<第16次調査 第5調査区>	
第275図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	405
第276図 第5調査区遺構平面図	406
<第16次調査 第6調査区>	
第277図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	407
第278図 第1調査面遺構平面図	408
第279図 第2調査面遺構平面図	409
第280図 S D 6検出遺構及び断面図	410
第281図 S D 6出土遺物実測図	410
第282図 遺構に伴わない出土遺物実測図	411
<第16次調査 第7調査区>	
第283図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)	412
第284図 第7調査区遺構平面図	413
第285図 S K 3出土遺物実測図	414
第286図 S K 3出土銅鏡実測図	414
第287図 遺構に伴わない出土遺物実測図	415

<まとめ>

第288図 小阪合遺跡出土遺物年表1	429.430
第289図 小阪合遺跡出土遺物年表2	431.432
第290図 小阪合遺跡出土遺物年表3	433.434

表 目 次

第1表 小阪合遺跡発掘調査一覧表	1
------------------------	---

<第8次調査>

第2表 小穴 (S P) 一覧表	32~35
第3表 溝 (S D) 一覧表	36
第4表 小穴 (S P) 一覧表	54.55
第5表 溝 (S D) 一覧表	62
第6表 小穴 (S P) 一覧表	69
第7表 小穴 (S P) 一覧表	100
第8表 小穴 (S P) 一覧表	115.116

<第10次調査>

第9表 溝 (S D) 一覧表	212
第10表 溝 (S D) 一覧表	219
第11表 溝 (S D) 一覧表	231
第12表 溝 (S D) 一覧表	239
第13表 溝 (S D) 一覧表	242
第14表 溝 (S D) 一覧表	244
第15表 溝 (S D) 一覧表	256
第16表 小穴 (S P) 一覧表	256
第17表 溝 (S D) 一覧表	257
第18表 小穴 (S P) 一覧表	276
第19表 溝 (S D) 一覧表	277
第20表 溝 (S D) 一覧表	286

<第13次調査>

第21表 小穴 (S P) 一覧表	332
-------------------------	-----

第22表	小穴 (S P) 一覧表	336
第23表	溝 (S D) 一覧表	337
第24表	小穴 (S P) 一覧表	342
第25表	小穴 (S P) 一覧表	348
第26表	小穴 (S P) 一覧表	349, 350
第27表	小穴 (S P) 一覧表	353
第28表	小穴 (S P) 一覧表	358
第29表	溝 (S D) 一覧表	361
第30表	溝 (S D) 一覧表	365
<第16次調査>		
第31表	溝 (S D) 一覧表	411
<土器胎土の修繕>		
第32表	土器表面の砂礫種観察表	

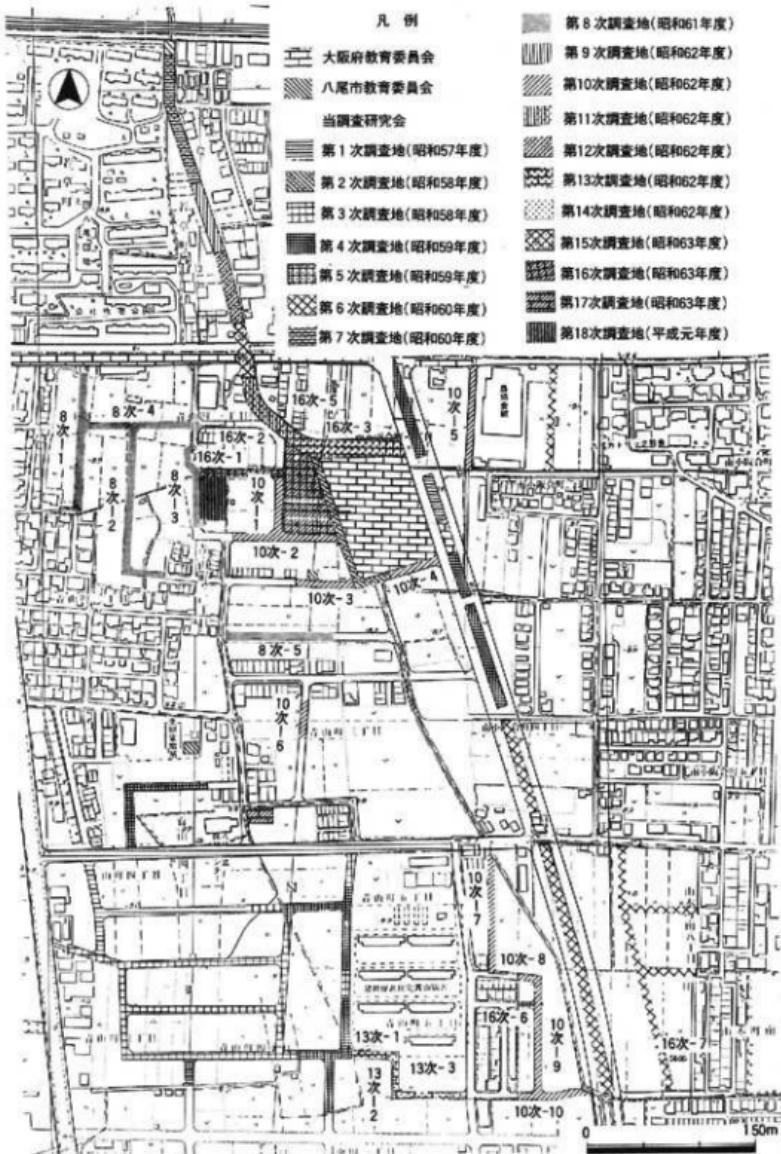
第1章 はじめに

小阪合遺跡は、大阪府八尾市の中央部に位置する遺跡で、旧大和川の主流であった玉串川と長瀬川に挟まれた沖積地にある。当遺跡の発見の経緯は、昭和30年の大阪府営住宅供給公社建設工事の掘削中に古墳時代の遺物が多量に出土されたことによる。その後、八尾市教育委員会文化財室が数回の試掘調査・立会調査を実施しているが、遺構・遺物の確認が明確にできなかった。このような状況下、昭和56年度に当遺跡を中心とした大規模な土地区画整理事業が施工された。文化財室は、当遺跡推定範囲にあり、その実態を把握する目的で、工事による掘削が実施される部分を対象にした発掘調査を昭和57年度から実施することになった。しかし、その年の7月に埋蔵文化財調査を目的とした財團法人八尾市文化財調査研究会が発足し、区画整理事業の発掘調査は当調査研究会が担当することになった。そして、昭和57年11月、第1次の発掘調査を実施した。その結果、古墳時代～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多量に検出した。その後、昭和63年度第16次調査を最後に土地区画整理事業関係の発掘調査が終了し、多大な成果を得ることが出来た。

内業整理については、土地区画整理事業の関係上、発掘調査した翌年に実施し、報告書はさらに翌年に刊行することになった。今回の報告が最終報告書となる。

第1表 小阪合遺跡発掘調査一覧表

年 度	調査 地	調査 原 因	調査 主 体	備 考
S. 57	青山町4、南小阪合町1	区画整理事業	当調査研究会(第1次)	当調査研究会報告9
S. 58	南小阪合町1 青山町4 南小阪合町1	桃原川切替工事 区画整理事業 小阪合ポンプ場	当調査研究会(第2次) 当調査研究会(第3次) 大阪府教育委員会	当調査研究会報告10 当調査研究会報告10 報告
S. 59	青山町4、南小阪合町1・4 南小阪合町1 青山町4 南小阪合町1	区画整理事業 松原・八尾鉄道下水管 関内電力鉄塔搭替 流域下水道	当調査研究会(第4次) 大阪府教育委員会 八尾市教育委員会 当調査研究会(第5次)	当調査研究会報告15 八尾市文化財報告11 当調査研究会報告8
S. 60	山本町南8、南小阪合町4 南小阪合町1・4 小阪合町1 小阪合町1	区画整理事業 流域下水道 小阪合ポンプ場放流 小阪合ポンプ場放流	当調査研究会(第6次) 大阪府教育委員会 八尾市教育委員会 当調査研究会(第7次)	当調査研究会報告9 当調査研究会報告14
S. 61	青山町1・3	区画整理事業	当調査研究会(第8次)	当報告
S. 62	小阪合町1・2 南小阪合町1、青山町3・5	小阪合ポンプ場放流 区画整理事業 小阪合ポンプ場放流 小阪合ポンプ場放流 区画整理事業 特殊人孔施設 青山町1	当調査研究会(第9次) 当調査研究会(第10次) 当調査研究会(第11次) 当調査研究会(第12次) 当調査研究会(第13次) 当調査研究会(第14次)	当調査研究会報告15 当報告 当調査研究会報告15 当調査研究会報告15 当調査研究会報告15 当調査研究会報告15
S. 63	小阪合2 南小阪合2-5、山本町南8 青山町5 南小阪合1	小阪合ポンプ場放流 区画整理事業 共同住宅 平野中高安鐵道遮断張	当調査研究会(第15次) 当調査研究会(第16次) 当調査研究会(第17次) 大阪府教育委員会	当調査研究会報告25 当報告 当調査研究会報告25
H. 1	青山町2 南小阪合1	共同住宅 平野中高安鐵道遮断張	当調査研究会(第18次) 大阪府教育委員会	



第1図 調査位置図

第2章 調査の経過

この報告は、南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査の報告書で、小阪合遺跡で実施した第8次・第10次・第13次・第16次を集録してまとめたものである。この報告により区画整理事業関係に伴う発掘調査はこれをもって最終となった。そこで、これまでに報告されている小阪合遺跡の報告書をもう一度振り返って各年度ごと整理してみる。

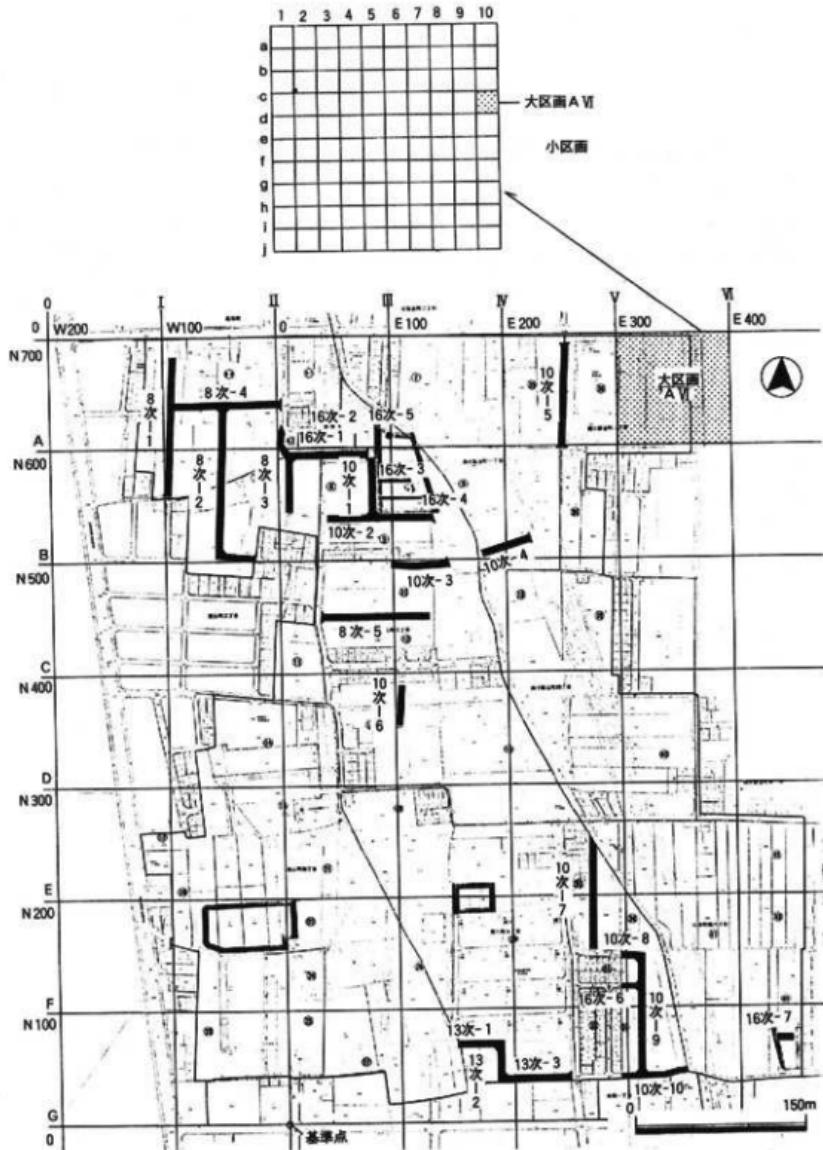
昭和57年度

7月1日に財団法人八尾市文化財調査研究会が発足した年である。当調査研究会は、埋蔵文化財の一部（主に発掘調査）を八尾市教育委員会の指示のもとで実施することになった。当初、区画整理事業に伴う発掘調査は八尾市教育委員会が実施する予定であったが、当調査研究会が担当することになった。そこで、区画整理事業・八尾市教育委員会・当調査研究会の三者で協議を重ね、協定書を締結し、11月8日から発掘調査を開始した。その結果、古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多量に検出された。特に古墳時代前期（庄内式～布留式）の遺物が多量に出土している。しかし、調査区が計画道路敷下で細長いトレンチであるため、遺構の性格が把握することが出来なかった。

昭和58年度

この年は、二次にわたる発掘調査（第2・3次調査）を実施した。まず、第2次調査は、区画整理事業区域内の北東部に建設する南部寝屋川流域下水道小阪合ポンプ場の予定地を縦断する楠根川の迂回路の調査である。調査は6月21日から3週間の期間で実施した。その結果、発掘調査では、仮設河川であり、掘削深度が浅いという制限があるため、鎌倉時代までの調査に留まった。そして調査及び迂回工事終了後の9月1日から大阪府教育委員会が大阪府の公共事業である小阪合ポンプ場の建設に伴う発掘調査が実施された。

第3次調査は、区画整理事業区域内の南西部に位置する区画街路の調査である。調査は10月27日から約4ヶ月の期間で実施した。その結果、第1次調査と同様、古墳時代前期（庄内式～布留式古相）の遺構とそれに伴う多量の遺物（ほとんど土器）が出土した。その他、奈良時代の建物跡・井戸、鎌倉時代の水田遺構が検出された。この調査地は、昭和47～49年度に実施された曙川区画整理に伴う発掘調査で、古墳時代～鎌倉時代に至る大規模な複合遺跡であると認識されている中田遺跡の北部に隣接する。その成果を一般の方々に知っていただくため、2月6日に一般公開した。しかし、その現地説明会の日、10年ぶりの大雪が降り、調査区一面が雪一色となったにもかかわらず、多数の市民の方々が見学に来られた。



第2図 調査区配置図及び区别図

昭和59年度

6月15日から5ヶ月間で実施した第4次調査は、区画整理事業区域内の南西部に位置する第1・3次調査地と隣接する調査地と、区画整理事業区域内の北東部の調査地の2箇所の調査であった。その結果、南西部の調査区では、既往調査で検出した遺構の広がりを確認することができた。特に古墳時代前期（庄内式～布留式）の遺構・遺物を検出した。

また、北東部の調査では、古墳時代中期の埴輪棺が検出され、この時期の墓域が低平地でも多く存在することが確認された。

昭和60年度

8月1日から第6次調査を実施した。調査区は、区画整理事業区域内の東側を縦断する幹線道路及び南東部の区画街路の調査で、当遺跡の東側の遺跡の状況を確認することとなった。その結果、当遺跡内で実施した中で一番広い面積の調査であったにもかかわらず、遺構・遺物が最も気薄な所であった。遺構は、古墳時代のものはほとんどなく、鎌倉時代の水田が広がっているのを確認した。第3調査区では、当遺跡の中心を縦断している楠根川の旧河川と考えられる室町時代に埋没した河川を確認している。また南東部の第5調査区では、古墳時代初頭（庄内式古相）の遺構が新たに検出した。

昭和61年度

区画整理事業区域内の北東部で第8次調査を実施した。その結果、平安時代末期～鎌倉時代の曲物を備えた井戸や多数の柱穴などの住居遺構を検出し、現在の小阪合村が約400年前に移動したと言い伝えられており、その旧小阪合村の位置が確認された。また、旧小阪合村は、整地した上に築造されており、その下層から奈良時代前期の溝内から一括遺物が多量に出土しており、旧小阪合村が古くから存在していたことが窺える。

昭和62年度

区画整理事業区域内の中央部の第10次調査を実施している。その結果、弥生時代後期・古墳時代前期の遺構・遺物が検出され、当遺跡内に広く分布していることが改めて確認された。

また、同年に第13次調査を区画整理事業区域内の南部で実施した。この調査区は、中田遺跡に隣接する箇所で、中田遺跡の既往調査で検出されている遺構のつながりが認められた。古墳時代前期・中期の遺構・遺物が濃厚に存在していることが判明した。

昭和63年度

第10次調査の調査区と隣接する調査区であった第16次調査である。この調査が区画整理事業の最終調査となった。調査の結果では、既往調査で検出した遺構の延長部が確認された調査であった。

以上、区画整理事業に伴う調査の経緯である。その間、第1表に掲載している公共下水道・民間事業に伴う調査が実施されており、小阪合遺跡の変遷が着実に明らかになってきている。

第3章 遺跡の概要

第1節 調査の成果

当遺跡は、前章でも記述しているように南小阪合土地区画整理事業に関連する発掘調査を昭和57年度から実施し、その結果は、既往の報告（第1表）でも掲載しているように多大な成果が得られている。それにより、当遺跡の広がり、各時代の遺跡の状況、旧地形の状況が点と線の断続的な調査であるが、ほぼ当遺跡の全域がある程度まで把握するまで至った。

以下、各年度で検出した遺構・遺物について記す。

昭和57年度（第1次調査）

調査地	青山町4丁目・南小阪合1丁目
調査面積	1900m ²
調査期間	昭和57年11月8日～昭和59年3月25日
検出遺構	弥生時代後期末～土坑2基・溝15条・小穴1個・古墳時代前期～井戸1基・溝・古墳時代中期～土坑・溝・自然河川1条・奈良時代～掘立柱建物2棟・井戸1基・平安時代～井戸1基・溝1条・鎌倉時代～井戸1基・溝10条・自然河川2条
出土遺物	出土量 コンテナ100箱 時期別 弥生土器（V様式）・庄内式土器・布留式土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦・磁器・石器・木製品

昭和58年度（第2・3次調査）

第2次調査

調査地	青山町3丁目
調査面積	390m ²
調査期間	昭和58年6月21日～同年7月14日
検出遺構	鎌倉時代～土坑1基・小穴1個・溝4条・近世～自然河川1条
出土遺物	出土量 コンテナ半分箱 時期別 鎌倉時代～瓦器・江戸時代～磁器・瓦

第3次調査

調査地	青山町4丁目・南小阪合町1丁目
-----	-----------------

調査面積 1800m²
 調査期間 昭和58年10月27日～昭和59年2月29日
 検出遺構 弥生時代後期
 出土遺物 出土量 コンテナ60箱
 時期別 弥生時代後期—土坑7基・小穴8個・落ち込み状遺構4箇所・溝7条・古墳時代前期—土坑10個・溝13条・土器集積・方形周溝墓1条・古墳時代中期—土坑3基・古墳の周濠1条・落込み状遺構13基・河川1条・奈良時代—井戸1基・平安時代—井戸2基・小穴列2箇所・小穴66個・溝13条・自然河川1条・鎌倉時代—井戸4基・土坑1基・落ち込み状遺構1箇所・小穴7個・溝170条・江戸時代—溝

昭和59年度（第4次調査）

調査地 青山町4丁目・南小阪合町1丁目
 調査面積 約987m²
 調査期間 昭和59年6月15日～同年11月15日
 検出遺構 古墳時代前期—井戸1基・土坑5基・小穴列2基・小穴8個・溝10条・古墳時代中期—埴輪棺1基・溝1条・鎌倉時代—井戸1基・土坑12基・小穴20個・溝67条
 出土遺物 出土量 コンテナ80箱
 時期別 古墳時代前期—庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期—土師器・須恵器、鎌倉時代—瓦器・瓦

昭和60年度（第5・6次調査）

第5次調査

調査地 南小阪合町1丁目
 調査面積 約636m²
 調査期間 昭和60年1月25日～同年3月20日
 検出遺構 古墳時代前期—溝・平安時代後期—井戸・小穴・溝・鎌倉時代—溝。
 出土遺物 出土量 コンテナ5箱
 時期別 古墳時代前期—庄内式土器、平安時代後期～鎌倉時代—土師器・瓦器

第6次調査

調査地	南小阪合町4丁目・山本町南8丁目	
調査面積	約2743m ²	
調査期間	昭和60年7月15日～同年12月28日	
検出遺構	古墳時代前期—土坑7基・小穴3個・溝11条、古墳時代中期—井戸1基・土坑3基・溝7条、鎌倉時代—土坑1基・水田2筆・溝28条、室町時代—自然河川1条	
出土遺物	出土量	コンテナ10箱
	時期別	弥生式土器—畿内第II様式・畿内第III様式・畿内第IV様式・畿内第V様式、庄内式土器・布留式土器・土師器・黑色土器・瓦器・磁器、

昭和61年度（第7・8次調査）

第7次調査

調査地	小阪合町1丁目	
調査面積	約480m ²	
調査期間	昭和61年4月5日～同年8月8日	
検出遺構	室町時代—河川1条	
出土遺物	出土量	コンテナ2箱
	時期別	弥生時代中期—畿内第III・IV様式、弥生時代後期—畿内第V様式、古墳時代前期—庄内式土器・古墳時代中期—土師器・須恵器・鎌倉時代～室町時代—瓦器・磁器

第8次調査

調査地	青山町1・2丁目	
調査面積	約998m ²	
調査期間	昭和61年8月25日～同年12月10日	
検出遺構	弥生時代後期—土坑・古墳時代前期—土坑・溝・古墳時代中期—土坑・溝・自然河川・奈良時代—溝・平安時代後期—鎌倉時代前期—井戸・土坑・小穴・溝・鎌倉時代後期—室町時代—井戸・小穴・溝	
出土遺物	出土量	コンテナ60箱
	時期別	弥生時代後期—畿内第V様式、古墳時代前期—庄内式土器・布留式土器・古墳時代中期—土師器・須恵器・古墳時代後期—土師器・須恵器、

平安時代前期—黒色土器、平安時代—鎌倉時代—土師器・瓦器・磁器、

昭和62年度（第10・13・16次調査）

第10次調査

調査地	南小阪合町1丁目・青山町3・5丁目
調査面積	1023m ²
調査期間	昭和62年8月1日～同年10月31日
検出遺構	弥生時代後期—土坑・溝、古墳時代前期—土坑・溝・土器集積、自然河川、古墳時代中期—土坑・小穴・溝、平安時代—土坑
出土遺物	出土量 コンテナ20箱 時期別 磁内第V様式・庄内式土器・布留式土器・土師器・須恵器・瓦器・青銅品

第13次調査

調査地	青山町5丁目
調査面積	約300m ²
調査期間	昭和62年11月9日～同年12月28日
検出遺構	弥生時代後期—小穴3個・溝4条、古墳時代前期—土坑8基・溝25条・土器集積1箇所・小穴51個・自然河川1条、古墳時代中期—土坑12基・小穴55個・溝6条、平安時代—土坑1基、鎌倉時代—土坑1基・溝52条、江戸時代1条
出土遺物	出土量 コンテナ15箱 時期別 弥生時代後期—磁内第V様式・古墳時代前期—庄内式土器・布留式土器・古墳時代中期—土師器・須恵器・鎌倉時代—瓦器

第16次調査

調査地	青山町4・5丁目・山本町南8丁目
調査面積	約500m ²
調査期間	昭和63年8月1日～10月1日
検出遺構	弥生時代後期—土坑2基・溝3条、古墳時代前期—河川7条・土器集積遺構1箇所・鎌倉時代—溝16条・江戸時代—土坑1基・溝1条
出土遺物	出土量 コンテナ7箱 時期別 古墳時代前期—庄内式土器・布留式土器・中期—土師器・須恵器

器、平安時代—土師器、鎌倉時代—土師器、瓦器

以上、当遺跡で実施した発掘調査の成果である。

これらの調査成果によって、当遺跡の各時代に歩んできた痕跡が大間かなではあるが明らかになった。その成果について最終報告でまとめてみた。今後、当遺跡を調査するに当り、その資料となればと考える。

第4章 第8次調査

第1節 調査の概要

今回の発掘調査は、昭和57年度から継続事業として実施している八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した第8次調査に当たる。

調査地は、区画整理事業区域内の北西部に当たる青山町1・2丁目に所在する。旧地名では、成法寺・屋敷跡の小字名がみられるところである。調査区は区画街路計画予定地の第1号線（第1調査区）・第2号線（第2調査区）・第3号線（第3調査区）・第4-1号線（第4調査区）・第13号線（第5調査区）の5箇所である（第3・4図）。調査は、道路敷下の中心にした2.5m幅のトレントを設定した。各調査区の長さ・面積などは、第1章の第1表とのおりである。調査区では、現状の土地利用の条件により、発掘調査ができなかった箇所が一部ある。まず、第1調査区は、北部で農業用水として使用している井戸小屋があり、その部分を外してトレントを設定した。第2調査区と第3調査区では、トレントの中央部付近に東西方向の里道（幅1～1.5m）が横断し、その下にはガス・水道などの公共施設が埋設されており、調査の対象外とした。また、各調査区では、検出遺構の状況から一部拡張を実施している。第3調査区の南部・第4調査区の東部では最大限の拡張を実施した。以下、調査の結果について記す。

凡　例

当調査研究会

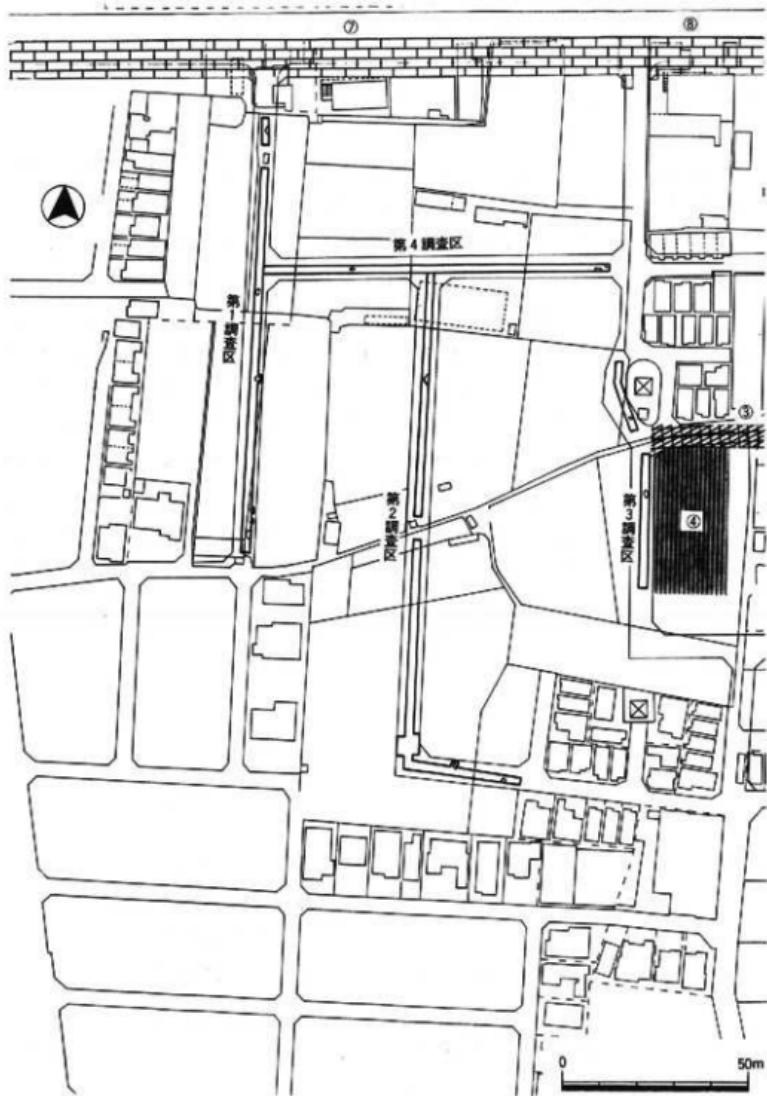
- ① 第10次調査（昭和62年度）
- ② 第12次調査（昭和62年度）
- ③ 第16次調査（昭和63年度）
- ④ 第18次調査（平成元年度）

大阪府教育委員会

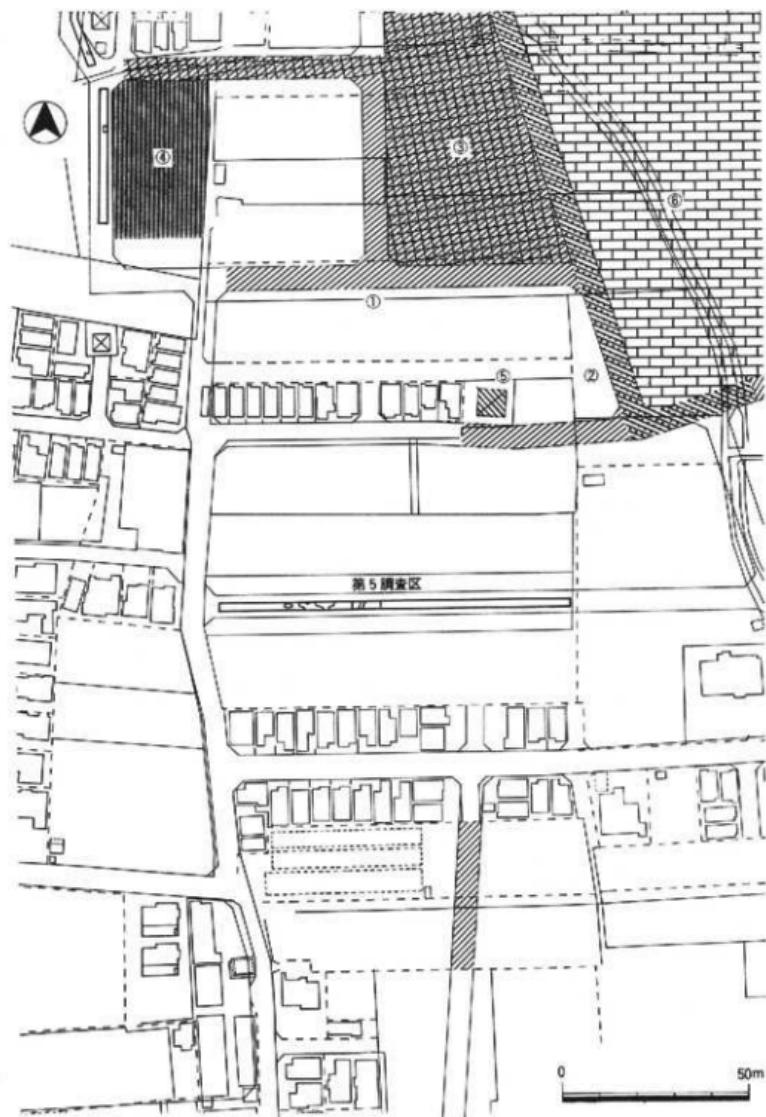
- ⑤ 昭和59年度調査

大阪府教育委員会

- ⑥ 昭和58年度調査
- ⑦ 昭和61年度調査
- ⑧ 平成元年度調査



第3図 調査配置図1



第4図 透視配置図2

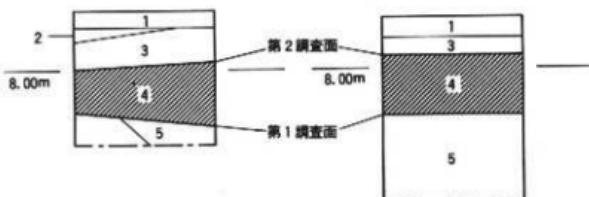
第2節 第1調査区

今回の調査で最も西側に設定した調査区で、区画整理事業区域内の北西部に位置する南北に長い調査区（約120m）である。調査面積は約240m²を測る。

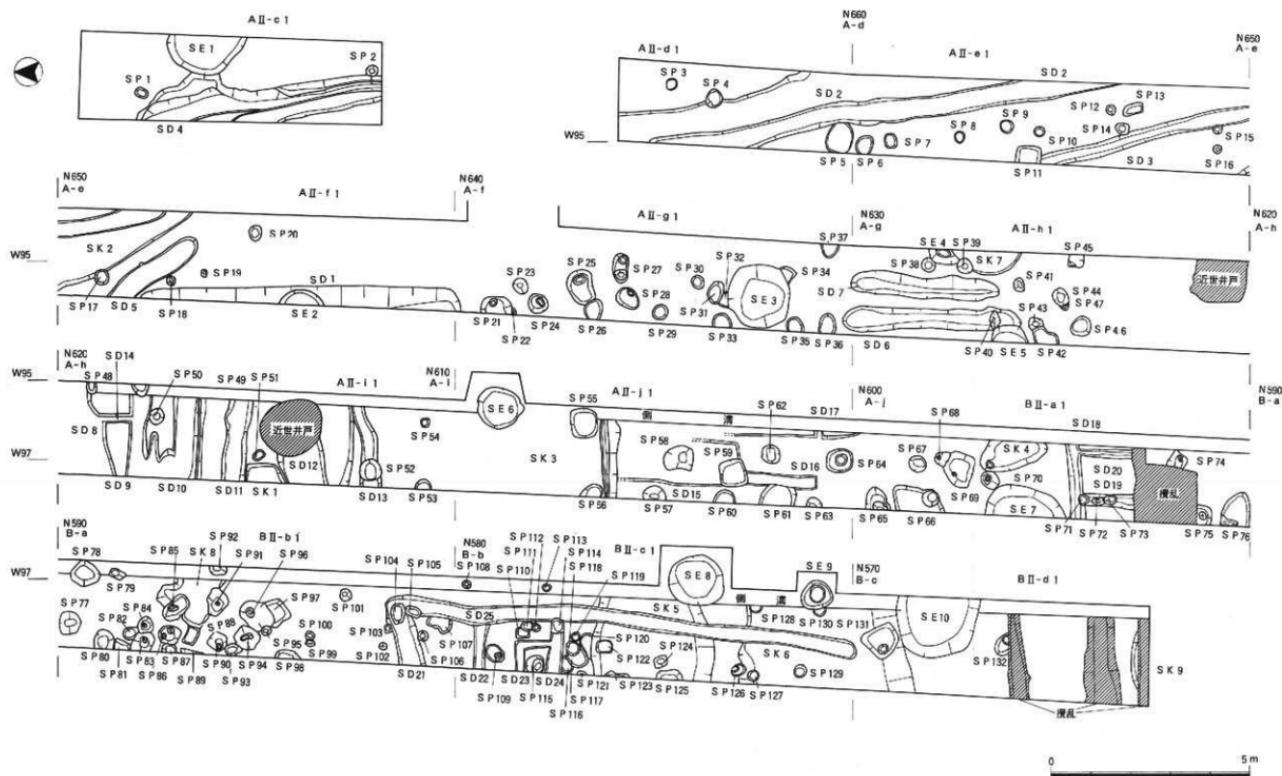
I 基本層序

当調査区内で調査した現地表から約1.5mまでに存在する土層内で普遍的にみられる5層を抽出して基本層序とした（第5図）。現地表面は、標高8.3～8.4mを測る。以下、各層について記す。

- 第1層 耕土：層厚20cm。調査前までの耕作土である。
- 第2層 茶褐色微砂：層厚10～15cm。南部ではなく、北部にだけ堆積する土層である。
- 第3層 暗灰褐色砂礫混細砂：層厚10～15cm。土層内には古墳時代～江戸時代に比定される遺物が含まれている。
- 第4層 黄灰色砂礫混砂質土～暗灰茶色砂質土：層厚25～50cm。この上面から平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される遺構を検出した。土層内には古墳時代～平安時代末期に至る土器類が多量に含まれている。土器には検出遺構とほぼ同時期のものが含まれており、この時期に整地したものであろう。標高は8.0～8.1mを測る。
- 第5層 暗灰茶色粗砂～黄灰色粘質シルト：層厚60cm。この上面から古墳時代中期～平安時代末期に比定される遺構を検出した。標高は7.7mを測る。



第5図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)



第6図 第1調査区透構平面図

II 検出遺構・出土遺物

第5層上面（第1調査面）と第4層上面（第2調査面）の2面を調査した。その結果、第1調査面では、古墳時代前期に比定される土坑1基（SK1）、古墳時代中期から後期に比定される土坑5基（SK2～SK6）・溝1条（SD1）、奈良時代に比定される溝2条（SD2・SD3）を検出した。第2調査面では平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される井戸10基（SE1～SE10）・土坑3基（SK7～SK9）・小穴132個（SP1～SP132）・溝22条（SD4～SD25）を検出した（第6図）。以下、各調査面で検出した遺構・遺物について記す。なお、個々の遺物については第6節 出土遺物観察表にまとめた。

1) 第1調査面（古墳時代前期～後期）

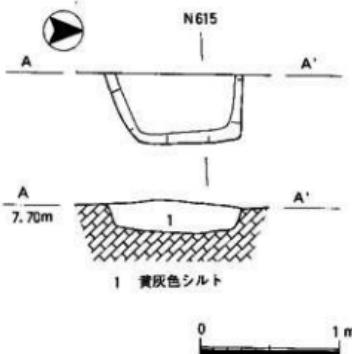
土坑（SK1）

SK1

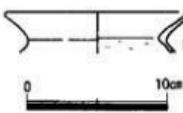
A II-i 1区で検出した土坑である。西部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1m以上、南北1.04m以上、深さ15mを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色シルトの1層である（第7図）。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される庄内式壺（1）の小片がごく少量出土している（第8図）。

SK2

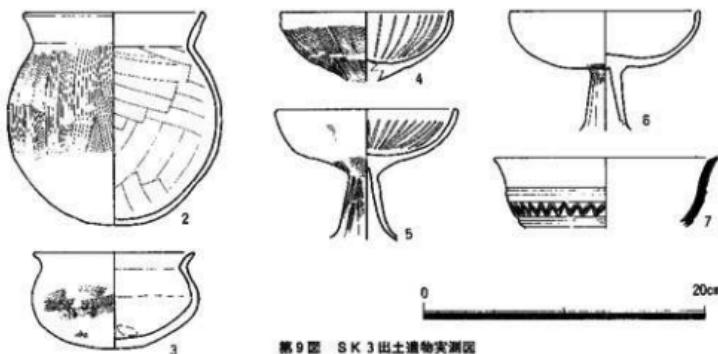
A II-e 1区で検出した土坑で、SD3・SP17に切られている。東西はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2m、南北1.9m、深さ8～10cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、上方から黄褐色粗砂・褐灰色粗砂混粘土・黄灰色シルトの3層に分かれる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の高杯・須恵器の壺などの小片が少量出土している。



第7図 SK1平面図



第8図 SK1出土遺物実測図



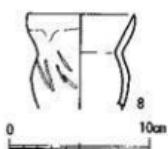
第9図 SK 3出土遺物実測図

SK 3

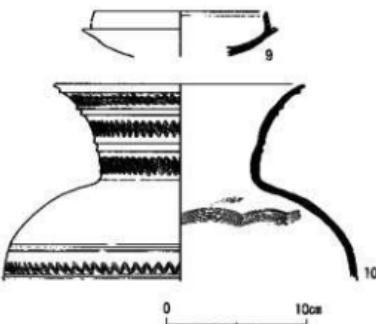
A II-j 1区で検出した土坑で、SE 6・SP 55・SP 56に切られている。東西はともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西2m、南北4.4m、深さ25cmを測る。堆積土は、暗灰茶色粘質土の1層である。遺物は北部の底面付近を中心として古墳時代中期に比定される土師器の壺・甕(2)・杯(3)・高杯(4~6)、須恵器(I型式3~4段階)の鉢・高杯(7)等の小片が少量出土している(第9図)。

SK 4

B II-a 1区で検出した土坑である。平面は梢円形を呈する。規模は検出部で、東西約2m、南北1.7m、深さ14cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器の鉢(8)、須恵器の小片がごく少量出土している(第10図)。



第10図 SK 4出土遺物実測図



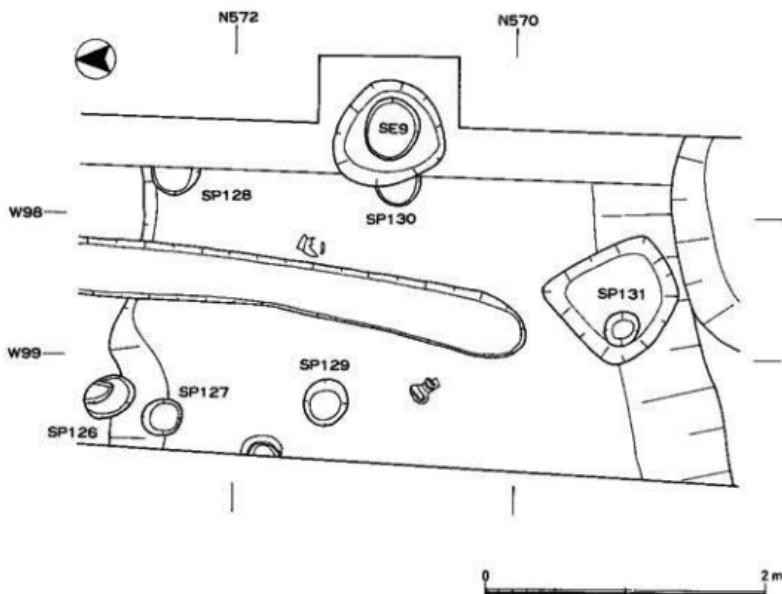
第11図 SK 5出土遺物実測図

SK 5

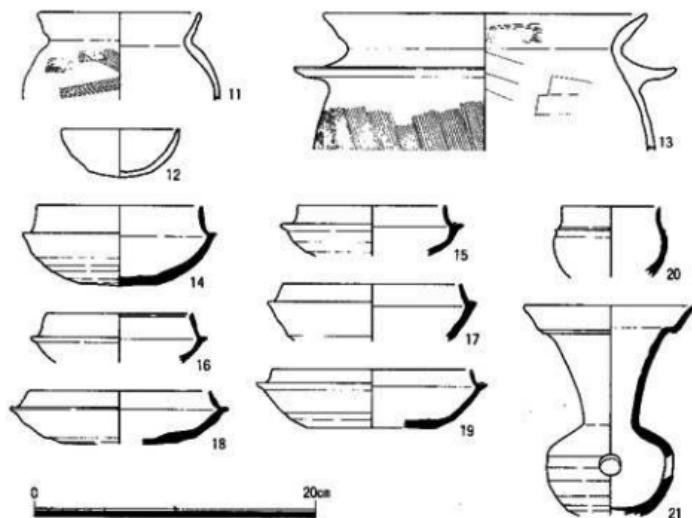
B II - c 1 区で検出した土坑である。SE 8・SP 122～SP 125・SD 25に切られている。東西は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西 2 m、南北 3 m、深さ 10 cm を測る。断面は、浅い逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色粘質土の 1 層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器、須恵器（II 型式 2～4 段階）の杯身（9）・高杯・壺（10）の小片が少量出土している（第11図）。

SK 6

B II - c 1～d 1 区で検出した土坑である。SE 9・SE 10・SP 126～SP 131・SD 25 に切られている。東西は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西 2 m 以上、南北 4.46 m、深さ 20 cm を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、茶灰色砂質土の 1 層である（第12図）。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器の壺（11）・鉢（12）・羽釜（13）・瓶、製塙土器、須恵器（II 型式 2～4 段階）の杯蓋・杯身（14～19）・高杯・鉢（20）・匙（21）などの小片が少量出土している（第13図）。



第12図 SK 6 平面図



第13図 SK 6 出土遺物実測図

溝 (SD)

SD 1

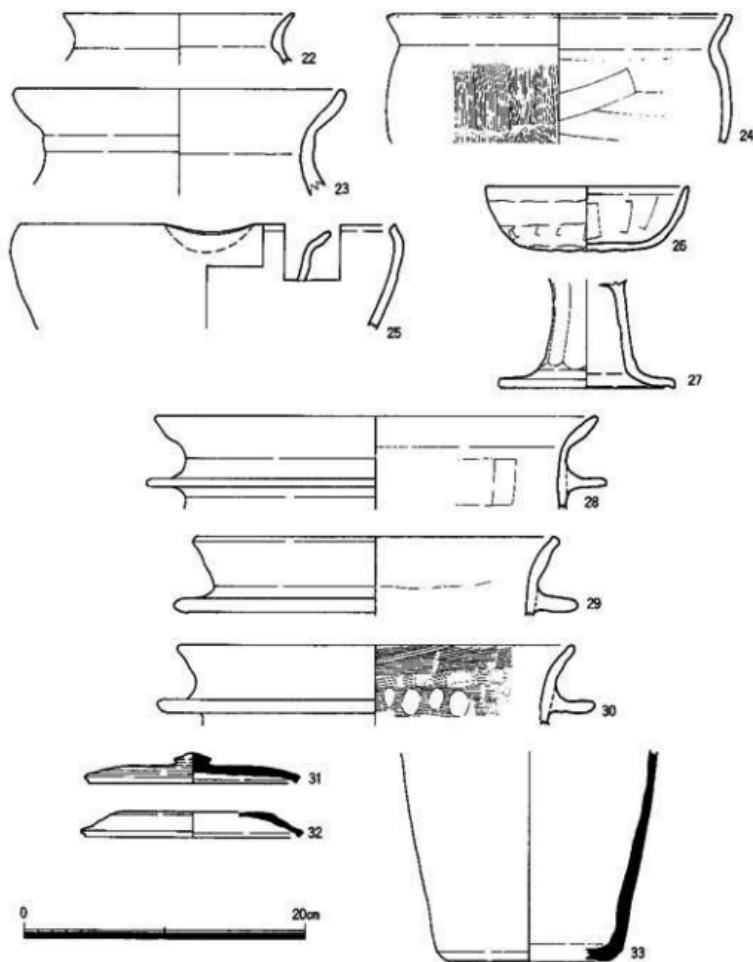
A II-f 1区で検出した南北方向に伸びる溝である。規模は西側が調査区外に至り、溝幅は不明である。中央部付近でSE 2に切られている。深さは15cmを測るが、西へ傾斜しており、最深はもっと西側で深くなるであろう。堆積土は、灰茶色細砂混シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

SD 2

A II-d 1・e 1区で検出した。方向は北より西へ10度振っており、南北はともに調査区外に至る。北東部ではSP 4に切られている。規模は検出部で、幅1~1.2m、深さ20~25cmを測り、東側が浅くテラス状になり、西側では、断面半円形で深くなっている。堆積土は、淡茶褐色粘質土・淡褐色粗砂・淡褐色細砂混シルトの3層に分かれ、底面付近には粗砂のプロックがいくつかみられる。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の壺(22~24)・鉢(25)・杯(26)・高杯(27)・羽釜(28~30)、須恵器(IV型式1~3段階)の杯蓋(31・32)・壺(33)などの土器片が少量出土している(第14図)。

SD 3

A II-e 1・f 1区で検出した。方向はSD 2と同一方向である。SK 2を切り、SP 11・



第14図 SD 2 出土遺物実測図

S P14・S P15に切られる。南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅35~50cm、深さ10~15cmを測る。堆積土は、黄灰色粗砂混シルトの1層である。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

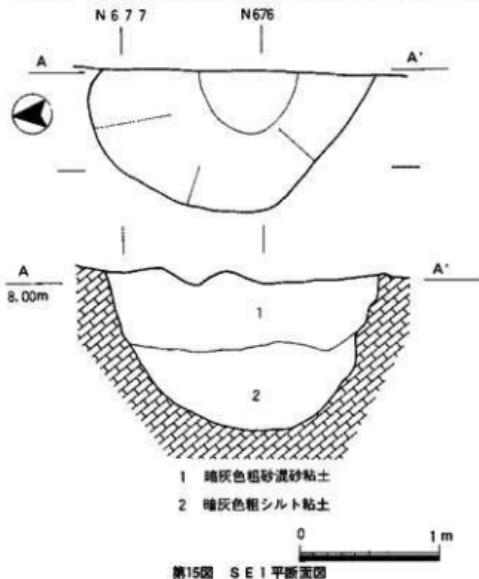
井戸 (S E)

S E 1

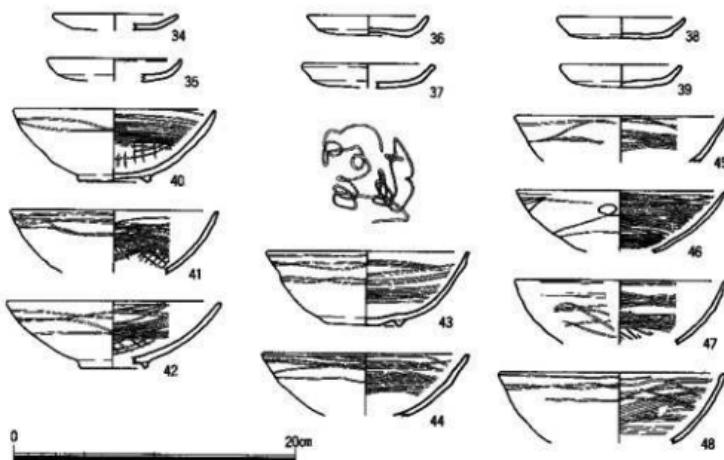
A II-c 1区で検出した素掘り井戸で、SD 4を切っている。平面は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西80cm、南北径1.56m、深さ83~92cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色粗砂混シルト・暗灰色シルト混粘土の2層である(第16図)。遺物は、堆積内から平安時代末期に比定される土師器の小皿(34~39)・鉢・瓦器の碗(40~48)などの破片が少量出土している(第15図)。瓦器碗はすべて和泉型である。

S E 2

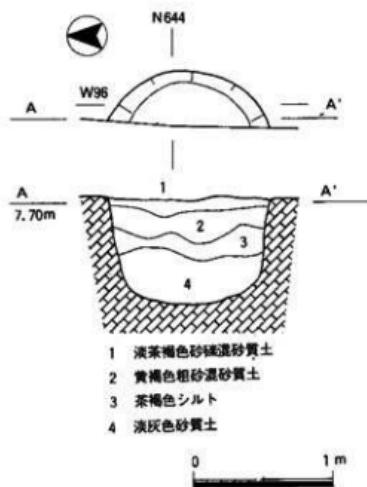
A II-f 1区で検出した素掘り井戸で、SD 1を切っている。平面は検出部で半円形を呈し、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西0.5m以上、南北1.38m、深さ60cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から淡茶褐色砂礫混粘土・黄褐色粗砂混粘土・茶褐色シルト・淡灰色砂質土の4層に分かれる(第17図)。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器・須恵器、平安時代末期に比定される瓦器碗の小片がごく少量出土している。



第15図 S E 1 平断面図



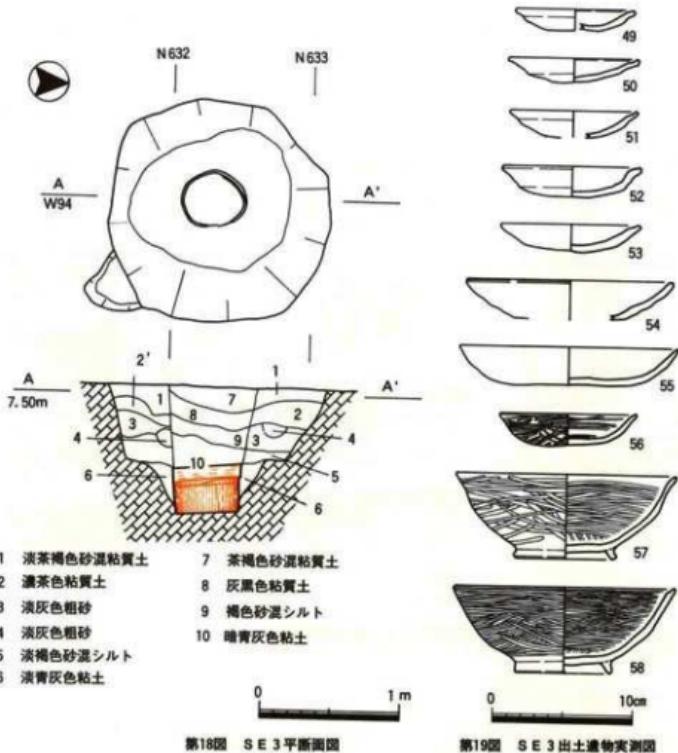
第16図 SE 1出土遺物実測図



第17図 SE 2 平断面図

SE 3

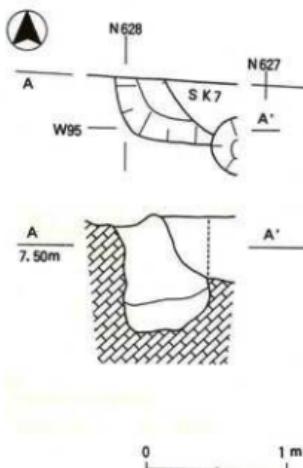
A II-g 1区で検出した曲物を備えた井戸である。掘形の平面はほぼ八角形を呈し、SP 32・SP 34を切っている。規模は検出部で、東西径1.58m、南北径1.59m、深さ93cmを測る。掘形の断面は逆台形を呈し、掘形の中央部付近には井戸側として曲物が設置している。曲物は平面円形を呈し、2段重ねである。規模は上段が径50cm、高さ10cm、厚み7mm、下段が径50cm、高さ25cm、厚み7mmをそれぞれ測



る。堆積土は、掘形が上方から淡茶褐色砂混粘質土・淡茶色粘質土・淡灰黑色粘質土・淡灰色粗砂・淡褐色砂混シルト・淡青灰色粘土の5層で構成され、曲物内も上方から茶褐色砂混粘質土・灰黑色粘質土・暗褐色砂混シルト・暗青灰色粘土の5層に分かれれる（第18図）。遺物は、掘形内から土師器の小片、曲物内から平安時代末期に比定される土師器の小皿（49～53）・中皿（54・55）、瓦器の小皿（56）・椀（57・58）などの破片が少量出土している（第19図）。

SE 4

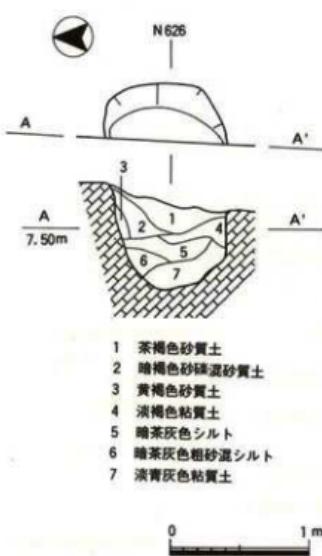
A II-h 1区で検出した素掘り井戸である。平面は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。SK 7・SP 39に切られ、SP 38を切っている。規模は検出部で、東西径70cm、南北径1.08m、深さ54cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰褐色粘質土・黒灰色粘土の2層に分かれれる（第20図）。遺物は、内部から古墳時代後期～平安時代末期に比定される土師器、須恵器の甕などの小片が少量出土している。



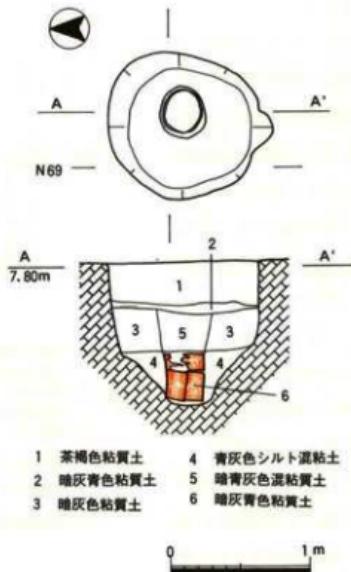
第20図 SE 4 平断面図

SE 5

A II - h 1 区で検出した素掘り井戸である。平面は検出部で半円形を呈する。東部は S P 40・S D 6 を切り、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西42cm以上、南北92cm、深さ64cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から茶褐色砂質土・暗褐色砂礫混砂質土・黄褐色砂質土・淡褐色粘質土・暗茶灰色シルト・暗茶灰色粗砂混シルト・淡青灰色粘土の7層で構成されている（第21図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器・瓦器の碗などの小片がごく少量出土している。



第21図 SE 5 平断面図



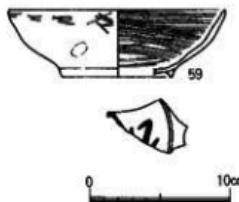
第22図 SE 6 平断面図

S E 6

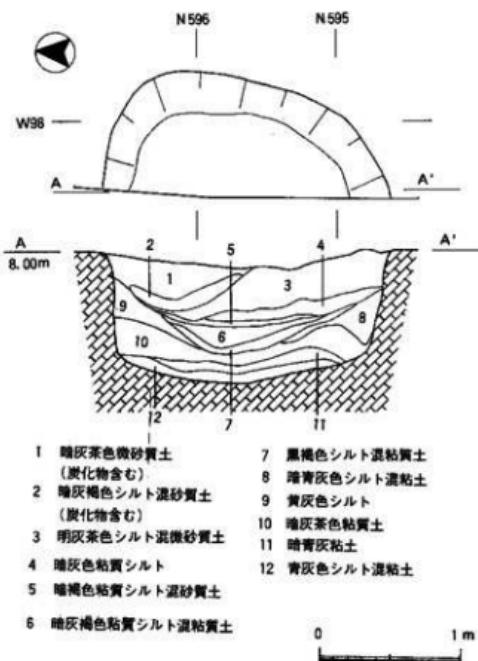
A II - j 1区の東壁付近で検出した。東部は調査区外に至るため、この井戸の部分だけの拡張を実施した。その結果、曲物を備えた井戸であった。掘形の平面はほぼ円形を呈し、中央部付近には井戸側として曲物が設置されていた。曲物の平面は円形を呈し、二段重ねである。規模は検出部で、掘形は上段が径40cm、高さ20cm、厚み6mm、下段が径40cm、高さ20cm、厚み6mmをそれぞれ測る。堆積土は、掘形が上方から茶褐色粘質土・暗灰青色粘土・暗灰色粘土・青灰色シルト混粘土の4層で、曲物内が暗青灰色粘質土・暗灰青色粘質土の2層に分かれる（第22図）。遺物は、曲物内から平安時代中期に比定される黒色土器の碗（59）などの小片がごく少量出土している。59の底部の外面には墨書きが記されているが、一部分であるため、解説は不明である（第23図）。

S E 7

B II - a 1区で検出した素掘り井戸である。平面の形状は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西80cm以上、南北径2.08m、深さ60cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗灰茶色微砂質土（炭を含む）・暗灰褐色シルト混砂質土（炭を含む）・明灰茶色シルト混微砂質土・暗灰褐色粘質シルト・暗灰褐色粘質シルト混砂質土・暗灰褐色粘質シ



第23図 S E 6出土遺物実測図

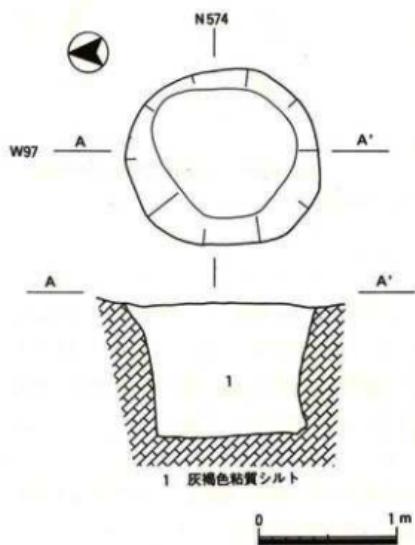


第24図 S E 7断面図

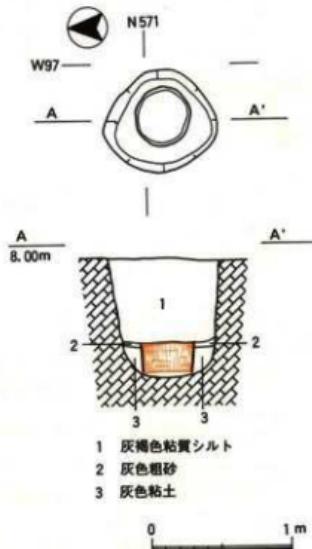
ルト混砂質土・黒褐色シルト混粘質土・暗青灰色シルト混粘土・黄灰色シルト・暗灰茶色粘質土・青灰色シルト混粘土の12層に分かれる（第24図）。これらは薄い三日月形に堆積している。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の壺、須恵器の壺、瓦器の小片が少量出土している。

S E 8

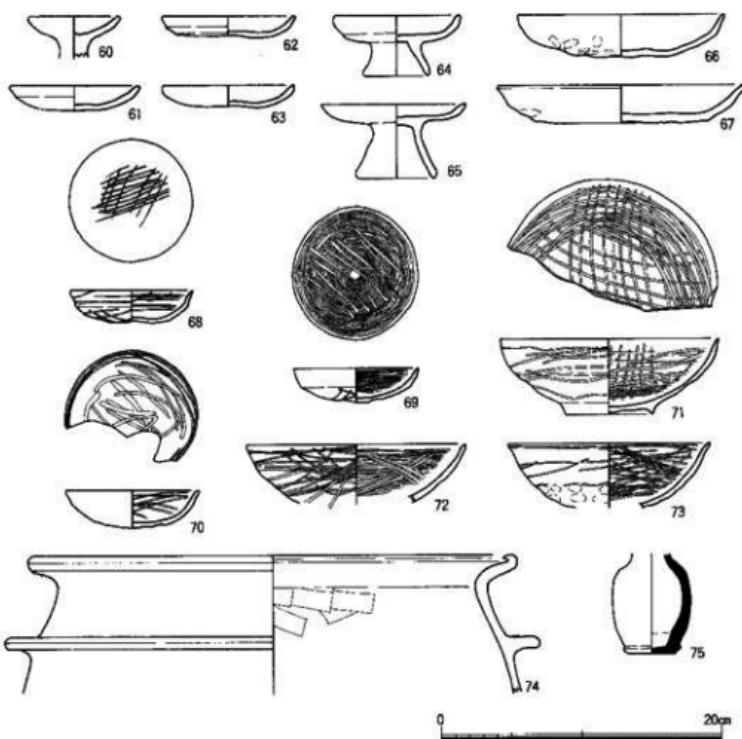
B II-c 1区で検出した素掘り井戸で、SK 5を切っている。調査区内では半分の検出であり、この井戸の全容を掘むため東側へ拡張した。その結果、平面の形状は、ほぼ円形を呈する。規模は検出部で、東西1.07m以上、南北径1.39m、深さ96cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面付近には帶水があったようで、その水位によって一部えぐれた部分がみられる。堆積土は、灰褐色粘質シルトの1層である（第25図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器のミニチュアの高杯（60）・小皿（61～63）・台付小皿（64・65）・中皿（66・67）・壺・羽釜（74）、須恵器のミニチュアの壺（75）・壺、瓦器の小皿（68～70）・椀（71～73）の破片が少量出土している（第27図）。出土遺物内にはミニチュア土器が含まれており、この井戸が廃絶される時に行われた祭祀用土器ではないかと考えられる。



第25図 S E 8 平断面図



第26図 S E 9 平断面図

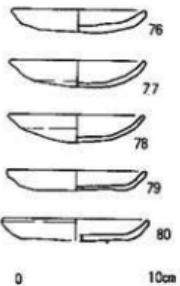


第27図 SE 8出土遺物実測図

S E 9

B II - c 1区で検出した素掘り井戸で、古墳時代後期のSK 6を切っている。東部は拡張を実施して井戸の全容を完掘した。その結果、井戸側として曲物を備えた井戸であった。掘形の平面は円形を呈し、東西78cm、南北80cm、深さ80cmを測る。断面は、逆台形を呈する。曲物は一段だけの検出である。平面は円形で、径40cm、高さ20cmを測る。厚みは6mmである。堆積土は、井戸側内が灰黒色粘泥土の1層で、掘形が上方から灰褐色粘質シルト・灰色粗砂・灰色粘土の3層に分かれる(第26図)。遺物は、掘形から古墳時代後期に比定される土師器の高杯、須恵

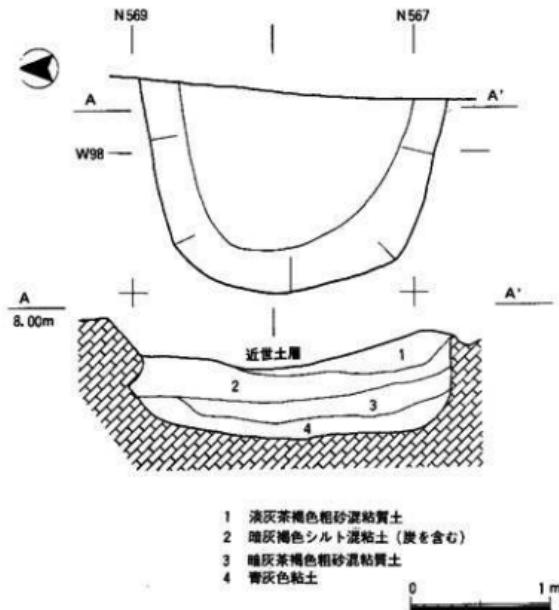
第28図 SE 9出土遺物実測図



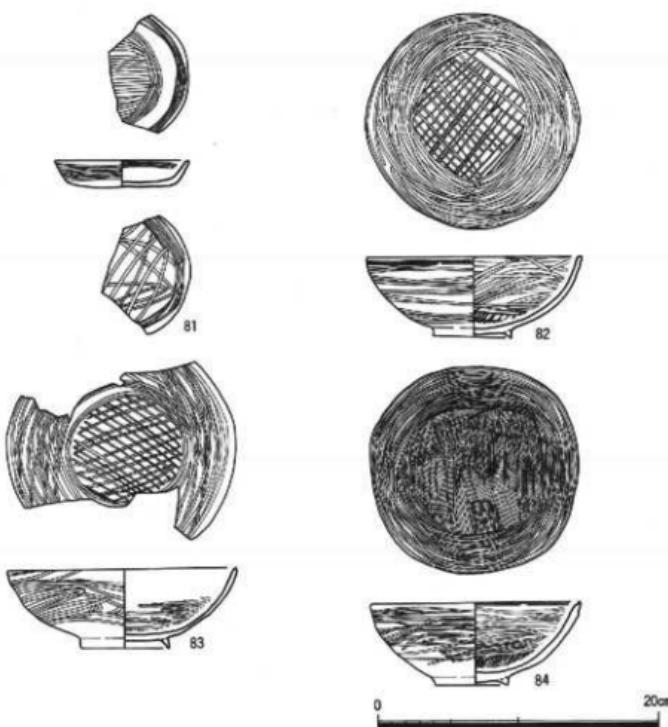
器の杯蓋・甌、井戸側内から平安時代末期に比定される土師器の小皿（76～80）などの小片が少量出土している（第28図）。

S E 10

B II-d 1区で検出した素掘り井戸である。北部はSK 6を切り、東部は調査区外に至る。平面は検出部で半円形を呈し、東西1.45m以上、南北2.2m、深さ71cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰茶褐色粗砂混粘質土・暗灰褐色シルト混粘土（炭を含む）・暗灰茶褐色粗砂混粘質土・青灰色粘土の4層で、底部付近に径20cm前後の石が4点検出している（第29図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の小皿、瓦器の小皿（81）・椀（82～84）などの小片が少量出土している（第30図）。



第29図 S E 10平面断面図



第30図 SE 10出土遺物実測図

土坑 (SK)

SK 7

A II-h 1区で検出した土坑である。S P 39に切られ、S E 4を切り、東部は調査区外に至る。平面は検出部で半円形を呈し、東西58cm、南北1.28m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面に若干の起伏が見られる。堆積土は、暗灰褐色砂質土である。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の杯(85)などの小片が少量出土している(第31図)。



第31図 SE 7出土遺物実測図

SK 8

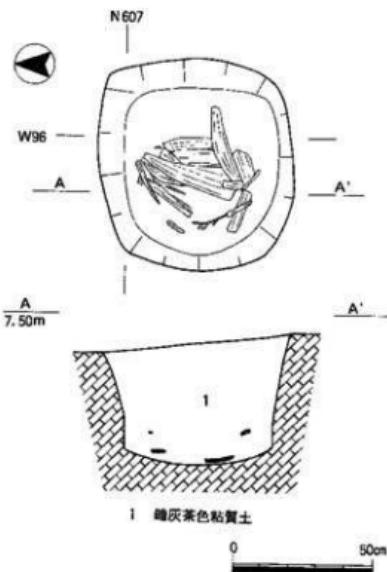
B II - b 1区で検出した土坑で、SP 85・SP 88・SP 91・SP 92に切られる。平面は不定形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.6m、南北1.4m、深さ11cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰黄褐色シルトである。遺物は出土していない。

小穴 (SP)

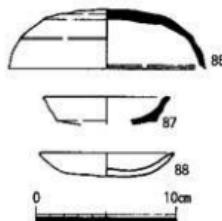
SP 1～SP 132

調査区で132個を検出した。平面の形状には円形のもの31個、橢円形のもの21個、隅丸方形のもの3個、方形のもの24個、不定形のもの1個、不明(調査区外に至る)のもの52個がある。規模は20～35cmの小さいものと、36～74cmの大きいものに分けられる。断面の形状には、逆台形と逆凸形を呈する2つの形がある。逆凸形のものは柱の抜き穴と考えられる柱痕で、構造物に関連するものであろう。しかし、調査区が小規模で限定されているため、規則的な配列は見られなかった。また、A II - j 1区で検出したSP 55は、他の小穴とはやや異なる(第32図)。底面にはチョンナのようなもので削ってできた木屑が敷き詰めており、性格としては貯蔵庫のような機能もつものである。敷かれている木屑は貯蔵物のクッション的な役目と保存する2つの機能があるものと考えられる。

遺物は、小穴内から古墳時代後期～鎌倉時代初頭に至る土器の小片がごく少量の出土であり、詳細なことは不明であるが、これらの小穴のかなり時期幅があり、大きく2つに分かれる。古墳時代後期～奈良時代に比定されるものと平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定さ



第32図 SP 55平面断面図

第33図 SP 69 (86) SP 13 (87)
SP 120 (88) 出土遺物実測図

れるものである。図示できたものは第33図の3点だけである。S P 69 (86) は古墳時代後期に比定される須恵器(Ⅱ型式4段階)の杯蓋、S P 13 (87) と S P 120 (88) は鎌倉時代初頭に比定される土師質小皿である。

なお、個々の小穴の法量などについては第2表に記した。

第2表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	地 槽 上	備 考
S P 1	A II -e1	楕円形	逆台形	25~35	13	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 2	A II -e1	円形	逆台形	30	12	暗灰褐色細砂混シルト	S D 1を切る。
S P 3	A II -d1	隅丸方形	逆台形	26~30	10	暗灰褐色細砂混シルト	根石(18×9×4)
S P 4	A II -d1	楕円形	逆台形	42~46	15	暗灰褐色細砂混シルト	S D 2を切る。
S P 5	A II -d1	—	逆凸形	60以上	40	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 6	A II -e1	—	逆台形	42以上	20	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 7	A II -e1	隅丸方形	逆台形	36~38	11	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 8	A II -e1	楕円形	逆凸形	26~30	16	暗灰褐色細砂混シルト	柱根(径10)
S P 9	A II -e1	円形	逆台形	32	17	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 10	A II -e1	円形	逆台形	24	29	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 11	A II -e1	—	逆台形	64	34	暗灰褐色細砂混シルト	S D 3を切る。
S P 12	A II -e1	円形	逆台形	24	10	暗灰褐色細砂混シルト	S D 3を切る。
S P 13	A II -e1	隅丸方形	逆台形	28~54	12	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 14	A II -e1	楕円形	逆台形	30~36	15	暗灰褐色細砂混シルト	S D 3を切る。
S P 15	A II -e1	円形	逆台形	24	13	暗灰褐色細砂混シルト	S D 3を切る。
S P 16	A II -e1	円形	逆台形	22	8	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 17	A II -f1	円形	逆台形	36	16	暗灰褐色細砂混シルト	S K 1を切る。
S P 18	A II -f1	楕円形	逆台形	20~24	12	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 19	A II -f1	楕円形	逆台形	15~20	9	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 20	A II -f1	楕円形	逆台形	30~38	15	暗灰褐色細砂混シルト	
S P 21	A II -g1	—	逆台形	78	38	暗灰褐色細砂混シルト	S P 22を切る。
S P 22	A II -g1	—	逆台形	20以上	10	暗灰褐色粘質シルト	
S P 23	A II -g1	円形	逆台形	34	19	暗灰褐色粘質シルト	
S P 24	A II -g1	円形	逆凸形	48~50	24	茶灰色砂質土	柱根(径14~20)
S P 25	A II -g1	—	逆台形	64~92	30	茶灰色砂質土	S D 26と切り合う。
S P 26	A II -g1	—	逆台形	48以上	14	暗灰褐色シルト	柱根(径21~31)
S P 27	A II -g1	楕円形	逆凸形	40~74	20	暗灰褐色シルト	S D 25と切り合う。
S P 28	A II -g1	円形	逆台形	52~58	25	暗灰褐色シルト	
S P 29	A II -g1	円形	逆台形	40	20	暗灰褐色シルト	
S P 30	A II -g1	円形	逆台形	30	20	暗灰褐色シルト	
S P 31	A II -g1	楕円形	逆台形	40~48	18	暗灰褐色シルト	S P 32を切る。
S P 32	A II -g1	—	逆台形	40以上	17	暗灰褐色砂質シルト	S E 3・S P 31に切られる。
S P 33	A II -g1	—	逆台形	48	15	黄褐色シルト	調査区外に至る。
S P 34	A II -g1	—	逆台形	48	18	暗灰褐色シルト	S E 3に切られる。
S P 35	A II -g1	—	逆台形	44	20	明灰褐色砂質土	調査区外に至る。
S P 36	A II -g1	楕円形	逆台形	40	15	黄褐色砂質土	調査区外に至る。
S P 37	A II -g1	—	逆台形	44	11	黄褐色砂質土	調査区外に至る。
S P 38	A II -h1	—	逆台形	34~36	14	暗茶色シルト	

* 単位: cm

地番番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P39	A II-h1	—	透台形	38以上	21	暗茶灰色シルト	S E 4・S K 7にられる。
S P40	A II-h1	方形	透台形	25~48	20	暗茶灰色シルト	S E 5に切られる。
S P41	A II-h1	椭円形	透台形	24~34	20	暗茶灰色シルト	
S P42	A II-h1	—	透台形	60	12	黄褐色粘質シルト	S P43を切る。
S P43	A II-h1	—	透台形	38	15	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
S P44	A II-h1	—	透台形	40~44	28	暗茶灰色シルト	S P42に切られる。
S P45	A II-h1	—	透台形	28以上	8	暗茶灰色シルト	S P47を切る。
S P46	A II-h1	—	透台形	48	18	茶灰褐色粘質土	調査区外に至る。
S P47	A II-h1	—	透台形	22	10	茶褐色シルト	調査区外に至る。
S P48	A II-i1	—	透台形	28	20	淡黄灰色粘質土	S P44に切られる。
S P49	A II-i1	—	透台形	42	15	暗茶灰色シルト	S D 8を切る。
S P50	A II-i1	円形	透台形	38	18	暗茶灰色シルト	S D 9に切られる。
S P51	A II-i1	椭円形	透台形	24~32	12	暗茶灰色シルト	
S P52	A II-i1	円形	透台形	58	28	暗茶灰色シルト	S D 13を切る。
S P53	A II-i1	—	透台形	40	18	淡黄灰色粘質土	調査区外に至る。
S P54	A II-i1	隅丸方形	透台形	22	9	暗茶灰色粘質土	
S P55	A II-j1	隅丸方形	透台形	68	38	暗茶灰色粘質土	底面に木くず。
S P56	A II-j1	—	透台形	56	12	暗灰茶色シルト	
S P57	A II-j1	—	透台形	58	11	暗灰茶色シルト	S D 15底面で横山。
S P58	A II-j1	隅丸方形	透台形	58~76	28	暗褐色シルト	
S P59	A II-j1	隅丸方形	透台形	68~70	18	暗褐色シルト	S D 15・16を切る。
S P60	A II-j1	—	透台形	56	16	暗灰茶色シルト	S D 15に切られる。
S P61	A II-j1	—	透凸形	90	18	暗灰茶色シルト	S D 15に切られる。 柱痕(様23)。
S P62	A II-j1	隅丸方形	透凸形	44~48	17	暗灰茶色シルト	S D 16に切られる。
S P63	A II-j1	—	透台形	40	20	暗灰茶色シルト	S D 15・17に切られる。
S P64	A II-j1	隅丸方形	透凸形	54~56	33	暗灰茶色シルト	S D 16に切られる。
S P65	A II-a1	—	透凸形	60	20	明黄褐色微弱混粘質土	
S P66	A II-a1	—	透凸形	121	35	明黄褐色微弱混粘質土	調査区外に至る。
S P67	A II-a1	円形	透台形	40	14	暗茶灰色シルト	
S P68	A II-a1	—	透凸形	38	24	暗茶灰色シルト	S P69に切られる。
S P69	A II-a1	隅丸方形	透台形	78~88	27	暗茶褐色シルト	S D 16に切られる。
S P70	A II-a1	円形	透凸形	44~46	27	暗茶灰色シルト	
S P71	A II-a1	円形	透台形	26~28	18	暗茶灰色シルト	S D 19に切られる。
S P72	A II-a1	隅丸方形	透台形	20~30	13	暗茶灰色シルト	S D 19に切られる。
S P73	A II-a1	隅丸方形	透台形	22~32	21	暗茶灰色シルト	S D 19に切られる。
S P74	A II-a1	—	透凸形	42	20	暗茶灰色シルト	西部は擾乱している
S P75	A II-a1	—	透凸形	50以上	27	暗茶灰色シルト	北部は擾乱している

* 単位: cm

選択番号	地 区	平 面 形	断面形	種	深さ	堆 棚 士	備 考
S P76	A II - a1	—	逆台形	80	23	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
S P77	B II - b1	円形	逆台形	54	26	暗茶灰色粘質シルト	
S P78	B II - b1	隅丸方形	逆台形	68~76	32	暗茶灰色シルト	
S P79	B II - b1	長方形	逆台形	30~42	24	暗茶灰色シルト	
S P80	B II - b1	—	逆台形	48	30	暗茶灰色シルト	S P81を切り、西部は調査区外に至る。
S P81	B II - b1	—	逆台形	44	15	暗茶褐色細砂混シルト	S P80・83に切られる。
S P82	B II - b1	—	逆台形	32	14	暗茶灰色シルト	S P83・84に切られる。
S P83	B II - b1	—	逆台形	48	29	暗茶褐色細砂混シルト	S P82を切り S P83に切られる。
S P84	B II - b1	—	—	44	15	暗茶褐色細砂混シルト	S P82・83に切られる。
S P85	B II - b1	格円形	逆凸形	43~76	37	暗茶灰色シルト	S K 8を切る。
S P86	B II - b1	隅丸方形	逆方形	46~56	38	暗茶灰色シルト	S P87を切る。
S P87	B II - b1	—	—	38	12	暗茶灰色シルト	S P86に切られ、西部は調査区外に至る。
S P88	B II - b1	長方形	逆台形	38~48	15	暗茶灰色シルト	S K 8を切る。
S P89	B II - b1	—	逆台形	58	10	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
S P90	B II - b1	方形	逆台形	50	24	暗茶灰色シルト	
S P91	B II - b1	不定形	逆台形	54~70	35	暗茶褐色シルト	S K 8を切る。
S P92	B II - b1	—	逆台形	44	33	暗茶褐色シルト	調査区外に至る。
S P93	B II - b1	隅丸方形	逆台形	36~42	9	暗茶褐色シルト	
S P94	B II - b1	隅丸方形	逆台形	60~66	24	暗茶褐色シルト	
S P95	B II - b1	円形	逆台形	24	16	暗茶褐色シルト	S P96を切る。
S P96	B II - b1	格円形	逆凸形	74~88	30	暗茶灰色シルト	S P97を切る。
S P97	B II - b1	—	逆台形	74	14	暗茶褐色シルト	S P96に切られる。
S P98	B II - b1	—	逆台形	70	33	淡灰茶色シルト	調査区外に至る。
S P99	B II - b1	格円形	逆台形	18~20	6	暗茶灰色シルト	S P100を切る。
S P100	B II - b1	格円形	逆台形	22	8	暗茶灰色シルト	S P99に切られる。
S P101	B II - b1	円形	逆台形	28	21	暗茶灰色シルト	
S P102	B II - b1	円形	逆台形	18~20	8	暗茶灰色シルト	
S P103	B II - b1	隅丸方形	逆台形	20~24	9	暗茶褐色シルト	S D21を切る。
S P104	B II - b1	隅丸方形	逆台形	36~52	18	暗茶灰色シルト	S D21を切る。
S P105	B II - b1	隅丸方形	逆台形	26~40	15	暗茶褐色シルト	S D21を切る。
S P106	B II - b1	円形	逆台形	26	32	暗茶褐色シルト	S D21を切る。
S P107	B II - b1	—	逆台形	50	8	暗茶灰色シルト	S D21に切られる。
S P108	B II - c1	円形	逆凸形	20~22	35	暗茶灰色シルト	
S P109	B II - c1	格円形	逆台形	44~46	17	暗茶褐色シルト	
S P110	B II - c1	隅丸方形	逆台形	28~32	10	暗茶褐色シルト	S P111に切られる。

* 単位:cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	幅	深さ	堆 積 士	備 考
S P 111	B II - c 1	楕円形	逆台形	24	20	暗茶褐色シルト	S P 110を切り、S P 112に切られる。
S P 112	B II - c 1	円形	逆台形	20~22	14	暗茶褐色シルト	S P 111に切られる。
S P 113	B II - c 1	円形	逆台形	18~20	34	暗茶褐色シルト	
S P 114	B II - a 1	楕円形	逆台形	32~38	17	暗灰褐色シルト	S D21・24を切る
S P 115	B II - e 1	円形	逆凸形	48~50	35	暗茶褐色シルト	
S P 116	B II - e 1	—	逆台形	42	10	基灰色砂質土	S P 117に切られる。
S P 117	B II - e 1	—	逆台形	54	13	暗茶灰色シルト	S P 116をきり、S P 118に切られる。
S P 118	B II - e 1	円形	逆台形	36	10	暗茶褐色シルト	S P 117を切る。
S P 119	B II - e 1	円形	逆台形	22	10	暗灰褐色シルト	
S P 120	B II - e 1	—	逆台形	62	12	暗灰褐色シルト	S K 5を切る。
S P 121	B II - e 1	—	逆台形	26	10	暗茶灰色微砂粗質土	調査区外に至る。
S P 122	B II - c 1	隅丸方形	逆台形	32~42	13	暗茶褐色シルト	S K 5を切る。
S P 123	B II - e 1	—	逆台形	66	22	暗茶灰色シルト	S K 5を切る。
S P 124	B II - c 1	隅丸方形	逆台形	28~34	21	暗茶灰色シルト	S K 5を切る。
S P 125	B II - e 1	—	逆台形	66	26	暗茶灰色シルト	S K 5を切る。
S P 126	B II - c 1	楕円形	逆凸形	28~36	24	暗茶灰色シルト	S K 6を切る。
S P 127	B II - c 1	円形	逆凸形	24~28	20	暗茶褐色シルト	S K 6を切る。
S P 128	B II - c 1	円形	逆台形	36	14	暗茶褐色シルト	S K 6を切る。
S P 129	B II - e 1	円形	逆台形	32	31	暗灰褐色シルト	S K 6を切る。
S P 130	B II - c 1	—	逆台形	32	25	暗茶灰色シルト	S K 6を切り、S Eに切られる。
S P 131	B II - d 2	隅丸方形	逆凸形	92~94	39	暗茶灰色シルト	S K 6を切る。
S P 132	B II - d 2	楕円形	逆凸形	46~68	31	暗茶灰色粗質土	近代の溝に切られる。

溝 (SD)

SD 4 ~ SD 25

調査区で22条を検出した。方向は東一西方向のもの（11条）、南一北方向のもの（8条）、南東一北西方向のもの（1条）、L字形のもの（1条）がある。規模は検出部で、幅20~190cm、深さ5~34cmを測る。断面は逆台形及び逆凸形を呈し、平安時代末期の整地層から切り込んでいる。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、溝内から古墳時代中期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。これらの溝は住居に関連する排水溝・雨水溝などが考えられる。時期は平安時代末期から鎌倉時代初頭に至るものがある。以下、個々の溝について第3表に記す。

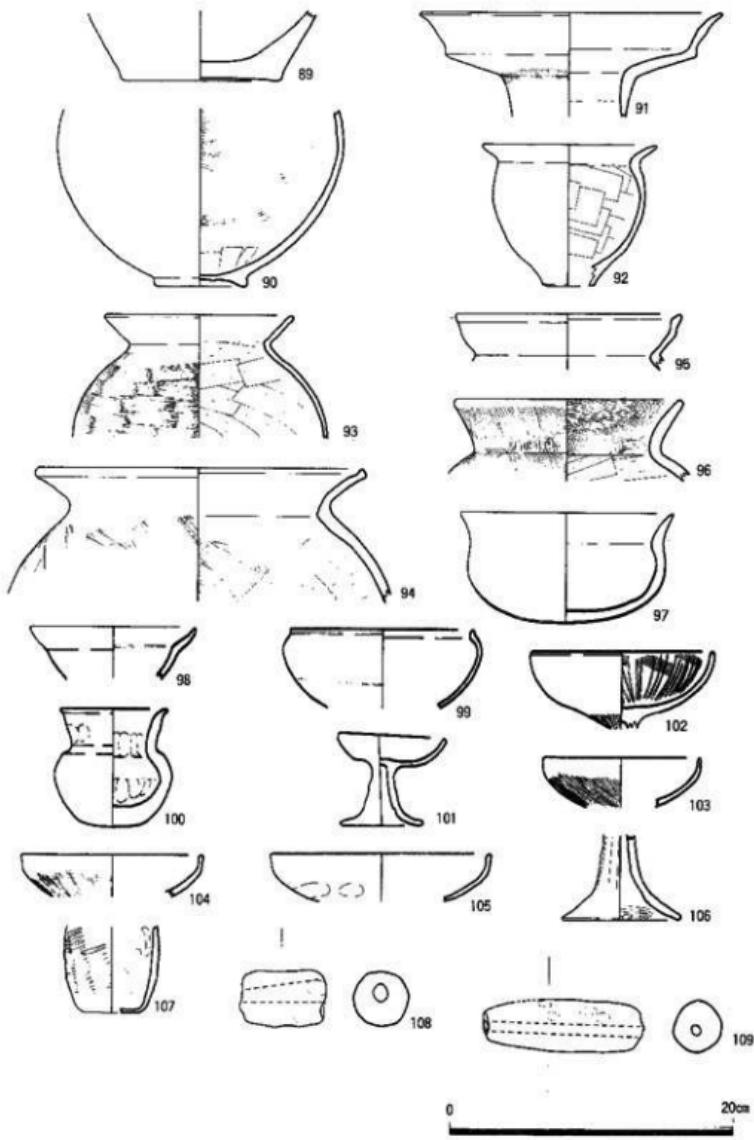
第3表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

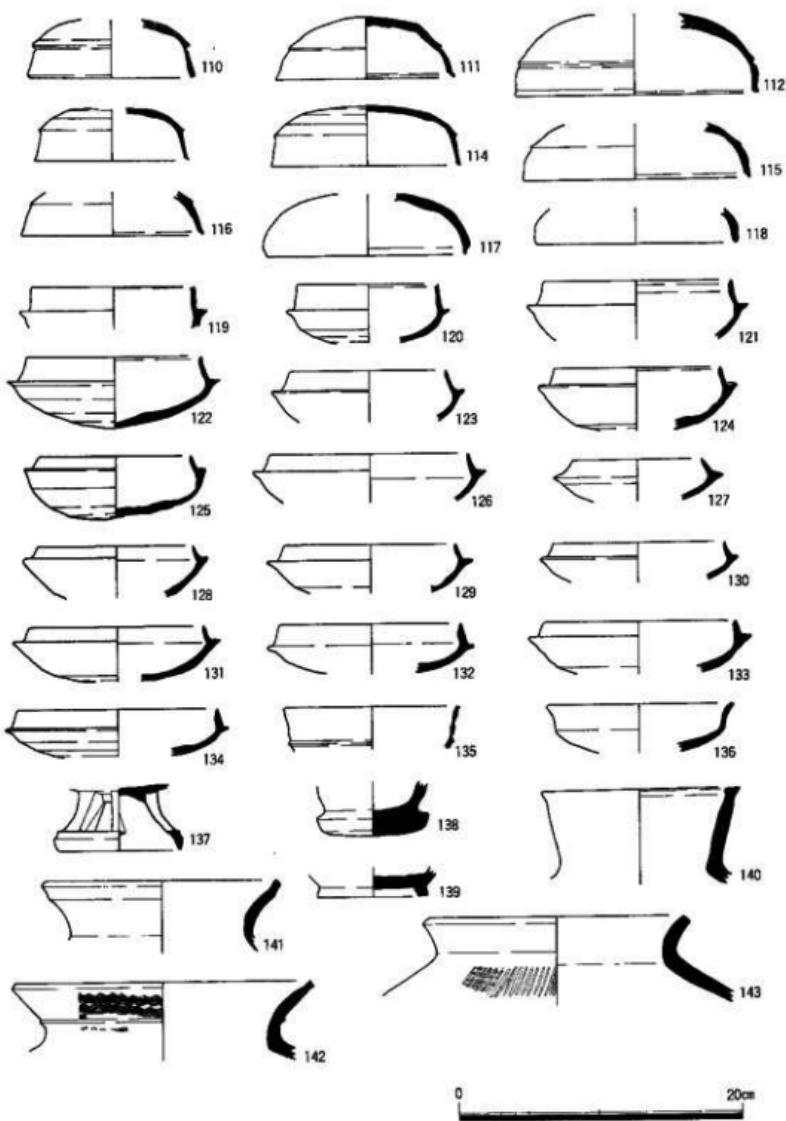
逐番号	地区	平面形	断面形	幅	深さ	堆積土	備考
SD 4	A II-e1	南一北	逆凸形	60~120	30~34	暗灰茶色細砂	S E 1・S P 2を切る。
SD 5	A II-f1	南東一北西	逆台形	52	6~9	暗灰褐色細砂混粘質土	
SD 6	A II-h1	南一北	逆凸形	50~60	8~11	暗灰褐色シルト混粘質土	
SD 7	A II-h1	南一北	逆凸形	46~56	6~12	暗灰褐色シルト混粘質土	
SD 8	A II-i1	東一西	逆台形	84~98	10~16	暗灰褐色シルト混粘質土	S P 48に切られ、S D 14が合流。
SD 9	A II-i1	東一西	逆台形	42~56	6~14	暗黄褐色微砂混粘質土	S P 49に切られ、S D 14が合流。
SD 10	A II-i1	東一西	逆台形	60	6~10	暗黄褐色微砂混粘質土	
SD 11	A II-i1	東一西	逆台形	64	6~9	暗灰褐色微砂混粘質土	
SD 12	A II-i1	東一西	逆台形	150~190	10~12	暗灰褐色微砂混粘質土	
SD 13	A II-i1	東一西	逆台形	30~50	8~10	暗黄褐色微砂混粘質土	S P 52
SD 14	A II-i1	南一北	逆台形	20	8	暗灰褐色微砂混粘質土	S D 8・9に合流
SD 15	A II-j1	南一北	逆台形	48	13	茶灰色砂質土	S D 17と合流、S P 59を切る。
SD 16	A II-j1	南一北	逆台形	106	8~11	茶灰色砂質土	S D 17と合流、S P 62・64を切る。
SD 17	A II-j1	東一西	逆台形	20	9	暗灰茶色粘質土	S D 15・16と合流。
SD 18	A II-a1	東一西	逆台形	32	7~11	暗灰茶色粘質土	S D 19・20に合流。S P 17に切られる。
SD 19	A II-a1	南一北	逆台形	30	6~8	暗灰茶色粘質土	S D 18と合流、S P 71~73に切られる。
SD 20	A II-a1	南一北	逆台形	14~24	5	暗灰茶色粘質土	S D 18と合流。
SD 21	B II-b1	東一西	逆台形	56	23~25	暗オリーブ色シルト	S P 103~106に切られる。
SD 22	B II-c1	東西	逆台形	25~50	8~12	茶灰色砂質土	S D 18と合流。
SD 23	B II-c1	L字形(東西と南北)	逆台形	15~24	7~9	茶灰色砂質土	S D 25に切られる。
SD 24	B II-c1	東一西	逆台形	32~42	6~8	茶灰色砂質土	S P 114に切られ、S D 23と合流。
SD 25	B II-b1 ~c1	南北	逆台形	32~70	7~9	暗オリーブ色シルト	S K 5・6・S P 107・S P 22を切る。S P 103~106・114に切られ、S D 21と合流。

3) 遺構に伴わない出土遺物

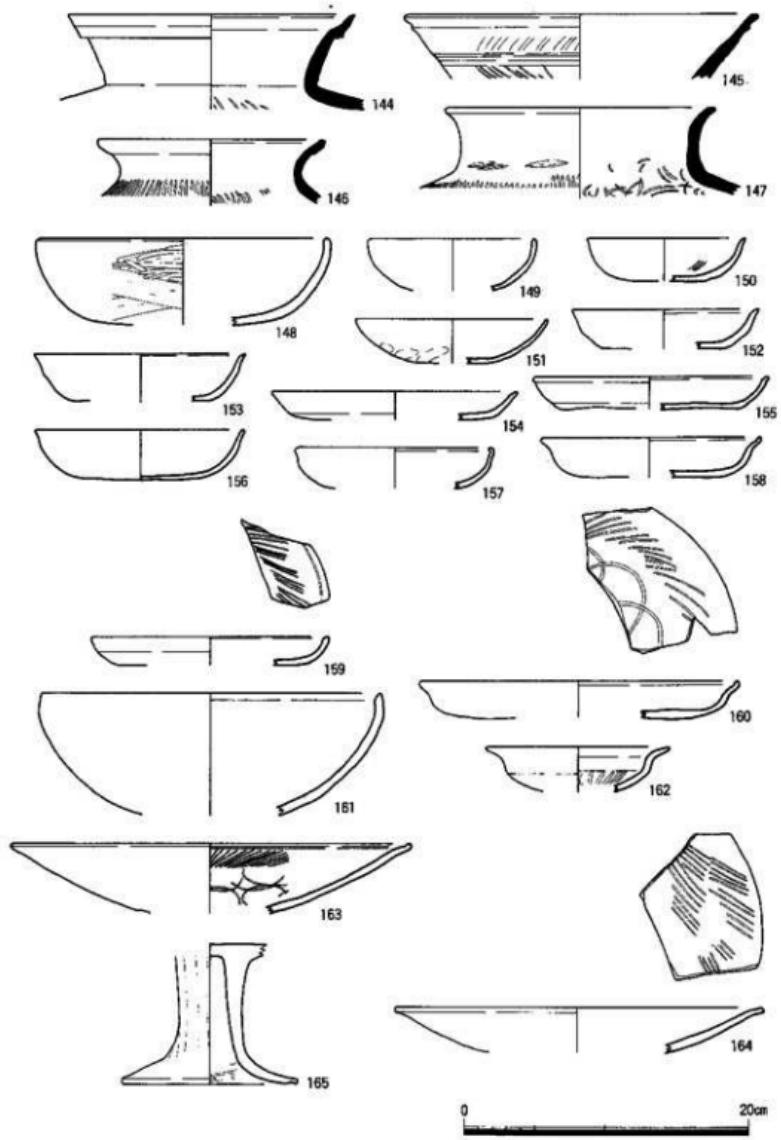
第3・4層内から弥生時代中期～鎌倉時代に至る遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約4箱分で、ほとんどが平安時代末期の整地層（第4層）内から出土した。以下、図示できたものについて記す。弥生時代のものは、畿内第IV様式の壺（89）、畿内第V様式の壺（90）・壺（92）である。古墳時代前期のものは、布留式古相の複合口縁壺（91）・壺（93）・土錐（108・109）である。古墳時代中期のものは、壺（94～96）・鉢（97・98）・杯（99）・ミニチュアの壺（100）と高杯（101）・高杯（102～106）・製塙土器（107）・須恵器（II型式2～4段階）の杯蓋（110～114）・杯身（119～121）・高杯（135～137）・壺（140）である。古墳時代後期のものは、須恵器（II型式1～4段階）の杯蓋（115～118）・杯身（122～134）・壺（141～147）である。奈良時代のものは、土師器の鉢（148～153・161）・皿（154～160）・高杯（162～165）・壺（166～170）・須恵器（IV型式2～4段階）の杯蓋（171・172）・杯身（173）・壺（138・139）である。鎌倉時代のものは、土師器の小皿（174～188）・中皿（189～194）・羽釜（195）・瓦器の椀（196～202）・青磁器の椀（203）である（第34～37図）。



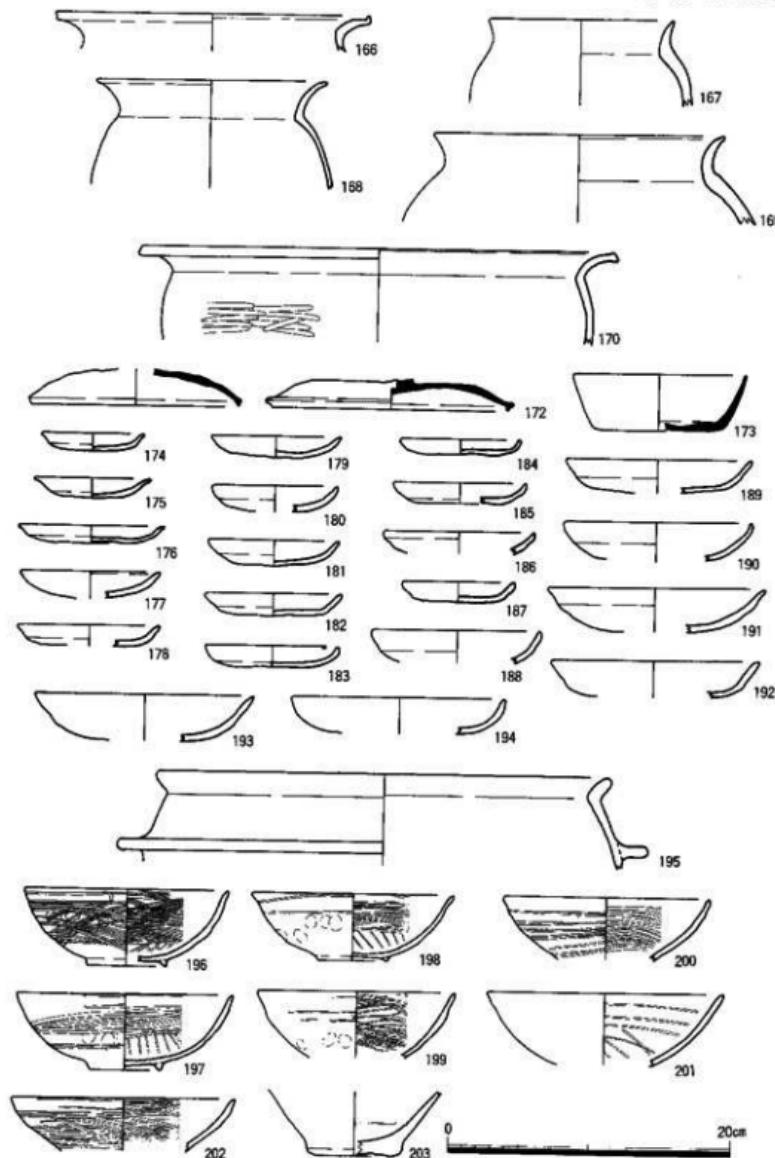
第34図 遺構に伴わない出土遺物実測図1



第35図 遺構に伴わない出土遺物実測図2



第36図 造構に伴わない出土遺物実測図3



第37図 遺構に伴わない出土物実測図4

第3節 第2調査区

第1調査区から東へ50mに設定した調査区で、第4調査区の中央部から南へ約120m伸びた後屈曲し、東へ約40m伸びるL字形の調査区である。調査面積は約320m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表下約1.5mに存在する土層内から普遍的に見られる7層を抽出して基本層序とした（第38図）。現地表高は、標高8.2~8.6mを測る。以下、各層について記す。

第1層 盛土：層厚60cm。南部の東西トレンチの東部のみの堆積である。

第2層 耕土：層厚15~20cm。現在までの耕作土である。

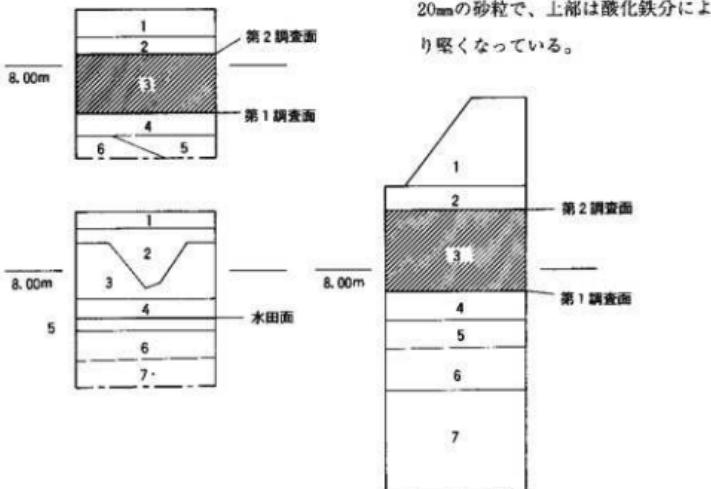
第3層 淡茶灰色~暗茶灰色砂質土：層厚30~40cm。この土層は平安時代末期に整地されたもので、内部から古墳時代から平安時代末期に比定される遺物が含まれている。上面の標高は8.2mを測る。

第4層 淡灰茶色シルト混粘質土：層厚10~20cm。

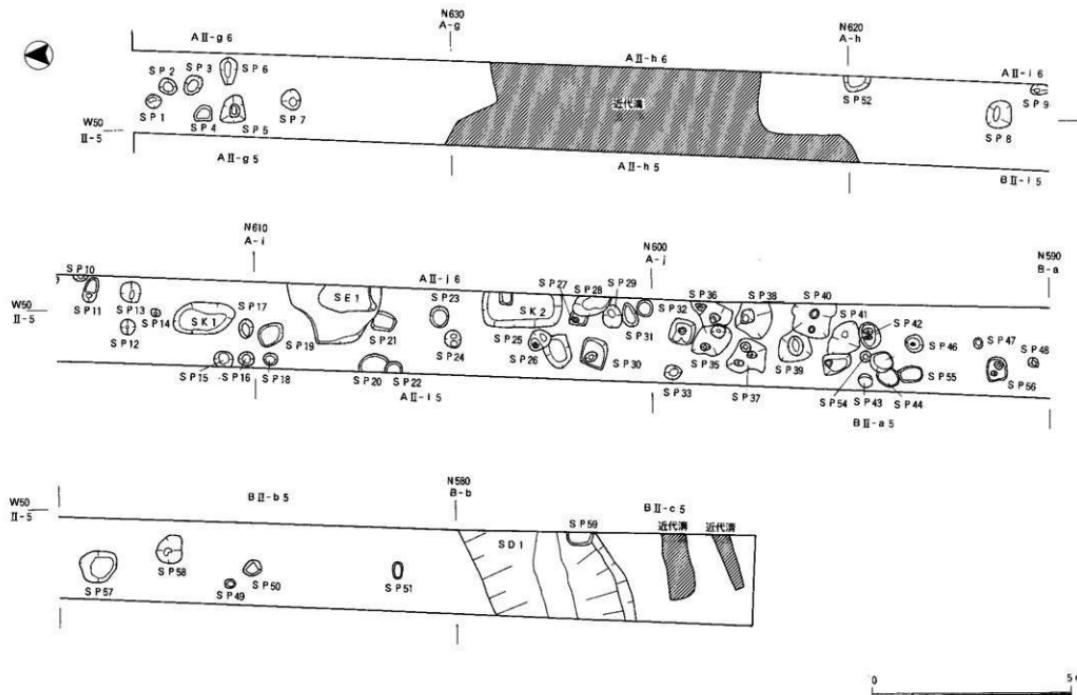
第5層 淡灰色粘質土：層厚10~15cm。

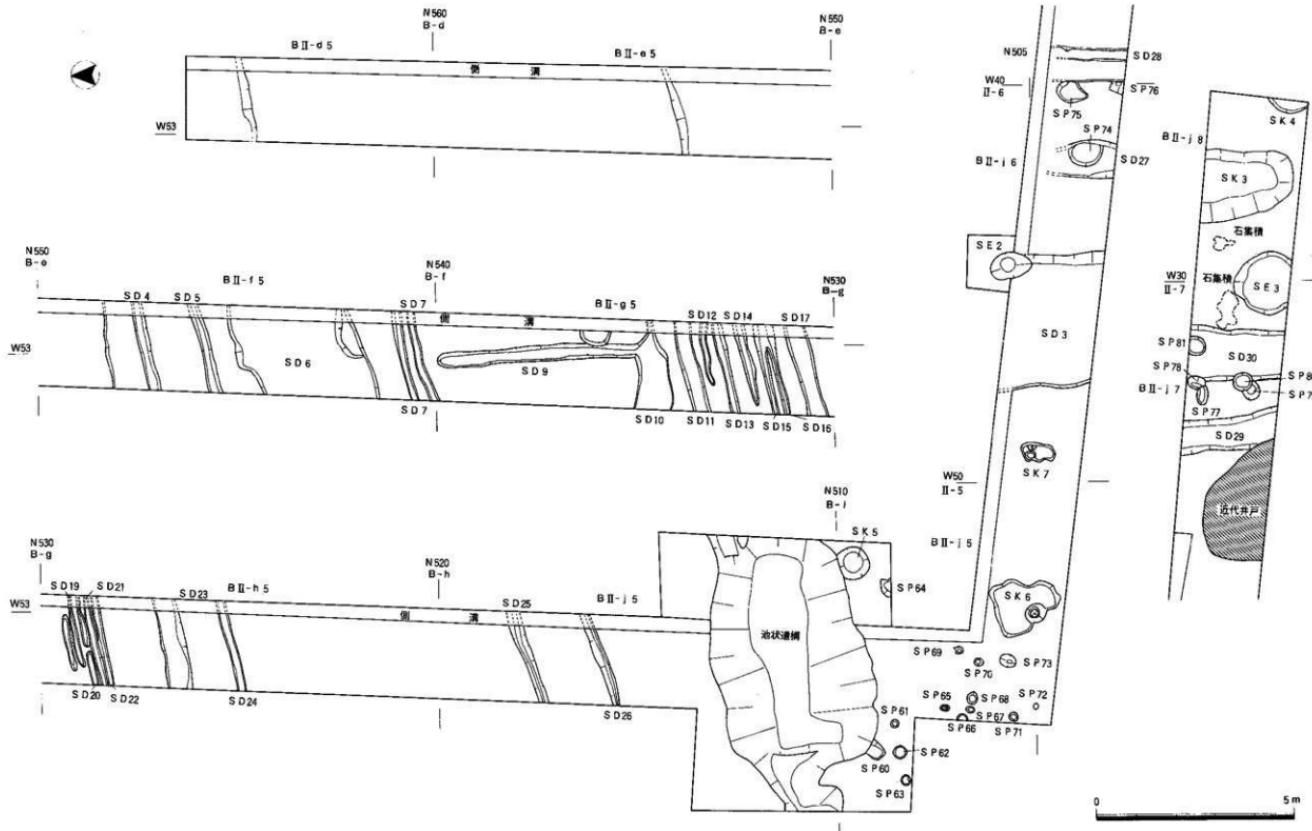
第6層 淡茶灰色微砂粘土：20~30cm。

第7層 淡灰茶色粗砂：20cm以上。径5~20mmの砂粒で、上部は酸化鉄分により堅くなっている。



第38図 基本層序柱状図 (S = 1/40)





II 検出遺物・出土遺物

第3層（第2調査面）・第4層（第1調査面）上面の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、北部の調査区から古墳時代前期に比定される溝1条（SD1）、古墳時代中期に比定される井戸1基（SE1）・土坑2基（SK1・SK2）・小穴51個（SP1～SP51）、南部の調査区から奈良時代に比定される溝1条（SD3）を検出した。第2調査面では、北部・南部の調査区から平安時代末期から鎌倉時代に至る井戸2基（SE2・SE3）・土坑5基（SK3～SK7）・小穴47個（SP52～SP82）・溝26条（SD4～SD30）・池状遺構1基を検出した（第39～40図）。遺構に伴わない出土遺物としては、特に整地層（第3層）内から多量に出土している。出土量は、コンテナ箱にとて約6箱分が出土している。以下、当調査区で検出した各時代の遺構に記す。

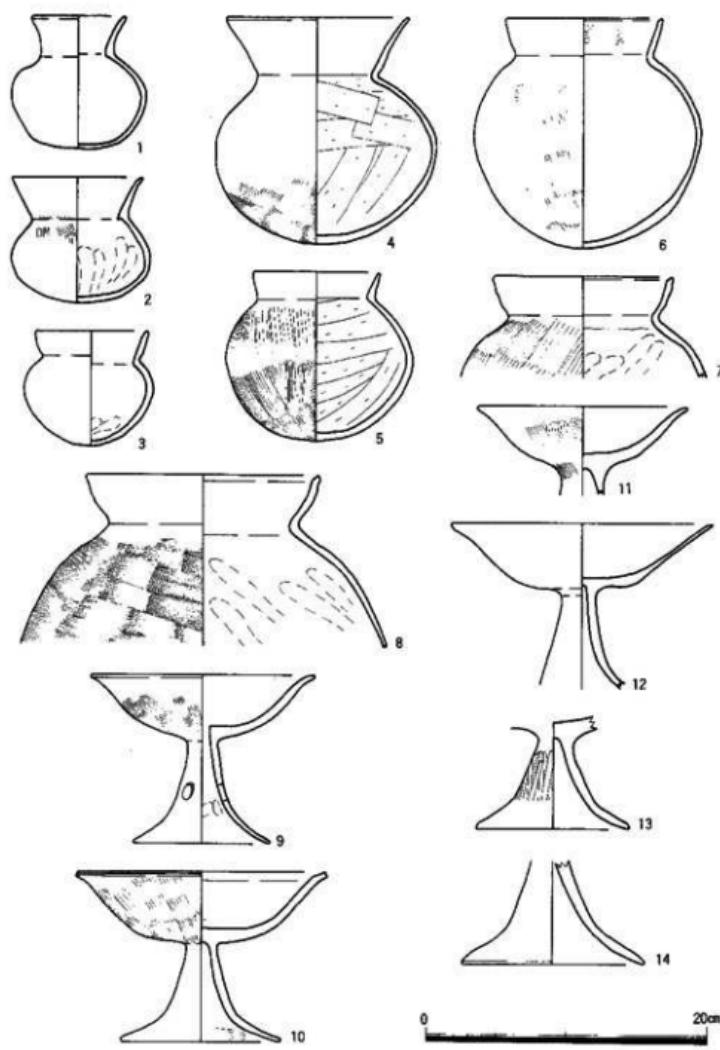
1) 第1調査面（古墳時代前期）

溝（SD）

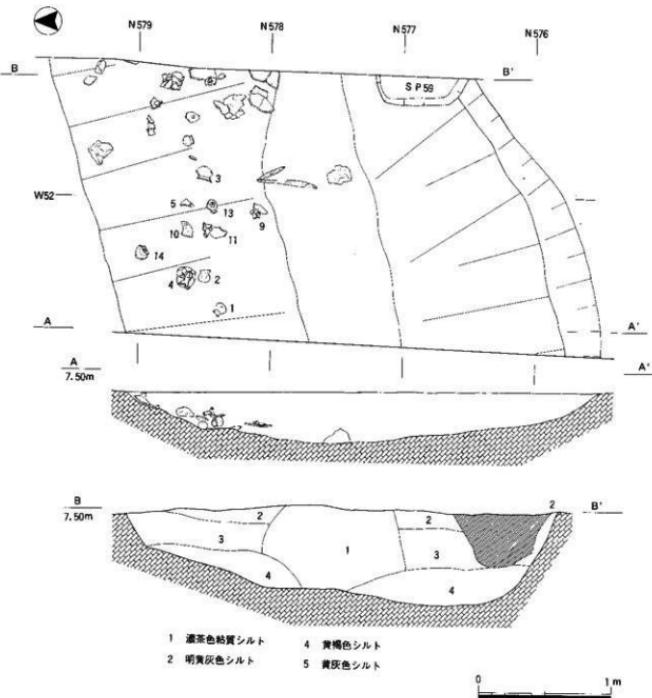
SD1

B II-c 5区で検出した。上部は江戸時代以降の溝状遺構で削平されている。方向はほぼ東西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。東西に隣接する第1・2調査区には、この溝と継続するものが確認できなかった。また、東南の一部では鎌倉時代初頭に比定されるSP59が溝の堆積土を切り込んでいる。規模は検出部で、幅3～3.52m、深さ34cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、北側斜面が南側斜面に比べやや緩やかな傾斜をもっている。堆積土は、上方から第1層：濃茶色粘質上シルト・第2層：明黄灰色シルト・第3層：黄褐色シルト・第4層：黄灰色シルトの4層で構成されている。断面観察からみると第1層は、第2～4層を切っているようであるが酸化鉄分により色調が濃厚になっており、分層が明確にできなかった。堆積土は、上層と下層に時期的な差はない（第42図）。

遺物は、北側から人為的に投げ込まれたようで、北斜面上に集中して出土している。出土している土器には完形又は完形に近いものが含まれており、使用不能になったものを破棄するごみ捨て場とは考え難く、何にかの祭礼的なものが想定される。出土遺物は、コンテナ箱にして約2箱分出土している。そのうち、大半を占めるものが土器である。構成は壺1・小腹丸底壺3・壺4・高杯6の割合であった。しかし、検出した溝が一部だけであり、詳細なことは不明である。図示できたものは、布留式新相に比定される土師器の壺（1～4）・壺（5～8）・鉢・高杯（9～14）である（第41図）。その他の遺物では、木片2片（長さ25cm、径4cm・長さ43cm、径3～8cm）・自然石（径20×17×10cm）が底面付近で検出している。



第41図 SD 1出土遺物実測図



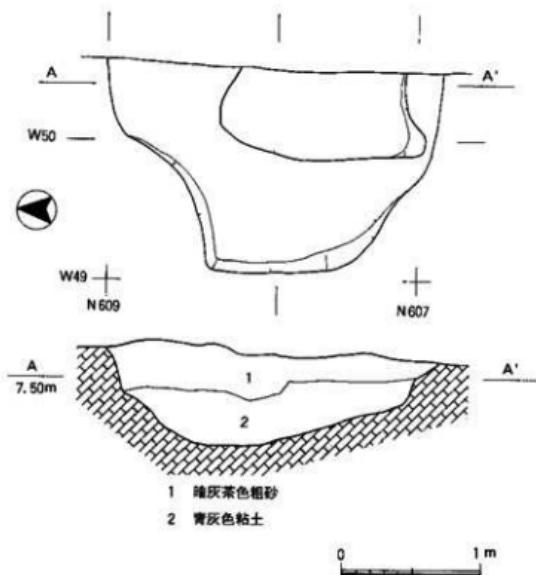
第42図 SD-1 掘出地盤平面図及び断面図

2) 古墳時代中期

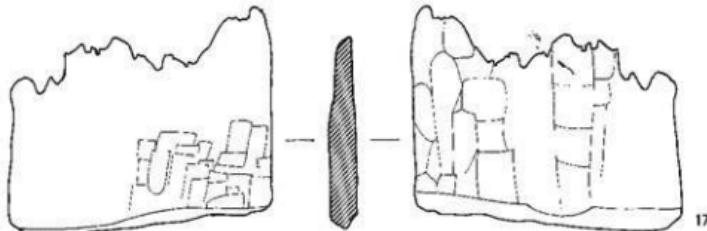
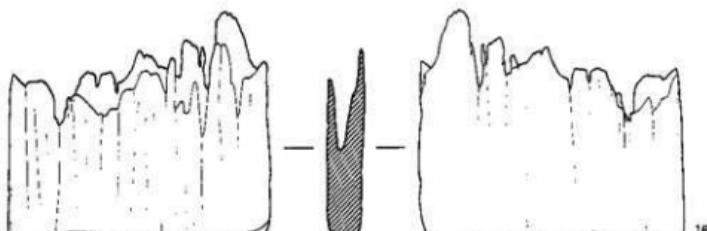
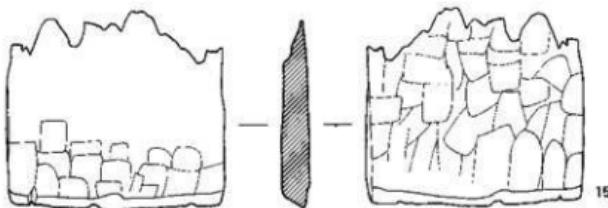
井戸 (S E)

S E 1

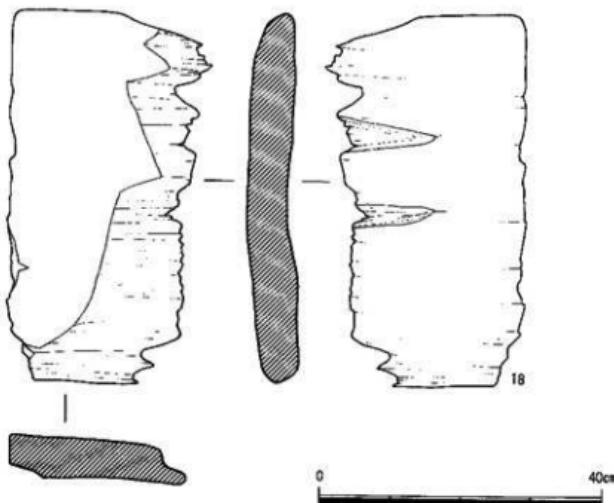
A II - j 6 区で検出した。調査区では西半分の検出であり、東半分を確認するため、拡張を実施した。その結果、井戸側を備えた井戸であることが判明した。この井戸は、上部が平安時代末期の整地層と江戸時代によって削平されており、正確な掘り込み面のレベル高は不明である。掘形の平面は検出部で、ほぼ橢円形を呈する。規模は検出部で、東西 3 m、南北 3.2 m、深さ 70 cm を測る。断面は逆台形を呈する。井戸側は掘形の検出面より 30 cm 下側の中央で、4 枚の板材を平面方形に組み合せており、一辺は約 40 cm を測る。辺側は東西・南北を向き、北 (15) は幅 30 cm、高さ 28 cm、厚み 40 mm、東 (16) は幅 37 cm、高さ 32 cm、厚み 48 mm、南 (17) は



第43図 S E 1 平断面図



第44図 S E 1井戸柱実測図!



第45図 SE 1井戸枠実測図2

幅36cm、高さ30cm、厚み36mm、西(18)は幅53cm、高さ28cm、厚み56mmをそれぞれ測る。堆積土は、掘形内に暗灰褐色粗砂・青灰色粘土の2層で、井戸側内も暗灰茶色粗砂・青灰色粘質土の2層である(第43図)。遺物は、掘形及び井戸側内から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器などの小片が少量出土している(第44・45図)。

土坑(SK)

SK 1

A II-i 5-i 6区で検出した。上部は江戸時代の溝で削平されている。平面の形状は検出部で、南北に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.8m、南北1.56m、深さ21cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の壺、須恵器の杯身などの小片が少量出土している。

SK 2

A II-j 6区で検出した。平面は半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.6m、南北1.6m、深さ20cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

小穴 (S P)

S P 1 ~ S P 51

当調査区の北部で古墳時代中期に比定される小穴51個を検出した。検出面は平安時代末期の整地層（第3層）下部で、平安時代末期の遺構とともに検出した。小穴の平面形状には円形のもの（7個）、橢円形のもの（19個）、隅丸方形のもの（8個）、不定形のもの（6個）、方形のもの（1個）、不明のもの（10個）がある。規模は検出部で、径15~92cm、深さ8~40cmを測る。断面の形状には逆台形のもの（37個）、逆凸形のもの（14個）がある。堆積土は、暗灰褐色粘質シルト及び暗灰褐色粘質土の2つがある。遺物は、ほとんど小穴内部から出土していないが、ごく一部の小穴から出土したものには、古墳時代中期に比定される須恵器（I型式2~4段階）の杯蓋・杯身・高杯などの小片がある。図示できたものは、S P 4 の高杯（19）、S P 6 の杯蓋（20）である（第46図）。以下、各小穴の法量については第4表に記す。

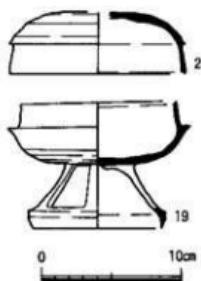
第4表 小穴 (S P) -- 覧表

* 単位: cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 上	備 考
S P 1	A II - g 6	橢円形	逆台形	34~38	22	暗灰褐色粘質シルト	
S P 2	A II - g 6	橢円形	逆台形	38~44	8	暗灰褐色粘質シルト	
S P 3	A II - g 6	橢円形	逆台形	44~48	8	暗灰褐色細砂シルト	
S P 4	A II - g 6	不定形	逆台形	38~46	9	暗茶灰色粘質シルト	
S P 5	A II - g 6	不定形	逆凸形	60~70	20	暗茶灰色粘質シルト	
S P 6	A II - g 6	——	逆台形	42	10	暗茶灰色粘質シルト	
S P 7	A II - g 6	橢円形	逆台形	48~50	10	暗茶灰色粘質シルト	
S P 8	A II - i 6	橢円形	逆台形	62~68	23	暗灰褐色粘質土	
S P 9	A II - i 6	橢円形	逆台形	28~30	16	暗灰褐色粘質シルト	
S P 10	A II - i 6	——	逆台形	38	12	暗灰褐色シルト	
S P 11	A II - i 6	橢円形	逆凸形	34~66	5	暗灰褐色粘質土	
S P 12	A II - i 6	円形	逆台形	38	8	暗灰褐色粘質土	
S P 13	A II - i 6	橢円形	逆台形	50	16	暗灰褐色粘質土	
S P 14	A II - i 5	橢円形	逆台形	20~22	10	暗灰褐色粘質土	
S P 15	A II - i 5	円形	逆台形	48	9	暗灰褐色粘質土	
S P 16	A II - i 5	——	逆台形	36	10	暗灰褐色細砂シルト	
S P 17	A II - j 5	橢円形	逆台形	30~48	12	暗灰褐色細砂シルト	
S P 18	A II - j 5	橢円形	逆台形	30~34	9	暗灰褐色細砂シルト	
S P 19	A II - j 5	方形	逆台形	32~34	28	暗茶灰色シルト混じ上	

* 単位: cm

透構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 上	備 考
S P20	A II-j 5	——	逆台形	80	9	暗灰褐色シルト	
S P21	A II-j 5	——	逆台形	48~60	21	暗灰褐色シルト	S E 1に切られる
S P22	A II-j 5	——	逆台形	42	21	暗茶灰色細砂混シルト	S P20を切る。
S P23	A II-j 5	円形	逆台形	50	21	暗灰褐色シルト	
S P24	A II-j 5	椭円形	逆凸形	42~44	20	暗灰褐色シルト	
S P25	A II-j 5	椭円形	逆台形	48~54	17	暗灰褐色シルト	S P25を切る。
S P26	A II-j 5	——	逆凸形	64~86	14	暗茶灰色シルト	S P25に切られる
S P27	A II-j 6	——	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径15)
S P28	A II-j 6	——	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
S P29	A II-j 5	椭円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
S P30	A II-j 5	隅丸方形	逆凸形	64~74	28	暗茶灰色シルト	柱痕1個(径32)
S P31	A II-j 5	椭円形	逆台形	40~70	14	暗灰褐色シルト	
S P32	A II-j 5	円形	逆台形	44	15	暗灰褐色シルト	
S P33	A II-a 5	椭円形	逆台形	34~42	12	暗灰褐色シルト	
S P34	A II-a 5	隅丸方形	逆凸形	64~66	25	暗灰褐色シルト	
S P35	A II-a 5	隅丸方形	逆凸形	80~12	32	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径15)
S P36	A II-a 5	——	逆凸形	88	29	暗灰褐色シルト	柱痕3個(径18~30)
S P37	A II-a 5	不定形	逆凸形	84~96	27	暗灰褐色シルト	柱痕3個(径10~25)
S P38	A II-a 5	不定形	逆凸形	94	34	暗灰褐色シルト	柱痕3個(径15~30)
S P39	A II-a 5	不定形	逆台形	80~96	34	暗灰褐色シルト	柱痕2個(径15~30)
S P40	A II-a 5	不定形	逆凸形	95	40	暗灰褐色シルト	
S P41	A II-a 5	隅丸方形	逆凸形	84	37	暗灰褐色シルト	柱痕2個(径13~25)
S P42	A II-a 5	椭円形	逆凸形	52~66	36	暗灰褐色シルト	柱痕3個(径15~25)
S P43	A II-a 5	円形	逆台形	34~36	12	暗灰褐色シルト	柱痕2個(径15~25)
S P44	A II-a 5	椭円形	逆台形	47~60	20	暗灰褐色シルト	
S P45	A II-a 5	隅丸方形	逆台形	52~56	15	暗灰褐色シルト	
S P46	A II-a 5	円形	逆凸形	46	20	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径8)
S P47	A II-a 5	円形	逆台形	24~26	8	暗灰褐色シルト	
S P48	A II-a 5	隅丸方形	逆台形	25~30	15	暗灰褐色シルト	
S P49	A II-b 5	椭円形	逆台形	22~26	22	暗灰褐色シルト	
S P50	A II-b 5	隅丸方形	逆台形	40~46	10	暗灰褐色シルト	
S P51	A II-b 5	隅丸方形	逆台形	24~40	8	暗灰褐色シルト	



第46図 SP 4 (19)・SP 6 (20)
出土遺物実測図

3) 第2調査面(古墳時代後期～奈良時代)

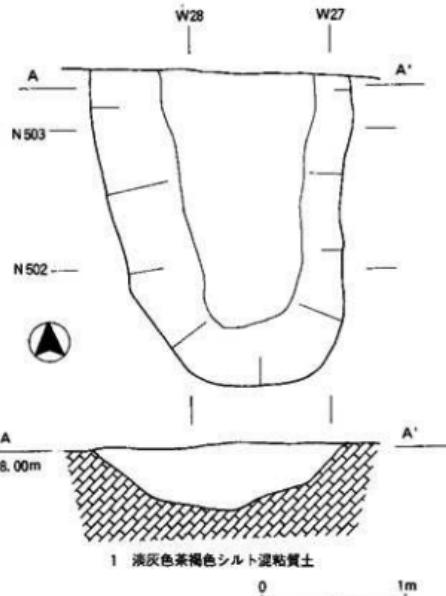
土坑(SK)

SK 3

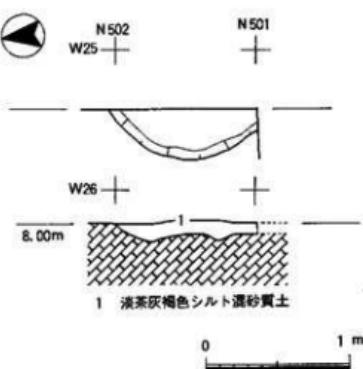
B II-j 8区で検出した。平面は検出部で半円形を呈し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西2.1m、南北2.2m以上、深さ56cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰茶褐色シルト混粘質土の1層である(第47図)。遺物は、内部から古墳時代後期～奈良時代に比定される土師器の杯(21～26)・高杯(27)・甕(28・29)・須恵器の杯蓋(30)・杯身(31～33)などの破片が少量出土している(第49図)。

SK 4

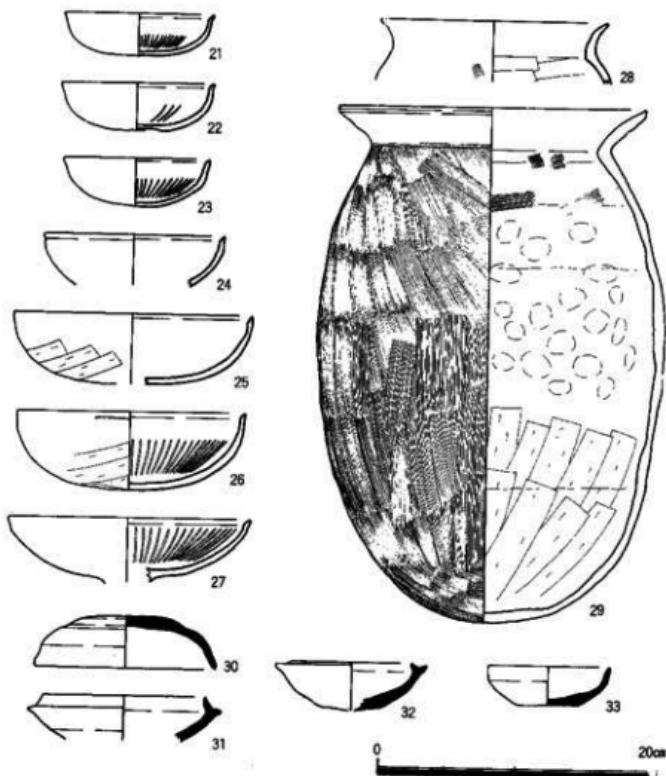
B II-j 8区の南東隅で検出した。東部は調査区外に至り、平面の形状などは不明である。規模は検出部で、東西1.05m、南北0.35m以上、深さ15cmを測る。堆積土は、淡茶灰褐色シルト混砂質土の1層である



第47図 SK 3 平断面図



第48図 SK 4 平断面図



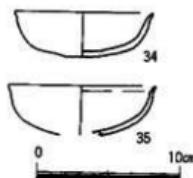
第49図 SK 3出土遺物実測図

(第48図)。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の杯 (34・35)、須恵器 (IV型式 2~4段階) の杯蓋などの小片がごく少量出土している (第50図)。

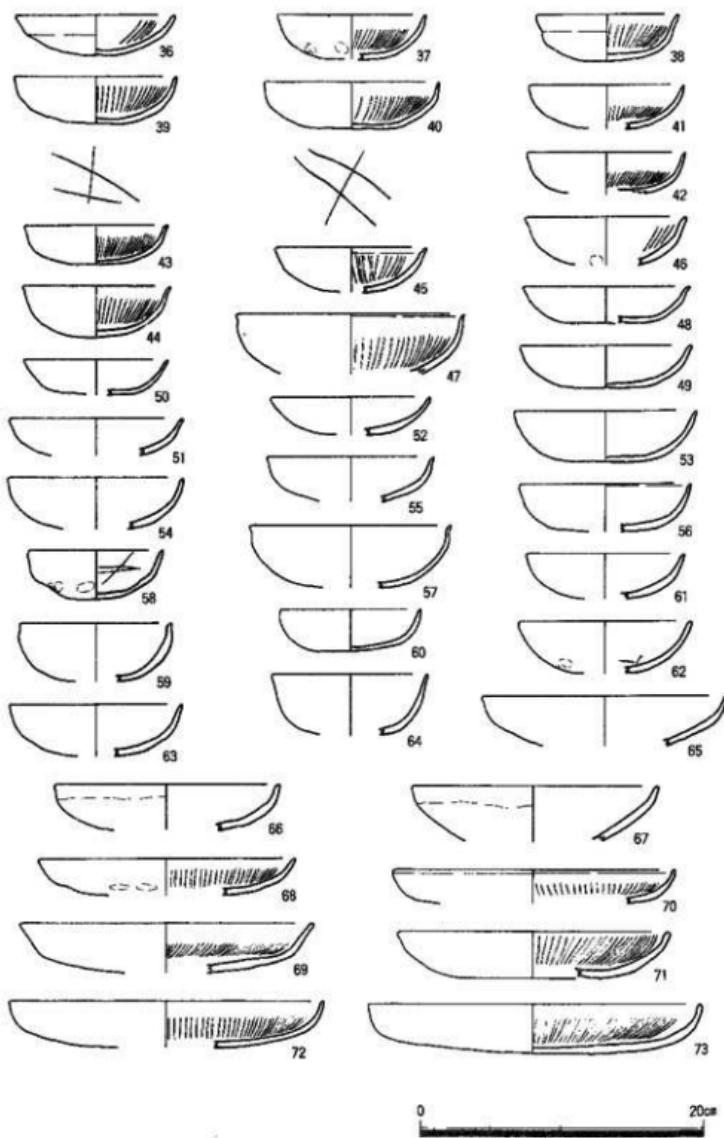
溝 (SD)

SD 3

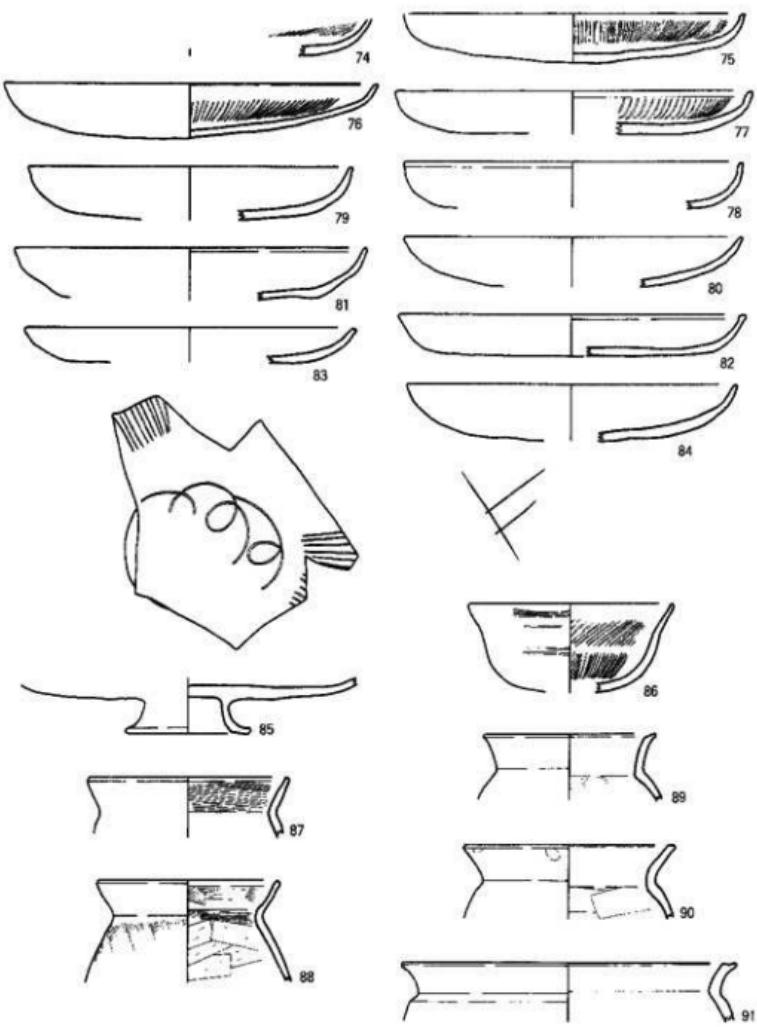
B II - j 6 区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。北東部の一部は S E 2 に切られている。規模は検出部で、幅3.3~3.5m、深さ30cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積上は、暗茶灰色砂質土の1層である (第54図)。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の杯 (36~67)・皿 (68~84)・脚台付皿 (86)・鉢 (85)・壺 (87~91)・高杯 (92~97)・



第50図 SK 4出土遺物実測図

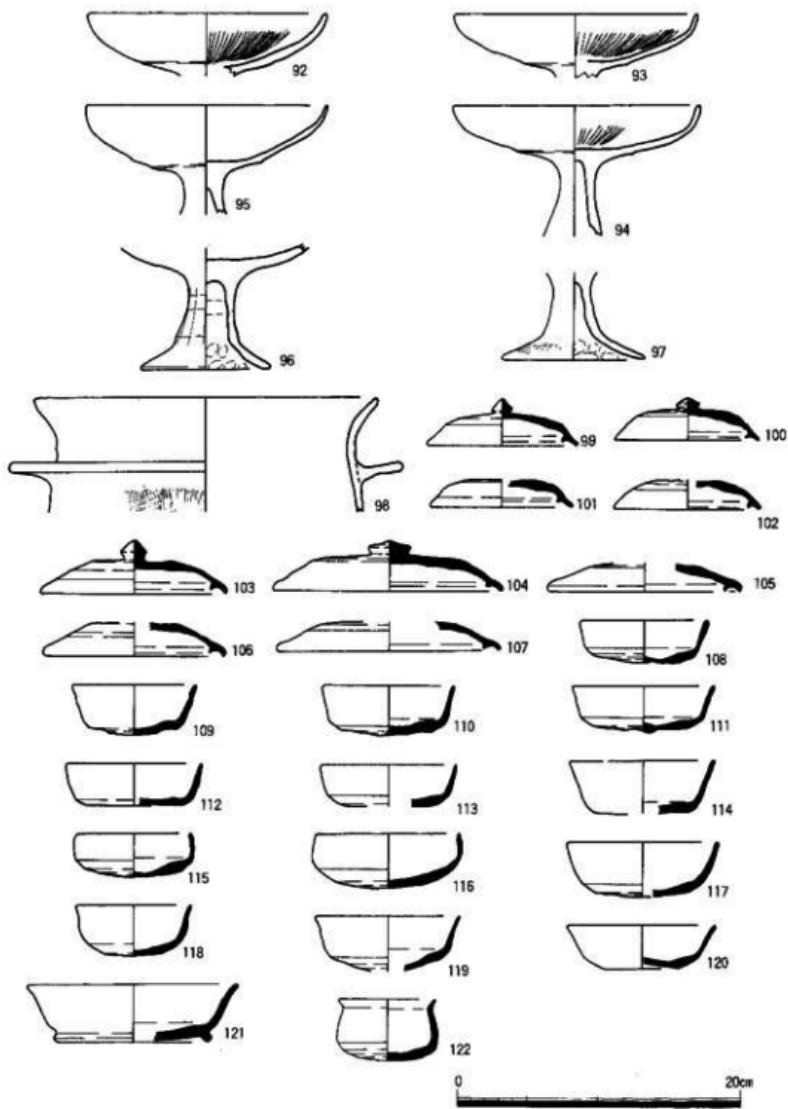


第51圖 SD 3出土遺物測量圖1

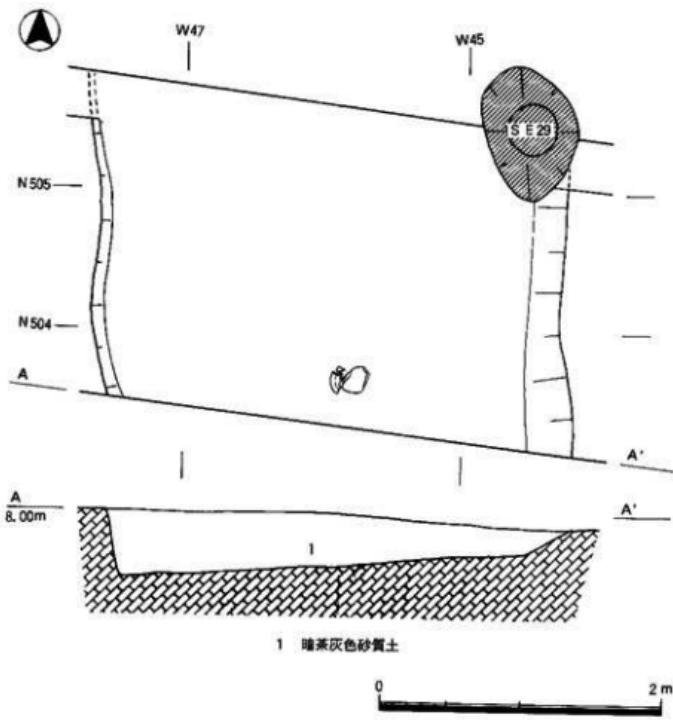


0 20cm

第52圖 SD 3出土遺物測量圖 2



第53圖 SD 3 出土遺物實測圖 3



第54図 SD 3 平断面図

羽釜（98）、須恵器の杯蓋（99～107）・杯身（108～121）・鉢（122）などの破片がコンテナ箱にして2箱分出土している（第51～53図）。

SD 4～SD 28

調査区の南部（B II-f 5～j 7区）で25条を検出した。方向は南北方向を示すSD 9の1条だけで、その他すべて東西方向（24条）を示す。規模は検出部で、幅3mを測る大きいものから、幅10cmを測る小さいものまで見られる。深さは5～15cmで比較的浅いものばかりである。これらの溝は、農耕に関連するもので、鐵溝・畝溝の底の一部が遺存したものであろう。堆積土は、淡灰茶色シルト混粘質土・淡灰色砂質土・淡黄茶色シルト混砂質土の3つの土層がみられ、若干の時期差が考えられる。時期は、奈良～平安時代に比定される。遺物は、溝内から土師器・須恵器の小片をごく少量出土している。以下、各溝の法量などについて第5表に記す。

第5表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 土	備 考
SD 4	B II - f5	東 - 西	逆台形	28	8	淡灰茶色シルト混粘質土	
SD 5	B II - f5	東 - 西	逆台形	24~32	4	淡灰茶色シルト混粘質土	
SD 6	B II - f5	東 - 西	逆台形	290~314	13	淡灰茶色シルト混粘質土	
SD 7	B II - f5	東 - 西	逆台形	16~42	7	淡灰茶色シルト混粘質土	
SD 8	B II - f5	東 - 西	逆台形	16~20	4	淡灰茶色シルト混粘質土	
SD 9	B II - g5	南 - 北	逆台形	32~38	8	淡灰色砂質土	S D 10 と合流。
SD 10	B II - g5	東 - 西	逆台形	78~92	3	淡灰色砂質土	S D 9 と合流。
SD 11	B II - g5	東 - 西	逆台形	40~44	6	淡灰色砂質土	
SD 12	B II - g5	東 - 西	逆台形	10~16	5	淡灰色砂質土	
SD 13	B II - g5	東 - 西	逆台形	16~28	11	淡灰色砂質土	
SD 14	B II - g5	南 - 北	逆台形	16~28	4	淡灰色砂質土	
SD 15	B II - g5	南 - 北	逆台形	14~20	9	淡灰色砂質土	
SD 16	B II - g5	南 - 北	逆台形	12~16	5	淡灰色砂質土	
SD 17	B II - g5	東 - 西	逆台形	40~54	8	淡灰色砂質土	
SD 18	B II - h5	東 - 西	逆台形	14~16	5	淡灰色砂質土	
SD 19	B II - h5	東 - 西	逆台形	10~14	6	淡灰色砂質土	
SD 20	B II - h5	南 - 北	逆台形	10~18	5	淡灰色砂質土	
SD 21	B II - h5	東 - 西	逆台形	16~20	7	淡灰色砂質土	
SD 22	B II - h5	東 - 西	逆台形	16~20	4	淡灰色砂質土	
SD 23	B II - h5	東 - 西	逆台形	58~62	8	淡灰色砂質土	
SD 24	B II - h5	東 - 西	逆台形	22~24	4	淡灰色砂質土	
SD 25	B II - i5	東 - 西	逆台形	24~32	10	淡灰色砂質土	
SD 26	B II - i5	東 - 西	逆台形	24~28	14	淡灰色砂質土	
SD 27	B II - j6	南 - 北	逆台形	84~94	9	淡灰茶色砂質土	S P 74 を切る。
SD 28	B II - j6	南 - 北	逆台形	54	8	淡灰茶色砂質土	S P 74 を切る。
SD 29	B II - j7	南 - 北	逆台形	89~104	18	淡黄茶色混砂質土	
SD 30	B II - j5	南 - 北	逆台形	124~140	14	淡黄茶色混砂質土	

SD 29

B II - j 7 区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。南西の一部は近代の井戸で切られている。規模は検出部で、幅0.86~1.04m、深さ18cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡黄茶色粘質シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代後期~奈良時代に至る土師器・須恵器の小片が少量出土している。

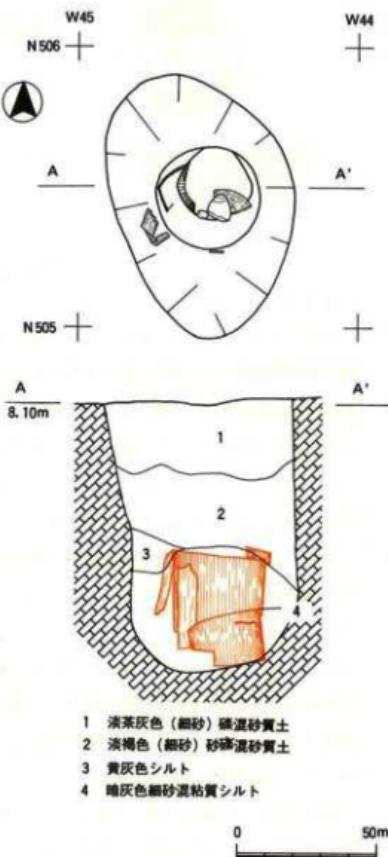
SD 30

B II - j 7 区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。S P 78・S P 79~S P 81に切られる。規模は検出部で、幅1.24~1.4m、深さ14cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰茶色砂質土の1層である。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の皿、須恵器の杯身などの小片が少量出土している。

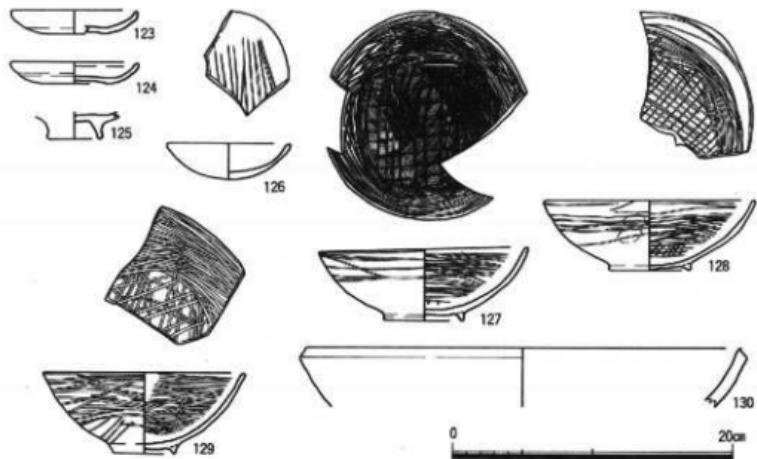
井戸 (S E)

S E 2

B II-j 6区の北壁付近で検出した井戸側を備えた井戸で、北部は拡張を実施して完掘した。井戸は、下層で検出したSD 3の北東部を切っている。掘形の平面形状は、南北にやや長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径0.68m、南北径1.2m、深さ80cmを測る。井戸側は掘形の検出面より約40cm下で、曲物を検出した。曲物は2段で、上段が大きく、下段が小さい怪のものを積み重ねている。上段は径33cm、高さ29cm、厚み6mmを測る。下段は径26cm、高さ17cm、厚み6mmを測る。曲物の外縁には補強したものと考えられる長方形の板材5枚（長さ20~30cm、幅8~12cm、厚み9mm）が立て長にして並べられている。また、内側にも補強したと考えられる長方形の板材（長さ30cm、幅9cm、厚み9mm）1枚が上段と下段の間に差し込まれている。堆積土は、井戸側が暗灰色細砂混粘質土の1層で、掘形が淡茶灰色礫混砂質土・淡褐色砂礫混砂質土・黄灰色シルト・暗灰色細砂混粘質シルトの4層で構成されている（第55図）。遺物は、掘形内から奈良時代・平安時代末期に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量と、井戸側内から平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される土師器の小皿（123・124）・脚台付小皿（125）、瓦器の小皿（126）・椀（127~129）・鉢（130）などの破片が少量出土している（第56図）。井戸の築造は不明であるが、廃絶時期は、井戸側内の出土遺物からみて鎌倉時代初頭であろう。



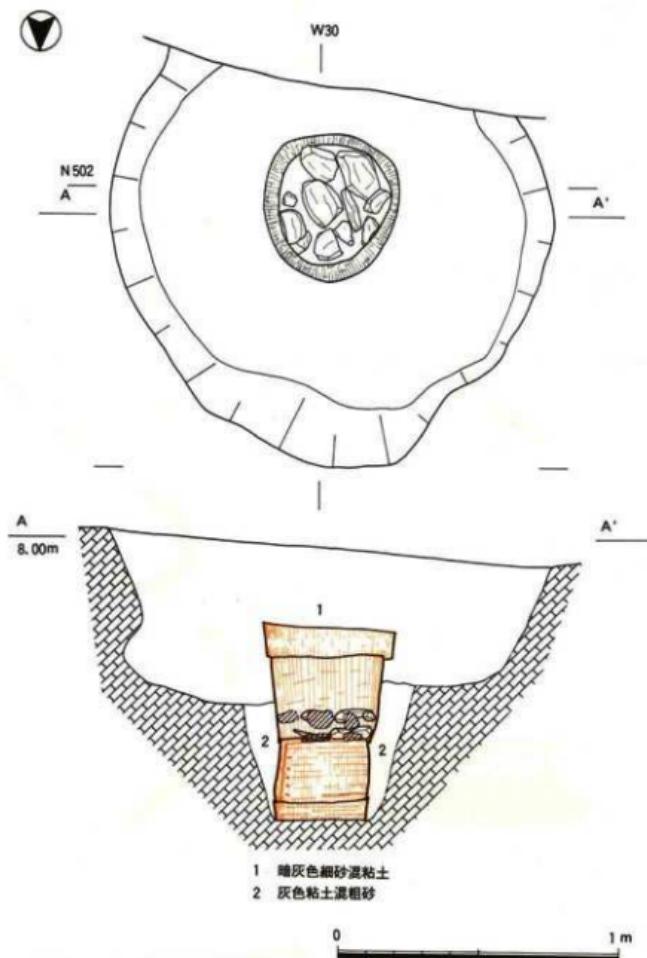
第55図 S E 2 平断面図



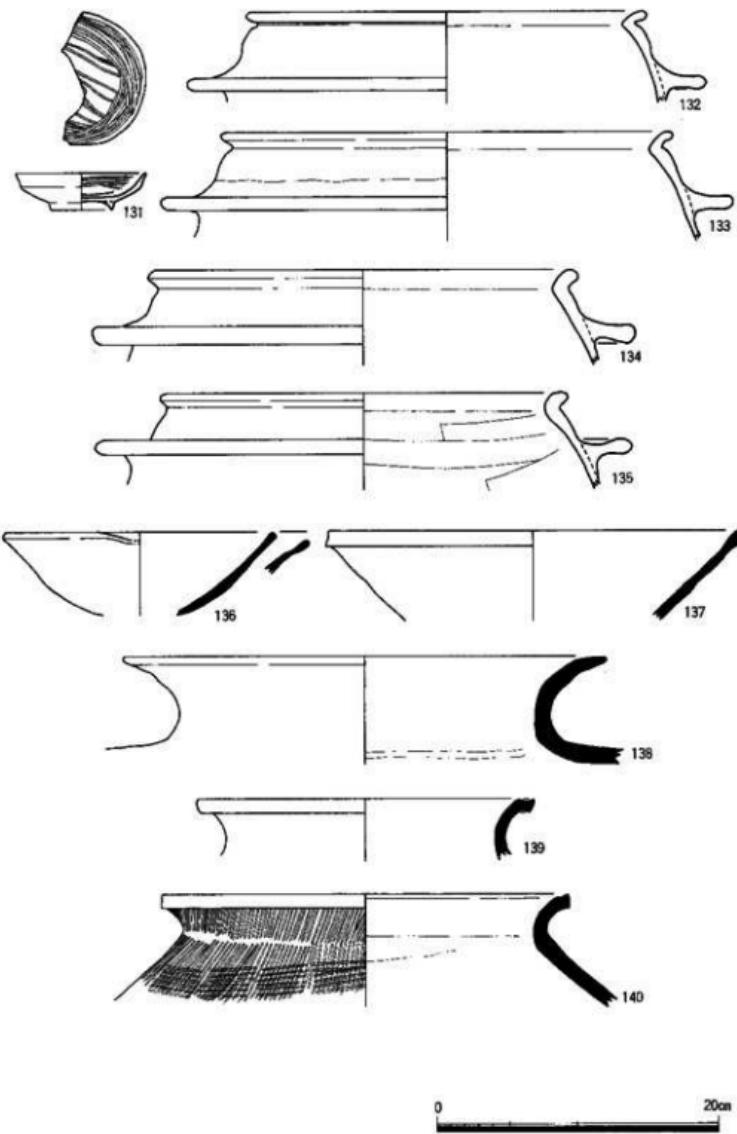
第56図 S E 2 出土遺物実測図

S E 3

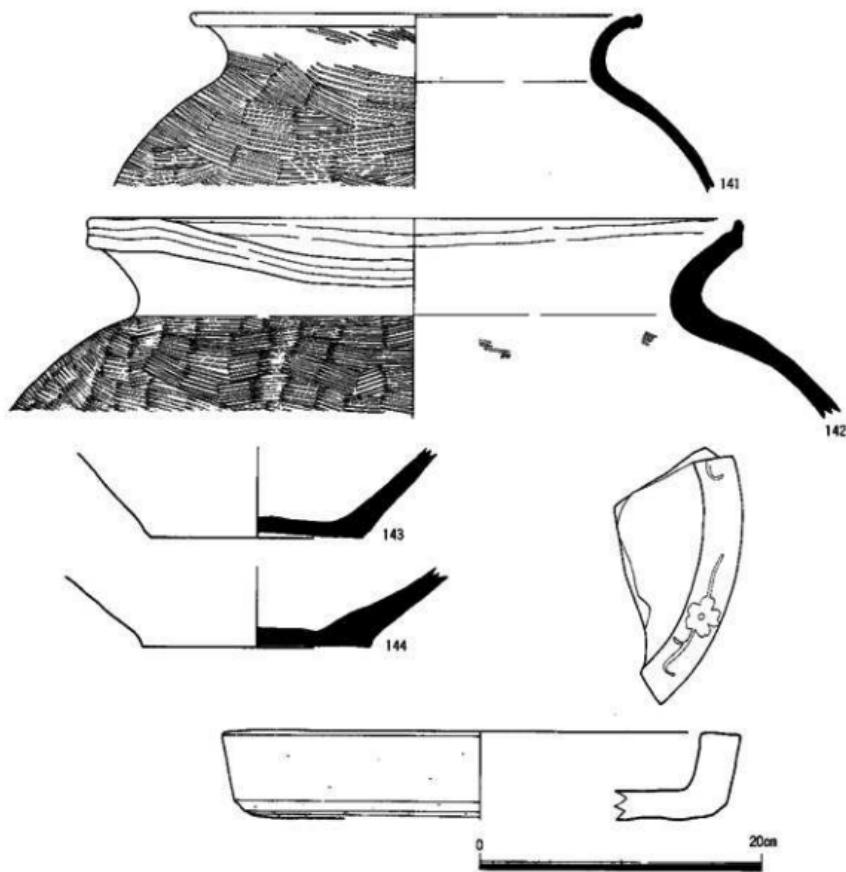
B II - j 7 - j 8 区で検出した井戸側を備えた井戸である。南部の一部は調査区外に至るが、掘形の平面形状はほぼ円形を呈するものと考えられる。規模は検出部で、径1.56m前後を測る。断面は逆台形を呈し、曲物は4段に積み重ねたもので、径の大きいものが上段で、下段に行くに従い小さいものになり、最下段だけは3段よりやや径が大きい。規模は上段から1段目が径45cm、高さ12cm、厚み7mm、2段目が径40cm、高さ30cm、厚み7mm、3段目が径31cm、高さ22cm、厚み7mm、4段目が径34cm、高さ7cm、厚み7mmをそれぞれ測る。堆積土は、掘形内が上方から暗灰色細砂混粘土・灰色粘土混粗砂の2層で構成されている。曲物内には暗灰褐色細砂混粘質土・黒灰褐色粗砂混粘質土の2層が堆積し、この上層の間には拳大の石12個（径6~15cm）が敷き詰めたように検出されたが、これは井戸側の縁に並べられていたものが落ちたものか、井戸の廃絶時に投げ込まれたものであろう。このことから、曲物内の堆積土は、下層が井戸の使用期間内に堆積した土層で、上層が廃絶後に堆積した土層と考えられる（第57図）。遺物は、掘形内から奈良時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器の小片が少量出土している。曲物内からは鎌倉時代後期に比定される瓦器の小皿（131）・椀・鉢等が下層で、土師質の羽釜（132~135）、須恵器の鉢（136~137）・壺（138~144）、瓦質の不明容器（145）の破片が上層から出土している（第58・59図）。この井戸の使用期間を遺物から考察すると鎌倉時代後期に作られ、室町時代中ごろに廃絶したようである。



第57図 S E 3 平断面図



第58图 SE 3出土遗物实测图1



第59図 S E 3 出土遺物実測図 2

土坑（SK）

SK 5

B II - j 5 区で検出した。北部は池状造構で切られている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径79cm、深さ45cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代～平安時代末期に比定される須恵器・瓦器の小片がごく少量出土している。

SK 6

B II - j 5 区で検出した。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.78m、最小幅1.46m、深さ20～30cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。堆積土は、茶灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の楕などの小片がごく少量出土している。

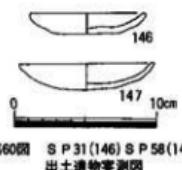
SK 7

B II - j 6 区で検出した。平面は、南北に長い椭円形を呈する。規模は検出部で、東西径44cm、南北径86cm、深さ14cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色砂質土・茶灰色シルト混砂質土の2層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の楕の小片がごく少量出土している。

小穴（SP）

SP 52～SP 81

B II - a 5～b 5 区で8個、B II - j 5～j 7 区で22個を検出した。これらの小穴は前者が平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定されるもの、後者が鎌倉時代後期～室町時代に比定されるものに分かれる。前者の小穴は江戸時代の溝で削平されている。平面の形状は検出部で隅丸方形のもの、椭円形のものに分かれる、断面は、逆台形と逆凸形を呈する。規模は径50～70cm、深さ18～30cmを測る。堆積土は、暗褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器・瓦器の楕などの小片がごく少量出土している。後者の小穴は、平面の形状が円形のもの、椭円形のもの、隅丸方形のもの、不明のものに分かれる。断面は、逆台形を呈する。規模は径16～106cm、深さ10～30cmを測る。堆積土には暗褐色シルトと暗灰褐色粘土質がある。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代後期に至る土師器・須恵器・瓦器の小穴がごく少量出土している。図示できたものは、SP 31内から土師器の小皿（146）、SP 58内から土師器の小皿（147）、SP 59内から土師器の小皿（148～150）・中皿（151）、瓦器の小皿（152）・楕（153）、土師器の羽釜（154）である（第60・



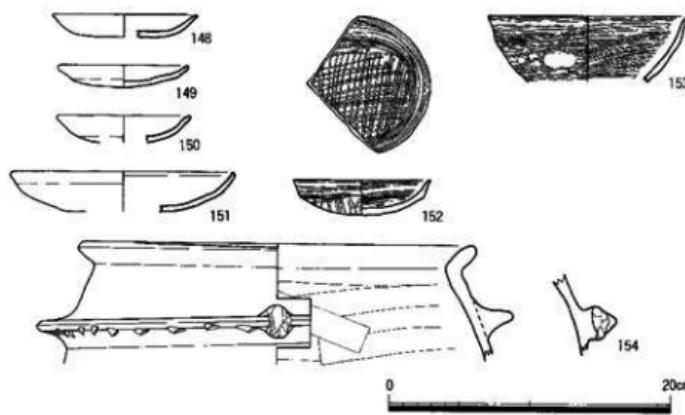
第60図 SP 31(146) SP 58(147)
出土遺物実測図

61図)。以下、各小穴の法量などについて第6表に記す。

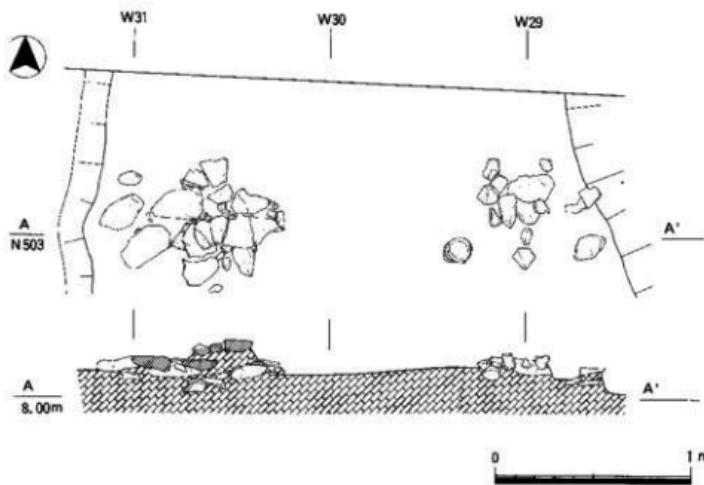
第6表 小穴(SP) 覧表

* 単位: cm

連携番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 き	堆 積 土	備 考
SP52	B II - i 6	楕円形	逆台形	38~41	12	暗灰褐色細砂混シルト	
SP53	B II - a 5	楕円形	逆台形	44~48	8	暗灰褐色細砂混シルト	
SP54	B II - a 5	楕円形	逆凸形	38~46	9	暗灰褐色細砂混シルト	
SP55	B II - a 5	隅丸方形	逆台形	60~70	20	暗灰褐色細砂混シルト	柱痕1個(径25)
SP56	B II - a 5	楕円形	逆台形	42	10	暗灰褐色細砂混シルト	
SP57	B II - b 5	円 形	逆台形	48~50	10	暗灰褐色細砂混シルト	
SP58	B II - b 5	隅丸方形	逆台形	62~68	23	暗灰褐色粘土質	
SP59	B II - c 5	楕円形	逆台形	28~50	16	暗灰褐色粘土質	
SP60	B II - j 5	——	逆台形	38	12	暗灰褐色粘土質	
SP61	B II - j 5	長楕円形	逆凸形	34~66	17	暗灰褐色粘土質	
SP62	B II - j 5	円 形	逆台形	38	11	暗灰褐色粘土質	柱痕1個(径25)
SP63	B II - j 5	円 形	逆台形	50	47	暗灰褐色粘土質	
SP64	B II - j 5	円 形	逆台形	20~22	10	暗灰褐色粘土質	
SP65	B II - j 5	円 形	逆台形	48	11	暗灰褐色粘土質	
SP66	B II - j 5	円 形	逆台形	36	13	暗灰褐色細砂混シルト	
SP67	B II - j 5	楕円形	逆台形	30~48	18	暗灰褐色細砂混シルト	
SP68	B II - j 5	方 形	逆台形	30~34	12	暗灰褐色細砂混シルト	
SP69	B II - j 5	円 形	逆台形	32~34	28	暗茶灰色シルト混粘土	
SP70	B II - j 5	——	逆台形	80	12	暗灰褐色シルト	
SP71	B II - j 5	隅丸方形	逆台形	48~60	24	暗灰褐色シルト	
SP72	B II - j 5	——	逆台形	42	9	暗灰褐色細砂混シルト	
SP73	B II - i 5	円 形	逆台形	50	21	暗灰褐色細砂混シルト	
SP74	B II - i 6	円 形	逆台形	42~44	20	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径24)
SP75	B II - i 6	楕円形	逆台形	48~54	21	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径10)
SP76	B II - i 6	楕円形	逆台形	64~86	26	暗灰褐色シルト	柱痕2個(径20)
SP77	B II - j 7	隅丸方形	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径15)
SP78	B II - j 7	——	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
SP79	B II - j 7	楕円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
SP80	B II - j 7	隅丸方形	逆凸形	64~74	28	暗茶灰色シルト	柱痕1個(径25)
SP81	B II - j 7	楕円形	逆台形	40~70	14	暗灰褐色シルト	



第61圖 SP 59出土遺物實測圖



第62圖 石集積1 平面圖

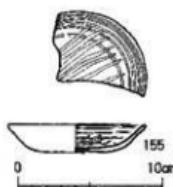
石集積1

B II-j 8区のS E 3の北部で検出した石集積で、2箇所を確認した。石は5~30cmの大きさのもので約13~16個が集積する。間隔は集積した中心から中心まで約1.8mを測る。この遺構は掘形の輪郭・埋土は明確にできず、上層に堆積する鎌倉時代の整地層下で検出した（第62図）。性格として考えられるのは、柱穴の根石で、井戸（S E 3）を覆う建物のものではないかと思われる。遺物は石集積に混入した状態で、鎌倉時代後期の瓦器の小皿（155）・椀の小片が少量含まれていた（第63図）。

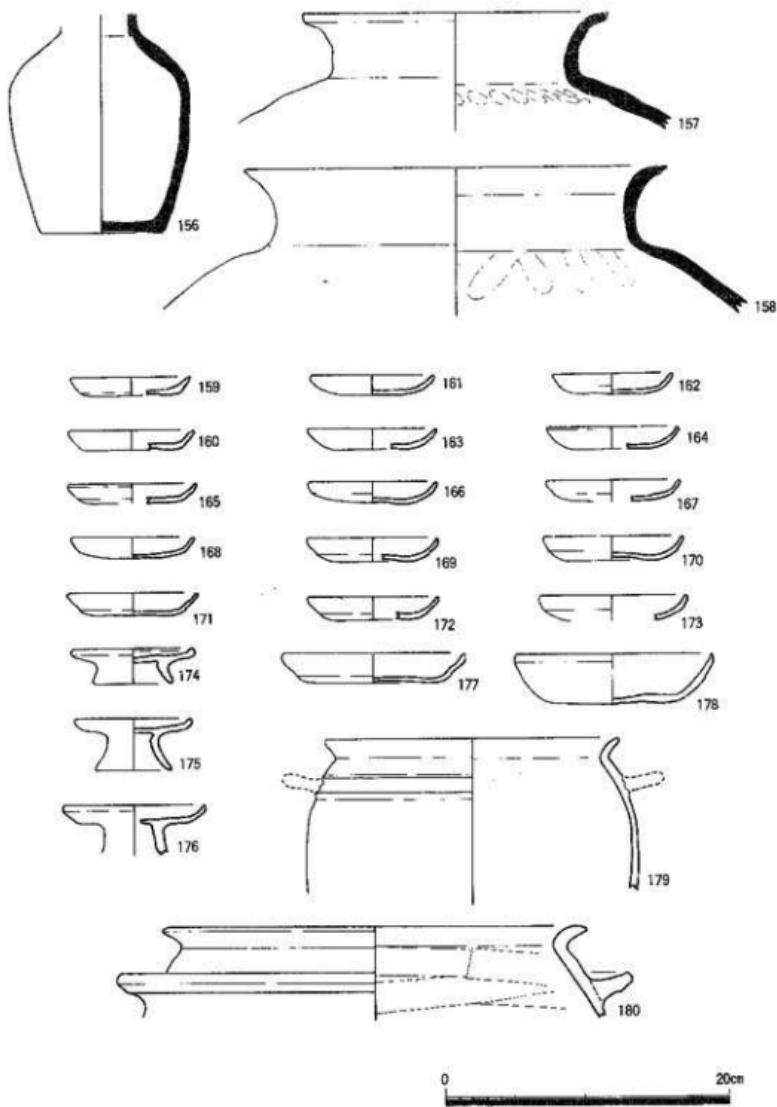
池状遺構

B II-i 5区で検出した池状遺構で、東西部はともに拡張してほぼ遺構の全容を完掘した。SK 5・SP 60を切っている。平面は東西に長い楕円形を呈し、東西部にはともに溝が伸びている。規模は検出部で、東西径6m、南北径4m、深さ60cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、上方から淡灰色砂質土・淡褐色シルト混砂質土・灰褐色微砂混粘質土・灰黑色粘土の4層に分かれる。遺物は、ほとんど中層～上層にかけて出土している。特に北側の斜面とには、土器とともに拳大ほどの大きさの焼けた石（約100個）が投げ捨てられた状態で検出している（第65図）。出土遺物は、須恵器の壺（156）・壺（157・158）、土師器の小皿（159~173）・脚台付小皿（174~176）・中皿（177・178）・羽釜（179・180）、瓦器の小皿（181~190）・椀（191~220）、青磁器の小皿（221）・陶磁器の椀（222~225）、軒丸瓦（226）などの破片がコンテナ箱にして約3箱分出土している（第64・66~68図）。その他には木製の板1点が出土している。大きさは、長さ45cm、幅10cm、厚み1cmを測る。

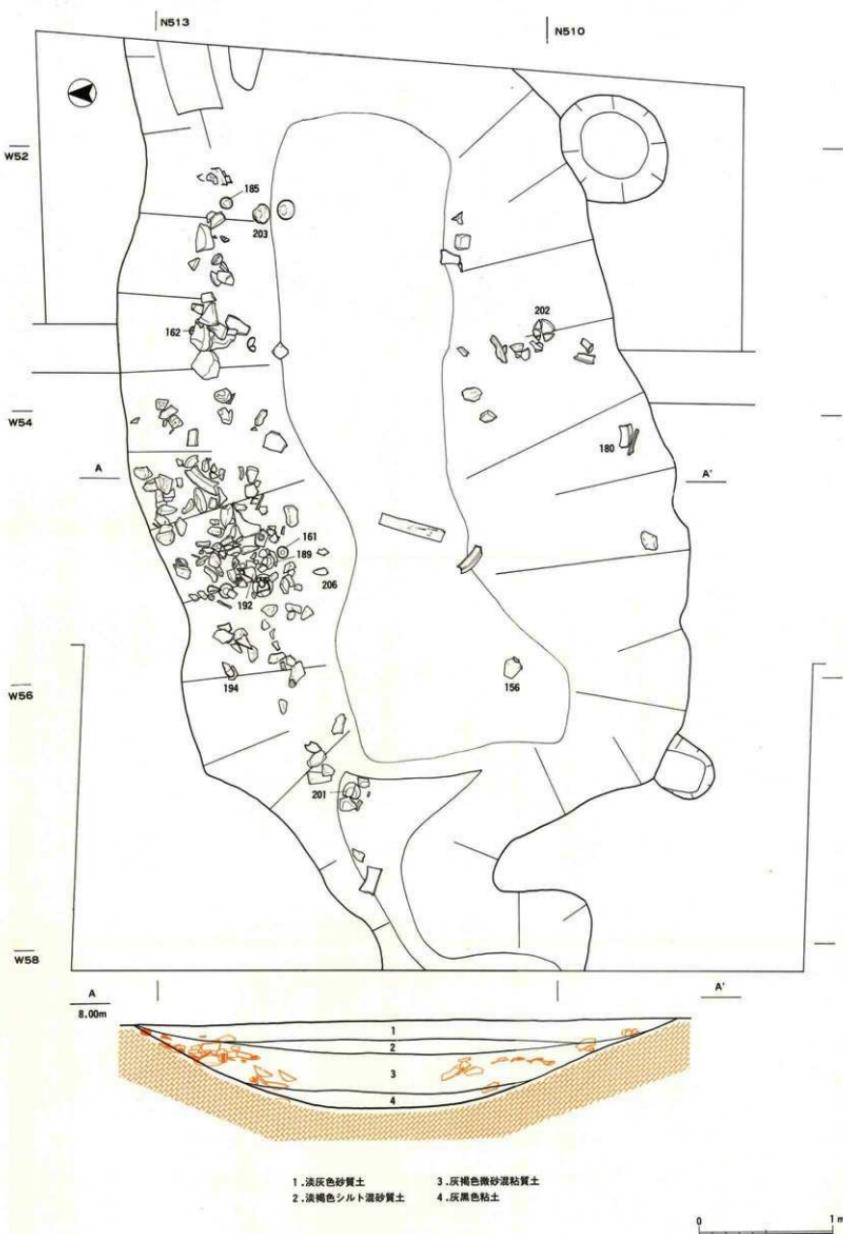
当初、この調査区の付近が屋敷跡の小字名が残っており、この遺構が住居区域と水田区域の境で、屋敷を巡る堀ではないかと考えられた。そこで、東西に拡張を実施し、遺構の性格を確認した。その結果、東西拡張部には堀状に巡る遺構ではなく、途切れしており、池状遺構として捉えた。



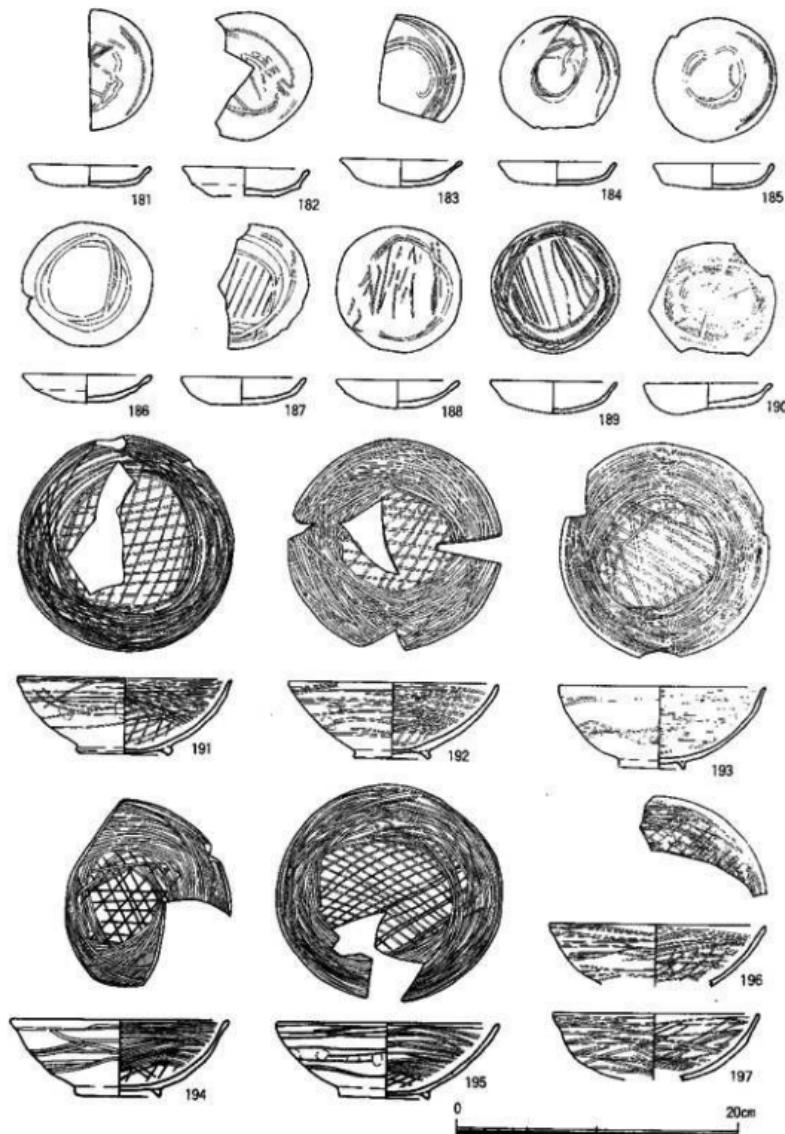
第63図 石集積1出土遺物実測図



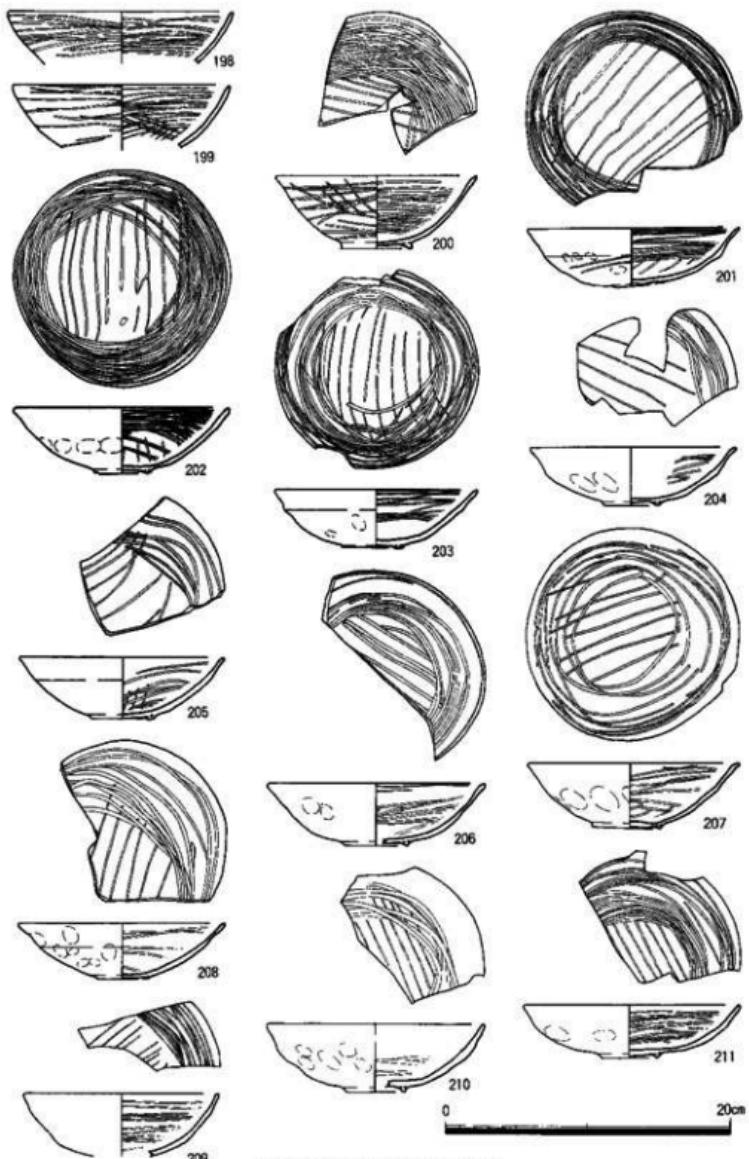
第64図 池状焼構1出土遺物実測図



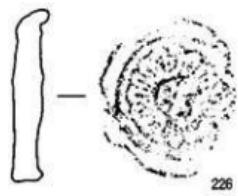
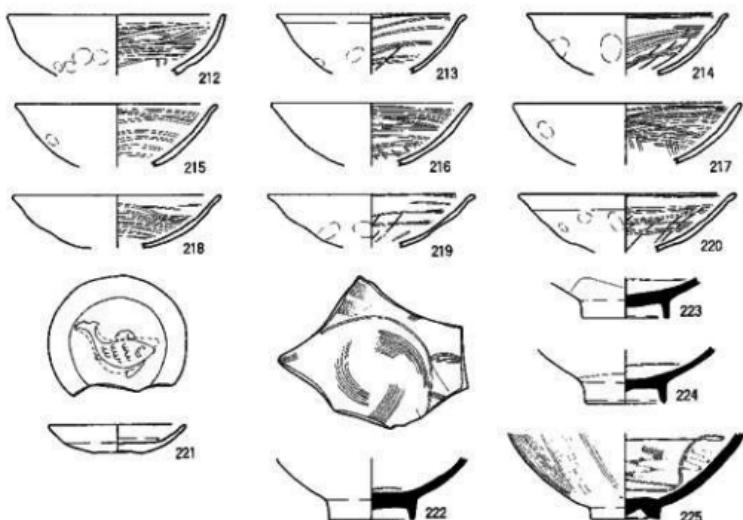
第65図 池状遺構1検出遺物断面図



第66図 池状遺構1出土遺物実測図2



第67圖 池狀盞構 1 出土遺物實測圖 3



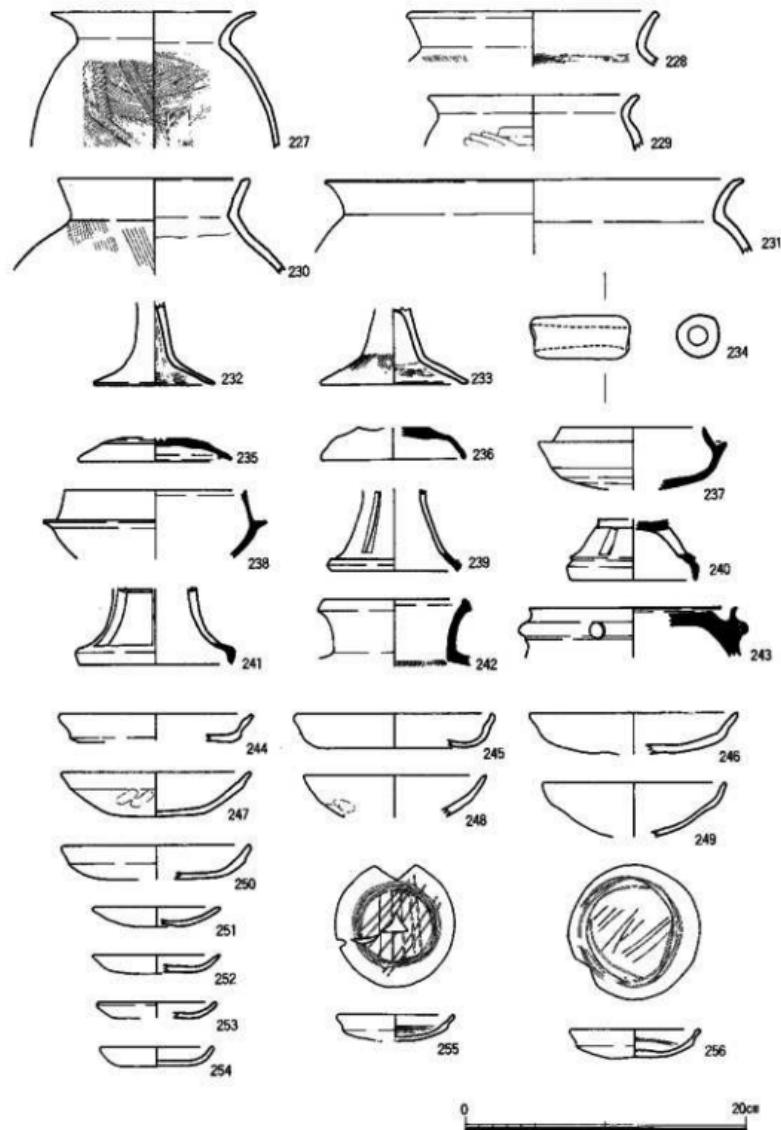
第68図 池状遺構1出土遺物実測図4

3) 造構に伴わない出土遺物

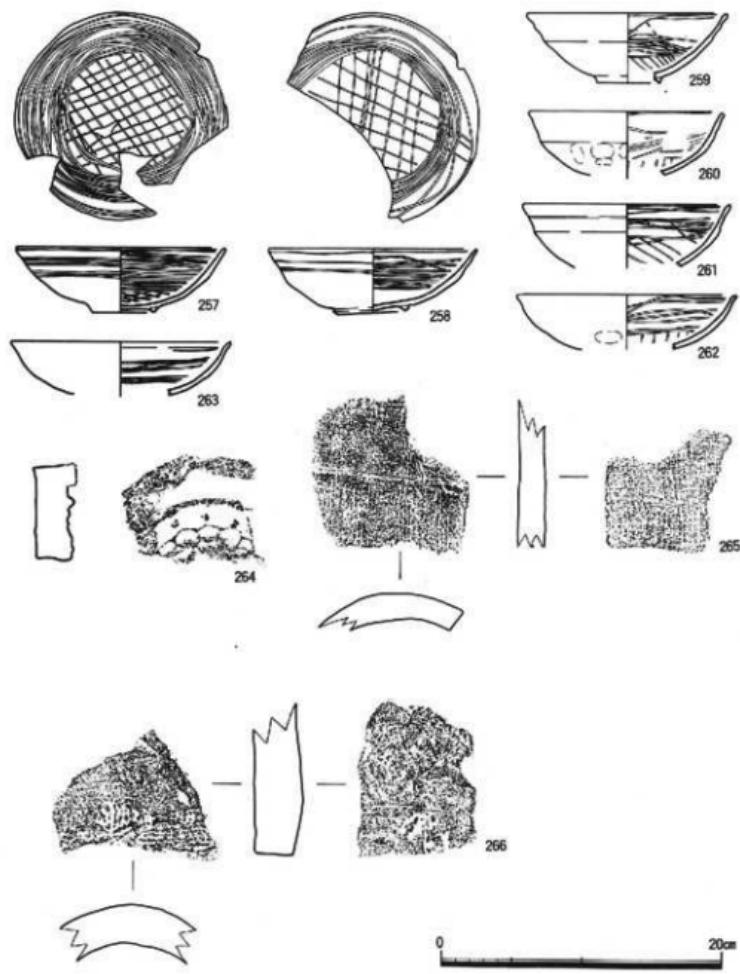
第3・4層内から古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺物を出土した。出土量はコンテナ箱にして約6箱分で、北部調査区が2箱、南部調査区が4箱である。これらの遺物はほとんどのものが平安時代末期の整地層（第4層）内からの出土である。以下、図示できた（すべて第4層内出土）ものについて記す。

北部の調査区では、古墳時代前期に比定される土鍤（234）、古墳時代中期に比定される土師器の甕（227～231）・高杯（232・233）、須恵器（I型式4～5段階）の杯蓋（235・236）・高杯（239～241）、古墳時代後期に比定される須恵器（II型式2～6段階）の杯身（237・238）・甕（242）・碗（243）、奈良時代に比定される土師器の皿（244・245）、平安時代中期の杯（247～250）、鎌倉時代に比定される土師器の小皿（251～254）・中皿（246）・瓦器の小皿（255・256）・椀（257～262）、軒丸瓦（264・266）である。

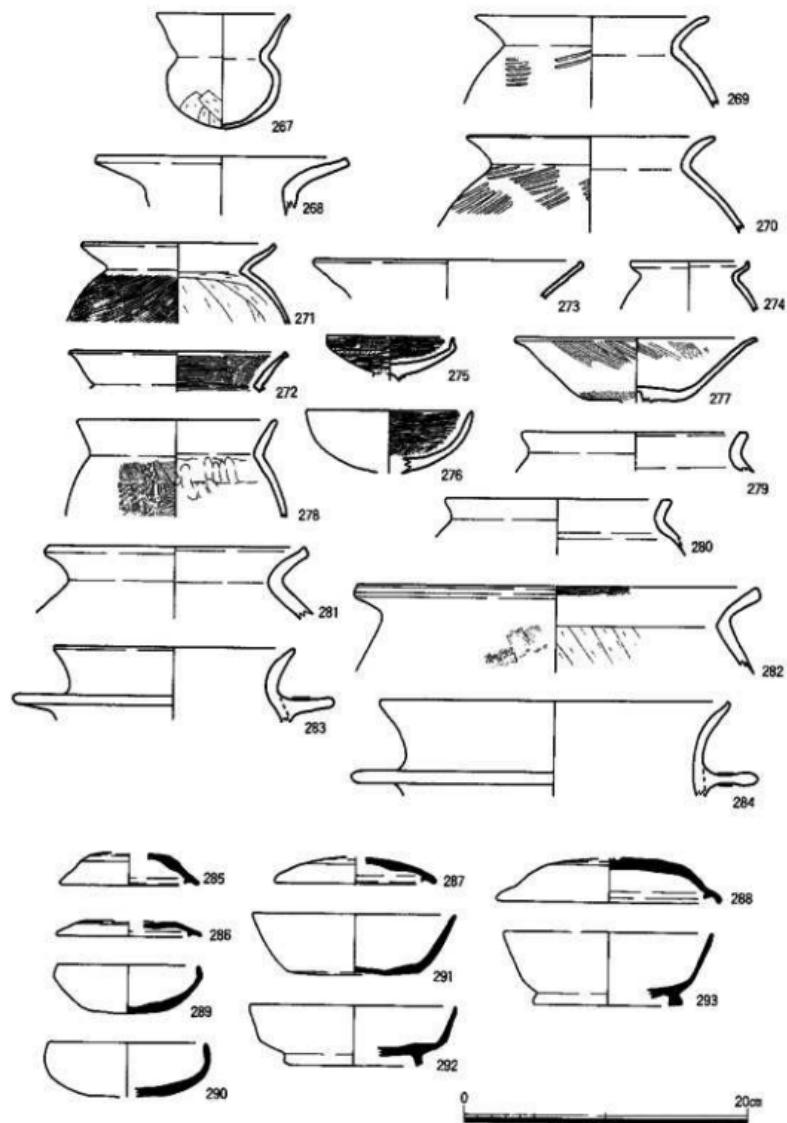
南部の調査区では、古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される小腹丸底甕（267）・瀬戸内系の甕（268）・V様式系甕（269・270）・庄内式甕（271～273）・器台（274）・高杯（276）、布留式新相に比定される高杯（277）、古墳時代中期に比定される土師器の甕（278～282）、古墳時代後期～奈良時代前期に比定される土師器の羽釜（283・284）、須恵器（III型式1段階～IV型式4段階）の杯蓋（285～290）・杯身（291～299）・鉢（300～304）・甕（305～309）、上師器（藤原京I～III・平城京I～III）の鉢（310～330）・皿（331～333）・台付皿（334）、平安時代中期の鉢（335）、平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される土師器の小皿（336～346）・中皿（347～349）・甕（350）・羽釜（351）、瓦器の小皿（352～361）・椀（364～368）・磁器の小皿（369）・碗（370）、軒平瓦（371）である（第69～74図）。



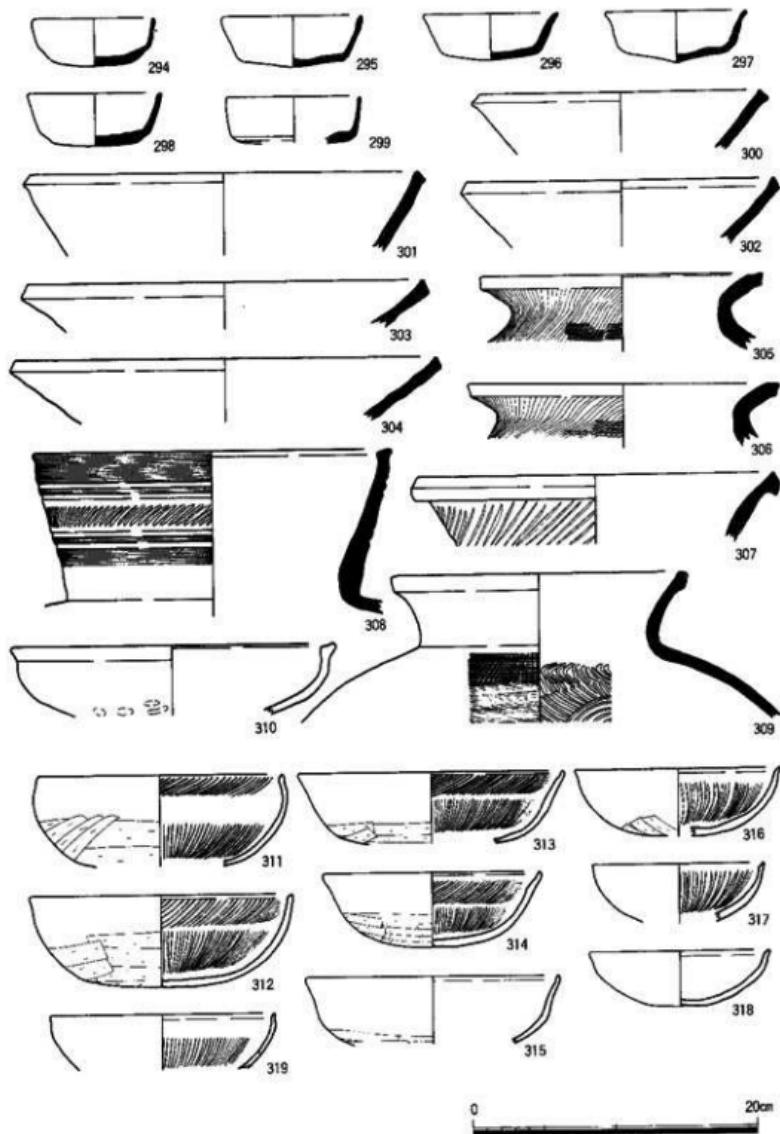
第69図 遺構に伴わない出土遺物実測図1



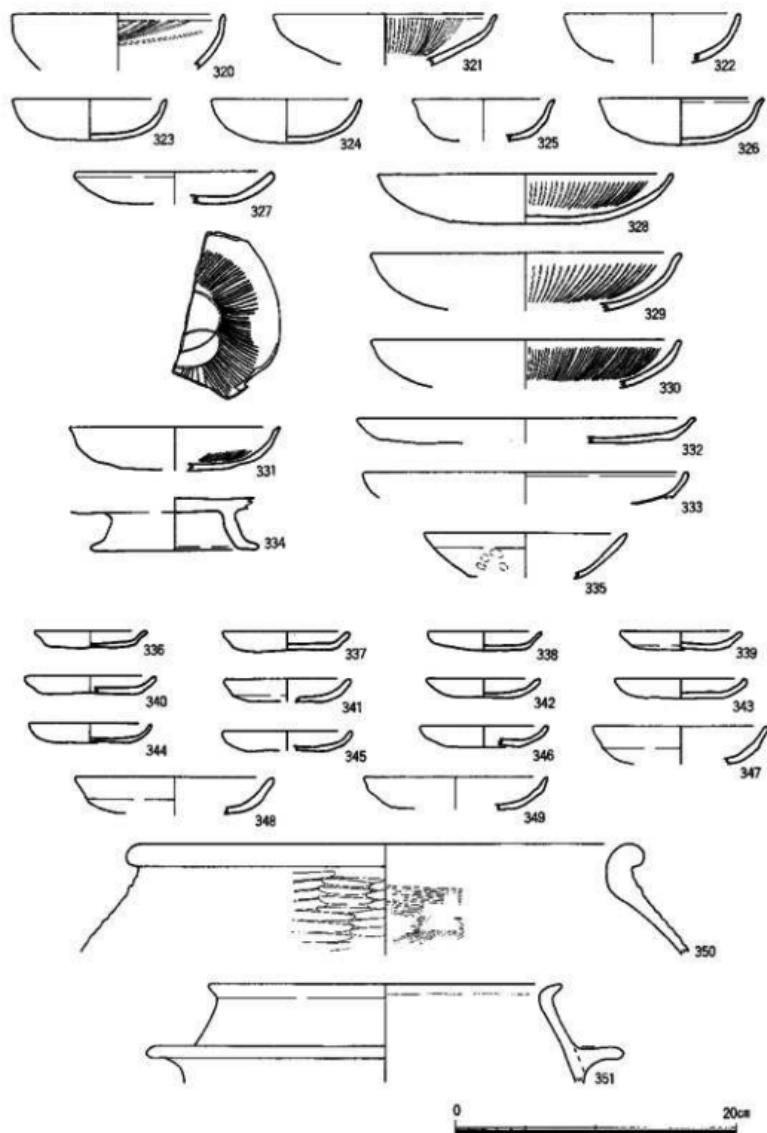
第70図 遺構に伴わない出土遺物実測図2



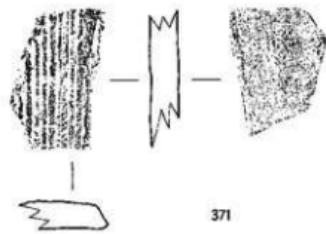
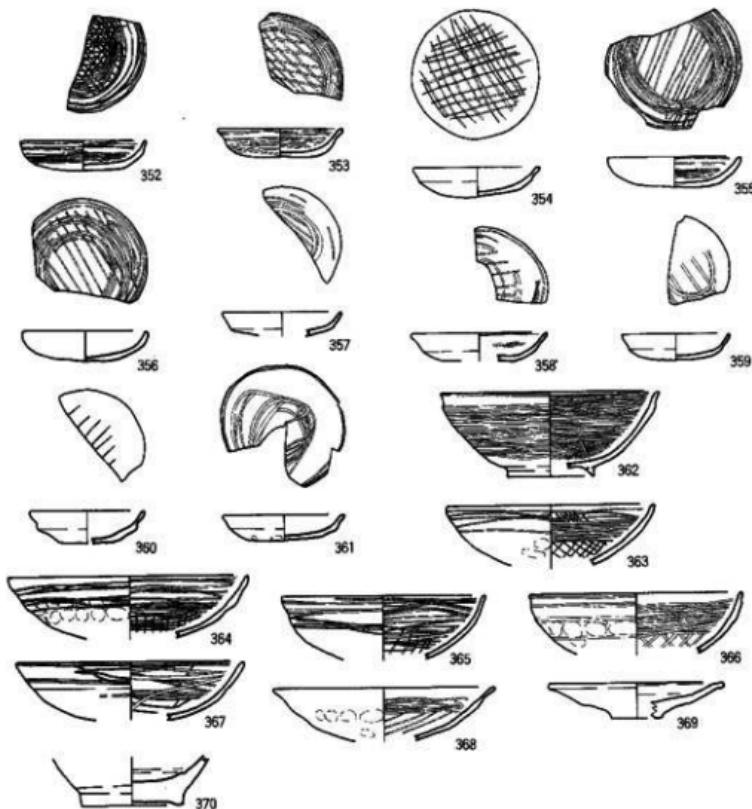
第71図 造構に伴わない出土遺物実測図 3



第72図 造形に伴わない出土遺物実測図 4



第73図 遺構に伴わない出土物実測図 5



0 20cm

第74図 造構に伴わない出土遺物実測図 6

第4節 第3調査区

第2調査区から約60m東に設定した南北に長い調査区である。当調査区の中央にはガス・水道が埋設している里道が横断しており、南部（長さ36m）と北部（20m）に二分して調査した。北部の調査区は平面の形状がやや「く」字形を呈する。調査面積は約112m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5mまでに存在する土層内から6層を抽出して基本層序とした（第75図）。現地表高は、南部8.05m、北部8.2mを測る。以下、各層について記す。

第0層 盛土：層厚20~30cm。関西電力の鉄塔が東部に隣接しており、その工事によって盛り土したものである。

第1層 耕上：層厚15~20cm。調査前までの耕作上である。

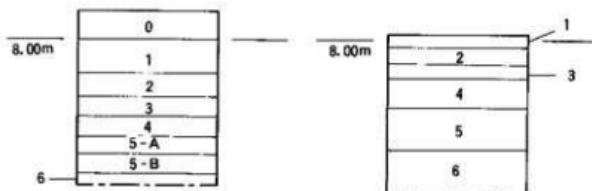
第2層 黄灰色～暗灰色粘質土：層厚15~30cm。耕土の床土である。

第3層 淡灰茶色～灰茶色粘質土：層厚10~25cm。江戸時代の遺物が含まれる。

第4層 淡茶灰色～濃茶灰色粗砂混粘質土：層厚20~30cm。北部で酸化鉄の斑点が上部にみられる。

第5層 灰茶色～暗灰色シルト混粘質土：層厚10~40cm。この土層は北部で2層に分かれる。上層（第5A層）が粘土で、下層（第5B層）がシルト質粘土である。江戸時代の遺物は、ごく少量含まれている。

第6層 茶灰色粗砂：層厚30cm以上。この土層は古墳時代中期の自然河川の堆積と考えられる。



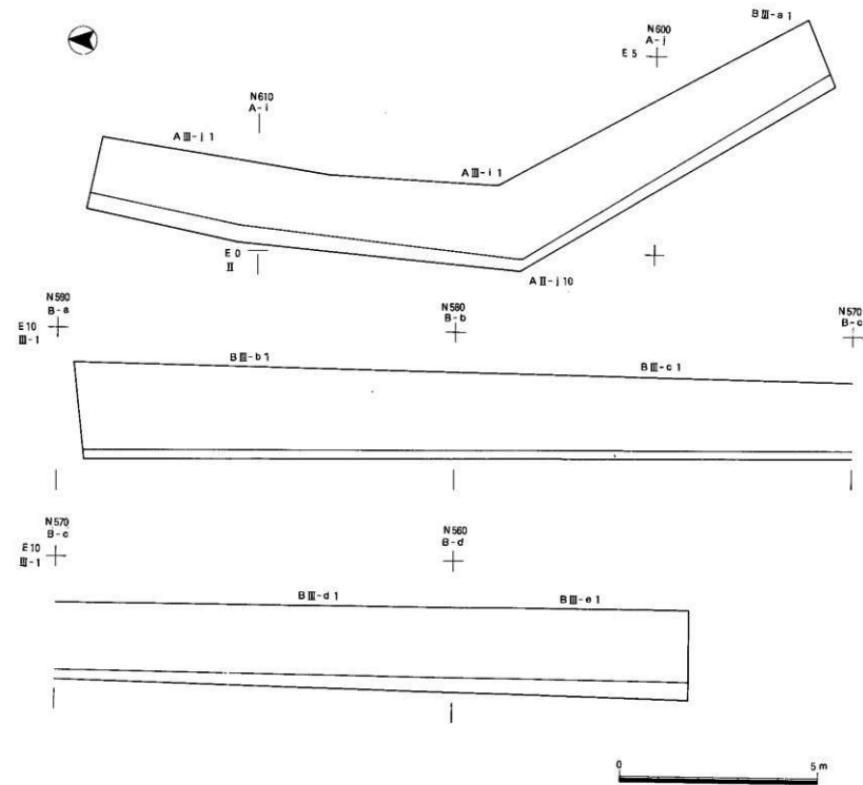
第75図 基本層序柱状図 (S = 1/40)

II 検出遺構・出土遺物

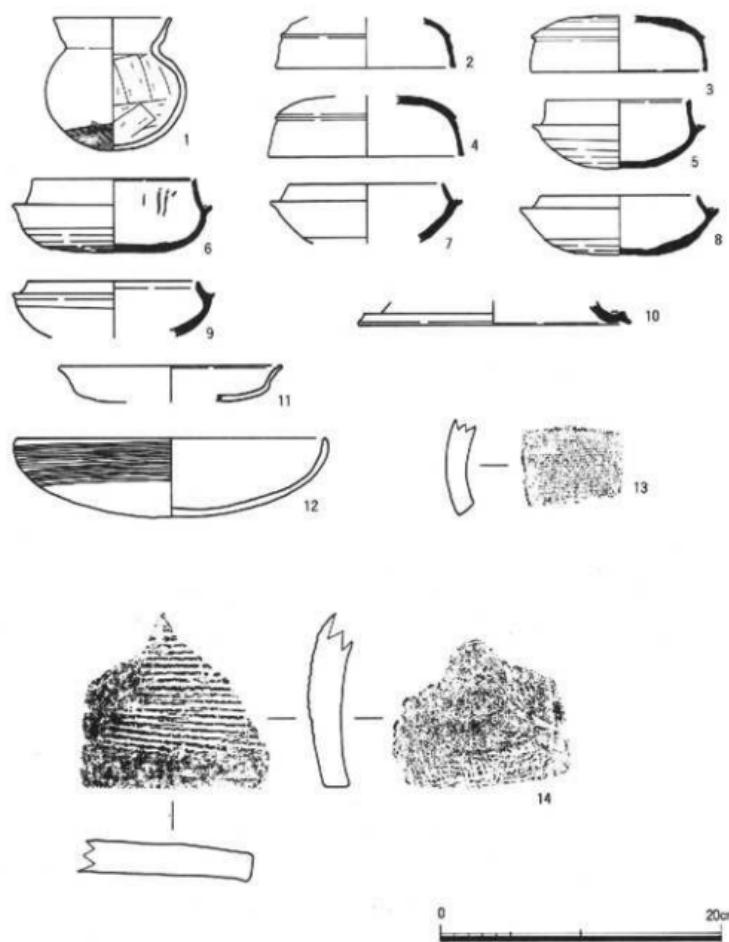
第6層の上面を調査した。その結果、古墳時代中期に埋没したと考えられる自然河川を検出した（第76図）。この自然河川には砂層を基調とした土層が堆積しており、調査中においても、湧水が多く、調査区の壁面崩壊が著しく認められた。その状況から、掘削作業をこれ以上行うのは危険であると判断し、河川の調査を残念した。

1) 遺構に伴わない遺物

第5層～第7層から古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺物を出土した。出土量はコンテナ箱にして約1箱分で、ほとんどのものは小片で南部の調査区からであった。時期別に分けると、第6・7層内から出土した遺物は、大半が古墳時代中期もの、第5層内から出土した遺物は中世のものを中心としたものである。以下、図示できたものについて記す。第6・7層から出土したものは、古墳時代前期（布留式新相）に比定される小型盃（1）、古墳時代中期に比定される須恵器（I型式2～4段階）の杯蓋（2～4）・杯身（5・6）である。第5層内から出土したものは、古墳時代後期に比定される須恵器（II型式2～4段階）の杯身（7～9）、高杯（10）、奈良時代に比定される皿（11）・鉢（12）、鎌倉時代に比定される軒丸瓦（13）・軒半瓦（14）である（第77図）。



第76図 第3調査区地質平面図



第77図 造構に伴わない出土遺物実測図

第5節 第4調査区

第1調査区のA II-f 1区から東に設定した東西に長い調査区（長さ98m）である。この調査区ではA II-f 8・f 9区で北部へ拡張を実施している。調査面積は236m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1mまでに存在する土層内から普遍的に見られる5層を基本層序とした（第78図）。現地表高は、標高8.4mを測る。以下、各層について記す。

第1層 耕土：層厚15~20cm。調査前までの耕土である。

第2層 黄褐色粗砂混砂質土：層厚5~20cm。耕土の床土である。

第3層 暗茶灰色砂質土：層厚40~60cm。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物が含まれている。

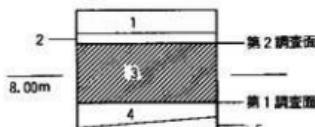
特に古墳時代中期～後期に比定される須恵器の破片が多量に含まれていた。上面は標高8.2mを測り、平安時代末期～江戸時代に至る遺構が切り込まれている。

第4層 淡黄灰色～濃黃灰色粘質シルト：層厚

10~20cm。この上面では、古墳時代中期～平安時代末期に至る遺構を検出した。上面は標高7.8mを測る。

第5層 層厚10cm以上。この土層は自然河川の

堆積と考えられる。

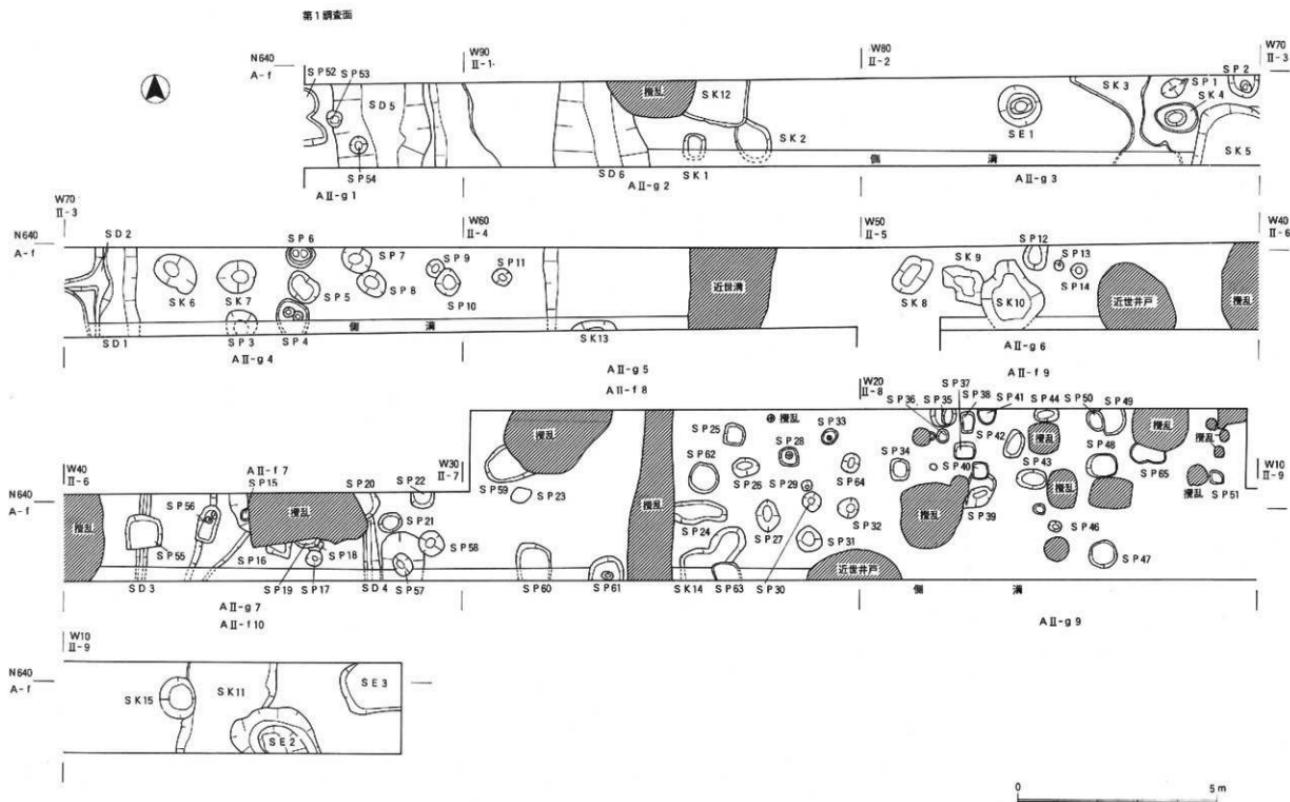


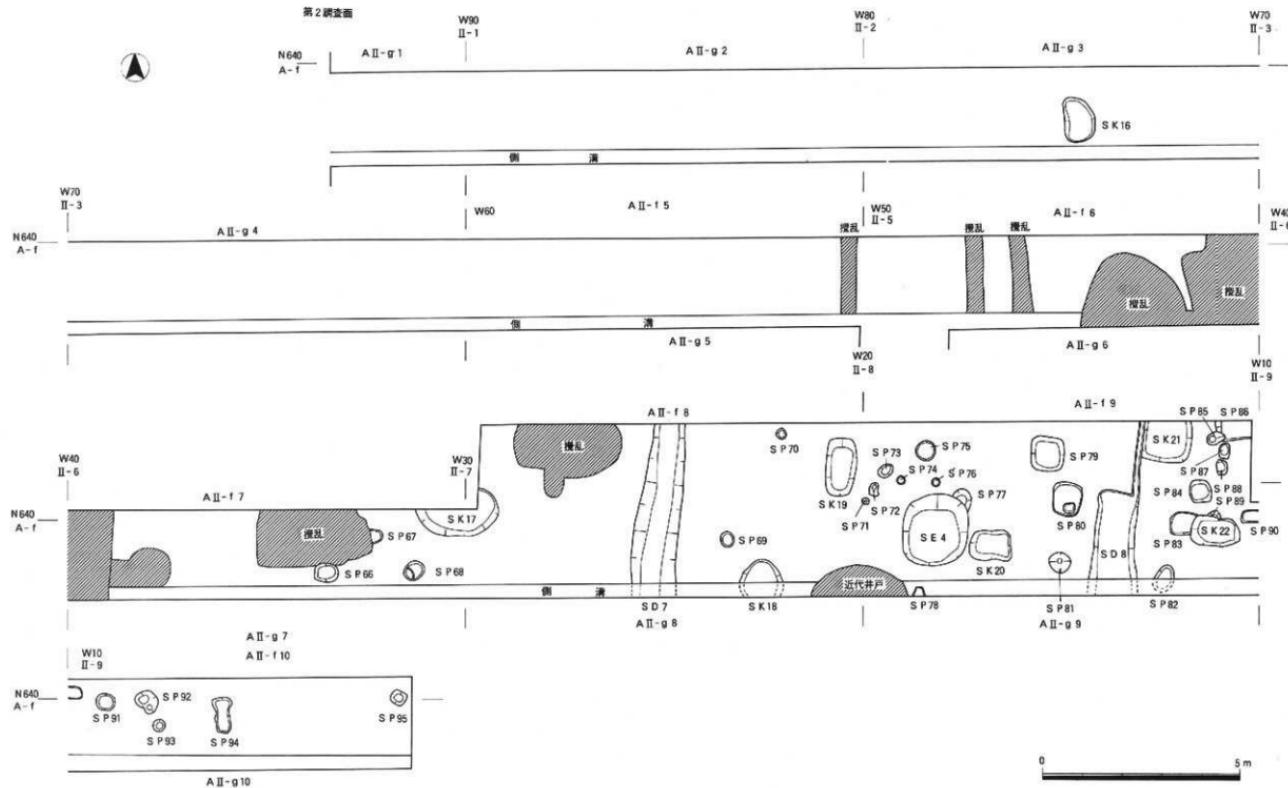
第78図 基本層序柱状図 (S = 1/40)

II 検出遺構・出土遺物

第3層上面（第2調査面）と第4層上面（第1調査面）の2面の調査を実施した。その結果、第1調査面では、古墳時代中期～平安時代末期に比定される遺構を検出した。遺構は古墳時代中期の土坑11基（SK 1～SK 11）・小穴51個（SP 1～SP 51）・溝4条（SD 1～SD 4）、奈良時代の溝1条（SD 5・SD 6）、平安時代末期の井戸3基（SE 1～SE 3）・土坑4基（SK 12～SK 15）・小穴13個（SP 52～SP 64）である。第2調査面では、平安時代末期～江戸時代に比定される遺構を検出した。遺構は、平安時代末期～鎌倉時代の井戸1基（SE 4）・土坑7基（SK 16～SK 22）・小穴31個（SP 65～SP 95）・溝2条（SD 7・SD 8）、江戸時代以降の溝である（第79・80図）。

以下、各時代の遺構について記す。





1) 第1調査面(古墳時代中期)

土坑(SK)

SK 1

A II-g 2区で検出した土坑で、上部は江戸時代に削平されている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径56cm、深さ10cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、黄褐色粘質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 2

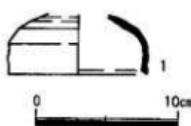
A II-g 2区で検出した土坑で、上部は江戸時代に削平されている。北部はSK 12に切られている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径88cm、深さ22cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、黄褐色細砂混シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 3

A II-g 3区で検出した土坑で、南北はともに調査区外に至る。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大2m、最小24cm、深さ24cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土・暗茶灰色砂質土の2層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 4

A II-g 3区で検出した土坑である。平面は、梢円形を呈する。規模は検出部で、東西径1.1m、南北径0.96m、深さ34cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色砂質土・黄褐色粘質シルト・暗灰色シルト混粘質土の3層に分かれる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の杯蓋(1)の小片がごく少量出土している(第81図)。



第81図 SK 4出土遺物実測図

SK 5

A II-g 3～g 4区で検出した土坑で、SD 2を切り、南部は調査区外に至る。平面は検出部で、半円形を呈し、東西2.22m、南北1.54m、深さ30cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色粘質シルト・暗灰色粗砂の2層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 6

A II-g 4区で検出した土坑である。平面は梢円形を呈する。規模は検出部で、最大径

1.14m、最小0.82m、深さ35cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 7

A II-g 4区で検出した土坑である。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西96m、南北82cm、深さ35cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 8

A II-g 6区で検出した土坑である。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西72cm、南北1.12m、深さ10cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

SK 9

A II-g 6区で検出した土坑で、東部はSK 10に切られている。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大1m、最小86cm、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

SK 10

A II-g 6区で検出した土坑で、SK 9を切っている。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、東西1.58m、南北1.4m、深さ38cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

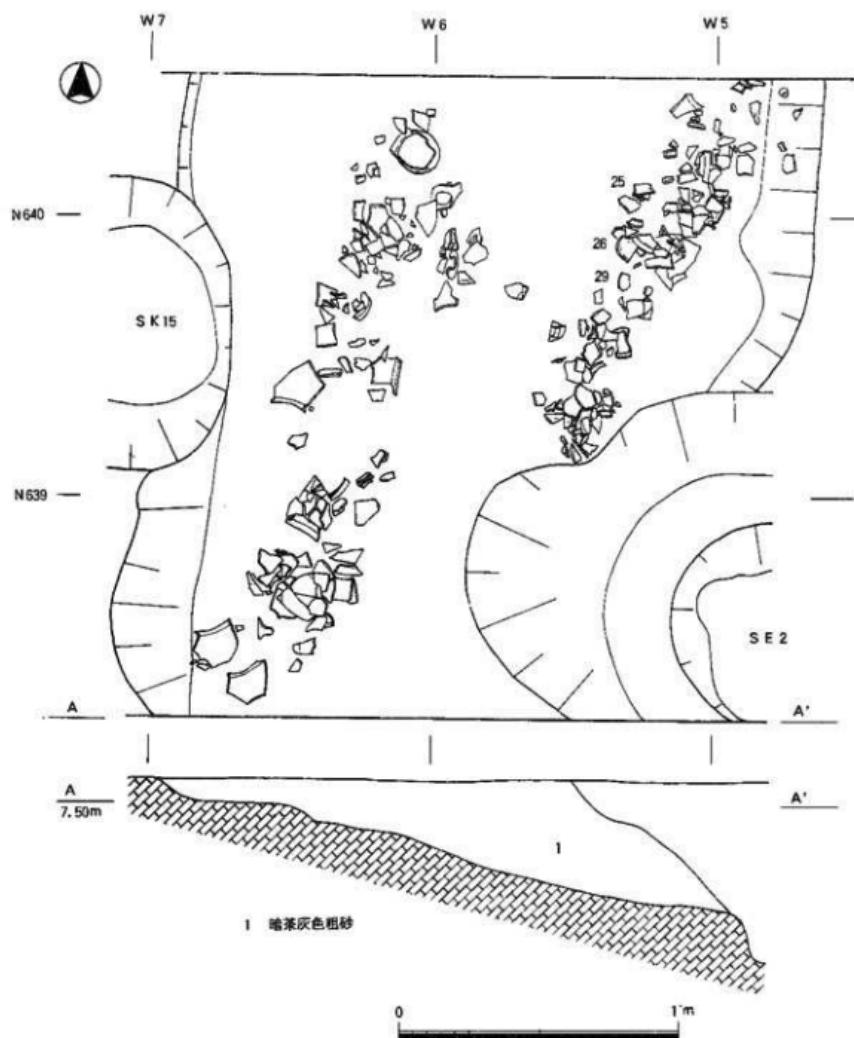
SK 11

A II-g 10区で検出した土坑で、SE 2・SK 15に切られている。南北はともに調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.26m、南北2.3m以上、深さ20cmを測る。断面の形状は北側が逆台形を呈し、南西側へ傾斜しながら深くなる。堆積土は、暗灰色砂質土の1層である（第82図）。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の甕（2~12）・瓶（13）・須恵器の杯蓋（24~25）・杯身（26~29）・甕（23）・製塙土器（14~22）が細かく碎けた状態で出土している（第83・84図）。

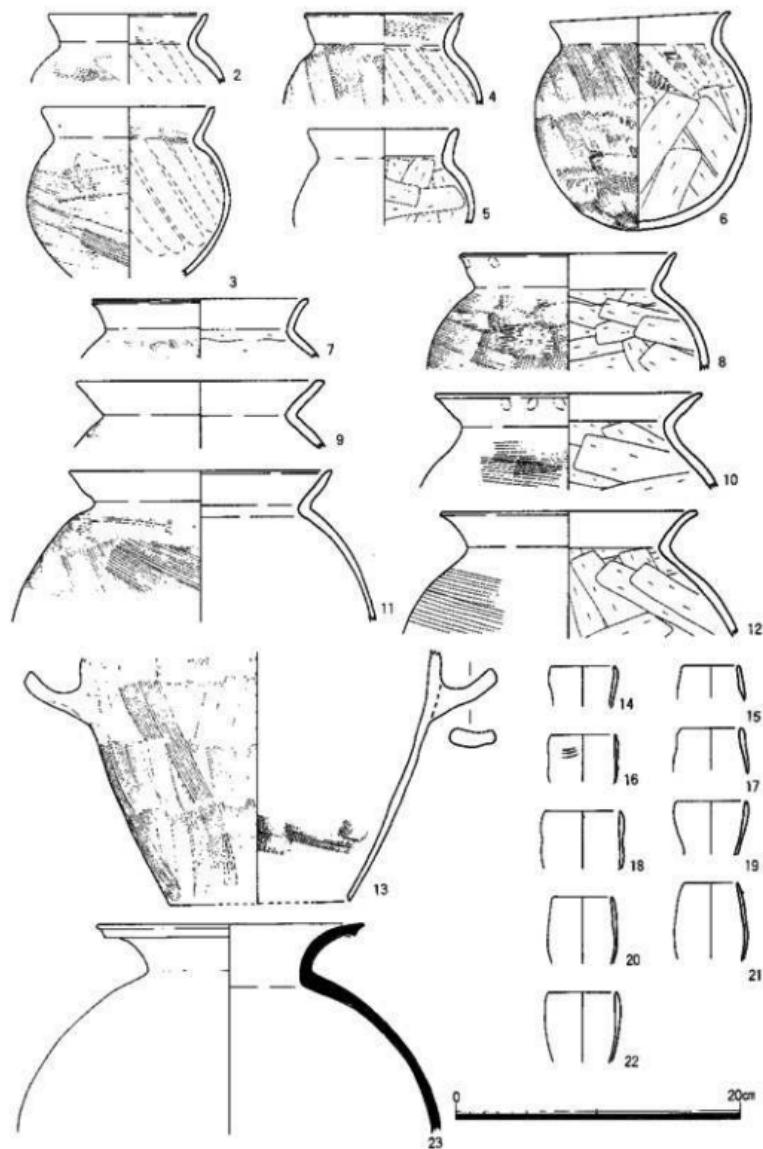
小穴（SP）

SP 1~SP 51

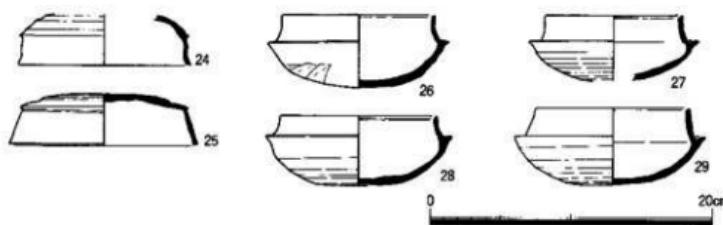
調査区で51個を検出した。平面の形状には円形のもの（9個）、楕円形のもの（15個）・不定形のもの（3個）・方形のもの（9個）・不明のもの（15個）あり、径50~102cmの大きい



第82図 SK 11検出遺物平面図及び断面図



第83図 SK11出土遺物実測図1



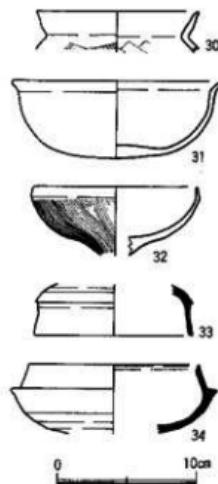
第84図 SK11出土遺物実測図 2

もの、径17~48cmの小さいものがある。断面は逆台形を呈し、深さ3~52cmを測る。堆積土は、暗灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。図示できたものは、S P 30が土師器の壺(30)、S P 31が土師器の杯(31)、S P 50が土師器の高杯(32)、S P 4が須恵器の杯蓋(33)、S P 24が須恵器の杯身(34)である(第85図)。これらの小穴は調査区内で配列するものがみられなかつたが、建物の関連する柱穴と考えられるものがある。以下、各小穴の法量について第7表に記す。

溝(S D)

S D 1

A II-g 4区で検出した。方向は東南方向を示し、南北はともに調査区外に至る。西部はS D 2が合流する。規模は検出部で、幅1m、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂質土・暗灰色粘



第85図 S P 30(30)・S P 31(31)・S P 50(32)・S P 4(33)・S P 23(34)出土遺物実測図

第7表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

造営番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 量	備 考
S P27	A II - g 8	隅丸方形	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕 1 個(径15)
S P28	A II - f 8	——	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
S P29	A II - f 8	格円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
S P30	A II - f 8	隅丸方形	逆凸形	64~74	28	暗灰褐色シルト	柱痕 1 個(径23~32)
S P31	A II - g 8	格円形	逆台形	40~70	14	暗灰褐色シルト	
S P32	A II - g 8	円 形	逆台形	44	15	暗灰褐色シルト	
S P33	A II - f 8	格円形	逆台形	34~42	12	暗灰褐色シルト	
S P34	A II - f 9	隅丸方形	逆凸形	64~66	25	暗灰褐色シルト	
S P35	A II - f 9	隅丸方形	逆凸形	80~12	32	暗灰褐色シルト	柱痕 1 個(径15)
S P36	A II - f 9	——	逆凸形	88	29	暗灰褐色シルト	柱痕 4 個(径18~30)
S P37	A II - f 9	不定形	逆凸形	84~96	27	暗灰褐色シルト	柱痕 3 個(径10~25)
S P38	A II - f 9	不定形	逆凸形	94	34	暗灰褐色シルト	柱痕 3 個(径15~30)
S P39	A II - f 9	不定形	逆台形	30~96	34	暗灰褐色シルト	柱痕 2 個(径15~30)
S P40	A II - f 9	不定形	逆凸形	95	40	暗灰褐色シルト	
S P41	A II - f 9	隅丸方形	逆凸形	84	37	暗灰褐色シルト	柱痕 2 個(径13~25)
S P42	A II - f 9	格円形	逆凸形	52~66	36	暗灰褐色シルト	柱痕 3 個(径15~25)
S P43	A II - f 9	円 形	逆台形	34~36	12	暗灰褐色シルト	柱痕 2 個(径15~25)
S P44	A II - f 9	格円形	逆台形	47~60	20	暗灰褐色シルト	
S P45	A II - g 9	隅丸方形	逆凸形	52~56	15	暗灰褐色シルト	
S P46	A II - g 9	円 形	逆凸形	46	20	暗灰褐色シルト	柱痕 1 個(径8)
S P47	A II - g 9	円 形	逆台形	24~26	8	暗灰褐色シルト	
S P48	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	25~30	15	暗灰褐色シルト	
S P49	A II - f 9	格円形	逆台形	22~26	22	暗灰褐色シルト	
S P50	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	40~46	10	暗灰褐色シルト	
S P51	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	24~40	8	暗灰褐色シルト	

土の2層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器（T型式3～4段階）の杯蓋（35）・高杯（36）壺（37）の小片がごく少量出土している。（第86図）。

SD 2

A II-g 4区で検出した。方向は東西方向を示し、東部はSD 1に合流し、西部はSK 5に切られる。規模は検出部で、幅30cm、深さ13cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土である。遺物は、出土していないが、SD 1と合流する関係にあることから古墳時代中期に比定されよう。

SD 3

A II-g 7区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。中央部はSP 55に切られ、切断されている。規模は検出部で、幅28cm、深さ6cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰色茶色粘質シルトの1層である。遺物は出土していない。

SD 4

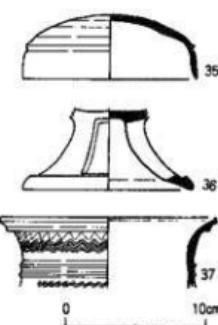
A II-g 7区で検出した。方向は南北方向を示し、北部はSP 20に切られ、西部は擾乱されている。南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅30～40cm、深さ7～8cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰色茶色粘質シルトの一層である。遺物は出土していない。

2) 奈良時代

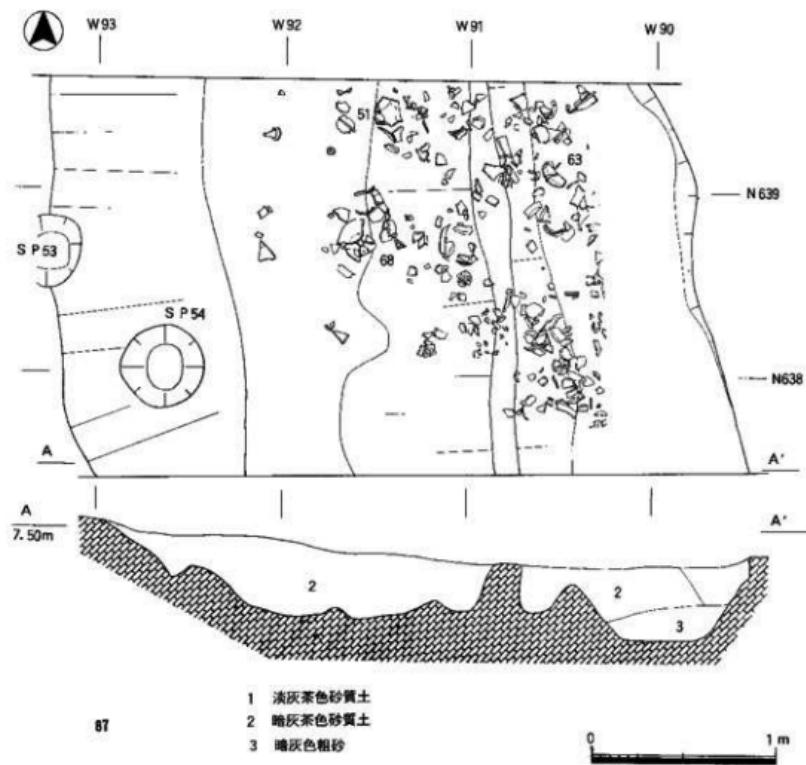
溝（SD）

SD 5

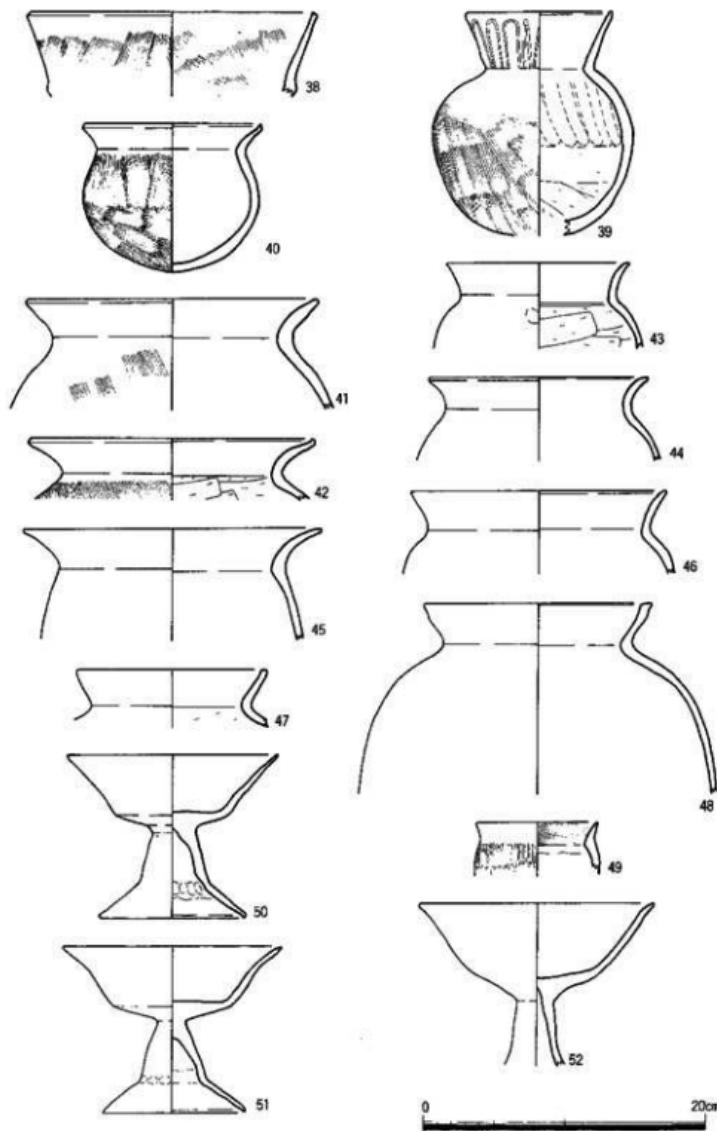
A II-g 1区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。上面は江戸時代の土層によって削平されている。規模は検出部で、幅3.3～3.5m、深さ16～47cmを測る。断面は緩やかなW形を呈し、底面には小さな起伏がいくつかみられる。堆積土は、第1層：淡灰茶色砂質土・第2層：暗灰茶色粘質土・第3層：暗灰色粗砂の3層で、西部の大半は第2層が堆積する単一層である（第87図）。遺物は、内部から古墳時代後期～奈良時代に比定される土師器・須恵器の小片がコンテナ箱にして約2箱分出土している。図示できたものは、土師器の壺（38）・壺（39～48）・鉢（49）・高杯（50～52）・瓶（53・54）・羽釜（55）・土鍤（56）・杯（57・58）・皿（59～68）・台付皿（69・70）、須恵器の杯身（71・72）・壺（73・74）・鉢（75・76）・壺（77・78）である（第88～90図）。土師器の皿は平城京II～III式に比定される。須恵器は、IV型式3～4段階に比定される。



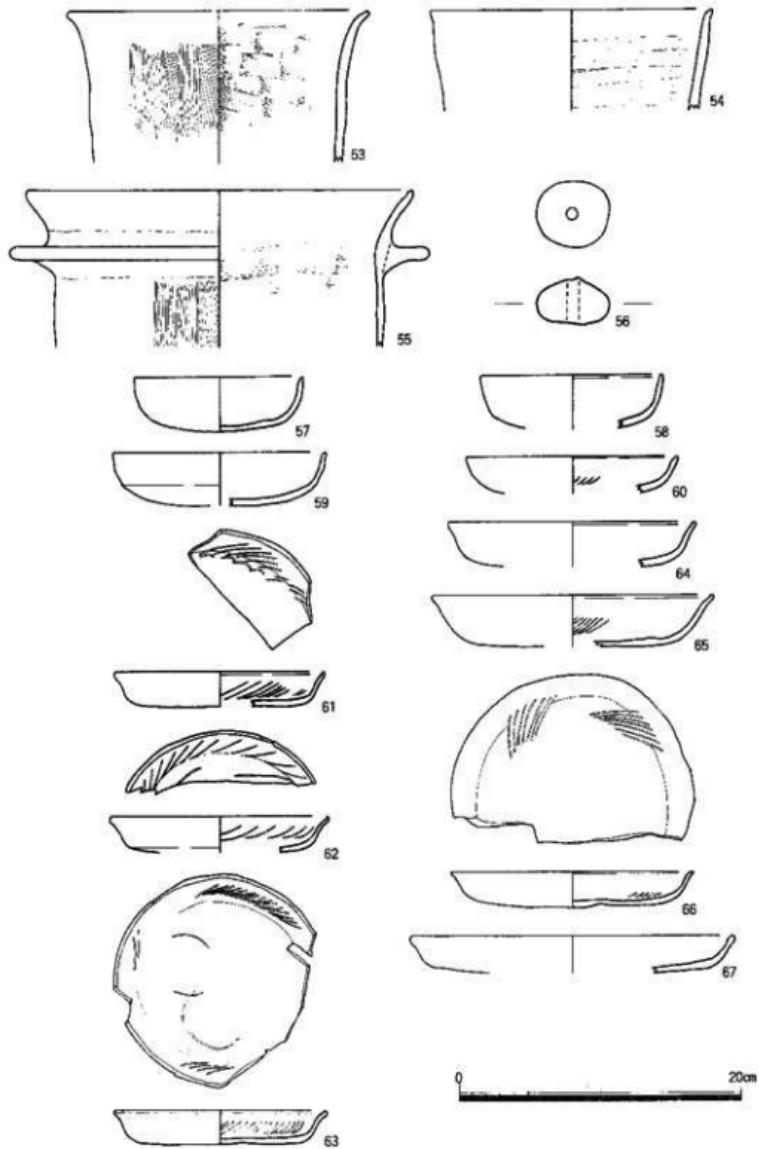
第86図 SD 1出土遺物実測図



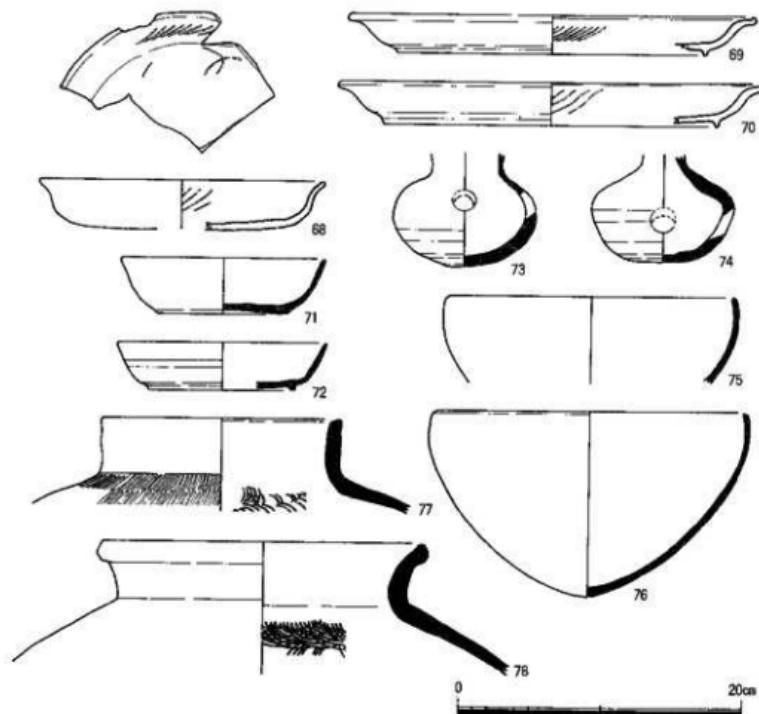
第87図 SD 5 残出遺物平面図及び断面図



第88図 SD 5 出土物実測図 1



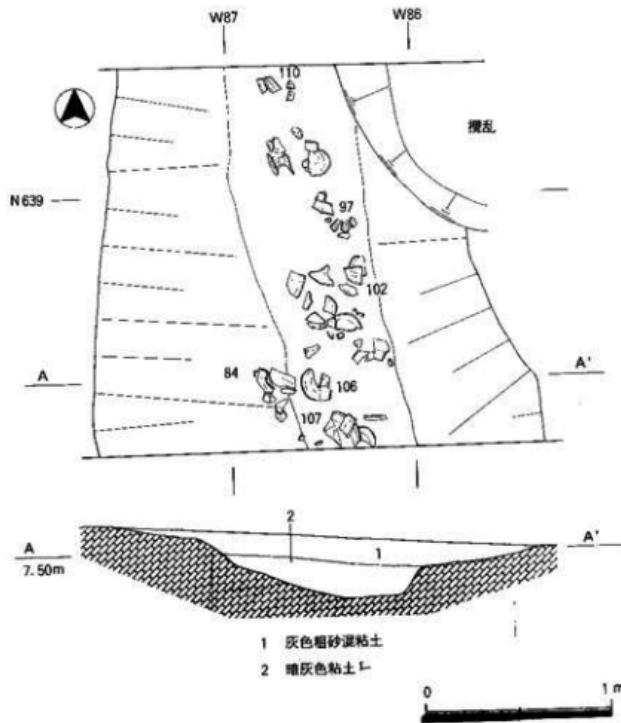
第89圖 SD 5 出土遺物測量圖 2



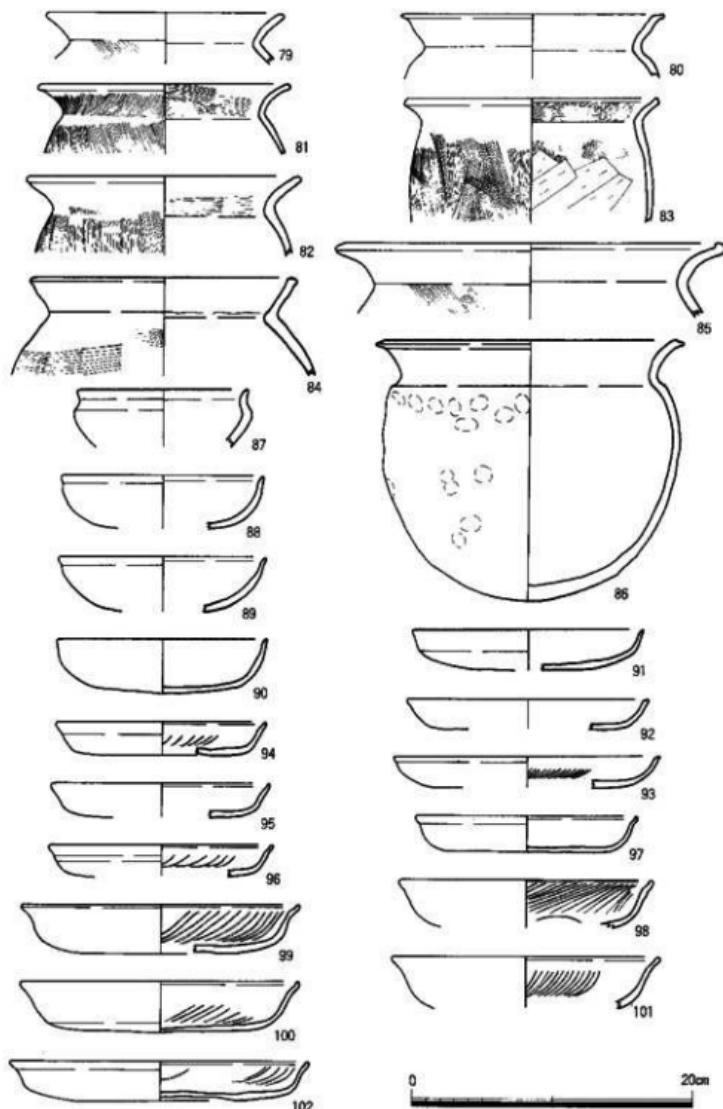
第90図 SD 5出土物実測図 3

SD 6

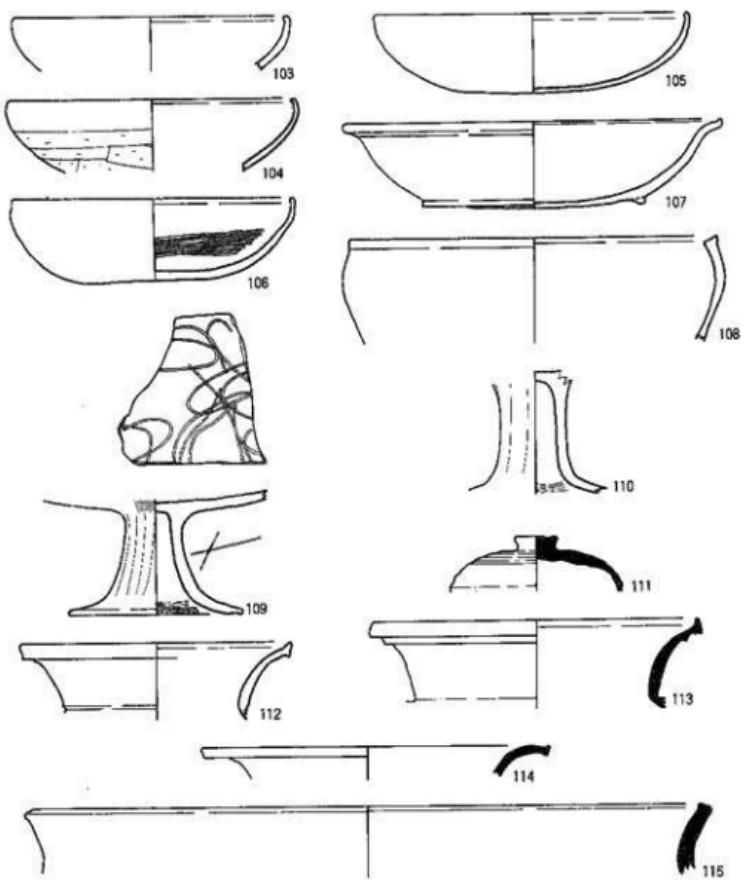
A II-g 2区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。北東部の一部は擾乱されている。規模は検出部で、幅1.9~2.4m、深さ32cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰色粗砂混粘土・暗灰色粘土の2層である（第91図）。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の甕（79~86）・杯（87~90）・皿（91~102）・鉢（103~106・108）・台付鉢（107）・高杯（109・110）、須恵器の杯蓋（111）・甕（112~115）などの破片がコンテナ箱に1箱分出土している（第92・93図）。



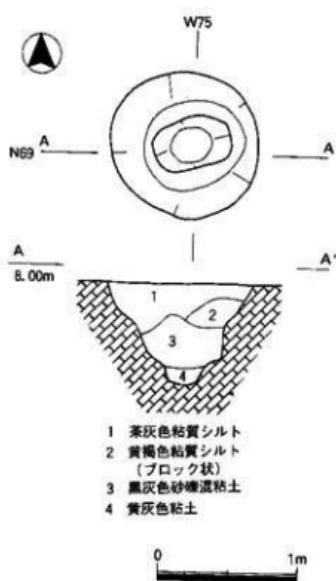
第91圖 SD 6 棘出遺物平斷面圖



第92图 SD 6 出土遗物实测图1



第93圖 SD 6 出土遺物測量圖 2



第94図 SE 1 平断面図

3) 平安時代末期～鎌倉時代

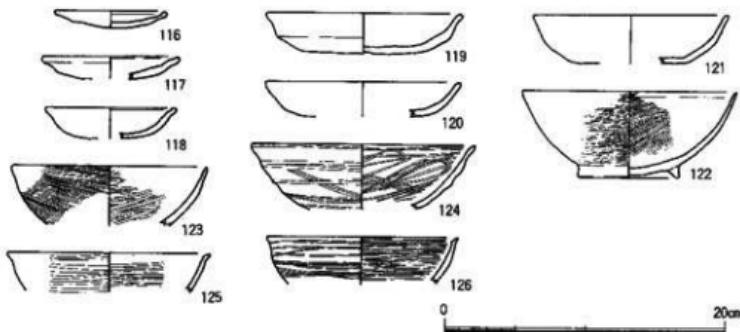
井戸 (SE)

S E 1

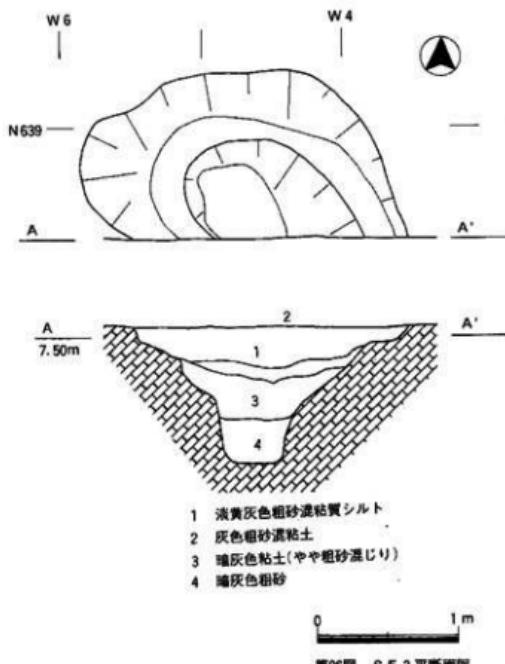
A II-g 3区で検出した素掘りの井戸である。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径1.06m、深さ68cmを測る。断面は、逆凸形を呈する。堆積土は、上方から茶灰色粘質シルト・黄褐色粘質シルト・黒灰色砂礫混粘土・黄灰色粘土の4層に分かれる(第94図)。遺物は、内部から平安時代末期に比定される上器器の小皿(116～118)・中皿(119～121)・瓦器の楕(122～126)の小片が少量出土している(第95図)。

S E 2

A II-g 10区で検出した曲物を備えた井戸で、SK 11を切り、南部はともに調査区外に至る。掘形の平面形状は検出部で、半円形を呈し、東西2.6m、南北1.2m、深さ84cmを測る。断面は、逆台形を呈する。井戸側は掘形



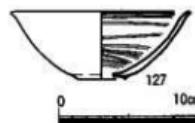
第95図 SE 1 出土遺物実測図

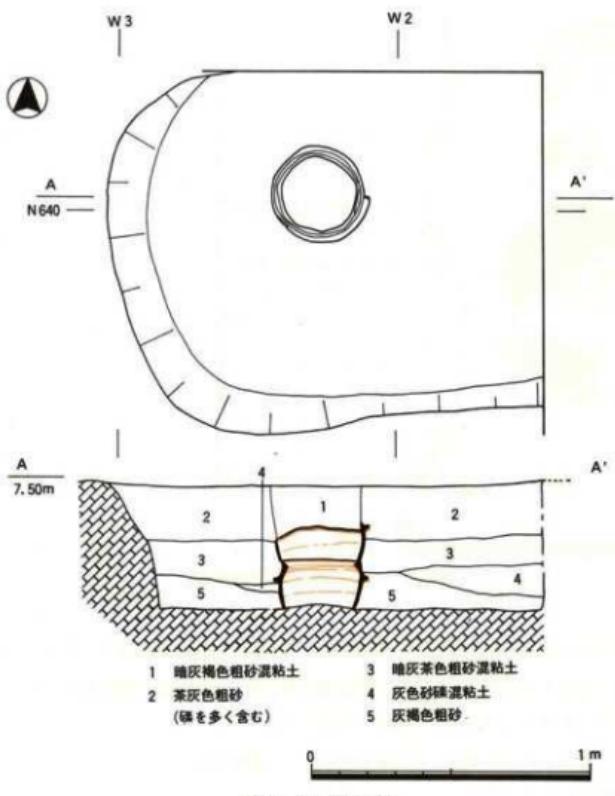


の底面付近で1段の曲物を検出した。曲物はほとんど腐敗しており、半円部分が残存していたのみである。大きさは、復元径40cm、高さ15cm、厚み7mmを測る。堆積土は、淡黄灰色粗砂混粘質シルト・灰色粗砂混粘土・暗灰色粘土・暗灰色粗砂である(第96図)。遺物は、曲物内から鎌倉時代初期に比定される土師器・瓦器の椀(127)などの小片が少量出土している(第97図)。

S E 3

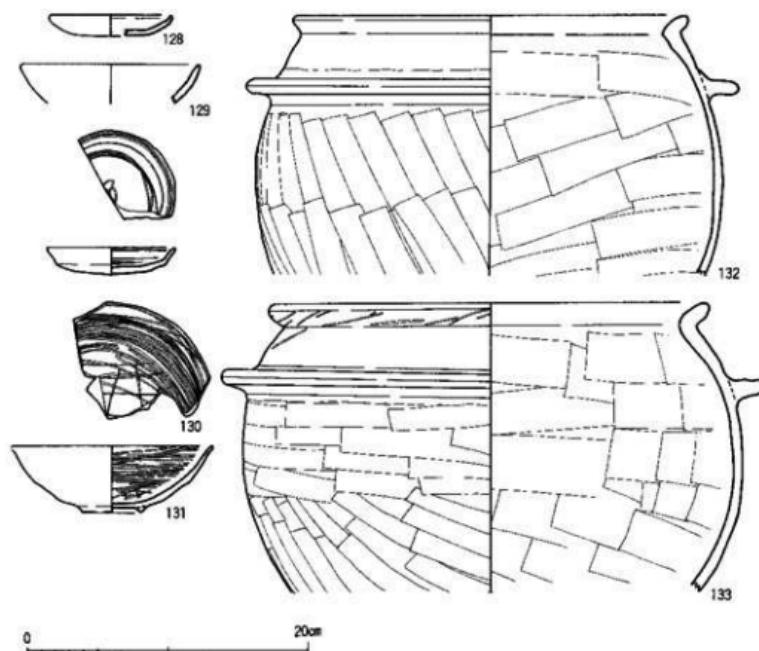
A II-g 10区で検出した井戸側を備えた井戸である。掘形は北東隅が調査区外に至り、掘形の平断面の形状は不明である。規模は検出部で、東西1.5m、南北1.3m、深さ48cmを測る。井戸側は底部が穿孔した羽釜を2段に積み重ねたもので、掘形の中央部で検出した。羽釜は上段(132)が口径27.5cm、下段(133)が口径32cmで、上段に小径のものを備えている。堆積土は、井戸側内が





第98図 S E 3 平断面図

暗灰褐色粗砂混粘質土の1層で、掘形が茶灰色粗砂(礫を多く含む)・暗灰茶色粗砂混粘土・灰色砂砾混粘土・灰褐色粗砂の4層に分かれる(第98図)。遺物は、掘形内から古墳時代中期～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。井戸側内から鎌倉時代に比定される土師器の小皿(128)・中皿(129)、瓦器の小皿(130)・椀(131)の破片がごく少量出土している(第99図)。



第99図 S E 3 出土遺物及び井戸構造測図

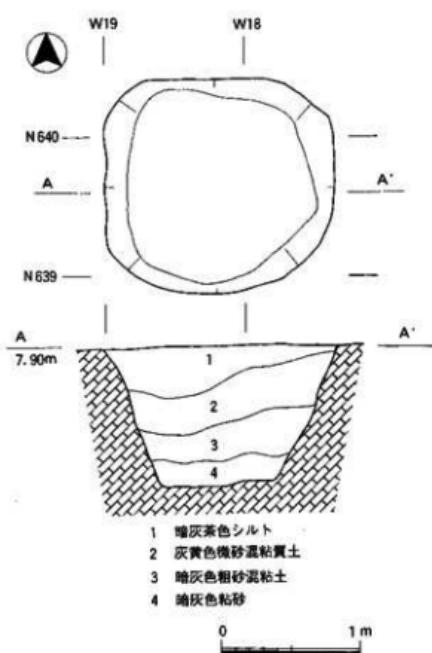
S E 4

A II-g 9区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西径1.64m、南北径1.52m、深さ1mを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰茶色シルト・灰黄色微砂混粘質土・暗灰色粗砂混粘土・暗灰色粘砂の4層に分かれる（第100図）。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

土坑（SK）

SK 12

A II-g 2区で検出した土坑で、上部は、江戸時代の土層に削平されている。北部は調査区外に至り、西部は擾乱されている。SK 2を切っている。規模は検出部で、東西2.1m、南北1.08m、深さ38cmを測り、平面面の形状は、不明である。堆積土は、暗褐色シルトと灰茶色粘質土のブロックである。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。



第100図 SE 4 平断面図

瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

S K 15

A II-g 10区の拡張部で検出した。平面は、長方形を呈する。規模は検出部で、東西78cm、南北1.4m、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

4) 第2調査面（鎌倉時代）

S K 16

A II-g 3区で検出した。平面は、ほぼ梢円形を呈する。規模は検出部で、東西0.74m、南北1.12m、深さ15cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡茶灰褐色細砂の1層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

S K 13

A II-g 5区で検出した。上面は搅乱しており、南部は調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2m、南北28cm以上、深さ24cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色粘質土の1層である。遺物は、内部から平安時代末期に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

土坑（SK）

S K 14

A II-g 8区で検出した。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.12m、南北0.94m、深さ23cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は茶灰色シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に比定される土師器・須恵器・

SK17

A II-f 7・f 8区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.1m、南北1.2m、深さ20cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰褐色シルト・茶灰色粘質シルトの2層である。遺物は出土していない。

SK18

A II-g 8区で検出した。南部の一部は調査区外に至る。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、東西1.1m、南北92cm、深さ30cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色粘質シルト・黄灰色シルトの2層である(第101図)。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の楕の小片がごく少量出土している。

SK19

A II-f 8区で検出した。平面は、南北に長い隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西78cm、南北1.4m、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色シルトの1層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

SK20

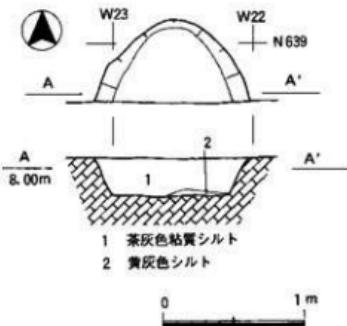
A II-g 9区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.04m、南北92cm、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰青色シルト・茶褐色粘質シルトである。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

SK21

A II-f 9区で検出した。北部は調査区外に至る。平面は検出部で、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.4m、南北1.06m、深さ35cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡茶灰色砂質土の1層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片が少量出土している。

SK22

A II-g 9区で検出した。平面は東西に長い楕円形を呈し、SP83・SP89を切る。規模は検出部で、東西径1.08m、南北径0.76m、深さ21cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗褐灰色砂混シルト・暗茶灰色粗砂混シルトの2層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器の小片がごく少量出土している。



第101図 SK18平断面図

小穴 (S P)

S P 52~S P 95

調査区の東部で44個を検出した。平面の形状には円形のもの(9個)、楕円形のもの(12個)、隅丸方形のもの(5個)、不明のもの(18個)がある。規模は大きいものが48~74cm、小さいものが20~46cmを測る。これらの小穴内には柱痕や根石などがみられ、建物に関連する柱穴と考えられるが、調査区で一部拡張を実施したが、相互関係をもつ配列は調査区内で検出できなかった。以下、各小穴の法量などについて第8表に記す。

第8表 小穴 (S P) 一覧表

* 単位: cm

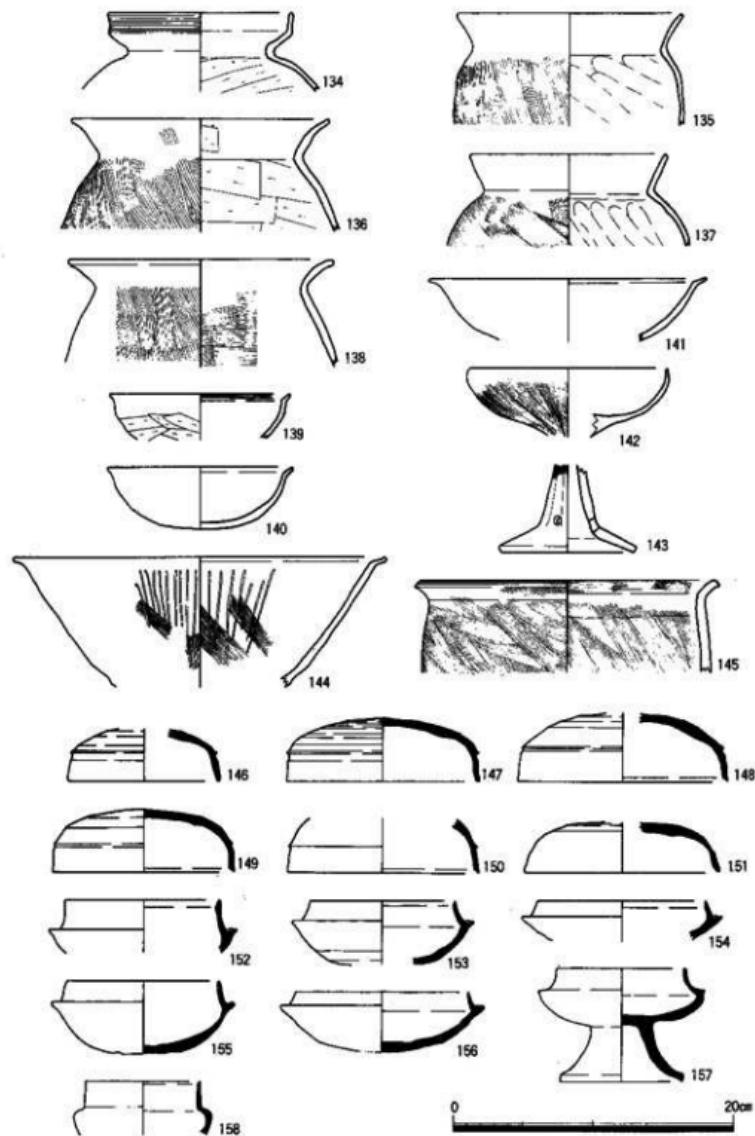
遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 土	備 考
S P 52	A II - g 1	椭円形	逆台形	44~76	22	暗灰色砂質土	
S P 53	A II - g 1	椭円形	逆凸形	38~42	44	暗灰褐色シルト	
S P 54	A II - g 1	円 形	逆台形	42	26	暗灰褐色シルト	
S P 55	A II - f 7	---	逆台形	92	13	暗灰褐色シルト	
S P 56	A II - f 7	不安定	逆台形	56~92	16	暗灰褐色シルト	
S P 57	A II - g 7	---	逆台形	102	52	暗灰褐色シルト	
S P 58	A II - g 7	椭円形	逆台形	64~66	13	暗灰褐色シルト	
S P 59	A II - f 8	---	逆台形	96	32	暗灰褐色シルト	
S P 60	A II - g 8	---	逆台形	88	15	褐灰色粘土	
S P 61	A II - g 8	---	逆台形	86	25	暗灰茶色粘質シルト	
S P 62	A II - f 8	椭円形	逆台形	76~78	18	暗茶灰色砂混シルト	
S P 63	A II - g 8	---	逆台形	64以上	26	淡灰茶色砂質土	
S P 64	A II - f 8	---	逆台形	48	29	暗茶灰色砂混シルト	
S P 65	A II - f 9	---	逆台形	88	9	暗茶褐色砂混シルト	
S P 66	A II - g 7	椭円形	逆台形	48~60	14	暗灰色シルト	北部は擾乱する。
S P 67	A II - K 7	---	逆台形	38	16	暗茶灰色シルト	西部は擾乱する。
S P 68	A II - K 7	椭円形	逆台形	45~54	17	暗茶灰色シルト	
S P 69	A II - g 8	椭円形	逆台形	34~38	13	暗灰褐色シルト	
S P 70	A II - f 8	円 形	逆台形	28	38	暗灰褐色シルト	
S P 71	A II - g 9	椭円形	逆台形	17~20	14	暗灰褐色シルト	
S P 72	A II - f 9	椭円形	逆台形	22~24	18	暗灰褐色シルト	
S P 73	A II - f 9	椭円形	逆台形	28~42	24	暗灰褐色シルト	
S P 74	A II - f 9	円 形	逆台形	20	41	暗灰褐色シルト	
S P 75	A II - f 9	円 形	逆台形	48	44	暗灰褐色シルト	
S P 76	A II - f 9	円 形	逆台形	20	33	暗灰褐色シルト	
S P 77	A II - g 9	---	逆台形	50	46	暗茶灰色砂混シルト	S E 4に切られる
S P 78	A II - g 9	---	逆台形	58以上	16	黄褐色砂混砂質土	根石1個(26×30)
S P 79	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	86~88	40	暗灰褐色砂混シルト	
S P 80	A II - g 9	隅丸方形	逆台形	72~86	32	暗茶灰色粘質土	柱痕1個(径25)

* 単位: cm

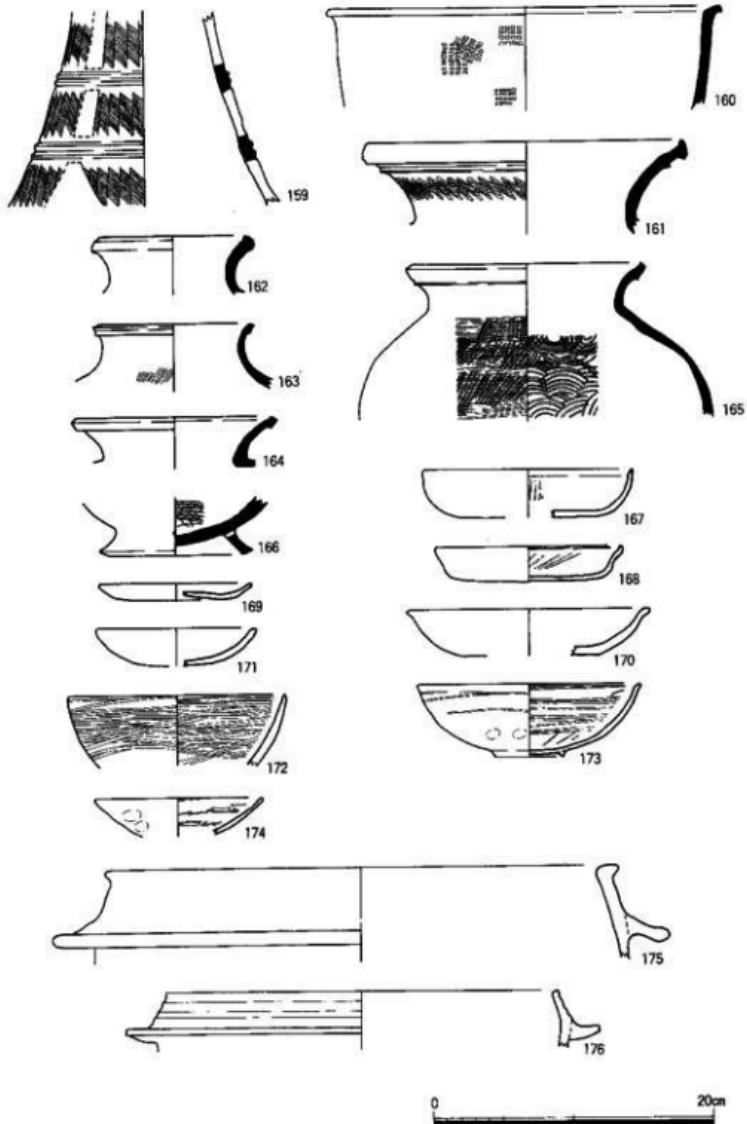
遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P81	A II - g 9	円形	逆台形	52~54	25	淡茶灰色砂質土	
S P82	A II - g 9	——	逆台形	54以上	15	暗灰褐色砂混シルト	根石1個(25×15)
S P83	A II - g 9	——	逆台形	58	23	淡茶灰色砂質土	S K22に切られる。
S P84	A II - g 9	円形	逆台形	56	31	暗灰褐色砂混シルト	根石2個(20×12)
S P85	A II - f 9	楕円形	逆台形	32~48	50	暗灰褐色砂混シルト	S P86を切る。
S P86	A II - f 9	——	逆台形	96	40	淡黄褐色砂混シルト	S P85に切られ、 北部は調査区外。
S P87	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	24~40	43	暗灰褐色砂混シルト	
S P88	A II - f 9	隅丸方形	逆台形	32~76	48	暗灰褐色砂混シルト	
S P89	A II - g 9	——	逆台形	40以上	8	暗灰褐色砂混シルト	S K22に切られる。
S P90	A II - g 9	楕円形	逆台形	32~76	15	淡黄褐色砂混シルト	
S P91	A II - g 10	隅丸方形	逆台形	38~44	20	暗灰褐色砂混シルト	柱痕1個(径16)
S P92	A II - g 10	不定形	逆台形	58	23	暗灰褐色砂混シルト	
S P93	A II - g 10	円形	逆台形	32	7	暗灰褐色砂混シルト	
S P94	A II - g 10	不定形	逆台形	50~90	30	暗灰褐色砂混シルト	
S P95	A II - g 10	円形	逆台形	40	3	暗灰褐色砂混シルト	

5) 遺構に伴わない出土遺物

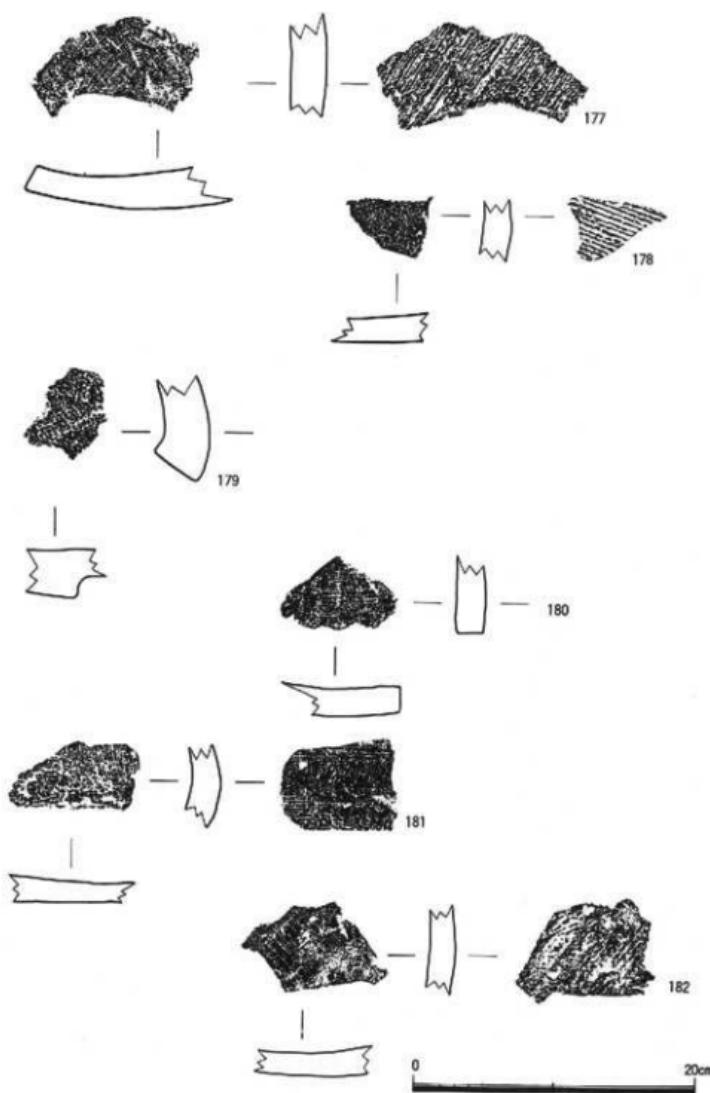
第3・4層から出土している。第3層は平安時代末期の整地層で、古墳時代～平安時代末期に至る遺物が含まれている。出土量は、コンテナ箱にして約3箱分で、ほとんどが土器片である。時期別では、古墳時代前期に比定される庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期に比定される土師器・須恵器(I段階2~4段階)、古墳時代後期に比定される土師器・須恵器(II型式4段階~III型式3段階)、奈良時代に比定される土師器・須恵器(IV型式2~4段階)、平安時代末期～鎌倉時代に比定される土師器皿・瓦器碗・瓦などである。以下、図示できたものについて記す。古墳時代前期のものは、布留式古相に比定される吉備系壺(134)、古墳時代中期に比定される土師器の壺(135~138)・杯(139~141)・高杯(142~144)・瓶(145)、須恵器の杯蓋(146~150)・杯身(152)・高杯(157)・瓶(160)・壺(161)である。古墳時代後期に比定される須恵器の杯蓋(151)・杯身(153~156)・鉢(158)・大型器台(159)・壺(162~165)である。奈良時代に比定される須恵器の壺(166)、土師器の皿(167・168)である。平安時代後期に比定される土師器の小皿(169)・中皿(170)、瓦器の皿(171)・碗(172)・軒平瓦(177・178)・軒丸瓦(179)、鎌倉時代前期～室町時代に比定される瓦器の碗(173・174)・土師器の羽釜(175)・瓦質の羽釜(176)・軒平瓦(180~182)である(第102~104図)。



第102図 造構に伴なわない出土物実測図!



第103図 通柄に伴なわない出土遺物実測図 2



第104図 造構に伴なわぬ出土遺物実測図3

第6節 第5調査区

第4調査区から南東約200mに設定した東西に長い調査区（長さ94m）である。調査面積は約188m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した土層内から普遍的にみられる9層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高8.4mを測る（第105図）。以下、各土層について記す。

第1層 新土：層厚15~20cm。調査前までの耕作土である。

第2層 淡黄褐色シルト：層厚10~15cm。耕土の床土である。

第3層 茶灰色細砂：層厚0~10cm。中央部にだけ堆積する土層である。

第4層 暗青灰色粘土：層厚10~35cm。鎌倉時代の水田土で、東部と西部は江戸時代の土層によって削平されている。調査区の中央では足跡がみられる水田面を検出している。この上面を調査面（第2調査面）とした。標高は8.0mを測る。

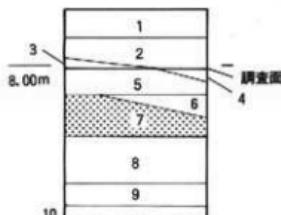
第5層 暗灰色粘土混細砂：層厚5~15cm。東部に堆積する土層で、東部に行くに従い厚く堆積している。

第6層 淡灰褐色シルト混粘土：層厚20~40cm。

第7層 暗灰褐色細砂混粘土：層厚30~40cm。この上面を調査面（第1調査面）とした。弥生時代後期~古墳時代前期に至る遺構を検出している。

第8層 淡黄褐色粘土：層厚15~25cm。

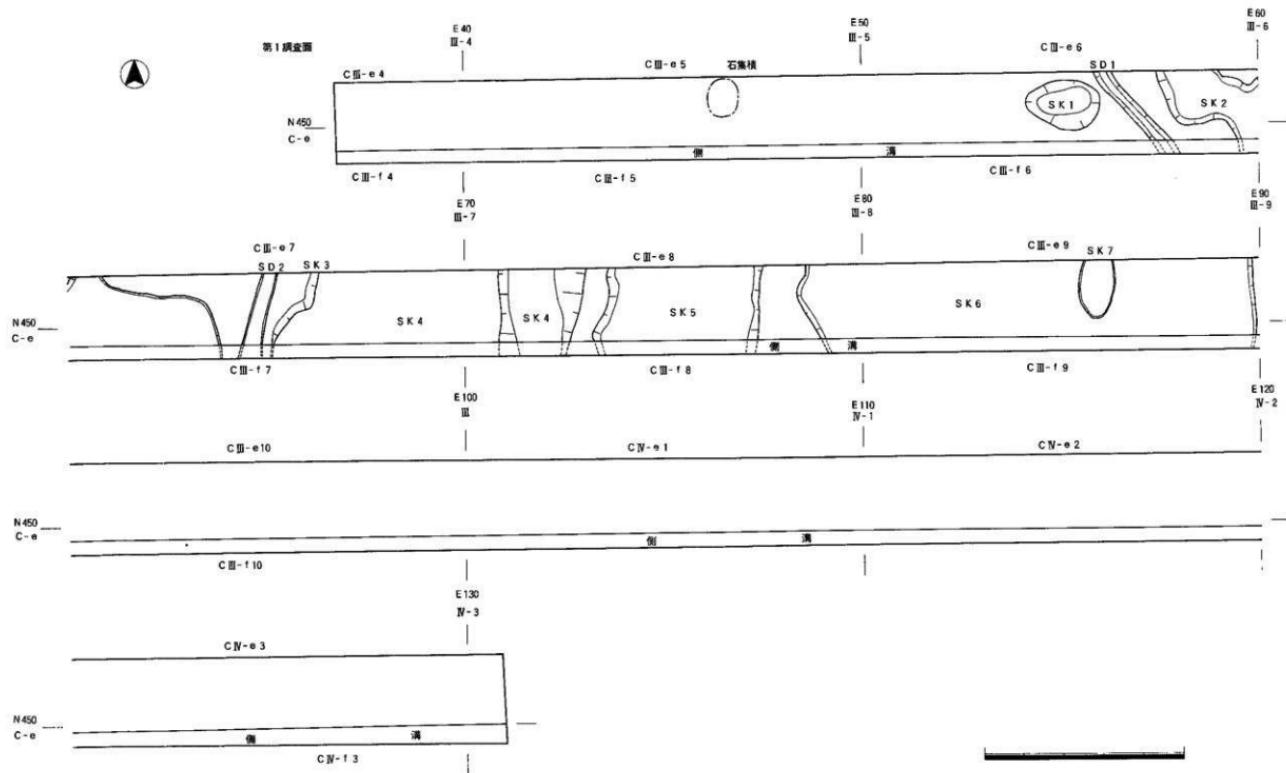
第9層 青灰色粘土：層厚10cm。層厚10cm以上。



第105図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)

II 検出遺構・出土遺物

第4層上面（第2調査面）と第7層上面（第1調査面）の2面の調査面を実施した。その結果、第1調査面では、弥生時代後期~古墳時代前期に比定される土坑7基（SK1~SK7）、溝2条（SD1・SD2）、石集積1箇所を検出した。第2調査面では、鎌倉時代に比定される水田1筆、溝4条（SD3~SD7）を検出した（第106・107図）。以下、各調査面の遺構について記す。



第106図 第5調査区縦横平図

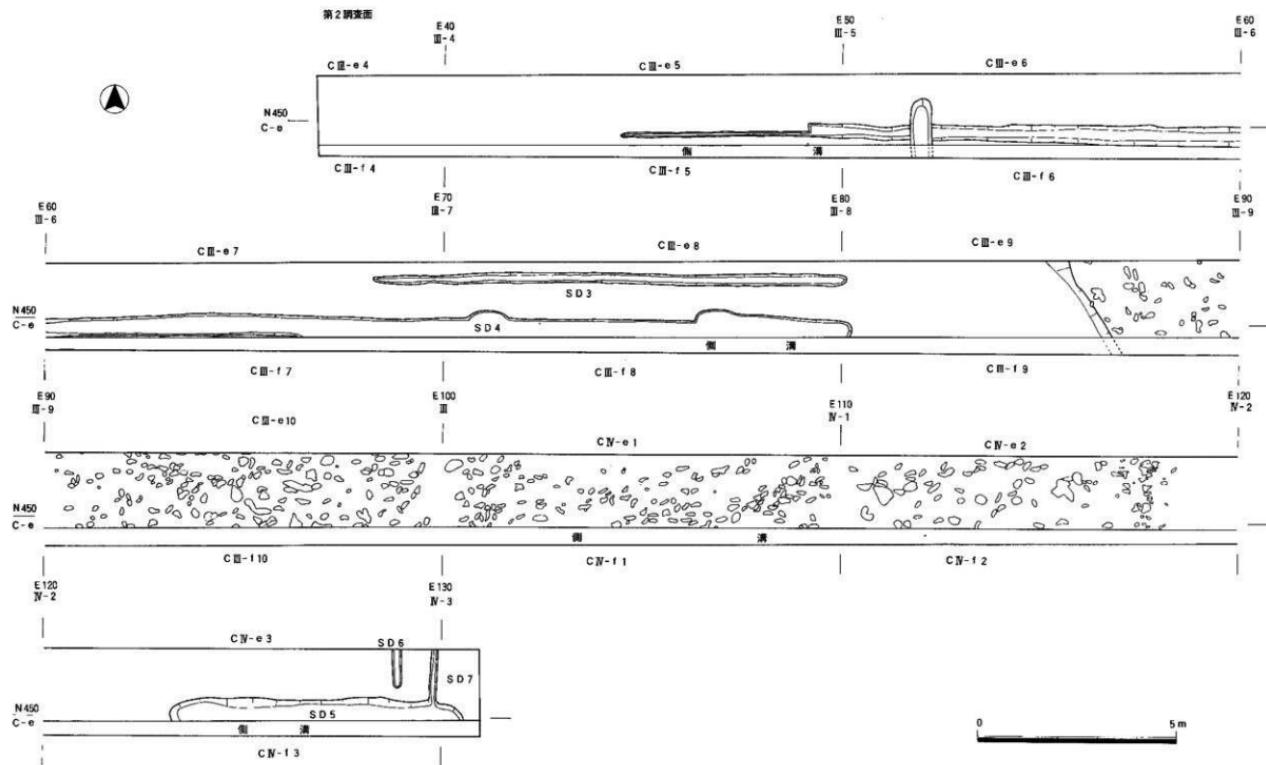


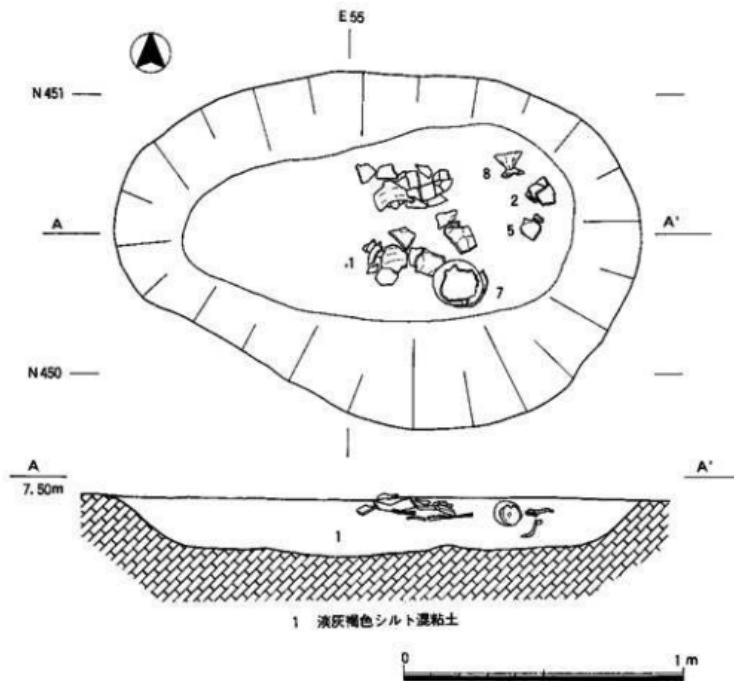
図107 第5調査区地質断面図

1) 第1調査面(弥生時代後期~古墳時代前期)

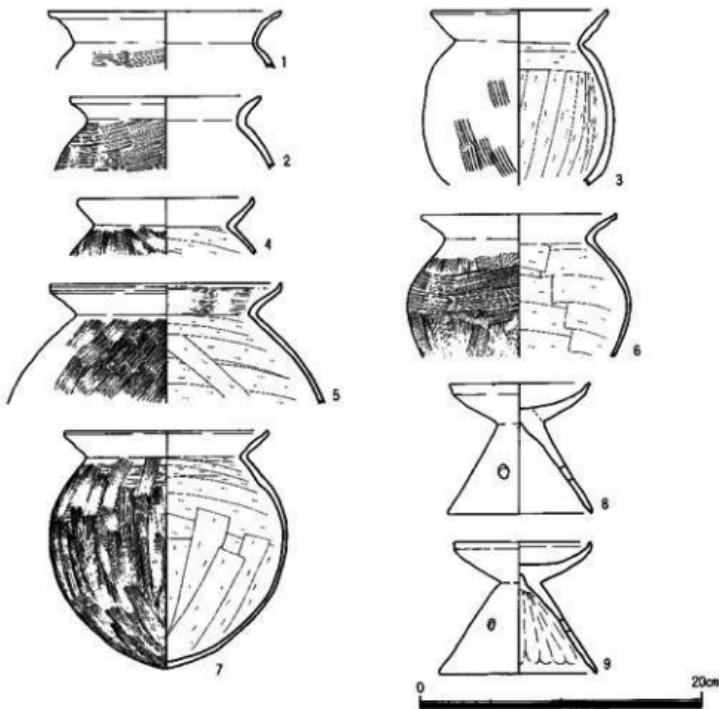
土坑(SK)

SK1

C III-e 6 区で検出した。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径1.88m、南北径 1.24m、深さ16cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の1層である(第108図)。遺物は、内部から古墳時代前期(庄内式古相)に比定されるV様式系壺(1~3)・庄内式壺(4~7)・器台(8・9)・高杯などの破片が少量出土している(第109図)。



第106図 SK1 平断面図



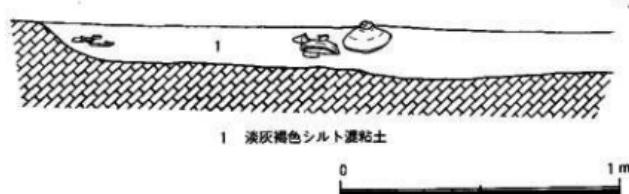
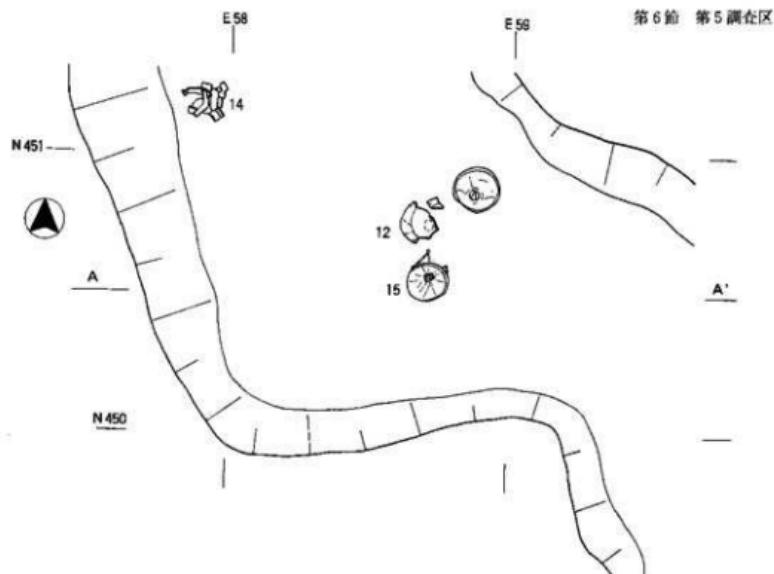
第109図 SK 1出土物実測図

SK 2

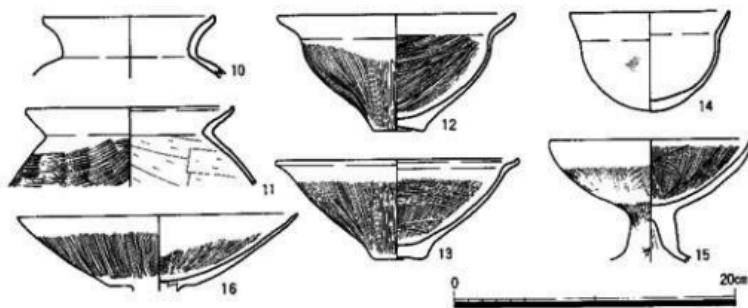
C III-e 6～f 6区で検出した。南北はともに調査区外に至る。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、東西5.9m、南北2.1m、深さ15cmを測る。断面は、浅い逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である（第110図）。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定されるV様式系甕（10）・庄内式甕（11）・鉢（12～14）・高杯（15・16）の破片が少量出土している（第111図）。

SK 3

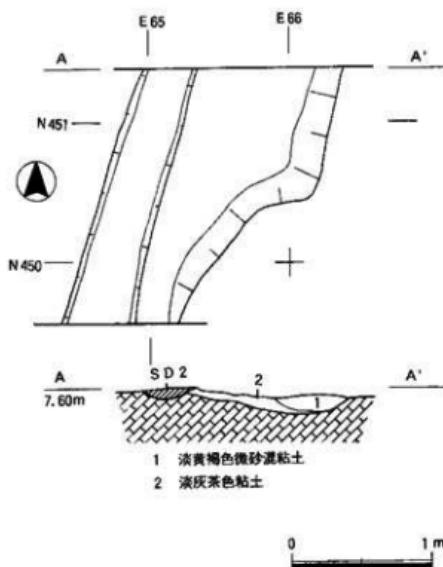
C III-e 7～f 7区で検出した。SD 2が縦断するかたちで切っており、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、東西96cm、南北2m以上、深さ16cmを測る。平面面の形状は、



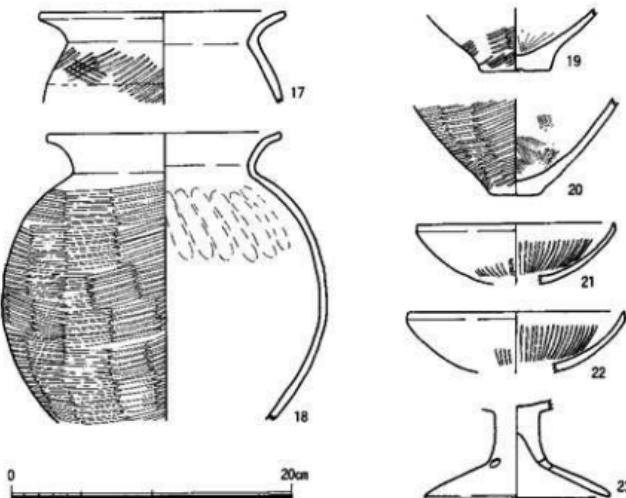
第110図 SK 2 平断面図



第111図 SK 2 出土遺物実測図



第112図 SK 3 平断面図



第113図 SK 3出土物実測図

不明である。堆積土は、淡黄褐色微砂混粘土・淡灰茶色粘土の2層である（第112図）。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるV様式系甕（17～20）・鉢（21・22）・高杯（23）などの破片が少量出土している（第113図）。

SK 4

C III-e 8-f 8区で検出した。南北はともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西1.8～2.2m、南北2.2m以上、深さ20cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である（第

114図)。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるV様式系壺(24)などの小片がごく少量出土している(第115図)。

S K 5

C III-e 8-f 8区で検出した。南北はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西3.76-4.16m、東西2.2m以上、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の1層である(第116図)。遺物は、中央の北壁から古墳時代前期に比定される壺(25・26)2点と木片1点が出土している(第117・118図)。

S K 6

C III-e 9-f 9区で検出した。北部はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.4-1.8m、南北2.2m、深さ12cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

S K 7

C III-e 9区で検出した。北部は調査区外に至る。平面は検出部で、半円形を呈する。規模は検出部で、東西0.92m、南北3m、深さ14cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である。遺物は出土していない。

溝(S D)

S D 1

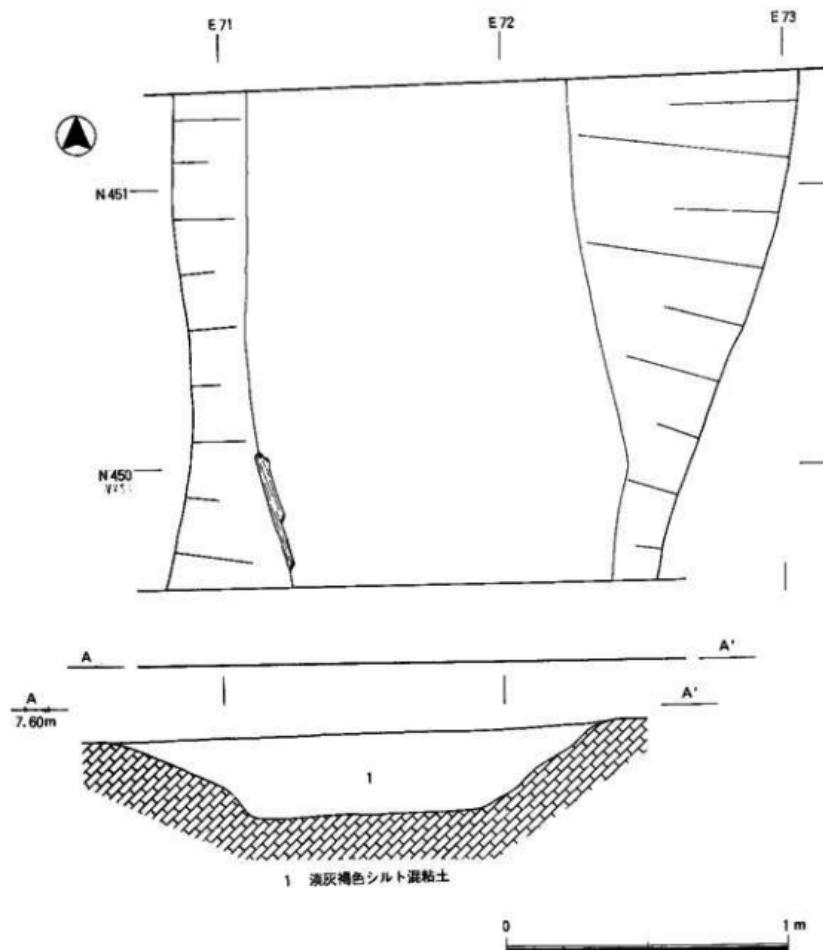
C III-e 6-f 6区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅34-40cm、深さ9cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の1層である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

S D 2

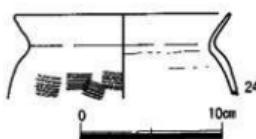
C III-e 7-f 7区で検出した。方向は、ほぼ南北方向を示す。SK 3を切り、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅40cm、深さ7cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰色シルトである。遺物は出土していない。

石集積

C III-e 5区で検出した。平面の形状は楕円形で、平らな石(径20-25cm、厚み5cm)1個と、その周囲に數十個の小石(径2-8cm)が集積しているのを検出した。東西約70cm、南北約85cmを測る。検出面は、古墳時代前期の遺構面と同じ第6層上面である。小石内に混ざっている土層は、灰褐色細砂混粘質土である(第119図)。遺物は、小石に混ざっている土師器の小片がごく少量出土している。



第114図 SK 4 平断面図



第115図 SK 4出土遺物実測図

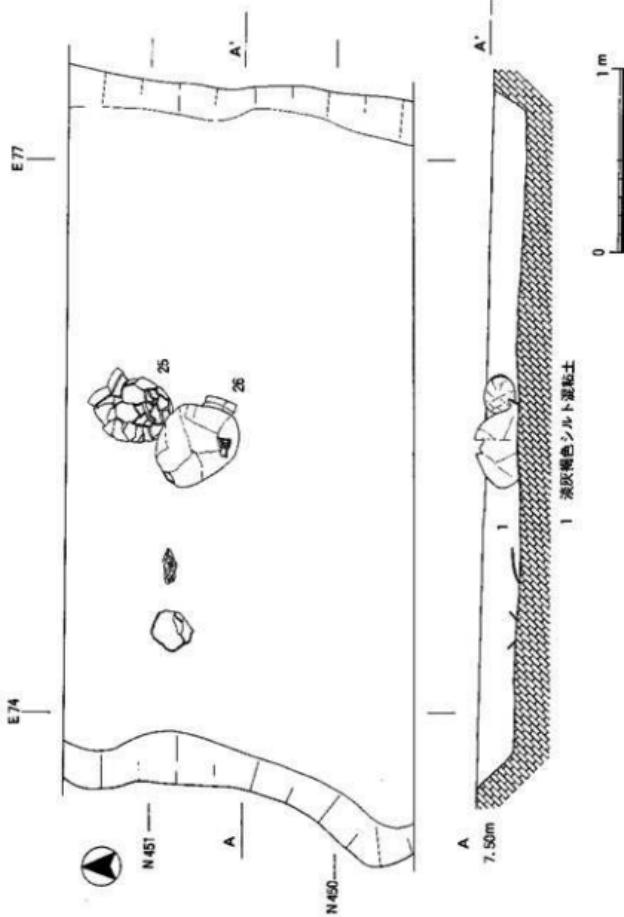
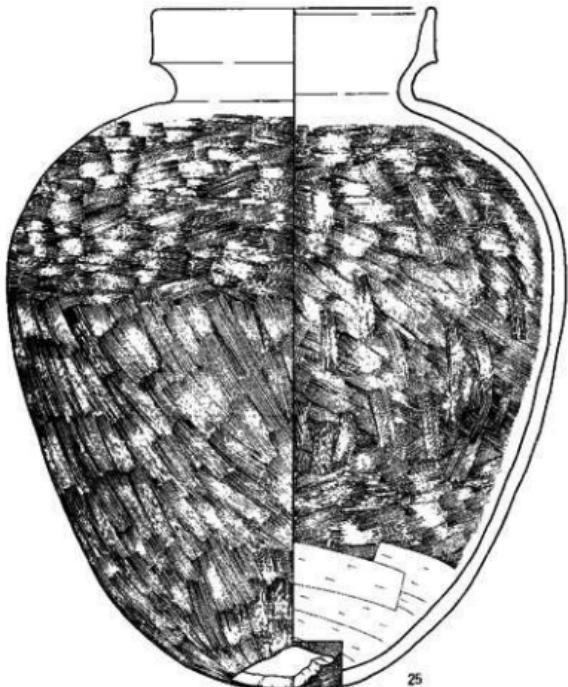


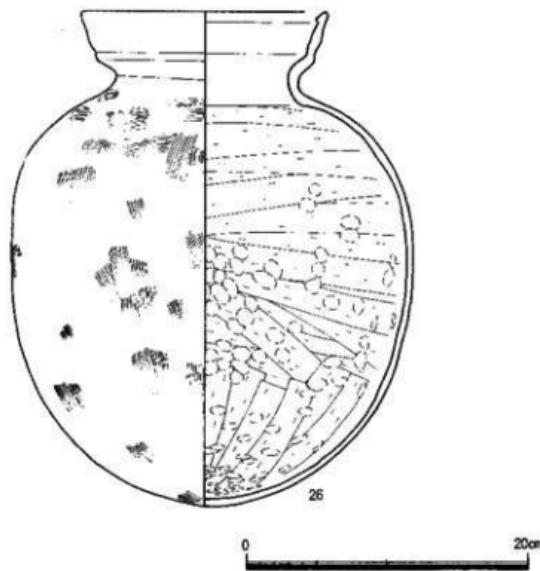
図1165 SK-5検出線形断面図



25



第117図 SK5出土遺物実測図1



第118図 SK 5 出土遺物実測図 2

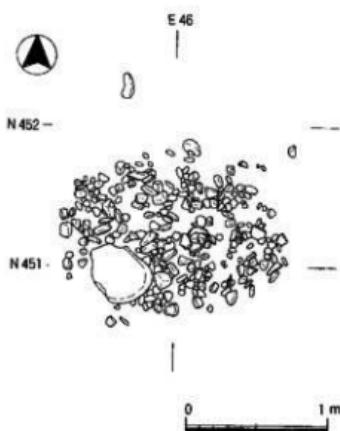
2) 第2調査面 (鎌倉時代)

水田

調査区の中央部で検出した。東西はともに江戸時代以降の上層できられており、水田面は東西約23mの部分だけが遺存していた。水田面には無数の足跡が見られたが、水田面を区画する珪時は調査区内では検出しなかった。足跡の形状には円形・楕円形・不定形などさまざまな形があり、大きさは5~30cmを測る。深さは3~15cmを測り、深いものが多い。これらの足跡には人のものと考えられる足跡がいくつか見られた。

SD 3

CⅢ-e 7~e 8区で検出した。方向は東西



第119図 石集積平面図

方向を示し、西部の一部が搅乱されている。規模は検出部で、検出長36m、幅10~80cm、深さ8~16cmを測り、西側に行くに従い細くなっている。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代~鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

SD 4

C III-f 5~f 8区で検出した。方向は、東西方向を示す。規模は検出部で、検出長12m、幅18~30cm、深さ10~15cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代~鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

SD 5

調査区の東部C IV-e 3で検出した。方向は東西方向を示し、北東部でSD 7が合流している。規模は検出部で、検出長約7.4m、幅70~80cm、深さ8~10cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代~鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

SD 6

調査区の東部C IV-e 3区で検出した。方向は南北方向を示し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、検出長95cm、幅20~24cm、深さ5cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は出土していない。

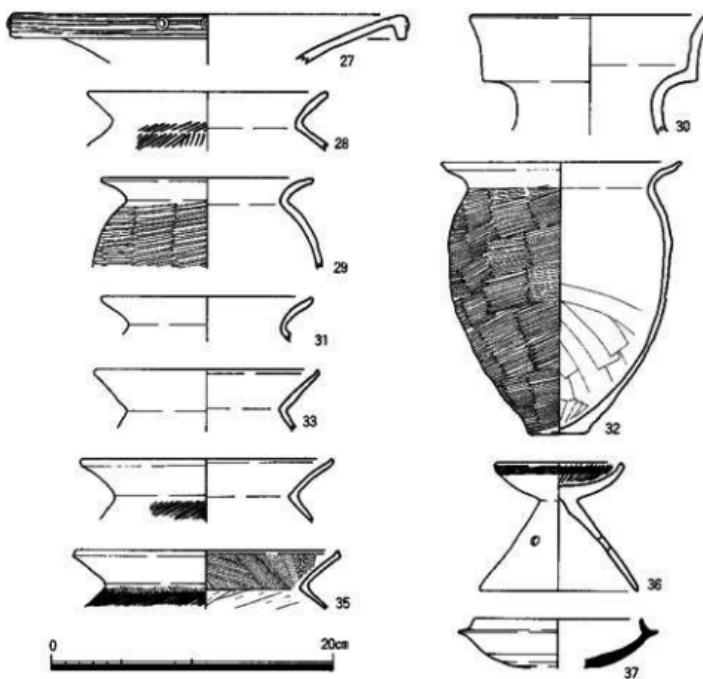
SD 7

C IV-e 3区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はSD 5に合流し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅16~18cm、深さ8cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、灰褐色細砂混粘質土の1層である。遺物は出土していない。

3) 遺構に伴わない出土遺物

第3・5層から出土している。時期は、弥生時代後期~鎌倉時代に至るものである。出土量は、コンテナ箱にして約1箱分で、ほとんどが第5層からの出土である。以下、図示できた遺物について記す。

第5層内から出土したものは、弥生時代後期に比定される壺(27)・甕(28・29・31・32)、古墳時代前期に比定される複合口縁壺(30)・庄内式壺(33~35)・器台(36)である。第3層内から出土したものは、古墳時代後期に比定される須恵器(II型式1段階)の杯身(37)である(第120図)。



第120図 造柄に伴なわない出土遺物実測図

第1調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (cm)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 (土師器)	口径	13.0		口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
2	同上	口径 高 最大径	12.6 15.2 15.3	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ(6本)、内面ヘラナダ。	赤褐色～暗茶褐色	4.5 mm以下の長石・石英・チャート・角閃石・雲母・水晶・色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好	
3 三一	SK 3				外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	1 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
3 三一	同上	口径 器高	11.3 6.9	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は丸底。体部内面中位に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面ナダ後ハケナダ、内面ナダ、内面ナダ・掘削痕。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	1 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
4 三一	高杯 (土師器)	口径	12.2	深い円錐形の杯部から上方へ内湾する口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 杯部外面ハケナダ(12本)、内面放射状刻文。	赤褐色	3 mm以下の長石・赤褐色酸化鉄等の砂粒を含む。	良好	
5 三一	同上	口径	12.6	浅い円錐形の杯部で、口縁部は丸く終わる。端部は外方へ伸びる。底部は欠損。 杯部外面ナダ後ハケナダ(10本)、内面ナダ後放射状刻文、脚部外側ハケナダ(10本)、内面しづり目。	外 淡茶褐色 内 暗灰色	2 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
6 三一	同上	口径	13.4	浅い円錐形の杯部から上方へ内湾する口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は下外方へ伸びる。底部は欠損。 杯部外面ナダ、内面刻痕の為調整不明、脚部外側上位ハケナダ(8本)、中位以下ヘラによる面とり、内面くりぬき。	赤褐色	2 mm以下の長石・チャート・赤褐色酸化鉄・雲母等の砂粒を含む。	良好	
7 SK 3	高杯 (須恵器)	口径	15.8	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底底部・脚部は欠損。杯部外側下位10条1番の波状文を施す。 杯部内外面回転ナダ。	淡灰色	1 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	杯部内面上位に灰かぶり。 ロクロ左方向。
8 SK 3	小豆莢 (土師器)	口径	7.6	口内方に内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 底部は水平に伸び、尖く尖る。立ち上がり高1.2 受部律14.0 立ち上がり高1.2	淡灰茶色～淡茶色	2 mm以下の砂粒を多量に含む。	良	
9 SK 5	杯身 (須恵器)	口径	12.2	底底部は上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、尖く尖る。立ち上がり高1.2 立上がり高1.2	乳白色	3 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	底体部外側に自然輪付帯。
10 SK 5	蓋 (須恵器)	口径	17.7	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は丸く尖る。体部中位以下は欠損。口縁部外面には2条対の縦に2箇所と、底部外面に1条の縫が施る。その後の縫にはそれぞれ上から1条、9条、11条3条の波状文が施されている。体部外側では2条の縫があり、その間に4条1番の波状文を施す。 体部内面上位ハケナダ(11本)、他は回転ナダ。	淡灰色～灰黑色	2 mm以下の砂粒を含む。	良好	ロクロ右方向。

第1調査区

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
11 三一	鑿 (土器)	口 径	11.4	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 外方へ内溝部に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (11本)、内面ナデ。	茶褐色	5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
12 三一	鉢 (土器)	口 径	8.2	半球形の杯部で、口縁端部は丸い。 外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	完形。
13 三一	鉢蓋 (土器)	口 径	22.8	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。端部外側には縦が付く。底部は水平 に伸び、端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)、 体部外面ハケナデ(10本)、内面ハラナデ。	乳茶灰色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
14 三一	杯身 (須恵器)	口 径	11.8	やや深く丸味をもつ底体部から外方へ伸 び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。 立ち上がり高 1.7	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
SK 6		受部径	5.7					
		立上がり高	13.8					
		立上がり高	1.9					
				底体部外縁1/2 回転へラ削り、他は回転ナ デ。				
15 SK 6	同上	口 径	10.7	上外方へ内溝して伸びる杯体部から受部に 至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がり は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。底部 は欠損。 底体部外面ハラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	底体部外縁 丸かぶり。 ロクロ左方 向。
		受部径	14.9					
		立上がり高	7.4					
16 SK 6	同上	口 径	10.4	上外方へ内溝して伸びる杯体部から受部に 至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がり は上外方へ外反気味に伸び、端部は内傾する 形をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。
		受部径	12.6					
		立上がり高	1.7					
17 SK 6	同上	口 径	12.7	上外方へ伸びる杯体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内 方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
		受部径	14.9					
		立上がり高	1.4					
18 三二	同上	口 径	13.0	やや浅い底体部から受部に至る。受部は水 平に伸び、丸く尖る。立ち上がりは上内方へ 外反気味に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 底体部外縁1/3 回転へラ削り、内輪1/6 不 定方向のナデ。他は回転ナデ。	灰黒色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
		受部径	3.8					
		立上がり高	1.6					
		立上がり高	1.3					
SK 6								
19 SK 6	同上	口 径	14.1	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は水平に伸び、丸く尖る。立ち上がりは上 内方へ外反して伸び、端部は丸い。底部の一 部は欠損。 底体部外縁1/3 回転へラ削り、他は回転 ナデ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	底体部外縁 約1/3 丸か ぶり。 ロクロ方向 不明。
		受部径	16.4					
		立上がり高	1.0					
20 三二	鉢 (須恵器)	口 径	0.7	上内方へ内溝して伸びる体部から上方へ外 反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。体部外面には1条の縫がある。 体部外面下部不定方向のナデ。他は回転ナ デ。	灰青色	微砂粒を微 量に含む。	良好	ロクロ方向 不明。
SK 6								
21 三二	鑿 (須恵器)	口 径	12.2	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外 反して伸びる口縁部へ至る。端部は丸い。 底部は丸い。端部は欠損。底部は欠損。体部中 位には円孔、縫が穿かれている。 体部外面中位以下回転へラ削り、他は回転 ナデ。	灰青色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	ロクロ方向 不明。
SK 6								
22 SD 2	鑿 (土器)	口 径	15.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸 い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶褐色	微砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調葉等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23 (上部器) SD 2	口径	23.1		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へ肥厚し、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の 茎葉等の砂粒を多量に 含む。	良好	
24 (上部器)	口径	23.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ 肥厚し、外側の表面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ (7本)、内面ヘラナデ。	暗茶褐色	3mm以下の 茎葉等の砂粒を少量 含む。	良好	
三二 SD 2								
25 SD 2	同上	口径	26.7	体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。 端部は内側の表面をもち、1箇所に注ぎ 口がみられる。体部下位は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	微砂粒を少 量含む。	良好	
26 SD 2	杯 (十脚器)	口径	14.3	平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸び る口縁部に至る。端部は丸い。体部外側に 2本の縦合氣を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、口縁部・体部内外面 ヘラナデ。	乳茶褐色	微砂粒を少 量含む。	良好	
27 SD 2	高杯 (十脚器)	底径	12.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後足部 に外下方へ外反して開く底部に至る。端部 は下方へつまみ出す。 柱状脚外側ハケナデによる面とり、内面く りぬき、器部内外面ヨコナデ。	乳茶赤色	微砂粒を少 量含む。	良好	
28 SD 2	羽蓋 (十脚器)	口径	31.2	上方へ伸びる体部から屈曲して上外方へ伸び る口縁部に至る。端部は丸い。脚部は水平 に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面、体部外面ヨコナデ、内面ヘ ラナデ。	茶褐色	3mm以下の 茎葉等の砂粒を少 量含む。	良好	器部外面下 位に裏付素
三二 SD 2								
29 SD 2	同上	口径	25.4	体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。 端部は内方へ若干肥厚する。脚部は水平 に伸び、丸い。体部は欠損。内面に1本の 縦合氣を有する。 内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	3mm以下の 茎葉等の砂粒を微 量に含む。	良好	
30 SD 2	同上	口径	28.2	体部は上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。脚部は水平に伸び、丸い。 体部は欠損。 外側ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、指 痕跡	茶褐色	微砂粒を多 量に含む。	良好	
31 SD 2	杯盤 (須志器)	口径	14.8	半周で低い天井部から外下方へ直線的に伸び る口縁部に至る。端部は下方へつまみ。 天井部は偏平な瓦敷状のつまみがある。 天井部外側向拵(マガリ)、つまみ、器部内 外側向拵ナデ、内面不定方向のナデ。	外淡灰褐色 内乳茶褐色	微砂粒を少 量に含む。	良好	ロクロ右方 向。
32 SD 2	同上	口径	15.2	天井部は斜下方へ伸びる口縁部に至る。端 部は下方へつまみ。天井部の一部は欠損。 大井部外側向拵(マガリ)、1脚部外側向拵 ナデ、内面不定方向のナデ。	灰青色	微砂粒を少 量に含む。	良好	ロクロ左方 向。
33 SD 2	壺 (須志器)	底径	10.8	体部上位以上は欠損。底部の底部から屈曲 し、上外方へ伸びる。 内外面不定方向のナデ。	灰青色	3mm以下の 砂粒を少 量に含む。	良好	底部内面灰 色あり。 ロクロ方向 不明。
34 SE 1	小皿 (上部器)	口径	9.0	平らと思われる底盤から上外方へ内湾気味 に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底盤の 一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5mm以下の 砂粒を微 量に含む。	良好	
35	同上	口径	9.4	やや丸味をもつと思われる底盤から上外方 へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方 へ肥厚する。底盤は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5mm以下 の砂粒を微 量に含む。	良好	

第1調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	底点 基高	形態・調整等の特徴	色調	地土	後成	備考
36 三三	小皿 (七脚器) SE 1	口 径	8.6	やや斜んだ底部から唇曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
37	同上 SE 1	口 径	9.2	丸味のある底部から唇曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
38 三三	同上 SE 1	口 径	9.0	平坦な底部から唇曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	2mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
39	同上 SE 1	口 径	8.5	丸味のある底部から唇曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
40	碗 (瓦器) SE 1	口 径	14.2	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。 底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外側ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、 高台外側ヨコナデ。	灰褐色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
41	同上 SE 1	口 径	14.6	杯体部は上外方へ内側して伸び、口縁部は直ぐに外反する。端部は丸い。底部は欠損。 外側ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、 見込みは格子状紋。	灰褐色	1mm以下の砂粒を少量に含む。	良好	
42	同上 SE 1	口 径	15.1	やや浅い半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。 底部外面には断面逆台形の高台が付く。 内面ナデ後ヘラミガキ、高台外側ヨコナデ、見込みは格子状紋。	乳灰色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
43 三三	同上 SE 1	口 径	14.3	半球形の杯体部で、口縁端部は直ぐに外反し 端部は丸く終わる。底部外面には断面逆二角形の高台が付く。 端部内側ヨコナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、 見込みは不規則形の堆積状跡。	乳灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
44	同上 SE 1	口 径	14.6	半球形と思われる杯体部で、口縁端部は丸く終わる。底部は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
45	同上 SE 1	口 径	15.0	杯体部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。体部中段以下は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ。	灰褐色	1mm以下の砂粒を少量に含む。	良好	
46	同上 SE 1	口 径	14.8	半球形と思われる杯体部で、口縁端部付近では器底を裁いて鍛く尖る。表面は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰褐色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
47	同上 SE 1	口 径	14.8	半球形と思われる杯体部で、口縁端部は僅かに外反し、端部は丸く終わる。底部は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰褐色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
48	同上 SE 1	口 径	15.0	半球形と思われる杯体部で、口縁端部は内方へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ。	黑灰色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
49	小皿 (上層器) SE 3	口 径	8.5	若干歪みをもつ底部から外上方へ伸びた後 外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。 端部は内方へ肥厚し、丸く終わる。 口縁部内外面、内面ヨコナデ、底部外面ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
50 三三	同上 SE 3	口 径	9.4	丸味をもつ底部から外上方へ外反して伸びる 口縁部に至る。端部はつまり上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
51 S1	小皿 (土器)	口 径 器 高	9.2 2.0	丸みのある浅い底部から外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部の一部は欠損。 口縁部外面・内面ヨコナダ、底部外面ナダ。	乳茶色	微砂粒を微量に含む。	良好	口縁部外側上位に黒斑有。
52 S2	同上 SE 3	口 径 器 高	10.0 2.3	丸味をもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	底部内外側に焼付有。
53 S3 三三	同上 SE 3	口 径 器 高	10.0 2.0	丸味をもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。	良好	底部内外側に焼付有。
54 S4 三三	中皿 (土器)	口 径	14.7	上外方へ伸びる侈花から口縁部に至る。端部は外に面をもち、沈線が盛る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
55 S5 三三	同上 SE 3	口 径 器 高	15.7 2.8	広く平坦な底盤から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
56 S6 三三	小皿 (瓦器)	口 径 器 高	9.8 2.3	丸味をもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ出し、丸く終わる。 内面ヘラミガキ。	墨灰色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
57 S7 三三	碗 (瓦器)	口 径 器 高 底 径	15.8 6.0 7.2	底盤が平坦な下蝶形の杯底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底盤外側には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ナダ後ヘラミガキ、見込みは平行状ヘラミガキ、高台ヨコナダ、底部外面ナダ。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
58 S8 三三	割上 SE 3	口 径 器 高 底 径	15.9 6.1 6.9	深い半球形の杯底盤から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ナダ後ヘラミガキ、下位指痕、内面審なヘラミガキ、高台ヨコナダ。	外 淡茶灰 内 黑褐色	微砂粒を微量に含む。	良好	完形。
59 S9 三三	碗 (黑色土器)	口 径 器 高 底 径	15.4 4.8 7.8	半球形の杯底盤からそのまま口縁部に至る。 端部は純く尖る。底部外側には断面逆三角形の高台が付く。 外側ナダ後ヘラミガキ、下位指痕、内面審なヘラミガキ、高台ヨコナダ。	外 灰褐色 内 黑褐色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に黒斑がみられる(解説不明)。
60 S10 三四	ミニチュア (高杯 (土器)	口 径 器 高 SE 8	6.6	浅い半球形の杯底盤から口縁端部に至る。 端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナダ、内面ヘラナダ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
61 S11 三四	小皿 (土器)	口 径 器 高	9.2 1.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、その他はナダ。	乳茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
62 S12 三四	同上 SE 8	口 径 器 高	9.4 1.6	平らに近い底部から斜外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、その他はナダ。	乳茶褐色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
63 S13 三四	同上 SE 8	口 径 器 高	9.4 1.6	平らに近い底部から斜外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、その他はナダ。	乳茶色	微砂粒を微量含む。	良好	完形。
64 S14 三四	台付小皿 (土器)	口 径 器 高 底 径	9.2 4.4 4.5	杯部は平坦な底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。高台は下外方へ直角的に伸びる。端部は丸い。 内外面ヨコナダ。	乳茶色	微砂粒を含む。	良好	完形。

第1調査区

遺物番号 国版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・構造等の特徴	色	調 釉	胎 土	焼成	備考
65 三四	内付小皿 (土師器) SE 8	口 径 10.3 器 高 5.3 底 径 5.4		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はト外方へ反気流に伸びる。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ、高台内外面ヨコナデ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。		良好	完形。
66 三四	中腹 (土師器) SE 8	口 径 14.8 器 高 3.1		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ、指頭痕、内面ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を含む。		良好	完形。
67 三四	同上 SE 8	口 径 17.7 器 高 2.7		平底な底盤から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、指頭痕、内面ナデ。	乳茶黃色	微砂粒を少 量含む。		良好	
68 三四	小皿 (瓦器) SE 8	口 径 8.8 器 高 2.4		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。 口縁部ヨコナデ後へラミガキ、底部外面ナデ後へラミガキ、見込みは斜行状断文。	淡灰褐色	微砂粒を少 量含む。		良好	完形。
69 三四	同上 SE 8	口 径 8.9 器 高 2.5		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ後へラミガキ、内面へラミガキ。見込みは平行状断文。	黑灰色	微砂粒を少 量含む。		良好	完形。
70 三四	同上 SE 8	口 径 9.4 器 高 2.7		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面へラミガキ。	墨灰色	1 mm以下の 砂粒を少量含む。		良好	
71 三四	楕 (瓦器) SE 8	口 径 15.6 器 高 5.4 底 径 6.2		半球形の杯体部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内外面へラミガキ、高台ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは感子状断文。	黒灰色	微砂粒を少 量含む。		良好	
72 三四	同上 SE 8	口 径 15.7		上外方へ内溝して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後へラミガキ。	外 乳灰色 内 黑灰色	微砂粒を微量 に含む。		良好	
73 三四	同上 SE 8	口 径 14.4		半球形の体部から上外方へ外反気流に伸びる口縁部に至る。端部は約傾する面をもつ。 底部は欠損。 底部へ指頭痕後へラミガキ、内面へラミガキ。	黒灰色	微砂粒を少 量含む。		良好	
74 三四	羽釜 (土師器) SE 8	口 径 34.0		上内方へ内反気流に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気流に伸びる口縁部に至る。端部は内へとみ上げる。開口部は水平に伸び、端部は丸い。体部中央以下は欠損。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面へラミガキ。	乳茶褐色	3 mm以下の 砂粒を少量含む。		良好	
75 三四	小型壺 (瓦器) SE 8	底 径 3.5		口縁部は欠損。椭円形の体部で、底盤は平底。 内外面回転ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少 量含む。		良好	ロクロ方面 不明。
76 三五	小皿 (土師器) SE 9	口 径 9.4 器 高 1.6		若干丸味をもつ底部から上外方へ内溝気流に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	4.5 mm以下の 砂粒を少量含む。		良好	完形。
77 三五	同上 SE 9	口 径 9.5 器 高 1.9		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	2 mm以下の 砂粒を微量に含む。		良好	完形。
78 三五	同上 SE 9	口 径 9.5 器 高 2.0		丸い底盤から斜上方へ内渦気流に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	3 mm以下の 砂粒を微量に含む。		良好	完形。

遺物番号 国版番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
79 三五	小皿 (土器)	口 径 器 高	9.7 1.4	広く平坦な底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
80 三五	同上	口 径 器 高	10.2 1.6	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ内湾状に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
81 三五	小皿 (丸器) SE 10	口 径 器 高	9.4 1.9	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外側ヘラミガキ、内圓ナダ後ヘラミガキ。	灰黑色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
82 三五	碗 (瓦器)	口 径 器 高 底 径	15.2 5.7 5.6	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。 底部外側には断面逆三角形の轍窓が付く。口縁部外側に沈れが落ちる。 内外面や低いヘラミガキ、底部外側ヨコナダ、底部外側ナダ、見込みは桔子状摩文。	墨灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
83 三五	同上	口 径 器 高 底 径	16.3 5.7 6.2	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。 底部外側には断面逆三角形の轍窓が付く。 内外面ナダ後低いヘラミガキ、轍窓ヨコナダ、底部外側ナダ、見込みは新桔子状摩文。	墨灰色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
84 三五	同上	口 径 器 高 底 径	14.8 5.9 5.3	半球形の杯体部で、口縁端部は上外方へ外反して丸く終わる。内側には沈れが落ちる。 底部外側には断面逆三角形の轍窓が付く。 内側ハケナダ後低いヘラミガキ、外側低いヘラミガキ、轍窓ヨコナダ、底部外側ナダ、見込みは平行状摩文。	淡灰色	0.5mm以下の砂粒を多量含む。	良好	完形。
85 三五	杯 (土器)	口 径	11.2	丸味をもつと思われる底部から外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は僅かに尖り上げ、外側に小さな面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部外側・内面ヨコナダ、体部外側ナダ。	外 乳茶色 内 乳茶灰色	1mm以下の砂粒を少度含む。	良好	
86 SP 69	杯 (須恵器)	口 径 器 高 底 径	14.0 4.2 12.4	やや高く丸味をもつ天井部から外下方へ伸び、程に尖る。口縁部は下外方へ内側で伸び、底部は内側し、段をもつ。 大井部約1/3回転へ割り、他は回転ナダ。	外 灰褐色 内 淡灰色	3mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
87 SP 13	杯 (須恵器)	口 径	8.7	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 底部外側不定方向のナダ、他は回転ナダ。	淡灰色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	内面状かぶり。 ロクロ方向不明。
88 三五	小皿 (土器)	口 径 器 高	9.6 1.7	丸味をもつ底部から斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナダ。	乳茶色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
89 包含層	甕 (土器)	底 径	10.6	体部以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。 底部は突出しない平底。 内外面磨耗の為調整不明瞭。	乳茶色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
90 包含層	同上	底 径 蓋大径	6.0 20.3	体部中位以上は欠損。体部は偏平な球形と思われる。底部は突出した瘤み底。 外側底部の為調整不明瞭。内面ハケナダ(7本)後ヘラナダ。	乳灰橙色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
91 包含層	同上	口 径	21.0	上方へ伸びる頭部から曲面し、外上方へ伸びた後屈曲して上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。頭部内面に1本の接合痕がある。 頭部外側ハケナダ(8本)後ヨコナダ。他はヨコナダ。	外 素褐色 内 淡灰茶色~淡茶褐色	3.5mm以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土 場所 (cm)	地點 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
92 包含層	裏 (土師器)	LJ 径 12.2 基 高 10.1 底 径 2.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸い。底部は突出した平底と思われる。頭尾に1本の接合縫を有する。 口縁部外側ハケナデ(30本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外側調整不規則、内面ヘラナデ。	外 淡茶色 内 淡茶褐色～茶褐色	2mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	内面の一部 に焼付着。
	包含層							
93 包含層	同上	LJ 径 13.2		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハケナデ(10本)、内面ヨコナデ(10本)後ヘラ削り。	外 乳白色 内 淡茶褐色	1mm以下の 長石・雲母 石英・赤褐色 化粧粘土等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
	包含層							
94 包含層	同上	口 径 22.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハケナデ(9本)、内面ハケナデ(10本)後ヘラ削り。	淡茶色	4.5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包含層							
95	同上	口 径 15.8		LJ 端部は上外方へ内溝して伸び、端部は内方へ膨厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。内面ヨコナデ。	淡茶色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
96 包含層	同上	LJ 径 15.8		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ(5本)後ヨコナデ、内側・体部外側ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包含層							
97 包含層	体 (土師器)	口 径 15.0 器 高 7.6		偏平か半球形の杯体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。折腹、内面ナデ。	淡茶褐色	1.5mm以下の 長石・チャート・赤褐色化粧粘土等の砂 粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
98 包含層	同上	LJ 径 11.6		上外方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部外側ヨコナデ、体部内外側ヨコナデ。	乳茶灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包含層							
99 包含層	同上	口 径 12.6		上外方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上方へ屈く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 体部内側下位に1本の接合縫を有する。 口縁部外側ヨコナデ、体部内外側ナデ。	外 赤褐色 内 淡灰茶色	1.5mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良好	
	包含層							
100 三五 包含層	小型甕 (土師器)	LJ 径 7.2 器 高 8.4 最大径 8.4		偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方へ僅かにつまみ出る。底部は丸底。体部内側に1本の接合縫を有する。 口縁部外側ヨコナデ、体部内外側ナデ、内面上位ナデ、下位折ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	4mm以下の 長石・角閃石・石英等の砂粒を微 量含む。	良好	
	包含層							
101 三六 包含層	ミニチュア の高杯 (土師器)	口 径 3.7 器 高 7.6 底 径 5.6		外下方へ伸びる杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は外方へ伸びる状態から屈曲し、外下方へ伸びる底部に至る。端部は丸い。 柱状部内面にはり目、他はナデ。	茶褐色	1.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							

遺物番号 回収者号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102	高杯 (土器類) 包含層	口径	12.6	平らに近い杯底部から上外方へ内凹して伸びるL型底部に至る。端部は尖り、脚部は欠損。 杯部外面ヨコナゲ、杯底外部ハケナゲ(10本)、内面ハケナゲ(6本)後放射状暗文。	乳灰茶色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
103	同上	口径	10.9	杯部は「外方へ内湾して伸びるL型底部に平ら」。 端部は丸い。杯底部以下は欠損。 杯部外側ハケナゲ(10本)、内面ヨコナゲ。	淡茶灰色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
104	同上 包含層	口径	12.8	杯部は上外方へ内凹して伸びる。端部は上に面をもつ。杯底部以下は欠損。 杯部外面ハケナゲ(11本)、内面ヨコナゲ。	乳茶色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
105	同上 包含層	口径	15.4	杯部は「外方へ内湾して伸びるL型底部に平ら」。 端部は丸い。杯底部以下は欠損。 口部と内面ヨコナゲ、底部外側指痕正直、内面ナギ。	灰褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
106	同上 包含層	底径	8.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸びる柱状底部から外下方へ伸びる底部に至る。 端部は内傾する面をもつ。 柱状外側面へによる凹たり、内面くりぬき、底部外側ナゲ、内面ハケナゲ(4本)後ヨコナゲ。	茶褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
三六	製陶土器 包含層	底径	3.8	口部部は欠損。平らな底面から屈曲し、上方へ内湾気味に伸びる体部に至る。 体部外側タキ(4本)、底部外側ナゲ、内面指痕ナゲ。	乳灰茶色	3mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
108	土縛 (土器質) 包含層			管状形を呈する。 ナゲ・指痕無。	淡灰茶色～灰茶色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
109	同上 三六 包含層			管状形を呈する。 ナゲ・指痕無。	灰褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
110	杯蓋 (須恵器) 包含層	L口径	11.3	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、横に丸る。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ伸び、油部は外傾する面をもつ。 天井部外側約2/3 不定方向のナゲ、他は回転ナゲ。	外 内	灰色 灰青色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好 ロクロ左方向。 天井部外側約2/3 に輪付窓。
		横径	11.2					
111	同上 包含層	口径	12.6	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、横に丸る。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外側4/5 回転ヘア削り、他は回転ナゲ	外 内	淡灰色 灰褐色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好 ロクロ右方向。 天井部内面に炭化物付着。
		器高	4.4					
		横径	10.8					
112	同上 包含層	口径	17.0	深く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、後に平ら。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外側6/7 回転ヘア削り。他は回転ナゲ。	灰色	粗糲	良好	ロクロ右方向。
		器高	5.8					
		横径	16.6					
113	同上 包含層	口径	11.0	やや低く平らな天井部から下外方へ伸び、後に平ら。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外側1/2 回転ヘア削り。他は回転ナゲ	外 内	乳灰色 灰青色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好 ロクロ右方向。
		器高	3.8					
		横径	10.4					
114	同上 包含層	口径	13.4	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、横に丸る。稜はやや鋭く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に面をもつ。 天井部外側約1/2 回転ヘア削り、内面不定方向のナゲ、他は回転ナゲ。	外 内	乳灰色 灰青色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好 ロクロ右方向。
		器高	4.3					
		横径	12.9					

第1調査区

遺物番号 国版番号	器種	出土 (m)	地點 番号	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
115 包含層	杯盤	口 径 15.8 後 径 14.8		天井部から下外方へ伸び、縁に至る。縁は 角く尖る。口盤部は下外方へ内凹気味に伸び、 端部は内傾する凹面をもつ。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
		口 径 12.8 後 径 11.6						
116 包含層	同上			天井部から下外方へ伸び、縁に至る。縁は 角く尖る。口盤部は下外方へ内凹気味に伸び、 端部は内傾する凹面をもつ。天井部は欠損。 大井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 内 底青灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 外側灰かぶ り。 天井部内側 に炭化物付 着。
117 包含層	同上	口 径 14.0 器 高 4.4		丸みをもつ大井部から外下方へ伸びる。縁 は直線なし。口盤部は下外方へ伸び、端部は 内方へつまみ下げる。 内外面回転ナデ。	外 内 底青灰色	2mm以下の 砂粒を多量に 含む。	良好	ロクロ右方 向。
118 包含層	同上	口 径 14.0		天井部は欠損。大井部から下外方へ伸びる 縁は直線なし。口盤部は下外方へ伸び、端部は 丸い。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
119 包含層	杯身 (須恵器)	口 径 11.6 受部径 13.4 立ち上がり高 1.8		受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上 方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。底部 は欠損。 内外面回転ナデ。	底灰青色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	受部外側に 釉付着。 ロクロ方向 不明。
120 包含層	同上	口 径 10.0 受部径 11.6 立ち上がり高 1.9		丸みをもつと思われる底体部から受部に至 る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上 方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外側約1/2 回転ヘラ削り、他は回転 ナデ。	底青色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
121 包含層	同上	L1 径 13.1 受部径 15.6 立ち上がり高 1.8		体部は上外方へ内凹気味に伸び、受部に至 る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは 上外方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外側約1/2 回転ヘラ削り、他は回転 ナデ。	青灰色	1.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。
122 三六 包含層	同上	口 径 12.4 器 高 5.1 受部径 15.6 立ち上がり高 1.7		深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水 平に伸び、角く尖る。立ち上がりは上外方へ 外反して伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外側約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナ デ。	底灰青色	2mm以下の 長石・チャ ート等の砂 粒を多量に 含む。	良好	ロクロ右方 向。
123 包含層	同上	口 径 11.0 受部径 13.6 立ち上がり高 1.5		体部は上外方へ内凹して伸び、受部に至る。 受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内 方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	底灰青色	精良。	良好	ロクロ左方 向。
124 包含層	同上	口 径 11.6 受部径 14.0 立ち上がり高 1.3		深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾 し、端部は丸い。 底体部外側約1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナ デ。	乳灰青色	2mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
125 三六 包含層	同上	口 径 10.8 器 高 4.5 受部径 13.0 立ち上がり高 1.0		深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾 し、端部は丸い。 底体部外側約3/5 回転ヘラ削り、他は回転ナ デ。	乳灰青色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
126 包含層	同上	口 径 14.0 受部径 16.4 立ち上がり高 1.2		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は 外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、 端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	2.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。

動物番号 同版番号	器種	出上 (cm)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色 調査	土	現成	備考
127 (須恵器)	口 径	9.0		体部は上外方へ内尚気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。内外面回転ナダ。	外 灰青色 内 乳白色	精良。	良好	ロクロ右方 向。 立ち上がり 外圓・内面 底がぶり。
128 包含層	同上	口 径 11.0 受部径 13.2 立ち上がり高 さ 0.9		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。内外面回転ナダ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
129 包含層	同上	口 径 12.0 受部径 14.6 立ち上がり高 さ 1.2		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。底部外縁1/5 回転ヘラ削り、他は回転ナ ダ。	乳灰青色	4 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
130 包含層	同上	口 径 12.0 受部径 14.0 立ち上がり高 さ 1.1		体部は上外方へ内尚気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。内外面回転ナダ。	乳灰青色	2.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
131 包含層	同上	口 径 12.4 受部径 13.9 受部径 14.8 立ち上がり高 さ 1.0		深く丸みをもつ底部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外方に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。底部外縁1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナ ダ。	外 淡灰青 色 内 灰青色	2.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
132 包含層	同上	口 径 12.7 受部径 14.6 立ち上がり高 さ 1.7		やや深く丸みをもつと思われる底部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。内外面回転ナダ。	暗灰青色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	底部外圓 底がぶり。 ロクロ方向 不明。
133 包含層	同上	口 径 13.4 受部径 15.7 立ち上がり高 さ 1.1		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外方に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。底部外縁約1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナ ダ。	外 淡灰青 色 内 暗灰青 色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
134 包含層	同上	口 径 14.2 受部径 16.0 立ち上がり高 さ 1.5		やや深く丸みをもつと思われる底部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は純く尖る。底部は欠 損。底部外縁1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナ ダ。	外 乳灰色 内 灰青色	精良。	良好	ロクロ方向 不明。
135 (須恵器) 包含層	口 径 12.0 横 径 11.8			杯部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯部中位に純く横溝がある。杯底部・脚部は欠損。内外面回転ナダ。	灰青色	2.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。
136 三六 包含層	同上	口 径 13.0		外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外傾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。内外面回転ナダ。	外 灰青色 —淡灰 色 内 淡灰青色	2 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
137 包含層	底 径 8.6			脚部は下外方へ伸びる脚部に至る。脚部は凸状を成す。杯部は欠損。脚部に三方孔の 舟形のスカシを有する。内外面回転ナダ。	淡灰青色	1 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
138 (須 須 (須 包含層				体部は上外方へ伸びる。底部はやや外方へ突出した平底。口縁部・脚部は欠損。内外面回転ナダ。	乳灰青色	3 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
139 包含層	底 径 6.4			底部は半らで、新規台形の高台が付く。口縁部・脚部は欠損。内外面回転ナダ。	乳灰青色	3 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。

第1調査区

植物番号 同番号	器 種	出 土 (m)	地 点 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	洗 成	備 考
140	器 (須恵器) 包含層	口 径	13.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内側する面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	2.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
141	同上	口 径	16.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	2 mm以下の砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
142	器 (須恵器) 包含層	口 径	11.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。口縁部外縫中に凸縦が遺る。口縁部外面に1巻1本と12本と6本の3巻の被模文が遺る。 内外面回転ナデ。	外 乳灰青 内 淡灰褐色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
143	同上	口 深	18.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 体部外曲タキ (3本)、他は回転ナデ。	灰青色	2 mm以下の 長石・チャート等の砂 粒を多量に 含む。	良好	体部外曲に 自然釉付第 ロクロ方向 不明。
144	同上	口 径	20.4	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 体部外曲タキ (3本)、内面回転ナデ。	灰青色	2 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	ロクロ左方 向。
145	同上	口 径	24.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 外曲タキ (3本)、内面回転ナデ。	外 乳灰青色 内 乳白色	3 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
146	同上	口 径	10.8	上外方へ伸びる体部から、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外曲回転ナデ、体部外曲タキ (4本)、内面回転タキ (3本)。	乳灰色	2 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
147	同上	口 径	18.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ伸びた後上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。 口縁部内外曲回転ナデ、体部外曲タキ (3本)、内面回転タキ。	乳灰青色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
148	杯 (土師器)	口 径	20.2	平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外縁部ヘラ削り後ハラミガキ、口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	外 稲茶褐色 内 淡茶褐色	2 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
149	同上	口 径	11.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 乳茶色 内 淡茶色	1.5 mm以下 の砂粒を微量 含む。	良好	
150	同上	口 径	11.0	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外曲ヨコナデ、内面ナデ、底部外曲ハケナデ、内面剥離状跡。	乳茶色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
151	同上	口 径	13.4	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外曲ヨコナデ、底部外曲ナデ、内面ナデ。	外 赤褐色 内 乳茶色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
152	同上	口 深	13.0	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外曲ヨコナデ、底部内外面ナデ。	茶褐色	3 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	

遺物番号 同版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
153	杯 (上部器) 包含層	口 径 15.1		平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。	淡茶灰色	4mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	口縁部内面 に葉付岩。
154	中皿 (上部器) 包含層	口 径 17.2 器 高 2.0		平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	2.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
155	同上 包含層	口 径 16.2 器 高 2.3		平らな底盤から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	淡灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	底盤内面に 深付着。
156	同上 包含層	口 径 14.8 器 高 3.6		平らな底盤から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	基褐色	6.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
157	同上 包含層	口 径 13.6		上外方へ内湾して伸びる底盤から口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。底盤は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	淡茶色	2.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
158	同上 包含層	口 径 15.2 器 高 2.9		平らな底盤から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ広く伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚し、丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	淡茶色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
159	同上 包含層	口 径 16.6 器 高 2.0		平らと思われる底盤から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底盤は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ、内面放射状暗文。	外 乳白色 内 暗灰褐色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
160	大皿 (上部器) 包含層	口 径 22.2		やや丸みをもつと思われる底盤から屈曲し、上外方へ外弧として伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚し、つまり上げる。底盤は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ、内面放射状暗文、放射状暗文。	外 内 茶灰色 灰茶色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
161	鉢 (下部器) 包含層	口 径 24.0		上外方へ内湾して伸びる底盤から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚する面をもつ。底盤は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	米穀色	3.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
162	高杯 (下部器) 包含層	口 径 13.0		外上方へ内湾して伸びる杯底盤から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚底は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底盤内外面ナダ、内面放射状暗文。	外 内 乳白色 赤褐色	2.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
163	同上 包含層	口 径 20.2		杯部は斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚し、つまり上げる。杯底盤以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面放射状暗文、底部外表面ナダ、内面螺旋状暗文。	乳灰茶色	2mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
164	同上 包含層	口 径 26.0		口縁部は上外方へ内湾して伸びる。端部は外傾する面をもつ。杯底盤以下は欠損。 外表面ナダ、内面暗面。	外 内 淡茶褐色 乳茶色	0.5 mm以下の 長石等の 砂粒を微量 含む。	良好	

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成備考
165 三六	高杯 (土器)	底 径 12.4		脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して伸びる部に至る。端部は下方へつまみ上げる。杯底は欠損。 柱状部外面にラによる凹とり、内面くりぬき、瓶部外面ヨコナゲ、内面ヨコナゲ後ハケナデ。	乳茶色	1mm以下の長石・ナイト・雲母等の砂粒を少量含む。	良好
	包含層						
166 包含層	壺 (土器)	口 径 22.0		LII縁部は上外方へ外反して伸び、壺部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナゲ。	外 淡褐色 内 淡茶色	0.5 mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好
167 包含層	同上	口 径 13.0		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上方外へ外反して伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 LII縁部外面ヨコナゲ、体部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	1mm以下の長石・赤褐色・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好
168 包含層	同上	口 径 16.2		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上方外へ外反して伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 LII縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナデ。	外 茶色 内 淡茶色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好
169 包含層	同上	口 径 20.4		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上方外へ外反気味に伸びるLII縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 LII縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナデ。	外 淡茶色 内 茶褐色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好
170 包含層	鉢 (土器)	口 径 33.4		上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上方外へ外反して伸びるLII縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 LII縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナデ。下位ヘラミガキ、内面ナデ。	茶褐色	1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
171 包含層	杯壺 (吸器)	口 径 14.8		平らな天井部から下外方へ伸びるLII縁部に至る。端部は下につまみ上げる。つまみは欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3mm以下の砂粒を微量含む。	良好 ロクロ右方向。
172 包含層	同上	口 径 16.6 器 高 2.2		平らな天井部から下外方へ伸びるLII縁部に至る。端部は下につまみ上げる。つまみの痕跡有り。 外外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	外 暗灰青色 内 暗青色	3mm以下の砂粒を微量含む。	良好 ロクロ右方向。 外面向て輪付裏。
173 包含層	杯身 (吸器)	口 径 12.0 器 高 3.9		平らな底盤から屈曲し、上方外へ伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	乳灰色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好 ロクロ方向不明。
174 包含層	小皿 (土器)	LII 径 7.3 器 高 1.3		平らな底盤から上方外へ外反気味に伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 LII縁部外面ヨコナゲ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好
175 包含層	同上	口 径 8.0 器 高 1.5		平らな底盤から上方外へ外反気味に伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 LII縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナデ。	乳茶色	1.5 mm以下の砂粒を微量含む。	良好
176 包含層	同上	口 径 10.0 器 高 1.3		底盤をもつ底盤から上方外へ内溝気味に伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 LII縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5 mm以下の砂粒を微量含む。	良好
177 三六	同上 包含層	口 径 9.7 器 高 2.0		丸みをもつ底盤から上方外へ内溝して伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 LII縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナデ。	乳茶色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好
178 包含層	同上 包含層	LII 径 10.0 器 高 1.5		平らな底盤から屈曲し、上方外へ伸びるLII縁部に至る。端部は丸い。 LII縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好

遺物番号 同族番号	器種	出土 地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	地 土	焼成	備考
179 三六	小皿 （土師器） 包含層	口 径 器 高 9.1 1.6	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
180	同上	口 径 器 高 8.8 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳灰茶色	1.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
181	同上 包含層	口 径 器 高 9.1 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
182 三六	同上 包含層	口 径 器 高 9.4 1.6	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡灰茶色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	完形。
183 三六	同上 包含層	口 径 器 高 9.4 1.6	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につぶす。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡灰茶色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
184 三六	同上 包含層	口 径 器 高 8.4 1.1	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
185	同上 包含層	口 径 器 高 7.4 1.5	底をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
186	同上 包含層	口 径 10.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は外側に面をもつ。底部は欠損。 内外面ヨコナダ。	乳茶色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
187	同上 包含層	口 径 器 高 7.9 1.4	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	3.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
188	同上 包含層	口 径 11.8	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヨコナダ。	乳茶色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
189	中皿 （土師器） 包含層	口 径 13.0	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡緑灰色	1.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
190	同上 包含層	口 径 13.0	上外方へ内湾気味に伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
191	同上 包含層	口 径 15.2	丸みをもつ底盤から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	1.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
192	同上 包含層	口 径 14.4	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳茶灰色	1.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
193	同上 包含層	口 径 13.6	丸みをもつ底盤から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	外 乳灰褐色 内 淡灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
194	同上 包含層	口 径 15.0	丸みをもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	乳灰茶色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

第1調査区

遺物番号 国版番号	部 種	出土 (m)	地點 器皿	形 態 ・ 調 度 等 の 特 徴	色 質	胎 土	燒 成	備 考
195 包含層	羽釜 (土鍋型)	口 径 32.0 身 徑 37.8		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外側に水平に伸びる背部が巡る。端部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
196 包含層	碗 (瓦器)	口 径 14.4 器 高 5.3 底 径 5.6		楕円形の底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面三角形の高台が付く。 外面部頭部後後にラミガキ、内面ヘラミガキ見込みは斜格子状断文、高台ヨコナデ。	灰青色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
	包含層							
197 包含層	同上	口 径 15.4 器 高 5.4 底 径 5.0		楕円形の底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面三角形の高台が付く。 外面部頭部後後にラミガキ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状断文。	乳灰黒色	精良。	良好	
	包含層							
198 三六 包含層	同上	口 径 14.2 器 高 4.8 底 径 4.8		楕円形の底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面三角形の高台が付く。 外面部頭部後後にラミガキ、指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状断文。	外 乳灰色 内 乳灰青色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
	包含層							
199 包含層	同じ	口 径 13.8		球形と思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面部頭部後後にラミガキ、内面ヘラミガキ。	外 乳灰色 内 灰黑色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
	包含層							
200 包含層	同上	口 径 15.8		上外方へ伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	帶灰色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
	包含層							
201 包含層	同上	口 径 16.6		半楕円形の底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面部、内面ヘラミガキ。	外 乳灰色 内 乳灰色 —灰黑色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
202 包含層	同上	口 径 15.8		上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	乳灰色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
203 包含層	白磁器	底 径 5.0		体部は上外方へ伸びる。底部はやや突出した上げ底。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 乳灰色 内 淡灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。 内面に粘付着。
	包含層							

第2調査区

遺物番号 団数番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色	調 査	施 上	焼 成	備考
1 三七	小鉢型 (土師器)	口 径 器 高 最大径	6.6 9.4 9.6	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内外面ナダ。	外 内	淡茶褐色 乳茶褐色	3mm以下の 長石・石英等 の砂粒を 多量に含む。	良好	完形。
2 三七	同上	口 径 器 高 最大径	9.2 8.9 9.9	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ハケナダ後ヨコナダ、内面ヨコナダ、体部外面上位ハケナダ(3本)、下位ナダ、内面指ナダ。	黒灰色	6mm以下の 長石・石英等 の砂粒を 多量に含む。	良		
3 三七	小型盤 (土師器)	口 径 器 高 最大径	7.9 8.2 9.2	最大径を上位にもつ偏平な球形の体部から 屈曲し、上外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面上位指ナダ、 内面指ナダ、底部内面指ナダ。	乳茶褐色	6mm以下の 長石・石英・ 角閃石等の 砂粒を多量に 含む。	良	完形。	
4 三七	壺 (土師器)	口 径 器 高 最大径	13.0 16.1 15.7	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部 は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面上位ハケナダ、 下位ハケナダ(6本)、内面ヘラ割り。	外 内	乳茶色 — 乳茶褐色	3mm以下の 長石・雲母・ チヤート等の 砂粒を多量に 含む。	良好	体部外面中 位以下に黒 斑有。
5 三七	壺 (土師器)	口 径 器 高 最大径	8.9 12.0 13.4	球形の体部から屈曲し、上外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面上位ハケナダ(5本)、下位ハケナダ(8本)、内面 ヘラ割り。	乳茶褐色	2mm以下の 砂粒を多量に 含む。	良好	完形。 体部外面上 位に黒斑有。	
6 三七	同上	口 径 器 高 最大径	11.0 16.4 16.1	球形の体部から屈曲し、上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 底部は丸底。 口縁部外面ヨコナダ、内面ハケナダ(5本) 体部外面上位ハケナダ、内面ナダ。	乳茶褐色 — 黑灰色	2mm以下の 長石・角閃 石・雲母・ 石英等の砂 粒を多量に 含む。	良好	完形。	
7 三七	同上	口 径	12.6	内上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部 は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部は 欠損。底部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面上位ハケナダ (3本)、内面指ナダ。	茶褐色	1.5mm以下の 長石等の 砂粒を微量に 含む。	良	体部外面に 煤付有。	
8 三八	同上	口 径	16.3	上内方へ内側して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部 は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部中 位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面上位ハケナダ (10本)、内面指ナダ。	淡茶灰色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	口縁部内面 に黒斑有。	
9 三八	高杯 (土師器)	口 径 器 高 最大径	15.6 12.0 9.6	平坦な杯底部から斜上方へ内湾気味に伸びた後外上方へ粗く外側して伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。脚部は下外方へ伸び柱状 部から斜下方へ外側して伸びる部部に至る。 端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 杯部外面上位ヨコナダ、中位ハケナダ(10本)、内面ナダ、脚部外面上位ナダ、柱状部 内面しづり目・指根状、脚部内面ナダ。	乳茶褐色	1mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を 少量に含む。	良好		
10 三八	同上	口 径 器 高 最大径	17.6 12.1 11.2	広く平坦な杯底部から斜上方へ内側して伸びた後外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は 外側する面をもち。表面には沈線が有る。脚部は下外方へ伸び柱状部から屈曲し、外下方へ 伸びる部部に至る。端部は丸い。 杯部外面上位ハケナダ(5本)、口縁部内面上 位ヨコナダ、杯部内面ナダ、脚部外面上位ナダ、 柱状部内面ハケナダによりぬき、脚部内面 ハケナダ(5本)。	淡茶褐色	3mm以下の 雲母・チヤ ート等の砂 粒を多量に 含む。	良好		

第2調査区

遺物番号 出所番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色 調	質 土	焼成	備考
11 三八	盃杯 (土師器) SD 1	口 極 14.8		平坦な杯底部から外上方へ内溝気味に伸びた後屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に生る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外側ハケナデ(5本)後ナデ、内面ナデ、柱状部内面しほり目。	淡茶褐色	2mm以下の 雲母・石英・ 赤褐色酸化 鉄等の砂粒 を多量に含む。	良好	
12 三八	同上 SD 1	口 径 18.4		広く平坦な杯底部から外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。脚部は欠損。 杯部外側面・脚部内面ナデ、内面しほり目。	外 茶褐色 内 茶褐色	4mm以下の 石英等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
13 三八	同上 SD 1	底 径 10.8		杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸びる柱状部から外下方へ外反気味に伸びて伸びる柱部に至る。端部は丸い。 杯部外側面ナデ、柱状部外側面ヘラナデ、内面しほり目、脚部内外面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・雲母・ 赤褐色酸化 鉄等の砂粒 を多量に含む。	良好	
14 三八	同上 SD 1	底 径 12.8		杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から斜下方へ外反気味に伸びる底部に至る。 端部は丸い。 脚部外側面・脚部内面ナデ、柱状部内面しほり目。	乳茶褐色	3mm以下の 長石・雲母・ 赤褐色酸化 鉄等の砂粒 を多量に含む。	良好	
19 S P 19	有蓋高杯 (須恵器) SP 19	口 極 11.0 器 高 9.0 底 径 9.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.8		やや深く丸みをもつ円錐形から上外方へ内溝して伸び、受部に至る。受部は外上方へ純くく尖る。立ち上がりは下方へ伸び、端部は内側する面をもつ。脚部は下外方へ伸び、端部は肥厚し、下方へつづみ、外側には筋がある。脚部には三方孔のスカラを有する。 杯部外側面黒刷り削り、他は同軸ナデ。	灰青色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	完形。 脚部外側灰 かぶり。 ロクロ方向 不明。
20 S P 6	杯蓋 (須恵器) SP 6	口 極 12.4 器 高 4.4 底 径 12.6		やや高く丸味をもつ円錐形から外外方へ内溝して伸びて伸び、既に至る。種は純く尖る。口縁部は丸い。 脚部は下外方へ内溝気味に伸び、端部は内側する段をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外側約1/4回転ヘラ削り、他は同軸ナデ。	灰青色	微砂粒を微 量に含む。	良好	天井部外側 灰かぶり。 ロクロ左方 向。
21 三九	杯 (土師器) SK 3	口 径 10.4 器 高 3.0		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる部分附近で、小さく外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外側ナデ、内面放射状線文。	乳茶褐色	0.5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
22 三九	同上 SK 3	口 径 10.6 器 高 3.4		やや深む底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外側ナデ、内面放射状線文。	乳茶褐色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
23 三九	同上 SK 3	口 径 10.2 器 高 3.4		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外側ナデ、内面放射状線文。	乳茶褐色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	外側に黒斑 有。
24 三九	同上 SK 3	口 極 12.6		上外方へ内溝して伸びる底部から口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外側ナデ。	乳茶褐色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
25 三九	同上 SK 3	L1 極 11.8		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ヘラ削り、内面墨脱の為調査不明。	茶褐色	1.5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
26 三九	同上 SK 3	口 極 16.0 器 高 5.6		丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外側ヘラ削り、内面放射状線文。	淡茶褐色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	

遺物番号 遺族番号	器種	出土 (m)	地点 番号	形態・調整等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
27	高杯 (土師器)	口 径 17.0 SK 3		平らと思われる杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 杯底部、両部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、内部内面放射状暗文。	淡茶灰色	2mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
28	甕 (土師器)	口 径 16.0 SK 3		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	1.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
29	同上 三九	口 径 21.7 高 36.7 最大径 25.7 SK 3		長楕円形の体部から試曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。両部は丸底。 「楕型内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(9本)、内面上中位ナデ後ハケナデ(13本)、下位ヘラ割り。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位以下に攝付着。
30	杯底 (須出22) SK 3	口 径 12.8 器 高 3.7		丸味をもつ天井部から下外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 天井部外面削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
31	杯身 (須出器)	口 径 11.6 受部深 13.8 立ち上がり高 0.9 SK 3		体部は上外方へ伸び、受部に平ら。受部は水平に伸び、丸く終わる。立ち上がりは上方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 体部外側下位削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
32	同上	口 径 8.7 器 高 3.5 受部深 10.8 立ち上がり高 0.3 SK 3		丸く丸い底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 立上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。底部外側不定力向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	2mm以下の砂粒を少量に含む。	良好	底体部外側に自然摺付着。 ロクロ右方向。
33	鉢 (須出器) SK 3	口 径 8.5 器 高 2.8		平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外側削り、他は回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
34	杯 (土師器) SK 4	口 径 9.8 器 高 3.2		丸味をもつ底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 底体部外側ナデ、他はヨコナデ。	茶褐色	1.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
35	同上	口 径 10.4 SK 4		丸い底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。両部は欠損。 口縁部外側・端部内面ヨコナデ、他はナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
36	同上	口 径 11.2 器 高 2.9 SD 3		丸い底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外側ナデ、荷頭痕、内面ナデ後放射状暗文。	外 茶褐色 内 乳茶色	1mm以下の良石・垂母等の砂粒を少量含む。	良好	
37	同上	口 径 10.4 器 高 3.2 SD 3		丸味をもつ底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外側ナデ・荷頭痕、内面ナデ後放射状暗文。	灰褐色	1mm以下の良石・垂母等の砂粒を少量含む。	良	
38	同上	口 径 9.8 器 高 3.3 SD 3		丸味をもつ底底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 「L」字型外側ヨコナデ、底体部外側ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	0.5mm以下の良石等の砂粒を少量含む。	良	
39	同上 三九	口 径 11.4 器 高 4.3 SD 3		丸味をもつ底底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外側ナデ、内面放射状暗文。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	底体外側にヘラ記号有。

第2調査区

遺物番号 採取番号	器種	出土 (cm)	地點 容器	形・態・調査等の若歴	色調	胎土	焼成	備考
40	杯 (土胎器) SD 3	口 径 12.3 器 高 3.3		広く平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外側上位ヨコナデ、外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	茶褐色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面にヘラ記号有。
41	同上	口 径 10.8 SD 3		丸味をもつ底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部の一部は欠損。 外側ナデ、内側ナデ、後放射状暗文。	淡茶赤色	2.5mm以下の長石・石英・赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良	
42	同上	口 径 11.0 SD 3		丸味をもつと思われる底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	灰褐色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良	
43	同上	口 径 10.2 器 高 2.8 SD 3		丸味をもつ底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する曲をもつ。 外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	暗灰褐色	0.5mm以下の長石・石英・赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量に含む。	良	
44	同上	口 径 10.4 器 高 3.6 三九 SD 3		丸味をもつ底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する曲をもつ。 外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	1mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
45	同上	口 径 10.6 器 高 3.2 SD 3		丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	1mm以下の長石・石英等の砂粒を微量に含む。	良好	
46	同上	口 径 11.2 SD 3		丸味をもつと思われる底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する曲をもつ。底部は欠損。 外側ナデ、花瓶底、内側放射状暗文後ナデ。	茶褐色	1mm以下の長石・赤褐色酸化鉄・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
47	同上	口 径 16.0 SD 3		上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する曲をもつ。底部は欠損。 端部内面にはヒビ跡が過る。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ナデ、内側ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	1mm以下の長石・雪母・赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量含む。	良	
48	同上	口 径 11.6 器 高 2.6 SD 3		僅かに窪む底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶色 内 乳茶色	0.5mm以下の赤褐色酸化鉄・石英等の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面に撫子着。
49	同上	口 径 11.9 器 高 3.0 SD 3		平らに近い底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 乳茶色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
50	同上	口 径 10.2 器 高 2.5 SD 3		丸味をもつ底部分から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	0.5mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
51	同上	口 径 12.2 SD 3		上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外側ナデ。	乳茶灰色	1mm以下の砂粒を少量に含む。	良好	
52	同上	口 径 11.1 SD 3		丸味をもつ底部分から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	茶灰色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	底部外側に黒斑有。

遺物番号 出版番号	器種	出土 (cm)	地点 器底	形態・調査等の特徴	色	調 査	上	焼成	備考
53 SD 3	杯 (土器)	口 径 12.7 器 高 3.6	平らに近い底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。端部内外面ヨコナダ、外側ナダ、内曲摩耗の為調査不良。	茶褐色		1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	外面に焦付有。	
54 SD 3	同上	口 径 12.4	上外方へ内溝して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内側ナダ。	外 茶褐色 内 茶褐色		1 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	体部外側下位に加筋有。	
三九 SD 3	同上	口 径 11.8 SD 3	上外方へ内溝して伸びる体部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面・端部内面ヨコナダ、他はナダ。	淡茶褐色		微砂粒を少量含む。	良好		
56 SD 3	同上	口 径 11.9 器 高 3.4	平らに近い底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ、底部の一辺は欠損。 口縁部外面・底体部内外面ナダ。	淡茶褐色		微砂粒を少量含む。	良好		
57 SD 3	同上	口 径 14.0	丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一辺は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、他はナダ。	暗灰褐色		1 mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良		
58 SD 3	同上	口 径 9.6 器 高 3.5	丸味をもつ底部から斜上方へ伸びた後上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナダ、底体部内外面ナダ、指押え、内面ナダ。	淡灰褐色		1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に黒斑有。 体部内側へナダ記号有。	
59 SD 3	同上	口 径 10.6	丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は鋸歯を減じて丸く終わる。底部の一辺は欠損。 端部内外面ヨコナダ、外側内外面ナダ。	外 内 茶赤色 淡茶褐色		1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良		
60 SD 3	同上	口 径 10.0 器 高 3.0	丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一辺は欠損。 内外面ナダ。	淡灰褐色		1 mm以下の長石・右美等の砂粒を少量含む。	良		
61 SD 3	同上	口 径 11.0 器 高 3.2	丸い底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一辺は欠損。 内外面ナダ。	茶褐色		2 mm以下の長石・赤褐色酸化鉄・右美等の砂粒を少量含む。	良好		
62 SD 3	同上	口 径 12.0 器 高 3.7	丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一辺は欠損。 外側ナダ・指彫痕、内面ナダ。	茶褐色		1 mm以下の長石・赤褐色酸化鉄・右美等の砂粒を少量含む。	良好	底部内面にヘラ記号有。	
63 SD 3	同上	口 径 12.2 器 高 3.8	丸味をもつ底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一辺は欠損。 端部内外面ヨコナダ、外側内外面ナダ。	茶褐色		0.5 mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好		
64 SD 3	同上	口 径 11.0	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内面ナダ。	外 乳茶色 内 茶褐色		0.5 mm以下の石英等の砂粒を微量に含む。	良好		

遺物番号 同款番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
65 (上部器) SD 3	口 径 17.0			外上方へ伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 茶褐色 内 茶褐色	2mm以下の 長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
	SD 3							
66 同上 SD 3	口 径 15.8			上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。L1縫部外側に1本の接合部を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
	SD 3							
67 同上 SD 3	口 径 17.2			上外方へ伸びる体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。L1縫部外側に1本の接合部を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
	SD 3							
68 (土師器) SD 3	口 径 18.2			外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 L1縫部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ・指痕、内面放射状暗文。	茶褐色	微量粒を少量含む。	良好	
	SD 3							
69 同上 SD 3	口 径 20.7			丸味をもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶褐色	微量粒を少量含む。	良好	
	SD 3							
70 同上 SD 3	口 径 19.8			上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内側へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 外面・L1縫部内部ヨコナデ、体部内面放射状暗文。	乳灰茶色	微量粒を少量含む。	良好	外面に擦付有。
	SD 3							
71 同上 SD 3	口 径 18.8 器 高 3.3			やや謎の底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外面ナデ。内面ナデ後放射状暗文。	淡赤褐色～灰褐色	2.5 mm以下の長石・雲母・赤褐色氧化鉄等の砂粒を含む。	良好	
	SD 3							
72 大皿 (土師器) SD 3	口 径 22.2			丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びるL1縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 L1縫部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶褐色	微量粒を微量含む。	良好	
	SD 3							
73 同上 SD 3	口 径 23.4 器 高 3.5			丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びるL1縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 L1縫部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	赤褐色	3mm以下の長石・赤褐色氧化鉄等の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面に ヘラ記号有。
	SD 3							
74 同上 SD 3	口 径 25.6			上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	基褐色～灰褐色	3mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
	SD 3							
75 同上 SD 3	口 径 24.0 器 高 3.5			丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部はやや外方へつむる。 L1縫部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶褐色	0.5 mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
	SD 3							
76 同上 SD 3	L1 径 26.2 器 高 3.9			丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	2.5 mm以下の長石・石英・チャート等の砂粒を含む。	良好	完形。 底体部外面に 黒斑有。
	SD 3							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (m)	地点 番号	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77 SD 3	大皿 (土鍋型)	II 径 25.0		平らと思われる底部から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。底部の一辺は欠損。 口縁部外側・端部内面ヨコナデ、底体部外側ナデ。内面放射状暗文。	外 乳茶灰色 内 乳灰茶色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
78 SD 3	同上	口 径 23.8		上外方へ内凹して伸びる底盤から口縁部に至る。端部は僅かに外方につまみ、丸く終わる。底部は丸く欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	乳茶灰色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
79 SD 3	同上	II 径 22.8		丸味をもつと思われる底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部はごく僅かに外方につまみ丸く終わる。底部の一辺は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。	茶褐色	5 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
80 SD 3	同上	口 径 23.8		上外方へ内溝気味に伸びる底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は僅かに内方に肥厚する。底部は丸く欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
81 SD 3	台皿 (土鍋型)	II 径 24.8		斜上方へ内凹して伸びる底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	底体外側にヘラ記号有。
82 SD 3	同上	口 径 24.4 器 高 2.5		広く平坦な底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。底部の一辺は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
83 SD 3	同上	口 径 23.0		斜上方へ内凹して伸びる底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は丸く欠損。 内外面ナデ。	茶褐色	長石・赤褐色酸化鉱等の砂粒を少量含む。	良	
84 四〇	同上	口 径 23.2 器 高 4.0		丸味をもつ底盤から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸く欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底体部外側ナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	底体外側にヘラ記号有。
85 SD 3	台付皿 (土鍋型)	底 径 8.4		杯部は欠損。底部は平坦である。縁部は下外方に伸びた後、端部付近で外方に短く伸びる。端部は丸い。 外面ナデ、内面放射状暗文・螺旋状暗文。	灰褐色	4 mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色酸化鉱等の砂粒を含む。	良	
86 SD 3	鉢 (土鍋型)	II 径 14.2		半球形と思われる底盤から屈曲して上外方へ伸びる口縁部に生ずる。端部は僅かに肥厚する。底部の一辺は欠損。 口縁部外側ヘラミガキ、底体部外側ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	灰褐色	1 mm以下の長石・赤褐色酸化鉱等の砂粒を少量含む。	良好	
87 SD 3	甕 (土鍋型)	口 径 14.0		口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)。	外 淡茶褐色 内 灰褐色 茶褐色	3 mm以下の長石・石英・赤褐色酸化鉱等の砂粒を多量に含む。	良好	
88 四〇	同上	II 径 12.8		上内方へ伸びる底盤から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に僅かに肥厚する。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ(10本)、底体部外側ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	外 内 茶褐色 暗茶褐色 茶褐色	2 mm以下の長石・赤褐色酸化鉱等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
89	甕 (上縁部)	口 径 12.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部内面ハケナデ後ナデ。	外 茶褐色 内 茶褐色	3mm以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上	口 径 14.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は肥厚し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縫部外縫ヨコナデ、凹頭直、内面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	外 茶褐色 -茶褐色 内 茶褐色	2.5mm以下の長石・赤褐色酸化粒・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
91	同上	口 径 23.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は肥厚し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の長石・石英・小褐色酸化粒・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
92	高杯 (上縁部) SD 3	口 径 16.5		丸底をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状斷文。	茶褐色-灰褐色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良	
93	同上	口 径 17.0		平底と思われる杯底部から上外方へ伸びた後、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状斷文。	淡灰褐色	長石・雲母等の砂粒を含む。	良好	
94	同上	口 径 17.2						
四一	SD 3			平底な杯底部から上外方へ内湾気味に伸びた後、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。端部は欠損。 杯部・脚部外面ナデ、杯部内面放射状断文後放射状断文、脚部内面ナデ。	灰褐色	2.5mm以下の長石・石英・チャート等の砂粒を含む。	良好	
95	同上	口 径 17.0		丸底をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面壁紙の為調整不明。	暗灰褐色 灰褐色	1mm以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
四一	SD 3							
96	同上	高 底 8.8		杯体部は欠損。杯底部は上外方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、斜下方へ伸びる斜部に至る。端部は丸い。柱状部外縫3本、内縫に2本の接合縫を有する。 杯底部・脚部外面ナデ、杯底部内面ハケナデ、柱状部外面ヘラによる面とり、内面しづり目、脚部内面指標正直。	茶褐色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
四一	SD 3							
97	同上	底 祥 9.8		杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から外外方へ外反して伸びる斜部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ナデ、内面しづり目、脚部外縫ナデ後ハケナデ、内面指標正直。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	0.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
四一	SD 3							
98	羽蓋 (上縁部)	口 径 23.8		上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は外上方へ伸び、丸い。体部は欠損。 口縫部外縫、体部内面ナデ、口縫部内面ヨコナデ、体部外縫ハケナデ(6本)。	淡茶灰色	3mm以下の雲母・角閃石・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
SD 3								

遺物番号 図版番号	形 態	出土 (cm)	地 点 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	治 上	焼 成	備 考
99 四一	杯蓋 (底窓器)	口 径 10.6 器 高 3.1 つまみ径 1.4	SD 3	低く丸座をもつ天井部から外下方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下1方へ伸び、端部は丸い。宝珠状のつまみが付く。 天井部外周約1/3 回転ヘラ削り、内面約1/3 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	2 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	ロクロ右方 向。
100 四一	同上	口 径 10.2 器 高 3.0 つまみ径 1.7	SD 3	低く外下方へ内凹して伸びる天井部から外方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは端部は丸く尖る。偏平な宝珠状のつまみが付く。 天井部外周約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	天井部外周 約1/4 底から ぶつり。 ロクロ方向 不明。
101 四一	同上	L1 径 10.2	SD 3	低く外下方へ内凹して伸びる天井部から外方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。 天井部外周約1/10 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	5 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	ロクロ右方 向。
102 四一	同上	口 径 10.0	SD 3	低く斜下方へ伸びる大井部から下外方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは内下方へ伸び、端部は丸い。 天井部外周約1/3 回転ヘラ削り、内面約1/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	1 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
103 四一	同上	口 径 13.0 器 高 3.8 つまみ径 1.8	SD 3	低く平坦な大井部から斜下方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。宝珠状のつまみが付く。 天井部外周約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	外面上に自然 釉付着。 ロクロ右方 向。
104 四一	同上	口 径 16.4 器 高 3.6 つまみ径 3.0	SD 3	低く平坦な大井部から外下方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。偏平な宝珠状のつまみが付く。 天井部外周約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1.5 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
105 四一	同上	口 径 13.4	SD 3	低い大井部から外下方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。天井部の一部は欠損。 天井部外周約1/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	6 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	ロクロ右方 向。
106 四一	同上	口 径 12.6	SD 3	低く平坦な大井部から斜下方へ伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。天井部の一部は欠損。 天井部外周約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	1 mm以下の 長石等を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
107 四一	同上	口 径 15.6	SD 3	外下方へ内凹して伸びる天井部から口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸く尖る。天井部の一部は欠損。 天井部外周約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
108 四一	杯身 (底窓器)	口 径 8.8 器 高 3.1	SD 3	丸座をもつ低体部から層巻し、上外方へ伸びるL1縁部に平ら。端部は丸い。 底窓部外周面転ヘラ削り、指痕底、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	4 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	ロクロ左方 向。
109 四一	同上	口 径 8.7 器 高 3.6	平坦な杯底部から層巻し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。 底窓部外周面転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰色	2.5 mm以下の 長石・角 閃石等の砂 粒を少量含 む。	良好	ロクロ左方 向。	

第2調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
110 四一	杯身 (傾斜器)	口 径 9.2 器 高 3.6		やや丸味をもつ杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外側回転ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	黒灰色	2.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
	SD 3							
111 四一	同上	口 径 8.7 器 高 3.3		平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底外部外側回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
	SD 3							
112 四二	同上	口 径 9.5 器 高 3.0		平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外側回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	黒灰色	5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
	SD 3							
113 四二	同上	口 径 9.5		平らと思われる杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。腹は横溝なし。底部の一部は欠損。 杯底部外側回転ヘラ削り、1/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	黒灰色	2.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
	SD 3							
114 四二	同上	口 径 10.0 器 高 3.8		平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。 底部の一部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	2.5 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
	SD 3							
115 四二	同上	口 径 8.1 器 高 3.2		丸味をもつ杯底部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外側回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	暗褐色	3 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ左方向。
	SD 3							
116 四二	同上	口 径 10.1 器 高 3.9		丸味をもつ杯底部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外側回転ヘラ削り、内面約1/2 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰褐色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。 底面にハラ記号有り。
	SD 3							
117 四二	同上	口 径 10.2 器 高 3.9		丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 杯底部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡灰色～乳白色	2.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ右方向。
	SD 3							
118 四二	同上	口 径 8.1 器 高 3.7		丸味をもつ杯底部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡黒灰色	4 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
	SD 3							
119 四二	同上	口 径 10.2		丸い杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 杯底部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳白色 内 乳白色～乳茶色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ左方向。
	SD 3							
120 四二	同上	口 径 10.2 器 高 3.1		やや瘤状杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	外 淡褐色 内 淡褐色～淡黄色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外表面灰かぶり。 ロクロ右方向。
	SD 3							
121 四二	同上	口 径 14.6 器 高 4.1 底 径 10.4		平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面凸形の窓台が付く。底部の一部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	3.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
	SD 3							
122 四二	鉢 (傾斜器)	口 径 6.8 器 高 4.4		やや平坦な底部から屈曲した後、上内方へ伸びて口縁部に至る。端部は丸い。 底部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	4.5 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	底部外表面灰かぶり。 ロクロ右方向。
	SD 3							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色 病	胎 土	焼成	備考
123	小皿 (上部器) SE 2	口 径 器 高	8.8 1.9	僅かに窪む底部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 底盤外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
124	同上	口 径 器 高	9.0 1.4	僅かに窪む底部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底盤内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5mm以下 の砂粒を微 量に含む。	良好	
125	台付小皿 (土器部) SE 2	底 径	3.8	底部は平坦。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	淡灰青色	0.5mm以下 の砂粒を微 量に含む。	良好	
126	小皿 (瓦器) SE 2	口 径 器 高	8.6 2.6	浅い平底形の底部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ、見込みは平行状跡文。	淡灰青色	0.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
127	碗 (瓦器) SE 2	口 径 器 高 底 径	14.8 5.3 7.6	半球形の杯体部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面適合窓の高台が付く。 外縁ナデ後へラミガキ、内面ハケナデ後へラミガキ、見込みは格子状暗文、高台ナデ。	灰青色	1.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
128	同上	口 径 器 高 底 径	14.7 5.0 5.8	半球形の杯体部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面適合窓の高台をもつ。 口縁部外面ヨコナデ後へラミガキ底部外面ナデ、内面ハラミガキ、見込みは格子状暗文。	墨灰色	1.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
129	同上	口 径 器 高 底 径	14.2 5.8 4.2	半球形の杯体部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面適合窓の高台が付く。 内面ハラミガキ、見込みは格子状暗文、高台ナデ。	外 内 淡灰色 暗灰色	0.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
130	钵 (土器部) SE 2	口 径	31.0	口縁部上外方へ伸び、端部は外接する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	外 内 灰黒色 淡灰黑色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
131	台付小皿 (瓦器) SE 3	口 径 器 高 底 径	9.1 2.6 4.1	平底を底部から外上方へ内側して伸びた後、上外方へ僅く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面適合窓の高台が付く。 口縁部外面、高台ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ハラミガキ、見込みは平行状跡文。	墨灰色	0.5mm以下 の砂粒を微量 に含む。	良好	
132	羽釜 (土器部) SE 3	口 径	27.8	上内方へ内側して伸びる体部から屈曲し、外上方へ僅く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。側面は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 外縁・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙色	4.5mm以下 の砂粒を多 量に含む。	良好	
133	同上	口 径	31.5	上内方へ内側して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。側面は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 体部外縁に1本の接合痕を有する。 外縁・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙黄色	4mm以下の 砂粒を多 量に含む。	良好	体部内面に 炭化物附着。
134	同上	口 径	29.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。側面は欠損。 外縁・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙色	3.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	内側に炭化 物附着。

第2調査区

遺物番号 同族番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
135 羽茎 (土師器)	LJ 径 28.1			上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部は外七方に伸び、丸い。体部は欠損。体部外面に1本の接合痕を有する。	外 乳白色 一茶褐色 内 乳灰黑色	4.5 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
	S E 3			外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部は外七方に伸び、丸い。体部は欠損。体部外面に1本の接合痕を有する。				
136 鉢 (須志器) 四二	口径 19.1			上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。口縁部の内面に1箇所には注口がある。底部は欠損。体部外面不定方向のナデ、他の回転ナデ。	灰色	3.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
	S E 3							
137 円上 S E 3	口径 29.0			口縁部は上外方へ伸び、端部は肥厚し、外側に凹面をもつ。体部は欠損。口縁部外面回転ナデ。	淡灰白色	1 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
138 壺 (須志器) 四二	口径 34.1			口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。端部内面に2本の接合痕を有する。 口縁部内面下位不定方向のナデ、他の回転ナデ。	淡灰青色	5.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面下位に自然釉付着。 ロクロ方向不明。
	S E 3							
139 円上 S E 3	口径 24.0			口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はV字状で、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 灰色 内 淡灰色	1 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
140 円上 S E 3	口径 29.0			上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はややV字状で、外側に凹面をもつ。体部は欠損。体部内面につなぎ目を有する。 外施格子状タタキ(4本)、他の回転ナデ。	外 乳灰茶色 内 淡茶褐色	1 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
141 円上 S E 3	口径 31.4			内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は受口状である。体部中位以下には欠損。 端部内面・口縁部内面ヨコナデ、口縁部・体部外面タタキ(3本)、体部内面ナデ。	暗灰青色	2.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
142 円上 S E 3	口径 45.8			上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部内外面タタキ(外4本・内5本)。	灰色	4.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に自然釉付着。 ロクロ左方向。
143 円上 S E 3	底径 15.0			体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰色	1 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外向に自然釉付着。 ロクロ右方向。
144 円上 S E 3	底径 16.0			体部は外上方へ伸びる。底部は突出しない平底。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰色	1 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
145 鉢型十器 (瓦質) 四三	口径 37.0			平坦と思われる底部から屈曲し、上方へ強く伸びる口縁部に至る。端部は上に凹面をもち花弁状の割部がある。底部の一部は欠損。 外側へラブリ、内面ヨコナデ。	灰黒色	4 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	S E 3							
146 小皿 (土師器) S P 31	口径 8.0 高さ 1.5			平坦な底部から屈曲し、上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外縁部内外面ヨコナデ、底部内外面回転ナデ。	外 淡灰青色 内 灰青色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	口縁部内面に擦付着。
147 円上 S P 58	口径 9.4 器高 1.9			丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	光沢。

遺物番号 採取番号	品種	出土 (cm)	地點 高さ	形態・調査等の特徴	色調	粒度	焼成	備考
148 S P59	小皿 (土器) 口径 器高	10.0 1.6	僅かに底部から外上方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	乳灰黄色	5mm以下の砂粒を少量に含む。	良好		
149 S P59	同上	9.2 1.6	丸味をもつ底部から外上方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	乳灰黄色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
150 S P59	同上	9.4	丸味をもつと思われる底部から外上方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナゲ。	乳灰黄色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
151 S P59	同上	15.6	外上方へ内溝して伸びる体部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部はつまり上げる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面・体部内面上位ヨコナゲ、体部外側・内面下位ナゲ。	乳灰色	微砂粒を少許含む。	良好		
152 S P59	小皿 (瓦器) 口絵 器高	9.8 2.5	丸味をもつ底部から外上方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。 内外面ヘラミガキ。見込みは格子状斷面。	暗灰色	微砂粒を少許含む。	良好		
153 S P59	碗 (瓦器)	14.1	外上方へ内溝して伸びる体部から、やや外反する口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ヘラミガキ後指頭板、内面ヘラミガキ。	外 内 灰黑色 乳白色	微砂粒を少許含む。	良好		
154 S P59	羽釜 (土器)	27.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 器部内面に平滑に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外側ヨコナゲ、体部内面ナゲ。	淡茶色	4mm以下の砂粒を含む。	良好	体部外側下位に焼付帯。	
155 石集録	小皿 (瓦器) 口絵 器高	9.6 2.0	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外側ヨコナゲ、内面ヘラミガキ。見込みは平行状断面。	暗灰色	微砂粒を少許含む。	良好		
156 四三 (須恵器) 池状遺構	底 徑	9.0	体部は外方へ内溝気味に伸びた後上方へ伸びる。底部は平底。口縁部は欠損。 底部内外面不定方向のナゲ、他は回転ナゲ。	灰青色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
157 四三 池状遺構	同上	21.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 体部内外面不定方向のナゲ、指揮さえ、他は回転ナゲ。	茶褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内外部外側に自然焼付帯。 ロクロ右方向。	
158 四三 池状遺構	同上	29.6	内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、外上方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 体部内外面に沈積物を有する。 口縁部内外面回転ナゲ、体部外側タタキ、内面指揮さえ。	外 内 茶褐色 茶褐色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内外上位に自然焼付帯。 体部外側灰かぶり。 ロクロ方向不明。	
159 (土師器) 池状遺構	口 器 高	8.4 1.3	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	乳灰色	1mm以下の砂粒を少量に含む。	良好		
160 四三 池状遺構	同上	8.8 1.5	広く平坦な底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	乳灰茶色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
161 四三 池状遺構	同上	8.6 1.4	広く平坦な底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部内外面ナゲ。	乳灰茶色	2.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。	

遺物番号 図版番号	器 横 縦 高	市寸 (cm)	地点 番号	形態・調査等の特徴	色	調 査 土	成 績	備 考
162 四四	小皿 浅状造構	口 径 8.2 器 高 1.4	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳白色 内 乳茶灰色	3mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	完形。	
163 四四	同上 池状造構	口 径 9.0 器 高 1.5	平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	3mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
164 四四	同上 池状造構	口 径 9.0 器 高 1.5	平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は上につぶみ、外に面をもつ。 底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
165 四四	同上 池状造構	II 径 9.0 器 高 1.4	広く平坦な底部から底面へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
166 四四	同上 池状造構	口 径 8.9 器 高 1.6	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好		
167 四四	同上 池状造構	口 径 9.2	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
168 四四	同上 池状造構	口 径 8.6 器 高 1.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰色	2.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好		
169 四四	同上 池状造構	II 径 9.2 器 高 1.5	側かに底む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
170 四四	同上 池状造構	口 径 9.6 器 高 1.8	側かに底む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好		
171 四四	同上 池状造構	口 径 9.0 器 高 1.6	平坦な底部から底面へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好		
172 四四	同上 池状造構	口 径 9.2 器 高 1.7	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。縫部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
173 四五	同上 池状造構	口 径 10.2	外上方へ内湾して伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。 底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
174 四五	台付小皿 浅状造構	口 径 8.2 器 高 2.5 底 径 5.4	平らな底部から底面へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。脚部は下外方へ外反して伸びる。縫部は丸い。 底部内外面ナデ、他ヨコナデ。	乳灰黄色	1.5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好		
175 四五	同上 池状造構	口 径 8.0 器 高 3.7 底 径 5.4	平らな底部から底面へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。脚部は下外方へ外反して伸びる。縫部は丸い。 底部内外面ナデ、他ヨコナデ。	乳灰茶色	微砂粒を少 量含む。	良好		
176 四五	同上 池状造構	口 径 10.0	平らな底部から底面へ内湾して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。縫部は丸い。 底部内外面ナデ、他ヨコナデ。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	底部外面に 焼付着。	

造物番号 国版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
177 四五	皿 (土部器) 池状遺構	口 径 器 高	12.8 2.9	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反 気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	乳灰茶色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
178 四五	同上	口 径 器 高	13.8 3.6	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸び る口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面 をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナダ。	外 内 乳灰茶 色 乳灰褐色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
179 四五	羽釜 (土部器) 池状遺構	口 径	20.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 羽部は外方に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナダ。	外 内 茶橙色 暗茶褐色	3.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	口縁部外側 体部外面上 位に焼付。
180 四五	同上	口 径	29.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 羽部は外方に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナダ、内面へ ラナダ。	茶橙色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
181 四五	小皿 (瓦器) 池状遺構	口 径 器 高	8.5 2.0	若干の瘤みをもつ底部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	暗灰青色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
182 四五	同上	口 径 器 高	8.8 2.0	やや丸味をもつ底部から上外方へ内湾して 伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	暗灰青色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
183 四五	同上	口 径 器 高	8.4 1.9	丸い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	灰青色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良	
184 四五	同上	口 径 器 高	8.2 1.6	丸味をもつ底部から屈曲し、上外方へ伸び る口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	灰青色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
185 四五	同上	口 径 器 高	8.2 1.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸び る口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	完形。
186 四五	同上	口 径 器 高	9.0 2.0	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁 部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。	良好	完形。
187 四五	同上	口 径 器 高	8.8 2.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸び る口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、指痕 痕、内面ヘラミガキ、見込みはジグザグ状略文。	灰青色	1.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
188 四六	同上	口 径 器 高	8.6 2.0	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁 部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ、見込みはジグザグ状略文。	暗灰青色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	完形。
189 四六	同上	口 径 器 高	8.9 2.3	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁 部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ、平行状略文。	暗灰青色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	完形。
190 四六	同上	口 径 器 高	8.6 2.2	瘤みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸び る口縁部に至る。端部は内方へ膨らし、丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ナダ内面へ ラナダ後ヘラミガキ、見込みは平行状略文。	暗灰青色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 同版番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
191 四六	瓶 (瓦器)	口徑 器高 底径	15.0 5.4 6.8	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる山根部に平ら。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外側指張痕後へラミガキ、内面へラミガキ、高台外面ヨコナダ、底部外側ナダ、見込みは斜格子状暗文。	暗灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
192 四六	同上 地状遺構	口径 器高 底径	14.8 5.4 5.4	半球形の杯体部から山根部に平ら。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 山根部外側ナダ後へラミガキ、底部外側ナダ、内面へラミガキ、見込みは格子状暗文。	淡灰色	0.5 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
193 四七	同上 地状遺構	口径 器高 底径	14.6 5.9 4.8	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 内外面ナダ後へラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	暗灰青色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
194 四七	同上 池状遺構	口径 器高 底径	15.6 5.5 5.7	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外側ナダ後へラミガキ、内面へラミガキ高台外面ナダ、見込みは格子状暗文。	外灰褐色 暗灰青色 内灰青色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
195 四七	同上 池状遺構	L1 径 器高 底径	15.6 5.4 6.2	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には断面リ字形の高台が付く。 山根部外側ナダ後へラミガキ、指頭圧痕、底部外側ナダ、内面へラミガキ、見込みは格子状暗文。	外灰褐色 内灰青色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
196 四七	同上 池状遺構	L1 径	15.2	L1外方へ内湾して伸びる杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナダ後へラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰青色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
197 四七	同上 池状遺構	口径	14.4	上外方へ内湾して伸びる杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナダ後へラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰青色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
198 四七	同上 池状遺構	L1 径	15.8	上外方へ内湾して伸びる杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナダ後へラミガキ。	灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
199 四七	同上 池状遺構	L1 径	15.3	上外方へ内湾して伸びる杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナダ後へラミガキ、内面へラミガキ。	灰褐色	精良。	良好	
200 四七	同上 池状遺構	口径 器高 底径	14.0 5.2 5.0	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 L1山根部外側ヨコナダ、体部外側ナダ・指頭圧痕後へラミガキ、内面へラミガキ、高台ヨコナダ、見込みは平行状暗文。	外灰褐色 内乳灰色	3 mm以下の 灰石・石英等の砂粒を 微量に含む。	良好	
201 四七	同上 池状遺構	口径 器高 底径	14.8 3.2 3.2	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 L1山根部外側ヨコナダ、体部外側ナダ・指頭圧痕後へラミガキ、内面へラミガキ、高台ヨコナダ、見込みは平行状暗文。	暗灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
202 四八	同上 池状遺構	口径 器高 底径	15.0 4.7 3.3	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には低い断面逆台形の高台が付く。 外側ナダ・指頭圧痕、内面へラミガキ、高台ナダ、見込みは平行状暗文。	乳灰色・暗灰褐色	1.5 mm以下の 砂粒を微量に含む。	良好	彫形。
203 四八	同上 池状遺構	口径 器高 底径	14.2 4.1 4.4	半球形の杯体部から山根部に至る。端部は丸い。底部外面には低い断面逆台形の高台が付く。 L1山根部・高台外面ヨコナダ、体部外側指頭圧痕、内面へラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰黑色	0.5 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 国版番号	器種	底土 (cm)	地點 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成備考
204	焼 (瓦) 池状遺構	口 径 基 底 高 底	14.4 4.2 4.0	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側指揮え後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	暗灰青色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
205	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	14.4 4.1 4.4	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が行く。 外側ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	乳灰青色	0.5 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好
206	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	15.0 4.5 4.2	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外側ナデ・指揮え後ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	暗灰青色-灰 灰青色	4 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
四八	池状遺構						
207	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	14.6 4.7 4.8	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部・体部外側ヨコナデ後指揮え、高台ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	暗灰青色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好 完形。
四九	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	14.6 4.0 3.4	浅い半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外側ナデ後指揮え後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	淡灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好
209	同上 池状遺構	口 径	13.6	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	灰青色-乳 灰青色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
210	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	15.2 4.9 4.0	半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部外側ヨコナデ、外側ナデ・指揮え後ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	灰青色-灰 灰青色	精良。	良好
211	同上 池状遺構	口 径 基 底 高 底	15.0 3.8 4.0	浅い半球形の杯体部から上外方へ仄く外張して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部外側ヨコナデ、外側ナデ・指揮え後ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状縮文。	暗灰青色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
212	同上 池状遺構	口 径	15.2	斜上方へ内消して伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側指揮え後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
213	同上 池状遺構	口 径	13.0	上外方へ内消して伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、外側ナデ・指揮え後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	外 内 暗灰青色 灰青色 灰青色 灰青色	精良。	良好
214	同上 池状遺構	口 径	14.0	上外方へ内消して伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ナデ・指揮え後ナデ、内面ヘラミガキ。	外 内 暗灰青色-乳 灰青色 灰青色-灰 灰青色	精良。	良好
215	同上 池状遺構	口 径	14.2	半球形と見われる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側上位ヨコナデ、下位・体部外側ナデ・指揮え後ナデ、内面ヘラミガキ。	外 内 灰色 乳灰色	1 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好

遺物番号 図版番号	器種	出土場所 高さ(cm)	地點 高さ(cm)	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
216	瓶 (瓦部) 池状遺構	口径 14.0		半球形と思われる体部から口縁部に至る。 端部は丸い。底部の一端は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、体部外側ナダ、内面 ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外灰褐色 -乳灰色 内灰褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
217	同上 池状遺構	口径 16.0		半球形と思われる体部から口縁部に至る。 端部は丸い。底部の一端は欠損。 外側ナダ・指痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外灰褐色 -乳灰色 内灰褐色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
218	同上 池状遺構	口径 14.5		やや後半球形の体部から口縁部に至る。 端部は丸い。底部の一端は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、底部外側ナダ、内面 ナダ後ハラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
219	同上 池状遺構	口径 14.4		やや後半球形の体部から口縁部に至る。 端部は丸い。底部の一端は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、底部外側ナダ・指 痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外暗灰褐色 内灰褐色	精良	良好	
220	同上 池状遺構	口径 15.2		やや後半球形の体部から口縁部に至る。 端部は丸い。底部の一端は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、体部外側ナダ・指痕、 内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰褐色	0.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
221	小皿 (青磁器) 四九	口径 9.6 高さ 2.1		半径に近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部内面に 双魚文が施されている。 内面回転ナダ。	淡緑色	精良	良好	釉を施す。 ロクロ方向不明。
222	瓶 (白磁器) 四九	高さ 6.0		口縁部は欠損。丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる。底部外側には断面U字形の 高台が付く。底部内面には沈線とハケ状のもので模様が描かれている。 外側回転ナダ、内面ナダ後ハケナダ(10本)。	外淡緑灰 色-淡 灰褐色 内淡 灰褐色	精良	良好	釉を施す。 ロクロ方向不明。
223	同上 池状遺構	底径 6.2		口縁部は欠損。底部は外方に内湾気味に伸びる。底部外側には断面長方形の高台が付く。 底部内面に沈線が巡る。 内面回転ナダ。	淡灰褐色- 淡灰褐色	精良	良好	内外面に釉を施す。 ロクロ方向不明。
224	同上 池状遺構	底径 5.5		U縁部は欠損。丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる。底部外側には断面U字形の 高台が付く。底部内面には沈線がある。 内面回転ナダ。	淡灰褐色- 淡灰褐色	精良	良好	底部外側・ 内面に釉を施す。 ロクロ方向
225	瓶 (磁器) 四九	底径 5.0		口縁部は欠損。平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる体部に至る。底部外側には断面 差合形の高台が付く。 外側ナダ(6本)、内面回転ナダ。	灰綠色-灰 青色	精良	良好	内外面に釉を施す。
226	平瓦 五〇	厚さ 2.2		均整唐草文を施す。	淡灰褐色	1mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
227	壺 (土器) 包含層	口径 14.3		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、体部外側ハケナ ダ(外12本・内10本)。	明赤褐色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
228	同上 包含層	口径 17.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外方へ外側して伸びる口縁部に至る。端部は外方 に肥厚し、外側する頭をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、体部外側ハケナ ダ(外11本)。	乳灰茶色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 国歴番号	器種	出土 地點 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
229	盃 (土師器) 包含層	口 径 14.6	上内方へ内溝して伸びる部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。体部外面ナデ、他はヨコナナデ。	乳灰茶色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
230	同上	口 径 13.3	上内方へ伸びる部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側する凹面をもつ。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナナデ、体部外ハケナナデ(5木)、内面ナナデ。	淡茶灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
231	同上	口 径 29.8	上内方へ内溝して伸びる部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、上に皿をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナデ、体部外面ナナデ。	乳茶褐色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
232	盃 (土師器) 包含層	底 径 8.4	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる部部に至る。端部は外側する皿をもつ。柱部は欠損。 外圓ナナデ、柱状部内面しづり目、脚部内面ハケナナデ(11木)。	淡赤褐色	6.5mm以下の長石・チャート・赤褐色鉻化粧石等の砂粒を多量に含む。	良	
233	同上	底 径 10.4	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる部部に至る。端部は丸い。柱部は欠損。脚部上位に三方孔を有する。脚部内面上面に1本の接合痕を有する。 外圓ハケナナデ(13木)、柱状部内面くりぬき、裙部内面ハケナナデ。	明赤褐色	0.5mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
234	土瓶		管状形を呈する。 ナナデ。	暗灰茶色	1mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
五〇	包含層						
235	杯盤 (須恵器) 包含層	口 径 10.7	平らな大井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にカリを有し、かえり端部は黄く尖る。つまりは欠損。 外圓ナナデ(1回転)、内面ナナデ。	暗青灰色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
236	同上	口 径 10.6 器 高 2.3	上面凸凹の天井部から外下方へ伸びる。後は直角なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 大井部外側系切り。内面不定方向のナナデ、他は回転ナナデ。	明青灰色	5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
237	杯身 (須恵器) 包含層	口 径 10.2 受部径 13.4 立ち上がり高 1.2	深く丸みをもつ底部から下外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底部外側系約1/2回転ヘア削り、他は回転ナナデ。	淡灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
238	同上	口 径 12.9 受部径 16.0 立ち上がり高 2.3	体部は上外方へ内溝気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナナデ。	青灰色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
239	高杯 (須恵器) 包含層	底 径 9.0	脚部は下外方へ外反気味に伸びる脚部に至る。端部は凸面を成す。脚部は欠損。脚部に三方孔の忍耐スカシを有する。 内外面回転ナナデ。	晦青灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	

第2調査区

着物番号 図版番号	器種	出土 地點 高さ (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
240 (原志姫) 包含層	高杯	底径 8.9	ト外方へ伸びる底部に有る。端部はゆるやかにト内方へ屈曲する。杯部は欠損。脚部に三方孔の方透スカシを有する。 内外面目板ナデ。	明青灰色	1mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
241 包含層	同上	底径 10.9	脚部は下外方へ伸びた後外下方へ伸びる部 位に有る。端部はゆるやかにト内方へ屈曲す る。杯部は欠損。脚部に三方孔の内形スカシ を有する。 内外面目板ナデ。	暗青灰色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
242 包含層	堺 (原志姫)	口径 10.0	外下方へ伸びる部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に有る。端部は外傾す る凹面をもつ。脚部は欠損。 体部内面タキ(5本)、他は加熱ナデ。	乳白色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
243 包含層	口 (原志姫)	口径 14.8	平らな底部から下外方へ鋸く伸びた後上外 方へ鋸く伸びる口縁部に至る。端部は内傾す る凹面をもつ。脚部は下外方へ伸びる。 脚部内面凹面整不明瞭、他は目板ナデ。	淡青灰色	2mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	ロクロ左方 向。
244 包含層	中川 (土師器)	口径 13.8	半らと思われる体部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に生る。端部はやや上 につまむ。脚部は欠損。 底部外側ナデ、他はヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	
245 包含層	同上	口径 14.0 器高 3.0	下外方へ伸びると思われる底部から屈曲し、 上外方へ外気味に伸びる口縁部に生る。端部 は上につまむ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	0.5mm以下の 長石・雲母等の砂 粒を微量含む。	良好	
246 包含層	同上	口径 13.0	丸みをもつ底部から上外方へ外反して伸び る口縁部に生る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5mm以下の 赤色酸化鉄・ 長石・雲母等の 砂粒を少量 含む。	良好	
247 包含層	杯 (土師器)	口径 13.4 器高 3.2	半らに近い底盤から上外方へ内溝気味に伸 びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ、 内面底盤の為調整不良。	乳灰茶色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
248 包含層	同上	口径 13.0	上外方へ内溝して伸びる体部から口縁部に 有る。端部は丸い。底盤は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ・指 紋模・内面ナデ。	赤褐色	0.5mm以下の 長石等の砂 粒を少量 含む。	良好	
249 包含層	同上	口径 14.8 器高 3.0	上外方へ伸びる底部から上外方へ内溝して 伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底盤内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5mm以下の 長石・赤 色酸化鉄等の砂 粒を少量含む。	良好	
250 包含層	同上	口径 13.3 器高 2.5	平らな底部から上外方へ内溝気味に伸びる 口縁部に生る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡青灰色	0.5mm以下の 長石・雲 母等の砂 粒を少量含む。	良好	
251 包含層	小皿 (土師器)	口径 8.9 器高 1.4	下外方へ伸びる底部から上外方へ内溝気味 に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
252 包含層	同上	口径 9.0 器高 1.4	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部 に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶褐色	0.5mm以下の 長石・雲 母等の砂 粒を少量含む。	良好	

遺物番号 団版番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
253	小皿 (土器)	口 径 8.4 器 高 1.2		平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外側ナダ。	淡赤褐色	0.5 mm以下の 石粉・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
254	同上 包含層	口 径 8.0 器 高 1.4		平らな底盤から上外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に至る。端部は内方に膨脹し、丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡灰茶色	3 mm以下の 長石・雲母等の砂粒を少許含む。	良好	
255	小皿 (瓦器)	口 径 8.2 器 高 1.9		丸みをもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に至る。端部丸い。 口縁部内外面ヨコナダ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	淡灰青色	精良。	良好	
五〇	包含層							
256	同上 包含層	口 径 9.2 器 高 2.1		丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	乳白色～灰 青色	精良。	良好	
257	碗 (瓦器)	口 径 14.8 器 高 4.7 底 径 4.4		楕円形の底盤部から上外方へ内湾して伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には斜 格子状の高台が付く。 外縁ヨコナダ後ヘラミガキ、内面ナダ後ヘ ラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	灰黒色	2 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
五〇	包含層							
258	同上 包含層	口 径 14.8 器 高 4.7 底 径 5.9		楕円形の底盤部から上外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には 斜面台形の高台が付く。 外縁ヨコナダ後ヘラミガキ、内面ナダ後ヘ ラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰黒色	1 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
259	同上 包含層	口 径 14.2 器 高 4.9 底 径 4.4		楕円形の底盤部から上外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には 斜面台形の高台が付く。 口縁部内外面ヨコナダ、底部外面ナダ、内面 ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	1.5 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
260	同上 包含層	口 径 13.8		上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ 外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面指押さえ後 ナダ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰褐色	精良。	良好	
261	同上 包含層	口 径 14.8		上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ 外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	淡灰黑色	1 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
262	同上 包含層	口 径 15.4		外上方へ内湾気味に伸びる体部から上外方へ 内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面指押さえ後 ナダ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰褐色	1 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
263	同上 包含層	口 径 15.6		上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に 至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面ナダ、内面 ナダ後ヘラミガキ。	乳灰色	精良。	良好	
264	平瓦 包含層	厚さ 2.2		均整唐草文を施すと思われる。	淡灰茶色	0.5 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
五〇	包含層							

第2調査区

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
265	丸瓦	單さ	1.8	凹面布目、凸面純目	凹面 淡灰 多色 凸面 明褐色 从灰色 断面 淡灰褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
266	同上	厚さ	3.3	凹面布目、凸面純目	凹面 淡茶 灰褐色 凸面 明褐色 从灰色 断面 淡赤褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
267	小鉢丸底皿 (土師器)	口径 器高	9.2 8.2	偏平な蝶形の体部から屈曲し、上外方へ内傾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位・内面ナデ、下位ハラ削り。	淡茶橙色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
268	盃 (土師器)	口径	17.5	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	茶褐色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
269	甕 (土師器)	口径	16.0	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 咳茶褐色 内 菊茶赤色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
270	同上	口径	17.2	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	褐灰色	2mm以下の灰石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
271	同上	口径	13.4	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)、後ハケナデ(11本)、内面ハラ削り。	淡茶灰色	3mm以下の角閃石・雲母・灰石・チベート等の砂粒を少量含む。	良好	
272	同上	口径	15.1	口縁部は上外方へ伸び、端部は内外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)。	淡茶灰色	2mm以下の赤褐色醸化鉱等の砂粒を少量含む。	良好	
273	同上	口径	18.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	灰茶色	5mm以下の雲母・角閃石・チベート長石等の砂粒を少量含む。	良好	
274	同上	口径	8.2	上内方へ内傾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びつ口縁部に至る。端部は上方へ長く延張する。体部は欠損。吉備地方の漬塗式の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
275	器台 (土師器)	II 径 9.0		上外方へ内溝して伸びる口縁部から口縁部に至る。縁部は上方へ長くつまみ上げ。外側に内側をもつ。脚部は欠損。 外側へラブリ後へラミガキ、内面へラミガキ。	淡茶褐色	1 mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好	
五〇	包含層							
276	高杯 (土師器)	口 径 17.7		平らに近い杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 外側面部の為調整不正確、内面へラミガキ。	淡茶褐色	2 mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好	
五〇	包含層							
277	同上	口 径 18.8		平らに近い杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 外側面部ヨコナデ後ハケナデ(8本)、内面上位ハケナデ(8本)、下位ナダ。	淡茶褐色	3 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
五一	包含層							
278	器 (土師器)	口 径 13.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部は欠損。体部内面に1本の締合筋を有する。 上縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ハケナデ(14本)、内面指ナダ。	乳灰茶色	0.5 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
	包含層							
279	同上	口 径 13.8		上縁部は上外方へ外反して伸び、縁部は上面に凹む。体部は欠損。 内面指コナダ。	乳茶褐色	1.5 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
280	同上	口 径 15.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 上縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ナダ、内面ヘラナダ。	乳灰茶色	4.5 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
281	同上	口 径 18.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部はつまみ上げ、外側する凹面をもつ。体部は欠損。 上縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ナダ。	乳灰茶色	0.5 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
282	同上	口 径 28.2		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 上縁部外表面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外表面ハケナデ(13本)、内面ヘラナダ。	乳灰褐色	2 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
283	羽釜 (土師器)	口 径 17.0 縁部径 22.8		上内方へ内溝して伸びる体部から上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 体部外表面近くに上外方へ伸びる筋が通る。縁部は丸い。体部は欠損。 内面ヨコナダ。	茶褐色	2 mm以下の 雲母・長石 角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
284	同上	口 径 24.6 縁部径 29.0		上方へ伸びる体部から上外方へ外反時に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部外表面近くに上外方へ伸びる筋が通る。縁部は丸い。体部は欠損。 外ナダ、内面ヨコナダ。	外 乳茶褐色 内 茶褐色 乳茶褐色	1 mm以下の 雲母・長石 等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
285	杯蓋 (須恵器)	口 径 9.7		平らな天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。内面にかえりを有し、かえり縁部は強く尖る。つまみは欠損。 外側ヨリ回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	暗青灰色	2 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
	包含層							
286	同上	口 径 10.2		上面四隅の大井底から下外方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。内面にかえりを有し、かえり縁部は丸い。つまみは欠損。 外側ヨリ回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	明青灰色	2 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
	包含層							

第2調査区

遺物番号 図版番号	器種	高さ (cm)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
287	杯蓋 (吸菸器) 包含層	口 径 11.2		丸みをもつ天井部から外下方へ伸びる口縁部に示る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり縁部は焼く焼る。つまみは欠損。外縁1/4回転へ削り、他は回転ナダ。	青灰色	2mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
288	同上	口 径 15.5		平らな天井部から外下方へ伸びる口縁部に示る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり縁部は焼く焼る。つまみは欠損。外縁1/4回転へ削り、他は回転ナダ。	暗青灰色	1mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
五一	包含層							
289	同上	口 径 10.0 器 高 3.5		平らな天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。他は焼跡なし。内外側回転ナダ。	明青灰色	4mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
五一	包含層							
290	同上	口 径 11.3 器 高 3.9		丸みをもつ天井部から外下方へ伸びる。縁部は焼跡なし。1/3強部は下内方に内消して伸びる。大汗部が残り、内面不定方向のナダ。他は回転ナダ。	青灰色	5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
	包含層							
291	朴身 (吸菸器) 包含層	口 径 14.4 器 高 4.4		平らな底面部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に示る。端部は丸い。底部外縁は回転ナダ。	暗青灰色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
292	同上	口 径 14.6 器 高 4.3 包含層 径 9.0		平らな底面部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に示る。端部は丸い。底部外縁には断面方形の高台が付く。内外側回転ナダ。	乳白色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
293	同上	口 径 14.6 器 高 5.2 包含層 径 10.2		外上方へ伸びる底面部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に示る。端部は丸い。底部外縁には断面方形の高台が付く。底部は欠損。内外側回転ナダ。	乳白色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 外縁に自然 接着着。
294	同上	口 径 8.4 器 高 3.4 包含層		丸みをもつ底面部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外縁調整不規則、内面不定方向のナダ。他は回転ナダ。	淡灰茶色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
295	同上	口 径 9.9 器 高 3.7 包含層		外上方へ伸びる底面部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外縁余きり、内面不定方向のナダ。他は回転ナダ。	明青灰色	5mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
296	同上	口 径 9.4 器 高 3.5 包含層		丸みをもつ底面部から屈曲し、上外方へ外仄して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外縁余きり、内面回転ナダ。	乳白色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
五一	包含層							
297	同上	口 径 9.7 器 高 3.7 包含層		外上方へ伸びる底面部から屈曲し、上外方へ外仄して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外縁余きり、他は回転ナダ。	青灰色	2mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
298	同上	口 径 9.8 器 高 3.8 包含層		丸みをもつ底面部から屈曲し、上外方へ内消気孔に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外縁余きり、内面不定方向のナダ。他は回転ナダ。	明青灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
299	同上	口 径 9.3 包含層		丸みをもつと思われる底面部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。底部外縁回転ヘ削り、他は回転ナダ。	暗青灰色	2mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
300	鉢 (吸菸器) 包含層	口 径 19.6		上外方へ伸びる底面部から口縁部に至る。端部は外側傾する凹面をもつ。底部は欠損。内外側回転ナダ。	乳白色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	

遺物番号 団体番号	器種	出土 (cm)	地點 基高	形態・調査等の特徴	色 陶	胎 土	施成	備考
301 (保存器) 包含層	口 楠	27.4		上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外側する面をもつ。底部は欠損。 内外面凹凸ナデ。	乳灰色	2 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方 向。
302 包含層	同上	11 径	21.6	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外側する面をもつ。底部は欠損。 外面四軒ナデ、内面不定方向のナデ。	灰青色	1 mm以下の 瓦石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
303 包含層	同上	11 径	28.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外側する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面凹凸ナデ。	乳灰色	3 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
304 包含層	同上	口 楠	29.8	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外側する面をもつ。底部は欠損。 内外面凹凸ナデ。	乳灰青色	4 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
305 包含層	同上	11 径	19.6	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ(5本)、体部外側タタキ(8本)後ハケナデ、他は回転ナデ。	明青灰褐色	2 mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
306 包含層	同上	11 径	21.7	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ(7本)、体部外側タタキ(4本)後ハケナデ、他は回転ナデ。	明青灰褐色	4 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方 向。
307 包含層	同上	11 径	25.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下方に内下がり、外側に凸面をもつ。体部は欠損。 端部外側・内面凹凸ナデ、口縁部外側タタキ(3本)。	乳灰色	0.5 mm以下の 瓦石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。
308 包含層	同上	口 楠	25.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内凹気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側凹凸ナデ、体部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外 灰 内 乳灰色	1 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	口縁部内面 灰かぶり。
309 包含層	同上	口 楠	30.1	内上方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側凹凸ナデ、体部外側タタキ(4本)後ハケナデ(9本)、内面円弧タタキ。	乳灰色	2 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
310 包含層	鉢 (土器) 包含層	口 楠	22.8	上外方へ伸びる体部から上方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内側する凹面をもつ。底部は欠損。 体部外側ナデ、指痕、他はヨコナデ。	乳灰褐色	2 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
311 五一 包含層	同上	口 楠	17.2	上外方へ内凹して伸びる体部から上方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳茶褐色	0.5 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	
312 五一 包含層	同上	口 楠 高	18.6 6.5	やや丸みをもつ底部から上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳灰茶色	2 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	完形。
313 五一 包含層	同上	口 楠	18.8	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、底部外側ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1 mm以下の 砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 同故番号	器種	出土 (cm)	地立 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
314 五一	鉢 (十断面) 包含層	口 径 15.4 器 高 5.3	丸みをもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部外側ヨコナダ、底体部外側へラミガキ、内面放射状暗文。	乳茶褐色	Zaa以下の 砂粒を微量 含む。	良好		
315 包含層	同上	口 径 18.0	上外方へ内湾して伸びる底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。端部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底体部外側ナダ。	外 淡赤褐色 内 乳茶褐色	3 mm以下の 赤褐色化 粧等の砂粒 を微量含む。	良好		
316 包含層	同上	口 径 14.4 器 高 4.8	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 11縫部外側ヨコナダ、底体部外側へラミガキ、内面放射状暗文。	淡赤褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
317 包含層	同上	口 径 12.0	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 外面ナダ、内面放射状暗文。	淡茶褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	底部外面に 黒斑有。	
318 包含層	同上	口 径 10.6 器 高 3.9	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 内外面ナダ。	外 赤褐色 内 乳茶褐色	0.5 mm以下 の素母等の 砂粒を少量 含む。	良好		
319 包含層	同上	口 径 15.8	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 外面ヨコナダ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	0.5 mm以下 の砂粒を微量 含む。	良好		
320 包含層	同上	口 径 14.9	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。底部は欠損。 外面ヨコナダ、内面放射状暗文。	明赤褐色	2 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好		
321 包含層	同上	口 径 15.8	斜上方へ伸びる底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 口縁部外側ヨコナダ、底体部外側ナダ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	0.5 mm以下 の砂粒を微量 含む。	良好		
322 包含層	同上	口 径 12.1	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 11縫部内外面ヨコナダ、底体部内外ナダ。	淡茶褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を微量 含む。	良好		
323 五一 包含層	同上	口 径 10.8 器 高 3.0	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナダ、底体部外側ナダ、内面刻溝の調整不順野。	明赤褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
324 五一 包含層	同上	口 径 10.6 器 高 3.2	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナダ、底体部外側ナダ。	深赤褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
325 包含層	同上	口 径 10.0 器 高 3.0	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底体部内外ナダ。	淡茶褐色	1 cm以下の 赤褐色化粧 板、長石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
326 包含層	同上	口 径 12.0 器 高 3.3	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。 11縫部内外面ヨコナダ、底体部内外ナダ。	淡茶褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
327 包含層	同上	口 径 14.0 器 高 2.3	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外側する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナダ、底体部内外ナダ。	淡灰褐色	0.5 mm以下 の長石、素母等の 砂粒を少量 含む。	良好		

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
五一 包含層	鉢 (土器)	口 径 器 高	21.0 3.6	平らな底部分から外方へ内湾して伸びる口 縁部に平ら。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナギ、底部外側ナデ・指 彫痕、内面放射状断面。	外 内 赤褐色 赤褐色	0.5 mm以下の 長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
	同上	口 径	22.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に 至る。端部は丸い。底部は欠損。 外側調整不明瞭、内面放射状断面。	淡赤褐色	0.5 mm以下の 長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
五一 包含層	同上	口 径	22.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に 至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナギ、体部外側ナデ、内面 放射状断面。	淡赤褐色	1 mm以下の 長石・赤褐色 化粧等の 砂粒を少 量含む。	良好	
	皿 (土器)	口 径 器 高	15.0 3.1	平らな底部分から外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に平ら。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナギ、体部外側ナデ、内面 放射状断面。見込みは標準状断面。	淡赤褐色	2 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
五一 包含層	同上	口 径	24.0	平らな底部分から外方へ内湾気味に伸びる 口縁部に平ら。端部は丸い。 内外面ナデ。	赤褐色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
	同上	口 径	23.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は 内方に肥厚し、丸い。底部は欠損。 内外面摩擦の為調整不明瞭。	乳灰褐色	0.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
五一 包含層	台付皿 (土器)	底 径	11.6	底部は平らである。脚部は下外方へ伸びた 脚外下方向へ斜く伸びる筋部に平ら。端部は丸 い。体部は欠損。 底部内面摩擦の為調整不明瞭、底面ナデ、 他はヨコナギ。	乳茶褐色	2.5 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
	鉢 (土器)	口 径	14.4	上外方へ伸びる体部から口縁部に平ら。端 部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナギ、体部外側ナデ・指 彫痕、内面ナデ。	乳灰褐色	2 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
五一 包含層	小皿 (土器)	口 径 器 高	7.8 1.2	平らな底部分から屈曲し、上外方へ伸びる口 縁部に平ら。端部は丸い。 内外面ナデ。	乳茶褐色	3 mm以下の 長石・チイ ート等の砂 粒を少量含む。	良好	
	同上	口 径 器 高	9.1 1.9	平らな底部分から屈曲し、上外方へ伸びる口 縁部に平ら。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナギ、底面内外面ナデ。	外 内 赤褐色 赤褐色	3 mm以下の 赤褐色等の砂 粒を少量に 含む。	良好	
五一 包含層	同上	口 径 器 高	8.0 1.4	丸みをもつ底部分から屈曲し、上外方へ伸び る口縁部に平ら。端部は丸い。 内外面ナデ。	新灰褐色	1.5 mm以下の 長石・雲母 ・石英・赤褐色 化粧等の砂 粒を少 量含む。	良好	
	同上	口 径 器 高	8.6 1.3	平らに近い底部分から屈曲し、斜上方へ伸び る口縁部に平ら。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナギ、底面内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5 mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	
五一 包含層	同上	口 径 器 高	9.2 1.2	平らな底部分から屈曲し、斜上方へ伸びる口 縁部に平ら。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナギ、底面内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5 mm以下の 長石・雲母 ・赤褐色 化粧等の砂 粒を少 量含む。	良好	

第2調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色調	地 上	地 成	備 考
341	小皿 (土師器) 包含層	口 径 高	8.8 1.6	平らな底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡赤茶色	0.5 mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量含む。	良好	
342	同上 包含層	口 径 高	9.8 1.5	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡茶灰色	0.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
343	同上 包含層	口 径 高	9.2 1.4	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部はナダ。	外 乳茶 色 内 淡灰茶 色	5 mm以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
五一	包含層	口 径 高	8.6 1.4	やや外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナダ。	茶灰褐色	3 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
344	同上 包含層	口 径 高	9.0 1.4	やや外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナダ。	茶灰褐色	3 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
345	同上 包含層	口 径 高	9.0 1.4	やや外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナダ。	灰茶褐色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
346	同上 包含層	口 径 高	9.0 1.6	外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡茶褐色	0.5 mm以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
347	中皿 (土師器) 包含層	口 径	12.4	上外方へ内湾して伸びる底部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。	淡灰褐色	0.5 mm以下の赤褐色酸化鉄・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
348	同上 包含層	口 径	14.0	上外方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内外面ナダ。		0.5 mm以下の赤褐色酸化鉄・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
349	同上 包含層	口 径	13.0	I-外方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 体部外表面ナダ、底部ヨコナダ。	淡灰褐色	0.5 mm以下の赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量含む。	良好	
350	盃 (土師器) 包含層	口 径	35.0	上外方へ伸びる底部から上外方へ傾く外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外表面タタキ(2本)、内面ハケナダ(7本)。	乳灰褐色	2.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
351	羽釜 (土師器) 包含層	口 径 鋸部径	25.0 31.0	上外方へ伸びる底部から傾曲し、外上方へ傾く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外側には水平に伸びる鋸部がある。端部は凹型。体部中央以下には欠損。 内外面ナダ。	外 淡青褐色 内 乳茶褐色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
352	小皿 (瓦器) 包含層	口 径 高	8.8 2.2	丸みをもつ底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 見込みは銅格子状跡文。	灰青色	稍良。	良好	
353	同上 包含層	口 径 高	8.8 2.1	平らに近い底盤から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナダ後ハミガキ、見込みは銅格子状跡文。	青灰色	稍良。	良好	

遺物番号 [文部省登録番号]	器種	出土 年	地點 器高	形態・調査等の特徴	色調 胎土	洗成	備考
354	小皿 (瓦器)	口 径 2.1	8.8 高	丸みをもつ底盤から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ割れし、丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ。見込みは斜格子状暗文。	灰褐色 5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	光沢。
五二	包含層						
355	同上	口 径 2.1	9.2 高	平らな底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。見込みは平行状暗文。	淡青灰色	精良。	良好
五二	包含層						
356	同上	口 径 2.2	8.4 高	丸みをもつ底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。見込みは平行状暗文。	灰青色	精良。	良好
五二	包含層						
357	同上	口 径 2.0	8.4	丸みをもつ底盤から底盤に至り、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。	淡灰色 7mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包含層						
358	同上	口 径 2.0	9.6 高	平らな底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。	青灰色	精良。	良好
	包含層						
359	同上	口 径 1.9	7.6 高	丸みをもつ底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。	淡灰色 8mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包含層						
360	同上	口 径 2.3	8.0 高	平らな底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。	灰褐色～乳 灰色	精良。	良好
	包含層						
361	同上	口 径 1.9	8.5 高	丸みをもつ底盤から底盤に至り、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ナデ後へラミガキ。	灰青色	精良。	良好
五二	包含層						
362	碗 (瓦器)	口 径 底 底 底	15.4 6.0 6.2	半球形の突起部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外側には断面直二角形の高台が付く。 内外側ナデ後へラミガキ。	暗灰褐色	精良。	良好
	包含層						
363	同上	口 径	14.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ後へラミガキ。体部外側指押さえ後へナデ。内面ナデ後へラミガキ。見込みは斜格子状暗文。	灰褐色	精良。	良好
	包含層						
364	同上	口 径	17.0	外ヒ方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外側指押さえ後へラミガキ。内面ナデ後へラミガキ。見込みは格子状暗文。	灰黑色～乳 灰色	精良。	良好
	包含層						
365	同上	口 径	14.4	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内面ナデ後へラミガキ。見込みは斜格子状暗文。	灰黑色	精良。	良好
	包含層						
366	同上	口 径	15.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外側指押さえ後へラミガキ。内面ナデ後へラミガキ。見込みは斜格子状暗文。	乳灰色 1mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
	包含層						

第2調査区

遺物番号 回収番号	器種	出土 (m)	地點 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
367 (瓦器)	口 径	16.2		外上方へ内溝して伸びる体部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 内外面ナマテ後へラミガキ。	暗灰色	精良。	良好	
368 包装層	同上	口 径	15.8	側上方へ内溝して伸びる体部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 内面ナマテ後へラミガキ。	灰黒色	精良。	良好	
369 五二 包装層	縦透器	口 径	12.4	外上方へ伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する曲をもつ。底部は突出した盛み底。 内外面ナマ。	緑灰色-茶 灰色	精良。	良好	外面上に鉛附 付着。 内面に鉛附 着。
370 五二 包装層	白磁器	底 径	7.0	体部は上外方へ内溝して伸びる。底部は突出した盛み底。口縁部は欠損。 内外面向軽ナマ。	乳白色	精良。	良好	内面に鉛附 付着。 ロクロ方向 不明。
	平瓦	厚さ	3.0	門面布口、凸面綾目。	門面 淡茶 底 底色 内面 淡茶 断面 淡茶 褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
	包装層							

第3調査区

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	燒成	備考
1	小型丸底盆 (土器)	口 径	8.2	側面は圓形の体部から弧曲し、上外方へ内 傾気味に伸びる口縁部に至る。縫合は無い。 底部は丸底。	外 茶褐色 内 黑褐色	2 mm以下の 長石・石英 等の砂 粒を多量に 含む。	良好	完形。
五二	包含層	器 高	9.5					
		底 大径	10.0					
2	杯蓋 (須恵器)	口 径	12.8	天井部から下外方へ伸びる縁に至る。後は 鋸い。口縁部は下外方へ伸び、底部は下に凹 曲をもつ。天井部は欠損。 内外側均縫ナゲ。	乳白色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
	包含層	底 径	12.1					
3	円上	口 径	12.6	低く平らに近い天井部から下外方へ伸びる 縁に至る。後は鋸い。口縁部は下外方へ伸び 縫合は内傾して四面をもつ。 天井部外周2/3 回転へ割り、他は回転ナ ゲ。	灰褐色	3 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
	包含層	器 高	4.0					
		底 大径	12.4					
4	円上	口 径	14.0	平らと思われる天井部から下外方へ内済し て伸びる縁に至る。後は鋸い。口縁部は下外方へ伸び 底部は下に凹曲をもつ。天井部は欠損。 天井部外周2/3 回転へ割り、他は回転ナ ゲ。	乳灰青色	0.5 mm以下 の砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
五二	包含層	底 径	13.0					
5	折身 (須恵器)	口 径	10.2	深く丸みをもつ底部から上外方へ内済し て伸びる縁に至る。受部は外上方へ伸び、 丸い。立ち上がりは内傾し、内傾して四面を もつ。 底部外周2/3 回転へ割り、他は回転ナ ゲ。	外 淡灰色 内 乳灰色	3 mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	完形。 ロクロ右方 向。
五二	包含層	器 高	4.9					
		受部径	12.4					
		立ち上がり高	2.0					
6	鉢	口 径	11.6	深く平らな底部から上外方へ伸びる受部 に至る。受部は上外方へ伸び、丸い。立ち上 がりは内傾し、縫合は内傾する四面をもつ。 縫合部内面に凸凹が進む。 底部外周1/2 回転へ割り、他は回転ナ ゲ。	古灰色	3.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	完形。 ロクロ左方 向。 外周3/5 に 底部へ割り。 立ち上がり 内側にヘラ 記号有。
五二	包含層	器 高	5.3					
		受部径	11.0					
		立ち上がり高	2.0					
7	円上	口 径	13.8	底部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は 水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、縫 合は無い。底部は欠損。 内外側均縫ナゲ。	乳灰色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
	包含層	受部径	13.8					
		立ち上がり高	1.3					
8	円上	口 径	11.2	深く平らな底部から上外方へ伸びる受部 に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上 がりは内傾し、縫合は丸い。 底部外周1/3 回転へ割り、他は回転ナ ゲ。	外 磨灰褐色 内 乳灰青色	2.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	完形。 ロクロ左方 向。 底部外周に 自然断付 有。
五二	包含層	器 高	4.3					
		受部径	14.2					
		立ち上がり高	1.0					
9	円上	口 径	12.0	底部は上外方へ内済して伸びる受部に至る。 受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内 傾し、縫合は無い。底部は欠損。 内外側均縫ナゲ。	外 淡灰青色 内 乳灰色	1 mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
	包含層	受部径	14.4					
		立ち上がり高	0.9					
10	高杯 (須恵器)	底 径	19.4	杯縁は欠損。縫合部は下外方へ伸び、縫合部は 外下方へつまみ出し、外傾する四面をもつ。 縫合部は欠損。 内外側均縫ナゲ。	乳灰色	稍良。	良好	ロクロ右方 向。
	包含層							
11	貝 壺 (上器)	口 径	15.8	平らと思われる底部から上外方へ外反して 伸びる口縁部に至る。縫合部は内方に肥厚し、 つまみ出上る。底部は欠損。 口縁部外周ヨコナゲ、底部外周ナゲ、指 彫痕、内面ナゲ。	外 乳灰褐色 内 磨灰褐色	3.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							

第3調査区

遺物番号 採取番号	器種	出土 (cm)	地点 番号	形態・調査等の特徴	色調	胎上	焼成	備考
12 (瓦器)	鉢 包含層	口径 5.6	22.0	楕円の底体部から上方へ内溝して伸びる口 縁部に平ら。底部は丸い。 外腹ハラミガキ、口縁部内面ヨコナギ、底部内面ナミ。	外灰青色 一孔灰 色 内乳灰色	精良。	良好	
13 包含層	丸瓦	厚さ	1.4	凹面布目、凸面繩目。	凹面 乳灰色 凸面 灰褐色 新面 灰褐色	3mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
14 包含層	瓦上	厚さ	2.2	凹面布目、凸面繩目。	凹面 孔灰 褐色 凸面 淡灰 褐色 断面 淡灰 褐色	3mm以下の 砂粒を少々 含む。	良好	

第4調査区

遺物番号 〔出版番号〕	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・調査等の特徴	色 調	粒 度	成 分	備 考
1 SK4	杯蓋 (吸菸器)	11 径 SK4	9.8	丸味をもつ天井部から下外方へ内済して伸び、後方に尖る。縫は鋸く尖る。口縁部は下方へ内済気味に伸び、縫部は内済する面をもつ天井部の一端は欠損。 天井部外側面縫ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	0.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	
2 SK11	裏 (土器底)	口 径 SK11	11.2	上内方へ内済して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縫部は内方へ記載する。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外側ハケナデ(6本)後ナデ、内面指ナデ。	乳茶褐色	1mm以下の 石英等の砂 粒を少量含 む。	良好	
3 SK11	同上	口 径 最大径	12.0 14.4	最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ内済気味に伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外側ハケナデ(5本)、内面指ナデ。	外 乳茶褐色 内 茶褐色 乳茶褐色	1.5 mm以下 の長石・石英・ 赤褐色酸化 鉄等の砂粒 を少量含む。	良好	体部内外面 下位に漆付 着。
4 SK11	同上	口 深	11.0	上内方へ内済して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。体部中位以下は欠損。縫部内面に1本の結合痕を有する。 口縁部外側ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ(5本)、体部外側ハケナデ(10本)、内面指ナデ。	茶褐色	2 mm以下の 長石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
5 SK11	同上	口 深	無	上内方へ内済して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底部は丸い。 体部中位以下は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	1 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
6 SK11	同上	口 径 基 高 最大径	12.6 15.5 15.2	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫部は外につまみ突く尖る。底部は丸底。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハケナデ(10本)、内面上位ハケナデ(10本)後指ナデ、中位以下ヘラ削り。	乳茶色	2 mm以下の 長石・赤褐色 酸化鉄・ 石英等の砂 粒を少 量含む。	良好	完形。 体部外側中 位以下・内 面下位に漆 付着。
7 SK11	同上	口 径 SK11	15.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫部は外に衝 をもたら、沈殿が残る。体部は欠損。体部内面に1本の結合痕を有する。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	外 乳茶色 内 茶褐色	2 mm以下の 長石・石英等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
8 SK11	同上	口 径	15.0	上内方へ内済して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縫部は外傾する度をもつ。体部中位以下は欠損。縫部内面に1本の結合痕を有する。 口縁部外側ヨコナデ・指押痕、内面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	1 mm以下の 赤褐色酸化 鉄・石英・ 長石・茶褐色 等の砂粒を 多量に含む。	良好	
9 SK11	同上	口 径	17.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縫部は上面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	茶褐色	1.5 mm以下 の白雲英等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
10 SK11	同上	口 径	18.8	上内方へ内済して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縫部は外傾する度をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外側ヨコナデ・指押え、内面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	決茶褐色	3 mm以下の 長石・石英・ 白雲英等の砂 粒を多量に 含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11	甕 (上部器)	口径	18.4	上内方へ内溝して伸びる体部から唇曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は肥厚し、内側に面をもつ。体部中位以下は欠損。	淡茶褐色～茶褐色	2mm以下の長石・石英・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
五三	SK11			口縁部・器頂部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナダ（6本）、内面ナデ。				
12	同上	口 径	18.0	上内方へ内溝して伸びる体部から唇曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。	外 基褐色 内 乳茶褐色～茶褐色	1mm以下の長石・石英・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
五三	SK11			口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後ハケナダ（3本）、内面ハラ開り。				
13	瓶 (上部器)			口縁部・底部は欠損。体部は上外方へ内向気味に伸びる筒形。把手は点状形を呈する。外延ハケナダ（8本）、内面ナデ後ハケナダ（14本）、把手外面ナデ。	乳茶褐色～茶褐色～暗灰褐色	2.5mm以下の長石・角閃石・雲母・水垢色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好	
	SK11							
14	製塩土器	口 径	14.4	口縁部は上方へ内溝して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 赤茶色 内 乳茶色 断 黑灰色	1.5mm以下の石英等の砂粒を少量含む。	やや良	
	SK11							
15	同上	口 径	3.8	口縁部は七方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	乳褐色	2mm以下の長石・基岩・チャート等の砂粒を少量含む。	やや良	
五三	SK11							
16	同上	口 径	4.5	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外延タキ後ナデ、内面ナデ。	乳茶灰色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	やや良	
	SK11							
17	同上	口 径	2.9	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	乳茶色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	やや良	
	SK11							
18	同上	口 径	5.3	上方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 内外面ナデ。	乳灰色～乳茶色	1.5mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	やや良	
	SK11							
19	同上	口 径	4.7	上外方へ伸びる体部から上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	外 暗灰色 内 灰色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	やや良	
五三	SK11							
20	同上	口 径	4.1	上方へ内溝して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外延タキ後ナデ、内面ナデ。	乳茶色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	やや良	
	SK11							
21	同上	口 径	3.6	上方へ内溝して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 外延タキ後ナデ、内面ナデ。	外 淡褐色 内 乳茶色 断 淡褐色	4mm以下の長石・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	やや良	体部外面に黒斑有。
	SK11							
22	同上	口 径	4.9	上方へ内溝して伸びる体部から上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶灰色 内 乳灰茶色	2mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	やや良	
五三	SK11							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 岩高	形態・調整等の特徴	色調	粒度	施成	備考
23 五三	裏 (裏窓器)	口 径	18.8	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外へつまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外表面調整不規、内面不方向のナデ。	灰青色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縫部内外面・体部外周に自然縫付繩。ロクロ方向不明。
	SK11	口 径	11.8					
24 五三	杵蓋 (裏窓器)	口 径	12.2	大井部は欠損。天井部は外下方へ内溝して伸び、後に至る棱辺は鋸歯状である。口縁部は下外方へ外反して伸びる。端部は面をもつ。大井部外表面回転ヘタ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	1.5mm以下の砂粒を含む。	良好	ロクロ方向向。
	SK11	口 径	11.8					
25 五三	同上	I1 径	13.3	やや低い天井部から後に至る。後は純く尖る。I縁部は下外方へ伸び、端部は面をもつ。天井部外表面約1/3 回転ヘタ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	1.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	天井部外表面灰かぶり。ロクロ左方向。
	SK11	I1 高 腰 横	3.7 11.8					
26 五三	杯身 (裏窓器)	口 径	10.8	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、純く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は内側する凹面をもつ。	暗灰青色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
	SK11	器 高 受部径 立ち上がり高	5.2 12.8 2.0	底体部外表面約1/2 不定方向のヘタ削り、他は回転ナデ。				
27 五三	同上	口 径	9.8	やや深く丸い底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、純く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内側する凹面をもつ。底部の一部は欠損。	淡灰青色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	底体部外表面灰かぶり。ロクロ方向不明。
	SK11	受部径 立ち上がり高	12.2 1.9	底体部外表面約2/3 回転ヘタ削り、他は回転ナデ。				
28 五三	同上	口 径	11.0	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内側する凹面をもつ。底体部外表面4/7 回転ヘタ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形 ロクロ右方向。
	SK11	器 高 受部径 立ち上がり高	5.0 13.2 1.5					
29 五三	同上	口 径	11.0	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内上方へ伸び、端部は内側する凹面をもつ。底体部外表面5/7 回転ヘタ削り、他は回転ナデ。	乳灰色-淡 灰青色	3.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
	SK11	器 高 受部径 立ち上がり高	5.5 13.2 2.1					
30 五四	甕 (土器)	口 径	11.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内面溝に伸びるI縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナタ、体部外表面ハケナデ、内面ヘナダ。	淡茶灰褐色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SP30							
31 五四	杯 (土瓶器)	口 径	14.8	半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナタ、体部外表面ハケナデ、内面ヘナダ。	茶褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SP31	器 高	5.5					
32 五四	高杯 (土瓶器)	I1 径	11.6	半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナタ、外面下位・杯体部ハケナデ(7本)、内面ナデ。	茶褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SP50							
33 五四	杯蓋 (裏窓器)	口 径	11.3	天井部は欠損。天井部から下外方へ内溝して伸び、後に丸る。純は純く尖る。I縁部は下外方へ伸び、端部は内側する凹面をもつ。	灰青色	1.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SP4	脚 径	11.2	天井部外表面約1/3 回転ヘタ削り、他は回転ナデ。				

植物番号 回版番号	種 類	出上 (cm)	地点 高さ	形態・調整等の特徴	色	調 査 土	焼 成 度	備 考
34	杯苔 (原生器)	11.様	12.2	丸味をもつと思われる杯体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、底部は内傾する段をもつ。底部は欠損。	暗灰色	0.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
		S P 23	受部径 立ち上がり 高さ 1.9	底体部外縁約1/2を削り、他は同軸ナダ。				
35	杯蓋 (原生器)	口 径	12.4	やや高く丸い尖井部から穂に至る。穂は純 く尖る。1/2部は下外方へ伸び、過部は丸い。 尖井部外縁削除へテクノリ。内面不定方向の ナダ。他は同軸ナダ。	乳灰色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を微量に 含む。	良好	ロクロ左方 向。
		SD 1	器 高 穗 径 12.0					
36 五四	高杯 (原生器)	底 径	12.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。 底部は外に厚厚とし、丸い。脚部に四方孔 の長方形スカキを有する。 内外面削除ナダ。	淡灰色	0.5 mm以下の 砂粒を微量に 含む。	良好	杯部内面に 自然積付有 ロクロ方向 不明。
		SD 1						
37	壺 (原生器)	口 径	15.2	口縁部は上方へ伸びた後、端部付近で下外 方へ伸びる。端部はにつまむ。体部は欠損。 口縁部外縁上位に1条、下位に2条1組の縦 が1帯遺存する。その間に8条1組と3条 1組の波状文2帯が残されている。 口縫部内外面削除ナダ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
		SD 1						
38	壺 (上部器)	口 径	20.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する凹 曲をもつ。1/2部以下、体部は欠損。 1/2部内外面ハケナダ(10本)後ヨコナダ。	乳茶褐色	1 mm以下の 赤褐色化粧 粒・紫母・ 石英等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
		SD 5						
39 五四	壺 (下部器)	口 径	10.2	最大径を上位にもつ球形の体部から漸縮し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はにつまみ上 げする。底部は直立と墨わざ。	乳茶褐色	2 mm以下の 灰石・紫母等の砂 粒を少 量含む。	良好	
		SD 5	器 高 最大径 15.9 14.2	口縫部外縁ヨコナダ縫文、内面・体部外 面1位ヨコナダ、体部外縁中位ヨコナダ(8本)、 内面上位折ナダ、下位ヘテリ。				
40 五四	筒上	口 径	12.4	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外 反して伸びる口縫部に至る。端部はにつまみ上 げ。外傾する凹曲をもつ。底部は丸底。	外 淡褐色 内 乳茶褐色	1 mm以下の 長石・赤褐色 化粧粒等の砂 粒を少 量含む。	良好	完形。
		SD 5	器 高 最大径 10.5 12.8	口縫部内外面ヨコナダ、体部外縁ハケナダ (10本)、内面ナダ。				
41	筒上	口 径	20.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部 は丸底。体部は大指。	外 乳茶褐色 内 乳茶褐色	3 mm以下の 長石・赤褐色 化粧粒等の砂 粒を多 量含む。	良好	
		SD 5		口縫部内外面ヨコナダ、体部外縁ハケナダ (10本)後ナダ、内面ナダ。				
42	筒上	口 径	20.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縫部に至る。端部はにつまみ 上げ。体部は大指。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外縁ハケナダ (10本)、内面ヘテリ。	外 乳茶褐色 内 乳茶褐色	1.5 mm以下 の石英等の 砂粒を少 量含む。	良好	
		SD 5						
43	筒上	口 径	12.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部 は上に曲をもつ。体部は丸底。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外縁ナダ・指 摺、内面ヘテリ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	1 mm以下の 石英等の 砂粒を少 量含む。	良好	体部外縁一 部に黒斑有。
		SD 5						
44	筒上	口 径	15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに 屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至 る。端部は外傾する曲をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、内面ナダ。	外 茶赤褐色 内 茶褐色	1 mm以下の 長石・紫母等の砂 粒を少 量含む。	良好	
		SD 5						

遺物番号 国版番号	器種	出土 (m)	地点 器表	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成 地	考
45 五四	壺 (上部器) SD 5	口 径 21.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。体部は中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ナナ。	乳茶褐色～ 茶褐色	2 mm以下の 赤玉砂利化粧、 鐵石等の砂粒を多量に含む。	良好	
46 五四	同上 SD 5	口 径 19.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ナナ。	暗茶褐色～ 灰褐色	2 mm以下の 尾玉砂利を少量含 む。	良好	
47 五四	同上 SD 5	口 径 13.4		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に 凹をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ナナ、内 面ヘラ削り。	乳茶褐色	1 mm以下の 石英・赤褐色 酸化粧、 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
48 五四	同上 SD 5	IJ 径 16.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内 傾する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ナナ、内 面軋縮の為調査不明。	外 壱褐色 内 乳茶褐色	3 mm以下の 石英・赤褐色 等の砂粒を 多量に含む。	良好	
49 五四	鉢 (上部器) SD 5	口 径 8.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端 部は丸い。底部は欠損。体部内面に1本の接合 縫を有する。 口縁部内外面ヨコナナ、内面・体部外側ハケ ナナ(内7本・外8本)、内側ナナ。	乳茶色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
50 五四	高杯 (上部器)	口 径 15.0 高 底 径 11.7 底 径 10.2		平らに近い杯底部から屈曲し、斜上方へ外 反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 脚部は下外方へ内湾気味に伸びる柱状部から屈 曲し、斜下方へ開く複数に至る。端部は内 方へつまみ上げる。 杯部内外面・脚部外側ナナ、柱状部内面く りぬき・指頭痕、脚部内面ヨコナナ。	淡茶褐色	2 mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良好	
51 五四	同上 SD 5	口 径 15.6 高 底 径 11.9 底 径 10.0		平らに近い杯底部から屈曲し、斜上方へ外 反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚 部は下外方へ内湾気味に伸びる柱状部から屈 曲し、斜下方へ開く複数に至る。端部は内 方へつまみ上げる。 杯部内外面・脚部外側ナナ、柱状部外側ナ ナ・指頭痕、内面くりぬき、脚部外側ヨコナ ナ。	茶褐色	3 mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良好	
52 五四	同上 SD 5	IJ 径 16.6		丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸び た後外上方へ近く伸びる口縁部に至る。端 部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。脚部は欠 損。脚部外面上位に1本の接合縫を有する。 杯部内外面・脚部外側ナナ、内面くりぬき。	外 灰褐色 内 乳灰色	2.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
53 五四	瓶 (上部器) SD 3	口 径 11.0		上方へ僅かに外反気味に伸びる体部から口 縁部に至る。端部は若干上につまみ、 外傾する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナナ、内外面ハケナ ナ(内9本・外7本)。	乳茶褐色	2.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
54	同上 SD 5	口 径 19.8		上方へ僅かに外反気味に伸びる体部から口 縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 外側・口縁部内外面ヨコナナ、体部内面ヘラ 削り。	茶褐色	0.5 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	

漁物番号 同族番号	器種	出上 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色 調	粘 性	上 燒	成 績	備考
55 羽釜 (上部器)	口 深	27.2		上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。鰓部は水平に伸び、丸い。体部中位以下は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、体部外側、内面上位ハタケナデ(内5本・外6本)、中位ナデ。	茶褐色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5								
56 五箇	上縫	往 脛 深み	5.1 3.2	管状形。 外延ナデ。	茶褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5								
57 杯 (上部器)	口 径	11.9		丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 I1縫部外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面刺繡の為調整不明。	乳茶茶色	1 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5		器 高 3.9						
58 同上	口 径	12.8		I上外方へ内湾して伸びる体部から口縫部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面刺繡の為調整不明。	乳茶灰色	0.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5								
59 瓶 (上部器)	口 径	15.0		丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、底部内側ナデ。	乳茶茶色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5		器 高 3.8						
60 同上	口 径	14.8		上外方へ内湾して伸びる体部から口縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面放射状筋文。	乳茶灰色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5								
61 同上	口 径	14.8		広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面放射状筋文。	外 乳茶茶色 内 乳茶灰色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5								
62 同上	口 径	15.4		外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は内方へつまみ上げる。底部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面放射状筋文。	外 乳茶茶色 内 乳茶灰色	7 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5								
63 五五	口 径	14.9		広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面放射状筋文。	乳茶茶色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5		器 高 2.5						
64 同上	口 径	17.4		外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面刺繡の為調整不明。	乳茶茶色	1.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5								
65 同上	口 径	19.8		広く平坦な底部から上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面放射状筋文。	乳茶茶色	2.5 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好		
	SD 5								
66 五五	口 径	17.0		広く丸味をもつ底端から上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面放射状筋文。	乳茶茶色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5		器 高 2.6						
67 五五	同上	口 径	22.8	外上方へ伸びる底端から屈曲し、上外方へ伸びる口縫部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 I1縫部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、	乳茶茶色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好		
	SD 5								

遺物番号 図版番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・測定等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
68	皿 (上器)	口 径	20.0	広く平坦な底面から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縁部は内方に肥厚する。底盤の一部は欠損。 口縁部外側・縁部内側ヨコナナ、底部外側ナナ、口縁部・底盤内側放射状暗い。	外 乳茶灰 色 内 暗灰茶 色	3mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
69	台付大皿 (上器)	口 径	28.6	上外方へ外反して伸びる体部から口縁部に至る。縁部は内方につまみ上げる。底盤の一部には断面方形の各辺が付く。底部は欠損。 口縁部内側ヨコナナ、体部外側ナナ、内側放射状暗い。高台ヨコナナ。	外 乳茶灰 色 内 乳灰茶 色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
70	同上	II 径 器 高	29.8 3.1	外上方へ伸びる底盤から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縁部は内方につまみ上げる。底盤の一部には断面円錐形の各辺が付く。底部は欠損。 口縁部内側ヨコナナ、体部外側ナナ、内側放射状暗い。	乳茶灰色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
71	杯身 (復元器)	口 径	14.2	僅かに膨らむ底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 底部外側不定方向ナナ、内面回転ナナ後不定方向ナナ、他ヨコナナ。	淡灰青色	1.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
五五	SD 5	器 高	4.0					
72	同上	口 径	14.6	半らに近い底盤から弧曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 底部外側には断面円錐形の各辺が付く。底盤の一部は欠損。 体部・底盤外側回転ヘラ削り、底部内側不定方向のナナ、他ヨコナナ。	外 淡灰青 色 内 乳灰色	1.5 mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
73	瓶 (復元器)	最大径	9.8	II 瓶部は欠損。僅かな球形の体部から上方へ伸びる。底部は丸底。体部中空よりやや上に円孔1個が空かれている。 底部外側回転ヘラ削り、他ヨコナナ。	灰色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量合 む。	良好	体部外側上 中位・内面 に施付有 る。ロクロ右方 向。
五五	SD 5							
74	同上	最大径	10.0	II 瓶部は欠損。最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から上方へ伸びる。底部はやや平坦な面をもつ。体部中位に円孔1個が空かれている。 底部外側回転ヘラ削り、他ヨコナナ。	灰青色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
五五	SD 5							
75	鉢 (復元器)	口 径	20.0	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。縁部は丸い。体部下位以下は欠損。 内外面回転ナナ。	淡灰色	0.5 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	ロクロ右方 向。
五五	SD 5							
76	同上	口 径	21.6	尖り気味の底盤から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部附近で大きめに内湾してII 瓶部に至る。縁部は外側する面をもつ。 底部回転ナナ、内面回転ナナ後不定方向のナナ。	淡灰青色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	完形。 ロクロ左方 向。
五五	SD 5							
77	甕 (復元器)	口 径	16.8	内上方へ伸びる体部から直上する口縁部に至る。縁部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内側ヨコナナ、体部外側タキタキ(4本)、内面回転タキタキ。	灰色	4mm以下の 長石等の砂 粒を少量合 む。	良好	外縁・口縁 部に施付有 る。ロクロ方向 不明。
五五	SD 5							
78	同上	口 径	22.4	内上方へ伸びる体部から上方へ外反して伸びる口縁部に至る。縁部は内方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内側ヨコナナ、体部外側回転ナナ、内面回転タキタキ。	灰青色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量合 む。	良好	口縁部内側 上位に施付 有る。ロクロ方 向不明。
五五	SD 5							
79	甕 (十脚器)	口 径	16.5	上内方へ伸びる体部から弧曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。 体部は欠損。 口縁部内側ヨコナナ、体部外側ハケナナ(6本)。	素褐色	4mm以下の 長石・角閃 石・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を少量 含む。	良	
SD 6								

植物番号 回収番号	器種	高さ (cm)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色調	粒度	焼成	備考
80 SD 6	糞 (土器器)	口 径 18.2		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出しありに門面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ。	外 赤茶褐色 内 乳茶褐色	2.5 mm以下 の長石・青 閃石等の砂 粒を少量含む。	良好	
81 SD 6	同上	口 径 17.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部外面ハケナダ（9本）後口コナダ、内面ハケナダ（7本）、体部外面ハケナダ（9本）、内面ナダ。	乳褐色	1.5 mm以下 の長石・青 母等の砂粒 を少量含む。	良	
82 SD 6	同上	口 径 19.1		上内方へ内溝して伸びる体部から幾やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、内面ハケナダ（5本） 体部外面ハケナダ（7本）、内面ナダ。	乳茶褐色	2.5 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母等 の砂粒を多量 に含む。	良	
83 五六 SD 6	同上	L1 径 11.0		上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げ、外に門面をもつ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、内面ハケナダ（9本） 体部外面ハケナダ（10本）、内面上位ナダ、中位ハケナダ後へ削り。	外 茶褐色 内 灰褐色	1.5 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良	
84 SD 6	同上	口 径 17.9		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縫部に至る。端部は内方に若干肥厚し、外側に門面をもつ。体部は欠損。 端部内面に1本の横合模を有する。 口縫部外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ（5本）、内面ナダ。	外 茶褐色 内 赤茶褐色 —乳茶 灰色	5 mm以下の 長石・雲母等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
85 SD 6	同上	口 径 26.3		上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は内方につまみ上げる。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ（8本）、内面ナダ。	外 乳白色 内 淡茶褐色	2 mm以下の 長石・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を少量 含む。	良好	
86 五六 SD 6	同上	口 径 21.8 高 18.6		半圓形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。底部は丸底。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面ナダ、指 痕痕、内面ナダ。	外 茶褐色 —茶褐 色 内 乳灰茶 色	3 mm以下の 長石・角閃 石・雲母等の 砂粒を少量 含む。	良	外側に焼付 着。
87 SD 6	杯 (土器器)	口 径 12.0		上外方へ伸びた後屈曲して内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ強く伸びる口縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、他はナダ。	外 茶褐色 —乳茶 褐色 内 乳茶褐色	1.5 mm以 上の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
88 SD 6	同上	口 径 14.2		浅い半球形の杯底部から上方へ内溝して伸びる口縫部に至る。端部は外につまみ、内傾する面をもつ。底部の一端は欠損。 内外面ナダ。	外 乳茶褐色 —茶褐色 内 乳茶褐色	1 mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
89 SD 6	同上	L1 径 14.6		浅い半球形の杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 口縫部外面ヨコナダ、他はナダ。	乳茶褐色	3 mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少量 含む。	良好	
90 五六 SD 6	同上	口 径 14.7 高 3.9		浅い半球形の杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 口縫部外面ヨコナダ、他はナダ。	外 淡茶褐色 内 乳白色	1.5 mm以下 の長石・赤 褐色酸化鉄 等の砂粒を 少量含む。	良好	完形。

遺物番号 同種番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
91 SD 6	口 楕 (土鉢器) 器 高 2.9	16.2	丸底をもつ杯底部から上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面半周の為調査不明。	乳灰褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好		
92 SD 6	同上	口 楕 17.0		広く平らと思われる杯底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は外方へ肥厚し、上面に瘤をもつ。底部の一部は欠損。 底部外面ナデ、他はヨコナデ。	外 淡赤褐色 内 乳茶灰 色	0.5 mm以下の 長石・青母・チャート・赤褐色 焼化粧等の 砂粒を少量 含む。	良好	
93 SD 6	同上	II 径 18.8		広く平らと思われる底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
94 SD 6	同上	口 楕 14.8		広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰褐色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
95 五六 SD 6	同上	II 径 15.4		平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳灰茶 色 内 乳茶灰 色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
96 SD 6	同上	II 径 15.8		外上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1.5 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
97 五六 SD 6	同上	II 径 15.6 器 高 2.6		広く平道な底部から上外方へ内溝して伸びた後、II 縫部附近で斜上方へ矧く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面調査の為調査不明。	乳灰茶色	1.5 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
98 SD 6	同上	II 径 17.8		上外方へ内溝して伸びた後、II 縫部附近で屈曲し、斜上方へ矧く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	2mm以下の 長石・チャート等の 砂粒を少量含む。	良	
99 SD 6	同上	II 径 19.8		平らな杯底部から上外方へ内溝して伸びた後、II 縫部附近で斜上方へ矧く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1.5 mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
100 五六 SD 6	同上	口 楕 19.6 器 高 3.7		平らな杯底部から上外方へ内溝気味に伸びた後屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 II 縫部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	2mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	
101 SD 6	同上	口 楕 19.0		上外方へ内溝して伸びる体部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 II 縫部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳灰茶 色 内 乳灰茶 色	5mm以下の 砂粒を微量 に含む。	良好	

遺物番号 回収番号	器種	出土 地点 標高	形・態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102 五 (土師器)	口 楠 器 高	21.2 2.9	平緩な底盤から上外方へ内凹気味に伸びた後、口縁部附近で斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、底部外面ナデ、底体部内面放射状暗文。	乳茶褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
五六 SD 6							
103 鉢 (上部器) SD 6	口 楠	19.4	上外方へ内凹して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上面をもつ。底部は欠損。 外側部ナデ、内面塞減の為調整不明。	外 淡茶褐色 赤褐色 内 乳茶褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
104 同上 SD 6	口 楠	20.2	上外方へ内凹して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側ハラ割り、内面剥離の為調査不明。	乳茶褐色	2mm以下の良石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外側下位に黒斑有。
105 同上 SD 6	II 径 器 高	21.2 7.6	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。 口縁部外面ヨコナデ、他は剥離の為調査不明。	外 乳茶色 内 乳褐色	2mm以下の良石・赤褐色 色酸化鉄・ 角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
五六 SD 6							
106 同上 SD 6	口 径 器 高	19.8 5.9	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。 口縁部外面ヨコナデ、他は剥離の為調査不明。	乳茶褐色～ 暗茶褐色	3mm以下の良石等の砂粒を少量含む。	良好	外側に運付 者。
五六 SD 6							
107 舟付鉢 (上部器) SD 6	口 楠 器 高 底 径	26.6 6.2 15.8	浅い半球形の杯体部から屈曲し、外上方へ広げて伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 底部外側には表面逆台形の高台が付く。 口縁部・底体部外側ヨコナデ、他はナデ。	乳茶系色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
五六 SD 6							
108 鉢 (土師器) SD 6	口 楠	36.0	上方へ内凹して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内側に付する凹面をもつ。底部は欠損。 内面ナデ。	外 乳茶褐色 内 乳茶褐色	3mm以下の良石等の砂粒を少量含む。	良好	
109 高杯 (土師器)	底 楠	12.2	底部は欠損。杯底部は平らで、脚部は下外方へ大きく外反して伸びる。端部は下方へ肥厚する。 杯底部外側ヨコナデ、内面剥離状暗文、柱状部外側ハラによる崩れより、内面くりぬき、脚部外側ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)。	淡茶褐色	1mm以下の良石等の砂粒を多量に含む。	良好	杯底部外側 にヘラ記号有。
五六 SD 6							
110 同上 SD 6			杯部・脚部端部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から下方へ伸びる。 杯底部内面ナデ、柱状部外側ハラによる崩れより、内面くりぬき、脚部外側ヨコナデ、内面ハケナデ。	外 乳茶褐色 内 乳茶褐色	3mm以下の良石・赤褐色 色酸化鉄等の砂粒を少量含む。	良好	
111 杯蓋 (須恵器) SD 6	つまみ径	2.8	低く丸味をもつ天井部から下外方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。天井部には鈍化する柱状のつまみが付く。 天井部外側倒板ハラ割り、他は向転ナデ。	外 灰青色 暗灰色	4mm以下の良石等の砂粒を少量含む。	良好	外側灰かぶり。 ロクロ左方向。
112 壺 (須恵器) SD 6	口 径	19.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰青色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面 灰かぶり。 ロクロ方向不明。
113 同上 SD 6	口 径	23.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰青色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外側 灰かぶり。 ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土場所 (cm)	地點 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
114 (須恵器) SD 6	口縁	25.6		口縁部は外上方へ大きく外反して伸び、端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面凹凸ナデ。	灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
	SD 6							
115 同上 SE 1	口縁	47.2		口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は内方に突起し、外側の凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面凹凸ナデ。	灰色～暗灰色	3 mm以下の砂石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
	SE 1							
116 (土師器) SE 1	口縁 唇	7.8		丸味をもつ強い底部から僅かに肩出しし、外上方へ内凹気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に膨張する。 内外面ナデ。	乳白色	1.5 mm以下の赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量含む。	良	
	SE 1	1.2						
117 同上 SE 1	口縁	9.6		丸味をもつ強い底部から肩出しし、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方に膨張する。 底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰白色	1 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
	SE 1							
118 SE 1	口縁	9.0		浅い半球形の杯底部から外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に膨張する。 底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰白色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SE 1							
119 (土師器) SE 1	口縁 器高	13.8		丸味をもつ底部から上外方へ伸びた後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰白色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
	SE 1	2.9						
120 SE 1	口縁	14.0		上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	茶灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
	SE 1							
121 SE 1	口縁	13.8		半球形底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰白色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
	SE 1							
122 五六	口縁 唇	15.2		半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸く、内側に沈線が進む。底部外側には断面逆三角形の溝がちりめん高台が付く。 内外面青白釉ナデ、高台外面ヨコナデ。	外 内 外 内	乳灰褐色 乳灰白色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好
	SE 1	6.2 7.0						
123 SE 1	口縁	13.8		半球形と思われる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面青白釉ナデ。	灰青色	2 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
	SE 1							
124 SE 1	口縁	16.0		半球形と思われる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色～乳灰白色	精良。	良好	
	SE 1							
125 SE 1	口縁	14.3		上外方へ内湾気味に伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は外方に突起し、丸い。体部下位は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰白色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良	
	SE 1							
126 SE 1	口縁	13.6		上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸く、内側に沈線が進む。体部下位は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰青色	精良。	良好	
	SE 1							
127 SE 2	口縁 器高 底径	12.6 4.8 3.4		半球形の底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に突起し、丸い。底部外側には断面逆三角形の小さな高台が付く。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外側面ナデ、内面ヘラミガキ。	外 内 外 内	灰褐色～乳灰色 灰褐色 灰褐色	精良。	良好
	SE 2							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
128 SE 3	小皿 (上部器) 器 高	8.6 1.5		若干席し底盤から上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底盤の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ。	淡茶灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
129 SE 3	中皿 (下部器) 器 高	11 12.6		口縁部は上方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。全体は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、下位ナデ。	暗茶灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
130 SE 3	小皿 (瓦器) 器 高	9.2 2.0		丸味をもつ底盤から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は平ら。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ハミガキ。	灰青色	2.5 mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
131 SE 3	碗 (瓦器) 器 高 底 径	14.4 4.8 4.4		半球形の杯形部から口縁部に至る。端部は上方へつまみ、丸い。底部外側には断面逆台形の高合が付く。 外面ナデ、内面ハミガキ、高白ヨコナデ、見込みは椅子状跡文。	暗灰青色	0.5 mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
132 SE 3	羽釜 (上部器) 口 径	27.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。器部は水平に伸び、丸い。底部は欠損。体部外面上位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面・体部外面上位ヨコナデ、中位以下・体部内面ハラナダ。	茶橙色	3.5 mm以下の砂粒を多量含む。	良好	体部外面中位以下に焼付着。
五七 SE 3	同上	口 径	30.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。器部は水平に伸び、外側に凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・ハラナダ・内面・体部外面上位ヨコナデ・中位以下・体部内面ハラナダ。	茶橙色	3 mm以下の砂粒を多量含む。	良好	体部外面中位以下に焼付着。
134 包含層	甕 (下部器) 口 径	12.9		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張する。全体は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ハラナダ。	茶褐色	2 mm以下の砂粒を少量化。	良好	
135 包含層	同上	口 径	15.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ(6本)、体部外側ハケナデ(6本)、内面ナデ。	褐灰色一赤褐色	3 mm以下の砂母・長石・石英・チャート等の砂粒を多量含む。	良	
136 包含層	同上	口 径	18.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ハケナデ(6本)、後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(6本)、内面ハラナダ。	淡茶系色	3 mm以下の砂粒を少量化。	良好	
137 包含層	同上	口 径	13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(11本)、内面ナデ。	別赤褐色	0.5 mm以下の長石・赤褐色酸化鉄等の砂粒を少量化。	良	
138 包含層	同上	口 径	18.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(外8本・内7本)。	乳灰系色	2 mm以下の砂粒を少量化。	良好	

遺物番号 国版番号	海種	出土 (cm)	地點 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
139	杯 (上部器)	口 径 12.8 包含層		上外方へ内側して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。口縁部外側ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、端部内側ハケナデ、内面ナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・長石等の砂粒を 少量含む。	良	
140	同上	口 径 13.0 器 高 4.4		輪形の底座部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。内外削ナデ。	明茶褐色	1mm以下の 長石・チャート等の砂粒を 少量含む。	良好	
五七	包含層							
141	同上	口 径 19.8		上外方へ内側して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。	明茶褐色	3mm以下の 長石・長石・赤褐色酸化 鉄等の砂粒を 少量含む。	良	
	包含層							
142	高杯 (下部器)	口 径 14.0 包含層		平らな杯底部から上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部は欠損。外側ナデ後ハケナデ(11本)、内面ナデ。	明茶褐色	1mm以下の 長石・長石・赤褐色酸化 鉄等の砂粒を 少量含む。	良	
143	同上	高 径 9.6 包含層		脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる脚部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯底は欠損。柱状部下位に三方孔を有する。 柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、底部内面ヨコナデ。	乳灰褐色	0.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
144	同上	口 径 26.2 包含層		杯部は下外方へ伸びた瓶状曲し、外上方へ延びる脚部に至る。端部はつまみ上げる。脚底部・脚部は欠損。 内外面ハケナデ(外13本・内10本)後放射状縮文。	明赤褐色	2mm以下の 長石・雲母・ チャート等の砂粒を 少量含む。	良好	
145	瓶 (上部器)	口 径 21.0 包含層		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる脚部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 内外面ハケナデ(内外8本)。	明茶褐色	3mm以下の 長石・雲母・ 赤褐色酸化 鉄等の砂粒を 少量含む。	良	
146	杯-瓶 (底窓器)	口 径 10.8 包含層	径 10.4	丸いと思われる天井部から下外方へ伸びる後に至る。縁は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は下に面をもつ。天井部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
147	同上	口 径 13.6 器 高 4.6 後 径 13.8		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内側気味に伸びる後に至る。縁は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は下に面をもつ。 大井部外側4/5 回転ヘラ削り、大井部内面2/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	青灰褐色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
五七	包含層							
148	同上	口 径 15.0 器 高 4.9 後 径 14.2		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸びる後に至る。縁は鋭い。口縁部は下外方へ内側気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外側2/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
五七	包含層							
149	同上	口 径 13.0 器 高 4.5 後 径 12.6		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸びる後に至る。縁は鋭い。口縁部は下外方へ内側気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外側3/5 回転ヘラ削り、天井部内面3/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰色	7mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
五七	包含層							
150	同上	口 径 18.6 後 径 13.4		天井部は下外方へ伸びる後に至る。縁は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。天井部は欠損。内外面回転ナデ。	青灰色	4mm以下の 石英等の砂 粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
	包含層							

遺物番号 回収番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
151 包含層	杯蓋 (須恵器)	口 径 13.8 器 高 3.6		平らな天井部から下外方へ伸びる。縁は痕跡なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。外縁は1/7回転ハラ削り、他は回転ナダ。	乳灰青色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 大井部外面にヘア記号有。
152 包含層	杯身 (須恵器)	口 径 11.0 受部径 13.4 立ち上がり高 1.1		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は内縮する凹曲をもつ。底部は欠損。内外面回転ナダ。	乳灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
153 包含層	同上	口 径 10.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.4		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は内縮する凹曲をもつ。底部は欠損。底体部外縁1/3回転へ削り。他は回転ナダ。	暗灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
154 包含層	同上	口 径 12.0 受部径 14.4 立ち上がり高 1.1		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は丸い。底部は欠損。内外面回転ナダ。	青灰色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
155 包含層	同上	口 径 10.8 器 高 5.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.6		深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は丸い。底体部外縁ハラ削り。他は回転ナダ。	暗灰褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
156 五七 包含層	同上	口 径 12.2 器 高 4.3 受部径 14.6 立ち上がり高 1.1		深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は丸い。底体部外縁ハラ削り。他は回転ナダ。	淡灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
157 五七 包含層	高杯 (須恵器)	口 径 9.1 器 高 8.1 底 径 8.8 受部径 11.9 立ち上がり高 1.6		平らな杯底部から上外方へ内側して伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内縮し、端部は丸い。脚部は下外方へ削った後、脚部で外下方へ圓く。縁部は下につくみ、外側に凹曲をもつ。底部は欠損。杯底体部外縁2/3回転ハラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	精良。	良好	ロクロ右方向。
158 包含層	鉢 (須恵器)	口 径 8.2		上外方へ内側して伸びる脚部から屈曲し、上外方へ伸びるU線部に至る。端部は内縮する凹曲をもつ。底部は欠損。内外面回転ナダ。	灰青色	精良。	良好	口縁部外面、端部内面・体部内面の一部灰かぶり。
159 五七 包含層	壺内 (須恵器)			脚部は下外方へ伸びる。受部・脚部は欠損。脚部は2つの三方内の反手形の透かしと、1つの三方孔の台形のスカシを有する。外側に4本の凸縁が巡る。外縁擦擦書き、内面回転ナダ。	灰青色	精良。	良好	
160 包含層	瓶 (須恵器)	口 径 27.6		上外方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ矧く伸びる口縁部に至る。端部は外側する凸曲をもつ。体部中段以下は欠損。体部外縁子タキ、内面下位不定方向のナダ。他は回転ナダ。	乳灰色	精良。	良	
161 包含層	同上	口 径 22.2		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へまよみ、外側に窓をもつ。体部は欠損。口縁部外縁には1帯8本の波状文が巡る。内外面回転ナダ。	灰褐色	精良。	良好	ロクロ左方向。
162 包含層	壺 (須恵器)	口 径 10.2		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へまよみ上げる。体部は欠損。内外面回転ナダ。	乳灰色	精良。	良好	

遺物登録番号	器種	出土点 (m)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
163	壺 (須恵器) 包含層	口径	10.8	内上方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 体部外側タキ(4本)、他は回転ナデ。	灰褐色	精良。	良好	
164	同上 包含層	口径	14.0	内上方へ伸びる体部から縦曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 体部内面同心円タキ、他は回転ナデ。	灰青褐色～暗灰褐色	精良。	良好	ロクロ右方向。
165	同上 包含層	口径	16.3	上内方へ内湾して伸びる体部から縦曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部内面以下は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外側タキ(4本)後ハケナデ(10本)、内面同心円タキ。	灰青色	精良。	良好	
166	壺 (須恵器) 五八 包含層	底径	9.6	底部は上外方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ短く伸びる裙部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
167	壺 (土師器) 五八 包含層	口径 器高	14.8 3.5	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 外側斜離の為調整不明瞭、内面放射状暗文。	灰褐色	1mm以下の長石・赤褐色 色酸化物・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
168	同上 五八 包含層	口径 器高	13.2 2.5	平らな底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 端部内面に1本の沈線が通る。 外側ナデ、内面放射状暗文。	明褐色	3mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
169	小皿 (土師器) 包含層	口径 器高	10.7 1.2	下外方へ伸びる底盤から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
170	中皿 (土師器) 包含層	口径	16.8	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	乳白色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良	
171	小皿 (瓦器) 包含層	口径 器高	11.2 2.7	丸みをもつ底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、他はナデ。	灰褐色	1mm以下の長石・赤母・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
172	碗 (瓦器) 包含層	口径	15.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。端部内面附近には1本の沈線が通る。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	灰褐色	精良。	良	
173	同上 五八 包含層	口径 器高 底径	15.8 5.2 4.8	楕円形の底盤から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部内面には断面逆三角形の窓台が付く。 外側ナデ後ヘラミガキ・指削痕、内面ナデ後ヘラミガキ。見込みは平行状暗文。	明灰色	精良。	良	
174	同上 包含層	口径	12.0	上外方へ内湾気味に伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。底部は欠損。 外側指削痕後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	乳白色～暗灰色	精良。	良	
175	羽釜 (土師器) 包含層	口径 鉢部径	35.6 44.0	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。口縁部外側付近に下外方へ伸びる筋が通る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	明赤褐色	5mm以下の長石・赤母・チャート等の砂粒を少量含む。	良	鉢部外側以下に擦付痕。

第4調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
176 包含層	羽釜 (瓦質)	LI 従	28.0	体部は上内方へ内湾して伸びる口縁部に土る。端部は内折する面をもつ。口縁部外側付近に外上方へ伸びる脚部が窺ひ。端部は曲をもつ。体部は欠損。 内外両ナデ。	暗灰色	6mm以下の砂粒を少量含む。	良	
177 包含層	平瓦	厚さ	2.2	四面布目、凸面縁目ナデ。	凹面 淡基灰褐色 凸面 淡灰褐色 断面 淡茶色	0.5mm以下の石英・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
178 包含層	平瓦	厚さ	2.0	凹面布目、凸面縁目。	凹面 淡基灰褐色 凸面 茶褐色 断面 淡茶褐色	1mm以下のチャート・石英等の砂粒を少量含む。	良	
179 包含層	丸瓦	厚さ	3.5	凹面布目、凸面ナデ。	凹面 淡灰色 凸面 淡茶褐色 断面 淡茶褐色	0.5mm以下のチャート・石英等の砂粒を含む。	良	
180 包含層	平瓦	厚み	1.7	凹面布目、凸面縁目ナデ。	凹面 暗灰色 凸面 淡灰色 断面 砂灰褐色	1mm以下の石英・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
181 包含層	丸瓦	厚さ	2.0	凹面布目ナデ、凸面ナデ。	凹面 淡灰色 凸面 淡茶褐色 断面 淡茶褐色	1mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良	
182 包含層	平瓦	厚さ	1.9	凹面布目、凸面ナデ。	凹面 乳灰褐色 凸面 从褐色 断面 乳灰褐色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
183 包含層	丸瓦	厚さ	1.9	凹面布目、凸面縁目。	凹面 暗黑色 凸面 暗褐色 断面 暗褐色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
184 包含層	平瓦	厚さ	2.7	凹面布目、凸面縁目。	凹面 淡茶色 凸面 淡茶褐色 断面 淡茶褐色	1mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

第5調査区

着物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
1	甕 (土器)	II 種	16.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タキ(3本)、内面ナデ。	外 内 橙褐色 乳茶色	2mm以下の 長石・重石等の砂粒を 多量に含む	良好	
2	同上	口 種	13.5	内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タキ(5本)、内面ナデ。	外 内 茶褐色 暗茶褐色	2mm以下の 角閃石等の 砂粒を少 量含む	良好	
3	同上	口 種	12.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は僅かに上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タキ後ナデ、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	1.5 mm以下 の角閃石等 の砂粒を多 量に含む	良好	
五八	SK 1							
4	同上	口 種	12.3	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	1mm以下の 重石・角閃 石・長石等の 砂粒を多 量に含む	良好	口縁部外面 に焼付着。
5	同上	口 種	16.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。口縁部外側に1本の接合縫がある。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)、体部外面タキ(8本)、後ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	1mm以下の 角閃石・長 石等の砂 粒を多 量に含 む	良好	体部外面に 墨斑有。
6	同上	口 種	13.7	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タキ(5本)、後ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	外 内 暗茶褐色 暗褐色	5mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少 量含む	良好	体部外面に 焼付着。
七	同上	口 種 移 蓋 蓋人住	14.2 17.0 16.8	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は丸い欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ(12本)、体部外面タキタキ(8本)、後ハケナデ(12本)、中位以下ハケナデ(12本)、内面ヘラ削り。	黑褐色	1.5 mm以下 の角閃石・ 長石等の砂 粒を多 量に含 む	良好	
五八	SK 1							
8	器台 (土器)	口 種 器 底 伴	10.0 9.4 10.1	受部は外上方へ内湾して伸びる深い底窪から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。脚部は下外方へまっすぐ伸びる。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 受部内外面堅厚の内調整不明、脚部外面ヨコナデ、内面くりぬき。	乳茶褐色	2.5 mm以下 の長石・赤 褐色強化粒等 の砂粒を少 量含む	良好	完形。
五八	SK 1							
9	同上	口 種 器 底 伴	9.6 9.5 11.1	受部は浅くやや平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。脚部は下外方へまっすぐ伸びる。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 受部内外面堅厚の内調整不明、脚部外面ヨコナデ、内面落ナデ。	茶褐色	1.5 mm以下 の長石・石 英等の砂 粒を多 量に含 む	良好	完形。
五八	SK 1							
10	甕 (土器)	II 種	12.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。端部にヘラキザミを有する。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・重石等 の砂粒を少 量含む	良好	口縁部外面 に焼付着。
	SK 2							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・測定等の特徴	色 調	胎 上	成 度	備考
11	甕 (土師器)	II 径	14.6	上内方へ内湾汽味に伸びる体部から屈曲し、外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘタ割り。	乳灰色	3.5 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
		SK 2						
12	鉢 (土師器)	II 径	17.0	偏平な半球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した上凹面。 口縁部内外面ヨコナデ、底面部内外面ヘタミガキ。	外 内 乳灰色 乳白色	2 mm以下の長石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
		基高 基底 径	8.4 4.2					
五九	SK 2							
13	同上	II 径	17.2	偏平な半球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底面部内外面ヘタミガキ。	灰茶色	5 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
		基高 基底 径	7.2 4.0					
五九	SK 2							
14	同上	II 径	11.2	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾汽味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰茶色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を微量含む。	良好	
		基高	7.1					
五九	SK 2							
15	高杯 (土師器)	II 径	14.4	丸い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。底部は欠損。 杯部・脚部外面ハケナデ(10本)、杯部内面ヘタミガキ、脚部内面はり目。	外 内 暗灰褐色 乳灰茶色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
		SK 2						
五九	SK 2							
16	同上	口 径	19.8	平らな杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底底部内外面ヘタミガキ。	暗灰茶色	1 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
		SK 2						
17	甕 (土師器)	II 径	19.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 内 基褐色 淡灰茶色	2.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	体部外側・内面中位に堆積層。
		SK 3						
18	同上	II 径 最大径	16.5 22.2	瓶形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 内 基褐色 淡灰茶色	5 mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	体部外側に堆積層。
		SK 3						
19	同上	底 径	4.8	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。端部はやや突出した上凹面。 体部外面タタキ(4本)、内面ナデ、底部外側ナデ。	外 内 基褐色 暗褐色 暗褐色	4 mm以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
		SK 3						
20	同上	底 径	3.1	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 体部外面タタキ(3本)、内面ナデ、底底部外側ナデ。	基褐色	4 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外側に堆積層。
		SK 3						
21	鉢 (土師器)	口 径	14.0	やや浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は上につまみ、鋸く尖る。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底底部内外面放射状裂文。	外 内 乳灰茶色 乳茶色	3.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
		SK 3						
22	同上	II 径	15.4	やや浅い半球形の底部から口縁部に至る。端部は上につまみ、鋸く尖る。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底底部内外面放射状裂文。	外 内 乳灰茶色 乳灰茶色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
		SK 3						

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 高さ	基盤・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	高杯 (土器蓋)	底 径	13.0	杯部は欠損。縁部は下方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる縫隙部に至る。縫隙部は丸い輪郭で内側に三方孔を有する。 柱状部内側にしばり目、泡はナゲ。	乳灰褐色	4 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
24	甕 (土器)	口 径	15.2	上内方へ内凹して伸びる縁部から屈曲し、外下方へ伸びるL縫隙部に至る。体部は丸い。体部は欠損。頸部内側に2本の接合痕を有する。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ナデ。	外 淡茶色 内 乳茶色	4 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
25	盃 (土器器)	口 径	17.2	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反しして伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縫隙部に至る。縫隙部は内方に肥厚し、内側に面をもつ。底部は丸底。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り後端押さえ。	乳灰褐色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	光形。
五九	SK 5	口 径	35.4					
五九	SK 5	口 径	39.4					
26	同上	口 径	19.4	最大径を上位に有する縁部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縫隙部に至る。縫隙部は内方に肥厚する。底部は丸底。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り後端押さえ。	乳茶色	1 mm以下の長石・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	光形。
五九	SK 5	口 径	49.0					
27	同上	口 径	39.8	最大径を上位に有する縁部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縫隙部に至る。縫隙部は内方に肥厚する。底部は丸底。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(17本)、下笠ヘラ削り。	乳灰褐色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
28	同上	口 径	27.6	口縫隙部は上外方へ伸び、縁部は下方へたれ下がり、外側に凸面をもつ。縫隙部には凸形浮出と5本の沈線が現れる。 外曲率半径の為調査不明瞭、内面ナデ。	乳茶色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
包含層								
29	甕 (土器器)	口 径	16.4	口縫隙部は上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。体部は欠損。 縫隙部の為調査不明瞭。	乳灰褐色	3 mm以下の長石・角閃石・石英・赤褐色化粧土等の砂粒を多量に含む。	良好	
包含層								
30	同上	口 径	16.8	上内方へ内凹して伸びる縁部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縫隙部に至る。縫隙部は丸い。体部は欠損。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外側タタキ(5本)、内面ナデ。	外 乳茶色 内 乳灰褐色	0.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
包含層								
31	同上	口 径	14.8	上内方へ内凹して伸びる縁部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる縫隙部に至る。縫隙部は丸い。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	乳灰茶色	3 mm以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
包含層								
32	同上	口 径	16.8	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後、外方へ屈く伸びる口縫隙部に至る。縫隙部は丸い。底部は突出しない平底。 口縫隙部外面ヨコナデ、体部外側タタキ(4本)、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
包含層								
33	同上	口 径	19.5					
底 径	4.3							
33	同上	口 径	15.7	上内方へ伸びる縁部から屈曲し、上外方へ伸びる口縫隙部に至る。縫隙部はつまり上げる。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	乳灰茶色	5 mm以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
包含層								

第5調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土場所 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34 裏 (土師器) 包含層	口径 17.8		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に毛る。端部は内方に肥厚し、つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(9本)、内面ナデ。	暗灰褐色	3mm以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
35 同上 包含層	口径 18.6		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に毛る。端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	3mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
36 器台 (土師器) 包含層	口径 8.8 器高 9.2 底径 11.0		平らな杯底基から上外方へ内湧して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる漸縮部に立る。端部は丸い。脚部中位に一方孔を有する。 杯部外周ヘラミガキ、内側ヘラミガキ後放射状暗文、脚部内外面ナデ。	乳灰茶色	2mm以下の石英等の砂粒を微量含む。	良好	
37 杯身 (陶器器) 包含層	口径 11.8 受部径 14.2 立ち上がり高 0.9		深く丸みをもつ底部から上外方へ伸びる受部に立る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内側し、端部は丸い。 底部外表面2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

第4章 第10次調査

第1節 調査の概要

今回の発掘調査は、昭和57年度から継続して実施している八尾市都市計画整備事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が当遺跡範囲内で実施した第10次調査にあたる（第121～123図）。

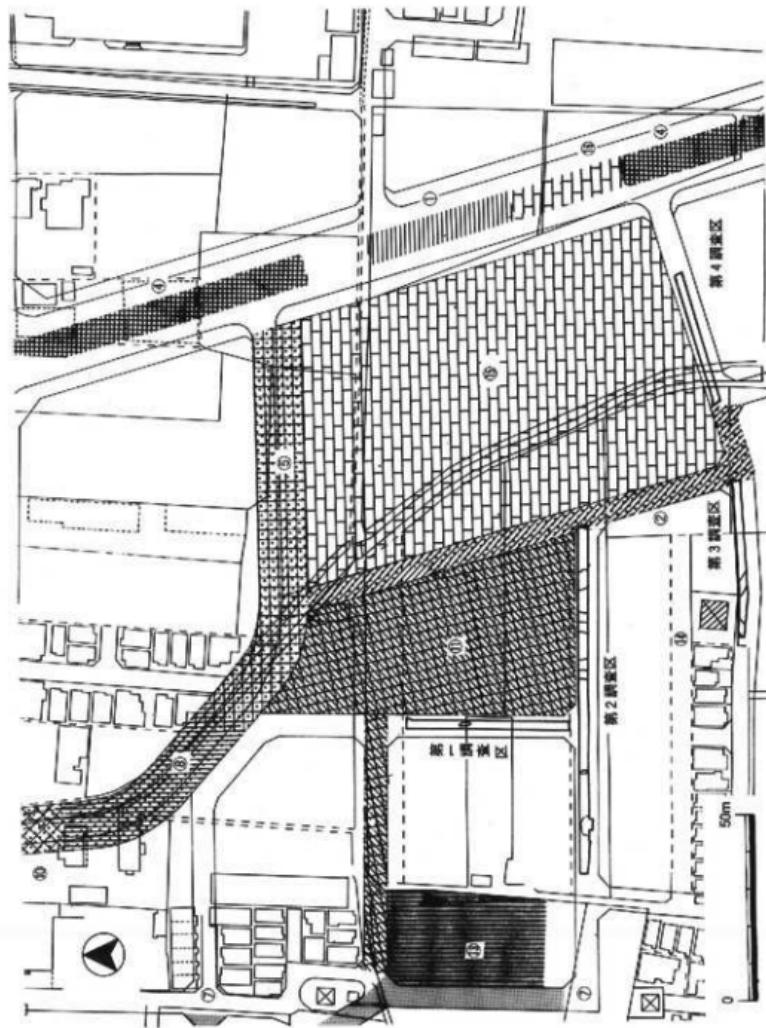
調査地は、当区画整理事業内の区画街路予定地（北部が4～2号線・9号線・12号線・17号線・38号線、南部が32号線・33号線・36号線・37号線）に計7箇所を設定した。これらの調査区は北から第1調査区～第7調査区と付称して調査を実施した（第121～123図）。総調査面積は約1,300を測る。掘削に際しては、既往調査の結果を参照し、現地表下0.3～0.5m迄を機械で掘削した。以下0.4～0.5m迄の土層を人力で掘削した。

地区剤は、当区画整理事業に伴う既往の発掘調査で使用している地区剤を活用した。基準点は当区画整理事業区域の南部にあり、この点から東西・南北軸を設定している。この区割線から調査区へ移動し、調査を実施した。なお、地区剤の詳細については第4次調査の報告書を参照されたい。

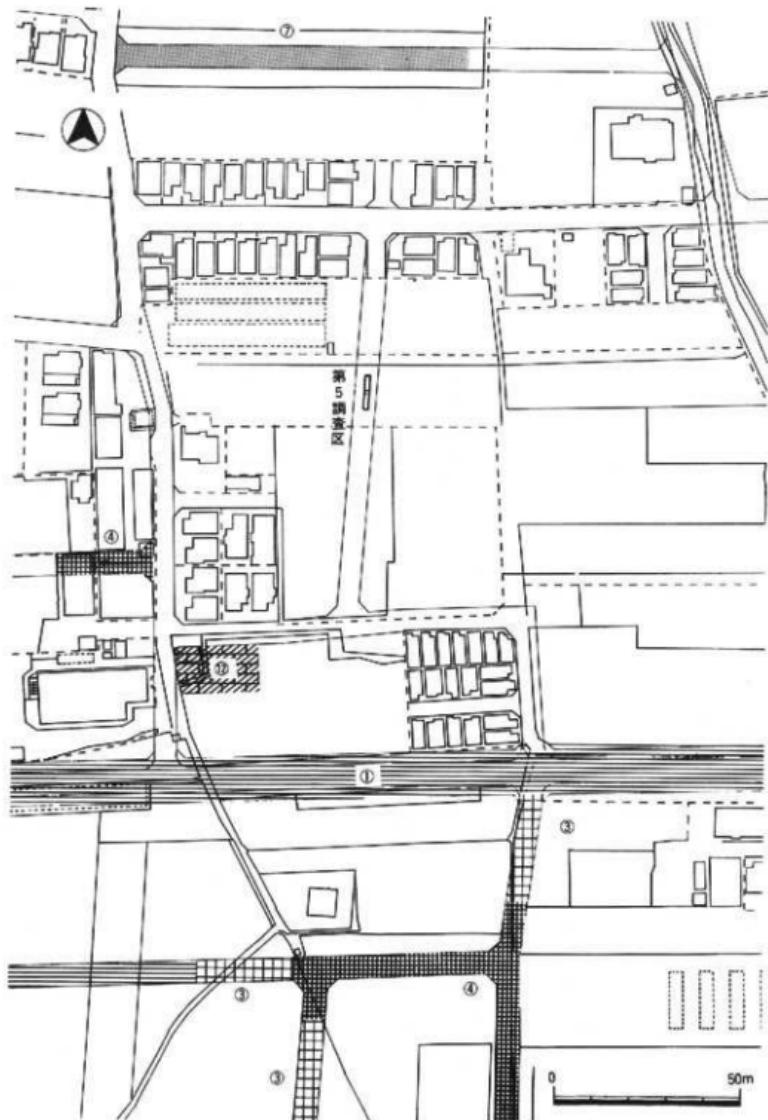
今回の調査では、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新棺～布留式古棺）・鎌倉時代～室町時代・江戸時代の概ね4時期の遺構を検出した。遺物は弥生時代後期から江戸時代に至る土器・瓦・木製品などが出土している。出土量はコンテナ箱にして約6箱分を数える。以下、各調査区ごとに記す。

凡　例

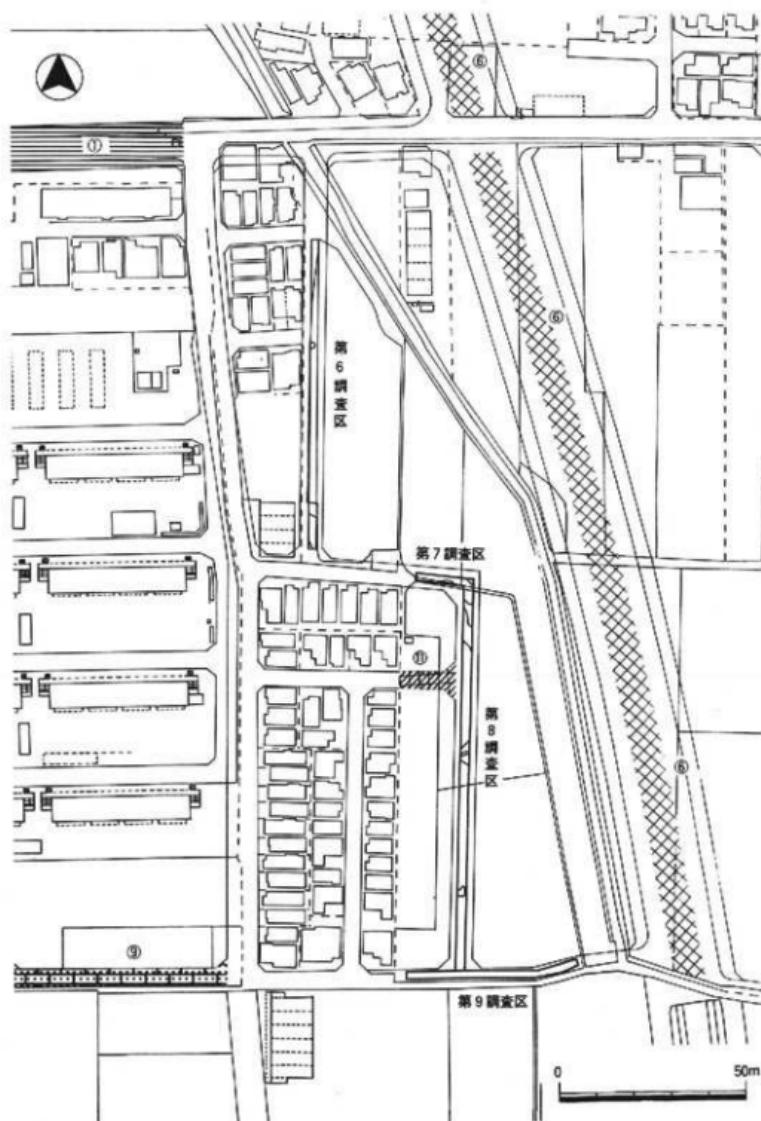
- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 第1次調査地（昭和57年度） | ⑩ 第15次調査地（昭和63年度） |
| ② 第2次調査地（昭和58年度） | ⑪ 第16次調査地（昭和63年度） |
| ③ 第3次調査地（昭和58年度） | ⑫ 第17次調査地（昭和63年度） |
| ④ 第4次調査地（昭和59年度） | ⑬ 第18次調査地（平成元年度） |
| ⑤ 第5次調査地（昭和59年度） | ⑭ 八尾市教育委員会（昭和59年度） |
| ⑥ 第6次調査地（昭和60年度） | ⑮ 大阪府教育委員会（昭和58年度） |
| ⑦ 第8次調査地（昭和61年度） | ⑯ 大阪府教員委員会（昭和60年度） |
| ⑧ 第11次調査地（昭和62年度） | |
| ⑨ 第13次調査地（昭和62年度） | |



第121図 造橋配置図1



第122図 遺構配置図 2



第123図 造構配置図 3

第2節 第1調査区

区画整理区域内の北部付近に設定した南北方向に長い調査区（幅2.5×長さ46m）である。調査区の面積は115m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5mまでに存在する土層内から普遍的に存在する6層を基本層序とした（第124図）。現地表面は、標高8.1mを測る。以下、各層について記す。

第1層 稲土：層厚10~15cm。調査前までの耕

作土である。

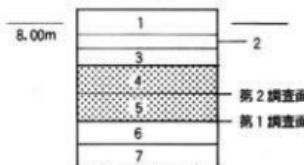
第2層 淡灰色粗砂混微砂：層厚15~20cm。床
土である。

第3層 淡灰褐色砂礫混微砂：層厚10~15cm。
古墳時代～近世に至る遺物がごく少量
含まれている。

第4層 暗黒灰色粘質土：層厚15~20cm。この
土層は鎌倉時代以降の水田土である。
上面は標高7.7mを測り、足跡状の窪
み・溝が切り込まれている。この面を
第2調査面とした。

第5層 褐灰色粘質土：層厚15~20cm。古墳時
代前期の遺構が含まれている。

第6層 灰褐色シルト混粘質土：層厚15~20cm。この上面から古墳時代前期の遺構が切り込
まれている。上面の標高は7.3mを測る。

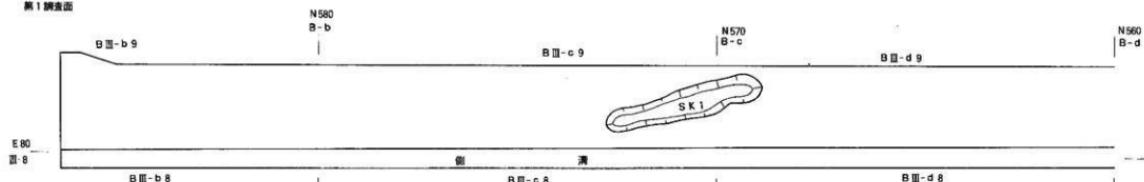


第124 基本層序柱状図 (S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

第4層（第2調査面）と第6層（第1調査面）上面の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、古墳時代前期に比定される土坑1基（SK1）を検出した。第2調査面では、鎌倉時代に比定される溝11条（SD3～SD13）、江戸時代に比定される溝2条（SD1・SD2）を検出した。江戸時代の遺構は第3層からの切り込みである（第125図）。以下、各遺構の詳細について記す。

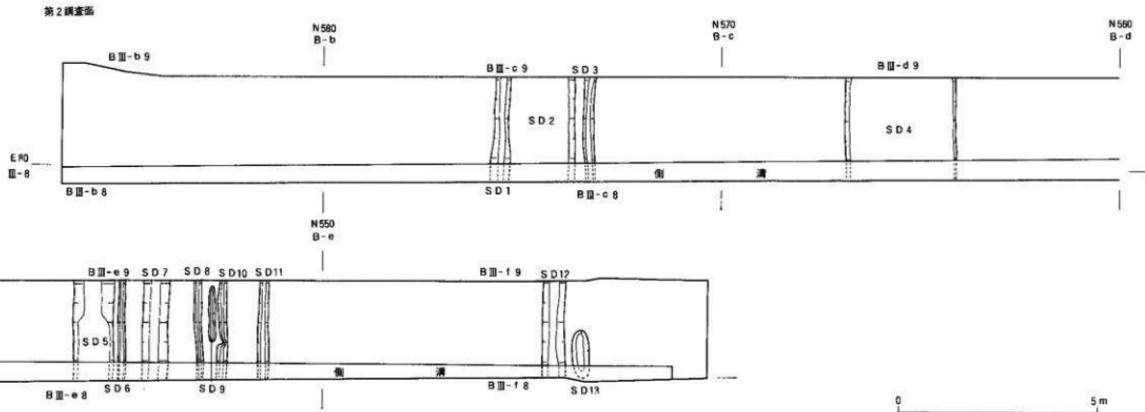
第1調査面

E 80
III-8

側 溝

B III-f 8

第2調査面



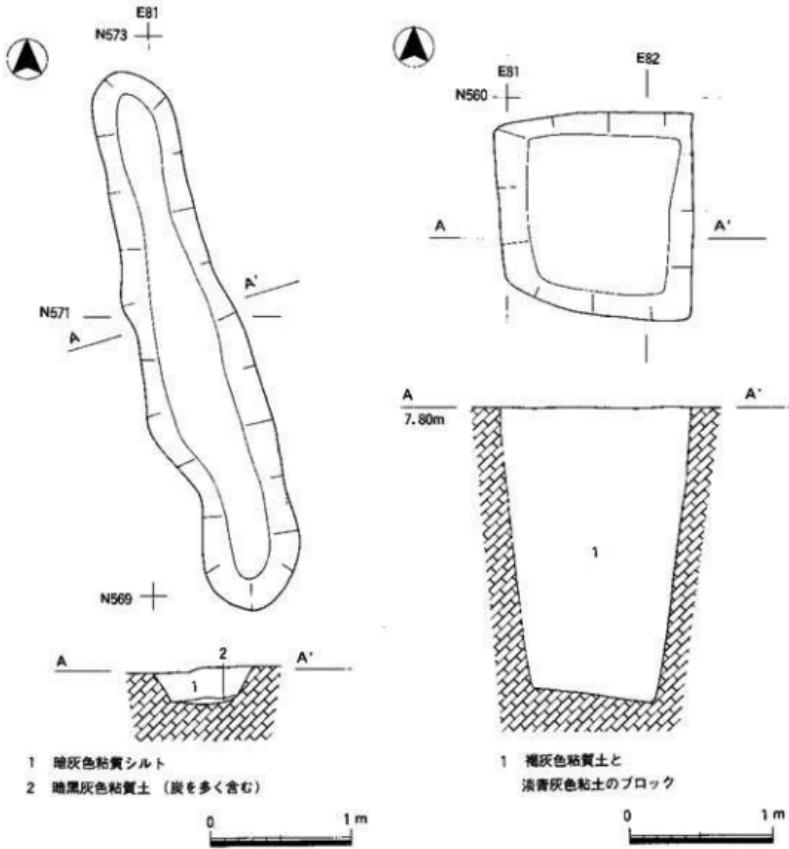
第125図 第1調査区地質断面図

1) 第1調査面(古墳時代前期)

土坑(SK)

SK 1

B III - c 9 - d 9 区で検出した。平面は南北方向に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅3.85m、最小幅0.7m、深さ10cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、内部には暗灰色粘質シルト・暗黒灰色粘質土(炭を多く含む)の2層が堆積している。底面下では焼土がみられないが、堆積土の下層と底面の間には、炭・灰が薄く(1~2cm)敷き詰めたように検出している(第126図)。遺物は出土していないが層位的にみて布留式古棺に比定されるであろう。



第126図 SK 1 平断面図

第127図 SE 1 平断面図

2) 第2調査面(鎌倉時代-江戸時代)

井戸(S E)

S E 1

B III-e 9区で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は東部のごく一部が調査区外に至るがほぼ方形を呈する。規模は検出部で、東西辺1.8m、南北辺1.98m、深さ1.2mを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は褐色粘質土と淡青灰色粘土がブロック状に混在している(第127図)。遺物は出土していないが、第3層上面からの切り込みであり、層位的にみて鎌倉時代以降のものであろう。

溝(S D)

SD 1 ~ SD 13

当調査区では12条を検出した。方向はすべて東西方向を呈する。SD 3 ~ SD 13は第4層からの切り込み、SD 1・SD 2は第3層からの切り込みである。前者は鎌倉時代の土器のもの、後者が江戸時代の時期のものである。規模は検出部で、幅0.2~1m、深さ5~15cmを測る。断面は逆台形を呈し、堆積土は鎌倉時代のものが暗灰色粗砂混粘質土、江戸時代のものが淡灰褐色粗砂混沙質土である。遺物は、内部から土師器などの小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量について第9表に記す。

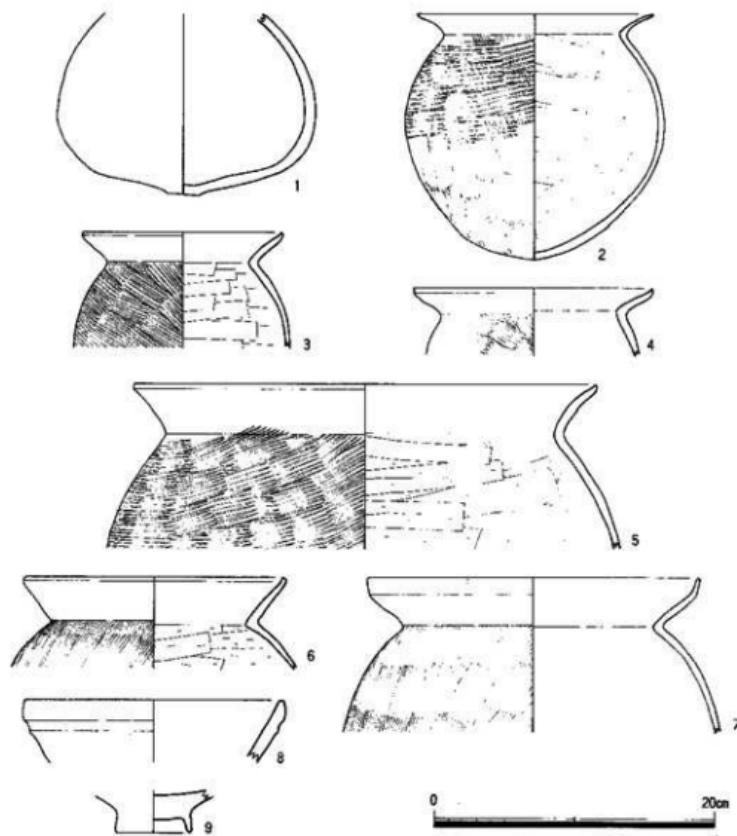
第9表 溝(S D)一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 上	備 考
SD 1	B III-c 9	東-西	逆台形	35~51	6~12	淡灰褐色粗砂混沙質土	
SD 2	B III-c 9	東-西	逆台形	300以上	20	淡灰褐色粗砂混沙質土	
SD 3	B III-c 9	東-西	逆台形	26	9~11	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 4	B III-d 9	東-西	逆台形	280	10~16	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 5	B III-e 9	東-西	逆台形	103	11~14	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 6	B III-e 9	東-西	逆台形	20	4~13	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 7	B III-e 9	東-西	逆台形	65	10~15	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 8	B III-e 9	東-西	逆台形	20	5	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 9	B III-e 9	東-西	逆台形	16	4~6	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 10	B III-e 9	東-西	逆台形	22	4~7	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 11	B III-e 9	東-西	逆台形	25	7~12	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 12	B III-f 9	東-西	逆台形	55	9~15	暗灰色粗砂混粘質土	
SD 13	B III-f 9	東-西	逆台形	43	7	暗灰色粗砂混粘質土	

3) 遺構に伴わない出土遺物

第2～4層内で出土している。時期は古墳時代前期～鎌倉時代に至るもので、特に第4層内から出土する古墳時代前期（庄内式）に比定される土器が大半である。出土量は、コンテナ箱にして約1箱分である。以下、図示できたものについて記す。第4層内から出土した古墳時代前期（庄内式中相～新相）に比定される東海系の壺（1）・庄内式甕（2～7）である。第2層内から出土した鎌倉時代に比定される鉢（8）・青磁器の碗（9）である（第128図）。



第128図 遺構に伴わない出土遺物実測図

第3節 第2調査区

第1調査区の南端部に接したかたちで設定した東西方向に長い調査区（幅2.5m×長さ94m）である。面積は約235m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.7mまでに存在する土層内から普遍的に存在する6層を基本層序とした（第129図）。現地表面は、標高8.1mを測る。

第1層 耕土：10~15cm。調査前までの耕作土である。

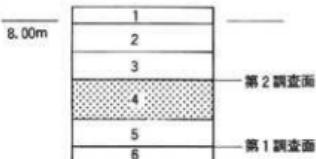
第2層 淡灰褐色砂礫混砂質土：層厚15~25cm。耕土の床土である。

第3層 淡灰色砂礫混砂質土：層厚15~20cm。古墳時代から鎌倉時代に至る土器の小片が少量含まれており、上面から近世以降の溝が切り込まれている。

第4層 灰褐色粘質土：層厚20~25cm。古墳時代前期に比定される土器が含まれている土層で、上面には鎌倉時代の遺構が切り込まれている。標高7.6mを測る。

第5層 淡茶褐色シルト：層厚15~20cm。この上面は標高7.3mを測り、古墳時代前期の遺構が切り込まれている。

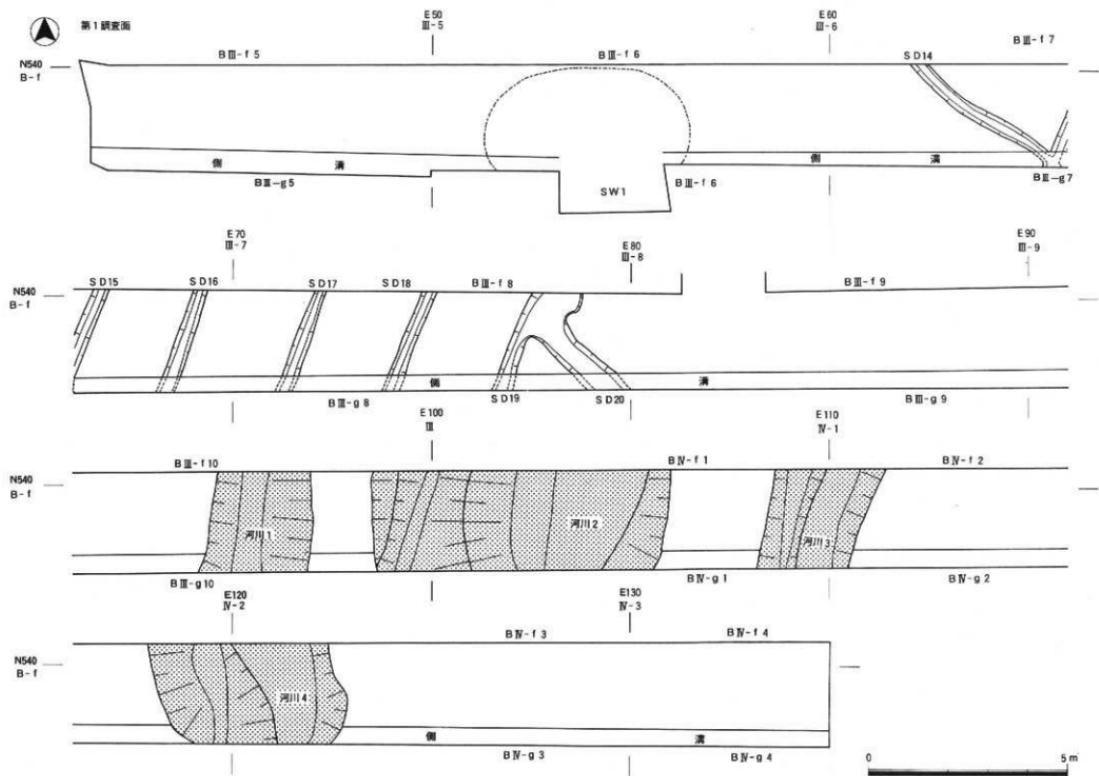
第6層 淡青灰色：層厚10cm以上。



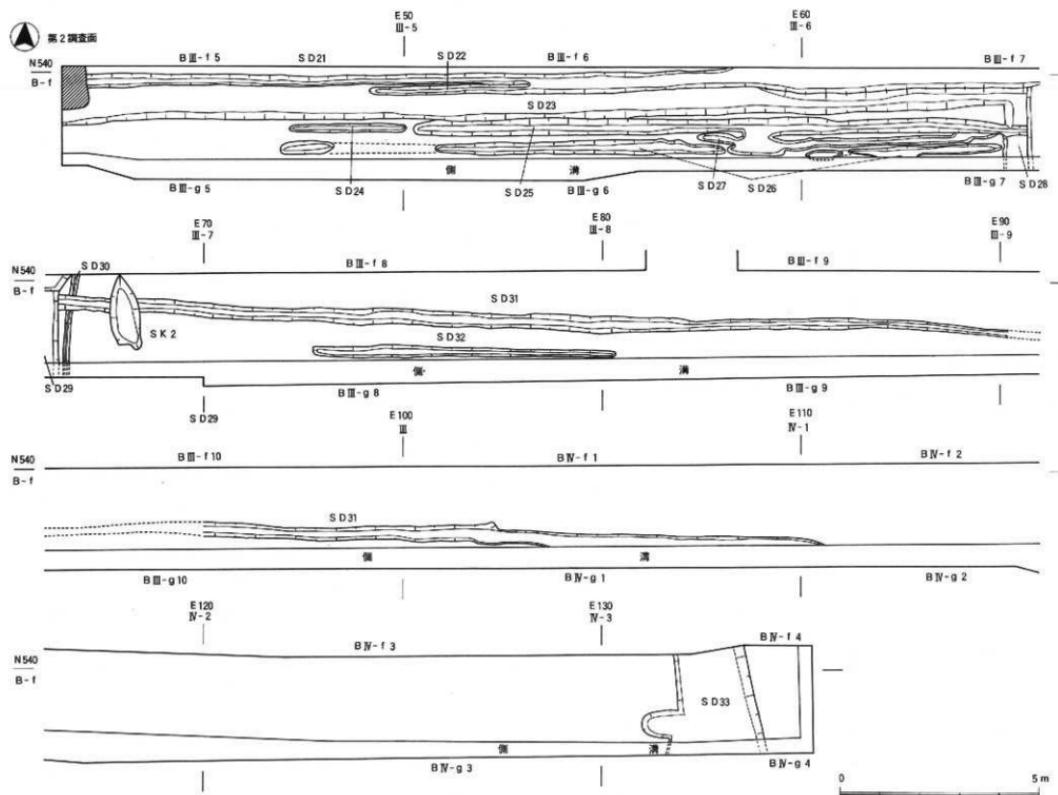
第129図 基本層序柱状図 (S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

当調査区は、第1調査区と隣接しており、遺構の検出状況はほぼ同じである。第4層（第2調査面）・第6層（第1調査面）の上面の2面を調査した。その結果、第1調査面では、古墳時代前期に比定される溝7条（SD14~SD20）・土器集積1箇所（SW1）・自然河川4条（河川1~河川4）を検出した。第2調査面では、鎌倉時代~室町時代に比定される土坑1基（SK2）・溝3条（SD30~SD32）、江戸時代に比定される溝10条（SD21~SD29・SD33）を検出した（第130・131図）。以下、各調査区について記す。



第130图 第2调查区断面图



1) 第1調査面 (古墳時代前期)

溝 (SD)

SD14~SD20

当調査区で4条を検出した。方向は南西-北東の方向に伸びるもので5条 (SD15~SD19)、南東-北西の方向に伸びるもの2条 (SD14・SD20) である。前者の溝は等間隔 (約2.5m) で、規則性がみられる。規模は検出部で、幅30~70cm、深さ4~9cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰褐色粗砂混粘質土である。遺物は、内部から庄内式中相から新相に比定される土師器の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量等について第10表に記す。

第10表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

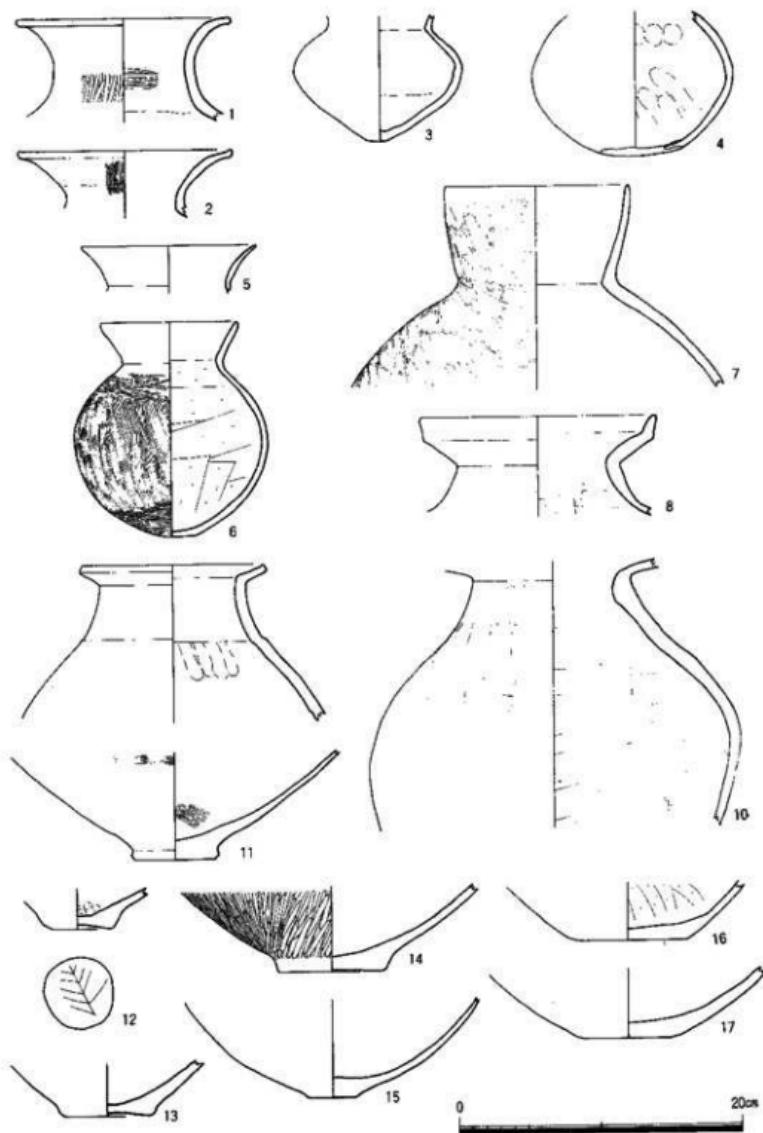
通構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SD14	BIII-g7	南東-北西	半円形	35	7	淡灰褐色粗砂混粘質土	
SD15	BIII-g7	南西-北東	半円形	40	9	淡灰褐色粗砂混粘質土	
SD16	BIII-g7	南西-北東	半円形	40	4	暗灰色粗砂混粘質土	
SD17	BIII-g8	南西-北東	半円形	30~40	4	暗灰色粗砂混粘質土	
SD18	BIII-g8	南西-北東	半円形	37	7	暗灰色粗砂混粘質土	
SD19	BIII-g8	南西-北東	半円形	40	9	暗灰色粗砂混粘質土	
SD20	BIII-g8	南東-北西	半円形	70	6	暗灰色粗砂混粘質土	

土器集積 (SW)

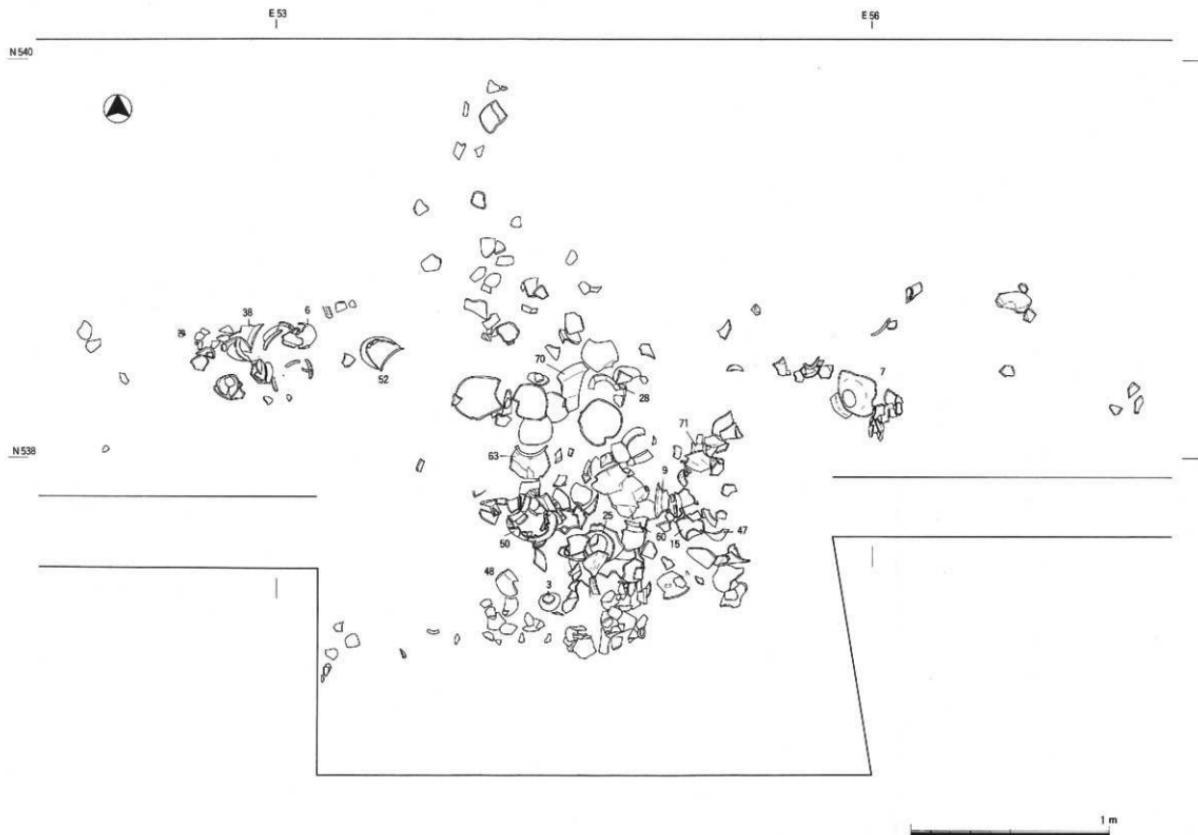
SW1

BIII-f6・g6区で検出した土器の集積である。土器は第4層上面に東西約4m、南北約2mの範囲に集積するもので、平面の形状の輪郭や掘り込まれている形跡もない。土器の出土状況から大半が破片化している。土器の密度は中央部からが最も多く、外側へ行くに従い希薄になっていく (第133図)。これらの出土土器はすべて古墳時代前期の庄内式中相~新相に比定されるものである。出土量はコンテナ箱にして約5箱分で、土器の個体数としては100個体を数える。以下、図示できたものを器種ごとに記す (第132・134~136図)。

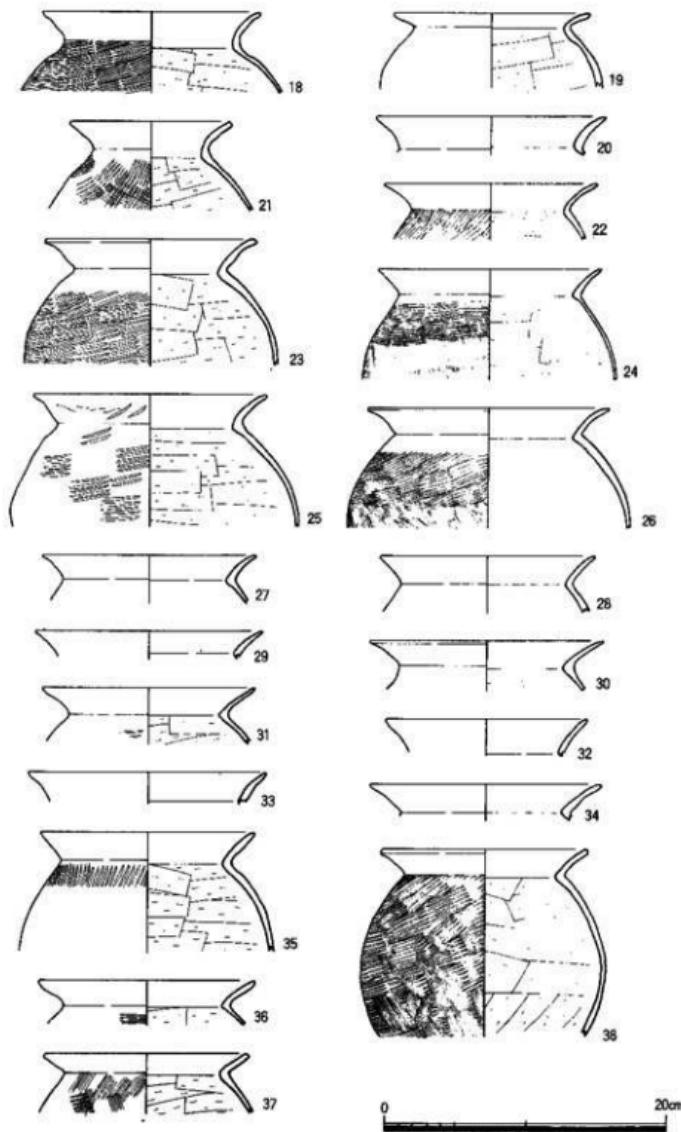
壺は20個体である。そのうち図示できたものが17点である。形態では口縁部が大きく外反するもの (1・2)、口縁が短くて小型のもの (3~6)、内湾気味に直上する口縁のもの (7)、口縁端部を大きくつまみ上げたもの (8)、大きく外方へ屈曲して短く納まるもの (9・10)、底部が突出した平底のもの (11~14)、底部が突出気味の小さな平底のもの (15)、底部が突出しない平底のもの (16・17) である。甕は、67個体で、そのうち図示できたものは、50点である。庄内式の甕 (18~59)・布留式傾向の甕 (60~63)・甕 (64・65)・複合口縁の甕 (66)、



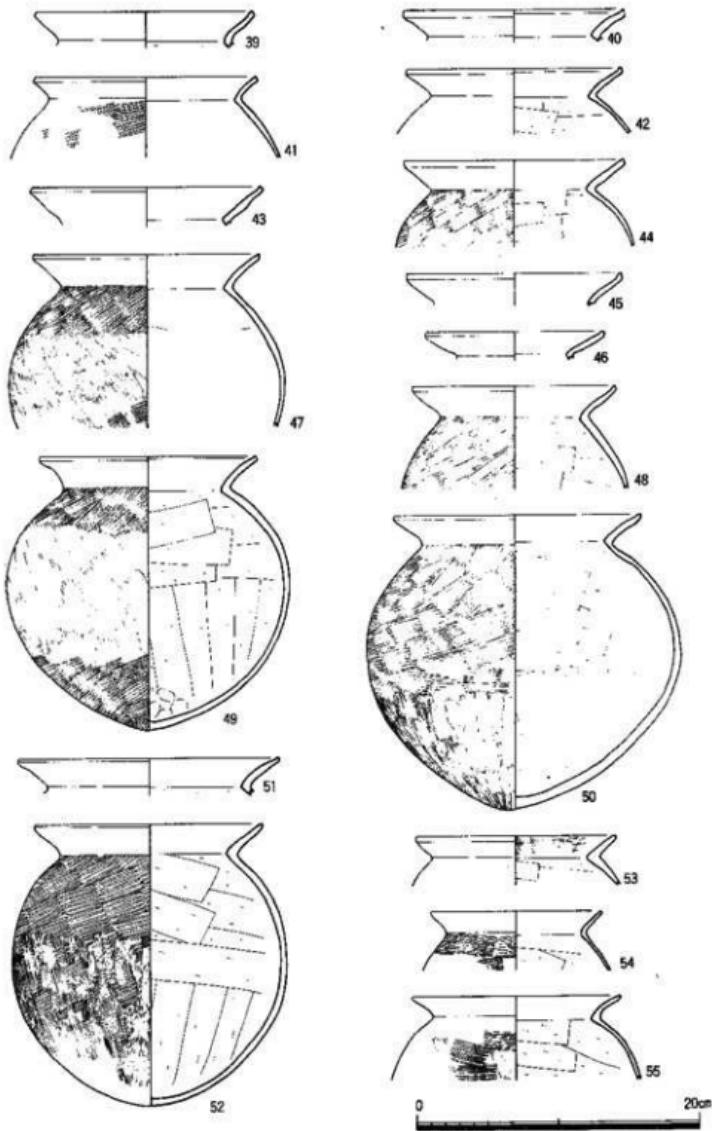
第132図 SW 1 出土遺物実測図1



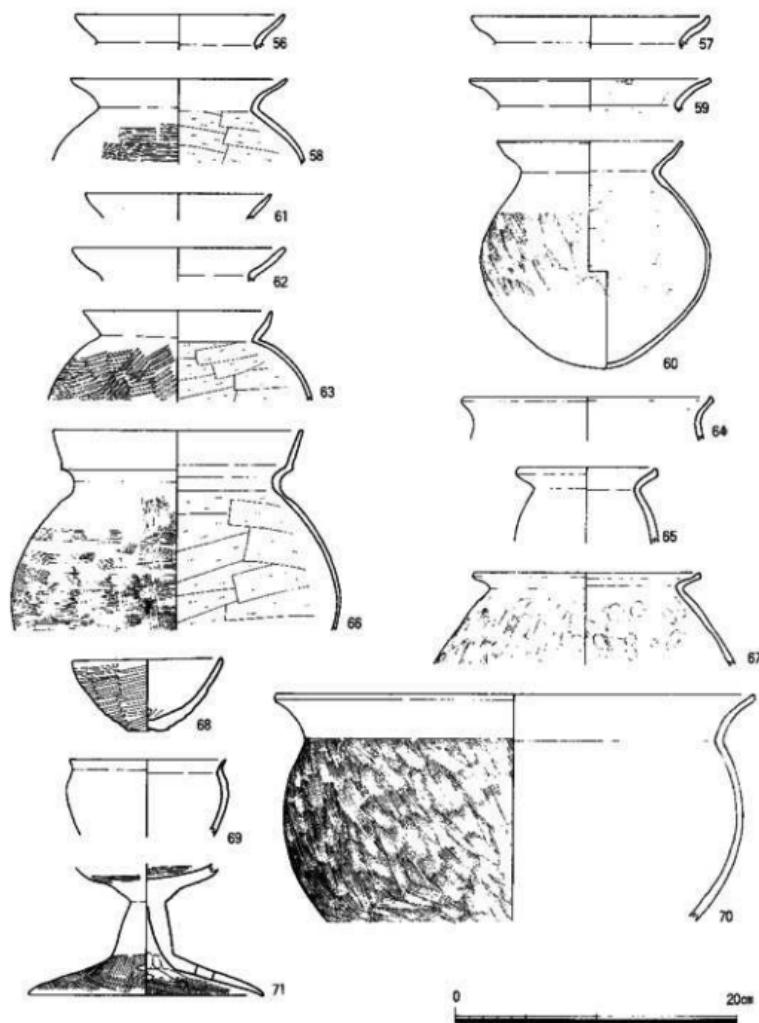
第133図 SW 1 平面図



第134 SW 1 出土遺物実測図 2



第135図 SW I 出土遺物実測図 3



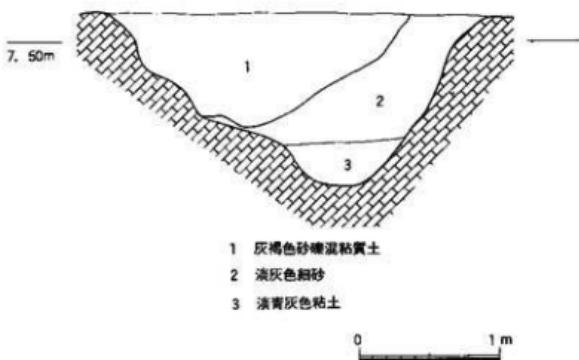
第136図 SW1 出土遺物実測図 4

瀬戸内系の甕（67）である。鉢は4個体で、図示できたものは3点である。椭形のもの（68）・端部付近で小さく屈曲するもの（69）・大型のもの（70）である。高杯は、4個体で、図示できたものは、1点である。柱状部から大きく外方へ開く裾部をもつものの（71）である。器種構成の比率は、甕70%：壺21%：鉢4.5%：高杯4.5%で、圧倒的に甕が多いことがわかる。また、ごく少量ではあるが他地方のものと考えられる上器6点があり、全体の比率の6%を占めている。この土器集積の性格を考えると、以下のことが考えられる。まず、第1に使用不能になった土器を捨てたごみ捨て場、第2に祭祀的なものではないかと考えられる。

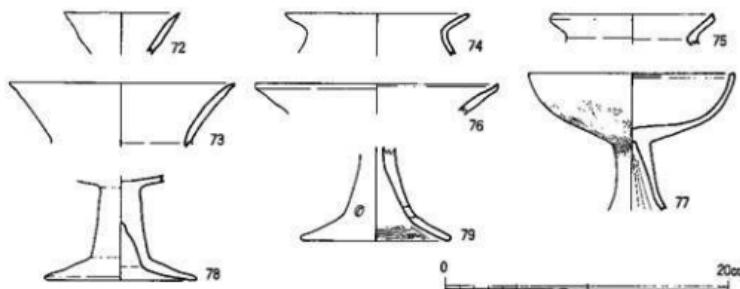
自然河川（河川）

河川1

BⅢ-g10区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.6m、深さ1.22mを測る。断面はすり鉢形を呈し、内部には砂層を基調とした灰褐色砂礫混粘質土・淡灰色細砂・淡青灰色粘土と微弱の互層が堆積している（第137図）。遺物は、内部から庄内式新相から布留式古相に比定される土師器の甕（72・73）・第V様式系甕（74）・庄内式壺（75・76）・高杯（77～79）などの小片が少量出土している（第138図）。



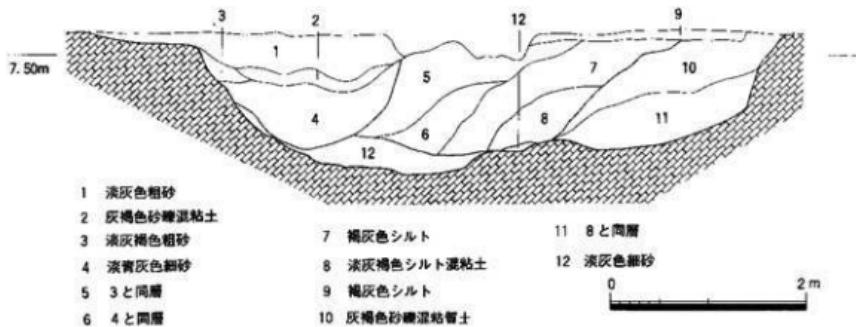
第137図 河川1 断面図



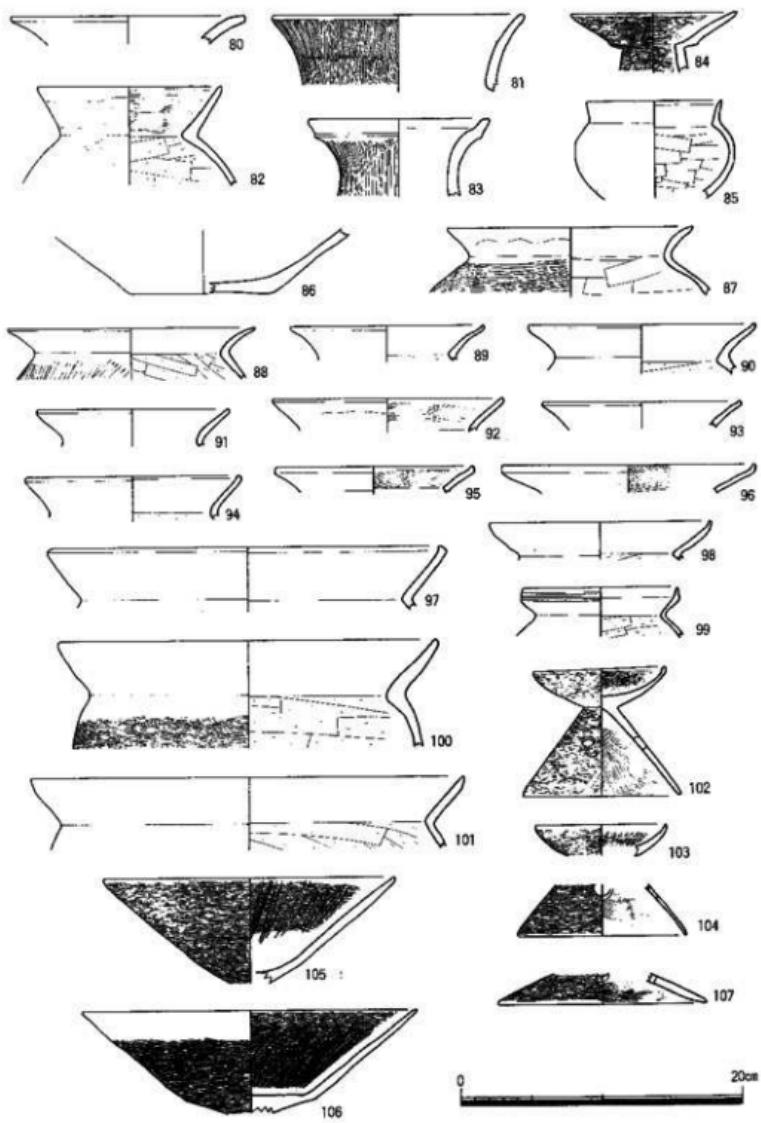
第138図 河川1出土遺物実測図

河川2

B IV-8 1区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅7.4m、深さ1~1.4mを測る。断面は逆台形を呈し、底面中央にやや高まりがみられる。堆積土は、上方から第1層：淡灰色粗砂・第2層：灰褐色砂礫混粘土・第3層：淡灰褐色粗砂・第4層：淡青灰色細砂・第5層：淡灰褐色粗砂(第3層と同じ)・第6層：淡青灰色細砂(第4層と同じ)・第7層：褐灰色シルト・第8層：淡灰褐色シルト混粘土・第9層：褐灰色シルト(第7層と同じ)・第10層：灰褐色砂礫混粘土・第11層：淡灰褐色シルト混粘土(第8層と同じ)・第12層：淡灰色細砂である(第139図)。土層の観察した結果では第1層～第4層、



第139図 河川2断面図

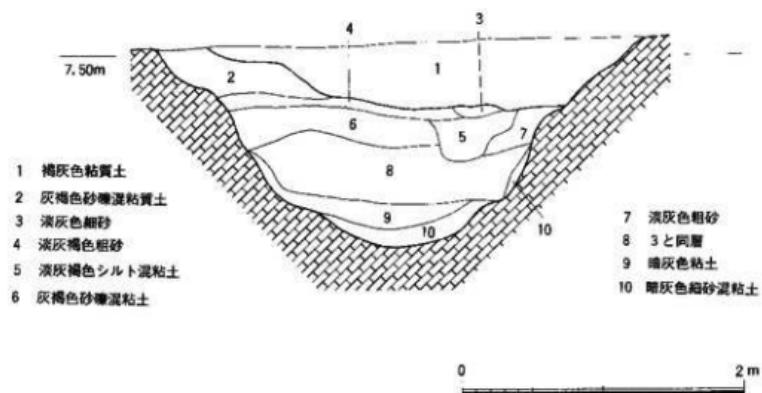


第140圖 河川2出土遺物實測圖

第5層～第8層、第9層～第12層と大きく3つに分かれる流れがあったものと考えられる。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される土師器の壺(80～86)・庄内式壺(87～98)・吉備系壺(99)・鉢(100・101)・器台(102～104)・高杯(105～107)などの小片が少量出土している(第140図)。その他には自然木などがみられる。

河川3

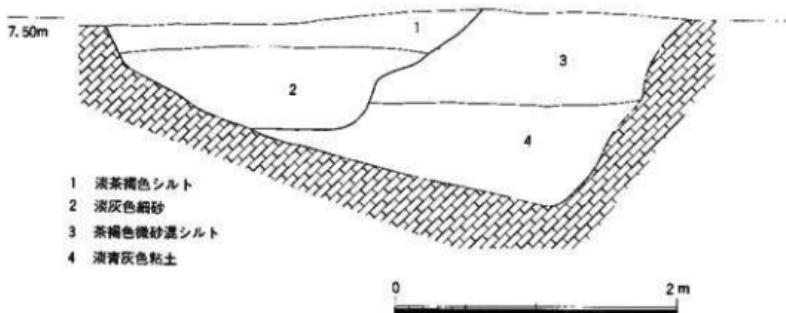
B IV - g 1, g 2区で検出した。方向は南北方向を呈し、南北とともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.6～2.9m、深さ1.45cmを測る。断面は、すり鉢形を呈する。堆積土は、上方から第1層：褐灰色粘質土・第2層：灰褐色砂礫混粘質土・第3層：淡灰色細砂・第4層：淡灰褐色粗砂・第5層：淡灰褐色シルト混粘土・第6層：灰褐色砂礫シルト混粘土・第7層：淡灰色粗砂混細砂・第8層：淡灰色細砂(第3層と同じ)・第9層：暗灰色粘土・第10層：暗灰色細砂混粘土の10層に分ける(第141図)。遺物は、内部から占墳時代前期(布留式古相)に比定される土師器の小片がごく少量出土している。



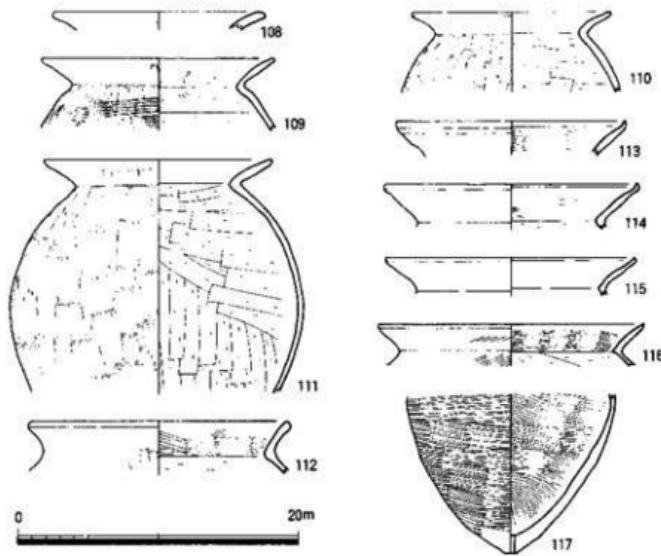
第141図 河川3断面図

河川4

B III - g 2, g 3区で検出した。方向は南北方向を示し、南北とともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅3.6～4.6m、深さ1.35cmを測る。断面は、逆三角形を呈する。堆積土は、上方から第1層：淡茶褐色シルト・第2層：淡灰色細砂・第3層：茶褐色微砂混シルト・第4層：淡青灰色粘土の4層に分かれ、第1・2層が第3・4層を切っており、若干の流れに時期差が見られる(第142図)。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される壺・壺(108～112)・庄内式壺(113～116)・有孔鉢(117)・高杯などの小片が少量出土している(第143図)。



第142図 河川4断面図



第143図 河川4出土遺物実測図

2) 第2調査面(鎌倉時代~江戸時代)

土坑(SK)

SK 2

B III-g 7 区で検出した。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.7m、南北1.7m、深さ8cmを測る。SD 31を切っている。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は出土していないが、堆積土層や層位的にみて江戸時代ごろのものであろう。

溝(SD)

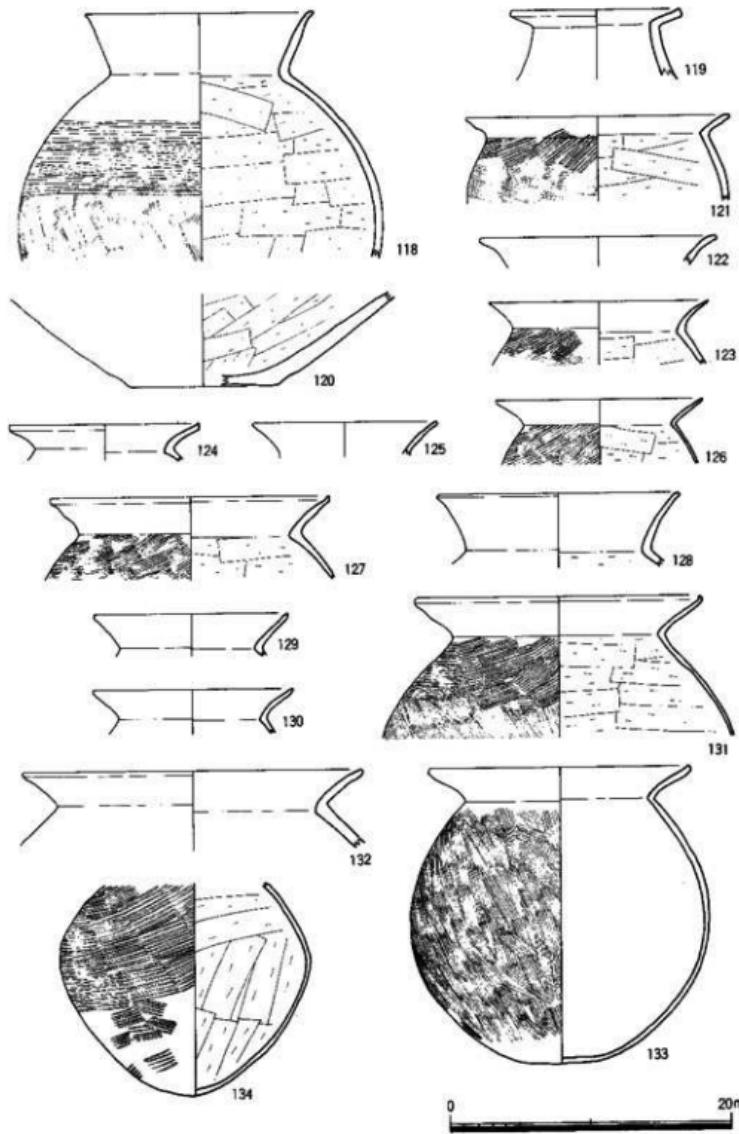
SD 21~SD 33

11条を検出した。これらの溝は当調査区の西部に集中しており、東西方向に伸びるもの7条、南北方向に伸びるもの4条である。時期では鎌倉時代に比定されるもの3条(SD 30~SD

第II表 溝(SD)一覧表

* 単位:cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 さ	堆 積 土	備 考
SD 21	B III-f 5 -f 6	東-西	逆台形	22~36	3~13	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 22と合流。SD 28 ~30を切る。
SD 22	B III-g 5 -g 7	東-西	逆台形	23~50	3~11	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 21と合流。
SD 23	B III-g 5 -g 7	東-西	逆台形	65以上	6~17	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 28・29に切られる。
SD 24	B III-g 5	東-西	逆台形	22	8~12	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 26	B III-g 6 -g 7	東-西	逆台形	24~40	2~6	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 25・27と合流
SD 27	B III-g 7 -g 8	東-西	逆台形	18~25	2~4	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 25・26と合流。
SD 28	B III-g 7	東-西	逆台形	50以上	7	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 23と合流。SD 22 ・25・29に切られる。
SD 29	B III-g 7	東-西	逆台形	63	9	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 23・25・28に切ら れ、SD 31を切る。
SD 30	B III-g 7	東-西	逆台形	15	2~5	淡灰褐色粗砂混砂質土	SD 31に切られる。
SD 31	B III-g 7 BN-g 1	東-西	逆台形	15~40	2~8	淡灰褐色粗砂混粘土質土	SK 2に切られる。
SD 32	B III-g 8 -g 8	東-西	逆台形	17~32	4~9	淡灰褐色粗砂混粘土質土	
SD 33	BN-f 4 -g 4	東-西	逆台形	10	11~17	淡灰褐色粗砂混砂質土	

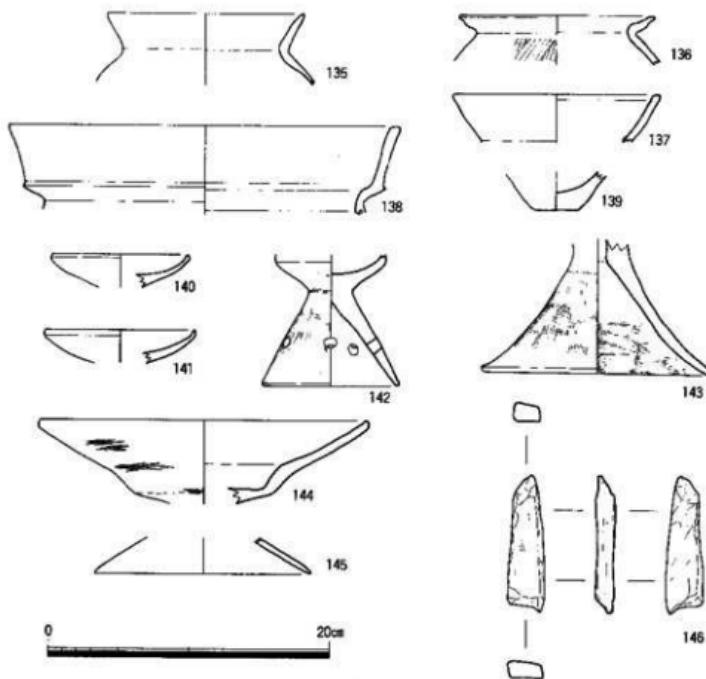


第144図 造構に伴なわない出土遺物実測図1

32) である。他はすべて江戸時代に比定されるものである。規模は検出部で、幅0.2~1m、深さ5~20cmを測り、断面の形状は、逆台形を呈する。堆積土は鎌倉時代の溝が暗灰色粗砂混粘質土、江戸時代の溝が淡灰褐色粗砂混粘質土である。遺物は、内部から古墳時代~鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量などについて第11表に記す。

3) 遺構に伴わない出土遺物

第2~4層で出土している。時期は古墳時代前期から江戸時代に至る遺物である。出土量はコンテナ箱にして約2箱分である。この調査区も第1調査区と同じく、第4層内から占墳時代前期に比定される最も多く出土している。以下、図示できたものについて記す。古墳時代前期に比定される壺(118~120)、庄内式の甕(121~134)、壺(135~136)、布留式の甕(137)、複合口縁の甕(138)、鉢(139)、器台(140~143)、高杯(144~145)、砥石(146)である(第144・145図)。



第145図 遺構に伴なわない出土遺物実測図2

第4節 第3調査区

第2調査区東部の南側約40mに設定した東西方向に長い調査区（幅2.5m×長さ43m）で、東部には北方へ流れている楠根川がある。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表下約1.8mに存在する土層内から普遍的にみられる7層を抽出した基本層序とした（第146図）。現地表高は標高8.2mを測る。

第1層 耕土：層厚15~20cm。調査前までの耕作土である。

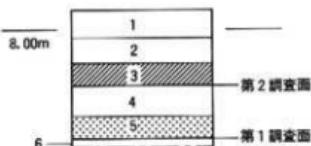
第2層 灰茶色細砂混砂質土：層厚15~20cm。耕土の床土である。

第3層 暗灰褐色粘質土：層厚10~15cm。古墳時代～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量含まれる。

第4層 茶褐色シルト：層厚20~25cm。上面で古墳時代中期の遺構と鎌倉時代ごろの溝が切り込まれている。この上面を第2調査面とした。標高は7.6mを測る。

第5層 暗灰茶色細砂混シルト：層厚10~15cm。古墳時代前期に比定される土器の小片がごく少量出土している。

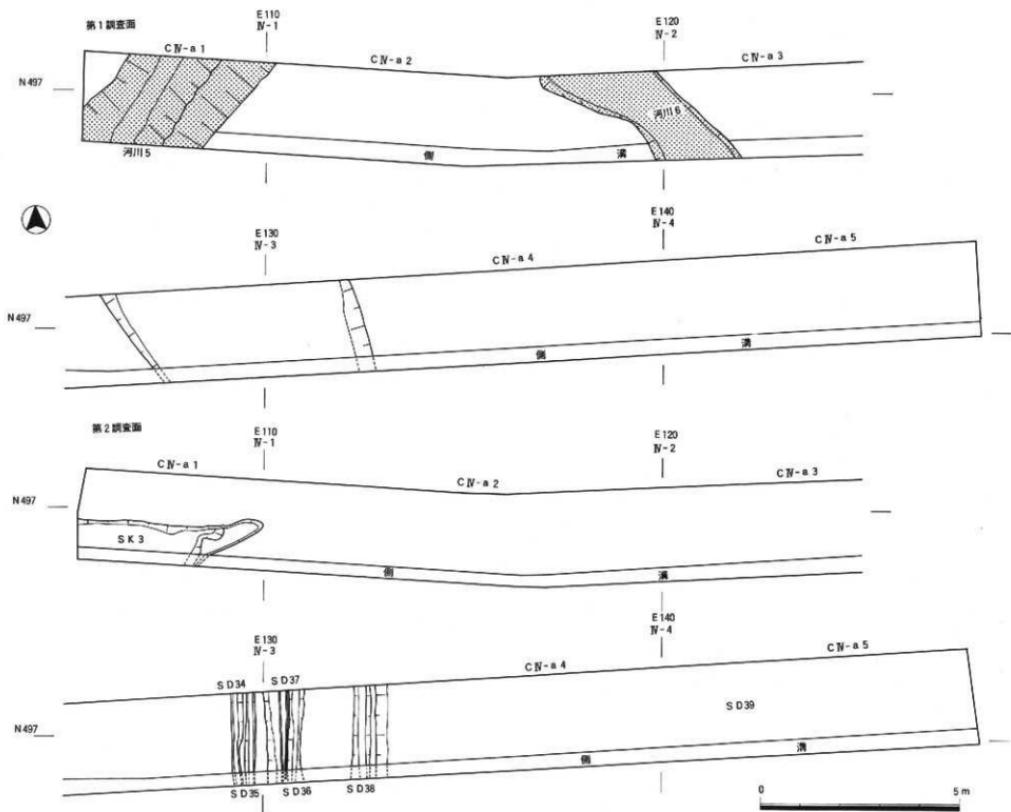
第6層 灰色粘土：この上面から切り込まれている古墳時代前期の自然河川を検出した。標高は7.2mを測る。



第146図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)

II 検出遺構・出土遺物

第4層（第2調査面）と第6層（第1調査面）を調査面とした。その結果、第1調査面では、自然河川2条（河川5・河川6）を検出した。この河川は第2調査区で検出した自然河川に継続するものであろう。第2調査面では古墳時代中期に比定される土坑1基（SK3）、鎌倉時代に比定される溝5条（SD34~SD38）、第3層から切り込む江戸時代に比定される溝1条（SD39）を検出した（第147図）。遺構に伴わない遺物が第3層と第5層内からごく少量出土している。出土量はコンテナ箱にして約1/3程度である。以下、各遺構について記す。



第147図 第3調査区地縦断面図

1) 第1調査面(古墳時代前期)

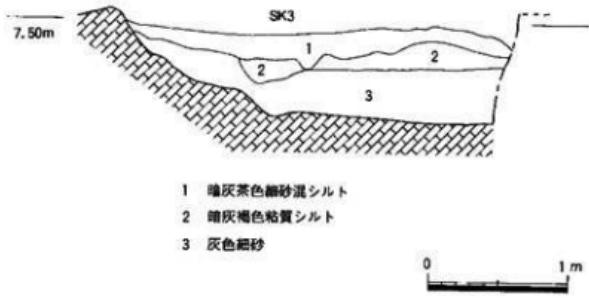
自然河川(河川)

河川5

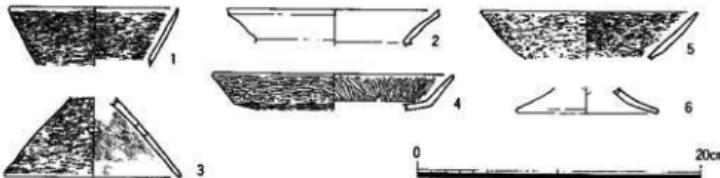
C IV-a 1区で検出した。方向は南西-北東方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.9m、深さ80cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色細砂泥シルト・暗灰褐色粘質シルト・灰色細砂である(第148図)。遺物は、内部から庄内式新相~布留式古相に比定される壺(1)・庄内式壺(2)・器台(3)・高杯(4~6)等の小片がごく少量出土している(第149図)。なお、この河川は、北部にある第2調査区で検出した河川3に繼續するものと考えられる。

河川6

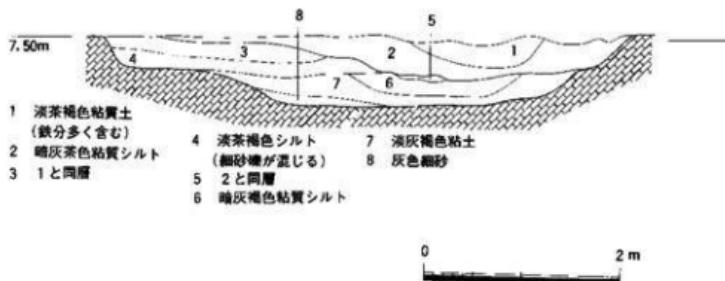
C IV-a 2・a 3区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.4~2m、深さ70cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色粘質土・暗灰褐色粘質シルト・淡茶褐色シルト(細砂礫が混じる)・暗灰褐色粘質シルト・淡灰褐色粘土・灰色細砂である(第150図)。遺物は、内部から庄内式新相~布留式古相に比定される壺・庄内式壺・高杯の小片がごく少量出土している。



第148図 河川5断面図



第149図 河川5出土遺物実測図



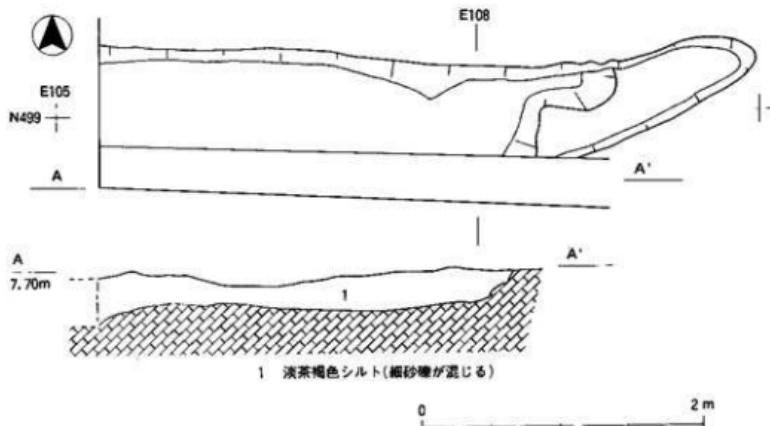
第150図 河川 6 断面図

2) 第2調査面(古墳時代中期～江戸時代)

土坑(SK)

SK 3

C IV-a 1区で検出した。南部・西部が調査区外に至るため、平面・断面ともに不明である。規模は検出部で、東西4.7m、南北1.1m、深さ60cmを測る。堆積土は、淡茶褐色シルト(細砂礫が混じる)である(第151図)。遺物は、内部から土師器の高杯(7・8)・壺(9)、須恵器の高杯などが少量出土している(第152図)。



第151図 SK 3 平断面図

溝 (SD)

SD 34～SD 38

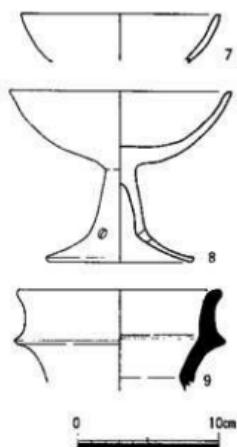
5条を検出した。方向は、すべて南北方向を示す。規模は検出部で、幅15~46cm、深さ6~27cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝について記す。

SD 39

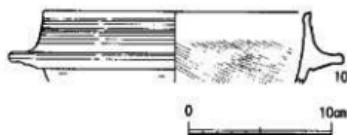
C IV-a 4・a 5区で検出した。方向は南北方向を示す溝状の遺構と考えられるが、東・南北は調査区外に至り、全容は不明である。規模は検出部で、幅15m以上、深さ0.4~1.2mを測る。溝は西側がなだらかで浅く、東側では急斜面に落込み深くなっている。堆積土は淡茶褐色粘質土（酸化鉄を多く含む）・暗灰茶色粘質シルト・暗灰色細砂混粘土・淡

黄茶色細砂・暗灰色シルト混粘土・灰色細砂で、底部付近は砂層を基調とする。底面の傾斜状況から東側（楠根川）に向い深くなるようで、非常に大きさの規模をもつものであろう。

遺物は、内部から室町時代に比定される瓦質の羽釜（10）などの小片がごく少量出土している（第153図）。



第152図 SK 3出土遺物実図



第153図 SD 39出土遺物実図

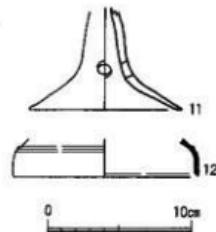
第12表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地 区	平面形	断面形	径	深さ	堆 積 土	備 考
SD 34	C IV-a 3	南-北	逆台形	46	18~27	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 34	C IV-a 3	南-北	逆台形	46	18~27	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 35	C IV-a 3	南-北	逆台形	40	9~17	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 36	C IV-a 4	南-北	逆台形	42	8	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 37	C IV-a 4	南-北	逆台形	15~31	6	淡灰褐色粗砂混砂質土	
SD 38	C IV-a 4	南-北	逆台形	200	14~21	淡灰褐色粗砂混砂質土	

3) 遺構に伴わない出土遺物

第2層～第4層内から遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約半分程度である。時期は古墳時代前期～江戸時代に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第4層内から出土した古墳時代前期（布留式古棺）に比定される土師器の高杯（11）の脚部、第3層内から出土した古墳時代後期に比定される須恵器（II型式2段階）の杯蓋（12）である（第154図）。



第154図 遺構に伴なない出土遺物実測図

第5節 第4調査区

第3調査区の東側（楠根川を挟む）約25mに位置する東西方向に長い調査区（幅2.5m×長さ36m）である。当調査区の東部では当調査研究会が実施した第3調査区の第1調査区があり、北部には大阪府教育委員会が調査した小阪合ポンプ場がある。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.7mに存在する土層内から9層を抽出して基本層序とした（第155図）。現地表面は、標高8.2mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 盛土：層厚40～50cm。小阪合ポンプ場建

設工事に伴う整地層である。

第2層 旧耕土：層厚10～15cm。昭和59年までの耕作土である。

第3層 茶褐色細砂混シルト：層厚15cm。耕土の床土である。

第4層 淡灰色粘質土：層厚20～25cm。

第5層 淡灰色粘質シルト：層厚10～15cm。

第6層 灰褐色粘質土：層厚5～10cm。この上面で鎌倉時代の溝が切り込まれている。

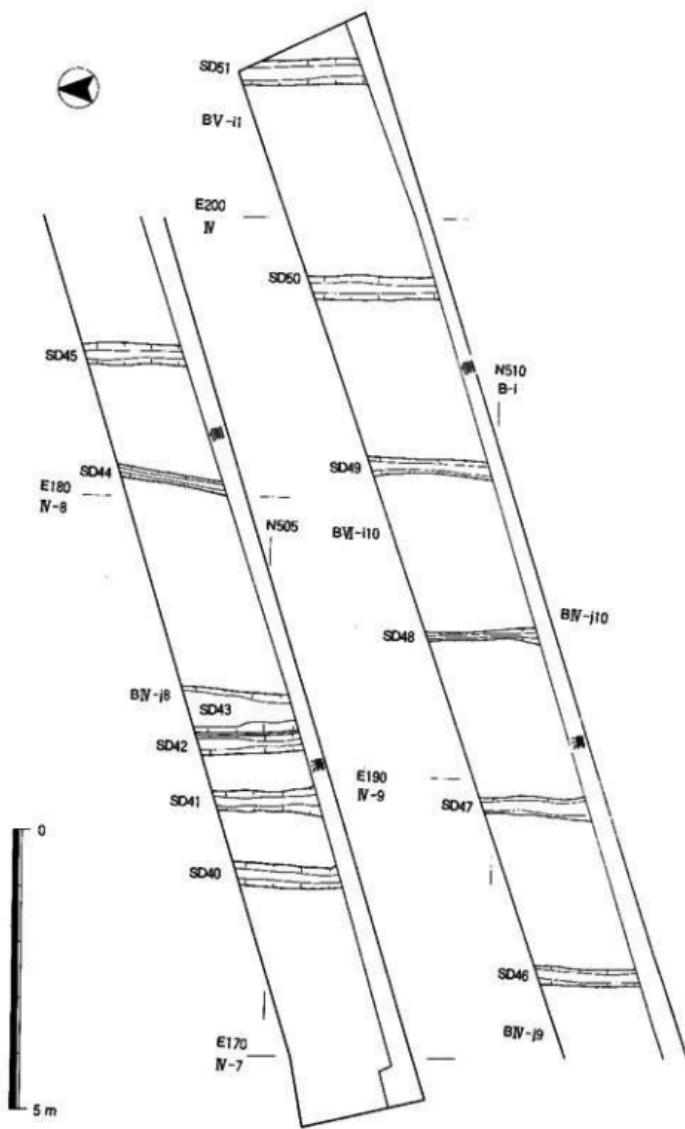
第7層 淡灰色細砂混粘土：層厚15～20cm。

第8層 淡灰色細砂混シルト：層厚10cm。

第9層 青灰色粘土：層厚15cm。



第155図 基本層序柱状図 (S = 1/40)



第156図 第4調査区地構造平面図

II 検出遺構・出土遺物

第6層の上面を調査面とした。その結果、鎌倉時代に比定される溝12条（SD40～SD51）を検出した。

溝（SD）

SD40～SD51

12条を検出した。これらの溝は農耕に関連するもので、方向は、すべて南北方を示すものである。規模は検出部で、幅20～80cm、深さ2～17cmを測り、断面の形状もすべて逆台形を呈する。堆積土は黄褐色粘質シルトで、内部から遺物は出土していない。以下、各溝の法量などについては第13表に記す。

第13表 溝（SD）一覧表

* 単位：cm

遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SD40	BIV-j 8	南一北	逆台形	40	10	黄褐色粘質シルト	
SD41	BIV-j 8	南一北	逆台形	35～55	15	黄褐色粘質シルト	
SD42	BIV-j 8	南一北	逆台形	35	12	黄褐色粘質シルト	
SD43	BIV-j 8	南一北	逆台形	80	17	黄褐色粘質シルト	
SD44	BIV-j 9	南一北	逆台形	20	3	黄褐色粘質シルト	
SD45	BIV-j 9	南一北	逆台形	40	12	黄褐色粘質シルト	
SD46	BIV-j 9	南一北	逆台形	30	5	黄褐色粘質シルト	
SD47	BIV-j 9	南一北	逆台形	35	3	黄褐色粘質シルト	
SD48	BIV-i 10	南一北	逆台形	20	2	黄褐色粘質シルト	
SD49	BIV-i 10	南一北	逆台形	30	6	黄褐色粘質シルト	
SD50	BIV-i 10	南一北	逆台形	45	12	黄褐色粘質シルト	
SD51	BV-i 1	南一北	逆台形	45	15	黄褐色粘質シルト	

2) 遺構に伴わない出土遺物

第3～5層内から出土している。出土量は、土器片22点を数える。時期は、鎌倉時代～江戸時代に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第3層内から出土した鎌倉時代～室町時代に比定される三脚のある鉢形土器（1）・陶磁器の椀（2）である（第157図）。



第157図 遺構に伴なわぬ出土遺物実測図

第6節 第5調査区

今回の調査区（区画整理事業区域内）でもっとも北部に位置するもので、南北方向に長い溝区（幅1.5m×長さ82m）である。この調査区は既往道路があるため、調査幅が半部となっている。調査面積約123m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1mまでに存在する土層内から普遍的にみられる7層を抽出して基本層序とした（第158図）。現地表面は、標高8.0mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 耕土：層厚10~15cm。調査前まで耕作して

いた土層である。

第2層 床土：層厚10cm。耕土の床土である。

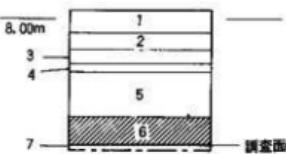
第3層 淡茶色細砂：層厚10cm。

第4層 茶灰色～灰白色微砂：層厚5cm。氾濫による堆積である。

第5層 暗灰褐色粘土：層厚20~25cm。鎌倉時代～室町時代の耕作土と考えられ、上面には足跡状の窪みが僅かにみられる。この土層は粘性が高い。

第6層 暗灰青色シルト混粘土：層厚15~20cm。古墳時代～鎌倉時代に比定される遺物が少量含まれる土層（包含層）で、調査区北部へ行くに従い堆積する。

第7層 青灰色シルト：層厚10cm以上。この上面から切り込む平安時代中期～鎌倉時代初頭に比定される遺構を検出した。標高は7.1mを測る。



第158図 基本層序柱状図 (S = 1/40)

II 検出遺構・出土遺物

第7層上面を調査面とした。その結果、平安時代中期に比定される溝2条、鎌倉時代に比定される溝4条を検出した（第162図）。出土遺物は、第6層内から少量出土している。

溝（SD）

SD52~SD57

当調査区から6条を検出した。平安時代に比定される溝2条（SD55・SD56）と鎌倉時代

に比定される溝4条（SD52～SD54・SD57）を検出した。前者では、方向が南北方向を示し、幅0.3～0.5m、深さ10～46cmを測る。後者では、方向が東西方向（3条）、南東～北西方向（1条）を示すものがある。規模は検出部で、幅0.6～4m、深さ5～60cmを測る。

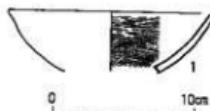
断面は浅い半円形を呈する。堆積土は平安時代のもの黒灰色シルト、鎌倉時代のもの黒灰色粘土及び茶褐色細砂である。

遺物は、内部から平安時代後期に比定される黒色土器（1・6・7）、土師質の杯（2～5）小片をごく少量出土している。

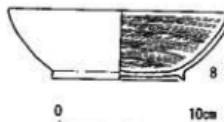
SD56から出土してい
る黒色土器の碗（8）

には、口縁端部の周辺
の四方に円孔（径
8mm）が開けられてい
る（第159～161図）。

以下、各溝の法量など
について第14表に記す。



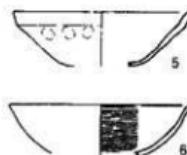
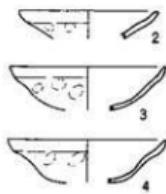
第159図 SD56出土遺物実測図



第160図 SD56出土遺物実測図

第14表 溝（SD）一覧表

遺構番号	地 区	平 地 形	断面形	径	深さ	堆 積 土	* 単位：cm	
							逆台形	逆台形
SD52	AV-b 6	南北～北東	逆台形	110	15	茶褐色細砂		
SD53	AV-b 6	東～西	逆台形	50	23	茶褐色細砂		
SD54	AV-d 6	東～西	逆台形	220	5	茶褐色細砂	土器片を出土。	
SD55	AV-h 6	東～西	逆台形	35	27～46	黒灰色シルト	土器片を出土。	
SD56	AV-h 6	東～西	逆台形	30	9～12	黒灰色シルト	土器片を出土。	
SD57	AV-i 6	東～西	逆台形	340	23～41	黒灰色粘土		



第161図 SD56出土遺物実測図

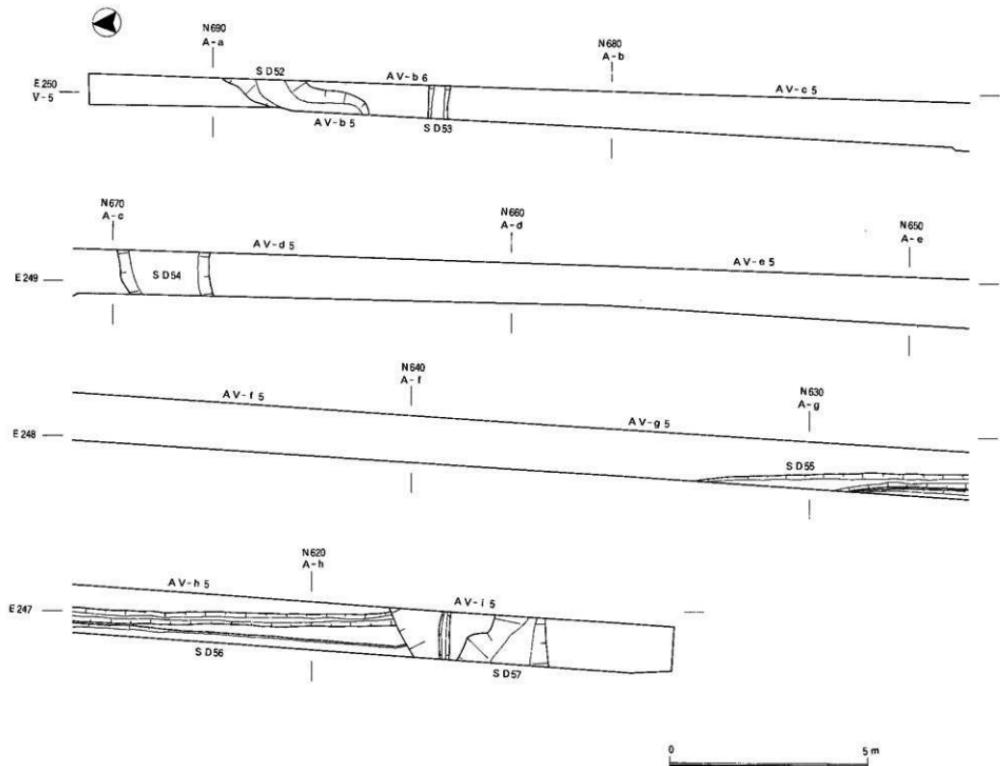


图162图 第5調査区地図

第7節 第6調査区

区画整理事業区域内の中央に位置する調査区で、今回の調査区でも中央に当たる。調査区は、調査の都合上2分して実施した。調査面積は100m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面約3.6mまでに存在する土層で普遍的にみられる8層を挙げて基本層序とした(第163図)。現地表面は、標高10.2mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 盛土:層厚1.6m。水田を畠とするた

め、地上げした盛土で、現在区画整理
事業事務所の駐車場となっている。

第2層 旧耕土:層厚15~20cm。整地するまで
の耕作土である。

第3層 床土:層厚15~20cm。耕土の床土であ
る。

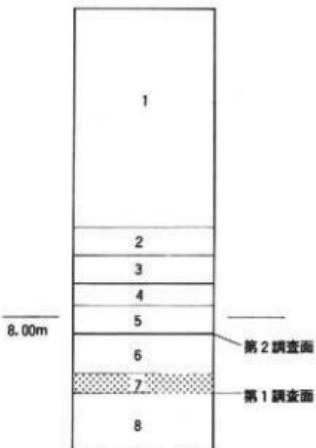
第4層 茶灰色細砂混シルト:層厚10~15cm。

第5層 黄茶色細砂泥層:層厚20~25cm。鎌倉時代
~室町時代に氾濫して堆積した土層で
ある。

第6層 暗灰色粘土:層厚25~30cm。この上面
を調査面とした。標高は7.8mを測る。

第7層 灰黒色粘土:層厚15~20cm。古墳時代
前期~中期に至る遺物がごく少量含ま
れている。

第8層 青灰色粘土:層厚50cm。この上面を調
査面としたが、遺構は検出されなかっ
た。



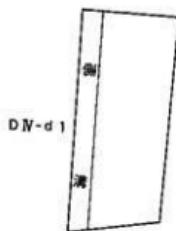
第163図 基本層序柱状図 (S = 1 / 40)

II 検出遺構・出土遺物

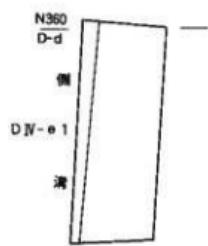
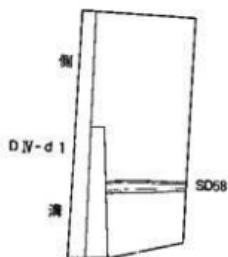
第6層(第2調査面)と第8層上面(第1調査面)の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、遺構は検出しなかった。第2調査面では、鎌倉時代~室町時代に比定される水田面と溝3条・水田面を検出した(第164図)。出土遺物は、第5層と第7層内からごく少量出土



第1調査面



第2調査面



第164回 第6調査区道路平面図

している。第5層内からは鎌倉時代に比定される瓦器の椀を中心として、第7層内からは古墳時代前期～中期に比定される土師器・須恵器を出土した。以下、検出した各遺構について記す。なお、第1調査面では遺構が検出していないので、除外している。

1) 第2調査面（鎌倉時代～室町時代）

水田

水田は、調査区の南部と北部では溝（SD59）を境にして水田面に若干の高低差がみられる。これは、2筆の水田があることが考えられる。

溝（SD）

SD58

DIV-d 1区で検出した。方向は東西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅18~21m、深さ8cmを測る。断面は半円形を呈し、内部には第5層の土層が混入している。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

SD59

DIV-e 1区で検出した。方向は南北方向を示し、規模は検出部で、幅0.6m以上1m未満、深さ15cmを測る。断面は、半円形を呈する。内部にはSD58と同様、第5層の上層と同一のものが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

SD60

DIV-e 1区で検出した。方向は東西方向を示すが、南肩は調査区外に至る。規模は検出部で、幅15cm以上、深さ10cmを測る。堆積土は、SD59と同様である。遺物は出土していない。

2) 遺構に伴わない出土遺物

第3～5層内から出土している。出土量はコンテナ箱して約1/5箱分程度を数える。時期は、古墳時代中期から鎌倉時代に至る遺物で、小片のため図示できなかつたが器種の判定されるものは壺・甕である。

第8節 第7調査区

区画整理事業区域内の南東部に設定した南北に長い調査区（幅2.5m×長さ83m）で、当調査研究会が実施した第6次調査の第2調査区の西部へ約50mに位置する。調査面積は207.5m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.2mまでに存在する土層内から普遍的にみられる6層を抽出して基本層序とした（第165図）。現地表面は、標高8.6mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 耕土：層厚10~15cm。調査前までの耕作土である。

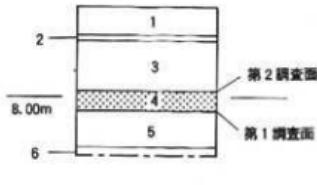
第2層 灰褐色砂礫混雜土：層厚5~10cm。近世の時期に一時的な氾濫（東側に隣接する楠根川からと考えられる）によって堆積した土層である。

第3層 淡灰褐色粘質シルト：層厚30~40cm。古墳時代～中世の土器の小片をごく少量含む上層である。

第4層 暗灰色粘質土：層厚15~20cm。古墳時代前期に比定される土器の小片が少量含まれている。上面では、中世ごろの溝が切り込んでいる。上面は、標高8.0mを測る。

第5層 淡灰黄色シルト：層厚20~25cm。この条面を調査面とした結果、弥生時代後期末～古墳時代前期に比定される遺構が切り込まれている。標高は7.9mを測る。

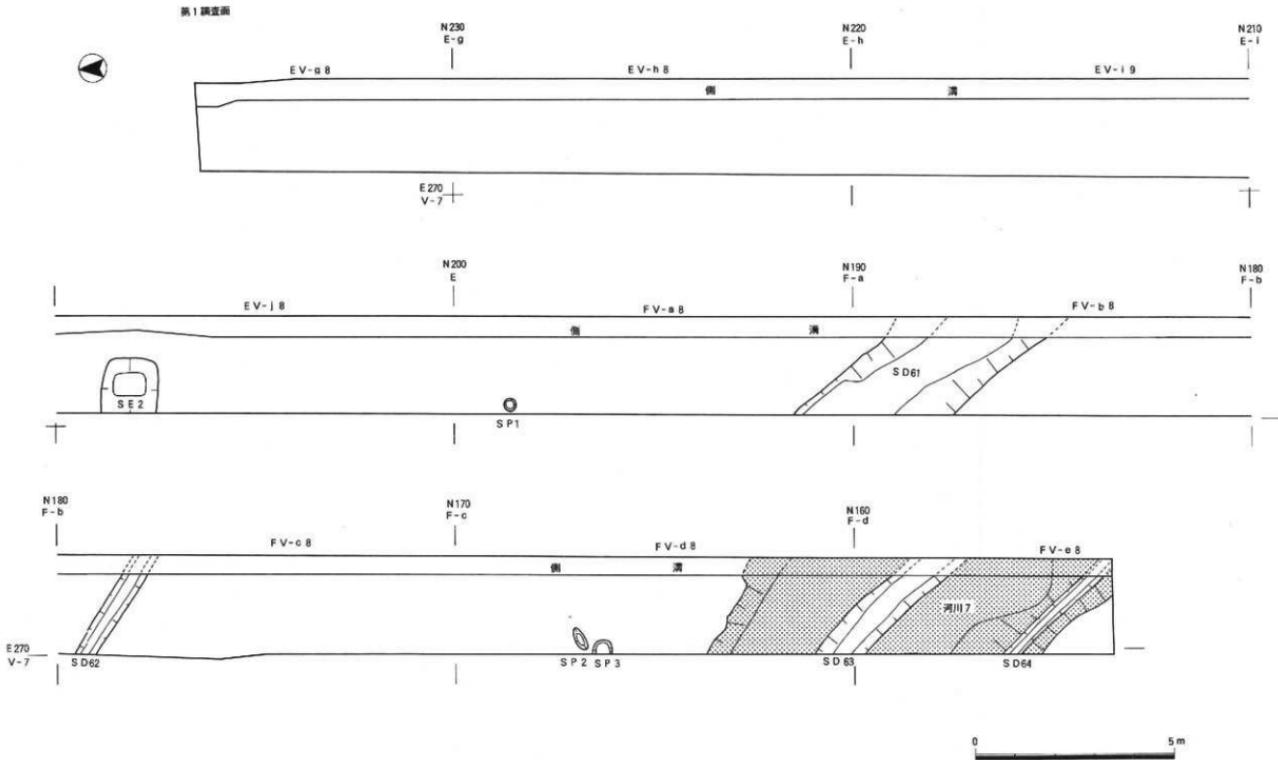
第6層 淡青灰色粘質シルト：層厚10cm以上。

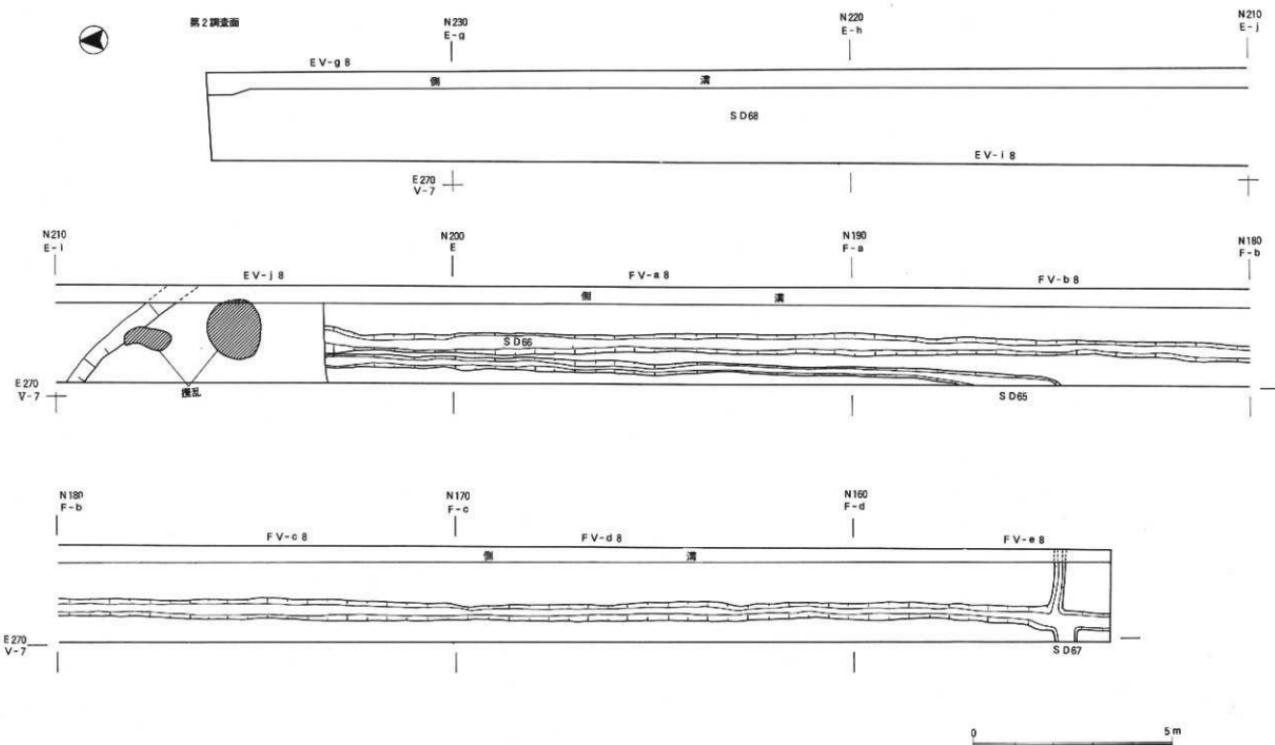


第165図 基本層序柱状図 (S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

第4層（第2調査面）と第5層上面（第1調査面）の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、弥生時代中期に比定される自然河川1条（河川7）、古墳時代前期に比定される井戸1基（SE2）・小穴3個（SP1~SP3）・溝3条（SD61~SD64）を検出した。第2調査面では、鎌倉時代に比定される溝3条（SD65~SD67）、江戸時代に比定される溝1（SD68）条を検出した（第166・167図）。以下、検出した各遺構について記す。





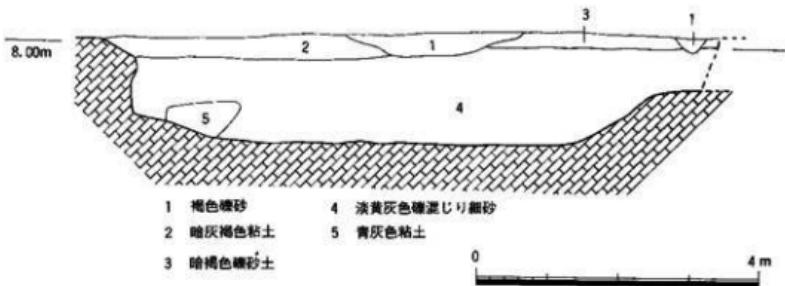
第167图 第7洞室区造構平図

1) 第1調査面(弥生時代中期・古墳時代前期)

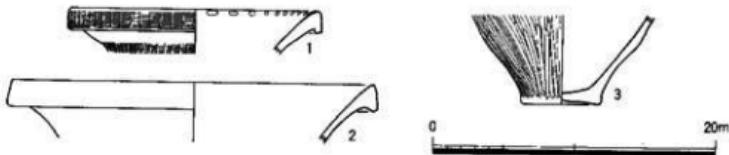
自然河川(河川)

河川7

F V-d 8・e 9区で検出した自然河川である。方向は南東-北西方向を示す。規模は検出部で、幅約6m、深さ2mを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、褐色疊砂・暗灰褐色粘土・暗褐色疊砂土・淡黃灰色疊混細砂・青灰色粘土の5層に分ける(第168図)が、上層部は、酸化鉄の上界により色調が濃厚で堅くなっている。上面では弥生時代後期の南東-北西方向に伸びるSD63・SD64が河川と同じ方向で切り込んでいる。遺物は、内部から畿内第IV様式の壺(1・2)・畿内第V様式の壺(3)などの小片が少量出土している(第169図)。



第168図 河川7断面図

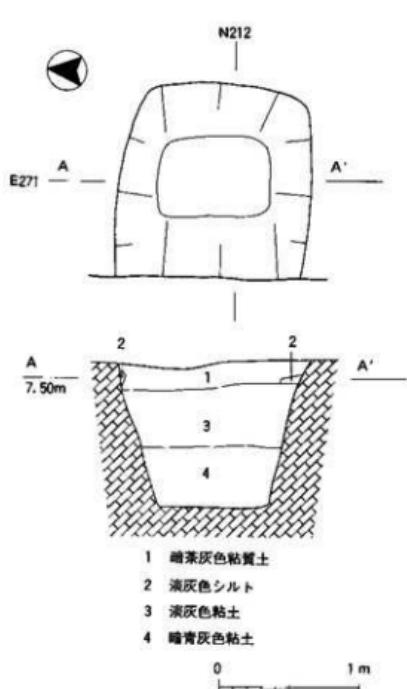


第169図 河川7出土遺物実測図

井戸(S E)

S E 2

E V-j 8区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出先で、東西1.4m、南北1.35m、深さ1.05mを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗茶灰色粘土・淡灰褐色シルト・淡灰色粘土・暗青灰色粘土の4層で、第2層以外は水平な堆積である(第170図)。遺物は、検出していない。



第170図 S E 2 平断面図

溝 (S D 61～S D 64)

4条を検出した。方向はすべて南東—北西方を示す。規模は検出部で、幅36～260cm、深さ9～36cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐色粘質シルト・暗褐色細砂混粘質土である。遺物は、出土していない。以下、各溝について記す。

小穴 (S P)

S P 1～S P 3

3個を検出した。平面の形状には円形のもの1個 (S P 1)、椭円形のもの2個 (S P 2・S P 3) がある。規模は検出部で、径20～56cm、深さ4～25cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂混シルトである。遺物は出土していない。個々の法量については第16表に記す。

第15表 溝 (SD) 一覧表

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 さ	堆 積 土	備 考
S D 61	F V - d 8	南東—北西	半円形	260	11～36	暗褐色シルト	
S D 62	F V - c 8	南東—北西	半円形	56	9～14	暗褐色シルト	
S D 63	F V - e 8	南東—北西	半円形	116	24～33	暗褐色細砂混粘質土	
S D 64	F V - e 8	南東—北西	半円形	36	11	暗褐色細砂混粘質土	

* 単位: cm

第16表 小穴 (S P) - 覧表

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 さ	堆 積 土	備 考
S P 1	F V - a 8	円 形	U字形	20	4	暗茶褐色細砂混シルト	
S P 2	F V - d 8	椭円形	U字形	56	15	暗茶褐色細砂混シルト	
S P 3	F V - d 8	椭円形	U字形	30	25	暗茶褐色細砂混シルト	

* 単位: cm

2) 第2調査面(鎌倉時代・江戸時代)

溝(SD65～SD67)

4条を検出した。方向は東西方向のもの(1条)、南北方向のもの(2条)である。規模は検出部で、幅20～42m、深さ7～16cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質シルトである。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。以下、個々の溝の法量などについては第17表に記す。

第17表 溝(SD)一覧表

* 単位:cm

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 さ	堆 積 土	備 考
SD65 EV-j8 -FV-b8	EV-j8	南-北	逆台形	20-42	7-16	淡灰褐色粘質シルト	
SD66 EV-j8 -FV-e8	EV-j8	南-北	逆台形	70	14	淡灰褐色粘質シルト	
SD67 FV-e8	FV-e8	南-北	逆台形	25-38	9	淡灰褐色粘質シルト	

SD68

EV-g8～j8区で検出した。方向・規模など詳細は、不明である。調査区内で確認された部分について記す。方向としては南側で溝の肩が確認されており、これを見ると、南東～北西方向で楠根川の方向と平行する。規模は調査区内で27m、深さ80cmを測る。堆積土は、淡灰褐色細砂混シルト・暗灰褐色細砂混粘質土・暗緑灰色粘質土である。遺物は、内部から古墳時代前期～江戸時代に至る土器の小片がごく少量出土している。

第9節 第8調査区

第7調査区の南部から東部へ約30mに設定した東西に長い調査区（幅2.5m×長さ19m）である。調査面積は42.5m²を測る。なお、調査区の南部には既設のヒューム管が東西方向に埋設されており、西側へ行くに従いやや狭くなっている。

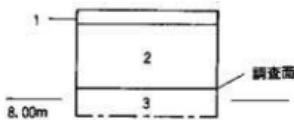
I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1mまでに存在する上層内から普遍的にみられる3層を抽出して基本層序とした（第171図）。現地表面は、標高8.5mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 耕土：調査前までの耕作土である。

第2層 淡灰褐色細砂泥粘質土：江戸時代ごろの条里制の坪境の溝の堆積である。

第3層 淡灰黄色シルト：弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面で、上部は第2層の江戸時代に削平されている。



第171図 基本層序柱状図 (S = 1/40)

II 検出遺構・出土遺物

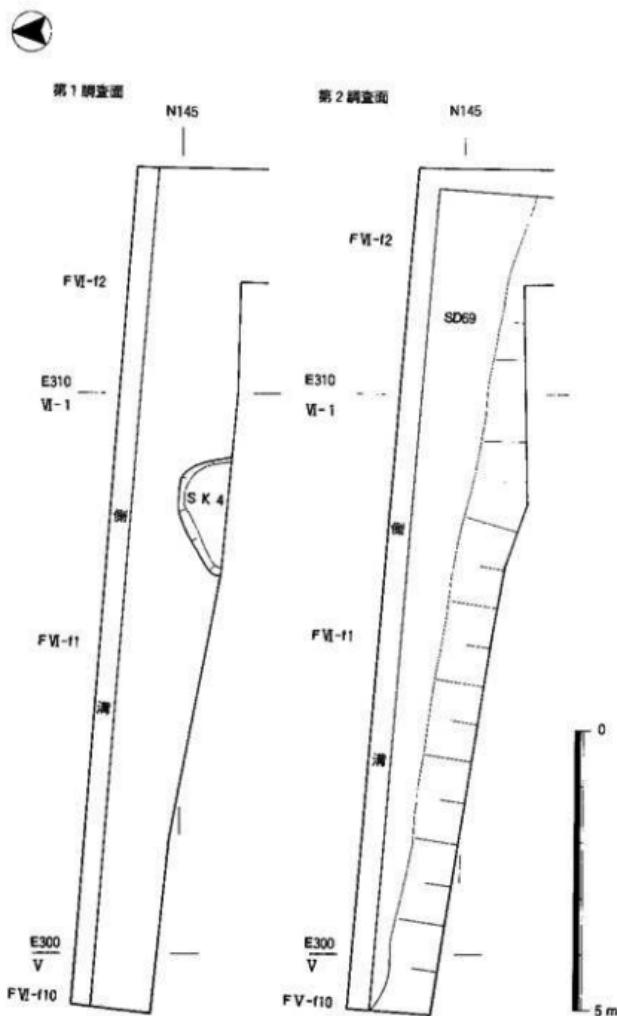
第3層上面を調査面とした。その結果、江戸時代に比定される溝1条（SD69）を検出した。その溝の底部から弥生時代後期に比定される土坑1基（SK4）を検出した（第172図）。

1) 第1調査面（弥生時代後期）

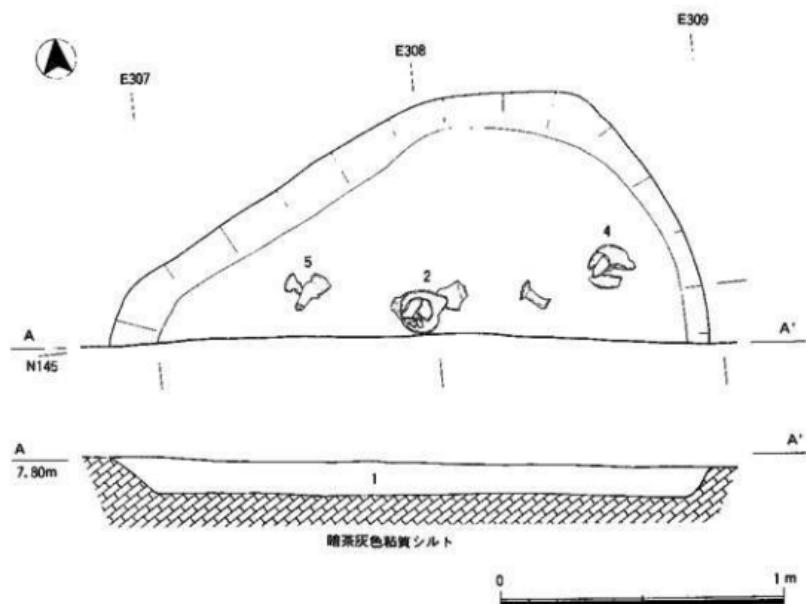
土坑（SK4）

SK4

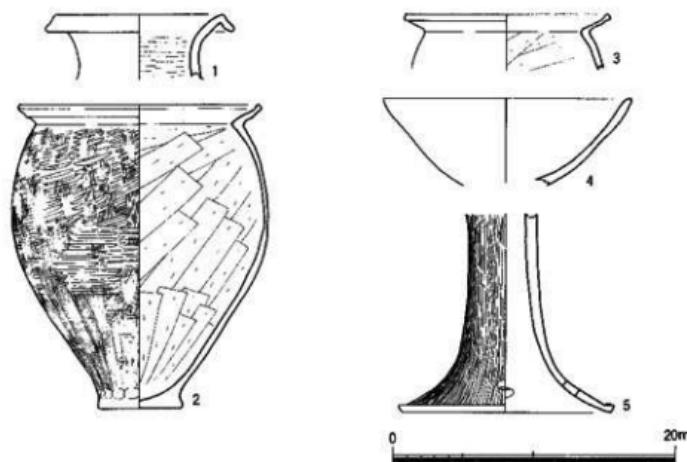
F IV-f 1区で検出した土坑で、SD69の底面から削平された状態で検出している。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.18m、南北0.86m以上、深さ13cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色粘質シルトの1層である（第173図）。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺（1）・甕（2・3）・高杯（4・5）の破片が出土している（第174図）。



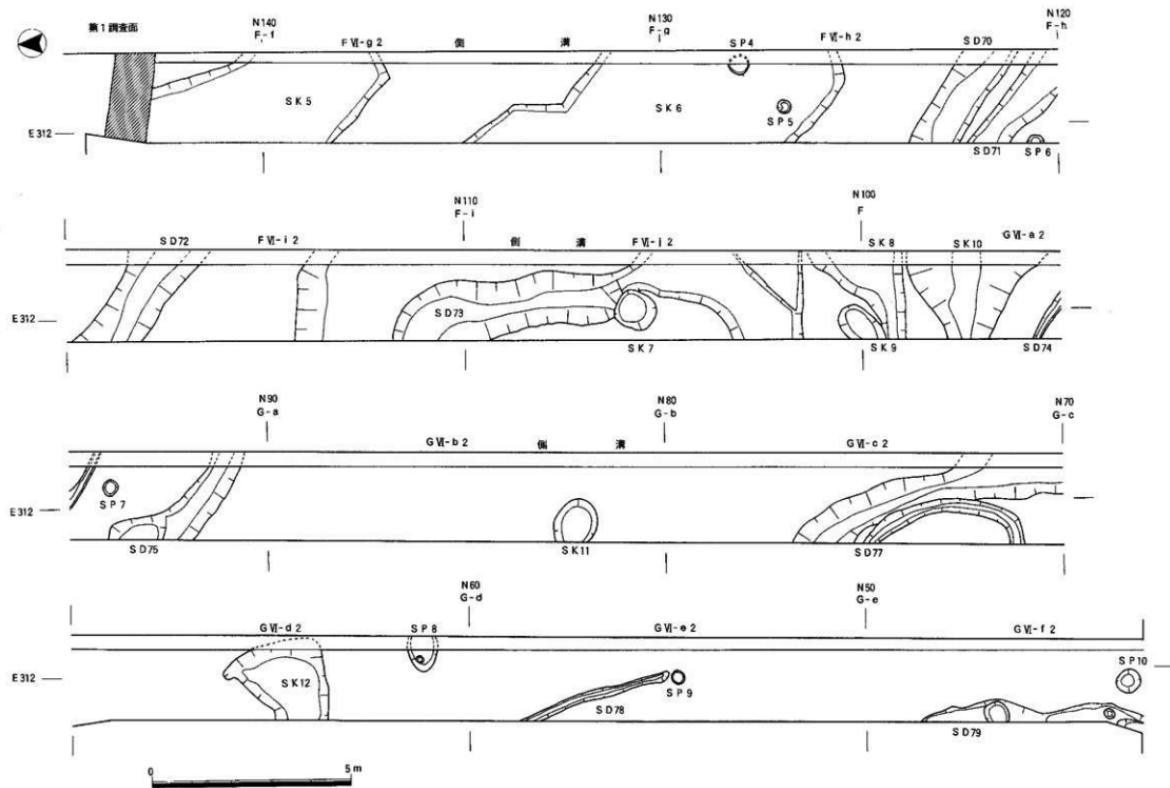
第172図 第8調査区地盤平面図



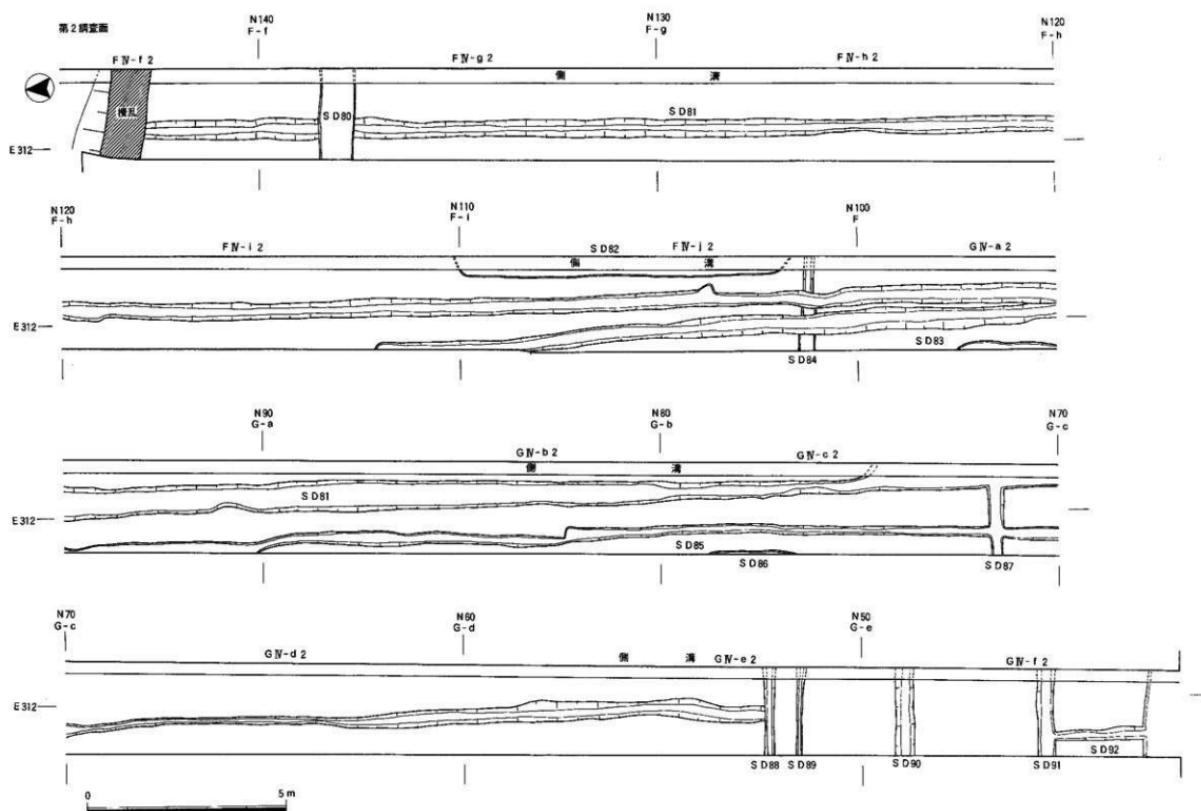
第173図 SK 4 掘出遺物平面図及び断面図



第174図 SK 4 出土遺物実測図



第175图 第9洞分区遗物平面图



2) 第2調査面(江戸時代)

溝(SD)

SD69

調査区全体で検出した。方向は東西方向を呈するが、南側と北側の溝肩は調査区外に至っており、溝幅などの大きさは不明である。ただ、南側の溝肩の一部が第9調査区の北部で検出されている。堆積土は基本層序の第3層に当たるものである。遺物は、内部から古墳時代～江戸時代に至る土師器・須恵器・瓦器・瓦などの小片がごく少量出土している。

第10節 第9調査区

第8調査区の東端部から南へ伸びる南北方向に長い調査区(幅2.5m×長さ104m)である。調査面積は206m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1mまでに存在する上層内から普遍的にみられる5層を抽出して基本層序とした(第175図)。現地表面は、標高8.6mを測る。以下、各土層について記す。

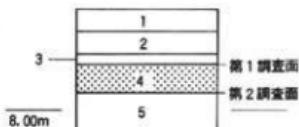
第1層 耕土：層厚10～15cm。調査前までの耕作土である。

第2層 淡灰褐色細砂混粘質土：層厚10～15cm。耕土の床土である。

第3層 淡灰黄色細砂混シルト：層厚10cm。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物がごく少量含まれる。この上面から江戸時代の遺構が切り込まれている。

第4層 茶灰色細砂混粘質シルト：層厚15～20cm。弥生時代後期末に比定される遺物が少量含まれており、上面では鎌倉時代の遺構が切り込まれている。この面を調査面とした。

第5層 茶灰色～淡灰黄色シルト：層厚20cm以上。弥生時代後期末の遺構が切り込まれており、この上面を調査面とした。



第177図 基本層序柱状図 (S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

第4層(第2調査面)と第5層上面(第1調査面)の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、弥生時代後期末に比定される土坑8基(SK5～SK12)・小穴7個(SP4～

S P 10)・溝10条(S D 70~S D 79)・土器集積2箇所を検出した(第176図)。第2調査面では、鎌倉時代~室町時代に比定される溝13条(S D 80~S D 91)と、第3層上面から切り込む江戸時代以降の溝1条(S D 92)を検出した(第177図)。以下、各遺構について記す。

第1調査面(弥生時代後期末)

土坑(S K)

S K 5

F IV-f 2・g 2区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。北部は搅乱している。規模は検出部で、東西2.3m以上、南北6.1m、深さ10~15cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色シルトである(第180図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(1)・甕(2~6)・鉢(7・8)・器台(9)・高杯(10~13)などの破片が少量出土している(第181図)。

S K 6

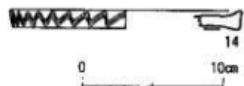
F IV-g 2・h 2で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西2.3m以上、南北8.1m、深さ16~24cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には小穴2個がある。規模はS P 4が径54cm、深さ12cm、S P 5が径34cm、深さ38cmをそれぞれ測る。堆積土は、灰茶褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内V様式に比定される壺(14)・甕などの小片が少量出土している(第178図)。

S K 7

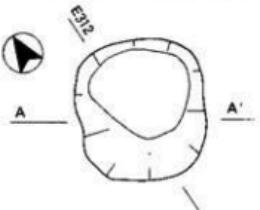
F IV-j 2区で検出した。平面はほぼ円形を呈し、S D 73を切っている。規模は検出部で、径1.8m、深さ34cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色微砂質土である(第179図)。遺物は、内部から畿内V様式に比定される甕などの小片がごく少量出土している。

S K 8

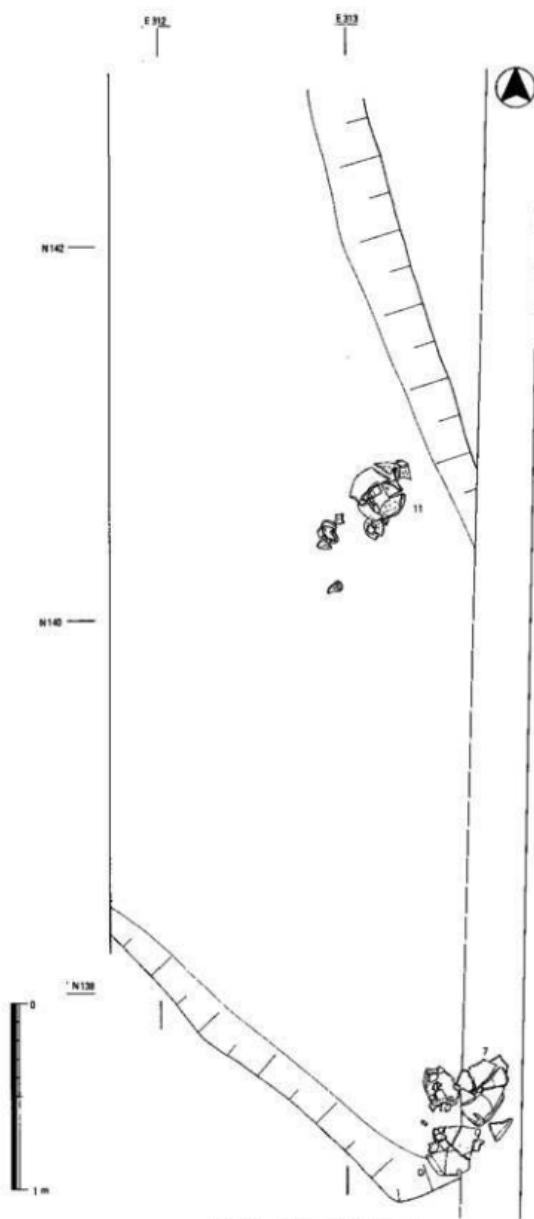
F IV-j 2・G VI-a 2区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。西部ではS K 9によって一部切られ



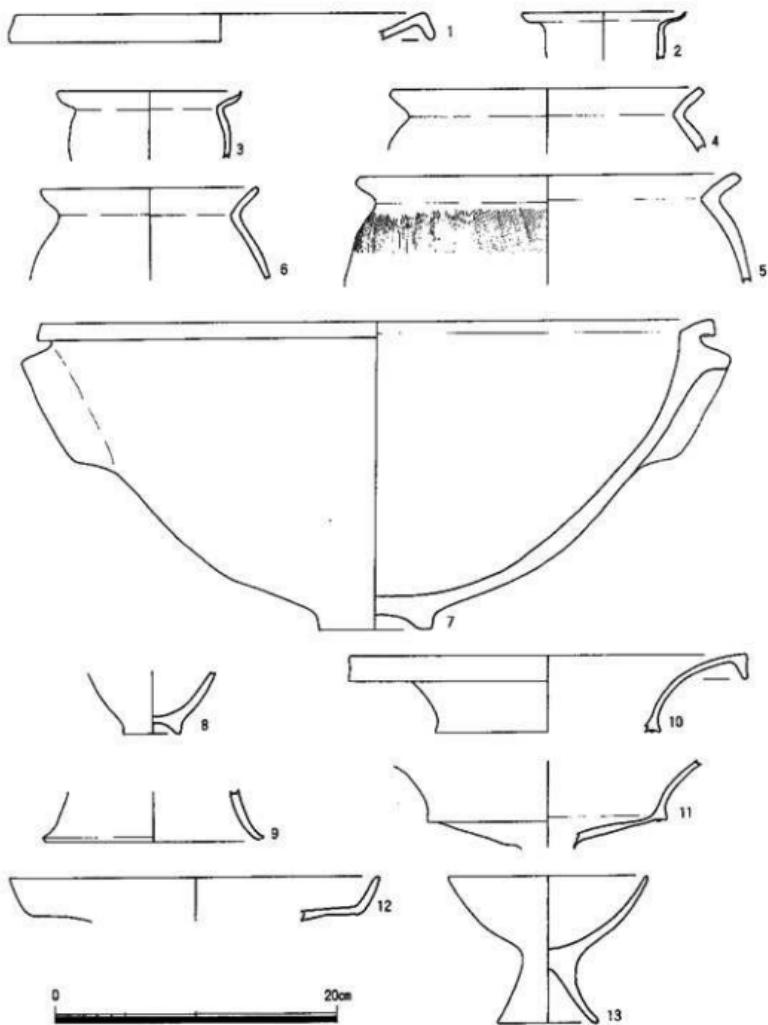
第178図 S K 6出土遺物実測図



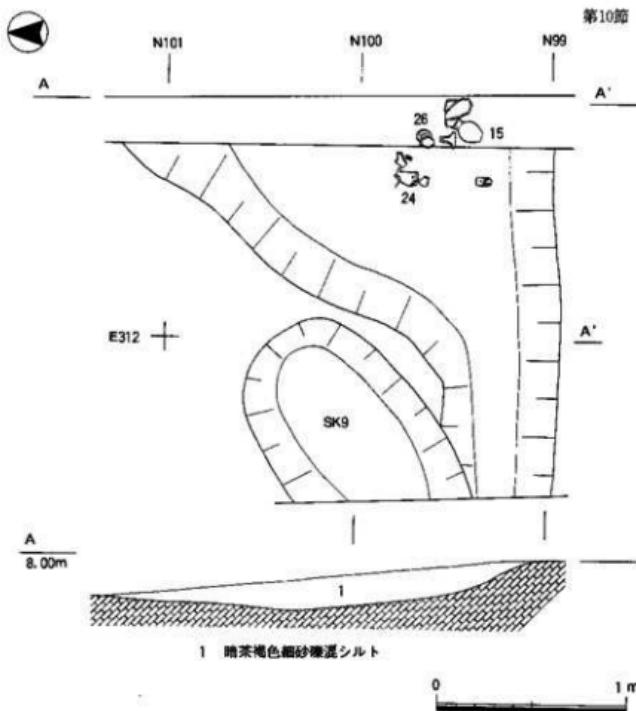
第179図 S K 7平面図



第180図 SK 5 棚出遺物平面図



第181図 SK 5出土遺物実測図



第182図 SK 8検出遺物平面図及び断面図

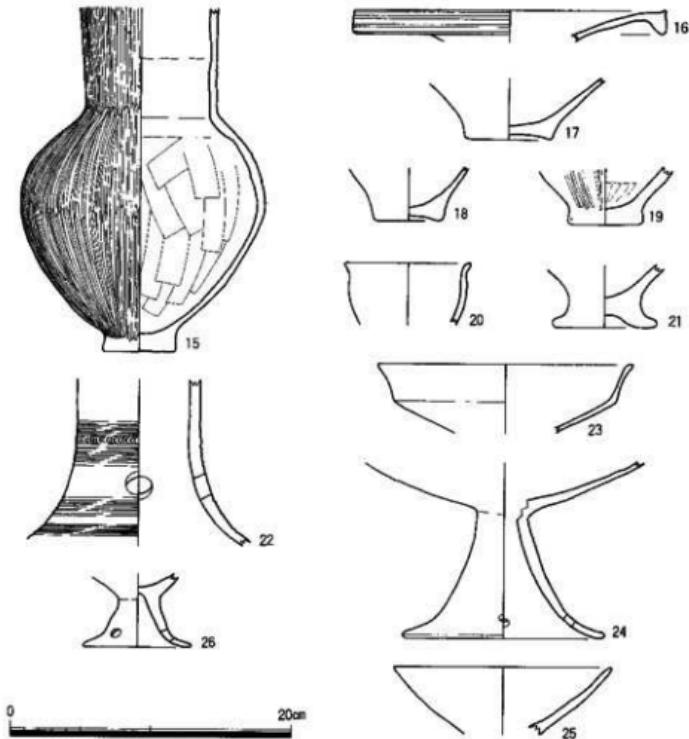
ている。規模は検出部で、東西2.3m以上、南北1.1m、深さ8cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂礫混シルトである（第182図）。遺物は内部の東側底部で集積した土器を検出した。土器は弥生時代後期末に比定される長頭壺（15）・壺（16～19）・鉢（20・21）・器台（23～26）など小片である（第183図）。

S K 9

G VI-a 2区で検出した。平面の形状は西部が調査区外に至り、不明である。南部はSK 8を切っている。規模は検出部で、東西1.1m、南北0.6m、深さ17.8cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡青灰色シルトである（第184図）。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺などの小片が少量出土している。

S K 10

G VI-a 2区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西2.2m、南北1（西）～3.1m（東）、深さ18～28cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、淡灰黄色細砂混シルトである（第186図）。遺物は、内部から畿内第V様



第183図 SK 8出土遺物実測図

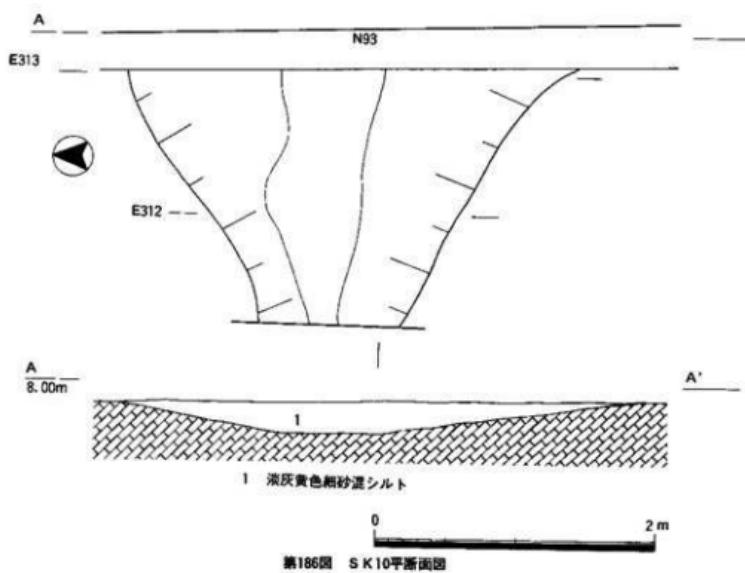
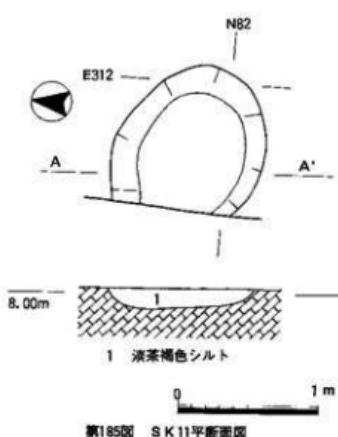
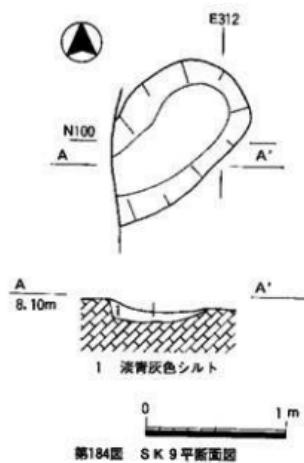
式に比定される土器の小片が少量出土している。

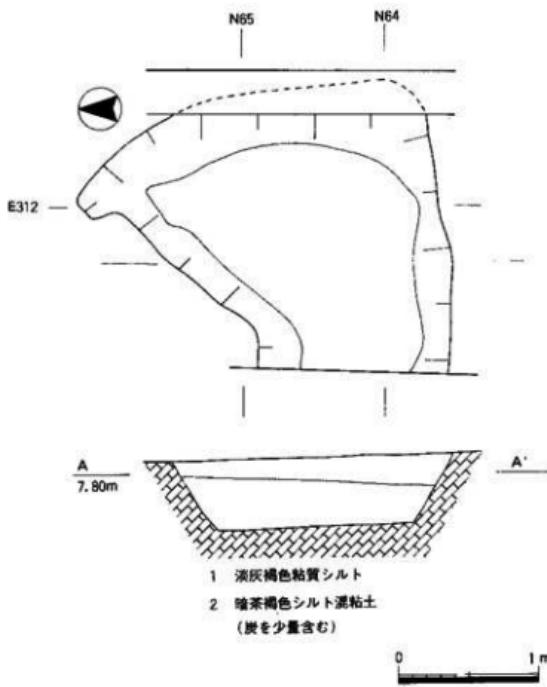
SK 11

G VI-b 2区で検出した。平面の形状は西部の一部が調査区外に至っているが、梢円形を呈する。規模は検出部で、東西1m以上、南北1.1m、深さ15cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色シルトである(第185図)。遺物は出土していない。

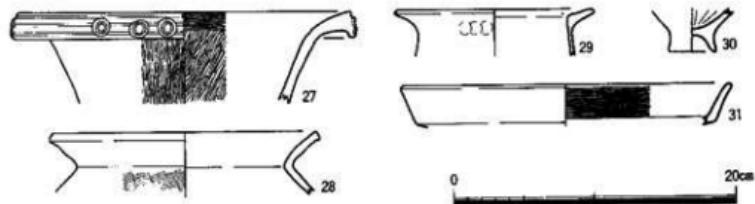
SK 12

G VI-d 2区で検出した。平面の形状は西部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西2m以上、南北2.2m、深さ50cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質シルト・暗茶褐色シルト混粘土(炭を少量含む)である(第187図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(27)・甕(28・29)・鉢(30)・高杯(31)・土器の小片が少量出土している(第188図)。





第187図 SK12断面図



第188図 SK12出土遺物実測図

溝 (SD)

SD 69

F IV-h 2区で検出した。方向は南東-北西方向を示す。規模は検出部で、幅1.12m、深さ25~37cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、淡黄茶色細砂混シルト・暗茶橙色細砂混シルトである(第189図)。遺物は、内部から壺などの小片がごく少量出土している。

SD 70

F VI-h 2区で検出した。SD 71に切られ、方向はSD 69・SD 71と同じである。規模は検出部で、幅0.8~1.06m、深さ25~35cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色砂疊混砂質土・淡灰色細砂である(第189図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(32・33)・壺などの破片が少量出土している(第190図)。

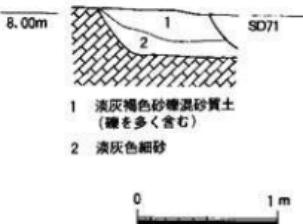
SD 71

F VI-h 2区で検出した。方向はSD 69・

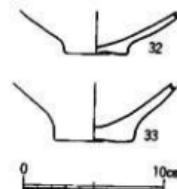
SD 70と同じで、SD 70を切る。規模は検出部で、幅1.3m、深さ40~44cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰茶色砂疊混砂質土・淡灰褐色細砂混粘質土・淡灰色細砂である(第191図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(34)・壺(35~39)・高杯(40~43)などの破片が少量出土している(第192図)。

SD 72

F VI-i 2区で検出した。方向は南東-北西方向を示す。規模は検出部で、幅0.7~1.2m、



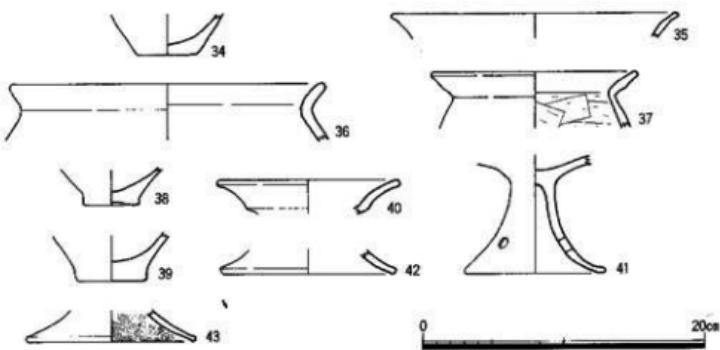
第189図 SD 70断面図



第190図 SD 70出土遺物実測図



第191図 SD 71断面図



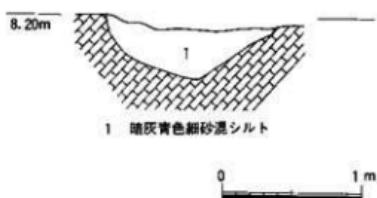
第192図 SD 71出土遺物実測図

深さ24cmを測る。断面は、浅い楕円形を呈する。堆積土は、暗灰色微砂シルトの1層である。遺物は、内部からV様式の壺の小片がごく少量出土している。

SD 73

F VI-i 2・j 2区で検出した。平面の形状は「コ」の字形で、東辺がSK 7によって一部切られている。規模は検出部で、

幅1~1.4m、深さ5~31cmを測る。断面



第193図 SD 72断面図

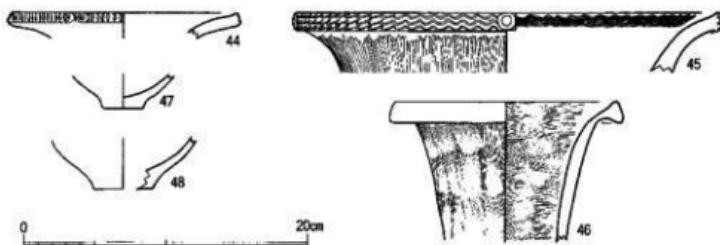
は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰色細砂混シルトである(第194図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(44~46)・壺(47~48)などの小片がごく少量出土している(第195図)。

SD 74

G VI-a 2区で検出した。方向は、南東-北西を示す。規模は検出部で、幅22cm、深さ5cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、茶褐色シルトである。遺物は出土していない。

SD 75

G VI-a 2区で検出した。方向は、南東-北西方向を示す。規模は検出部で、幅0.75(東)~1.3m(西)、深さ14cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、茶褐色シルトである。遺物は出土していない。



第194図 SD 73出土遺物実測図

SD 76

G VI - c 2区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、西部の一部はSD 77に切られている。規模は検出部で、幅0.6~1m、深さ14~35cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色粘質土である。遺物は出土していない。

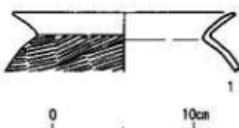
SD 77

G VI - c 2区で検出した。平面の形状は西を主軸とした円弧を描き、西部の調査区外に至る。SD 76を切っている。規模は検出部で、幅30cm、深さ3~6cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰色微砂混シルトである。

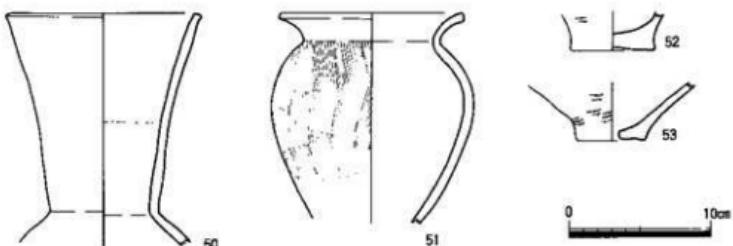
遺物は、庄内式中相に比定される庄内式甕(49)などの小片が少量出土している(第195図)。

SD 78

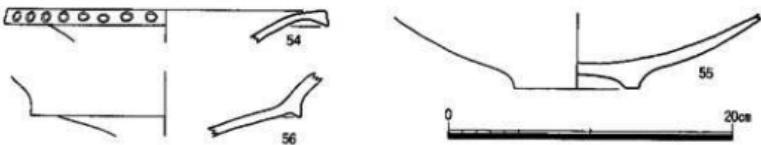
G VI - e 2区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、南東部は調査区内で途切れ、北部



第195図 SD 77出土遺物実測図



第196図 SD 78出土遺物実測図



第197図 SD 79出土遺物実測図

は調査区外に至る。規模は検出部で、幅20cm、深さ3~6cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される長頸壺(50)・甕(51・52)・有孔鉢(53)などの破片が少量出土している(第196図)。

S D 79

G VI-f 2区で検出した。北部・西肩は西部の調査区外に至る。南部は第10調査区に至り、南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅50cm(第10調査区の測定)、深さ5~14cmを測る。断面は半円形を呈し、底面には起伏がみられる。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される甕(54・55)・高杯(56)などの破片が少量出土している(第197図)。

小穴(S P)

S P 6~S P 10

5個を検出した。平面の形状は、調査区外に至る小穴を除いてすべて円形を呈する。規模は検出部で、径34~70cm、深さ12~35cmを測る。断面の形状は、半円形及びU字形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粘質土及び暗灰茶色細砂混粘質土である。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される弥生式土器の小片がごく少量出土している。以下、個々の小穴の法量などは第18表に記す。

第18表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

遺物番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P 6	F VI-h 2	——	半円形	44	14	暗灰茶色細砂混粘質土	
S P 7	G VI-a 2	円形	U字形	37	35	暗灰茶色細砂混粘質土	
S P 8	G VI-d 2	円形	半円形	70	25	暗灰茶色細砂混粘質土	
S P 9	G VI-e 2	円形	半円形	23	26	暗灰茶色細砂混粘質土	
S P 10	G VI-f 2	円形	半円形	62	30	暗灰茶色細砂混粘質土	

2) 第2調査面(鎌倉時代~江戸時代)

溝(SD)

SD69

F IV-f 2区で検出した。方向は東西を示し、東西はともに調査区外に至る溝で、南肩の一部は攪乱し、北部では第8調査区で底面を検出している。規模は検出部で、幅4m以上を測る。深さは、第8調査区の最深で約50cmを測る。堆積土は、淡褐色粘質土である。遺物は、弥生時代後期から江戸時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。

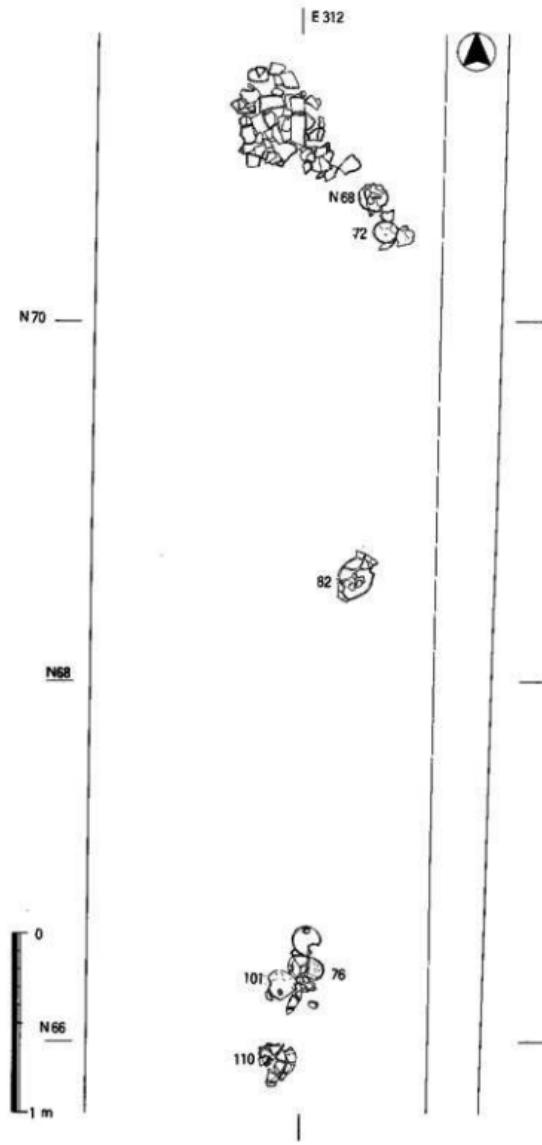
SD80~SD92

13条を検出した。方向には東西方向のもの7条、南北方向のもの6条がある。規模は検出部で、幅16~90cm、深さ6~24cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質土である。遺物はごく一部でしか出土していないが、数条の溝内には、古墳時代~鎌倉時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量は第19表に記す。

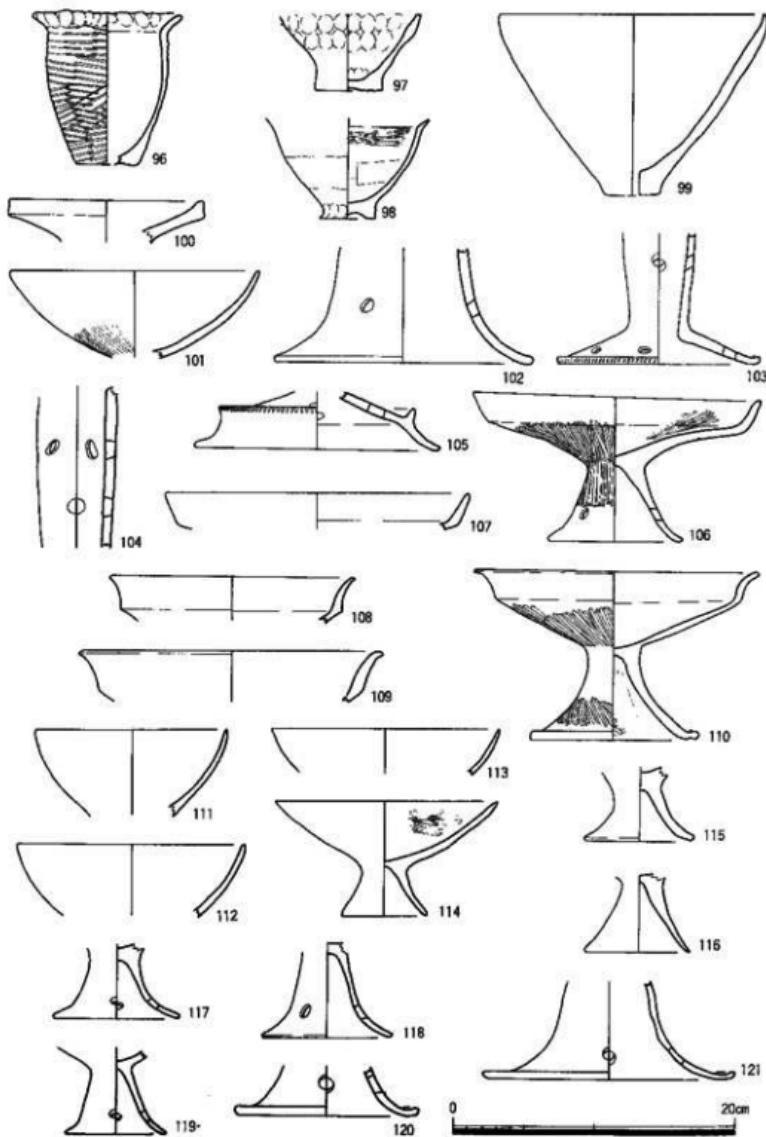
第19表 溝(SD)一覧表

* 単位: cm

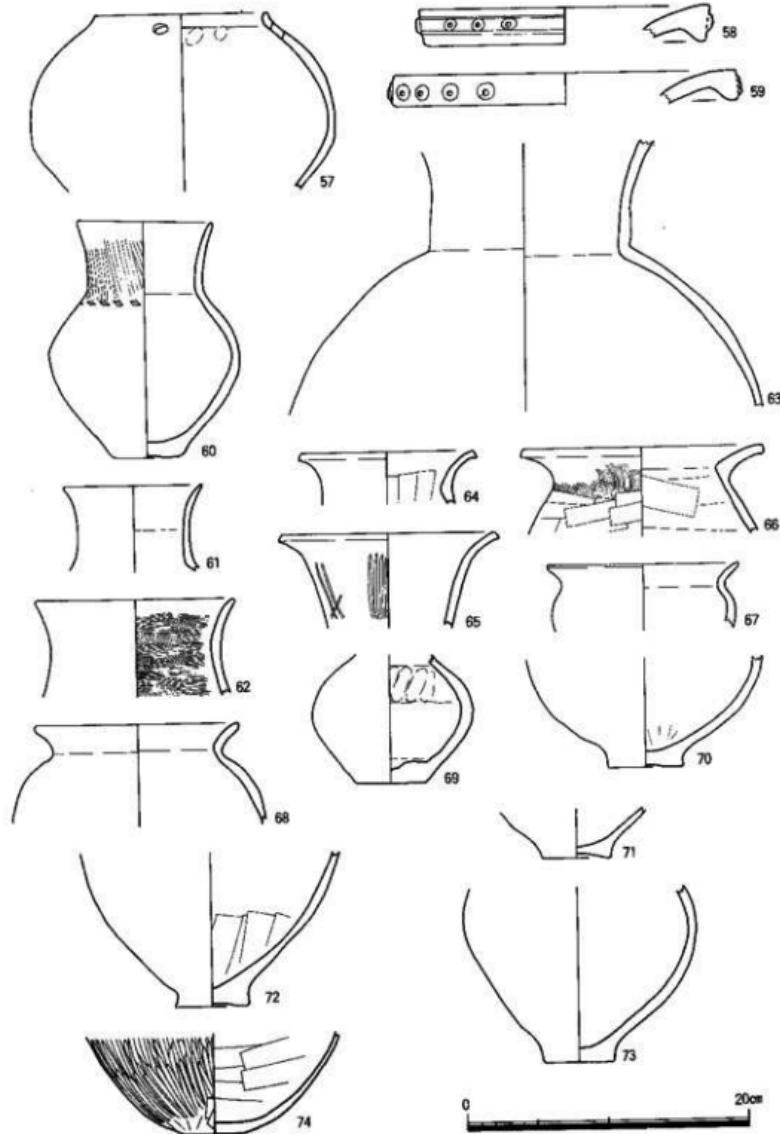
連続番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SD80	F VI-g 2	東-西	半円形	90	6	淡灰褐色粘質土	SD81を切る。
SD81	F VI-f 2 ~G VI-d 2	南-北	半円形	16~84	5~24	淡灰褐色粘質土	SD80に切られ、SD83・84・87と切合う
SD82	F VI-j 2	南-北	半円形	16	5	淡灰褐色粘質土	
SD83	F VI-i 2 G VI-a 2	南-北	半円形	30~54	3~15	淡灰褐色粘質土	SD81と切合う。
SD84	G VI-j 2	東-西	半円形	25~41	3~7	淡灰褐色粘質土	SD83と切合う。
SD85	G VI-a 2 ~e 2	南-北	半円形	16	5	淡灰褐色粘質土	SD88に切られ、SD87と切合う。
SD86	G VI-e 2	南-北	半円形	13	4	淡灰褐色粘質土	
SD87	G VI-e 2	東-西	半円形	28~40	14	淡灰褐色粘質土	SD81と切合う
SD88	G VI-e 2	東-西	半円形	23	7~10	淡灰褐色粘質土	SD85を切る。
SD89	G VI-e 2	東-西	半円形	16	5~8	淡灰褐色粘質土	
SD90	G VI-f 2	東-西	半円形	46	11~15	淡灰褐色粘質土	
SD91	G VI-f 2	東-西	半円形	43	6~10	淡灰褐色粘質土	
SD92	G VI-f 2	南-北	半円形	22~34	9~13	淡灰褐色粘質土	



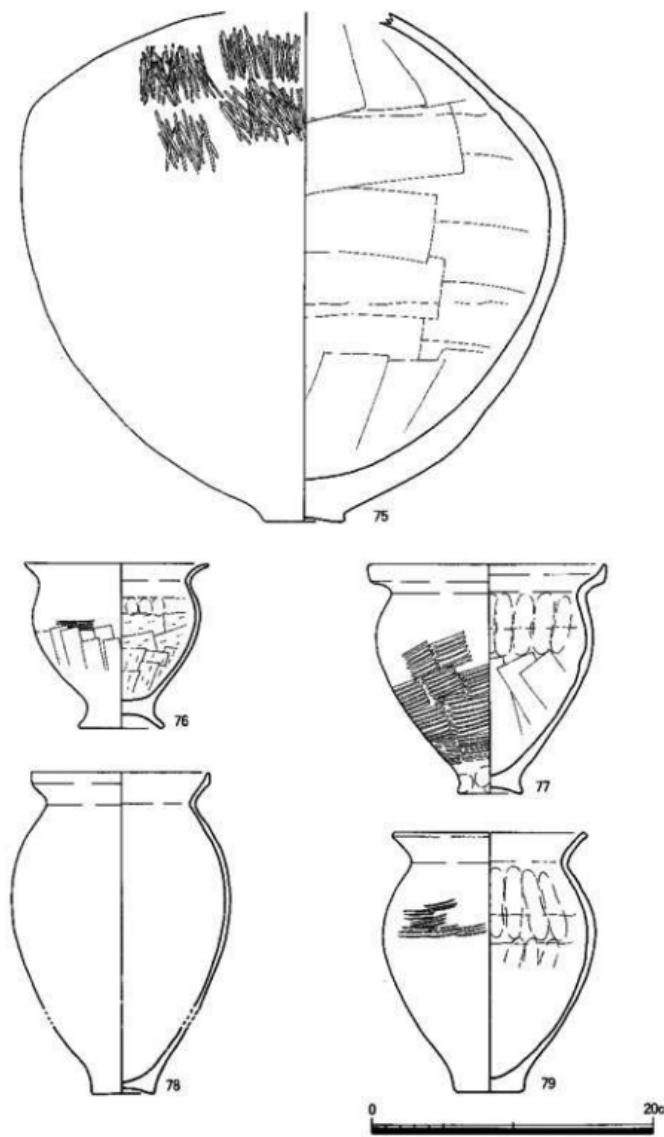
第198圖 第4層土器集積平面圖



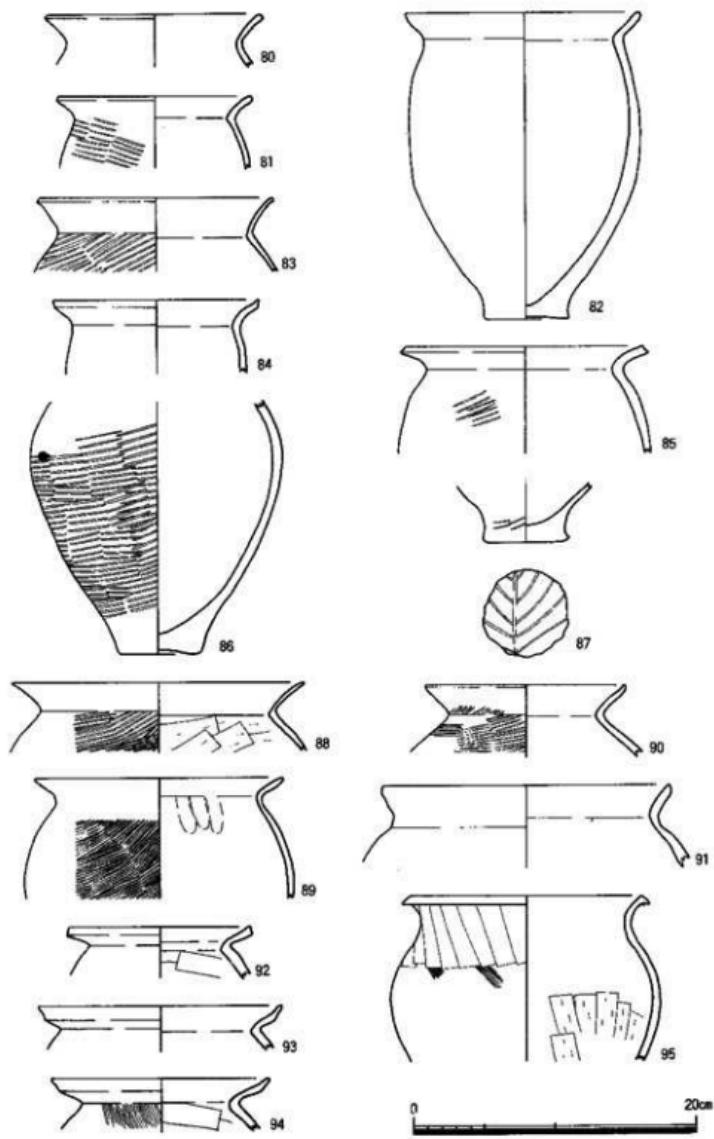
第199図 遷構に伴わない出土遺物実測図1



第200図 繪構に伴わない出土遺物実測図 2



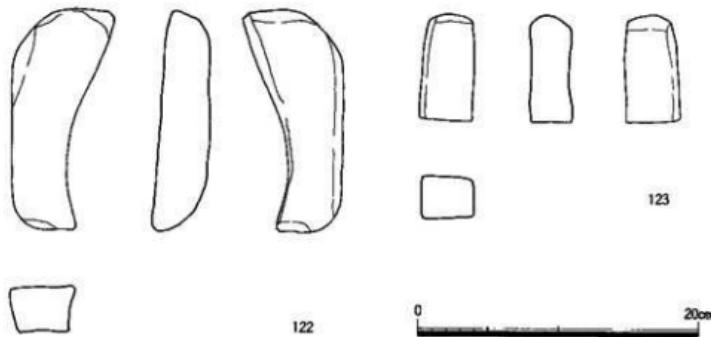
第201図 造形に伴わない出土遺物実測図3



第202図 造構に伴わない出土遺物実測図 4

3) 遺構に伴わない出土遺物

第2～4層内から出土している。出土量は、コンテナ箱にして約4箱分である。時期は、弥生時代後期～鎌倉時代に至るもので、第2層内から鎌倉時代のもの、第3層内から古墳時代前期のもの、第4層内から弥生時代後期末を中心に出土している。特に第4層内から出土する弥生土器が大半を占める(第198図)。以下、図示できたものについて記す(第199～203図)。第4層内から出土したものは、畿内第V様式に比定される無頸壺(57)・広口壺(58・59)・長頸壺(60・61)・壺(62～65・69～75)・甕(66・68・76～87)・鉢(67・96～98)・有孔鉢(99)・器台(100・102～105)・高杯(101・106～121)である。その他には、長方形の砥石2点がある。122は縦16cm、横6cm以上(片側欠損)、厚み3cmを測る。123は縦7.8cm、横4cm、厚み2.5cmを測る。第3層内から出土したものは、古墳時代前期(庄内式中相)に比定される庄内式甕(88～90)・その他の甕(91～95)である。



第203図 遺構に伴わない出土遺物実測図5

第11節 第11調査区

第9調査区の南端部に設定した東西に長い調査区（幅2.5m×長さ45m）である。調査面積は112.5m²を測る。

I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.2mまでに存在する土層内から普遍的にみられる6層を抽出して基本層序とした（第204図）。現地表高は、標高8.6mを測る。以下、各土層について記す。

第1層 耕土：層厚10~15cm。調査前までの耕作土である。

第2層 明灰茶色シルト混粘質土：層厚10~15cm。耕土の床土で、内部には近世の遺物がごく少量含まれている。

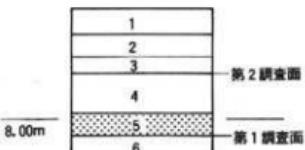
第3層 灰茶色細砂混粘質土：層厚20~25cm。

鎌倉時代～室町時代に至る遺物を少量含む。この上面から江戸時代の遺構が切り込まれている。

第4層 灰茶色粘質土：層厚20~25cm。古墳時代前期に比定される土器の小片が含まれ、上面では、鎌倉時代に比定される溝が切り込まれている。

第5層 暗灰色粘質土：層厚10~15cm。弥生時代後期に比定される土器が含まれる。

第6層 淡灰色～淡灰褐色シルト：層厚15cm以上。弥生時代後期の遺構が切り込んでおり、この上面を調査対象面とした。上面は標高7.9mを測る。



第204図 基本層序柱状図 (S=1/40)

II 検出遺構と出土遺物

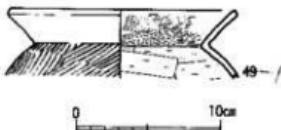
第4層（第2調査面）と第6層（第1調査面）上面の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、弥生時代後期に比定される小穴1個（SP11）、溝2条（SD79・SD93）を検出した。第2調査面では、鎌倉時代ごろの溝6条（SD94～SD99）、江戸時代以降の溝1条（SD100）を検出した（第207図）。以下、各遺構について記す。

1) 第1調査面

小穴 (S P)

S P11

G VI-f 4区で検出した。上面はSD100に削られてい る。平面の形状は、楕円形を呈する。規模は検出部で、径64~80cm、深さ20cmを測る。断面は、逆凸形を呈する。堆積土は、暗茶褐色粘質シルトの1層である。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される甕(1)などの小片がごく少量出土している(第205図)。



第205図 S P11出土遺物実測図

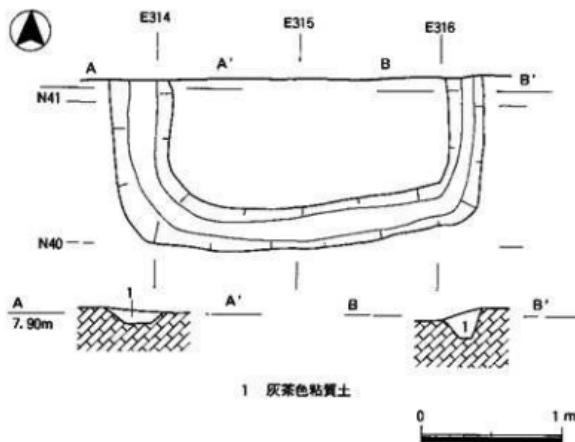
溝 (S D)

S D79

G VI-f 2区で検出した。第9調査区から継続する溝である。詳細なことは第9調査区で記載しているので、ここでは省略する。

S D93

G VI-f 2区で検出した溝で、平面の形状が方形(東西辺2.6m)に遡り、北側は調査区外



第206図 S D93断面図

に至り、全体の形状は不明である。規模は検出部で、幅28~46cm、深さ5~11cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰茶色粘質土である（第206図）。遺物は出土していない。

2) 第2調査面

溝（SD）

SD 94~SD 99

6条を検出した。方向は、SD 97以外のものすべて東西方向を示す。SD 97は北部に主軸のある円弧を描き、北部の調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.1~2.68m、深さ4~25cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰茶色粘質土が堆積している。遺物は、内部から古墳時代~鎌倉時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量などについては第20表に記す。

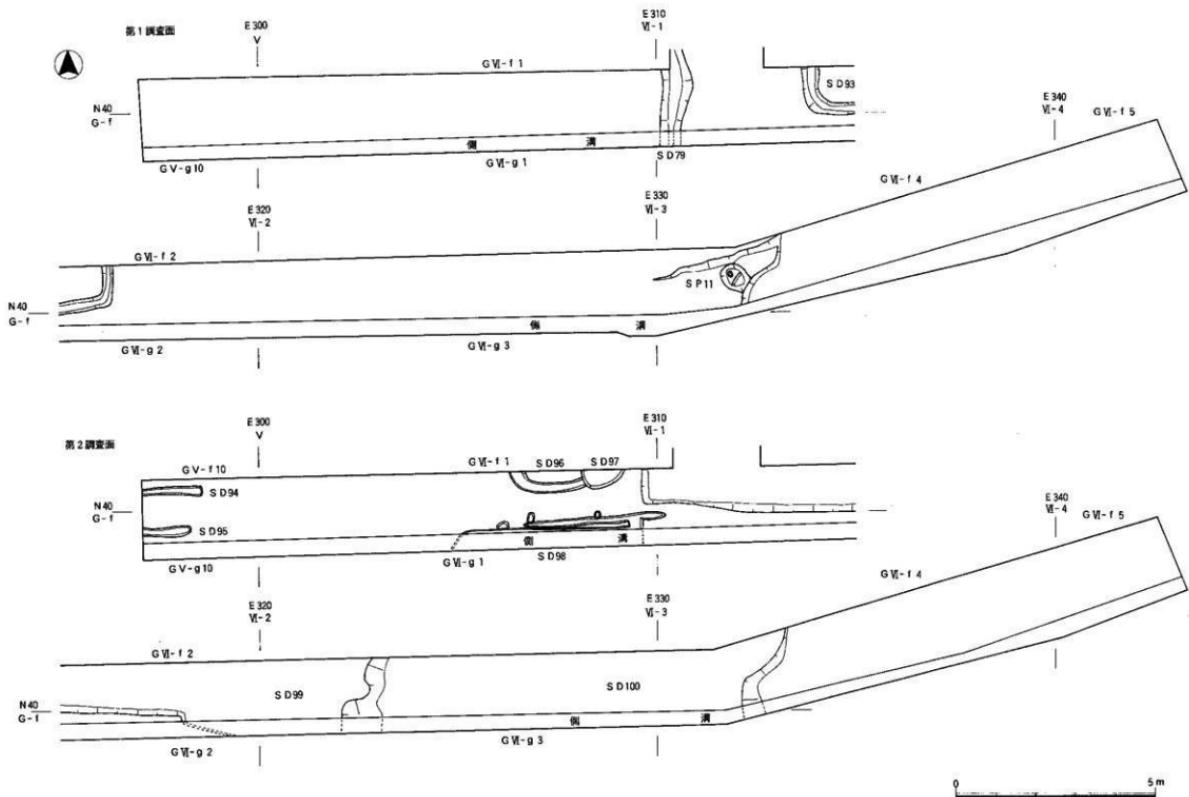
第20表 溝（SD）一覧表

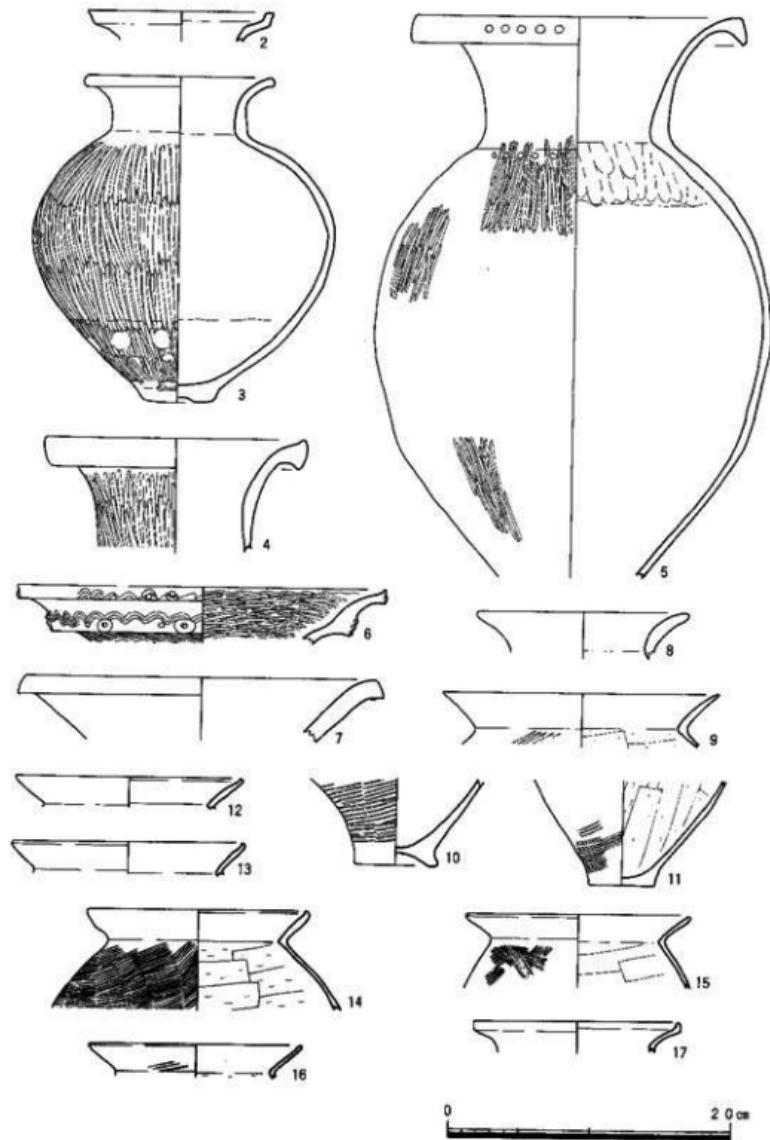
* 単位：cm

溝構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SD 94	G V-f10	東~西	半円形	20	6	灰茶色粘質土	
SD 95	G V-f10	東~西	半円形	22	4	灰茶色粘質土	
SD 96	G VI-f1	円弧	半円形	15	8	灰茶色粘質土	東部は擾乱している。
SD 97	G VI-f1	東~西	半円形	20	6	灰茶色粘質土	SD 96と切合う。
SD 98	G VI-f1	東~西	半円形	10以上	8	灰茶色粘質土	SD 97と切合う。
SD 99	G VI-f2 ~f3	東~西	半円形	268	25	灰茶色粘質土	SD 101に切られ、西端は途切れている。

SD 100

調査区の東部（G VI-f3~f5）で検出した大きな溝状の遺構である。第3層上面からの切り込みで、方向は、南北方向に伸びるものと考えられる。南北ともに調査区外に至る。また、東部（楠根川が隣接）の溝肩は検出できなかった。堆積土は、灰茶褐色粘質土・暗灰色細砂混粘質土（径3~5cmの砾を含む）・灰褐色粘質土（ごく少量の細砂を含む）・淡茶灰色粗砂混シルト・灰茶色細砂混粘質土・茶灰色細砂混シルト・灰色シルトと淡灰黄色細砂の互層である。遺物は、内部から古墳時代~江戸時代に至る土師器・須恵器・瓦器・瓦・陶磁器などの小片がごく少量出土している。

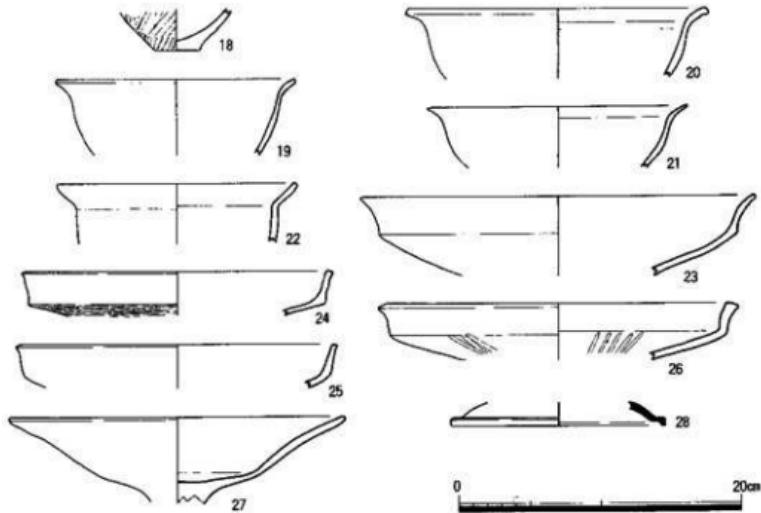




第208図 遺構に伴わない出土遺物実測図1

3) 造構に伴わない出土遺物

第2～5層内から出土している。時期は弥生時代後期～近世に至るもので、出土量はコンテナ箱にして約1箱分を数える。特に第5層と第6層内からの出土遺物が大半を占めている。以下、図示できたものについて記す（第208・209図）。第6層から出土したものとしては、弥生時代後期前半に比定される壺（2～7）・高杯（23～26）である。第5層から出土したものとしては、弥生時代後期後半に比定される壺（8）・V様式甕（10・11）・鉢（18～22）、古墳時代前期（庄内式）に比定される庄内式甕（9・12～16）・甕（17）・高杯（27）である。第3層から出土したものとしては、奈良時代に比定される須恵器の杯蓋（28）である。



第209図 造構に伴わない出土遺物実測図2

第1調査区

第1調査区

遺物番号 図版番号	器 種	出土 (m)	地 点 器高	形 素・調 檢 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1 （土器） 包含層	甕	最大径 底 径	18.3 2.2	体部は下側に最大径をもつ扁平な球形である。底部はやや突出した小さな平底。口縁部は欠損。 外面ナデ、内面摩耗の為調査不明瞭。	外 乳茶褐色 内 雪白褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
2 同上	口 瓢	16.8		球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は丸い。底部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（4本）後ハケナデ（5本）、下位ハケナデ（5本）、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 角閃石等の砂 粒を少量含む。	良好	体部の外側 下位に焼付 着。
八八 包含層		器 高 最大径	17.5 18.4					
3 同上	口 瓢	14.2		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（5本）、内面ヘラナデ。	褐灰色	0.5mm以下の 角閃石等の砂 粒を少量含む。	良好	
4 包含層	口 瓢	17.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（5本）、内面ヘラナデ。	褐茶色	0.5 mm以下の 角閃石等の砂 粒を少量含む。	良好	
5 包含層	口 瓢	32.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。体部中位以下は欠損。体部内面には本の縫合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（5本）、内面ヘラナデ。	褐茶色	2.5 mm以下の 長石・角 閃石等の砂 粒を多量に 含む。	良	
6 八八 包含層	口 瓢	11.径 18.4		斜内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。底部はつまみ上げる。体部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（6本）、内面ヘラナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂 粒を少量含む。	良好	体部の内面 に焼付着。
7 包含層	口 瓢	23.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びた後屈曲して上方へ伸びる口縁部に至る。底部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（5本）後ナデ、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	4mm以下の 長石・石英 等の砂 粒を少量含む。	良好	
8 （土器） 包含層	口 瓢	18.4		口縁部は上外方へ伸び、底部は丸い。体部は欠損。 底部ヨコナデ、口縁部内外面ナデ。	淡灰茶色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
9 碗 (鉢器) 包含層	底	径 5.2		底盤は平らで、断面U字形の高台が付く。 体部は欠損。 内外面凹凸ナデ。	淡綠灰色	精良。	良好	内外面に綠 釉付着。

第2調査区

遺物番号 因版番号	種類	出土 地点 (cm)	基点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 八八	口錠 (土師器) SW1	口錠 15.5		口錠部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。端部内面に1本の接合痕を有する。 端部表面ヨコナダ、口錠部内外面ヘラミガキ。	淡茶灰色	4mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
2 八八	同上 SW1	口錠 15.0		口錠部は上外方へ大きく外反して伸び、端部はやや上につむつむ。体部は欠損。口錠部外間に1本の接合痕を有する。 口錠部外面ヘラミガキ、内面ヨコナダ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
3 八八	同上 SW1	最大径 11.9		体部は偏平な球形である。底部は尖り底。口錠部は欠損。体部内面下位に1本の接合痕を有する。 内外面摩耗の為不明瞭。	淡茶褐色～乳灰茶色	3mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
4 八八	同上 SW1	最大径 14.0		体部は球形である。底部は丸底で、施成後の穿孔がみられる。口錠部は欠損。 外面部摩耗の為不明瞭、内面指ナダ。	淡灰褐色	4mm以下の長石・内閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
5 八八	同上 SW1	口錠 12.2		口錠部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面剥離の為調整不明瞭。	淡茶灰色	3mm以下の砂粒を多量に含む。	良	
6 八八	同上 SW1	口錠 9.5 高 15.3 最大径 13.6		球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口錠部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口錠部内外面ヨコナダ、体部外面上位ヘラミガキ、中位ハケナダ（7本）、下位タタキ後ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3mm以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
7 八八	同上 SW1	口錠 12.9		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ内溝して伸びる口錠部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口錠部内外面ハケナダ（外6本・内7本）、体部外面ハケナダ（8本）、内面ナダ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	6mm以下の長石・内閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
8 八九	同上 SW1	口錠 16.6		上内方へ外反して伸びる部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上方へ伸びる口錠部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口錠部内外面ヨコナダ、腹部内面ナダ、体部外面ハケナダ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
9 八九	同上 SW1	口錠 12.8		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びた後屈曲して上方へ伸びる口錠部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口錠部内外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ（5本）、内面ナダ、中位ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
10 八九	同上 SW1	頭部径 最大径 11.0 26.4		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる。口錠部・体部下位は欠損。 体部内面上位に1本の接合痕を有する。 口錠部内外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ（5本）、内面ナダ、中位ヘラ削り。	淡灰茶色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	体部外面中位に黒斑有。
11 八九	同上 SW1	底 錠 5.6		体部上位・口錠部は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出した平底。 内外面ハケナダ。	淡茶灰色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に黒斑有。
12 八九	同上 SW1	底 錠 4.1		体部上位以上は欠損。底面はやや突出した上げ底。底面に葉脈状模様がみられる。 外面ナダ、内面指捺え後ナダ。	淡赤褐色	5.5mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色	調 査	土	使 成	備 考
13 SW1	甕 (土輪型)	底 径	5.4	体部は斜上方へ伸びる。底部はやや突出した上げ底。口縁部・体部は欠損。 体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ハナデ、底面ナナデ。	外 淡灰茶 内 淡茶灰 色	4mm以下の 長石・石英・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好		
14 SW1	同上	底 径	7.6	体部上位以上は欠損。体部は斜上方へ内湾気味に伸びる。底部は突出した上げ底。 体部外面ハラミガキ、内面ナナデ、底部外面ヨコナデ、底面ヘラナデ。	淡灰褐色	4mm以下の 石英・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好		
15 SW1	同上	底 径	3.6	体部上位以上は欠損。体部は斜上方へ内湾して伸びる。底部はやや突出した平底。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡灰褐色	3mm以下の 長石・角閃石・ 石英等の砂粒を少 量含む。	良	外面上に黒斑 有。	
16 SW1	同上	底 径	7.4	体部は斜上方へ内湾気味に伸びる。底部は突出しない平底。 外表面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	外 淡灰茶 内 暗褐色	1mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好		
17 SW1	同上	底 径	7.0	体部上位以上は欠損。体部は斜上方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 内外面ナナデ。	乳灰褐色	4mm以下の 角閃石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良	外面上に黒斑 有。	
18 SW1	甕 (土輪型)	口 径	15.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (5本)、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3mm以下の 長石・雲母・ 角閃石等の砂 粒を少量含む。	良好		
19 SW1	同上	口 径	13.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	1mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好		
20 SW1	同上	口 径	16.0	口縁部は斜上方へ外反して伸びる。端部は丸い。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3mm以下の 雲母・長石・ 角閃石等の砂 粒を少量含む。	良好		
21 SW1	同上	口 径	10.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は外傾する曲をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (5本)、内面ヘラ削り。	暗灰色	3mm以下の 角閃石・雲 母等の砂粒を少 量含む。	良好		
22 SW1	同上	口 径	15.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (4本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	4mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の砂粒を少 量含む。	良好		
23 SW1	同上	口 径	14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (4本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	4mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	口縁部外面 体部外面中位 に焼付着。	
24 SW1	同上	口 径	15.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (5本)、内面ヘラ削り。	外 乳灰茶 内 淡茶灰 色	4mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒を少 量含む。	良好		

遺物番号 同底番号	器種	出土 (cm)	地点 器窓	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
25 八九	壺 (土器器)	口 径 16.4		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。口縁部外側に1本の縦合痕を有する。 口縁部外側タタキ(3本)、内面ヨコナゲ、体部外側タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	外 内 褐色 乳褐色 色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
26 八九	同上	口 径 17.0		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外側・器部内面ヨコナゲ、体部外側上位タタキ(4本)、中位ハケナゲ(10本)、内面ナゲ。	暗茶褐色	2mm以下の 雲母・長石・ 石英等の砂粒 を多量に含む。	良好	
27 SW1	同上	口 径 15.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側摩耗の為調整不明瞭、内面ナゲ。	暗茶褐色	2mm以下の 雲母・長石・ 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
28 SW1	同上	口 径 15.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側摩耗の為調整不明瞭、内側ナゲ。	暗茶褐色	3mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少量 含む。	良好	
29 SW1	同上	口 径 16.0		口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナゲ。	淡灰褐色	5mm以下の 雲母・長石等 の砂粒を少量 含む。	良好	
30 SW1	同上	口 径 16.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	1mm以下の 雲母等の砂 粒を少量含む。	良好	
31 SW1	同上	口 径 15.0		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2mm以下の 長石・石英等 の砂粒を少量 含む。	良好	外側に煤付 着。
32 SW1	同上	口 径 14.2		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	0.5mm以下の 雲母等の砂 粒を少量含む。	良好	
33 SW1	同上	口 径 16.8		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナゲ。	淡灰褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
34 SW1	同上	口 径 16.2		口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	暗灰茶色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少量含む。	良好	
35 九〇	同上	口 径 15.0		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側上位タタキ(3本)、中位摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3mm以下の 長石・雲母・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
36 SW1	同上	口 径 15.2		内上方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	4mm以下の 長石・雲母・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好	

第2調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (m)	地点 露高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
37	壺 (土師器)	II 径 14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	体部外側に運付着。	
				SW1				
38	同上	口 径 14.4 最大径 17.4	球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する。上面に凹凸がある。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外側タタキ(5本)後ハケナゲ(7本)、内面ヘラ削り。	淡褐色～墨褐色	4 mm以下の長石・角閃石・雲母・赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外側に運付着。	
				SW1				
39	同上	口 径 13.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 II縫部内外面ヨコナギ、体部内面へラ削り。	褐色	4 mm以下の長石を少量含む。	良好		
40	同上	口 様 15.4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	暗茶褐色	5 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好		
				SW1				
41	同上	口 径 15.5	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外側タタキ(4本)、内面塵毛の為調査不能。	乳灰茶色	4 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好		
				SW1				
42	同上	口 様 15.0	内上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 II縫部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラ削り。	外系水褐色 内深灰褐色	3 mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好		
				SW1				
43	同上	II 径 16.2	II縫部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	淡茶褐色	4 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好		
				SW1				
44	同上	II 径 15.3	II内方へ内側して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びるII縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 II縫部外側タタキ後ヨコナギ、内面ヨコナギ、体部外側タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2 mm以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好		
				SW1				
45	同上	口 様 15.1	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。外側に凹面がみられる。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	淡灰茶色	1 mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好		
				SW1				
46	同上	口 径 12.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	乳灰茶色	1 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量化。	良好		
				SW1				
47	同上	II 径 16.0 最大径 19.6	球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に曲をもつ。体部下部は欠損。体部内面に上位に1本の接合痕を有する。 II縫部内外面ヨコナギ、体部外側上位タタキ(5本)、中位タタキ後ハケナゲ(10本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	4.5 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好		
				SW1				
48	同上	II 径 14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びるII縫部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 II縫部内外面ヨコナギ、体部外側タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3 mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量化。	良好		
				SW1				

植物番号 同種番号	種 類	出土 (cm)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色 調	粘 土	燒 成	備 考
49	壳 (土師器)	口 径 15.2 器 高 19.5 最大径 20.1		球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部にせる。端部はつまみ上げる。底部はやや尖り底。 口縫部内外面ヨコナギ。体部外面上部タキ (5本)、中位ハケナゲ(6本)、下位タキ(6本)、後ハケナゲ(6本)、内面ヘラ 割り、底部内面指頭痕。	淡茶褐色	5mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	完形。 体部外面下 位に焼付着。
九〇	SW1							
50	同上	口 径 17.4 器 高 21.0 最大径 22.4		珠形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口 縁部に平ら。端部はやや上に突む。底部は やや尖り底。 口縫部内外面ヨコナギ。体部外面上部タキ (4本)、下位ハケナゲ(10本)、内面ヘラ 割り。	淡茶褐色	6mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	外面に焼付 着。
九〇	SW1							
51	同上	口 径 18.4		口縫部は斜上方へ外反して伸び、端部は上 につまむ。体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ。体部内面ヘラ割り。	淡茶褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
SW1								
52	同上	口 径 16.0 器 高 20.1 最大径 19.6		球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口 縫部に平ら。端部は丸い。底部は丸底。 口縫部内外面ヨコナギ。体部外面タキ (5本)、後ハケナゲ(10本)、内面ヘラ割り。	淡茶褐色	3.5 mm以下 の角閃石・ 雲母・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	体部外面中 位以下に焼 付着。
九〇	SW1							
53	同上	口 径 14.0		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ、内面ハケナゲ(8本)、 体部外面ハケナゲ、内面ヘラ割り。	淡茶褐色	2mm以下の 長石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
SW1								
54	同上	口 径 12.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部に平ら。端部 は丸い。体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ。体部外面タキ (8本)、後ハケナゲ(10本)、内面ヘラ割り。	外 淡茶 内 淡灰茶 色 色	2mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
SW1								
55	同上	口 径 14.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部に平ら。端部 は丸い。体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タキ (4本)、後ハケナゲ(9本)、内面ヘラ割り。	暗茶褐色	3mm以下の 雲母・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	外面上に焼付 着。
SW1								
56	同上	口 径 14.6		上縫部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は上 につまむ。体部は尖頂。 内面ヨコナギ。	淡茶褐色	1mm以下の 雲母等の砂 粒を少 量含 む。	良好	
SW1								
57	同上	口 径 16.6		上縫部は上外方へ内湾して伸び、端部は上 につまむ。体部は尖頂。 内面ヨコナギ。	淡茶褐色	1mm以下の 角閃石等の 砂粒を少 量含 む。	良好	
SW1								
58	同上	口 径 15.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部に平ら。端部 は丸い。体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タキ (4本)、内面ヘラ割り。	乳白色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少 量含 む。	良好	体部外面上 に焼付着。
SW1								
59	同上	口 径 16.8		上縫部は上外方へ外反して伸び、端部は上 につまむ。体部は尖頂。 口縫部内外面ヨコナギ、内面ヨコナギ後ハケ ナゲ(4本)、体部内面ヘラ割り。	灰茶色	6mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少 量含 む。	良好	
SW1								
九〇	同上	口 径 12.9 器 高 16.2 最大径 16.2		やや偏平な球形の体部から屈曲し、上外方 へ内湾気味に伸びる口縫部に平ら。端部は外 側する部分をもつ。底部は丸底。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナゲ (10本)、内面ヘラ割り、底面部内面押さえ後 ヘラ割り。	淡灰茶色	3mm以下の 雲母・長石・ 角閃石等の 砂粒を少 量含 む。	良好	
九〇	SW1							

遺物番号 回収番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
61	壺 (土師器) SW1	口 径 13.0		口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	1.5mm以下の 長石等の砂粒を少量含む。	良好	
62	同上	口 径 15.0		口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	3mm以下の 長石等の砂粒を少量含む。	良好	
63	同上	口 径 13.2		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。	乳褐色	2mm以下の 雲母・長石・ 角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
九一	SW1			口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ (5本)、内面ヘラ削り。				
64	同上	口 径 17.4		口縁部は上方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。	淡茶灰色	1mm以下の 長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
65	同上	口 径 9.6		上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の 為調整不明瞭。	乳灰茶色	3mm以下の 長石等の砂粒を少量含む。	良好	
66	同上	口 径 17.6 最大径 23.1		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (7本)、内面ヘラ削り。	乳褐色	3mm以下の 長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良善	体部外面中位に焼付着。
九一	SW1							
67	同上	口 径 16.0		斜上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ 伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚する。 体部中位以下は欠損。窓内内部の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (4本)、内面ヘラ削り。(後接標記)。	暗茶褐色	2mm以下の 雲母・角閃石・ 長石等の砂粒を少 量含む。	良好	
68	鉢 (土師器) SW1	II 径 10.4 基高 5.3 底径 2.6		半球形の体部から上方へ伸びる口縁部に 至る。端部は丸い。底部はやや突出した底み 底。外表面タタキ (2本)、内面ヘラナデ、底面 ナデ。	乳灰茶色	5mm以下の 雲母・長石等の砂粒を少 量含む。	良好	外側に黒斑 有。
九一								
69	同上	口 径 11.0		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方 へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は 外側する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為 調整不明瞭、内面ナデ。	淡茶褐色	1mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の砂粒を多量に 含む。	良好	
70	同上	II 径 34.0		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方 へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は 外側する面をもつ。底部は欠損。	淡茶褐色	7mm以下の 長石等の砂粒を少 量含む。	良好	
九一	SW1			口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (12本)、内面摩耗の為調整不明瞭。				
71	高杯 (土師器) SW1	底 径 16.5		杯底部は外上方へ伸びる。底部は下外方へ 伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ軽く膨部 に至る。端部は丸い。杯部は欠損。器底に四 方孔を有する。 杯底部内外面ナデ後ハケナデ、柱状部外面 ヨコナデ、内面ヘラによるくりぬき・指押え、 底部内外面ハケナデ(外6本・内7本)。	淡茶灰色	1mm以下の 雲母・長石・ 角閃石等の砂粒を少 量含む。	良好	
九一								
72	盃 (土師器) 河川1	口 径 8.2		口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部 は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	1mm以下の 長石等の砂粒を多量に 含む。	良好	

遺物番号 横版番号	器種	出土 (cm)	高さ 基高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成備考
73	壺 (土師器) 河川1	口径	15.8	口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	乳茶褐色	1mm以下の 長石・石英等の 砂粒を少量含む。	良好
74	壺 (土師器) 河川1	口径	13.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	粗茶色	1mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良
75	同上	口径	11.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	外 内 灰茶色	1mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好
76	同上	口径	17.1	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	淡灰茶色	0.5mm以下の の長石等の 砂粒を微量含む。	良好
77	高杯 (土師器)	口径	14.4	平らに近い杯底部から外上方へ内湾して伸びる口縁部に丸る。端部は厚く、内側の面をもつ。脚部は外方へ伸びる柱状部に至る。底部は欠損。 杯底外腹ハケナダ(16点)、接ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭、柱状部外面ナデ、内面ヘラによるくりぬき。	橙茶色	1.5mm以下の 砂粒を多量に含む。	良好
九一	河川1	底径	10.6				
78	同上	底径	10.6	杯底は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外方に開く脚部に至る。端部は丸い。 杯底内面、柱状部外側ナデ、内面ヘラによるくりぬき、底部内外面ヨコナダ。	淡橙茶色	0.5mm以下の の長石等の 砂粒を少量含む。	良好 底部内面 に擦付着。
九一	河川1	底径	10.7	脚部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる柱状部から屈曲し、外方に開く脚部に至る。端部は丸い。 柱状部内面、柱状部外側ナデ、内面ヘラによるくりぬき、底部内外面タタキ(5本)。	淡橙茶色	0.5mm以下の の赤褐色 化粧・長石・ 石英等の砂 粒を多量に含む。	良好
80	壺 (土師器) 河川2	口径	16.2	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナダ、口縁部内外面摩滅の為調整不明瞭。	淡灰茶色	1mm以下の 長石・赤褐色 化粧等の砂 粒を少量含む。	良好
81	同上	口径	17.6	口縁部は外上方へ内湾して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外側ヘラミガキ、内面摩滅の為調整不明瞭。	外 内 淡灰茶色 灰茶色	2mm以下の 赤褐色・長石・ 石英等の砂 粒を少量含む。	良好
82	同上	口径	12.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 外上方へ内凹気味に伸びる脚部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。口縁部外側に2本の擦痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、内面ハケナダ(5本)、 体部外腹ハケナダ(8本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	1mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量に 含む。	良好
九二	河川2						
83	同上	口径	12.6	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は外上方へつまみ出し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 底部内外面ヨコナダ、口縁部外側ヘラミガキ、内面ナダ。	系灰色	1mm以下の 角閃石・玄 武・長石等の 砂粒を多量に 含む。	良好 外側にヘラ 記号有。
84	同上	口径	11.6	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して外上方へ 大きくなびく、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外側上面位ヘラミガキ後放射状摩滅、 他はヘラミガキ。	乳茶褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好
九二	河川2						

第2調査区

遺物番号 同取番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
85 河川 2	小型甕 (土輪部)	口 深 9.6		側面下球形の部から屈曲し、上方へ伸びる。端部は内側を有する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外向ナデ、内面ハラナデ。	乳茶褐色	1.5 mm以下 の長石等の 砂粒を多量に 含む。	良	
86 河川 2	壺 (上輪部)	高 極 9.6		体部上位以上は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出しない平面。外温度等の為調整不明瞭、内面ナデ。	外 墓灰褐色 内 墓灰色	2.5 mm以下 の長石・墓 母等の砂粒 を少量含む。	良	外面に埋付 着。
87 河川 2	壺 (土輪部)	口 径 17.1		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は丸い。体部は欠損。口縁部外間に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外向タキ(5本)、内面ハラナデ。	外 黒褐色 内 墓茶褐色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
88 河川 2	同上	II 極 17.4		斜内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外向タキ(4本)、内面ハラナデ、内面ヘラ削り。	外 黒褐色 内 墓灰褐色	0.5 mm以下 の長石・角 閃石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
89 河川 2	同上	II 極 13.6		II 端部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 淡茶灰 色 内 乳茶褐色	1 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	外面に埋付 着。
90 河川 2	同上	口 深 16.0		口縁部は斜上方へ外反して伸びる。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	灰褐色	2 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
91 河川 2	同上	口 径 13.4		II 端部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	4 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
92 河川 2	同上	口 深 16.3		II 端部は斜上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。口縁部外間に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)。	外 暗茶褐色 内 乳茶褐色	0.5 mm以下 の長石等の 砂粒を多量に 含む。	良好	
93 河川 2	同上	口 径 14.0		II 端部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	0.5 mm以下 の長石等の砂 粒を微量含 む。	良好	外面に埋付 着。
94 河川 2	同上	口 径 15.0		II 端部は斜上方へ伸び、端部は上につまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	褐灰色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を少量化 する。	良好	
95 河川 2	同上	口 深 13.9		II 端部は斜上方へ伸び、端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 外表面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)。	暗茶褐色	0.5 mm以下 の角閃石・ 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	外面に埋付 着。
96 河川 2	同上	II 極 17.8		II 端部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)	淡灰褐色	0.5 mm以下 の長石・角 閃石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	口縁部外壁 上位に埋付 着。
97 河川 2	同上	II 極 27.5		II 端部は上外方へ伸び、端部は内方につまり、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	0.5 mm以下 の長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	

遺物番号 岡板番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
98 河川 2	甕 (土師器)	口 楊 15.6		口縁部は上外方へ内溝気味に伸び、縁部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナガ、体部内面ヘラ削り。	外 増幅灰色 内 灰褐色	2 mm以下の 長石等の砂粒を少量化 す。	良好	
99 河川 2	同上	口 楊 10.9		上内方に伸びる体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。縁部は上方へ長く延張する。体部は欠損。吉備地方の酒呑式の特徴をもつ。 端部外面削状ヨコナガ、体部内面ヘラ削り。他はヨコナガ。	淡褐色	0.5 mm以下の 長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
100 河川 2	鉢 (土師器)	口 径 26.6		上内方に内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナガ、体部外縁ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	0.5 mm以下の 長石・角 閃石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に 保有石。
101 河川 2	同上	口 径 30.6		上内方に伸びる体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナガ、体部内面ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	褐色	3 mm以下の 石英・長石等の砂粒を少量化	良好	
102 河川 2	甕 (土師器)	口 径 9.2 高 底 9.3 底 径 11.1		受部は上方へ内溝して伸び、縁部は丸い。脚部は外方へ伸びる。縁部は丸い。脚部上位に三孔孔を有する。 受部外縁上位ヘラミガキ、下位ヘラ削り、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部外縁ヘラミガキ。内面ハケナゲ(1本)。	乳白色	2 mm以下の 砂粒を少量化	良好	
103 河川 2	同上	口 径 9.2		受部は上方へ内溝して伸び、縁部は丸い。脚部は欠損。 受部外縁ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡褐色	0.5 mm以下の 長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
104 河川 2	同上	底 径 11.8		脚部は斜外方へ伸びる。縁部は丸い。受部及び脚部下位は欠損。脚部に四方孔を有する外縁ヘラミガキ。内面ハケナゲ(1本)。	淡茶褐色	1 mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好	
105 河川 2	高杯 (土師器)	口 径 20.6		杯底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 外縁ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡茶褐色	1 mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好	
106 河川 2	同上	口 楊 23.9		半らな杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 脚部外縁上位ヨコナガ、下位ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	乳白色	0.5 mm以下の 長石等の砂粒を少量化	良好	
107 河川 2	同上	底 径 14.8		脚部及び紅状部は欠損。縁部は下方へ大きめに屈く。縁部は丸い。脚部上位に四孔孔を有する。 外縁ヘラミガキ、内面ハケナゲ(1本)。	褐色	0.5 mm以下の 長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	縁部外縁上位に保有石。
108 河川 4	甕 (土師器)	口 楊 14.8		口縁部は外上方へ伸び、縁部は丸い。体部は欠損。 外縁ハケナゲ、内面ヨコナガ。	淡灰褐色	6 mm以下の 長石等の砂粒を少量化	良好	
109 河川 4	同上	口 楊 16.4		上内方に内溝気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナゲ後ヨコナガ、内面上位ヨコナガ、下位ハケナゲ(9本)、体部外縁タタキ(5本)後ハケナゲ(8本)、内面上位ハケナゲ(8本)、中位ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5 mm以下の 高輝・長 石等の砂粒を少量化	良好	

第2調査区

遺物番号 同上番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
110	壺 (土器)	口 径 14.0	河川 4	上内方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖る。体部は欠損。器底内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	4 mm以下の 石英・長石等の砂粒を 少量含む。	良好	
111	同上	口 径 16.2 最大径 2.0	河川 4	球形と思われる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ(13本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(12本)、内面ヘラ削り。	外 淡褐色 内 橙灰色	3 mm以下の 石英・石英・ 角閃石・雲母等の砂粒 を少量含む。	良好	口縁部外面 体部外面上位に 横付着。
九二	同上	口 径 18.2	河川 4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ(13本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ(6本)、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	4.5 mm以下の 角閃石・ 長石等の砂粒 を多量に 含む。	良好	外面上に 堆积着。
112	同上	口 径 18.4	河川 4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ(13本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ(6本)、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2 mm以下の 長石等の砂粒 を少量含む。	良好	
113	同上	口 径 18.4	河川 4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げ 外に面をもつ。体部は欠損。口縁部外面に1 本の接合痕を有する。 外面上ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)。	淡茶褐色	2 mm以下の 長石等の砂粒 を少量含む。	良好	
114	同上	口 径 18.0	河川 4	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまみ 上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ(6本) ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2 mm以下の 雲母・長石等 の砂粒を 少量含む。	良好	外面上に 堆积着。
115	同上	口 径 17.8	河川 4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は つまみ上げた形。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	暗茶褐色	3 mm以下の 雲母・石英・ 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	外面上に 堆积着。
116	同上	口 径 19.0	河川 4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ 伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまみ、 外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タキ、内面ハケナデ(9本)、 体部外面タキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2 mm以下の 雲母・ 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
九二	有孔器 (土器)	最大径 15.0	河川 4	所置U字形の桟脚部から口縁部に至る。口 縁部端部は欠損。底部は尖り歪、底面中央に 穿孔を有する。 外面上タキ(4本)、内面ハケナデ(7本)。	褐灰色	5 mm以下の 石英・ 長石等の砂 粒を 少量含む。	良好	
118	壺 (土器)	口 径 16.2	九二 包含層	体部上位が球形の体部から屈曲し、上外方へ 伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、 外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側上位ヨコナデ、中 位ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	乳白色	2 mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良好	
119	同上	口 径 12.0	九二 包含層	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、 外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色 一 暗茶褐色	2 mm以下の 長石・ 雲母等の砂 粒を少量含む。	良好	
120	同上	底 径 10.2	九二 包含層	体部上位以上は欠損。体部は斜上方へ伸び る。底部は突出しない平底。 外面上ヨコナデの為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2 mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	底部外側に 黒斑有。
121	壺 (土器)	口 径 18.5	九二 包含層	上内方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、 外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2.5 mm以下の 角閃石・ 石英・雲母等 の砂粒を 多量に含む。	良	

遺物番号 国重委登号	器種	出土 (m)	地点 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
122	器種 (十脚器)	口 径	16.6	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	褐茶色	2.5 mm以下の長石・青母等の砂粒を多量に含む。	良	
	包含層							
123	洞上	口 径	15.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は丸く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タキ(5本)、後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	3 mm以下の長石・青母等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
124	洞上	口 径	13.4	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡赤褐色 内 淡灰褐色	2 mm以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
125	洞上	口 径	13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
126	洞上	口 径	14.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部にまる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
127	洞上	口 径	19.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タキ(7本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	3 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
128	洞上	口 径	17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳白色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
129	洞上	口 径	13.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	2 mm以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
130	洞上	口 径	14.3	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	0.5 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良	
	包含層							
131	洞上	口 径	20.1	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は上につまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タキ(6本)、後ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
九二	包含層							
132	洞上	口 径	24.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は上につまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰色	3 mm以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
133	洞上	口 径	18.5	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部にまる。端部は上につまみ上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(8本)、内面牽耗の調査不明瞭。	暗茶褐色	3 mm以下の角閃石等の砂粒を少量に含む。	良	体部外面に擦付石。
九二	包含層	II � 徵 基 高 最 大	21.1 21.2					

第2調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 地点 (cm)	地質 高さ	形態・調整等の特徴	色調	施上	焼成	備考
134	瓶 (下部器) 包含層	最大径	17.8	口縁部は欠損。体部は扁平な球形である。 底部はやや尖り気味の底。 外側タタキ (5本)、内面ハラ削り。	外 淡茶灰 内 淡茶褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	体部外側中 位以下に焼 付着。
135	同上	口径	13.9	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部は欠損。 口縁部(外側)ヨコナギ、体部外側タタキ (6本)、内面摩耗痕が調整不明瞭。	乳茶灰色	1.5 mm以下 の長石等の 砂粒を多量 に含む。	良	
136	同上	口径	13.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ S字状に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。 口縁部(外側)ヨコナギ、体部外側タタキ (6本)、内面摩耗痕が調整不明瞭。	乳灰色	0.5 mm以下 の砂粒を多量 に含む。	良好	口縁部外側 に焼付着。
137	同上	口径	14.6	口縁部は上方へ内湾気味に伸び、端部は 内方に肥厚し、内側の面をもつ。体部は欠 損。 内面ヨコナギ。	灰褐色	0.5 mm以下 の砂粒を多量 に含む。	良好	口縁部外側 に焼付着。
138	同上	口径	27.8	口縁部は上方へ強く外反して伸びた後屈 曲して、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は 上方に面を持つ。体部は欠損、山腹地方の特徴 をもつ。 外側剥離の為調査不明瞭、内面ヨコナギ。	外 淡褐色 内 淡茶褐色	4.5 mm以下 の長石・右 美・角閃石 等の砂粒を 多量に含む。	良	
139	鉢 (上部器) 包含層	底径	3.2	体部上部以上は欠損。底部は突出しない平 底。 内外面ナガ。	淡茶褐色	4 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
140	器台 (下部器) 包含層	口径	9.6	受部は上方へ内湾して伸び、端部は上に つまむ。脚部は欠損。 外側ヨコナギ、内面摩耗の為調査不明瞭。	棕茶色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む	良	
141	同上	口径	10.6	受部は上方へ内湾して伸び、端部は上に つまむ。脚部は欠損。 外側ヨコナギ、内面ヨコナギ。	外 淡褐色 内 淡褐色	0.5 mm以下 の砂粒を多 量に含む。	良好	
142	同上	底径	9.5	受部は上方へ内湾して伸びる。端部は欠 損。脚部は上方へ伸び、端部は丸い。脚部 中央位に五方の凹孔を有する。 受部外面にケナギ?、内面ヨコナギ、脚部 外面ハナケナギ?、内面しきり目。	淡茶褐色	0.5 mm以下 の右美等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
九三	包含層							
143	同上	底径	16.1	受部は欠損。脚部は新ド方へ外反して開く。 端部は底をもつ。脚部外側上面に1本の垂 合痕を有する。 受部外面にケナギ?、内面ヨコナギ、脚部 外面ハナケナギ?、内面しきり目。	外 淡灰褐色 内 基褐色	5 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	内面中位以 下に焼付着。
九三	包含層							
144	高杯 (上部器) 包含層	口径	23.5	平らな杯底から屈曲し、上方へ強く伸 びた後屈曲して上方へ内湾気味に伸びる口 縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹面 をもつ。脚部は欠損。杯底部外側に1本の接 合痕を有する。 杯外側へウミガキ、杯底部外側、杯底内 側剥離の為調査不明瞭。	外 基褐色 内 乳茶褐色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良	
145	同上	底径	15.3	杯部及び脚部上位は欠損。脚部下位は外下 方へ開く。端部は丸い。 内外面ヨコナギ。	棕茶色	1.5 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
	包含層							

第3調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm) 標高	形態・調査等の特徴	色調	地土	焼成	備考
1 河川5	盆 (土器器)	口径 12.0	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は平坦。 内外面ヘラミガキ。	暗赤褐色	1m以下の 長石・石英等の砂粒を 少量含む。	良好	
2 河川5	甕 (土器器)	口径 15.0	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は 上に突まつ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラミガキ。	外 黒褐色 内 淡赤褐色	2mm以下の 長石・雲母・ 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
3 河川5	器台 (土器器)	口径 12.5	受部は欠損。脚部は外下方へ聞く。端部は 丸い。 外面ヘラミガキ、内面ハケナデ(8本)。	乳茶褐色	2mm以下の 長石・雲母・ 角閃石等の 砂粒を微量含む。	良好	
4 河川5	高杯 (土器器)	底 径 17.0	平らな杯部から屈曲し、上外方へ伸びる口 縁部に至る。端部は丸い。脚部欠損。 内外面ヘラミガキ。	暗赤褐色	3mm以下の 角閃石等の 砂粒を微量含む。	良好	
5 河川5	同上	口径 15.2	杯部は斜上方へ伸びる口縁部に生る。端部 は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	乳茶褐色	2mm以下の 石英等の砂 粒を少量含む。	良好	
6 河川5	同上	底 径 9.7	杯部及び柱状部は欠損。脚部は外下方へ外 反して聞く。端部は丸い。杯部上位に四方孔 を有する。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・雲母等の 砂粒を微量含む。	良好	
7 SK3	同上	口径 14.0	杯部は上外方へ内凹して伸びる口縁部に生 る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	乳茶褐色	6mm以下の 石英・長石等の 砂粒を少量含む。	良好	
8 九三	同上 SK3	口径 15.8 器高 12.2 底 径 10.6	平らな杯部から上外方へ内凹して伸びる 口縁部に至る。端部は丸い。肩部は下外方へ 伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して 聞く屈曲部に空洞。部部には四方孔をもつ。 柱状部下位に三方孔を有する。 杯部内側ヨコナギ、柱状部内面くりぬ き、他はナデ。	乳茶褐色	2mm以下の 長石・石英等の 砂粒を多量に含む。	良好	杯部内外面 上位に黒斑 有。
9 SK3	壺 (風呂器)	口径 14.2	口縁部は上方へ外反して伸びた後屈曲し て上方へ外反して伸びる。端部は外方に肥厚 し上に面をもつ。口縁部の腹面外縁は大き く突出して複みられる。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	乳灰褐色	3mm以下の 石英・雲母等の 砂粒を微量含む。	良好	
10 SD39	羽釜 (瓦質)	口径 18.8	口縁部は上方へ伸び、端部は上に面をもつ。 口縁部外縁附近には水平に丸く伸びる得が盛 る。端部には面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側上位ヨコナギ、外側下位ヘラ ミガキ、内面下位ハケナデ(6本)。	外 暗灰褐色 内 淡灰色	4mm以下の 長石・角閃石・ 石英等の砂粒を 少量含む。	良好	
11 包含層	高杯 (土器器)	底 径 10.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部 から屈曲し、外下方へ聞く屈曲部に至る。端部 は丸い。柱状部下位に四方孔を有する。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	暗茶褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
12 包含層	杯蓋 (容器器)	口径 13.0 底 径 12.6	天井部から斜上方へ伸び、後に至る。縁は 痕跡あり。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾 する凹面をもつ。大尖部は欠損。 内外面剥離ナデ。	淡灰色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	口クロ左方 向。

第4調査区

第4調査区

遺物番号 同族番号	器種	出土 (cm)	地点 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 九三	鉢 (瓦質)	底 深	21.0	杯部上位は欠損。杯体部は平底の底部から屈曲し、上方へ伸びる。底部の外側付近に円柱形の高台が三方ないしは四方に付く。 体部外面上位へコナデ、下位へラグ割り、内面ハケナデ(6本)、高台ナデ。	淡茶色	3mm以下の 長石・安息 酸化物等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
2 九三	鉢 (墨質)	底 深	3.1	杯体部は欠損。底部は若干丸みがみられ、底部外側に断面方形の高台が付く。 底部内面に花形の刻印がみられる。 内外面凹凸ナデ。	乳緑色	精良。	良好	ロクロ左方 向。

第5調査区

第5調査区

遺物番号 同族番号	器種	出土 (cm)	地点 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 SD54	瓶 (瓦質)	II 径	14.4	半球形の体部で、口縁部端部は僅かに外張りして丸く終わる。底部は欠損。 外側ナデ、内面ヘラミガキ。	灰灰褐色	1mm以下の 砂粒を微量 含む。	良好	
2 SD55	杯 (土師質)	口 径	9.8	杯体部から外方に伸び、口縁部に至る。 端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面コナデ、体部外側ナデ・指彫痕、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の 長石・安息 酸化物等の 砂粒を微量 含む。	良好	
3 SD55	同上	口 径	11.0	上外方へ内溝する杯体部から僅かに屈曲した後、斜上方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面コナデ、体部外側ナデ・指彫痕、内面ナデ。	乳茶褐色	1mm以上の 雲母・長石 等の砂粒を 微量含む。	良好	
4 SD55	同上	口 径	11.3	上外方へ内溝する杯体部から僅かに屈曲した後、斜上方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面コナデ、体部外側ナデ・指彫痕、内面ナデ。	乳茶褐色	1mm以下の 雲母・長石 等の砂粒を 微量含む。	良好	
5 SD55	同上	口 径	13.5	上外方へ伸びる杯体部から僅かに屈曲した後、斜上方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面コナデ、体部外側ナデ・指彫痕、内面ナデ。	淡茶色	2mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	
6 SD55	瓶 (黑色土器)	口 径	12.9	半球形の体部から僅かに斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く、内側には円錐が造る。 底部は欠損。 外側陶耗の為輪郭不明瞭、内面ヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 黒灰色	精良。	良好	
7 SD55	同上	高	7.2	杯体部は欠損。底部は平らで、断面逆三角形の高台が付く。 底部外側ナデ、内面ヘナデ後ヘラミガキ。	外 乳茶灰色 内 黒色	0.5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
8 九三 SD56	同上	II 径 高 底 深	15.6 5.0 9.2	平らな底部から上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。断面逆三角形の高台が付く。 口縁部には四方に凹孔が穿かれている。 口縁部内外面コナデ、体部外側ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状線のヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 黑灰色	0.5mm以下の 長石・雲 母等の砂粒 を少量含む。	良好	

第7調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (m)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 (弥生式土器) 河川7	口径	17.6		口縁部は斜上方へ伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外側する面をもつ。体部は欠損。端部内部に円形浮文が施る。 外面彫状文、内面ヨコナデ。	淡水褐色	6mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
2 河川7	口径	23.6		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外側する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	3mm以下の 長石等の砂粒を少 量含む。	良好	
3 河川7	口上	底深	5.4	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ外反気味に伸びる。底部は突出気味の平底。 外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	2.5mm以下の 長石等の砂粒を少 量含む。	良好	

第8調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (m)	地点 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 (弥生式土器) 九三 SK 4	口径	11.7		口縁部は上方へ外反して伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部下面下位ハケナデ(3本)、他はヨコナデ。	淡茶褐色	0.5mm以下の 角閃石等の砂粒を多 量に含む。	良	
2 (弥生式土器) SK 4	口径 器高 底深 最大径	17.0 21.7 5.6 18.2		椭円形の体部から屈曲し、斜上方へ内凹気味に伸びる口縁部に至る。外面には枝が一条みられる端部は外側する面をもつ。底部は突出した半底。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側タキキ(3本)後ハケナデ(4本)、内面ヘラ削り、底部外面ナデ後指痕、底面ナデ。	淡茶褐色	2.5mm以下の 砂粒を多 量に含む。	良好	
3 SK 4	口上	口径	14.2	上外方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ内凹気味に伸びる口縁部に至る。端部は外側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	茶褐色	1.5mm以下の 長石等の 砂粒を多 量に含む。	良	
4 SK 4	高杯 (弥生式土器)	口径	17.4	上外方へ内向して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 内外側摩耗の為調整不明瞭。	茶褐色	3mm以下の 角閃石等の 砂粒を多 量に含む。	良	
5 九三 SK 4	口上	底深	14.8	杯部は欠損。脚部は下方へ伸びる柱状部から、外上方へ外反して伸びる端部に至る。端部は外側する面をもつ。端部に底に四方孔を有する。 外面ヘラミガキ、柱状部内面しほり日、底部内面ヨコナデ。	褐茶色	1.5mm以下の 角閃石等の 砂粒を多 量に含む。	良	

第9調査区

第9調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (cm)	底点 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
1 (弥生式土器)	壺 SK 5	II 極	28.0	口縁部は外上方へ伸び、腹部は下方へ垂れ下がり、外傾する面をもつ。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色～ 灰茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
2 (弥生式土器)	壺 SK 5	II 極	11.4	上方へ伸びる体部から屈曲し、外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。縁部は上に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 灰茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
3 (弥生式土器)	壺上 SK 5	II 極	13.0	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びるV字形に至る。縁部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 暗茶褐色 内 灰茶褐色	1mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
4 (弥生式土器)	壺上 SK 5	II 極	21.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。縁部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	3mm以下の 長石・石英 等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
5 (弥生式土器)	壺上 SK 5	II 極	26.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。体部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (5本)、内面ナデ。	外 灰茶褐色 内 淡茶褐色	4mm以下の 長石・石英 等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
6 (弥生式土器)	壺上 SK 5	II 極	15.2	上内方へ内反気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面摩耗の為調整不良現象。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英 等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
7 (弥生式土器)	取手付鉢 SK 5	II 極 底 蓋人形	47.4 8.0 50.2	半球形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。縁部は下方に若干垂れ下がり、外傾する面をもつ。底部は提出した痕み。体部外面上位に馬のひすみ状形を取る取手が付く。 内外面摩耗の為調整不良現象。	外 乳茶褐色 内 淡茶褐色	5mm以下の 長石・雲母 等の砂 粒を少量含 む。	良好	
八 (弥生式土器)	鉢 SK 5	底 SK 5	4.0	軒部は上外方へ内湾して伸びる。底部は上げ窓の底平。口縁部は欠損。 内外面ナデ。	外 灰茶褐色 内 淡茶褐色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
9 (弥生式土器)	器台 SK 5	底 SK 5	15.2	脚部上位以上は欠損。脚部下位は下外方へ外反して伸びる。縁部は丸い。 内外面ヨコナデ。	外 明茶褐色 内 乳茶褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を微量含 む。	良好	
10 (弥生式土器)	高杯 SK 5	口 極	28.0	杯底部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。縁部は下方に垂れ下がり、外側に面をもつ。体部の屈曲部外側には深い縦がある。杯底部以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
九四 (弥生式土器)	同上 SK 5	縫 極	17.0	外上方へ外反気味に伸びる軒部から屈曲し、上外方へ外反して伸びるV字形に至る。縁部は丸い。脚部は下外方へ外反気味に伸びる。縁部は丸い。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色～ 灰茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
11 (弥生式土器)	同上 SK 5	縫 極	26.5	軒部以下は欠損。平らな軒底部から肩出し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は下外方へ外反気味に伸びる。縁部は丸い。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 灰茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
12 (弥生式土器)	同上 SK 5	口 極	14.0	半球形の体部から口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は下外方へ外反気味に伸びる。縁部は丸い。 杯底内面摩耗の為調整不良現象。他はナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色～ 茶褐色	4mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
九四 (弥生式土器)	同上 SK 5	底 SK 5	10.5 7.0					

遺物番号 同版番号	器種	出土 (cm)	地點 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成性 考
14	盃 (弥生式土器)	口 径	16.6	口縁部は外方へ伸び、端部は上につまみ、外側に縞をもつ。縞部外回に1帯4本の波状文がある。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰 色 内 淡茶褐色	5mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含む。	良好
15	長盃形 (弥生式土器)	底 径	5.0	側扁な球形の体部から円錐形へと變じ、上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出した平底。口縁部内面・体部内面下位に1本ずつ縦合痕を有する。 外面ヘラミガキ、口縁部内面ナデ、底部内面ヘラナダ。	淡灰褐色	5mm以下の 長石・石英等の 砂粒を少量含む。	良好
九四		SK 8	最大径	17.3			
16	盃 (弥生式土器)	口 径	22.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外側に面をもつ3本の比較が並ぶ。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	0.5 mm以下の の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好
17	河上	底 径	6.2	体部上位以上は欠損。上方へ外反気味に伸びる部分に、突出したやや尖った平底。 内外面ナデ。	外 茶赤色 内 茶灰色	4mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好
	SK 8						
18	同上	底 径	4.6	体部上位以上は欠損。上方へ伸びる。底部は突出した上げ底の平底。 内外面摩耗の為調査不分明。	淡灰褐色	3mm以下の 長石・石英・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好
	SK 8						
19	同上	底 径	4.9	体部上位以上は欠損。上方へ伸びる体部に、突出した平底。 外面ヘラミガキ、内面ヘラナダ、底面ナゲ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好
	SK 8						
20	鉢 (弥生式土器)	口 径	8.8	上方へ内溝して伸びる杯体部から屈曲し、斜上方へ矧ぐ伸びる端部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	茶褐色	2mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好
	SK 8						
21	同上	底 径	7.0	杯体部以上は欠損。端部は杯底部から外下方へ外反して近く伸びる。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡灰褐色	3mm以下の 石英・長石・ 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好
	SK 8						
22	器台 (弥生式土器)			受部・脚部下位は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。脚部位に四方孔を有する。 脚部外側上位に凹線、キザミ日を施す。 内外面ナデ。	淡茶褐色	4mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好
九四	SK 8						
23	高杯 (弥生式土器)	口 径	18.0	外上方へ伸びる杯体部から屈曲し、上方外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好
	SK 8						
24	同上	底 径	13.9	杯部口縁部は欠損。杯底部は外上方へ伸びる。脚部は下外方へ外反気味に伸びた後、下位でやや大きめに外反して開く。端部は丸い。脚部に四方孔を有する。 杯部内外面・脚部外側磨耗の為調査不明感、 内底上位くりぬき、内面下位ナデ。	褐茶色	1mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良
	SK 8						
25	同上	口 径	15.4	上方へ内溝して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 外側磨耗の為調査不明感、内面ナデ。	淡茶褐色	0.5 mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良
	SK 8						

遺物番号 開拓番号	器種	出土 地點 (m)	形態・調整等の特徴	色 調	断 面	焼 成	備 考
26 九四	高杯 (弥生式土器)	底 径 7.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後、下位で大きく外反して傾く。端部は丸い。脚部に三方孔を有する。 内外面ナダ。	淡茶灰色	2mm以下の 長石・長 石等の砂粒 を多量に含む。	良好	
27 九四	壺 (弥生式土器)	II 径 23.5	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲し、外上方へ強く伸びる。肩部は下方に崩れ下がり、外 輪する面をもつ。腹部外面には3本の沈窓があり、円形浮文等付く。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	灰茶色	4mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	
28 九四	壺 (弥生式土器)	口 径 18.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 外反気味に伸びる脚部に至る。脚部は外擴 する面をもつ。体部は欠損。体部上位に内面に 1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ (8本)、内面ナダ。	灰茶色	4mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
29 S K12	同上	口 径 13.7	上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸 びる口縁部に至る。脚部は外擴する面をもつ。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、指 原模、内面ナダ。	外 乳灰色 内 淡茶褐色	2mm以下の 長石・雲母 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
30 S K12	鉢 (弥生式土器)	底 径 3.1	杯部上位は欠損。体部は斜上方へ内凹気味 に伸びる。底部には下方へ強く伸びる脚部 が付く。 外面指押え、内面ヘラナデ、底面ナデ。	茶灰色	3mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 多量に含む。	良好	
31 S K12	高杯 (弥生式土器)	口 径 23.1	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は 外擴する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 外表面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 黒灰色	3mm以下の 長石・雲母 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
32 S D70	壺 (弥生式土器)	底 径 4.4	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ伸び る。底部は突出した平底。 外表面ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶褐色 内 黑褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含む	良好	内面に炭化 物付着。
S D70							
33 S D71	同上	底 径 5.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内凹 気味に伸びる。底部は突出した平底。 内外面ナダ。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	2mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
S D71							
34 S D71	同上	底 径 4.2	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内凹 して伸びる。底部は突出しない平底。 内外面ナデ。	外 明茶褐色 内 淡茶褐色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含む。	良好	
S D71							
35 S D71	壺 (弥生式土器)	II 径 20.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外 方に肥厚し、丸い。口縁部・体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	4mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
S D71							
36 S D71	同上	II 径 22.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
S D71							
37 S D71	同上	口 径 14.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ 伸びる口縁部に至る。端部は外擴する面をも つ。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外側ヨコナデ、内面ヘ ラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
S D71							

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	成備考
38 (発生式土器) SD71	甕 底径	3.8		体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出したやや上に平底の平底。 内外面ナナ。	乳茶灰色	2mm以下の 長石等の砂粒を少 量含む。	良好
39 SD71	円上	底径	4.8	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出した平底。 内外面ナナ。	外 淡茶灰色 内 淡墨褐色	3mm以下の 長石・右英 角閃石等の 砂粒を少 量含む。	良好
40 (発生式土器) SD71	口徑	12.6		杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる。端部は外傾する面をもつ。杯底部以下は欠損。 外表面ヨコナナ。内面黒色の為調整不鮮明。	淡茶褐色	2mm以下の 雲母・長石 等の砂粒を 多量含む。	良好
41 SD71	同上	底径	9.8	杯部は欠損。脚部は下内方へ伸び、下位で大きく外反して伸びる。端部は丸い。脚部上位に三方に孔を有する。 内外面ナナ。	淡茶褐色	2mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好
42 SD71	同上	底径	12.0	脚部上位以上は欠損。脚部は外下方へ外反して開く。端部は外傾する面をもつ。 内外面ヨコナナ。	淡茶褐色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少 量含む。	良好
43 SD71	同上	底径	11.8	脚部上位以上は欠損。脚部は外下方へ外反気味に開く。端部は下位へつまり、外側に面をもつ。 外表面ナナ、内面ハケナナ(8本)。	外 乳茶灰色 内 暗茶褐色	1mm以下の 雲母・長石 石英等の砂粒 を少 量含む。	良好
44 (発生式土器) SD73	口徑	15.8		口縁部は外上方へ伸び、端部はやや上につまり、外傾する面をもつ。口縁部下位以下は欠損。端部外側にヘラキザミを施し、円形浮文が付く。 内外面ヨコナナ。	淡茶色	2mm以下の 長石・石英 等の砂粒を 少 量含む。	良好
45 SD73	同上	口徑	29.8	口縁部は外方へ外反して伸び、端部は上につまつ。外傾する面をもつ。端部外側には1等6本の波状文があり、円形浮文が付く。内面には帯10本の波状文がある。 外表面ヨコナナ、内面ヨコナナ。	乳灰褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・雲母等の 砂粒を少 量含む。	良好
46 SD73	同上	口徑	15.6	口縁部は上方へ外反して長く伸びる。端部は上位に厚唇し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 端部外側ヨコナナ。口縁部内外面ハケナナ(外2本・内4本)。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量含 む。	良好
47 (発生式土器) SD73	甕 底径	2.6		杯底上位以上は欠損。体部は上外方へ内の 気味に伸びる。底部は突出した平底と思われる。 内外面ナナ。	外 黑色 内 茶灰色	2mm以下の 長石・水銀 色酸化鉄・ 雲母等の砂 粒を少 量含む。	外 面に黒薔 薇有。
48 SD73	同上	底径	4.0	杯部上位は欠損。体部は上外方へ内溝して 伸びる。底部は突出した平底と思われる。 内外面ナナ。	外 黑色 内 淡茶褐色	4mm以下の 長石・石英・ 雲母等の砂 粒を少 量含む。	良
49 九五 SD77	甕 (土器器)	口徑	15.8	上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に並ぶ。端部はやや上 につまつ。外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナナ。内面ハケナナ(5本)、 体部外側タタキ(5本)、内面ハケナナ。	淡茶褐色	1mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少 量含む。	良好

遺物番号 図版番号	器種	出土 (m)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
50 九五	長颈壺 (弥生式土器) SD78	口 径 12.8 最大径 14.4		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に長く伸びる) 端部に丸る。端部は外方に傾斜し、上に両をもつ。底部は欠損。 口縁部内面に1本の接合痕を有する。 内外面ヨコナギ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
51 九五	甕 (弥生式土器) SD78	口 径 12.8 最大径 14.4		腹径を上位にもつ卵形の体部から緩やかに屈曲し、頭上方向へ外反して伸びる口縁部に 亘る。端部は外延する両をもつ。底部は欠損。 口縁部外側ヨコナギ。体部外側ハケナデ (5本) 後ヨコナギ、内面ナギ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	1mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 多量に含む。	良好	体部外側中 位以下に墨 付着。
52 九五	甕上 SD78	底 径 6.0		体部は欠損。底部は突出したやや上り直気 味の平底。 外側タッキ、内面ナギ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
53 SD78	有孔甕 (弥生式土器)	底 径 4.8		体部は欠損。底部は突出した平底。底面中央には圓孔が穿かれている。 外側タッキ後ヨコナギ、内面摩耗の為調整不明確。	外 淡茶褐色 内 明茶褐色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含む。	良好	
54 SD79	盆 (弥生式土器)	口 径 22.4		口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は下方へ膨脹して外側する両をもつ。端部外側に円形竹管弦文が並ぶ。口縁部以下は欠損。 内外面ヨコナギ。	淡茶褐色	1mm以下の 角閃石・雲 母・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	
55 SD79	同上	底 径 8.6		体部上位以上は欠損。体部は外上方へ内湾 して伸びる。底部は突出した深み底。 内外面ナギ。	淡茶灰色	4mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
56 SD79	高杯 (弥生式土器)	縦 径 19.0		外上方へ伸びる折底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。屈曲部外側には外下方へ垂れ下がる後がある。 内外面ナギ。	乳茶灰褐色	5mm以下の 長石・石英 等の砂粒を 少量含む。	良好	
57 九五	無縁甕 (弥生式土器) 包含層	口 径 13.0 最大径 21.6		偏平な体部から屈曲し、上方へぐく高く伸 びる円錐部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部には円孔が穿かれている。 外側ナギ、内面ナギ・側腹底。	淡茶褐色	2mm以下の 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
58 包含層	甕 (弥生式土器)	口 径 20.4		口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は外側に両をもち、外側に円形の弦文が付く。 口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナギ。	茶褐色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良好	
59 包含層	同上	口 径 24.0		口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は外側に両をもち、外側に円形浮文が付く。口 縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナギ。	淡茶褐色～ 茶赤色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良好	
60 九五	同上 包含層	口 径 9.4 器 高 17.0 底 径 4.8 最大径 13.5		偏平な球形の体部から屈曲し、上方へ外反 して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部 は突出しない平底。窓部外側にヘラキザミを 施す。 口縁部外側ハケナデ(4本) 後ヨコナギ、 内面ヨコナギ、体部内外面ナギ。	淡茶褐色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む	良好	完形。
61 包含層	同上	口 径 9.6		口縁部は上方外反して伸び、端部は丸い。 体部は欠損。内面に1本の接合痕を有する。 外側摩耗の為調整不明確、内面ナギ。	外 淡茶褐色 内 乳茶色	4mm以下の砂 粒を多量に 含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 標高	形態・調査等の特徴	色調	新土	焼成	備考
62 (弥生式上器)	口径	14.0		LII縫部は上方へ外反して伸び、端部は丸い。 体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(10本)。	淡茶褐色	0.5 mm以下の 長石・ 瓦石・チャート等の 砂粒を多量に 含む。	良	
	包含層							
63 九五	口上	無	14.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上方へ外反して伸びる口縫部による。口縫部 端部及び体部中位以下は欠損。 LII縫部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内 面ヨコナデの為調整不明瞭。	外 内 淡茶褐色	8 mm以下の 長石・石英 角閃石等の 砂粒を多量に 含む。	良好	
	包含層							
64 九五	口上	口径	12.2	口縫部は上外方へ外反して伸び、端部は外 傾する面をもつ。体部は欠損。 外側、内側上位ヨコナデ、下位ヘラナデ。	淡茶褐色	3 mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の 砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							
65 九五	口上	口径	15.0	LII縫部は上外方へ伸びた後、緩やかに屈曲 して斜上方へ短く伸びる。端部は外傾する 面をもつ。体部は欠損。 外面ヘラナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	3 mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の 砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							
66 九五	蓋 (弥生式上器)	口径	16.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ 外反気味に伸びる口縫部による。端部は外傾 する面をもつ。体部は欠損。 LII縫部内外面ハケナデ(9本)後ヨコナデ、 内面ヨコナデ。体部内外面ヘラナデ。	淡茶褐色	7 mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の 砂粒を多量に 含む。	良好	
	包含層							
67 九五	鉢 (弥生式上器)	口径	13.4	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上 外方へ外反して伸びる口縫部による。端部は 丸い。体部下位は欠損。 LII縫部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	2 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
	包含層							
68 九五	甕 (弥生式上器)	口径	14.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縫部による。端部は 丸い。体部下位は欠損。 LII縫部内外面ヨコナデ、体部外面塵絶の為 調整不明瞭、内面ナデ。	茶褐色	4.5 mm以下の 長石・雲 母等の砂 粒を多量に 含む。	良	
	包含層							
69 九五	壺 (弥生式土器)	底径 最大径	4.7 11.3	口縫部は欠損。体部は偏平な球形である。 底部は突出しない平底。体部内面に2本の接合部を有する。 外温度差の為調整不明瞭、内面上位指ナデ、 下位ナデ。	外 内 淡灰褐色 茶褐色 灰褐色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良	体部外側下位に黒斑有。
	包含層							
70 九五	口上	底径	5.4	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾 して伸びる。底部は突出した平底。 底部内面ヘラナデ、他はナデ。	外 内 淡茶褐色 乳灰茶褐色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	体部外側中 位に黒斑有。
	包含層							
71 九五	口上	底径	4.8	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸び る。底部は突出した球形。 内外面ナデ。	淡茶褐色	5 mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
	包含層							
72 九五	口上	底径	5.2	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾 して伸びる。底部は突出した球形。 外温度差の為調整不明瞭、内面ヘラナデ、 底面ナデ。	外 内 茶褐色 淡茶褐色	4 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
	包含層							
73 九五	口上	底径	4.6	体部上位以上は欠損。体部は偏平な球形と 思われる。底部は突出した平底。 外温度差の為調整不明瞭、内面ナデ。	外 内 茶褐色 暗灰茶褐色	4 mm以下の 長石・角閃石・ 雲母等の砂 粒を多量に 含む。	良好	体部内面下 位に炭化物 付着。
	包含層							

遺物番号 部版番号	器種	出土 (cm)	地點 標高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74 (弥生式土器)	壺 包含層	底径 底 最大径	4.1	体部上部以上は欠損。体部は上方へ内側して伸びる。底部は突出しない平底。外縁へラミガキ、内面へラナダ、底面ナダ。	外 基褐色 内 乳白色	5.5 mm以下の 長石・基 母等の砂粒 を少量含む。	良	外面に焼付 着。
75	同上	底径 底 最大径	5.6 38.5	口縁部は欠損。体部は最大径をやや上位にもつ環形である。底部は突出した浅い突起底。体部外面上位へラミガキ、中位以下摩耗の為縁部小凹窪、内面へラナダ。	淡茶褐色	3 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
九六	包含層							
76 (弥生式土器)	口径 器高 底径	6.2 11.8 5.8		上位に張りをもつ体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は丸い。底部は突出したあげ底。体部内面に2本の俊合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タキ後 ハナダ、内面指痕後ハナダ。	外 刷茶灰 色 内 茶褐色	4 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良好	
九六	包含層							
77	同上	口径 器高 底径	16.4 16.5 4.4	上位に張りをもつ体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上方へ短く伸びる口縁部に至る。底部は丸い。底部は突出した上げ底。体部内面に1本を接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側上位屈曲の為調査不明瞭、中位以下タタキ（4本）、内面に上位指ナダ、中位以下ハラナダ、底部外側指痕底。	褐色	7 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良	内面に焼付 着。
九六	包含層							
78	同上	口径 器高 底径 最大径	12.6 4.6 15.6	円筒形の体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹をもつ。底部は突出したあげ底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側面ナダ。	外 淡茶褐色 内 乳白色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	体部外側中 位に焼付石。 体部内面下位に炭化物 付着。
	包含層							
79	同上	口径 器高 底径 最大径	13.4 18.6 4.8 15.0	最大径を上位にもつ环形の体部から屈曲し、上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出した平底。体部外側中位に1本、内面に上位に2本の俊合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タキ（4本）後ナダ、内面に上位指ナダ、底部ナダ。	基褐色	4 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良	体部外側下 位に焼付石。
	包含層							
80	同上	口径	14.8	上方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	外 淡茶灰 色 内 淡茶褐色	2 mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							
81	同上	口径	13.6	上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タキ（3本）、内面ナダ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色 - 淡 灰茶色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
	包含層							
82	同上	口径 器高 底径 最大径	16.2 21.8 6.0 16.2	楕円形の体部から屈曲し、上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。底部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側牽耗の為調査不明瞭。	外 淡茶褐色 内 暗灰茶色	7 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に含 む。	良好	
九六	包含層							
83	同上	LJ径	16.4	上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タキ（2本）、内面ナダ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	3 mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
	包含層							
84	同上	口径	14.4	上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に凹をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側牽耗の為調査不明瞭。	褐色	0.5 mm以下の 砂粒を多 量に含む。	良	
	包含層							

遺物番号 回収番号	器種	出土 場所 (cm)	地點 標高	形態・調整等の特徴	色調	鉱土	成 分	備 考
85 九六	甕 (弥生式土器)	口 径	16.6	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側する面をもつ。体部中位以下は欠損。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ(4本)、内面ナデ]。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰褐色	6mm以下の 長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
86	同上 包含層	底 径	5.4	[口縁部は欠損。体部は最大径を上位にもつ。底部は突出したややあげ度。体部外側タタキ(3本)、内面・底部外側ナデ]。	外 暗茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
87	同上 包含層	底 径	6.0	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出した平底。底面には葉脈筋がみられる。 [外側タタキ(3本)、内面ナデ]。	外 乳黃茶色 内 淡茶褐色	4.5mm以下の 長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
88 九六	同上 包含層	口 径	20.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部中位以下は欠損。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ(3本)、内面ヘラ削り]。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰褐色	3mm以下の 長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
89 九六	同上 包含層	口 径	17.6	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部中位以下は欠損。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ(4本)、内面上位ナデ、中位ナデ]。	外 明茶褐色 内 乳茶色	4mm以下の 長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に 焼付着。
90	同上 包含層	口 径	14.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は丸い。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ(6本)、内面ナデ]。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰褐色	3mm以下の 長石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面 に焼付着。
91 九二	同上 包含層	口 径	20.4	上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。外側に面をもつ。体部は丸い。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側ナデ、内面ヘラナデ]。	褐茶色	3mm以下の 紫雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
92 九三	同上 包含層	口 径	12.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。外側に面をもつ。体部は丸い。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側ハケナデ(7本)、後ナデ、内面ヘラナデ]。	外 暗茶褐色 内 淡茶灰褐色	0.5mm以下の 石英等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面 に焼付着。
93 九四	同上 包含層	口 径	17.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。外側に面をもつ。体部は丸い。 [内面ヨコナゲ]。	褐褐色	3mm以下の 角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
94 九五	同上 包含層	口 径	15.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びて後屈曲して上外方へ凹く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は丸い。 [口縁部内外面ヨコナゲ、体部外側ハケナデ(7本)、後ナデ、内面ヘラナデ]。	淡茶灰褐色	6mm以下の 角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
95 九六	同上 包含層	口 径	16.4	上内方へ内溝して伸びる体部から、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚し、外側する面をもつ。底部は欠損。 [端部外側ヨコナゲ、口縁部・体部外側ハケナデ(7本)、後ナデ、内面ヘラナデ]。	乳茶灰褐色	4mm以下の 長石等の砂粒を少量含む。	良好	
96 九六	杯 (弥生式土器)	口 径	10.2	断面じ字形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。	外 暗茶褐色 内 淡茶褐色	2mm以下の 長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	体部内面下 に炭化物 付着。

遺物番号 出版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎上	造成	備考
97 (発生式土器) 包含層	鉢	底 径	4.6	体部上位には欠損。脚部は上方外へ内側して伸びる。底部は突出した底み底。口縁部は欠損。体部内面に1本を接合軸を有する。	外 成茶灰 色 内 明茶褐色	4mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
98 包含層	円上	底 径	4.0	半球形の体部から底曲し、洞上方へ伸びる 口縁部に丸る。脚部は欠損。底部は突出した 上げ面。体部外側に2本の接合軸を有する。 体部外面ナデ、内面下位ハケナダ(104) 中位以下マクナダ。底部外面強度膜。	外 淡茶灰 色 内 暗茶灰 色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良好	外面上に擦付 着。
99 包含層	有孔鉢 (発生式土器) 器裏	口 径	18.6	断面V半形の体部から口縁部に至る。端部 付近でやや内側し、丸く終わる。底部はやや 突出した平底。底面中央には円孔が穿かれて いる。 内外面ナデ。	成茶灰色	2mm以下の 長石・雲母 角閃石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
九七 包含層	器内 (発生式土器) 包含層	口 径	12.9	受部は外上方へ伸び、端部は外側に面をも つ。脚部は欠損。 内外面ヨコナダ。	外 成茶褐色 内 暗茶灰色	5mm以下の 長石・石英 等の砂粒を 少量含む。	良好	
100 包含層	高杯 (発生式土器) 包含層	口 径	13.6	浅いV字形の受部から口縁部に至る。端部 は丸い。底部には穿孔がみられる。脚部は欠 損。 外面上ハミガキ?、内面摩耗の為調整小明 原。	外 乳白色 内 淡茶色～淡 褐色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を多量に含 む。	良	口縁部外面上 位に擦付 着。
102 包含層	器台 (発生式土器)	底 径	18.0	脚部上位以上は欠損。脚部は下外方へ伸び た後外方へ反して開く。端部は丸い。脚部 には三方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	成茶褐色	2mm以下の 長石・雲母 角閃石等の 砂粒を多量 に含む。	良好	器台内面下位に 擦付着。
103 九七 包含層	円上	底 径	14.2	受部は欠損。脚部は下内方へ伸びる柱状部 から屈曲し、上方へ大きく開く指形にする。 端部は丸い。脚部には三方孔が2段に穿かれ ている。端部面にはキザミ目が施されている。	淡茶褐色～ 淡灰茶色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
104 九七 包含層	円上			受部と脚部は欠損。柱状部は下方へ伸び た後上方に屈曲し、斜上方へ反して開く。 端部は丸い。屈曲部外側には上方へ突出する 穿孔がみられる。脚部上位には三方孔が穿かれて いる。屈曲部外側にキザミ目を施す。 内外面摩耗の為調査不明確。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
105 九七 包含層	円上	底 径	16.8	受部と柱状部は欠損。脚部は外下方へ伸び た後上方に屈曲し、斜上方へ反して開く。 端部は丸い。屈曲部外側には上方へ突出する 穿孔がみられる。脚部上位には三方孔が穿かれて いる。屈曲部外側にキザミ目を施す。 内外面摩耗の為調査不明確。	淡褐色	5mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	脚部外側に 擦付着。
106 九七 包含層	高杯 (発生式土器)	口 横	30.2	外上方へ外反気味に伸びる柱状部から屈曲 し、上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。脚部は下外方へ伸び、端部付近で外 反する。端部は丸い。脚部には三方孔が穿かれて いる。 口縫部外側ヨコナダ、柱状部外側ナデ、柱 状部外側ハミガキ、根部外側・脚部内面ナ デ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	6mm以下の 長石・角閃 石・石英等 の砂粒を多 量に含む。	良好	完形。
107 包含層	円上	口 径	21.4	杯底部から屈曲し、上方外へ伸びる口縁部 に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナダ。	淡茶褐色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	
108 包含層	円上	口 径	17.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上方外 へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側 する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナダ。	外 乳茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 地点 (cm)	高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
109 (先生式上着) 包含層	口 梨	20.8		杯部は上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外張する頭をもつ。杯底部・脚部は欠損。 外側摩耗の為調整不規則、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	4mm以下の 長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
110 同上	口 梨	19.4		外上方へ伸びる口縁部から屈し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 脚部は下方へ外反気味に伸び、端部付近で外力で崩く。頭部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、杯底部・脚部外側ヘラミガキ、杯底部内面摩耗の為調整小明瞭、脚部内面に上位しまり日、ト位ハケナデ(10本)。	乳白色～茶 橙色	3.5mm以下の 長石・石英 角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
九七 包含層	LJ 梨	17.0 11.8	13.6	半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 LJ縁部内外面ヨコナデ、杯底部外側ナデ。	外 淡茶灰 色 内 淡灰褐色	3mm以下の 長石・石英 等の砂粒を少 量含む。	良好	
111 包含層	LJ 径	16.0		杯部は上方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 LJ縁部内外面ヨコナデ、杯底部外側ナデ。	暗茶褐色	1.5mm以下の 角閃石等の 砂粒を少 量含む。	良好	
112 包含層	口 径	15.0		杯部は上方へ内凹して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ナデ。	外 暗茶褐色 内 淡茶灰 色	2mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
113 包含層	口 径	15.6 8.2 6.0	15.6	浅い半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 端部は下方へ内凹する。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好	
114 九七 包含層	口 径	15.6 8.2 6.0	15.6	浅い半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下方へ内凹する。端部は丸い。 外側摩耗の為調整不規則、杯底部内面ハケナデ(10本)、脚部内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好	
115 包含層	底 径	7.6		脚部は欠損。脚部は下方へ伸びた後、端部付近で外上方へ開く。端部は外張する頭をもつ。 外側ナデ、内面くりぬき。	茶褐色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を多 量に含む。	良好	
116 包含層	底 径	7.4		脚部は欠損。脚部は下方へ外反気味に開く。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好	
117 九七 包含層	底 径	8.8		脚部は欠損。脚部は下方へ外反して開く。 端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
118 九七 包含層	底 径	9.0		脚部は欠損。脚部は下方へ外反して開く。 端部は丸い。脚部には三方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	3mm以下の 長石・石英 等の砂粒を少 量含む。	良好	
119 九八 包含層	底 径	7.0		脚部は欠損。脚部は下方へ伸び、端部付近で外下方へ外反して開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好	
120 包含層	底 径	12.6		脚部は欠損。脚部は下方へ外反して伸び、端部付近で外方へ大きく開く。端部は丸い。 脚部には四方孔が穿かれている。 内外面剥離の為調整不規則。	明茶色	1.5mm以下の 長石等の砂 粒を多量に含む。	良	
121 九八 包含層	底 梨	17.2		脚部は欠損。脚部は下方へ外反して大きく開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面摩耗の為調整小明瞭。	外 乳茶赤 色 内 淡灰褐色	4mm以下の 長石等の砂 粒を多量に含む。	良	

第10調査区

第10調査区

遺物番号 回収番号	部 様	出土 (m)	地點 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1 11 (発生式上器) SP11	縫	11.径 15.6		内上方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に生る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナギ、体部外面タタキ(4本)、内面牽引の為調整不明確。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	7mm以下の 長石・石英等 の砂粒を 少量含む。	良好	口縫部外面に 焼付着。
	縫 (発生式土器) 包含層	口 径 12.8		口縫部は外上方へ外反して伸びた後屈曲し、上方へ短く伸びる。端部は丸い。底部は欠損。口縫部外面上位には焼付文が認められる。内面ヨコナギ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英等 の砂粒を 少量含む。	良好	
3 九八 包含層	同上	口 径 12.8 器 高 23.2 底 径 4.9 最大径 21.3		球形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後外上方へ外反して伸びる後縫部に生る。端部は丸い。底部は突出した瘤み状。体部内外面下位に1本ずつの接合痕を有する。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面上位へラミガキ、内面ナギ。	外 茶褐色 内 茶褐色 —淡茶褐色	4mm以下の 長石・石英等 の砂粒を多量 に含む。	良好	完形。 体部外面中位に瘤み状。
	同上	口 径 18.2		口縫部は上方へ外反して伸び、端部は上下に膨脹し、外側に歯をもつ。体部は欠損。 端部外面ヨコナギ、口縫部外面ラミガキ、内面ナギ。	茶褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
5 九八 包含層	同上	口 径 23.0 最大径 28.2		楕円形の体部から屈曲し、上方へ外反して伸び。端部は下方に垂れ下がり、外側に歯をもつ。底部は欠損。 体部内外面下位に1本の接合痕を有し、端部外側・頭部外面に円形骨質圧文が認められる。口縫部内外面ヨコナギ、体部外面ラミガキ、内面上位指ナギ、中位以下ナギ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	6mm以下の 長石・角閃石・石英等 の砂粒を多量 に含む。	良好	体部外面中位に 焼付着。
	縫 (発生式土器) 包含層	口 径 26.0		口縫部は外上方へ伸びた後屈曲し、上方へ外反して伸びる。端部はつまみ上げ、外側に歯をもつ。底部は欠損。 口縫部外面に1帯3本・内面に1帯2本・口縫部外面に1帯5本及び6本の波状文と、端部外面・口縫部外面の2カ所に円形浮文が認められる。内面ヨコナギ、内面ラミガキ。 外面部ヨコナギ、内面ラミガキ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英等 の砂粒を多量 に含む。	良好	内面に焼付 着。
7 九八 包含層	同上	口 径 24.8		口縫部は上方へ伸び、端部は外傾する歯をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	外 茶褐色 内 茶褐色	5mm以下の 長石・角閃石等 の砂粒を多量 に含む。	良好	
	同上	口 径 14.7		口縫部は上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナギ。	淡茶褐色	2.5mm以下の 茶褐色等の 砂粒を多量 に含む。	良好	
9 九八 包含層	縫 (上部器)	口 径 19.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に生る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	5mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	
	同上	口 径 5.0		体部上位以上は欠損。体部は上方へ内凹して伸びる。底部は突出した平底。 体部外面タタキ(4本)、内面ナギ、底部外面ヨコナギ。	淡茶褐色	1mm以下の 長石・石英等 の砂粒を少量含 む。	良好	底部内面に 炭化物付着。
11 九八 包含層	同上	底 径 4.6		体部上位以上は欠損。体部は上方へ内凹して伸びる。底部は突出した平底。 体部外面タタキ(4本)、内面ナギ、底部外面ヨコナギ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃石等 の砂粒を多量 に含む。	良好	体部外面に 焼付着。

遺物番号 回収番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	器 (土器部) 包含層	11 位	15.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上る。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を 多量に含む。	良好	外面に焼付 着。
13	同上 包含層	12 位	16.2	口縁部は「外方へ外反気味」に伸び、端部は上につまみ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 内 淡茶灰 色	4mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
14	同上 包含層	口 横	15.4	「内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ つまみ上る」。体部中位以下は欠損。 「口縁部外側ヨコナデ」、体部外側タタキ(4 本)、内面ヘク削り。	褐茶色	1.5mm以下 の角閃石・ 雲母・長石等 の砂粒を多量に 含む。	良好	
九九	包含層	口 横	15.8	「内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾す る面をもつ。体部は欠損。 「口縁部外側ヨコナデ」、体部外側タタキ(4 本)、後ハナナデ(7本)、内面ヘラナナデ。	淡茶灰色	2mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	口縁部外側 に焼付着。
九九	包含層	口 横	15.8	「内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾す る面をもつ。体部は欠損。 「口縁部外側タタキ後ヨコナデ」、内面ヨコナ デ、体部内面ヘク削り。	淡茶灰色	1.5mm以下 の長石等の 砂粒を多量に 含む。	良好	
16	同上 包含層	口 位	14.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部は内方に肥厚 する。体部は欠損。 「口縁部外側タタキ後ヨコナデ」、内面ヨコナ デ、体部内面ヘク削り。	暗茶褐色	1.5mm以下 の長石等の 砂粒を多量に 含む。	良好	外面に焼付 着。
17	同上 包含層	口 横	14.4	「口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上 に長くつまみ、外側に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ」。	外 内 淡茶褐色 暗茶褐色	4mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
18	鉢 (土器部) 包含層	底 横	3.2	杯部上位は欠損。杯部は上外方へ内湾して 伸びる。底部は突出気味の平底。 「外側タタキ 3本」、内面ヘラナナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 雲母・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	
19	同上 包含層	口 横	16.8	「上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外 傾する面をもつ。底部は欠損。 体部内面ナデ、他はヨコナデ」。	外 内 淡茶灰 色 淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を 多量に含む。	良好	
九九	包含層	口 位	21.0	「上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ短く外反して伸びる」口縁部に至る。 端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。体部 内面上位に「本の接合痕」を有する。 内外面ナデ。	淡茶褐色	5mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
21	同上 包含層	口 位	18.4	「上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 外上方へ短く伸びる」口縁部に至る。端部は丸 い。底部は欠損。 体部内面ナデ、他はヨコナデ。	乳茶褐色	2mm以下の 長石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
22	同上 包含層	11 位	16.6	上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内 湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部下位は欠損。 「口縁部内面ヨコナデ」、体部外側剥離の為 調整不明跡、内面ナナデ。	外 内 茶褐色 淡茶褐色	4mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良	
23	高杯 (舟牛式十器)	11 位	27.8	「上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方 へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 端部は欠損。 内外面ヨコナデ」。	外 内 乳灰茶 色 乳茶色	2mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							

第10調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (m)	地点 基高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
24 包含層	高杯 (張生式土器)	口 径 21.2		杯部は斜上方へ伸びた後屈曲して、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外折する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、杯底部外面ヘラミガキ。内側ナダ。	灰褐色	3.5 mm以下の 長石・角 閃石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	口縁部外面 に焼付着。
25 包含層	同上	口 径 22.0		杯部は斜上方へ伸びた後屈曲して、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外折する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナダ。	外 乳茶 色 内 淡墨灰 色	1 mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	
26 包含層	同上	口 径 24.0		外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内外方に肥厚し、外折する面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、杯底部外面ヘラミガキ。	乳茶灰色	3.5 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	
27 包含層	同上 (上部器)	口 径 23.6		平らな杯底部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面剥離の為調査不分明。	淡灰褐色	4 mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良好	
28 包含層	杯盤 (須恵器)	口 径 15.0		I (縁部は外下方へ内凹して伸び、端部は下方につまみ上げる。天井部は欠損。 内外面ヨコナダ。	乳灰青色	2 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。

第5章 第13次調査

第1節 調査の概要

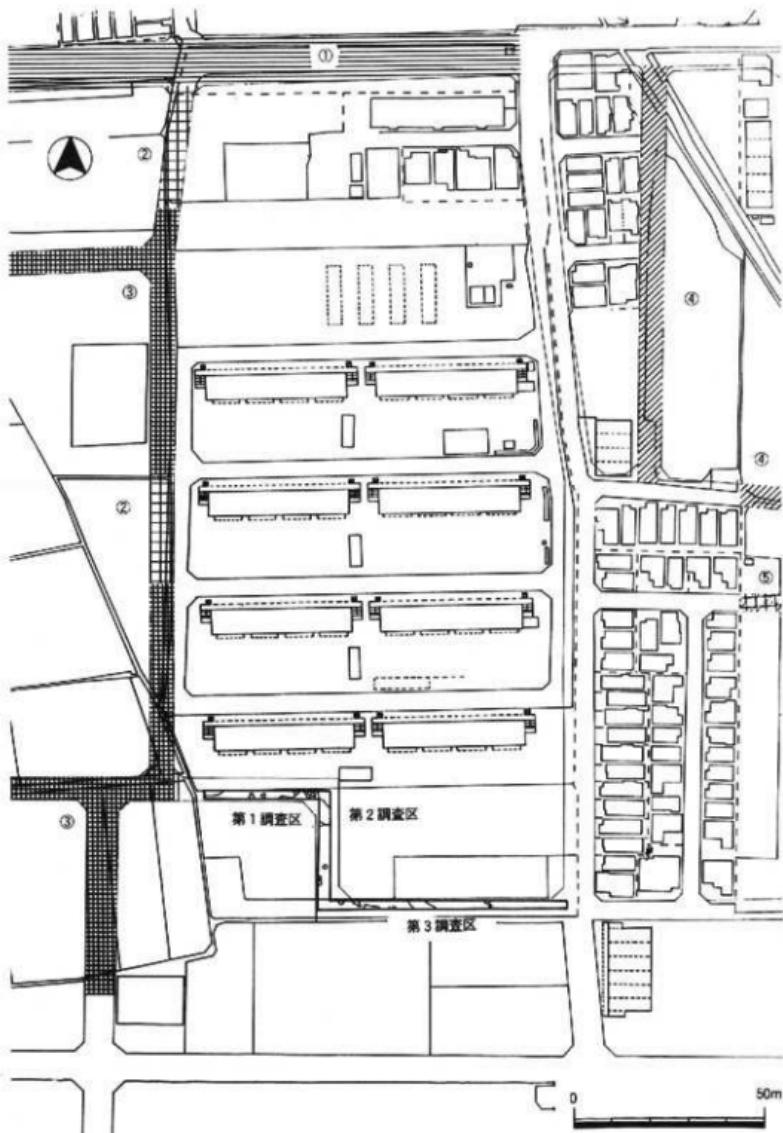
今回の発掘調査は、八尾都市整備事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、昭和57年度から当調査研究会が継続して実施している。この調査は、当調査研究会が当遺跡内で実施した第13次調査に当たる（第210図）。

調査地は、当遺跡範囲内の南部に位置する区画街路予定地（28号線の東部）に当たる部分で、この道路予定地内の中央に幅2.5mのトレンチ（調査区）を設定して調査した。総調査面積は約320m²を測る。この調査区は屈曲しており、西部に設定した東西方向に伸びるトレンチ（長さ33m）を第1調査区、その第1調査区の東端部から南方に伸びる南北トレンチ（長さ29m）を第2調査区とし、さらに第2調査区の南端部から東方に伸びる東西トレンチ（長さ60m）を第3調査区とした。なお、第2調査区では西側沿いに幅約1mの拡張調査を実施した。

掘削に際しては、既往調査の結果を参考にし、現地表下0.3～0.5m前後迄の土層を機械で掘削を実施し、以下0.4～0.5mまでの土層を人力で掘削とした。地区割は、既往調査で実施した基準線を使用した。

凡　　例（第212図）

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 第1次調査地（昭和57年度） | ④ 第10次調査地（昭和62年度） |
| ② 第3次調査地（昭和58年度） | ⑤ 第16次調査地（昭和63年度） |
| ③ 第4次調査地（昭和59年度） | |



第210図 造構配置図

第2節 調査の結果

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）・古墳時代中期・平安時代・鎌倉時代～室町時代・近世の概ね6時期の遺構を検出した。遺物では、弥生時代後期から近世に至る土器（弥生式土器・土師器・須恵器）・石製品・木製品などが出土した。出土量は、コンテナ箱にして約25箱分を数える。以下、基本層序と各調査区ごとについて記す。

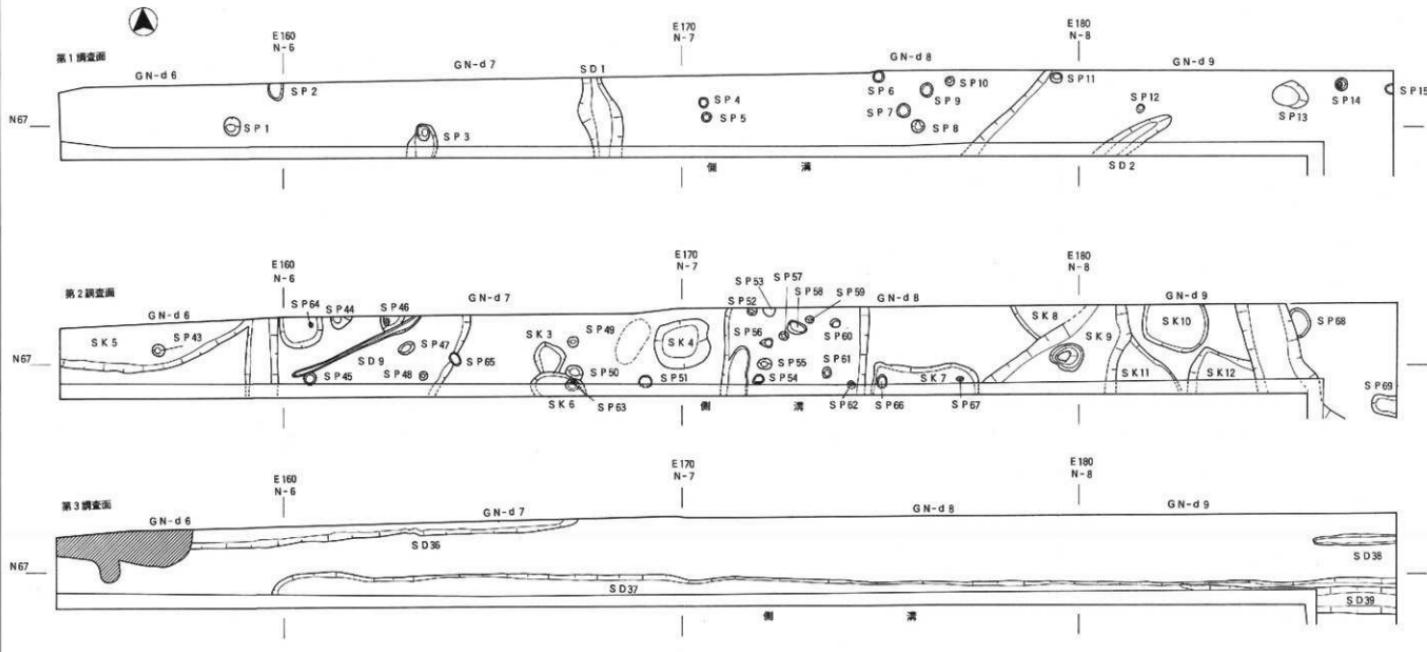
I 基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5mに存在する土層内から普遍的にみられる9層を基本層序とした（第211図）。以下、各土層について記す。

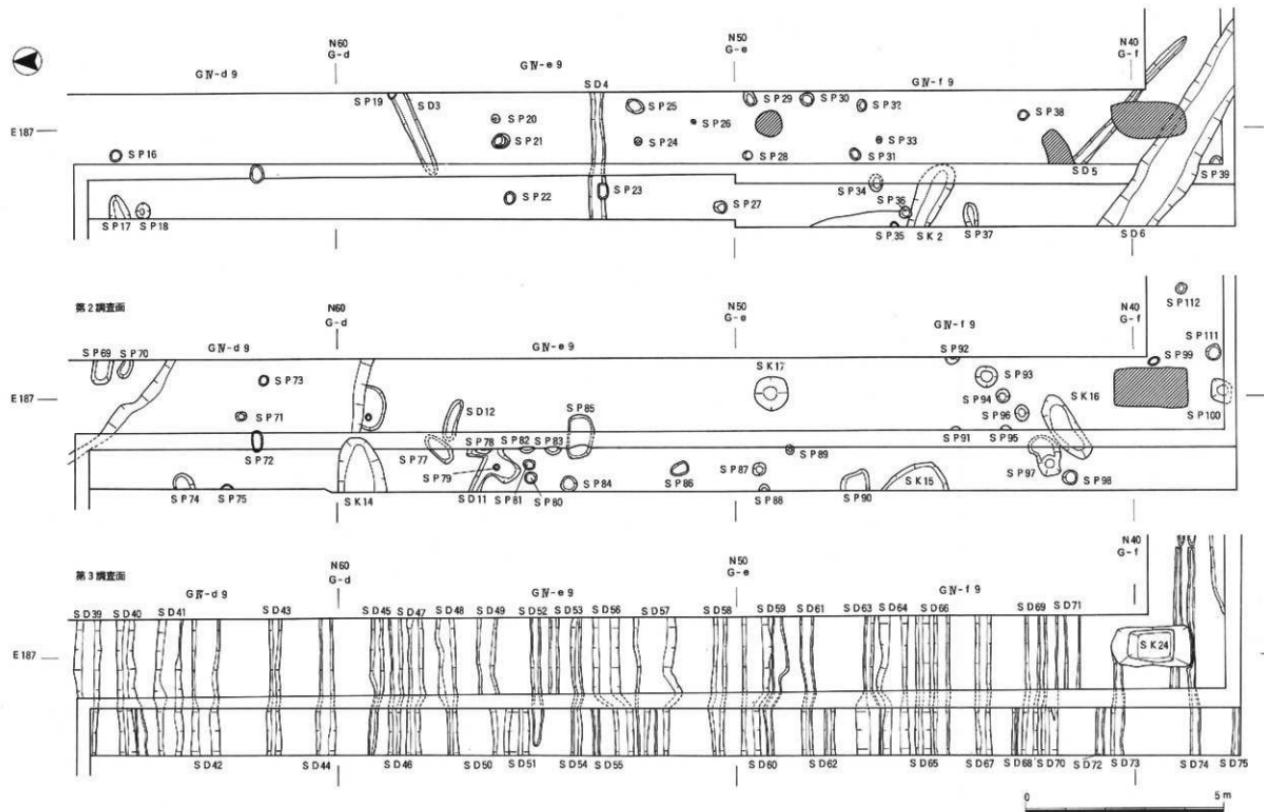
- 第1層 耕土：層厚20～25cm。調査前までの畑の耕作土であった。
- 第2層 淡灰褐色シルト（第1・2調査区）～淡褐灰色シルト（第3調査区）：層厚20～28cm。耕土の床土である。
- 第3層 乳灰茶色シルト：層厚10～15cm。第1・2調査区で存在する土層で、第3調査区では存在しない。
- 第4層 淡灰茶色シルト：層厚4cm。この上面には耕作に関連する近世の溝が切り込まれている。この土層も第3層と同様、第3調査区では存在しない。
- 第5層 淡灰色細砂混シルト：層厚20～25cm。土層内から古墳時代中期に比定される土器を中心とした遺物が出土しており、この時期の包含層と考えられるが、第3調査区では出土していない。また、上面（標高8.5m）では耕作に関連する鎌倉時代ごろの鋤溝・畝溝などの溝が東西・南北方向に切り込まれている。



第211図 基本層序柱状図 (S=1/40)



0 5 m



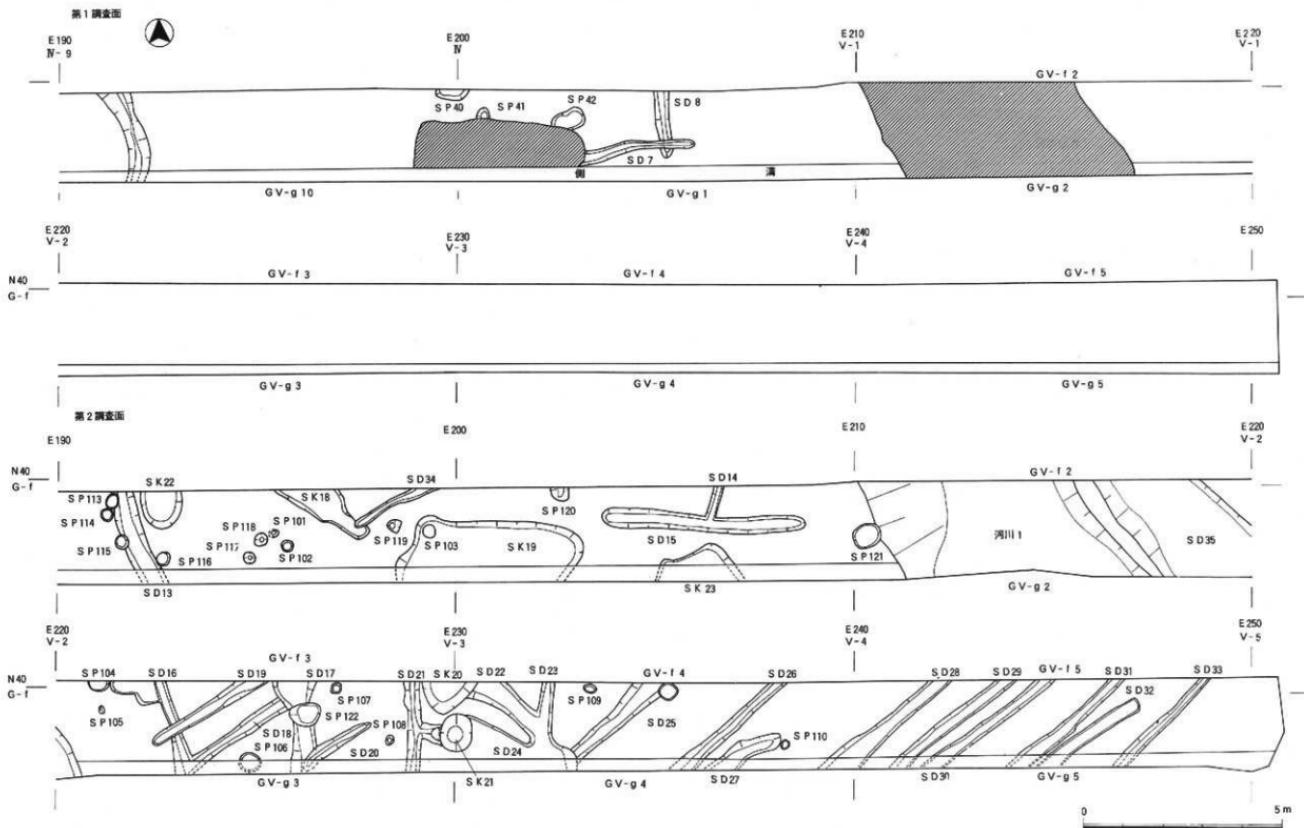
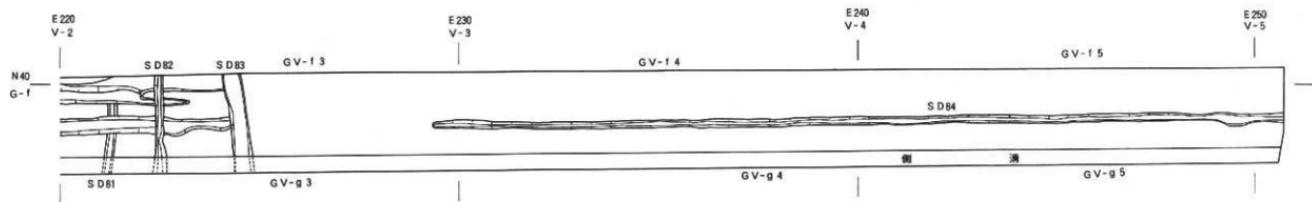
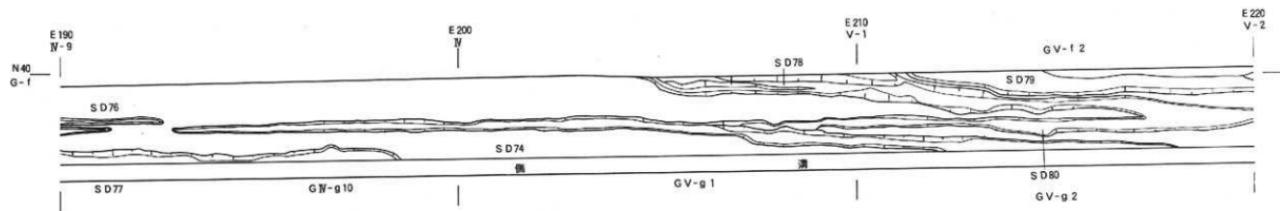


図214 第3調査区地構造面図

A



第215図 第3調査区地盤平面図2

- 第6層 暗茶灰色細砂混シルト：層厚15~20cm。土層内から古墳時代前期に比定される遺物が出土しており、上面（標高8.3m）では古墳時代中期に比定される遺構が切り込まれている。
- 第7層 灰色粗砂：層厚5cm。3~5mmの砂粒が主であるが、1~3cmぐらいの丸みのある小石が少量含まれる。西側だけの堆積で、東側の第3調査区では検出していない。
- 第8層 淡灰茶色シルト～淡褐灰色シルト：層厚20~25cm。上面（標高8.0m）から弥生時代後期（畿内第V様式）～古墳時代初頭（庄内式古相）の遺構が切り込まれている。
- 第9層 淡灰茶色粘土：層厚20cm以上。やや粘性がある。

II 第1調査区

最も東側に設定した東西に長い調査区（幅2.5m×長さ33m）である。調査区の東部では、既往調査（昭和58年度第3次調査）で実施しており、古墳時代前期から鎌倉時代に至る遺構が検出されている。特に古墳時代前期の遺構が密に存在していることが明らかになっている。

当調査区では、第5層上面（第3調査面）・第6層上面（第2調査面）・第8層上面（第1調査面）の3面を調査面とした。その結果、第1調査面では、弥生時代後期～古墳時代前期に比定される小穴15個（S P 1～S P 15）・溝2条（S D 1・S D 2）を検出した。第2調査面では、古墳時代前期に比定される土坑2基（S K 3・S K 4）・小穴19個（S P 43～S P 60・S P 68）・土器集積（S W 1）、古墳時代中期に比定される土坑8基（S K 5～S K 12）・小穴7個（S P 61～S P 67）・溝2条（S D 9～S D 10）を検出した。第3調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される溝3条（S D 36～S D 38）を検出した。これらの溝は農耕に関連するもので、すべて東西方向に伸びている（第212図）。

遺構に伴わないものとしては、第5層内から古墳時代中期に比定される土器（土師器・須恵器）などを中心とする破片、第6層内からは古墳時代前期に比定される土師器を中心とする破片がコンテナ箱にして約5箱分を出土している。以下、各調査区について記す。

1) 第1調査面（弥生時代後期から古墳時代前期）

小穴（S P）

S P 1～S P 15

第1調査区から15個の小穴を検出した。平面の形状には円形のもの9個、橢円形のもの3個、不明のもの3個がある。小穴の規模はS P 3（径73cm）・S P 13（径68~88cm）を除いて、径20~47cmを測る小さいものがほとんどである。断面の形状には、U字形（8個）と逆台形（4個）逆凸形（3個）がある。堆積土は、暗灰色細砂混シルトである。以下、各小穴の法量などは第21表に記す。

第21表 小穴 (SP) 一覧表

* 単位: cm

選択番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SP 1	GIV-e 6	梢円形	U字形	40~47	50	暗灰色細砂混シルト	
SP 2	GIV-e 6	-----	逆台形	36	12	暗灰色細砂混シルト	
SP 3	GIV-e 7	-----	逆凸形	73	22	灰褐色シルト	柱痕有り。
SP 4	GIV-e 8	円形	U字形	26	22	暗灰色細砂混シルト	
SP 5	GIV-e 8	円形	U字形	24	24	暗灰色細砂混シルト	
SP 6	GIV-e 8	円形	U字形	28	23	暗灰色細砂混シルト	
SP 7	GIV-e 8	円形	U字形	34	25	暗灰色細砂混シルト	
SP 8	GIV-e 8	円形	U字形	33	34	暗灰色細砂混シルト	
SP 9	GIV-e 8	円形	U字形	32	48	暗灰色細砂混シルト	
SP 10	GIV-e 8	円形	U字形	20	24	暗灰色細砂混シルト	
SP 11	GIV-e 8	梢円形	逆台形	23~30	10	暗灰色細砂混シルト	
SP 12	GIV-e 9	円形	逆台形	29	15	暗灰色細砂混シルト	
SP 13	GIV-e 9	梢円形	逆台形	68~88	45	暗灰色細砂混シルト	
SP 14	GIV-e 9	円形	逆凸形	30	11	暗灰色細砂混シルト	柱痕有り。
SP 15	GIV-e 9	-----	逆凸形	23	16	暗灰色細砂混シルト	

溝 (SD)

SD 1

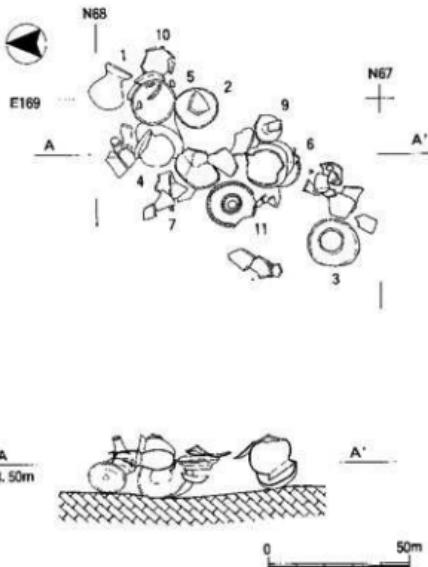
GIV-d 7 |Xで検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.47~1.08m、深さ13cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、灰色粗砂である。遺物は出土していない。

2) 第2調査面

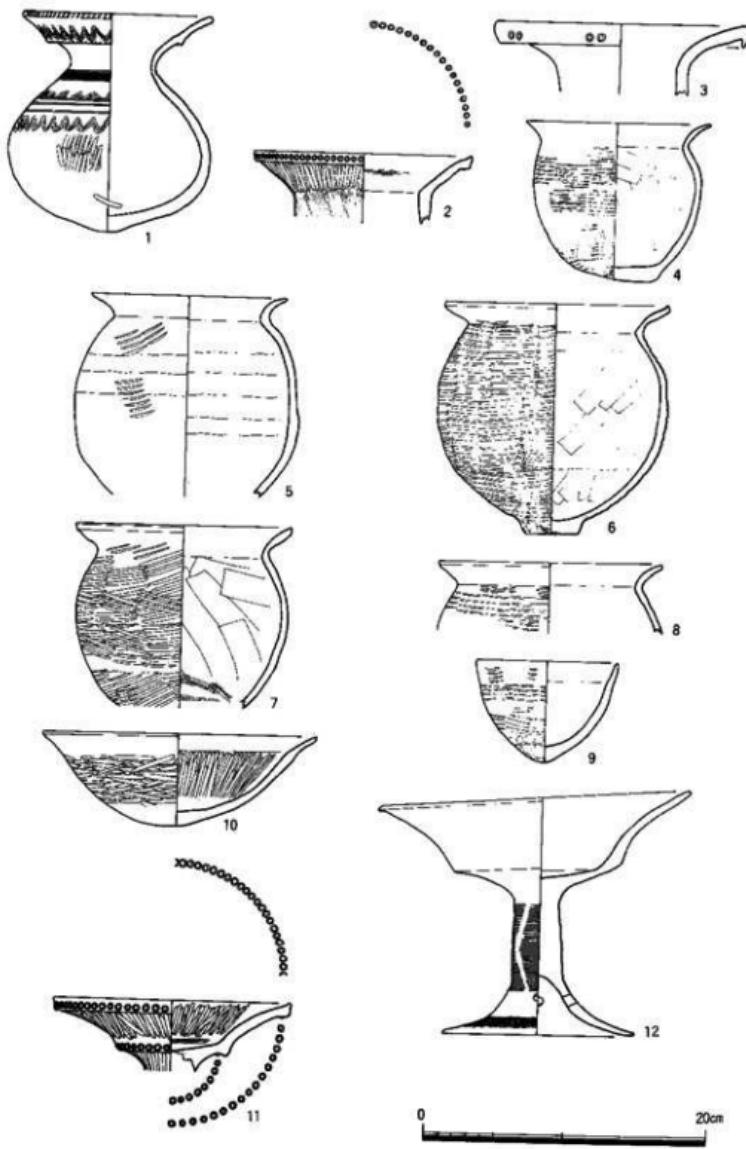
土器集積 (SW)

SW 1

GIV-d 7 |Xの東部で検出した土器集積である。基本層序では第6層上面（標高8.4m）にあたり、圓形の形状がなく、土器を置いたような状況で埋没していた。集積した土器の平面形状は、南西-南東方向に長い梢円形で、長径1.2m、短径0.6mを測る（第216図）。土器の時期は、庄内式古



第216図 SW 1 平面図



第217図 SW 1 出土遺物実測図

相に比定されるものである。個体数は、15個を数え、器種別の比率は、壺5.5：壺2：鉢1.5：器台0.5：高杯0.5の割合である。壺(1～3)・V様式系壺(4～8)・鉢(9・10)・器台(11)・高杯(12)である(第217図)。

土坑(SK)

SK 3

G IV-d 7区で検出した。南部はSK 6に切られている。平面は、椭円形を呈するであろう。規模は検出部で、東西0.8m、南北0.7m以上、深さ8cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 4

G IV-d 7・d 8区で検出した土坑である。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.4m、南北1.15m、深さ13cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代前期(庄内式古相)に比定される土師器の壺・壺など小片がごく少量出土している(第218図)。

SK 5

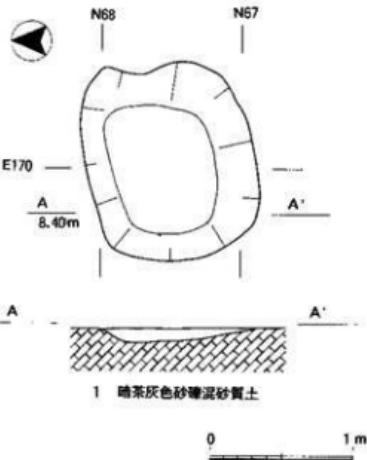
G IV-d 6区で検出した。西・北部ともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西4.76m、南北1.24m、深さ23cmを測る。堆積土は、暗茶褐色粗砂混砂質土・淡茶灰色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 6

G IV-d 7区で検出した。北部はSK 3を切り、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.34m、南北0.6m、深さ10cmを測る。堆積土は、黒褐色シルトである。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 7

G IV-d 8区で検出した。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.58m、南北0.85m、深さ6cmを測る。堆積土は、淡茶灰色細砂である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。



第218図 SK 4平面図

SK 8

G IV-d 8区で検出した。南部はSK 9に切られ、北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.45m以上、南北0.75m以上、深さ8cmを測る。堆積土は、黒灰色シルトである。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 9

G IV-d 8・d 9区で検出した。SK 8・SK 11を切り、南・北部ともに調査区外に至る。規模は検出部で、東西4.1m、南北1.9m、深さ16cmを測る。堆積土は、黒灰色細砂・暗灰褐色粗砂混シルトである。遺物は、内部から弥生時代後期に比定される壺(13)・鉢(14)と、古墳時代中期に比定される土師器(15)が出土している(第219図)。

SK 10

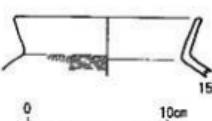
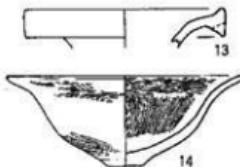
G IV-d 9区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7m、南北1.9m、深さ6cmを測る。堆積土は、淡茶灰色細砂混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 11

G IV-d 9区で検出した。西部はSK 9に切られ、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7m、南北1.2m、深さ15cmを測る。堆積土は、茶灰色細砂混シルトの1層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 12

G IV-d 9区で検出した。東部はSD 10に切られ、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7m以上、南北1m以上、深さ19cmを測る。堆積土は、茶灰色細砂・暗灰茶色砂疊混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。



第219図 SK 9出土遺物実測図

小穴 (S P)

S P 43~S P 68

第2調査面から26個を検出した。平面の形状には、円形を呈するもの12個、楕円形を呈するもの6個、逆台形を呈するもの1個、不定形を呈するもの2個、不明のもの5個がある。規模は検出部で、大きいもの50~84cm、小さいもの10~43cmを測る。断面はS P 58の楕円形、S P 64の逆凸形を除き、すべて逆台形を呈する。堆積土は暗灰色シルトと黒茶灰色細砂混シルトの2種類に分かれる。遺物は、ごく一部の小穴内部から土師器の小片がごく少量出土している。以下、各小穴の法量などについては第22表に記す。

第22表 小穴 (S P) 一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P 43	G N - d 6	円形	逆台形	30	26	黒灰色シルト	
S P 44	G N - d 7	——	逆台形	53	11	黒灰色シルト	
S P 45	G N - d 7	円形	逆台形	30	10	黒灰色シルト	
S P 46	G N - d 7	不定形	逆台形	35	11	黒灰色シルト	
S P 47	G N - d 7	楕円形	逆台形	28~45	5	黒灰色シルト	
S P 48	G N - d 7	円形	逆台形	20	23	黒灰色シルト	
S P 49	G N - d 7	円形	逆台形	25	9	黒灰色シルト	
S P 50	G N - d 7	不定形	逆台形	43	10	黒灰色シルト	
S P 51	G N - d 7	円形	逆台形	34	11	黒灰色シルト	
S P 52	G N - d 8	——	逆台形	24	8	黒灰色シルト	
S P 53	G N - d 8	——	逆台形	30	28	黒灰色シルト	
S P 54	G N - d 8	楕円形	逆台形	23~28	9	黒灰色シルト	
S P 55	G N - d 8	楕円形	逆台形	28~35	30	黒灰色シルト	
S P 56	G N - d 8	楕円形	逆台形	21~33	8	黒灰色シルト	
S P 57	G N - d 8	円形	逆台形	23	10	黒灰色シルト	
S P 58	G N - d 8	逆台形	楕円形	33~50	14	黒灰色シルト	
S P 59	G N - d 8	円形	逆台形	20	21	黒灰色シルト	
S P 60	G N - d 8	円形	逆台形	23	25	黒灰色シルト	
S P 61	G N - d 8	楕円形	逆台形	27	32	黒灰色シルト	
S P 62	G N - d 8	円形	逆台形	20	18	黒灰色シルト	
S P 63	G N - d 7	円形	逆台形	10	9	黒灰色シルト	
S P 64	G N - d 7	——	逆凸形	84	25	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 65	G N - d 7	楕円形	逆台形	24~34	15	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 66	G N - d 8	円形	逆台形	26	21	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 67	G N - d 8	円形	逆台形	18	7	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 68	G N - d 9	——	逆台形	73	8	暗茶灰色細砂混シルト	

溝 (SD)

SD 36~39

4条を検出した。方向は、すべて東西方向を示す。これらの溝は耕作に関連する鋸溝・畝溝で、古墳時代中期の包含層（第5層）を切り込んでいる。規模は検出部で、幅40~90cm、深さ8~12cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、乳灰褐色粘質シルト又は明淡灰色シルトの単一層である。遺物は出土していない。以下、各溝の法量などについては第23表に記す。

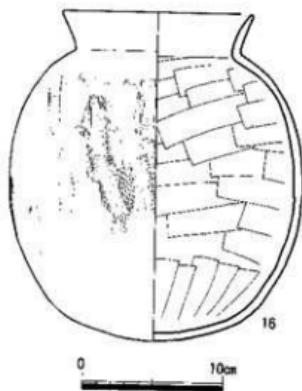
第23表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

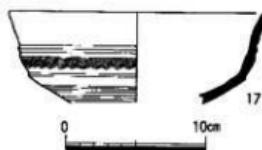
遺構番号	地区	方 向	断面形	様	深さ	堆 積 土	備 考
SD 36	GIV-d 6 -d 7	東-西	逆台形	40以上	8	乳灰褐色粘質シルト	
SD 37	GIV-d 6 -d 9	東-西	逆台形	90以上	10	明淡灰色シルト (粗砂を少量含む)	
SD 38	GIV-d 9	東-西	逆台形	13~24	12	乳灰褐色粘質シルト	
SD 39	GIV-d 9	東-西	逆台形	68	12	明淡灰色シルト (粗砂を少量含む)	

3) 遺構に伴わない出土遺物

第5・6層から出土している。出土量はコンテナ箱にして約1箱分である。時期は、弥生時代後期から古墳時代中期に比定されるものである。図示できたものについて記す(第224・225図)。古墳時代前期に比定されるものは、壺(21)・V様式系甕(23~30)・庄内式甕(31~34)・布留式甕(35)鉢(43~48)・高杯(49~52)である。古墳時代中期に比定されるものは、土師器の甕(36~42)・高杯(49~52)須恵器の杯壺(53~57)・坏身(58・59)・高杯(60~62)・壺(63・64)である。



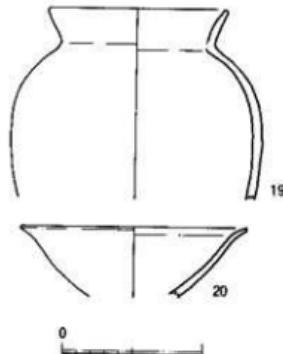
第220图 SP 68出土遗物实测图



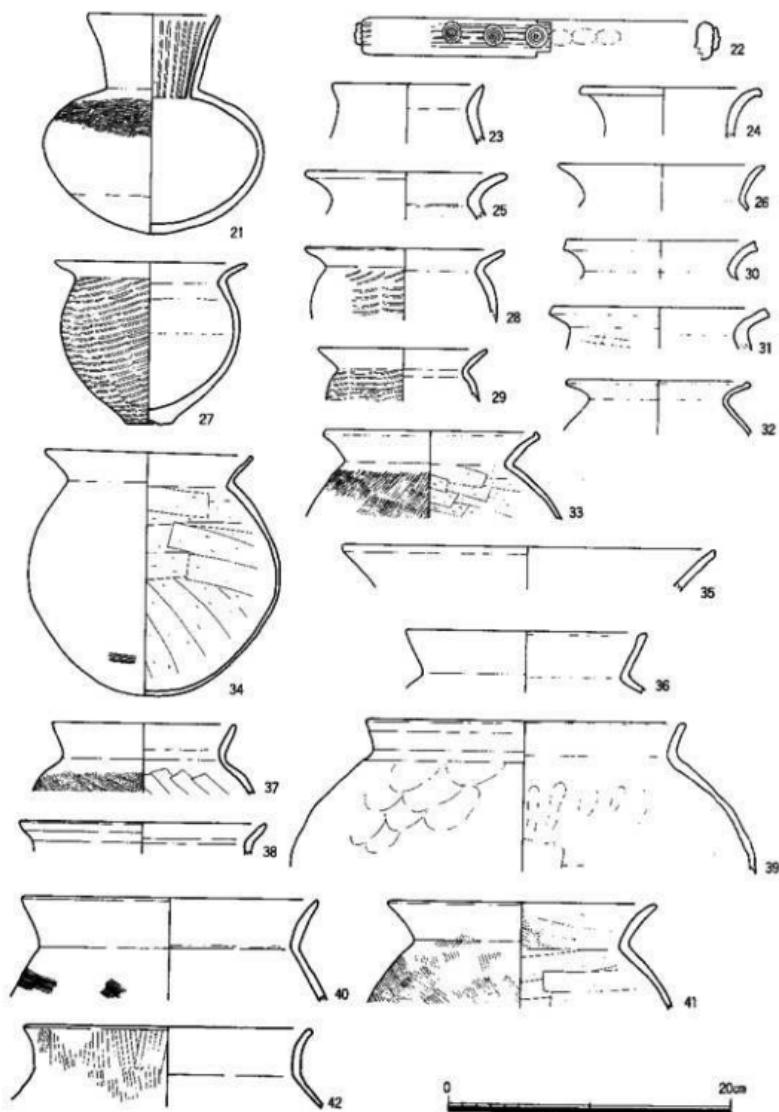
第221图 SD 9出土遗物实测图



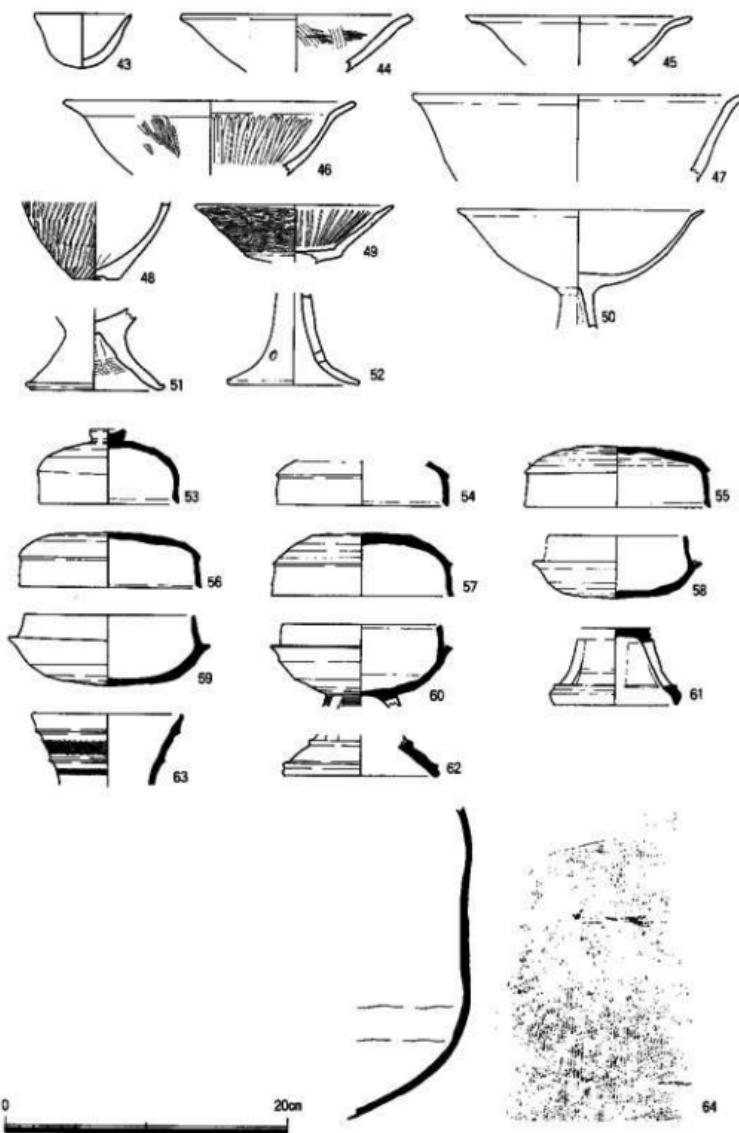
第222图 SP 10出土遗物实测图



第223图 SD 10出土遗物实测图



第224図 通構に伴わない出土遺物実測図1



第225図 道柄に伴わない出土遺物実測図2

III 第2調査区

当調査区は、第1調査区の東端部から南方へ延びる南北に長い調査区(長さ33m)である。この調査区では、西側に約1mの拡張を実施し、幅3.5mとなる。調査面積は115.5m²を測る。第4層(第3調査面)・第5層(第2調査面)・第6層(第1調査面)の上面の3面を調査対象面とした(第213図)。その結果、第1調査面では、弥生時代後期に比定される溝1条(S D 6)、古墳時代前期に比定される土坑2基(S K 1・S K 2)・小穴24個(S P 16~S P 39)・溝3条(S D 3~S D 5)を検出した。第2調査面では、古墳時代中期に比定される土坑4基(S K 13~S K 16)・小穴32個(S P 69~S P 100)・溝1条(S D 11・12)、平安時代中期に比定される土坑1基(S K 17)を検出した。第3調査面では、鎌倉時代~江戸時代に比定される土坑1基(S K 18)・溝32条(S D 39~S D 75)を検出した。以下、各調査区ごとの遺構について記す。

1) 第1調査面(弥生時代後期~古墳時代前期)

土坑(S K)

S K 1

G IV-f 9区の拡張部で検出した。南部はS K 2・S P 35・S P 36に切られ、西部は調査区外に至るため、全容の形状は不明である。規模は検出部で、東西0.4m、南北2.2m、深さ14cmを測る。堆積土は、暗茶灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

S K 2

G IV-f 9区で検出した。S K 1を切り、S P 36に切られ、西部は調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2m、南北0.8m、深さ10cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から庄内式中相に比定される庄内式壺などの小片がごく少量出土している。

小穴(S P)

S P 16~S P 39

当調査区で24個を検出した。平面の形状は、円形を呈するもの12個、梢円形を呈するもの7個、長方形のもの1個、不明のもの4個がある。規模は検出部で、径15~52cm、深さ10~38cmを測る。断面は、U字形及び逆凸形・逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部からほとんど出土していないが、若干の小穴内から土師器の小片がごく少量出土している。



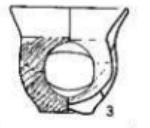
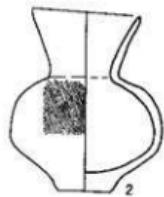
第226図 S P 34出土遺物実測図

く少量出土している。遺物を出土している小穴で図示できたものについて記す。SP 34が庄内式壺(1)、SP 39が小型壺(2)、鉢(3)である(第226・227図)。これらの小穴であるが、住居に伴う柱穴と考えられるものが半数以上見られる。しかし、査区の面積が狭く、限定された調査区であり、規則性をもって配列するものをみいだすには至らなかった。以下、個々の小穴の法量などについては第21表に記す。

溝(S D)

SD 3

GN-e 9 区で検出した。方向は東西を主軸とした東から北へ35°を示し、西部は途切れ、東部は調査区外に至る。



第227図 SP 39出土遺物実測図

* 単位: cm

第24表 小穴 (SP) - 観表

遺構番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深 さ	堆 積 土	備 考
SP 16	GN-d 9	椭円形	逆凸形	33	25	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 17	GN-d 9	——	連台形	15以上	15	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 18	GN-d 9	円 形	連台形	37-46	23	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 19	GN-e 9	——	逆台形	20	10	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 20	GN-e 9	円 形	逆凸形	21	15	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 21	GN-e 9	円 形	逆凸形	36-48	26	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 22	GN-e 9	円 形	逆凸形	28-32	22	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 23	GN-e 9	椭円形	逆凸形	25-40	8	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 24	GN-e 9	円 形	U字形	20	9	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 25	GN-e 9	椭円形	U字形	33-42	30	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 26	GN-e 9	円 形	逆凸形	26	31	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 27	GN-e 9	椭円形	U字形	30-35	14	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 28	GN-f 9	椭円形	U字形	24	22	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 29	GN-f 9	長方形	U字形	28-42	34	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 30	GN-f 9	円 形	逆凸形	36	19	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 31	GN-f 9	円 形	逆凸形	28-33	27	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 32	GN-f 9	椭円形	U字形	24-31	16	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 33	GN-f 9	円 形	U字形	15	14	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 34	GN-f 9	円 形	混合形	37	12	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 35	GN-f 9	——	U字形	28	38	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 36	GN-f 9	椭円形	U字形	30	24	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 37	GN-f 9	——	U字形	52	20	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 38	GN-f 9	円 形	U字形	28	27	暗灰褐色細砂混シルト	
SP 39	GN-f 9	円 形	U字形	30	4	暗灰褐色細砂混シルト	

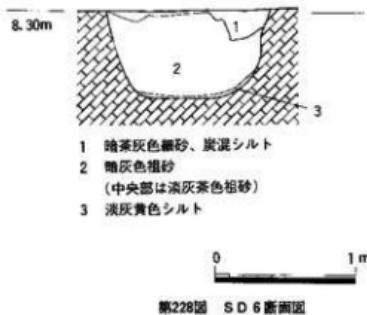
規模は検出部で、幅40cm、深さ14cmを測る。断面は半円形を呈する。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粗砂混シルトである。遺物は出土していない。

SD 4

G IV-e 9区で検出した。方向は東西方向を示し、東西とともに調査区外に居たる。規模は検出部で、幅40cm、深さ14cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粗砂混シルトである。遺物は出土していない。

SD 5

G IV-f 9区で検出した。方向は南東-北西方向を示す。南東部は第3調査区に至り、途切れ、北東部は擾乱で切られている。規模は検出部で、幅24cm、深さ5-7cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗褐灰色粘質土の1層である。遺物は出土していない。



SD 6

G IV-f 9区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.2m、深さ62cmを測る。断面はU字形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルト・暗灰茶色粗砂（中央部は淡灰茶色粗砂）・淡灰黄色シルトの3層に分かれる（第228図）。遺物は、内

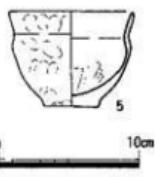
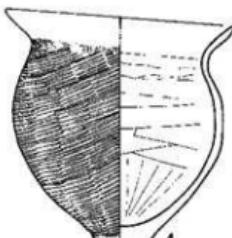
部から弥生時代後期（畿内第V様式）に比定される
甕（4）、鉢（5）などの小片がごく少量出土して
いる（第229図）。

2) 第2調査面（古墳時代中期・平安時代中期）

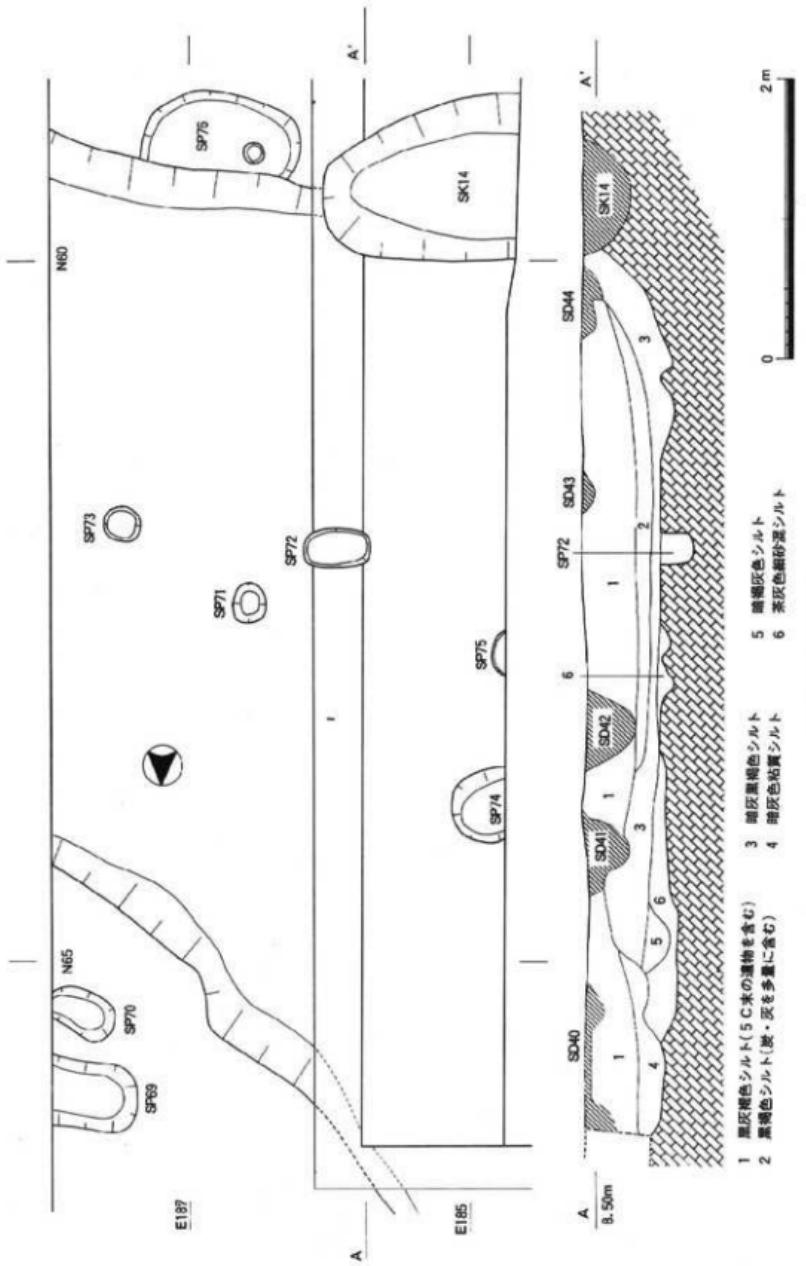
土坑（SK）

SK13

G IV-d 9区で検出した土坑で、東西ともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。南部ではSK14に切られ、SP76を切り、北部ではSD10が合流している関係にある。規模は検出部で、東西3.5m以上、南北6.6m以上、深さ27cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には黒灰色シルト（土器を多

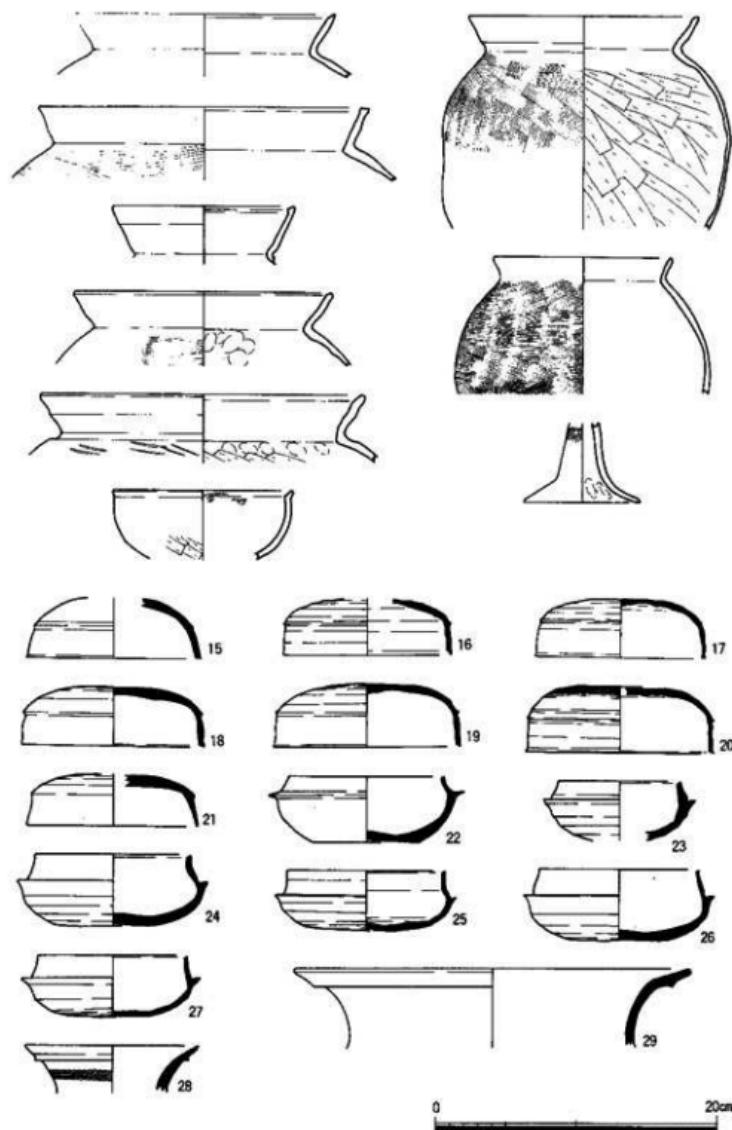


第229図 SD 6出土遺物実測図

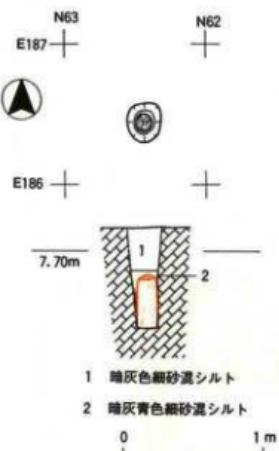


第200図 SK13平面図

- 1 黒灰褐色シルト(5°C未の遺物を含む)
2 黑褐色シルト(炭・灰を多量に含む)
3 淡灰黒褐色シルト
4 淡灰色粘質シルト
5 淡灰褐色シルト
6 淡灰色細砂泥シルト



第231図 SK 13出土遺物実測図 2



第232図 SP 72平面断面図

く含む)・黒褐色シルト(炭・灰を多量に含む)・暗灰黒褐色シルト・暗灰色粘質シルト・暗褐灰色シルト・茶灰色細砂混シルトが堆積している(第230図)。底面では平面円形の小穴5個が見られ、径15~30cmの規模を測る。これらの小穴は規則的な配列もなかったが、土坑の中心に位置するS P 72(第233図)では径15cm、長さ50cmの柱根が遺存しており、竪穴式住居が考えられる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の壺・甕(6~12)・杯(13)・高杯(14)、製塙土器・須恵器の杯蓋(15~21)・杯身(22~27)・甕(28・29)などの破片がコンテナ箱にして約2箱分出土している(第231図)。

S K 14

G IV-e 9区で検出した。北部はS K 13を切り、西部は調査区外に至り、全容の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2m以上、南北1.05m以上、

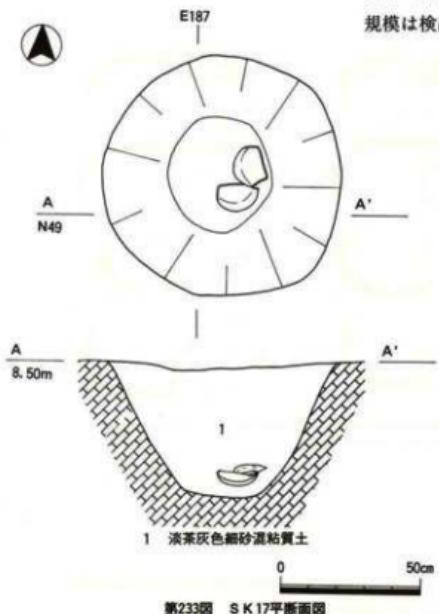
深さ21cmを測る。堆積土は、暗灰黑色粗砂混シルトである。遺物は、内部から古墳時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

S K 15

G IV-f 9区の拡張部で検出した。西部は調査区外に至り、全容は不明である。規模は検出部で、東西0.6m以上、南北1.7m以上、深さ19cmを測る。堆積土は、暗灰茶色細砂混粘質土である。遺物は出土していない。

S K 16

G IV-f 9区で検出した。平面は梢円形を呈する。規模は検出部で、長径1.84m、短径0.68m、深さ43cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、



第233図 SK 17平面断面図

灰黒色シルトである。遺物は出土していない。

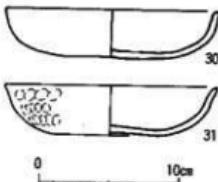
S K17

G IV-f 9区で検出した。平面は円形を呈し、径0.84cm、深さ50cmを測る。断面は、U字形を呈する。堆積土は、淡茶灰色細砂混粘質土である。遺物は、底部付近から平安時代中期に比定される土師質皿2点(30・31)が出土している(第234図)。他に堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

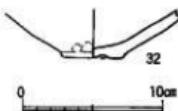
小穴(S P)

S P69～S P100

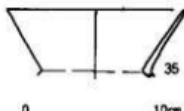
32個(うちS K13底面で検出した小穴5個が含まれる)を検出した。平面の形状には、円形のもの(12個)、楕円形のもの(3個)、不定形のもの(1個)があり、全容が不明のものは(16個)を数える。規模は検出部で、径14～57cmの小さいもの(16個)と径40～72cmの比較的大きいもの(16個)に分けられる。断面の形状には小穴の大小に関係なく逆凸形のもの、U字形のものがある。深さは15～50cmを測る。逆凸形のものには柱根や柱痕が見られ、建物の柱穴に相当するものと考えられる。しかし、限定された調査区であるため、規則性のある配列が見出せなかった。これらの小穴の時期は、内部に堆積する暗茶灰色細砂混シルト内から古墳時



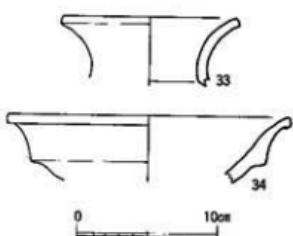
第234図 S K17出土遺物実測図



第235図 S P69出土遺物実測図



第236図 S P98出土遺物実測図



第237図 S P79出土遺物実測図



第238図 S D12出土遺物実測図

代中期に比定される土器を中心とする土師器・須恵器などの小穴がごく少量出土しており、5世紀代のものであろう。図示できたものは、S P 69がV様式系の壺(32)、S P 79・S P 98が庄内式の壺(33~35)である(第235~237図)。以下、個々の小穴の法量などについて第25表に記す。

第25表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P 69	G IV-d 9	——	U字形	48	12	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 70	G IV-d 9	——	U字形	35	5~10	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 71	G IV-d 9	円形	U字形	29	33	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 72	G IV-d 9	円形	U字形	28	29	暗黒褐色シルト	
S P 73	G IV-d 9	円形	U字形	26	25	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 74	G IV-d 9	——	U字形	33	45	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 75	G IV-d 9	——	U字形	35	10	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 76	G IV-e 9	——	逆凸形	50	20	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 77	G IV-e 9	——	U字形	60	29	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 78	G IV-e 9	——	U字形	48	16	暗黒褐色シルト	
S P 79	G IV-e 9	——	U字形	50	17	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 80	G IV-e 9	円形	U字形	30	8	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 81	G IV-e 9	円形	U字形	25	7	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 82	G IV-e 9	——	U字形	40	31	暗黒褐色シルト	
S P 83	G IV-e 9	——	U字形	40	22~27	暗黒褐色シルト	柱痕有り。
S P 84	G IV-e 9	円形	U字形	40	22~23	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 85	G IV-e 9	楕円形	U字形	14~57	25~58	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 86	G IV-e 9	楕円形	U字形	26~66	17~36	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 87	G IV-f 9	円形	U字形	33	7	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 88	G IV-f 9	——	U字形	32	32	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 89	G IV-f 9	円形	U字形	27	31	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 90	G IV-f 9	——	U字形	20	18	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 91	G IV-f 9	——	U字形	72	29	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 92	G IV-f 9	——	U字形	31	9	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 93	G IV-f 9	円形	U字形	37	2	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 94	G IV-f 9	円形	U字形	56	23	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 95	G IV-f 9	——	U字形	34	38	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 96	G IV-f 9	円形	U字形	32	11	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 97	G IV-f 9	不定形	U字形	37~43	10	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 98	G IV-f 9	円形	U字形	53	32	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
S P 99	G IV-f 9	楕円形	U字形	20~37	12	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 100	G IV-f 9	——	U字形	65	14	暗茶灰色細砂混シルト	

溝 (SD)

SD11

G IV-e 9 区で検出した。方向は東西を軸にすると西より北へ10度振っている。東部は S P 78・79と切り合う関係にある。検出長1.5m、幅25~30cm、深さ8cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルトである。遺物は出土していない。

SD12

G IV-e 9 区で検出した。方向はほぼ東西方向を示す。上部は削平されており、検出長1.2m、幅30cm、深さ5cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルトである。遺物は、内部から土師器の甕(36)の小片がごく少量出土している(第238図)。

3) 第3調査面(鎌倉時代・江戸時代)

溝 (SD)

SD40~SD75

36条を検出した。方向はすべて東西方向を示し、耕作に関連する掘溝・畝溝などの溝である。

第26表 小穴 (SD) 一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地区	方向	断面形	幅	深さ	堆積土	備考
SD40	G IV-d 9	東-西	逆台形	40~70	12	明乳灰茶色シルト	
SD41	G IV-d 9	東-西	逆台形	54~60	23	淡灰茶色シルト	
SD42	G IV-d 9	東-西	逆台形	60~85	36	淡灰茶色シルト	
SD43	G IV-d 9	東-西	逆台形	23~36	10	乳灰褐色枯質シルト	
SD44	G IV-d 9	東-西	逆台形	48~67	14	乳灰褐色枯質シルト	
SD45	G IV-e 9	東-西	逆台形	20~35	12	淡灰茶色シルト	
SD46	G IV-e 9	東-西	逆台形	27~35	18	明乳灰茶色シルト	
SD47	G IV-e 9	東-西	逆台形	34~41	16	乳灰褐色枯質シルト	
SD48	G IV-e 9	東-西	逆台形	24~40	13	乳灰褐色枯質シルト	
SD49	G IV-e 9	東-西	逆台形	38~55	8	淡灰色シルト	
SD50	G IV-e 9	東-西	逆台形	40~55	10	明乳灰茶色シルト	
SD51	G IV-e 9	東-西	逆台形	41~50	9	明乳灰茶色シルト	
SD52	G IV-e 9	東-西	逆台形	22~30	4	淡灰茶色シルト	
SD53	G IV-e 9	東-西	逆台形	24	7	淡灰茶色シルト	
SD54	G IV-e 9	東-西	逆台形	20~25	8	淡灰褐色シルト	
SD55	G IV-e 9	東-西	逆台形	22~30	8	淡灰褐色シルト	
SD56	G IV-e 9	東-西	逆台形	66~74	18	明乳灰茶色シルト	
SD57	G IV-e 9	東-西	逆台形	85~96	13	淡灰褐色シルト	
SD58	G IV-e 9	東-西	逆台形	28~40	10	明乳灰茶色シルト	
SD59	G IV-19	東-西	逆台形	58	17	明乳灰茶色シルト	

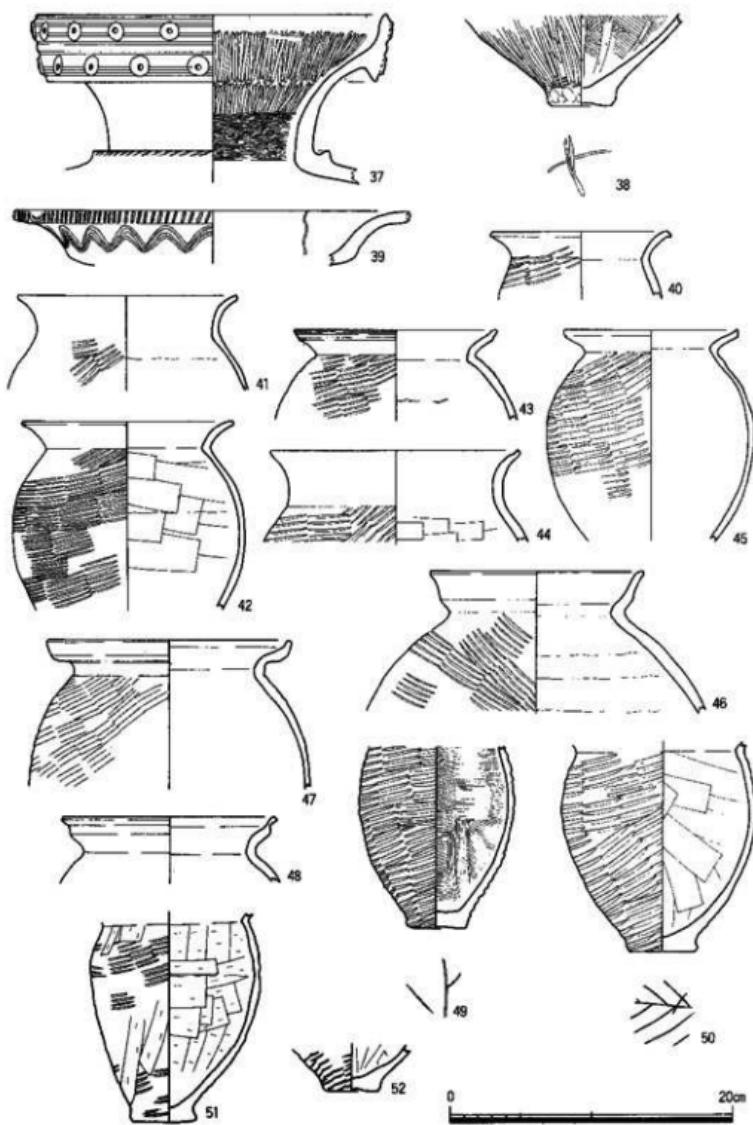
* 単位: cm

遺構番号	地区	方向	断面形	径	深さ	堆積上	備考
SD60	GN-f 9	東-西	逆台形	20-43	7	淡灰褐色シルト	
SD61	GN-f 9	東-西	逆台形	23-32	8	淡灰褐色シルト	
SD62	GN-f 9	東-西	逆台形	25	11	淡灰茶色シルト	
SD63	GN-f 9	東-西	逆台形	25-62	11	乳灰褐色粘質シルト	
SD64	GN-f 9	東-西	逆台形	57-75	9	乳灰褐色粘質シルト	
SD65	GN-f 9	東-西	逆台形	40	11	乳灰褐色粘質シルト	
SD66	GN-f 9	東-西	逆台形	38	9	乳灰褐色粘質シルト	
SD67	GN-f 9	東-西	逆台形	38	16	乳灰褐色粘質シルト	
SD68	GN-f 9	東-西	逆台形	8-15	4	乳灰褐色粘質シルト	
SD69	GN-f 9	東-西	逆台形	41	15	明乳灰茶色シルト	
SD70	GN-f 9	東-西	逆台形	31-40	20	淡灰茶色シルト	
SD71	GN-f 9	東-西	逆台形	40	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD72	GN-f 9	東-西	逆台形	20	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD73	GN-f 9	東-西	逆台形	21-32	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD74	GN-f 9	東-西	逆台形	14-23	9	灰色微砂混シルト	
SD75	GN-f 9	東-西	逆台形	16-76	19	灰色微砂混シルト	

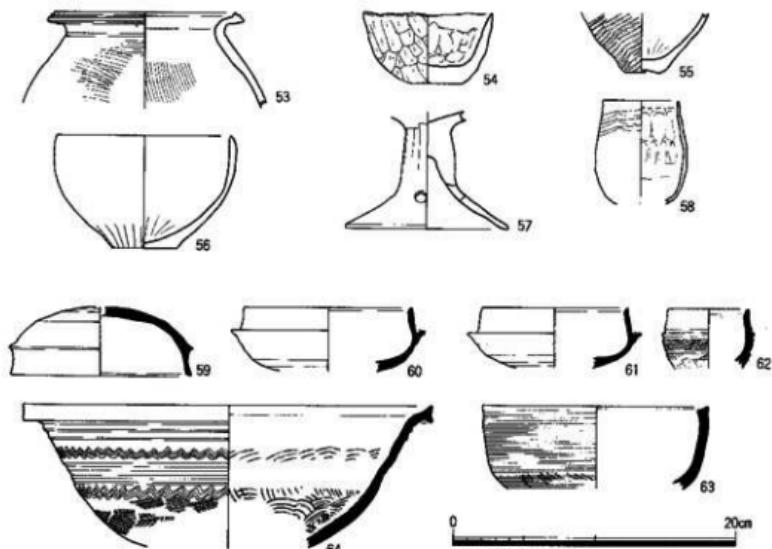
これらの溝は大きく2つに分けることができる。第3層上面から切り込む溝、第4層上面から切り込むでそれぞれ重複している。時期は、前者が江戸時代、後者が鎌倉時代に比定されるものであろう。規模は検出部で、幅14-40cmまでの狭いもの、40-96cmの広いものが見られる。断面の形状はすべて逆台形を呈し、深さ4-36cmを測る比較的浅いものが最も多い。溝内の堆積土は単一層で、鎌倉時代の溝には淡灰茶色シルト及び明乳灰茶色シルト、江戸時代の溝には乳灰褐色粘質シルト及び灰色微砂混シルトが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期～中期に比定される土器の小片がごく少量出土しているが、第5層（古墳時代中期の包含層）を削ったときのものである。以下、個々の小穴の法量などについて第26表に記す。

4) 遺構に伴なわない出土遺物

第3・4層で出土量はコンテナ箱にして約3箱分である。特に第3調査区の西部から出土したものが大半である。時期は弥生時代後期末～鎌倉時代に至る土器である。以下、図示できたものについて記す（第239・240図）。弥生時代に比定されるものは、壺（37・38）・高杯（39）・甕（40-52）である。古墳時代前期に比定されるものは、瀬戸内系の甕（53）・鉢（54-56）・高杯（57）である。古墳時代中期に比定されるものは、製塩土器（58）・須恵器の杯蓋（59）・杯身（60-61）・鉢（62-63）・大型器台（64）である。



第239図 遺構に伴わない出土遺物実測図1



第240図 遺構に伴わない出土遺物実測図2

IV 第3調査区

第2調査区の南端部から東に設定した東西に長い調査区（幅2.5m×長さ63m）である。調査区の面積は、157.5m²を測る。

当調査区では、第3層（第3調査面）・第4層（第2調査面）・第6層上面（第1調査面）の3面を調査面とした（第214・215図）。その結果、第1調査面では、弥生時代後期末に比定される小穴3個（S P 40～S P 42）・溝2条（S D 7・S D 8）を検出した。第2調査面では、古墳時代前期に比定される土坑4基（S K 18～S K 22）・小穴10個（S P 101～S P 110）・溝21条（S D 13～S D 33）・自然河川1条（河川1）、古墳時代中期に比定される土坑1基（S K 23）・小穴12個（S P 111～S P 122）を検出した。第3調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される溝10条（S D 76～S D 81・S D 83・S D 84）、江戸時代に比定される溝1条（S D 82）を検出した。

遺構に伴わない遺物は、第2層内から鎌倉時代～江戸時代に至る遺物の小穴、第4層内から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片、第5層内から弥生時代後期末に比定される土器の小片がごく少量出土している。遺物量は、コンテナ箱にして約2箱分である。以下、各調査区の各遺構について記す。

1) 第1調査面(弥生時代後期末)

小穴(S P)

S P 40~S P 42

3個を検出した。平面の形状は調査区外に至るが、構成の遺構によって切られているため、すべての小穴は不明である。規模は検出部で、径21~78cm、深さ9~26cmを測り、断面の形状は、逆台形を呈する。堆積土は、暗褐色細砂混シルトで、内部から畿内第V様式に比定される甕などの小片がごく少量出土している。以下、個々の小穴の法量などについては第27表に記す。

第27表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

遺物番号	地 区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆 積 土	備 考
S P 40	G IV-g10	---	逆台形	25~78	17	暗褐色細砂混シルト	
	G V-g1	—	逆台形	21~30	26	暗褐色細砂混シルト	
S P 41	G V-g1	—	逆台形	21~30	26	暗褐色細砂混シルト	
S P 42	G V-g1	—	逆台形	38~66	9	暗褐色細砂混シルト	

溝(S D)

S D 7

G V-g1区で検出した。方向は東西方向を示し、東部はS D 8を切り、途切れている。西部はSK19に切られている。規模は検出部で、幅18~33cm、深さ11cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される土器の小片がごく少量出土している。

S D 8

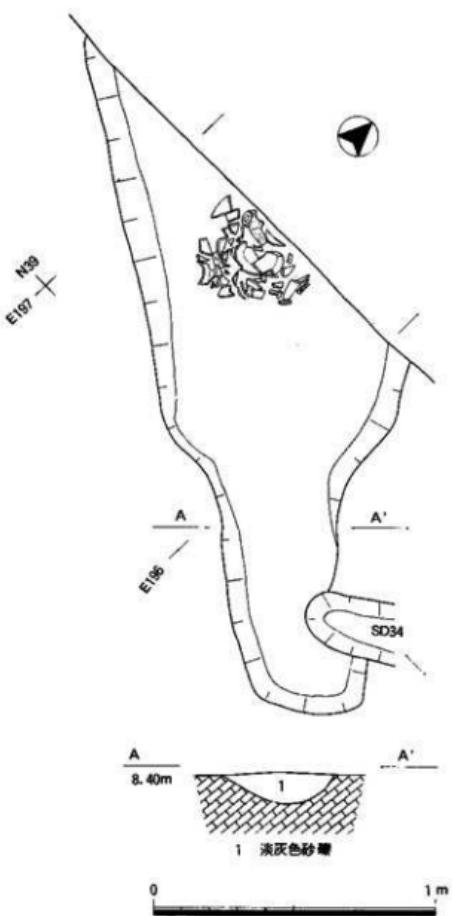
G V-g1区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はS D 7に切られ、途中で切れている。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅36cm、深さ14cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗褐色細砂混シルトである。遺物は出土していない。

2) 第2調査面(古墳時代前期~中期)

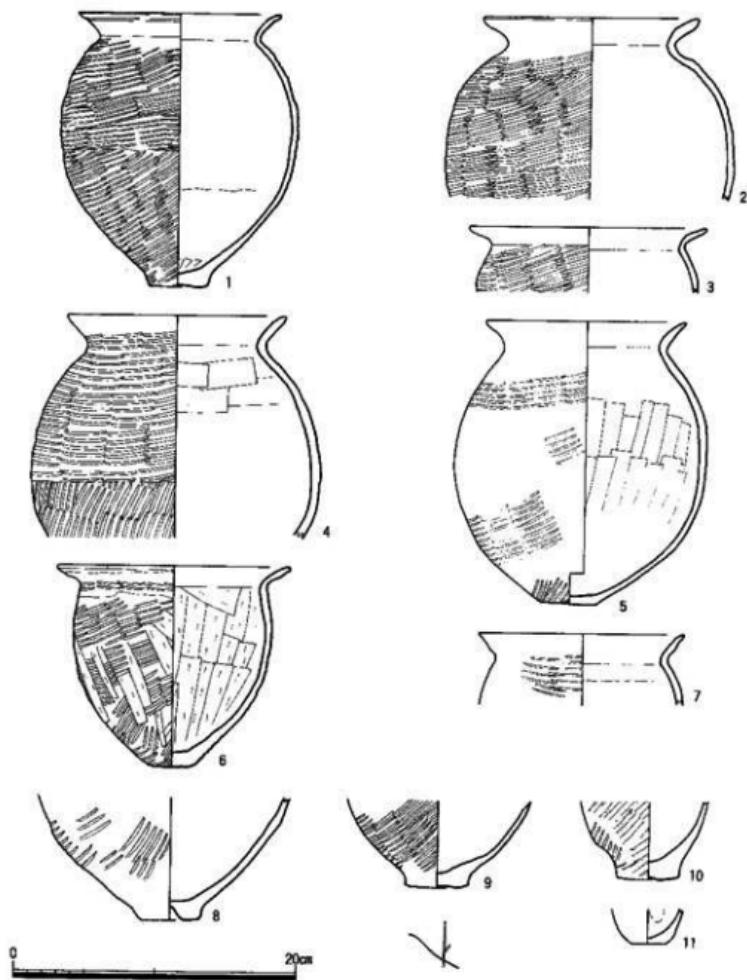
土坑(S K)

S K 18

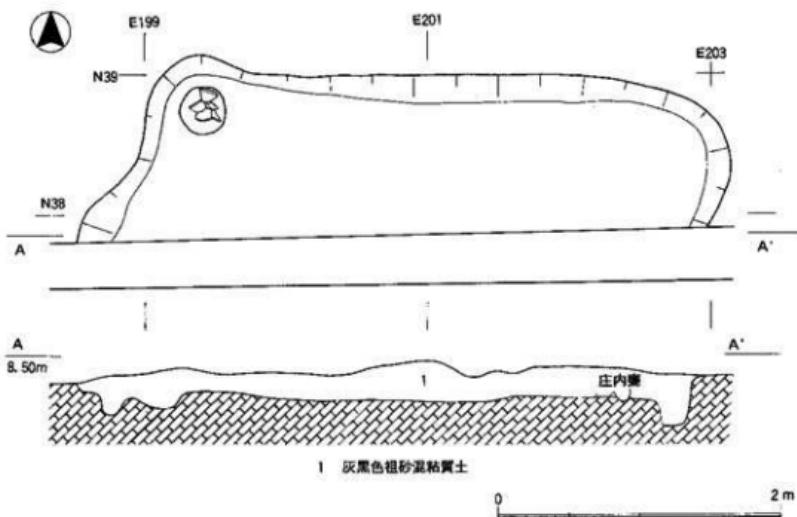
G IV-g10区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。南部の一部はS D 34に切られている。規模は検出部で、最大幅1.4m以上、東西幅0.94m、深さ7cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰色砂疊である。遺物は、調査区壁面付近で集積した



第241図 SK18検出遺物平面図及び断面図



第242図 SK 18出土遺物実測図



第243図 SK 19平面図

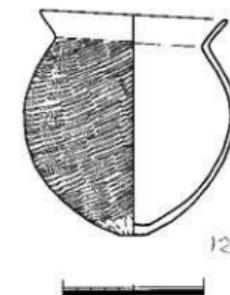
土器(コンテナ箱にして1箱分)を検出した)(第241図)。上器は小片化した集積で、径約50cmのほぼ円形状を呈している。器種はほとんどV様式壺(1~10)で、その他に鉢(11)1点である(第242図)。

S K 19

G IV - g 10 + G V - g 1区で検出した。平面の形状は南部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西4.6m、南北1.6m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面の周辺では溝状に落ち込んでいる。また、北西の底面には平面円形の小穴(径34cm、深さ12cm)1個がある。堆積土は、灰黑色粗砂混粘質土である(第243図)。内部から庄内式新相に比定される鉢・庄内式壺(12)・高杯などの破片が少量出土している(第244図)。

S K 20

G V - g 3 + g 4区で検出した。平面の形状は北部が調査区外に至り、不明である。東部はSD 22を切っている。規模は検出部で、東西2m、南北1.2m、深さ19cmを測る。断面は逆台

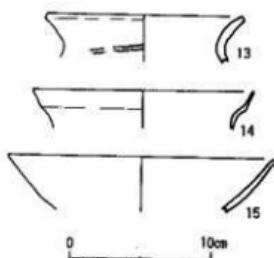


第244図 SK 19出土遺物実測図

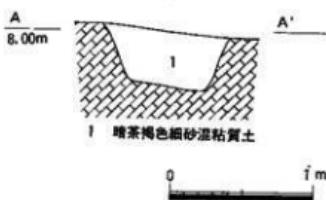
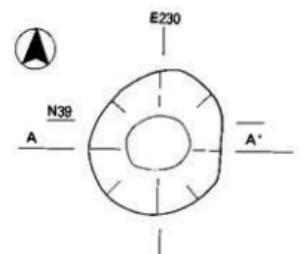
形を呈する。堆積土は、灰茶褐色細砂混粘質土である。遺物は、内部から土師器の小片が少量出土している。

S K 21

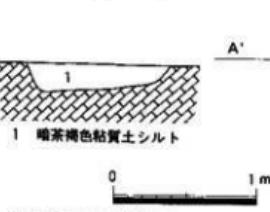
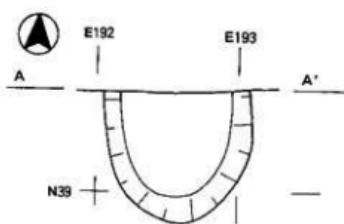
S K 20の南部で検出した。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西0.84m、南北1m、深さ50cmを測る。断面はU字形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂混粘質土の1層である(第245図)。遺物は、内部から庄内式新相に比定される壺・庄内式壺・V様式系壺(13)・壺(14)・高杯(15)などの小片が少量出土している(第246図)。



第246図 S K 21出土遺物実測図



第245図 S K 21平面断面図



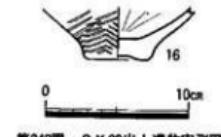
第247図 S K 22平面断面図

S K 22

G IV-g 10区で検出した。平面の形状は北部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西1.04m、南北0.94m、深さ19cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色粘質土の1層である(第247図)。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される壺(16)の小片が少量出土している(第248図)。

S K 23

G V-g 1区で検出した。平面の形状は南部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西1.9m、南北0.55m、深さ14cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰色



第248図 S K 22出土遺物実測図

砂礫混粘質土・灰黑色粗砂混粘質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

小穴 (S P)

S P 101～S P 123

23個を検出した。平面の形状には、円形のもの（10個）、橢円形のもの（10個）がある。また、調査区外に至り、平面の形状が不明のもの（3個）もある。規模は検出部で、40～76cmの大きいものから10～40cmの小さいものまである。断面は逆台形及びU字形を呈し、古墳時代前期に比定される小穴内には暗茶灰色細砂混シルト及び暗灰褐色細砂混粘質土がそれぞれ単一で堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるもの、古墳時代中期に比定されるものが出土している。以下、個々の小穴の法量などについて第28表に記す。

溝 (S D)

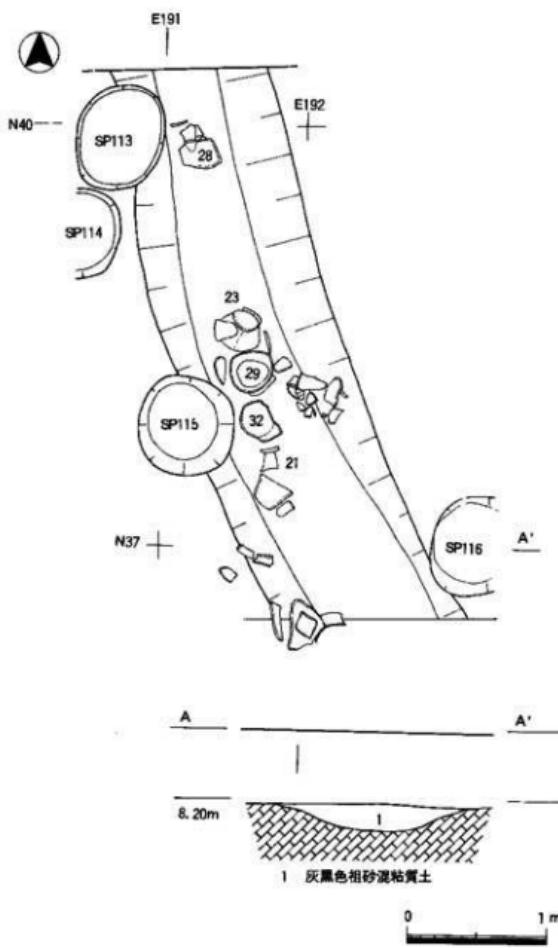
S D 13

G IV-g 10区で検出した。方向は南南東～北北西方向に伸び、調査区外に至る。規模は検出部で、幅58cm、深さ39cmを測る。S P 113～S P 116に切られている。断面は半円形を呈し、内

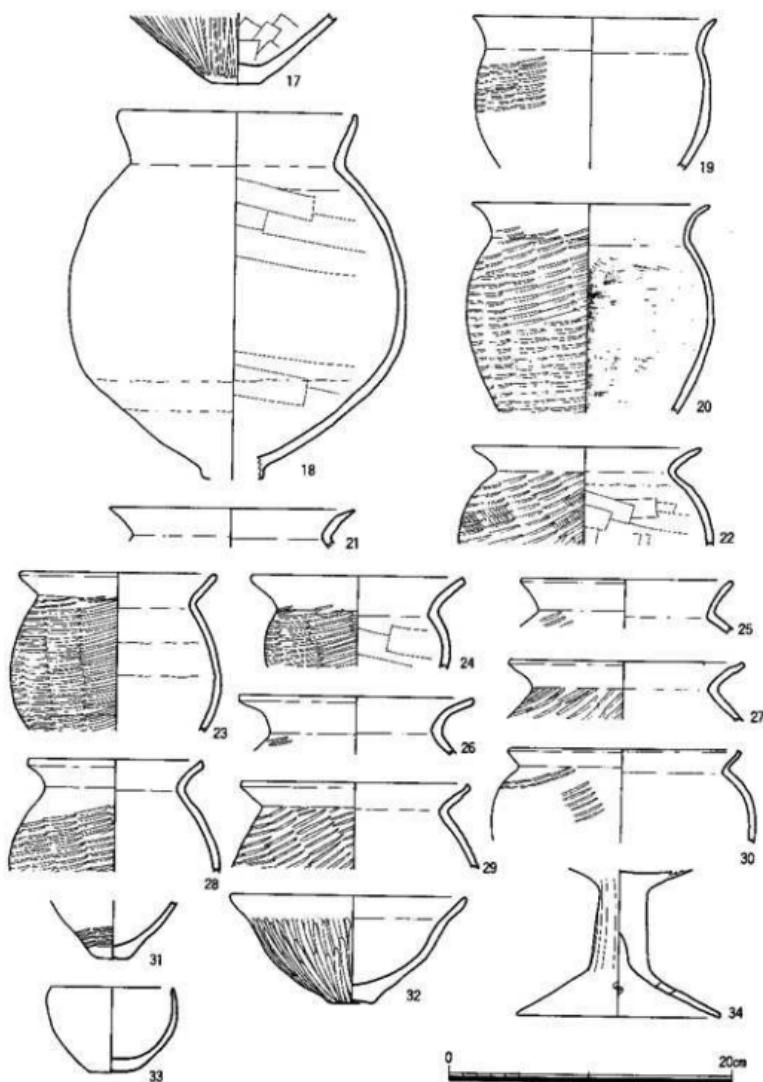
第28表 小穴 (S P) 一覧表

* 単位：cm

遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P 101	G IV-g 10	円形	U字形	19	17	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 102	G IV-g 10	円形	U字形	30	10	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 103	G IV-g 10	円形	U字形	34	12	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 104	G V-g 3	——	U字形	50	5	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 105	G V-g 3	橢円形	U字形	15～20	11	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 106	G V-g 3	——	U字形	55	7	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 107	G V-g 3	円形	U字形	20	11	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 108	G V-g 3	橢円形	逆凸形	23～28	12	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 109	G V-g 4	橢円形	U字形	22～39	12	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 110	G V-g 3	橢円形	U字形	10～20	15	暗茶灰色細砂混シルト	
S P 111	G IV-g 9	円形	U字形	40	28	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 112	G IV-g 9	円形	U字形	29	20	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 113	G IV-g 10	円形	U字形	37	34	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 114	G IV-g 10	円形	U字形	31	4	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 115	G IV-g 10	円形	U字形	36	7	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 116	G IV-g 10	橢円形	U字形	33～36	13	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 117	G IV-g 10	橢円形	U字形	28～32	35	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 118	G IV-g 10	円形	U字形	35	14	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 119	G IV-g 10	橢円形	U字形	35～39	12	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 120	G V-g 1	——	U字形	35	16	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 121	G V-g 2	橢円形	U字形	60～72	7	暗灰褐色細砂混粘質土	
S P 122	G V-g 3	橢円形	U字形	50～76	5	黑灰色細砂混シルト	
S P 123	G V-g 4	橢円形	U字形	44～63	13	黑灰色細砂混シルト	



第249図 SD 13検出遺物平面図及び断面図



第250図 SD 13出土遺物実測図

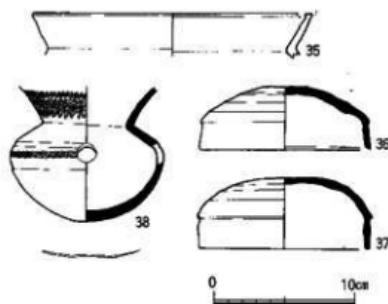
図示できたものは、壺(17・18)・第V様式系壺(19~30)・庄内式鉢(31~33)・高杯(34)である(第250図)。

SD14

G V-g 1区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はSD15に合流、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅24cm、深さ9cmを測る。断面は半円形を呈し、内部には淡茶灰色細砂混シルトが堆積している。遺物は出土していない。

SD15

G V-g 1区で検出した。方向は東西方向を示し、両端部は調査区内で途切れている。中央の北側ではSD14が合流している。規模は検出部で、検出長5m、幅36~50cm、深さ4~9cm



第251図 SD35出土遺物実測図

を測る。断面は半円形を呈し、内部には淡茶灰色細砂混シルトが堆積している。遺物は、内部から庄内式古相に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

SD16~SD35

当調査区の東部で検出した溝である。方向には南北方向のもの(4条)、南東~北西方向のもの(3条)、南西~北東方向のもの(13条)がある。規模は検出部で、幅

2.27cm、深さ25cmを測るSD34以外は、幅

第29表 溝(SD)一覧表

* 単位: cm

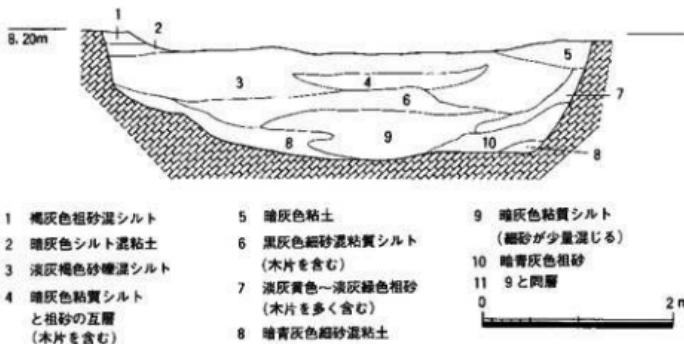
溝番号	地区	方向	断面形	種	深さ	堆積土	備考
SD16	G V-g 3	南~北	半円形	28	11	暗黒色細砂混粘質土	
SD17	G V-g 3	南~北	半円形	55	19	淡灰色シルト	
SD18	G V-g 3	南西~北東	半円形	25~37	6~11	暗黒色細砂混粘質土	
SD19	G V-g 3	南西~北東	半円形	34	21	淡茶褐色砂質土	
SD20	G V-g 3	南西~北東	半円形	18~23	4~9	暗茶灰色細砂混シルト	
SD21	G V-g 3	南~北	半円形	32~40	18	淡灰茶色細砂混粘質土	
SD22	G V-g 4	南~北西	半円形	53~72	14~17	暗茶灰色細砂混シルト	
SD23	G V-g 4	南~北	半円形	31	13	暗茶灰色細砂混シルト	
SD24	G V-g 4	南東~北西	半円形	40~50	13~25	暗茶灰色細砂混シルト	
SD25	G V-g 4	南西~北東	半円形	37~57	9~14	暗茶灰色細砂混シルト	
SD26	G V-g 4	南~北東	半円形	30	5~13	暗茶灰色細砂混シルト	
SD27	G V-g 4	南西~北東	半円形	42	17	淡灰色細砂粘質土	
SD28	G V-g 5	南西~北東	半円形	37~58	8	灰色細砂混粘質土	
SD29	G V-g 5	南西~北東	半円形	30~35	7~9	淡灰褐色細砂混粘質土	
SD30	G V-g 5	南西~北東	半円形	32	5~8	暗灰褐色細砂混粘質土	
SD31	G V-g 5	南西~北東	半円形	27~40	4~6	暗茶灰色細砂混粘質土	
SD32	G V-g 5	南西~北東	半円形	34	7	暗灰褐色細砂混粘質土	
SD33	G V-g 5	南西~北東	半円形	21~28	5~10	暗茶灰色細砂混シルト	
SD34	G V-g 10	南西~北東	半円形	17~29	6~12	暗灰褐色粘質シルト	
SD35	G V-g 2	南東~北西	半円形	227	25	暗灰褐色細砂混粘質土	

10~40cm、深さ6~20cmを測る小さなものである。断面は半円形を呈し、内部には暗灰褐色砂礫混砂質土及び淡地や灰色細砂混シルトなどが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土器・古墳時代中期に比定される土器が少量出土している溝がある。図示できたものにはS D 35から古墳時代中期に比定される土師器の壺(35)、須恵器の杯蓋(36・37)・匙(38)である(第251図)。以下、個々の溝(S D)の法量について第29表に記す。

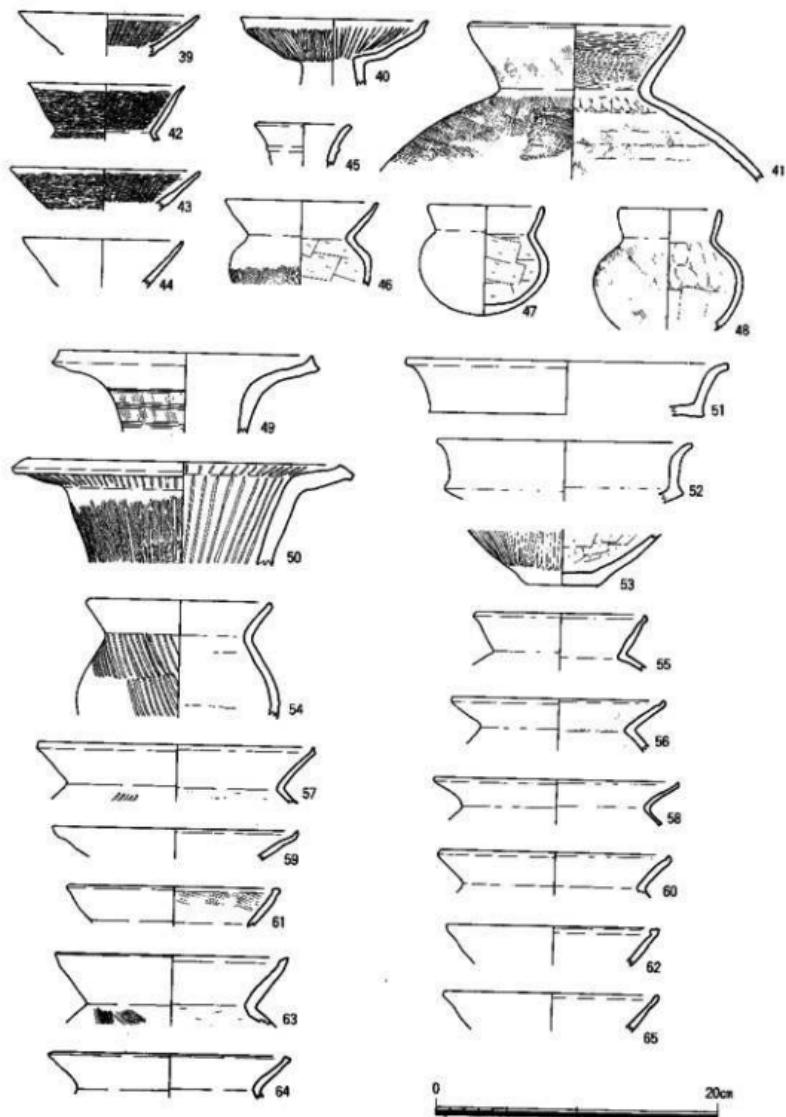
自然河川(河川)

河川1

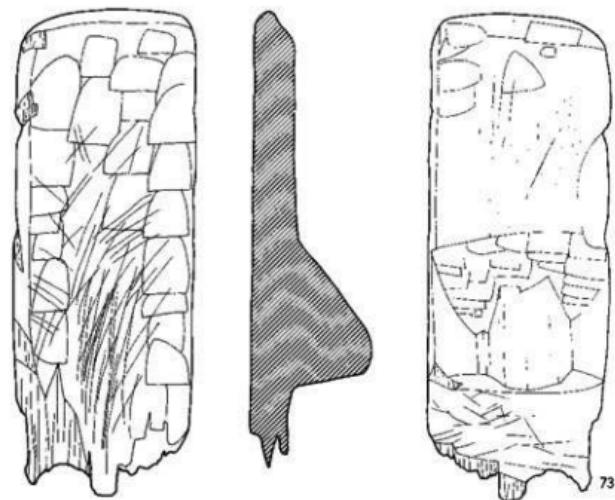
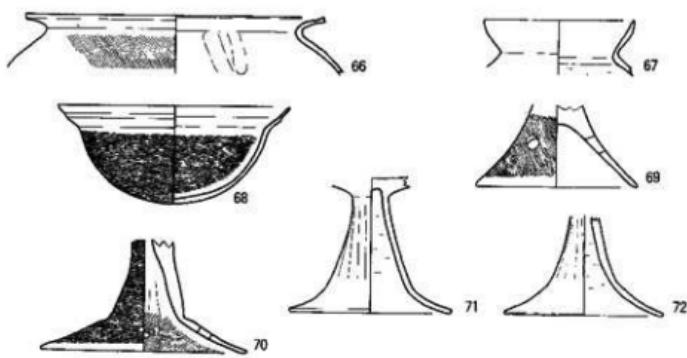
G V-g 2区で検出した。方向は南東-北西方向を示し、南北ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅4.8m、深さ1.2mを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰色粘質シルトと粗砂の互層・暗灰色粘土・黒灰色細砂混粘質シルト・淡灰黄色~淡灰綠色粗砂・暗灰褐色粘質シルト・暗灰青色粗砂・暗青色褐色細砂混粘土で、砂層を基調としている(第252図)。遺物は、砂層内から布留式古棺に比定される土器・木製品・自然木などの破片がコンテナ箱にして約2箱分出土している。土器には壺(39~53)・V様式系壺(54)・庄内式壺(55~60)・布留式壺(61~65)・瀬戸内地方の壺(66)・壺(67)・鉢(68)・器台(69)・高杯(70~72)がある。木製品には高床式建物に使用されたと考えられるはしご片1点(73)が出土している大きさは残存長35cm、幅13cm、厚み8.5cmと3cmを測る(第253・254図)。



第252図 河川1断面図



第253圖 河川1出土遺物実測図1



0 20cm

第254図 河川1出土遺物実測図2

3) 第3調査面(鎌倉時代～室町時代)

溝(S D)

S D 76～S D 84

9条を検出した。これらの溝はすべて農耕に関連する鑿溝・歛溝などである。方向には東西方向のもの(6条)、南北方向のもの(3条)がある。規模は検出部で、幅13～60cm、深さ5～19cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には淡茶褐色砂礫混粘質土及び灰色微砂泥シルトなどが堆積している。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る摩耗した土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝(S D)の法量などについて第30表に記す。

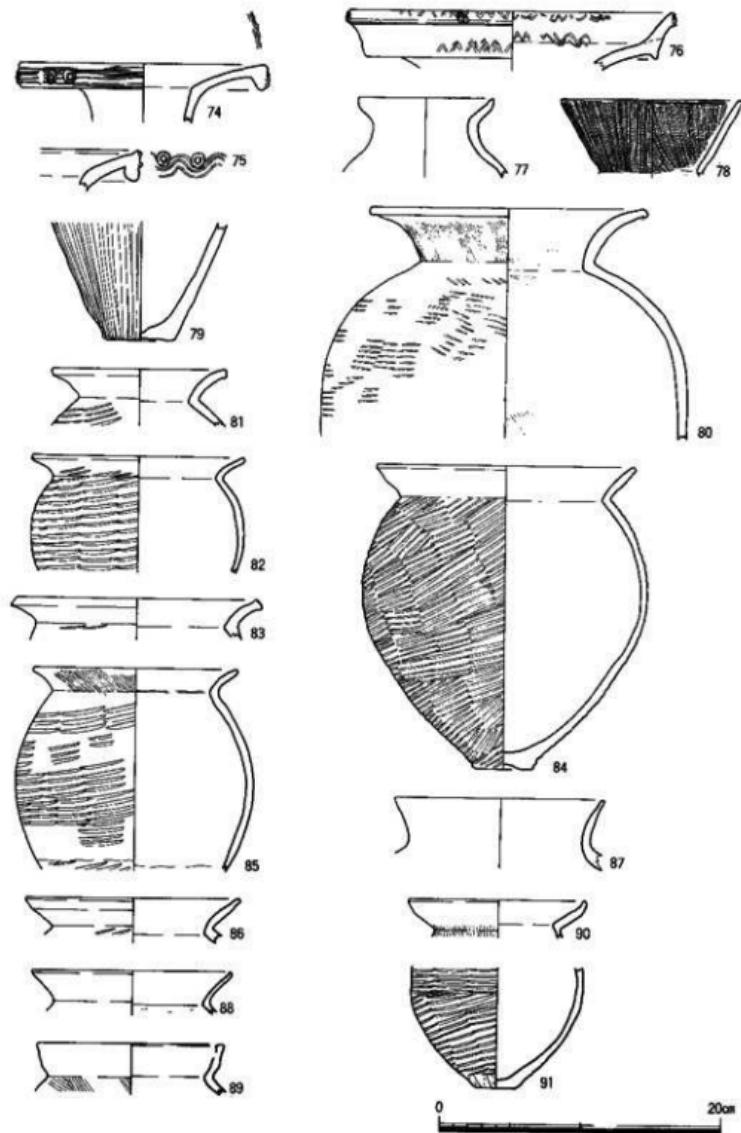
4) 遺構に伴わない出土遺物

第3・4層で出土した。出土量はコンテナ箱にして約5箱分である。ほとんどが中央部から出土した。時期で弥生時代中期末～鎌倉時代に至る土器である。以下、図示できたものについて記す(第255・256図)。弥生時代中期末に比定されるものは、壺(79)である。弥生時代後期末に比定されるものは、甕(81～86)・有孔鉢(93・94)である。古墳時代前期に比定されるものは、壺(74～78)・甕(80・87・90)第V様式系甕(84・91)。庄内式壺(88)・器台(92)・高杯(95・98・99)である。古墳時代中期に比定されるものは、甕(89)・高杯(96・97)・杯(100)・須恵器の杯身(101)・高杯(103・104)・甕(105・106)・壺(107・108)・大型器台(109)・甕(110～112)である。古墳時代末期に比定されるものは、須恵器の杯身(102)である。鎌倉時代に比定されるものは、瓦器小皿(113)である。

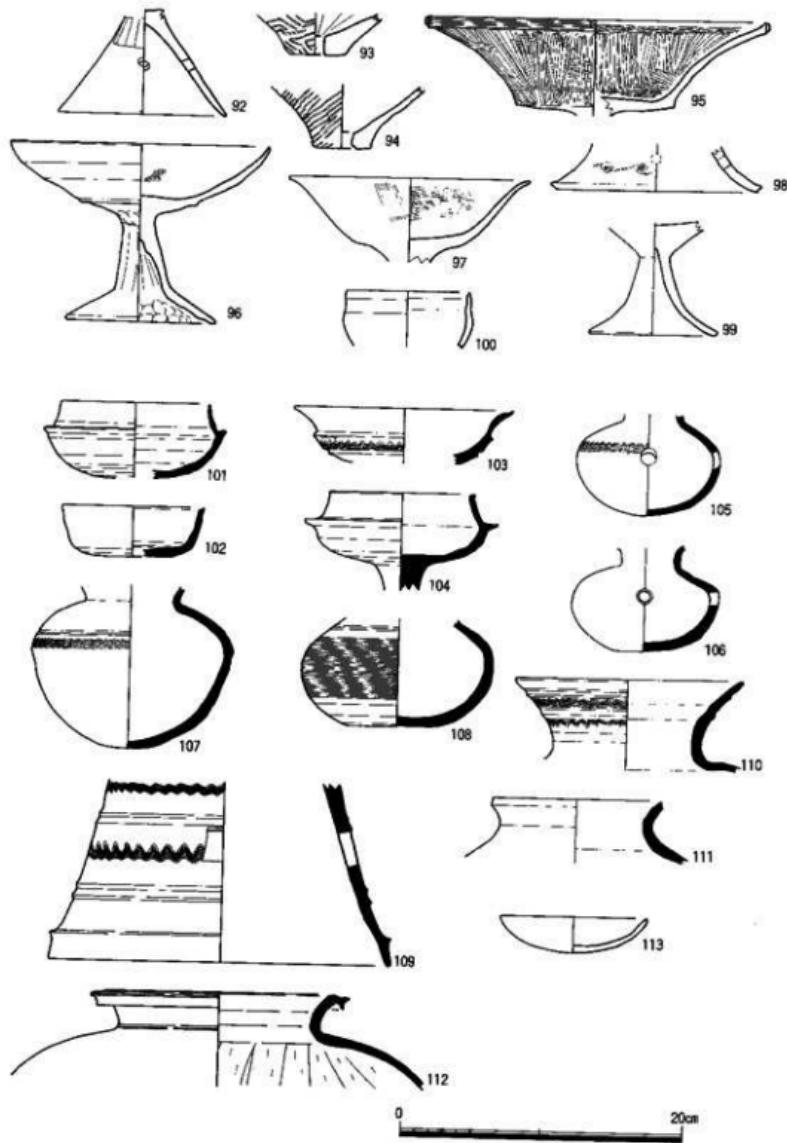
第30表 溝(S D)一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地区	方向	断面形	径	深さ	堆積上	備考
S D 76	G IV-g 9 -g 10	東-西	逆台形	14～23	9	灰色微砂泥シルト	
S D 77	G IV-g 9 -g 10	東-西	逆台形	30	16～22	淡褐色砂礫混粘質シルト	
S D 78	G V-g 1 -g 3	東-西	逆台形	13～30	10	淡灰褐色シルト	S D 80に切られる。
S D 79	G V-g 2 -g 3	東-西	逆台形	40以上	11	淡茶褐色砂礫混砂質土	
S D 80	G V-g 1 -g 3	東-西	逆台形	19～36	7	淡茶褐色砂礫混砂質土	
S D 81	G IV-g 3	南-北	逆台形	25	5	淡茶褐色砂礫混砂質土	S D 78～80に切られる。
S D 82	G V-g 3	南-北	逆台形	16～29	9	暗灰色砂礫混粘質土	S D 78～80を切る。
S D 83	G V-g 3	南-北	逆台形	35～47	11	淡褐色砂礫混粘質シルト	S D 78～79を切る。
S D 84	G V-g 3 -g 5	東-西	逆台形	10～20	8	灰色微砂泥シルト	



第255図 遷構に伴わない出土遺物実測図1



第256図 遺構に伴わない出土遺物実測図2

第1調査区

第1調査区

遺物番号 出版番号	器種	出土 (m)	地点 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 —八	壺 (上部部) SW1	口 径 13.3 器 高 15.6 最大径 14.4	最大径を下位にもう1つ平な球形の体部から屈曲し、斜上方へのびた後、僅かに屈曲し、外上方へのびる口縁部に至る。腹部は外傾する面をもつ。底部は尖り気味の小さな平坦。口縁部外側の屈曲部には擦れがみられる。腹部外側、後の外側にキザ(擦れ)を有し、口縁部外側に1帯5本・体部外側上位1帯4本・中位に1帯4本の擦れ状況があり、腹部外側に5本、体部外側上位に3本の沈線がある。体部下位に擦れを有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ヘラミガキ、内面ナデ。	灰褐色	6mm以下の砂粒を多量に含む。	良	光形。	
2 —八	同上 SW1	口 径 15.2	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して斜上方へ伸び、腹部は上につまみ、外側に面をもつ。体部は外反する。端部内外面には円形竹管状文が巡る。 口縁部内外面上位ヘラミガキ、外側下位ハケナデ(8本)、内面下位ナデ。	外 暗灰色 内 淡茶色	5mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好		
3 —八	同上 SW1	口 径 17.8	口縁部は外上方へ大きく外反して伸び、端部は下方に垂れ下がる。体部は欠損。端部外側には2つで1対の円形竹管状文が巡る。内外面摩擦の為調査不規則。	淡茶褐色	4mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好		
4 —八	壺 (土師部) SW1	口 径 12.9 器 高 11.4	橢円形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は丸い。底部はやや変形した突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(4本)、内面ヘラナデ。	淡茶灰褐色	5mm以下の砂粒を多量に含む。	良		
5 —八	同上 SW1	口 径 13.8 最大径 16.0	球形と見われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は外反する。体部外側に3本・内面に5本の擦れを有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(2本)、内面ナデ。	暗灰褐色	5mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好		
6 —八	同上 SW1	口 径 15.8 器 高 16.5 底 離 3.8 最大径 16.4	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に半る。端部は上につまみ、外側に面をもつ。底部は突出した小さな底み底。体部内面に2本の擦れを有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	外 基灰褐色 内 茶灰色	5mm以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良		
7 —八	同上 SW1	口 径 15.2	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に半る。端部は外側に面をもつ。底部は欠損。体部外側下位に3本の擦れを有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(3本)、内面中位ヘラナデ、下位ハケナデ。	淡茶褐色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	体部内面下位に炭化物付着。	
8 —八	同上 SW1	口 径 15.9	上外方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好		
9 —八	鉢 (土師部) SW1	口 径 10.0 器 高 7.2	半球形の体部で、口縁部端部は丸い。体部外側タタキ(3本)、内面ナデ、底部外側頭部・ヘラ割り。	暗茶灰褐色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良		
10 —九	同上 SW1	口 径 19.6 器 高 6.6	浅い半球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に半る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ヘラミガキ。	茶褐色	5mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	光形。	

第1調査区

第1調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色	胎土	焼成	備考
11 高杯 (土師器)	口 径 16.7			外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外側に腹をもつ。端部内外面・底部外縁(2箇所)に円形付着圧文が残る。底部は欠損。 内外面ハラミガキ。	茶灰色	5mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
一一九 SW1								
12 同上	II 楕 21.5 器 高 17.5 底 径 13.6			やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外極する頭をもつ。脚部は下方へ伸びる中央の柱状部から屈曲し、外下方へ外反して聞く部に至る。端部は丸い。底部に圓孔孔を有する。 底部外面上部ハラミガキ、他は底部の為調査不明瞭。	淡茶褐色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
一一九 SW1								
13 壺 (土師器)	口 径 14.0 器 高 9.0			口縁部は外上方へ外反して伸びる。底部は下に肥厚し、外側に腹をもつ。口縁部下位以下は欠損。端部外間に1本の接合痕を有する。 内外面ヨコナダ。	暗茶褐色	3mm以下の石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
14 鉢 (土師器)	口 径 16.6 器 高 6.4 底 径 23.4			半球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ハラミガキ、底面ナダ。	乳白色～淡 褐色	3mm以下のチャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	体部外下面に周延有。
一一九 SK9								
15 壺 (土師器)	口 径 12.8			内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外表面ハケナダ(8本)、内面ハラミ。	乳灰色	1mm以下の石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
SK9上								
16 同上	口 径 13.4 器 高 23.5 最大径 20.8			椭円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外表面ハケナダ(7本)、内面ハラミ。	褐色	1.5mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
一一九 SP68								
17 高杯 (土師器)	口 径 18.2			半球形に近い杯部から外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内面に2箇所の縫合跡があり、その間に1本11本の波状文が造る。杯底部以下は欠損。 杯部外縁下位回転カキ目、他は回転ナダ。	暗灰色	精良。	良好	内面に自然輪・灰かぶり付着。 ロクロ方向不明。
SD9								
18 壺 (土師器)	口 径 15.0			口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナダ。	乳茶褐色	2mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
SD10								
19 同上	口 径 12.4			上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内外面ナダ。	暗茶褐色	3mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
一一九 SD10								
20 盆 (土師器)	口 径 16.0			浅い半球形の体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、底部内面ナダ。	乳茶褐色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
SD10								
21 壺 (土師器)	II 楕 9.0 器 高 15.7 最大径 15.6			偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。体部外縁下位に1本の接合痕を有する。 口縁部外表面ヨコナダ、内面ヨコナダ後ハラミガキ、体部外表面上位ハラミガキ、中位以下牽純の為割離不明瞭、内面ナダ。	乳茶褐色～ 褐色	2.5mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
一一九 包含層								

第1調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 高さ	形態・測定等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
22 包含層	壺 (土器)	口 径	23.5	端部は上部に膨らむ。外側に凸をもつ。口縁部・体部は欠損。器部外面には4本の沈線が走り、その上に二重に円形竹管状文を施した円形序文を張付いている。 外面ヨコナゲ、内面ヨコナゲ・指觀正直。	茶褐色	1.5 mm以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
23 包含層	壺 (土器)	口 径	10.7	上内方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面上底ヨコナゲ、下位ナゲ。	茶褐色	2 mm以下の石英・長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
24 包含層	同上	口 径	11.5	LJ縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下方に厚壁し、外接する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナゲ。	淡褐色	0.5 mm以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
25 包含層	同上	LJ 径	13.9	LJ縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	茶灰色	3 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
26 包含層	同上	LJ 径	14.6	LJ縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	外 内	淡茶褐色 暗茶褐色	1 mm以下のチャート・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好
	包含層							
27 包含層	同上	LJ 径 高 度 径	13.4 11.6 3.4	球形に近い。体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した瘤み底。体部内面上部に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外表面タタキ(3本)、内面ナゲ。	外 内	暗茶褐色 暗茶褐色	3 mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好
	包含層							
28 包含層	同上	口 径	14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外表面タタキ(3本)、内面ナゲ。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
	包含層							
29 包含層	同上	口 径	12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外表面タタキ(3本)、内面ナゲ。	淡茶褐色	4 mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
30 包含層	同上	口 径	13.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内面ヨコナゲ。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
31 包含層	同上	口 径	15.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びるLJ縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外表面タタキ(2本)、内面ナゲ。	淡茶褐色	2 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
	包含層							
32 包含層	同上	口 径	12.7	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外表面タタキの為調整小形窓。内面ナゲ。	外 内	淡茶色 明茶色	2.5 mm以下の長石・角閃石・赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好
	包含層							

第1調査区

遺物番号 同版番号	器種	出土 (cm)	地立 標高	形態・調整等の特徴	色調	粘土	焼成	備考
33	甕 (土師器)	口 径 15.4		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ外反時に伸びる口縁部に至る。端部 はつまみ上げ、外に面をもつ。体部中位以下 は欠損。	淡茶褐色	3mm以下の 角閃石・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
一一九	包含層			口縁部内外両ヨコナデ、体部外表面タタキ (7本)、内面ヘラ削り。				
34	同上	口 径 14.4 高 17.5 底大径 17.8		球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反 して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ。 底部は丸足。	淡茶褐色～ 稻茶色	7mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良	体部外表面中 位以下に焼 付着。
一二〇	包含層			口縁部内外両ヨコナデ、体部外表面剥離の為 内外面摩擦の為調整不規則。				
35	同上	口 径 26.4		口縁部は斜上方へ伸び、端部は外に面をもつ。 体部は欠損。 内外面摩擦の為調整不規則。	茶赤褐色	1mm以下の チャート等 の砂粒を少 量含む。	良好	
36	同上 包含層	口 径 17.0		口縁部は斜上方へ伸び、端部は外に面をもつ。 体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2mm以下の 角閃石・長 石・雲母等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
37	同上 包含層	口 径 12.4		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。 頭部内側に1本の接着痕を有する。 口縁部内外両ヨコナデ、体部外表面ハケナデ (8本)、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 長石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
38	同上 包含層	口 径 17.6		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。 端部は丸い。 体部は欠損。 口縁部外表面ヨコナデ、内面ハケナデ?、体 部内外表面ハケナデ(5本)。	暗褐色	1mm以下の 角閃石・雲 母・長石等 の砂粒を多 量に含む。	良好	
39	同上 包含層	口 径 22.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ丸く伸びる口縁部に至る。端部は内 側に傾く面をもつ。 体部中位以下は欠損。 頭部内側に1本の接着痕を有する。 口縁部内外両ヨコナデ、体部外表面ナデ、内 面上位添ナデ、中位ヘラ削り。	暗褐色	3mm以下の 長石・雲母・ 角閃石・石 英等の砂粒 を多量に含 む。	良好	体部外表面中 位に黒斑有。
40	同上 包含層	口 径 20.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上 につまみ上げ。体部中位以下は欠損。 頭部内側に1本の接着痕を有する。 口縁部内外両ヨコナデ、体部外表面ハケナデ (10本)、内面ナデ。	褐茶色	3mm以下の 長石・角閃 石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
41	同上 包含層	口 径 18.7		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。 体部中位以下は欠損。 口縁部外表面ヨコナデ、内面・体部外表面ハ ケナデ(外7本・内5本)、内面ヘラ削り。	稻茶色	1.5mm以下の の長石等の 砂粒を少 量含む。	良	
一二〇	包含層							
42	同上 包含層	口 径 20.6		内上方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部 はやや外方に転じて丸く終わる。 体部は欠 損。 外表面ハケナデ(3本)、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳橙色	3mm以下の 石英・長石・ 雲母等の砂 粒を少量含 む。	良好	
43	小型鉢 (土師器)	口 径 6.9 高 3.9		半球形の体部から僅かに屈曲して口縁部に 至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡褐色	1mm以下の 石英・長石 等の砂粒を 多量に含む。	良好	底部外表面に 黒斑有。
一二〇	包含層							

遺物番号 図版番号	器種	出土 地點 標高 (m)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
44	杯 (土器)	口 径 16.0 気合層	斜上方へ内湾気味に伸びる体部から縦やかに屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外調整の為調整不明瞭、内面ヘラミガキ後ハケナダ(5本)。	淡茶褐色	3.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
45	同上	口 径 16.0 気合層	斜上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ下げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ナナ。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
46	同上	口 径 20.4 気合層	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ矧く伸びるL字縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部内外面ヘラミガキ。	外 内 基褐色 褐茶色	4 mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
47	同上	口 径 23.2 気合層	上外方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ矧く伸びるL字縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面調整の為調整不明瞭。	外 内 明茶褐色 淡茶褐色	3 mm以下の赤褐色風化粒・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
48	同上	底 径 3.4 気合層	杯部上位以上は欠損。杯部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない腹み底。 外面タタキ(4本)、内面ヘラミガキ、底面ナナ。	外 内 淡茶褐色 基褐色 暗灰茶色	3 mm以下の長石・水楊酸風化粒・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に焼付着。
49	高杯 (土器)	口 径 14.2 一二〇 包含層	平らな杯底部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 杯部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状磨き、杯底部外面ナナ。	淡褐色	1 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
50	同上	口 径 17.5 一二〇 包含層	半球形に近い杯部から屈曲し、外上方へ矧く伸びるL字縁部に至る。端部は丸い。底部は下外方へ伸びる。底部は欠損。 内外面調整不明瞭。	暗褐色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
51	同上	底 径 9.9 一二〇 包含層	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に矧く、端部は外傾する面をもつ。脚部外面上位に1本の結合痕を有する。 杯部外面・脚部外面ナナ、内面上面しづり目、下位ハケナダ後ナナ、脚部内外面ヨコナナ。	淡灰褐色	2 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	柱状部外面に黒斑有。
52	同上	底 径 9.1 包含層	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から、外上方へ外反して脚部に平ら。端部は丸い。柱状部下位に三方孔を有する。 柱状部内面くりぬき、他は剥離の為調整不明瞭。	淡茶褐色	0.5 mm以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良好	
53	杯蓋 (須恵器)	口 径 9.8 海 寸 5.3 つまみ径 2.5 つまみ高 0.8 一二〇 包含層	高く丸い天井部から下外方へ内湾して伸びる。縁は直線を残す。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。天井部中央には断面凹状のつまみが付く。 天井部外側2/5 目輪ヘラ削り、他は剥離ナナ。	青灰色	稍良。	良好	外側灰かぶり。 ロクロ左方向。
54	同上	口 径 12.0 棟 径 12.2 包含層	天井部は欠損。天井部から外下方へ伸び、縁に歪る。縁は純い。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 内外面削除ナナ。	淡青灰色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地點 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
55 一一〇	杯蓋 (須恵器) 包含層	口 径 13.2 器 高 4.4 縁 径 13.2		やや低く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、縁に平ら、縁は外下方へ伸び、丸く尖る。縁部は下方へ伸び、縁部は内傾して凹面をもつ。 天井部外面約1/2 回転ヘラ削り、天井部内面約1/2 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	青灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 天井部外周状かぶり。
56 一一一	同上	口 径 12.9 器 高 3.9 縁 径 12.8		やや底く平らに近い天井部から下外方へ内湾状に伸び、縁に平ら。縁は底面を残す。 縁部は下方へ伸び、縁部は内傾して凹面をもつ。 天井部外周1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡青灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を少しある。	良好	完形。 ロクロ右方向。
57 一一二	同上	口 径 13.0 器 高 4.4 縁 径 12.8		やや高く平らな天井部から下外方へ伸び、縁に平ら。縁は水平に伸び、丸く尖る。口縁部は下方へ伸び、縁部は下に面をもつ。 天井部外周6/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	4 mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
58 一一三	杯身 (須恵器) 包含層	L1 径 9.6 器 高 4.5 受部径 12.0 立ち上がり高 2.0		やや深く丸みのある底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりには上内方へ伸び、縁部には下に面をもつ。 底部外周1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
59 一一四	同上	口 径 12.0 器 高 5.0 受部径 14.2 立ち上がり高 2.2		深く丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸く尖る。 立上がりには上方へ伸び、縁部は内傾して凹面をもつ。縁部は下方へ伸びる。縁部は丸い。 立上がりには上内方へ伸び、縁部は丸い。 底部外周約1/2 回転ヘラ削り、他は削転ナデ。	乳青褐色	4 mm以下の長石・石英等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
60 一一五	高杯 (須恵器) 包含層	口 径 11.4 器 高 13.0 立ち上がり高 1.6		深く丸い杯底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸く尖る。 立上がりには上方へ伸び、縁部は内傾して凹面をもつ。縁部は下方へ伸びる。縁部は丸い。 縁部は三方向の台形スカシを有する。 底部外周約1/3 回転ヘラ削り、底部内面5/7・縁部内面不定方向のナデ、縁部外周回転ナキ目。他は削転ナデ。	青灰色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
61 一一六	同上	底 径 8.6		杯底は欠損。縁部は下外方へ伸び、縁部は凸状面を成し、外側する面をもつ。縁部に三方向の内方スカシを有する。 内外両回転ナデ。	淡青灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
62 一一七	同上	底 径 10.8		縁部上位以上は欠損。縁部は外下方へ伸び、縁部は凸状面を成す。縁部上位にスカシを有すると思われる。 内外両回転ナデ。	淡灰色	2 mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
63 一一八	壺 (須恵器) 包含層	口 径 10.4		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。体部は欠損。外側には2つの縁があり、その間に1箇10本とその下に5本の波状文が残る。 内外両回転ナデ。	灰色	稍良。	良好	ロクロ右方向。
64 一一九	同上			底部部分の破片である。体部内面下位に2箇の結合部を有する。 外側格子タキ、内面不定方向のナデ。	青灰色	稍良。	良好	ロクロ方向不明。